

# 上久津呂中屋遺跡発掘調査報告

— 能越自動車道建設に伴う  
埋藏文化財発掘報告X —

第一分冊  
縄文時代編



2013年

# 上久津呂中屋遺跡発掘調査報告

— 能越自動車道建設に伴う  
埋蔵文化財発掘報告X —

第一分冊  
縄文時代編

2013年

公益財団法人 富山県文化振興財團  
埋蔵文化財調査事務所



# 序

能越自動車道は、北陸自動車道の小矢部・砺波ジャンクションから北上して、高岡市、氷見市を通り、石川県輪島市に至る高規格幹線道路として計画されました。この能越自動車道および関連アクセス道の建設に伴い、当事務所では平成4年度から、計画路線内の多数の遺跡を発掘調査してまいりました。

本書は平成15年度から17年度にかけて実施した氷見市上久津呂中屋遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。

発掘調査の結果、縄文時代早期後半から近世に至るさまざまな時代の遺構や遺物がみつかり、この地で人々の生活が連綿と営まれていたことが明らかになりました。縄文時代においては、早期末から前期の貝塚が低湿地に広がっていることがわかりました。この貝塚では、貝類採集のほかに漁撈のための骨角器も製作しており、貴重な発見となりました。また丘陵の谷部には、多くの縄文土器や石器、木器、骨角器、食物残滓などが捨てられており、当時の人々の生活の姿が明らかとなりました。

弥生時代には低地に建物が建ち始め、古代、中世に至ると広い範囲に掘立柱建物や井戸が構築されていき、集落の広がりをみることができます。

こうした発掘調査の成果が、文字の記録として現れることのない往時の生活をひもとく一助となり、地域の歴史と文化財の理解に役立てば幸いです。

本書をまとめるにあたり、ご協力とご指導を頂きました関係機関および関係諸氏に厚く感謝申し上げます。

平成25年3月

公益財団法人富山県文化振興財团  
埋蔵文化財調査事務所  
所長 岸本雅敏

## 例　　言

- 1 本書は富山県氷見市上久津呂地内に所在する上久津呂中屋遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は国土交通省北陸地方整備局からの委託を受けて公益財団法人富山県文化振興財団が行った。
- 3 本遺跡の発掘調査期間と本書刊行までの整理期間は下記のとおりである。

調査期間 平成15（2003）年11月13日～12月16日

平成16（2004）年5月28日～12月14日

平成17（2005）年5月19日～9月30日

整理期間 平成18（2006）年4月1日～平成25（2013）年3月31日

- 4 本書のうち、第I～IV・VI章の執筆は、島田美佐子、朝田亜紀子、町田賢一が担当し、分担は文末に記した。自然科学的な分析は、島田亮仁、町田賢一が行ったほかは諸機関に委託し、その成果を第V章に収録した。編集は朝田亜紀子が担当した。

- 5 整理作業中に下記の方々のご指導を受けた。

骨・骨角器……………金子浩昌氏（東京国立博物館）  
内山純蔵氏（総合地球環境学研究所）  
貝……………宮本 望氏（富山貝類同好会）  
6 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々からご教示・ご協力を得た。  
網谷克彦、大屋道則、長田友也、金子直行、小島俊彰、齋藤 準、Simon Kaner、清水克彦、  
瀧谷昌彦、鈴木景二、鈴木康二、関根憲二、瀬口真司、高田秀樹、谷藤保彦、寺崎裕助、  
富岡直人、中村耕作、布村 昇、早坂廣人、古川知明、細田 勝、増子康眞、松井 章、  
松田光太郎、宮尾 亨、宮崎朝雄、山下勝年、綿田弘実、渡辺 誠  
(敬称略、五十音順)

# 凡　例

- 1 本書は4分冊からなる。第一分冊には縄文時代の本文・挿図・一覧表、第二分冊には弥生時代以降の本文・挿図・一覧表、第三分冊には自然科学分析、総括、第四分冊には写真図版を掲載する。
- 2 本文・挿図で扱った遺構・遺物は、一覧表に掲載している。
- 3 本書で示す方位は全て真北である。
- 4 挿図の縮尺は下記を基本とし、各図の下に縮尺率を示す。  
遺構 建物：1/100、谷：1/50、溝・自然流路：1/40・1/160・1/200、  
井戸・土坑：1/20・1/40、柱穴：1/20  
遺物 縄文土器：1/3、弥生時代以降の土器・陶磁器：1/3・1/4、土製品：2/3・1/3、  
木製品：1/2・1/3・1/4・1/6・1/8、石製品：1/1・2/3・1/3・1/6、  
骨角器：1/1・2/3・1/2、金属製品：1/1・1/3
- 5 遺構の略号は以下のとおりである。  
S A : 横、S B : 掘立柱建物、S D : 谷・溝・自然流路・落ち込み、S E : 井戸、S H : 周溝遺構、  
S I : 周溝建物、S K : 土坑、S P : 柱穴
- 6 遺構番号は、調査時に地区ごとに付した番号に一定の数値を加算して遺構番号とした。番号は遺構の種類にかかわらず連番とするが、横・掘立柱建物・周溝遺構・周溝建物には新たに番号を付した。各地区の遺構番号に加算した数値は次のとおりである。但し複数の地区にわたる遺構は、小さい方の遺構番号で示す。  
A 1・A 2・A 3 地区：+4000  
A 4 地区 : +5000  
B 地区 : 加算せず  
C 地区 : +6000
- 7 遺物番号は種類にかかわらず連番を付し、斜体で示す。  
本文・挿図・一覧表・写真図版中の遺物番号は全て一致する。
- 8 遺跡の略号は、市町村番号に遺跡名を統合「05K N-地区名」とし、遺物の注記には略号を用いた。
- 9 黒色土器の黒色処理が及ぶ範囲、施釉陶磁器の釉の掛かる範囲は1点鎖線で示した。
- 10 遺物の煤や炭化物の付着する範囲は、2点鎖線及びスクリーントーンで示した。但し、縄文土器・弥生土器・土師器煮炊具に付着する煤や炭化物は図示せず、付着の有無を一覧表に記載した。
- 11 土器の墨書・漆書と陶磁器の絵付けは、トレースの濃淡で示した。
- 12 遺物の煤付着部分及び赤彩部分等と、遺構図中の地山はスクリーントーンで示した。以下に図示したもの以外については、図中に凡例を示した。



- 13 土層・遺構埋土の色については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を参照した。
- 14 遺構一覧及び本文中で用いる遺構についての用語は以下の文献を参考とした。
- 周溝建物：岡本淳一郎 2006「周溝をもつ建物の分類と系譜」「下老子篠川遺跡発掘調査報告  
—能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告V—」財團法人富山県文化振興財团  
掘立柱建物：奈良国立文化財研究所 1976『平城宮発掘調査報告VII』
- 井戸：宇野隆夫 1982「井戸考」「史林」第65巻第5号
- 15 遺物の分類と編年に関する用語は、以下の文献を参考した。
- 縄文土器：山内清男 1979「日本先史土器の縄紋」先史考古学会  
小林達雄編 2008『総覧 縄文土器』小林達雄先生古稀記念企画『総覧 縄文土器』  
刊行委員会 株式会社アム・プロモーション
- 石製品：山本正敏 1990「II 石器各説」「北陸自動車道遺跡調査報告—朝日町編5一境A遺跡  
石器編」富山県教育委員会
- 骨角器：金子浩昌・忍沢成視 1986「骨角器の研究」縄文編I・II 考古民俗叢書22 慶友社
- 弥生土器：岡本淳一郎 2006「砺波平野北部の古墳出現器土器」「下老子篠川遺跡発掘調査報告  
—能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告V—」財團法人富山県文化振興財团
- 須恵器・土師器：田嶋明人 1988「古代土器編年軸の設定」「シンポジウム 北陸の古代土器研  
究の現状と課題」石川考古学研究会・北陸古代土器研究会
- 北野博司・池野正男 1989「北陸における須恵器生産」「北陸の古代手工業生産」  
北陸古代手工業生産史研究会
- 池野正男 2003「越中における古代前半期の土師器食器について」「北陸古代  
土器研究」第10号 北陸古代土器研究会
- 中世土師器：越前慎子 1996「梅原胡摩堂遺跡出土中世土師器皿の編年」「梅原胡摩堂遺跡発掘  
調査報告—東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告II—」財團法人富山県  
文化振興財团
- 珠洲：吉岡康暢 1994「中世須恵器の研究」吉川弘文館
- 輸入陶磁器：山本信夫 2000「太宰府市の文化財第49集 太宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—」  
太宰府市教育委員会
- 木製品：奈良国立文化財研究所編 1993『木器集成図録』近畿原始編
- 16 遺構一覧・遺物一覧の凡例は以下のとおりである。
- ①遺構の埋土に切り合い関係がある場合は、特記欄に新>古のように記号で示す。
- ②規模・法量の（ ）内は現存長を表す。
- ③重量はg単位で示す。計測は大きさによって台秤と電子秤を使い分けた。
- ④胎土色調・釉色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票  
監修『新版標準土色帖』・財團法人日本規格協会「標準色票 光沢版」を使用し、釉調の和名  
は小学館「色の手帖」より似たものを使用した。なお、陶磁器のうち複数の色がみられる場合  
は最も多く使用されている色を記し、その他は特記欄に記す。但し透明釉の場合は記入しない。
- ⑤出土地点の層位は調査時のものとし、層序の項で統一したもの旧称を用いた。

# 目 次

## 第Ⅰ章 調査の経過

1 調査に至る経緯 .....	1
(1) 調査の契機 .....	1
(2) 既往の調査 .....	1
2 発掘作業の経過と方法 .....	3
(1) 発掘作業の方法 .....	3
(2) 発掘作業の経過 .....	3
(3) 貝塚調査の経過と方法 .....	5
3 層序 .....	7
(1) 丘陵地 .....	7
(2) 低地 .....	9
4 整理作業の経過と方法 .....	11
5 普及活動 .....	11
(1) 現地説明会 .....	11
(2) 記者発表 .....	12
(3) 遺物の展示 .....	12
(4) 講演会等 .....	12

## 第Ⅱ章 位置と環境

1 地理的環境 .....	14
2 歴史的環境 .....	14
(1) 繩文時代 .....	14
(2) 弥生時代 .....	17
(3) 古墳～飛鳥・白鳳時代 .....	17
(4) 古代 .....	17
(5) 中世 .....	17
(6) 近世以降 .....	19

## 第Ⅲ章 繩文時代の遺構・遺物

1 概要 .....	21
2 1号谷 .....	21
(1) 1号谷 .....	21
(2) 繩文土器 .....	35
(3) 土製品 .....	238
(4) 木製品 .....	247
(5) 石製品 .....	253
(6) 骨角器 .....	309
(7) 小結 .....	315
3 貝塚 .....	317
(1) X層 .....	317
(2) XI層 .....	327
(3) XII層 .....	329
(4) XIII層 .....	350
(5) XIV層 .....	360
(6) XV層 .....	397
4 包含層出土遺物 .....	417
(1) 繩文土器 .....	417
(2) 土製品 .....	418
(3) 石製品 .....	418

## 報告書抄録

## 挿図目次

第1図	調査位置	1
第2図	能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地位置図	2
第3図	調査地区区割図	4
第4図	基本層序（丘陵地）	8
第5図	基本層序（低地）	9
第6図	新聞報道記事	13
第7図	地形図	15
第8図	遺跡周辺の地形変遷	16
第9図	周辺遺跡位置図	18
第10図	縄文時代遺構全体図	25
第11～19図	縄文時代遺構実測図	26～34
第20～199図	縄文時代遺物実測図	40～252
第200図	1号谷出土石錐の重量別点数	262
第201図	1号谷出土打製石斧の重量別点数	262
第202図	1号谷出土石錐の重量別点数	262
第203図	1号谷出土打製石斧の長幅分布	263
第204図	1号谷出土磨製石斧の長幅分布	263
第205図	1号谷出土石錐の長幅分布	263
第206～255図	縄文時代遺物実測図	264～314
第256図	縄文土器の時期別出土地点分布（1号谷）	316
第257～259図	縄文時代遺構実測図	319～321
第260図	貝類様相グラフ（貝塚X層）	323
第261図	サルボウガイ・アサリ殻長分布（貝塚X層）	324
第262・263図	縄文時代遺物実測図	325・326
第264図	石製品様相（貝塚X・XI層）	326
第265図	縄文時代遺物実測図	328
第266・267図	縄文時代遺構実測図	330・331
第268図	貝層内遺物出土様相（貝塚XII層）	332
第269図	貝層土壤内容物グラフ（貝塚XII層）	334
第270・271図	主要グリッド貝類様相グラフ（貝塚XII層）	336・337
第272図	サルボウガイ殻長分布（貝塚XII層）	338
第273図	アサリ・シラオガイ・ヤマトシジミ殻長分布（貝塚XII層）	339
第274～281図	縄文時代遺物実測図	340～348
第282図	石製品・骨角器様相（貝塚XII層）	349
第283～289図	縄文時代遺物実測図	352～358
第290図	石製品・骨角器様相（貝塚XIII層）	359
第291・292図	縄文時代遺構実測図	362・363

第293図	貝層内遺物出土様相（貝塚X IV層）	364
第294図	主要グリッド貝層土壤内容物グラフ（貝塚X IV層）	366
第295・296図	主要グリッド貝類様相グラフ（貝塚X IV層）	368・369
第297図	サルボウガイ殻長分布（貝塚X IV層）	370
第298図	ハイガイ・シラオガイ・ヤマトシジミ殻長分布（貝塚X IV層）	371
第299～319図	縄文時代遺物実測図	375～395
第320図	石製品・骨角器・貝製品様相（貝塚X IV層）	396
第321～336図	縄文時代遺物実測図	400～415
第337図	石製品・骨角器様相（貝塚X V層）	416
第338～354図	縄文時代遺物実測図	422～438

## 表目次

第1表	既往の調査一覧	2
第2表	調査体制	7
第3表	調査一覧	7
第4表	基本層序	10
第5表	整理体制	11
第6表	周辺遺跡一覧	19
第7表	1号谷出土縄文時代石器一覧	260
第8表	1号谷出土石鏃一覧	260
第9表	1号谷出土打製石斧一覧	261
第10表	1号谷出土石錐一覧	261
第11表	1号谷出土磨製石斧一覧	261
第12表	貝類様相一覧（貝塚X層）	322
第13表	主要グリッド貝層土壤内容物一覧（貝塚X II層）	333
第14表	主要グリッド貝類様相一覧（貝塚X II層）	335
第15表	主要グリッド貝層土壤内容物一覧（貝塚X IV層）	365
第16表	主要グリッド貝類様相一覧（貝塚X IV層）	367
第17表	縄文土器・土製品一覧	439
第18表	縄文時代 木製品・種実製品一覧	516
第19表	縄文時代 石製品一覧	517
第20表	縄文時代 骨角器・貝製品一覧	533



# 第Ⅰ章 調査の経過

## 1 調査に至る経緯

### (1) 調査の契機

能越自動車道（一般国道470号）は、富山県砺波市と石川県輪島市を結ぶ延長約100kmの自動車専用道路で、昭和62（1987）年に高規格幹線道路網計画の一部として策定された。富山県内では約45kmが計画され、これまでに北陸自動車道・東海北陸自動車道と連結する小矢部砺波JCT（ジャンクション）から高岡北IC（インターチェンジ）までの約18.2km（高岡砺波道路）と、高岡北ICから氷見ICまでの11.2km（氷見高岡道路）が開通している。また、氷見ICから灘浦ICまでの8.5km（七尾氷見道路）も開通しており、今後、更に北上して県境PA（仮称、パーキングエリア）が設置される予定となっている。

能越自動車道の建設計画は平成2（1990）年4月に建設省（現国土交通省）から富山県教育委員会（以下、県教委）に示され、路線予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについて、建設省北陸建設局（現国土交通省北陸地方整備局）・県教委・小矢部市教育委員会の三者により協議が行われた。その結果、埋蔵文化財の分布状況を把握するため、小矢部市の用地買収完了地域で早急に分布調査を実施することとなった。以後、平成2（1990）年から、小矢部市・旧福岡町・高岡市・氷見市域の分布調査については、県教委・富山県埋蔵文化財センター（以下、県センター）が主体となり、当該市町教育委員会の協力を得て実施している。

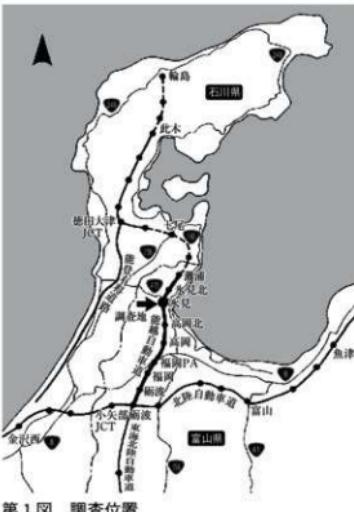
氷見市上久津呂地内の分布調査は平成12（2000）年に実施し、NEJ-19を設定した。分布調査の結果報告から、埋蔵文化財包蔵地の今後の取り扱いについて検討が行われた。その結果、遺跡のより明確な範囲と内容について把握するため、包蔵地確認調査を実施することとなった。

NEJ-19の確認調査は、建設省から委託を受け、平成15（2003）年度に財團法人（現公益財團法人）富山県文化振興財團（以下、財團）が実施した。この結果、縄文時代と古代～中世の遺構・遺物を確認し、上久津呂中屋遺跡と命名した。

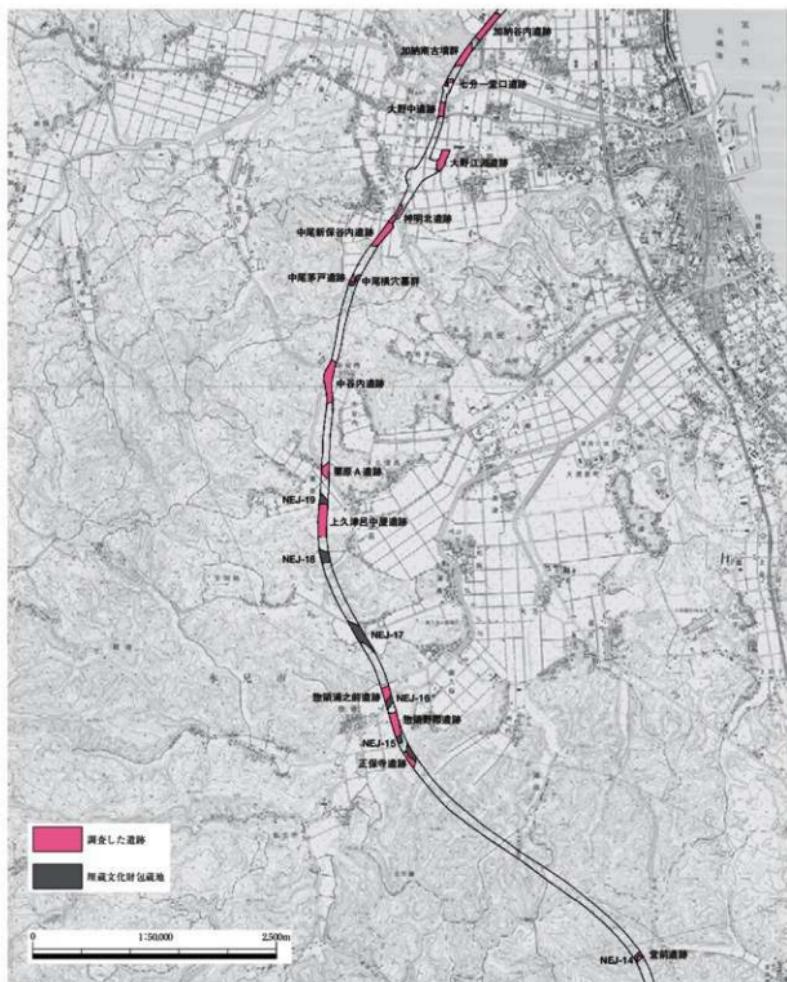
確認調査の結果を受けて、建設省・県教委・県センター・財團の協議で、範囲が確定している遺跡について本調査の要望が出された。協議の結果、財團が本調査を受託することで合意し、平成15～17（2003～2005）年度にかけて、上久津呂中屋遺跡の本調査を実施した。

### (2) 既往の調査

上久津呂中屋遺跡の既往の調査は、第1表のとおりである。



第1図 調査位置



第2図 能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地位置図 (1:50,000)

第1表 既往の調査一覧

分布調査		確認調査			本調査				
年度	調査主体	年度	調査主体	調査面積 (調査対象面積)	文献	年度	調査主体	調査面積	文献
H12	県教委・県センター	H15	財団	1,492m <sup>2</sup> (26,555m <sup>2</sup> )	1	H15	財団	1,020m <sup>2</sup>	2
						H16	財団	17,490m <sup>2</sup>	3
						H17	財団	4,555m <sup>2</sup>	4

文献 1 財団法人富山県文化振興財団 2003 「能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告」 NEJ-19 (上久津日分屋道路)・板屋谷内古墳群・板屋谷内古墳群】

2 財団法人富山県文化振興財団 2004 「昭和文化財調査報告」 -平成15年度-

3 財団法人富山県文化振興財団 2005 「昭和文化財調査報告」 -平成16年度-

4 財団法人富山県文化振興財団 2006 「平成17年度昭和文化財調査報告】

## 2 発掘作業の経過と方法

### (1) 発掘作業の方法

発掘調査の作業工程及びその方法・内容は、平成16（2004）年10月に文化庁から示された『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（報告）』に則って進めた。

発掘調査の基準となるグリッドの設定には、日本測地系による国家座標（平面直角座標第7系）を用いた。X 0 Y 0 の起点は、+90800-19800とし<sup>注1</sup>、南北方向を X 軸、東西方向を Y 軸とした。グリッドは 2 m 方眼とし、各グリッド名は北東角の X 軸・Y 軸の座標とした。発掘範囲は X40～X275, Y 48～Y93 である。

### (2) 発掘作業の経過

調査区は県道水見・志雄線を境に北側を A 1～A 4 地区、南側を B 地区とし、B 地区の南側については農道を境として C 地区に分けた。

県道水見・志雄線の北側は栗原高架橋の建設予定地であり、平成15（2003）年度に橋脚部分 3 箇所について発掘調査を実施した（A 1・A 2・A 3 地区）。翌平成16（2004）年度には、県道水見・志雄線南側の B・C 地区について発掘調査を実施した。これにより上久津呂中屋遺跡の発掘調査は終了したとされ、栗原高架橋の建設工事が開始されたが、工事発注後、地質調査の想定以上に地盤が脆弱であることが明らかとなった。高架橋を建設するためには土地の地盤改良が必要であり、また路線内に工事用道路を設ける必要があることから、国土交通省より再度調査の要望が出された。国土交通省・県教委・財團の三者で協議した結果、平成17（2005）年度に A 2 地区以南から県道水見・志雄線までの範囲を全面調査することになった（A 4 地区）。

A 4 地区の調査では、表土から遺構検出面までの深さが浅い A 3 地区周辺範囲の遺構が、一旦高架橋建設工事が入ったことにより、攪乱を受けて消失していることが判明した。また下層確認において、縄文時代早期末葉～前期初頭の貝塚を発見した。

（朝田亜紀子）



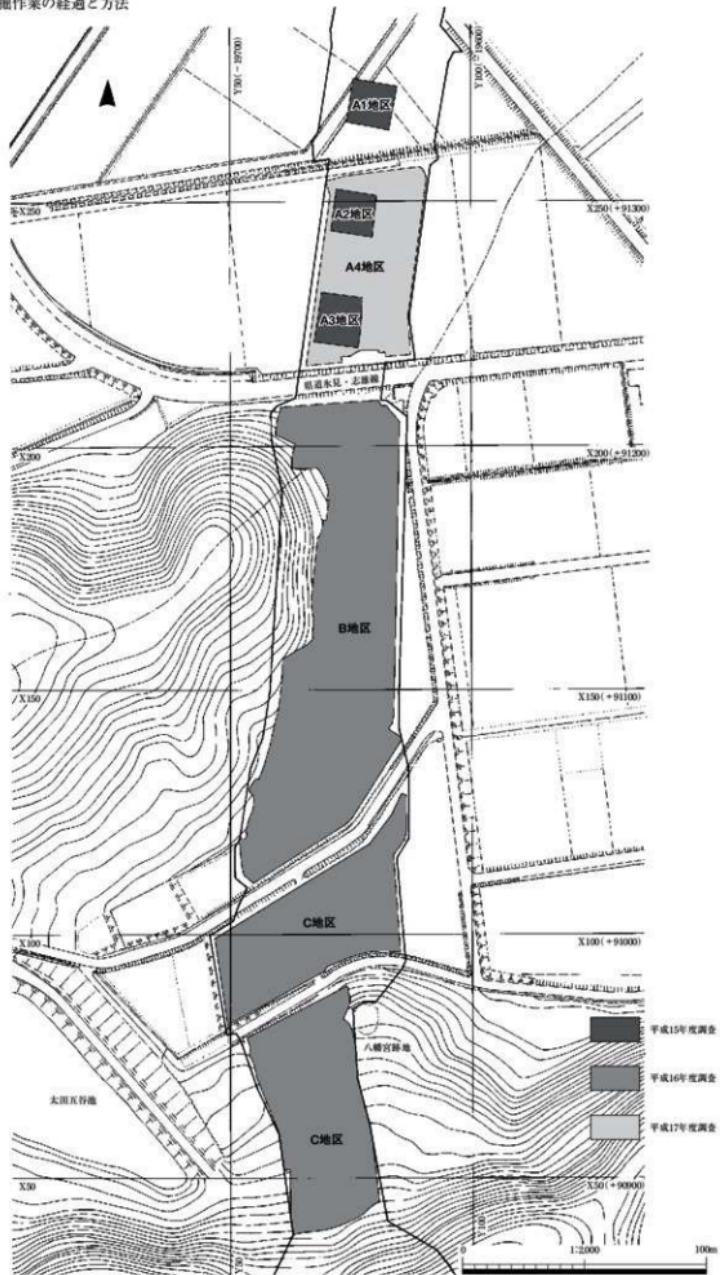
B 地区発掘調査風景



B 地区 1 号谷発掘調査風景

注1 平面直角座標第7系に定められている起点は、北緯36° 09' 0" 0000、東経137° 10' 0" 0000である。上大津呂中間遺跡の X 0 Y 0 の絶対度は、北緯36° 09' 0561318"、東経137° 09' 492265"（日本測地系）、北緯36° 09' 1654890"、東経136° 56' 3032961"（世界測地系）である。日本測地系から世界測地系への変換は、国土地理院の変換プログラム（WGS84/TK82/GD）により行った。

## 2 発掘作業の経過と方法



第3図 調査地区区割図

### (3) 貝塚調査の経過と方法

#### A 貝層の発見

A 4 地区では弥生時代以降の調査（上層）終盤に遺構のない南西部から縄文土器や動物遺体がいくつか出土した。平成15（2003）年に行われた包蔵地確認調査に基づく当初予定では、弥生時代後期および中世の遺構のみの一面調査であり、混入の可能性を考えたが、前年に調査したB地区で大量の縄文土器・動物遺体が出土した1号谷を調査しており、トレンチを設定し人力で下層確認を行った。すると、上層検出面から無遺物層を挟んで下に貝殻の混じる層と良好な遺物包含層を確認した。そのため、重機による坪掘りで下層確認を数箇所行ったところそのいずれにおいても同様な結果を得、A 4 地区の地下深くに貝層および遺物包含層が残っていることが明らかになった。

この取り扱いについて、原因者である国土交通省北陸地方整備局富山工事事務所とで協議を行い、能越自動車道（高岡北～氷見IC間）建設の工期が決まっていることから、打設に時間のかかる矢板工法ではなく法面工法で安全上問題のない深度まで調査することとなった。

これにより、上層面から縄文時代面（下層）までの無遺物層については重機による機械掘削を行い、縄文時代の貝層から人力による調査を行った。まず、人力により東西南北方向にトレントを掘削し、堆積土層を確認した。その結果、貝層3面と遺物包含層を確認した。当初意図していなかった調査であるため工期までの時間がなく、貝層の検出を最優先とし、貝層土壤（X II・X IV層）については土器・石製品・骨角器・動植物遺体など数多くの遺物が含まれていたため全量採取を行った。貝層（X IV層）およびその下の遺物包含層（X V層）については、丘陵近くの堆積の浅い南側では完掘できたが、堆積の深い北側では安全上問題があり完掘は行えなかった。

#### B 層位

南側の丘陵部から北側の万尾川のある低地部へと下っていく地山にあわせて、貝層・遺物包含層が傾斜している。上層検出面のVI層からIX層までは無遺物層が続き、厚いところで2m近くに達する。無遺物層については、平成17（2005）年に土壤の珪藻分析・花粉分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、“渴埋積層”であることが明らかになっている。X層～X V層は、貝層と遺物包含層を繰り返す。

#### C 調査方法

トレントを掘削してアゼによる土層観察後、貝層面ごとに断面図を作成し、貝層土壤を土嚢袋に入れ、全量採取した。貝層以外の遺物包含層については土壤採取を行わなかった。



貝塚X II層土壤採取風景



貝塚X IV層土壤採取風景

#### D 土壌洗浄と選別作業

X II・X IV層とX層の一部から採取した貝層土壌（土壌13,380袋）は、平成18（2006）年度に株式会社アーキジオに洗浄・選別委託した。土壌洗浄は、ウォーター・セバレーションに5mm, 2.5mm, 1mmの3つのメッシュカゴを用いて行った。洗浄後の遺物は乾燥させ、選別を行った。この結果、ほかの遺跡では発見が困難な小型の石製品、骨角製品、動・植物遺体など多くの微小遺物の採取ができた。

#### E 遺物整理

土壌洗浄・選別によって見つかった遺物は膨大な量にのぼり、すべてを事務所に運び入れて遺物整理することは困難であることから、平成18・19（2006・2007）年度に旧T I C日本語学校（分室）を借りて仮選別を行った。ここでは、主に貝類と土器の選別を行った。貝類は富山貝類同好会長宮本望氏の指導の下で同定を行った後、必要なデータを取り、サンプル見本や貝殻成長線分析やAMS年代測定などの分析試料以外は産業廃棄物として処理した。

縄文土器は、摩滅した破片が多くを占めていることから実測可能品を選別した。選別では、まずグリッドおよび層位に分けて計量、さらに所属時期や文様などに分けて計量・計数を行いデータ化を行った。また、縄文土器は摩滅の割合が貝層における原位置を保っているかどうかを示していると考え、分類も行った。摩滅の分類は、土器片の表・裏・側面に注目し、これがすべて摩滅しているA、2面が摩滅しているB、1面が摩滅しているC、摩滅なしのDでそれぞれグリッドごとに計量した。A 4地区では、B・C地区出土土器のような全体を復元できるような大型の破片はなく、土器片に残された地文と文様をもって独自に分類を行った。

植物遺体は、平成20・21（2008・2009）年度に、埋蔵文化財調査事務所にて調査課主任鳥田亮仁の下、同定・選別を行った。動物遺体は総合地球環境学研究所准教授内山純蔵氏の指導を仰ぎ、簡易な選別の後、大量かつ細かい破片が多いため、1・2.5mmメッシュ採取資料を平成20（2008）年度にパリノ・サーヴェイ株式会社へ、5mmメッシュおよび現地採取資料を平成22（2010）年度に株式会社古環境研究所へ同定委託した。

#### F 富山県最古の貝塚調査

A 4地区の貝層は、不時発見で作業安全上十分な面積と掘削深度を得ることはできなかった。しかし貝層土壌を全量採取し、洗浄選別を行ったことで、微少な石製品、骨角製品、動植物遺体など貴重な遺物を数多く発見した。また、貝層の所属時期は縄文時代早期末葉～前期初頭を主体とし、富山県最古の貝塚発見となった。  
（町田賢一）



土壌洗浄風景



宮本望氏による貝類同定

第2表 調査体制

実施年度	調査事業担当					
	統括	所長	桃野 真晃	統務	課長補佐 竹中 慎一	調査統括
平成15	主査・副所長	間 清		主任 廣田 美貴	調査員	文化財保護主事 内田亜紀子
	副所長・統務課長	盛田世津子				*
						森田 利枝
平成16	統括	所長	桃野 真晃	統務	課長補佐 竹中 慎一	調査統括
	主査・副所長	間 清		主任 廣田 美貴	調査員	主任 烏田美佐子
	副所長・統務課長	盛田世津子				文化財保護主事 内田亜紀子
平成17	統括	所長	桃野 真晃	統務	課長補佐 竹中 慎一	調査統括
	主査・副所長	間 清		主任 石田扶紀	調査員	主任 石川ゆづは
	副所長・統務課長	盛田世津子				*
						繩江 真理
						埋蔵文化財技師 藤本 信幸
						神保 孝造
						文化財保護主事 町田 賢一
						*
						杉山 大吾

第3表 調査一覧

地区	検出面	調査期間	延べ日数	調査面積	調査担当者	検出遺構	出土遺物
A 1	近世	平成15年11月14日 ～12月3日	6日間	320m <sup>2</sup>	内田亜紀子 森田利枝	落ち込み	須恵器、土師器、近世陶器群
A 2	中世・弥生	平成15年11月13日 ～12月16日	17日間	322m <sup>2</sup>		周溝建築物、掘立柱建物、 自然流路、柱穴、土壙	弥生土器、須恵器、土師器、珠銖、土製品、石製品
A 3	中世・弥生	平成15年11月13日 ～12月5日	12日間	378m <sup>2</sup>	町田賢一 杉山大吾	井戸、柱、溝、流路、柱穴、 土壙	純文土器、弥生土器、須恵器、土師器、 中世土師器、珠銖、古漁獵具、木製品
A 4	中世・弥生	平成17年5月19日 ～7月21日	41日間	3,012m <sup>2</sup>		周溝建築物、掘立柱建物、 井戸、溝、自然流路、 柱穴、土壙	弥生土器、須恵器、土師器、珠銖、中 世土師器、古漁獵具、土製品、木製品、 石製品、金属製品
縄文		平成17年7月29日 ～9月30日	34日間	1,543m <sup>2</sup>	貝塚		純文土器、土製品、石製品、骨角器、 貝製品、種実製品、骨貝類
B	近世・中世・古代・弥生、縄文	平成16年5月28日 ～12月14日	115日間	7,622m <sup>2</sup> 3,321m <sup>2</sup>		内田亜紀子 石川ゆづは 繩江真理 藤本信幸	掘立柱建物、井戸、浴槽、 溝、落ち込み、流路、 柱穴、土壙
C	古代・古墳・縄文	平成16年6月1日 ～11月26日	104日間	6,547m <sup>2</sup>	鳥田美佐子	土坑、溝、落ち込み、 自然流路	純文土器、須恵器、土師器、土製品、 木製品、石製品、金属製品、骨貝類

### 3 層序

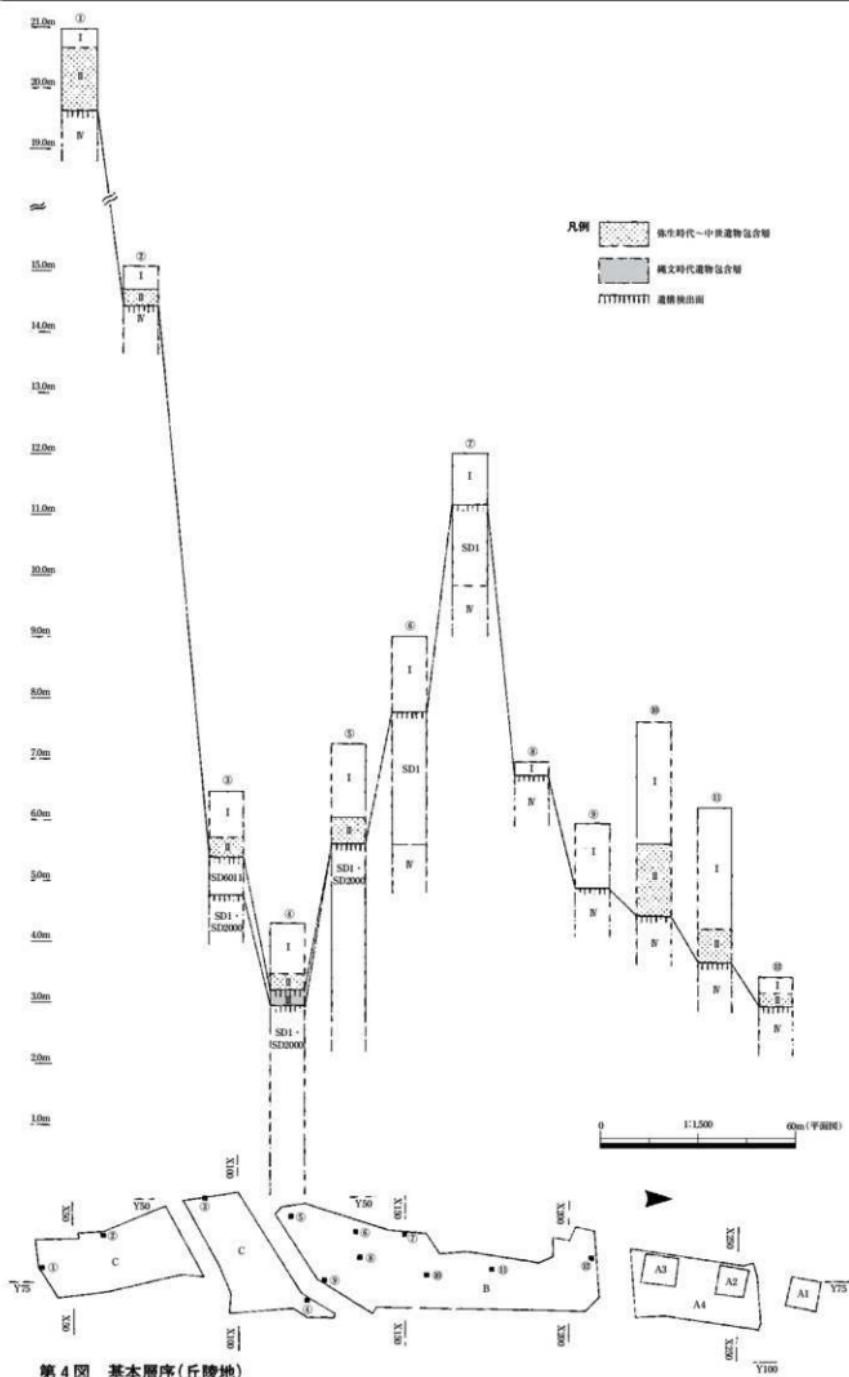
#### (1) 丘陵地

B地区西半からC地区を範囲とし、標高は現況で3.4～21.0mを測る。山地のB地区西半北部とC地区、谷部のB地区西半南部に大別できる。

Ⅰ層は古墳時代～中世の遺物包含層である。山地では黒色～黒褐色の粘土や粘土質シルト等を基調とする。特にB地区では縄文時代の遺物も多く含まれていたが、古墳時代以降の堆積層と分離できなかつたため、混入扱いとした。谷部では粘性の強い灰色粘土がⅡ層に対応する。砂に混じって縄文時代～中世の遺物が出土しており、後世の流路等によって1号谷の埋土や本来のⅡ層が攪乱を受けたものである可能性が高い。また谷部における古墳時代～中世の検出面はⅡ層直下であるが、この土層は基本層ではなく、1号谷・2000号自然流路が埋没した上面となっている。

Ⅲ層は縄文時代の遺物包含層である。谷部に近いC地区北端において確認している。

Ⅳ層は無遺物層で、山地では黄褐色粗砂や明黄褐色砂質シルトを基調とする。B地区西半北部においては、縄文時代の1号谷の検出面となっている。1号谷はB地区西半北部から南の方向に扇状に広がり、西から流れ込んだ2000号自然流路と重なりながら、B地区南端からC地区北部の調査区全体を覆う。埋土の深さは1m以上が予想されたが、脆弱な地盤であり完掘は困難と考えられたため、重機で2方向にトレッチを入れて深さを確認するに留めた。



第4図 基本層序(丘陵地)

## (2) 低 地

A 1～A 4・B 地区東半を範囲とし、標高は現況で1.4～5.9mを測る。II層は古代～中世、III層は弥生時代の遺物包含層である。地区により色調は異なるものの、II層は粘土、III層は砂を基調としており、分離は容易である。但し県道水見・志雄線付近ではIV層が上がってきており、II・III層が薄くなるかみられなくなる傾向にあった。II・III層が比較的厚く堆積する A 2・A 4 北半・B 地区では各層の下面で2面の造構検出作業を行ったが、A 3 地区ではIV層上面で1面の検出となった。

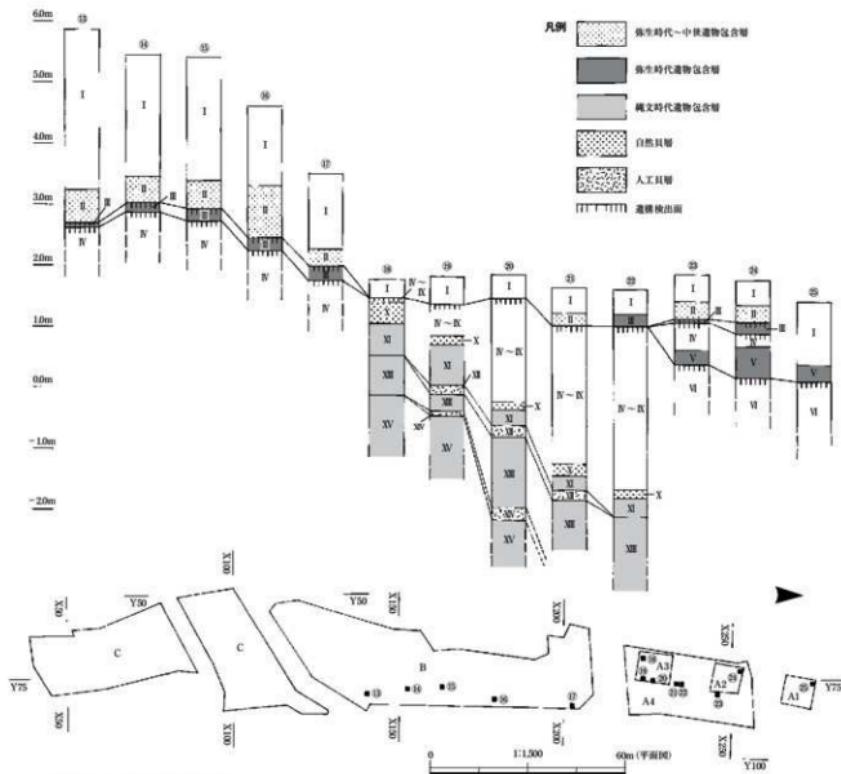
V・VI層はA 1～A 4 地区にみられる土層である。量は少ないがV層の有機質土中から弥生時代の遺物が出土した。III層出土遺物との時期差は殆ど無く、短期間における堆積と考えられる。

VII～IX層は無遺物層である。場所により数cm～3 m前後の堆積がみられるが、B 地区以南には存在しない。A 4 地区におけるX層との間層として、便宜上設定したものである。

X～XV層は縄文時代の遺物包含層である。A 4 地区を中心に広がる。X・XI層は前期後葉～中期後葉、XII・XIII層は早期末～前期後葉、XIV・XV層は早期後葉～末葉の遺物を含む。このうちX層は自然貝層、XII・XIV層が人工貝層である。

XVI層は地山である。還元化して暗緑灰色や緑灰色等を呈する固い粘土質の地盤で、トレンチの深掘りや戸井戸の断ち割り等において確認した。

(朝田亜紀子)



第5図 基本層序(低地)

第4表 基本層序

基本層		B地(西北半部)		C地(東半部)		D地(東北半部)	
層	層名	層厚	層名	層厚	層名	層厚	層名
I	耕作土・ 壤土	1 10YR3-2.5灰褐色砂質土質ローム	2.5Y5-2.5灰褐色砂質土質ローム	2.5Y4-2.5灰褐色砂質土質ローム	10YR3-4.1灰褐色砂質土質ローム	C地(東半部) 10YR3-4.1灰褐色砂質土質ローム	C地(東半部) 10YR3-4.1灰褐色砂質土質ローム
II	古地化土・中性 鹽化物含層	1 10YR2-1.5褐色粘土 10YR4-2.5灰褐色粘土	2.5Y4-1.5褐色粘土 3.5G-1.5灰褐色粘土	2.5Y2-1.5褐色粘土 3.5G-1.5灰褐色粘土	10YR3-1.5褐色粘土 3.5G-1.5灰褐色粘土	10YR3-1.5褐色粘土 3.5G-1.5灰褐色粘土	10YR3-1.5褐色粘土 3.5G-1.5灰褐色粘土
III	褐土時代 遺物包含層	無	SDI-2000mm土	SDI-1000mm土	SDI-1000mm土	SDI-1000mm土	SDI-1000mm土
IV	無機物質	a 10YR5-6.5灰褐色粗砂 5G-6.5灰褐色粘土 b 2.5G-5.5灰褐色粘土	2.5Y5-5.5灰褐色粗砂 5G-5.5灰褐色粘土	2.5Y4-5.5灰褐色粗砂 5G-5.5灰褐色粘土	2.5Y4-5.5灰褐色粗砂 5G-5.5灰褐色粘土	2.5Y4-5.5灰褐色粗砂 5G-5.5灰褐色粘土	2.5Y4-5.5灰褐色粗砂 5G-5.5灰褐色粘土
低地		A地(西)		A地(東)		A地(南)	
層	層名	層厚	層名	層厚	層名	層厚	層名
I	耕作土・ 壤土	1 10YR3-1.5褐色沙質土 2.5Y4-2.5灰褐色粘土 10YR2-2.5灰褐色粘土	10YR5-2.5灰褐色沙質土 2.5Y4-2.5灰褐色粘土 10YR3-2.5灰褐色粘土	10YR4-2.5灰褐色沙質土 10YR3-2.5灰褐色粘土	10YR4-2.5灰褐色粘土 10YR3-2.5灰褐色粘土	10YR4-2.5灰褐色粘土 10YR3-2.5灰褐色粘土	10YR4-2.5灰褐色粘土 10YR3-2.5灰褐色粘土
II	古代・中性 鹽化物含層	無	2.5Y5-2.5灰褐色粘土 3.5G-2.5灰褐色粗砂	2.5Y5-2.5灰褐色粘土 3.5G-2.5灰褐色粗砂	2.5Y5-2.5灰褐色粘土 3.5G-2.5灰褐色粗砂	2.5Y5-2.5灰褐色粘土 3.5G-2.5灰褐色粗砂	2.5Y5-2.5灰褐色粘土 3.5G-2.5灰褐色粗砂
III	冰生時代 鹽化物含層	無	10YR4-1.5褐色粗砂 5G-1.5灰褐色含鹽 質	10YR4-1.5褐色粗砂 5G-1.5灰褐色含鹽 質	10YR4-1.5褐色粗砂 5G-1.5灰褐色含鹽 質	10YR4-1.5褐色粗砂 5G-1.5灰褐色含鹽 質	10YR4-1.5褐色粗砂 5G-1.5灰褐色含鹽 質
IV	無機物質	無	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂
V	冰生時代 鹽化物含層	無	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂
VI	無機物質	無	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂
VII	-	無	無	無	無	無	無
VIII	褐土時代 遺物包含層	無	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂
X	褐土時代 遺物包含層	無	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂
XI	時代中期初葉 遺物包含層	無	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂
XII	褐土時代中期初葉 遺物包含層	無	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂
XIII	褐土時代前期末 遺物包含層	無	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂
XIV	褐土時代中期末 遺物包含層	無	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂
XV	褐土時代中期後葉 遺物包含層	無	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂	2.5Y4-3.5-5.5灰褐色粗砂
XVI	無機物質	無	無	無	無	無	無

## 4 整理作業の経過と方法

平成16（2004）年度調査のB地区、平成17（2005）年度調査のA4地区からは多量の遺物が出土し、併せてコンテナ3,200箱を超える膨大な量であったため、洗浄作業は平成17・18（2005・2006）年度に業者に委託した。その他の遺物は、調査年度内に洗浄・バインダー処理・注記・分類を行った。木製品・石製品・骨製品・金属製品はメモ写真を撮影し、整理台帳を作成した。木製品・金属製品は収納・管理の便宜を図るためにオートシーラーと専用フィルムを用いてパックし、仮保管している。

報告書刊行に向けての室内整理作業は平成18（2006）年4月に開始した。18年度は土器、19（2007）年度は貝類、20（2008）年度は骨と種実を中心に、仕分けと基礎的分類を行った。縄文土器は19年度に接合・復元、20年度に実測・写真撮影を行った。弥生時代以降の土器・陶磁器は19・20年度に接合・復元、21・22（2009・2010）年度に実測、23（2011）年度に写真撮影を行った。木製品・石製品・金属製品の実測・写真撮影は20年度を中心に行った。骨角器は21年度に実測、23年度に写真撮影を行った。これらと併行して、21～23年度に原稿執筆、遺構・遺物挿図作成、トレース、写真図版作成、編集、24（2012）年度に印刷、校正を行った。

遺物の実測は、土器・陶磁器・土製品を調査員及び室内整理作業員が行った。木製品・石製品・金属製品・骨角器の一部は調査員が実測を行い、その他は業者に委託した。遺物実測図は、種類別の遺物カードに直接書き込むか貼り込んで整理した。トレースは室内整理作業員が行ったが、一部を業者に委託してデジタル化した。遺構実測図・写真は各台帳を作成して整理し、遺構カードとともにパソコン用コンピューターを使用してデータ入力した。遺構・遺物のデータは観察表として掲載した。

遺物の写真撮影は業者に委託した。縄文時代土製品・木製品・金属製品のうち重要なものは、業者に委託して保存処理及び一部復元を行った。自然科学分析は一部を調査員が行ったほかは業者に委託し、結果報告を掲載した。

(朝田亞紀子)

**第5表 整理体制**

実施年度	整 理 事 業 担 当					
平成18	統括 所長 岸本 雅敏	統務	チーフ 浅地 正代	整理統括	調査第一課長	神保 孝造
	主査・副所長 山本 正敏	主 任	岩田 扶紀	遺物分類整理担当	文化財保護主事	町田 賢一
	副所長・統務課長 加藤慶次郎					
平成19	統括 所長 岸本 雅敏	統務	チーフ 浅地 正代	整理統括	調査第一課長	神保 孝造
	主査・副所長 山本 正敏	主 任	岩田 扶紀	応急整理担当	文化財保護主事	町田 賢一
	副所長・統務課長 加藤慶次郎					
平成20	統括 所長 岸本 雅敏	統務	チーフ 浅地 正代	整理統括	調査第二課長	河西 雄二
	主査・副所長 山本 正敏	主 任	岩田 扶紀	担 当	主 任	朝田亞紀子
	副所長・統務課長 加藤慶次郎					
平成21	統括 所長 岸本 雅敏	統務	統務課長 竹中 憲一	整理統括	調査第二課長	河西 雄二
	副所長 池野 正男	チーフ 浅地 正代	担当	主 任	朝田亞紀子	
平成22	統括 所長 岸本 雅敏	統務	統務課長 竹中 憲一	整理統括	調査第二課長補佐	島田美佐子
	副所長・調査第二課長 池野 正男	チーフ 浅地 正代	担当	主 任	朝田亞紀子	
平成23	統括 所長 岸本 雅敏	統務	統務課長 竹中 憲一	整理統括	調査課長	島田美佐子
	副所長 池野 正男	主 任 江本 審一	担当	チーフ	越前 信子	
平成24	統括 所長 岸本 雅敏	統務	統務課長 松尾 五	整理統括	調査課長	島田美佐子
	副所長 池野 正男	主 任 江本 審一	担当	チーフ	越前 信子	
				主 任	朝田亞紀子	

## 5 普及活動

### （1）現地説明会

発掘調査の結果を広く一般に公開するため、平成17（2005）年7月9日（土）に現地説明会を実施した。新たな試みとして、調査区（A4地区）と土器洗浄施設の2箇所を開設し、発掘調査と遺物応急整理の両方を見学できるようにした。調査区では、縄文時代貝層確認トレーン、弥生時代後期・中

世の集落、出土遺物を公開し、調査員3名が遺構・遺物について説明を行った。調査区に隣接した土器洗浄施設では、委託業者がB・C地区出土遺物の洗浄・注記等の作業を実施した。当日は天候にも恵まれ、見学者は210名を数える大盛況であった。

#### (2) 記者発表

C地区のS D6001から、県内初となる角杯形須恵器が出土したため、平成16（2004）年8月31日に記者発表を行った。翌日の新聞各紙では紙面を割いて大きく報道された。

#### (3) 遺物の展示

A 「古代のかたりべー大規模発掘調査の速報展」 平成17（2005）年2月18日～3月6日

当事務所が富山県高岡文化ホールと共に催行した。他の遺跡と合わせた遺物展示で、上久津呂中屋遺跡からは、縄文時代の釣手土器、土偶、石鎌、石匙、石斧類、石刀、块状耳飾、骨角器、骨類（ヒト・イルカ・クジラ・イヌ・シカ）、弥生土器、角杯形須恵器を展示了。期間中、延べ約1,300名の入場者が訪れた。

B 「特別展 水辺に暮らす－北陸の低湿地遺跡－」 平成19（2007）年10月16日～12月2日

富山県埋蔵文化財センターで開催され、縄文土器・石器・骨角器を出品した。

C 「速報展 発掘されたとやまく後期」 平成22（2010）年4月6日～7月8日

富山県埋蔵文化財センターで開催され、縄文土器、土製品、石器、骨角器、骨貝類を出品した。

D 「特別展 とやまの貝塚」 平成23（2011）年10月5日～12月1日

富山県埋蔵文化財センターで開催され、縄文土器、土製品、石器、骨角器、骨貝類を出品した。

#### (4) 講演会等

A 「平成16年度上久津呂中屋遺跡発掘調査報告」富山考古学会 平成17（2005）年1月22日

B・C地区の縄文時代谷と出土遺物を中心に発表を行った。（発表者：内田亞紀子）

B 「氷見市上久津呂中屋遺跡の調査」県民考古学講座 平成19（2007）年11月4日

A 4地区の貝塚を中心に、発掘調査の状況や出土遺物について発表を行った。（発表者：町田賢一）

C 「富山県氷見市上久津呂中屋遺跡A 4地区貝塚出土貝類の整理－縄文時代早期末葉～前期初頭の貝塚様相－」第173回近江貝塚研究会 平成20（2008）年3月15日

A 4地区出土貝類の整理状況について、貝層の様相も含めて発表した。（発表者：町田賢一）

D 「富山県の縄文遺跡出土の鯨類遺体」日本セトロジー研究会第19回大会 平成20年6月15日

A 4・B・C地区出土鯨類遺体について、県内の状況を踏まえて発表した。またB地区1号谷出土イルカ形土製品についても発表した。（発表者：町田賢一）

E 「北陸における縄文時代草創期終末～前期初頭の遺跡様相－縄文海進期の適応状況を中心として－」第3回年代測定と日本文化研究シンポジウム 平成20年9月21日

A 4地区の貝塚を中心に、草創期～前期初頭における北陸の状況を発表した。（発表者：町田賢一）

F 「日本の遺跡 富山県氷見市上久津呂中屋遺跡」「考古学研究」第55巻第2号 考古学研究会 平成20年9月30日（執筆者：町田賢一）

G 「シンポジウム とやまの貝塚 富山県小竹貝塚、上久津呂中屋遺跡」 平成23（2011）年10月23日小竹貝塚と比較してA 4地区的貝塚様相を発表した。（発表者：町田賢一）

このほか、「紀要 富山考古学研究」第8～15号に調査担当者による報告がある。 （町田賢一）



## 第Ⅱ章 位置と環境

### 1 地理的環境

上久津呂中屋遺跡は、富山県北西部の氷見市で宝達山から延びる氷見南部丘陵（通称コンゴー山）裾部にある。遺跡は、西側の丘陵を取り囲むように南北約900m・東西約300mの勾玉状を呈する。現況は、南端の丘陵斜面（C地区南部）がスギ林（標高7.3～20m）、南側低地部（C地区北部）が水田（標高4.6～6.9m）、中央丘陵裾部（B地区）がスギ林（標高3.4～15m）、北側低地部（A 1～4地区）が水田（標高1.5～2.3m）と起伏に富んだ立地となっている。『土地分類図』<sup>①</sup>によれば、氷見平野で三角州性低地および大起伏丘陵地に分類され、丘陵地は十二町砂岩層を基盤とする。

### 2 歴史的環境

『氷見市史9』<sup>②</sup>によれば、縄文海進期には遺跡の直近にまで汀線が達し、海退後の“布勢水海”となり、その後沖積層の堆積や干拓等により縮小し、現在の汀線（遺跡から約5km）となっている。以下、時代を追って布勢水海と上久津呂中屋遺跡および周辺の遺跡との関係を見ていく。

#### （1）縄文時代

早期以降海進が加速し、前期には最も内陸の丘陵裾部まで海水が流れ込んでいた（古氷見湾）ようである、現在の氷見平野にあたる部分の大半は海となっていた。

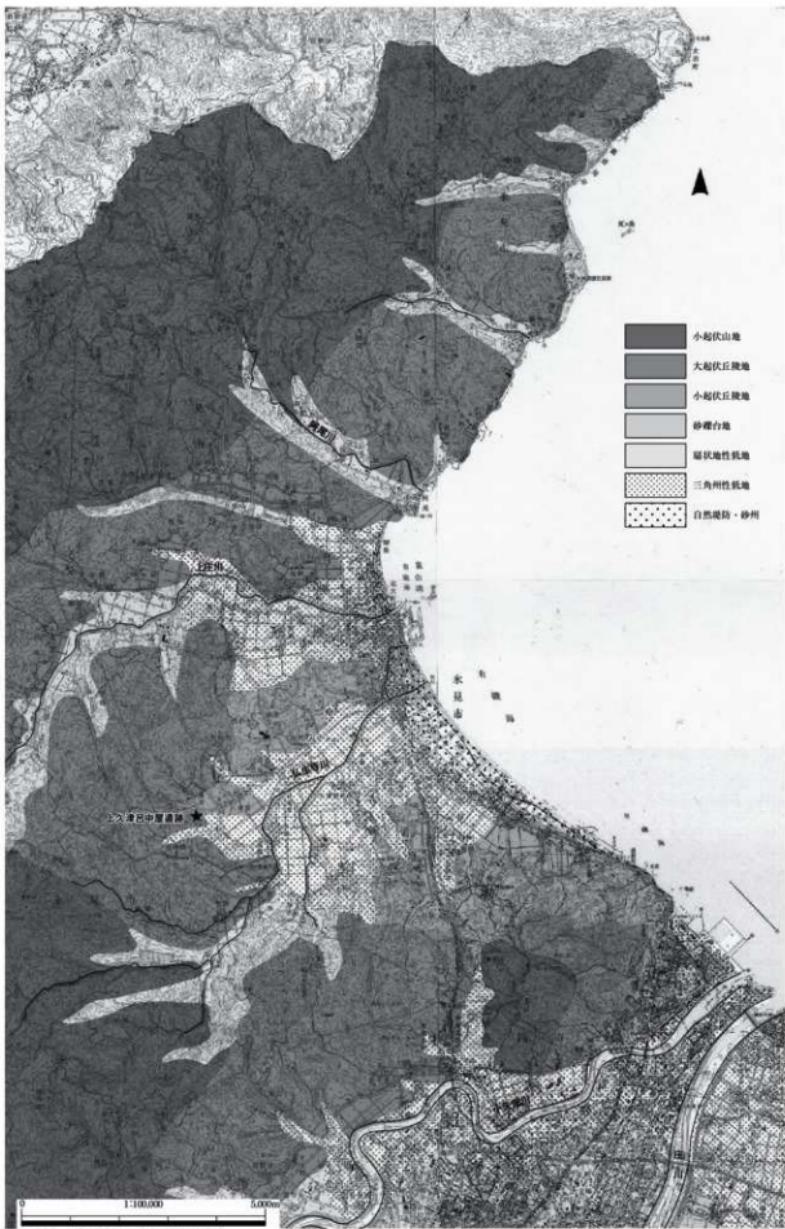
最古の遺跡は山間部にある坪池白坂遺跡（第9図・第6表119、以下同）で、早期中葉の押型文土器が出土する散布地である。ほかに当該期の遺跡はなく、広範囲を移動する遊動生活をおくっていたものとみられる。早期後葉になると、上久津呂中屋遺跡（78）で土器を主体とする“捨て場”（A 4地区X V層、B・C地区1号谷）が見られる。これは、直近に迫った海への斜面を利用した捨て場である。A 4地区X V層では埋葬形態は不明だが多くの人骨片が出土しており、単に“捨て場”だけでなく“送り場”としての機能も考えられる。早期末葉～前期初頭には、丘陵裾部の上久津呂中屋遺跡で貝塚（A 4地区X IV層、B・C地区1号谷内貝層）が出現する。県内では最古の例で北陸地方でも貝塚の出現期にあたる。前期前葉では、上久津呂中屋遺跡のほかに加納谷内遺跡（36）でも土器がまとまって見られる。なお、低地の十二町潟排水機場遺跡（70）では当該期の土器が貝層から出土しているが、自然貝層への二次堆積とされ、実態が不明である。前期中葉では丘陵裾部の朝日貝塚（67）で土器がまとまって出土し、“朝日C式”と称されている。前期後葉～末葉では朝日貝塚で国内初検出の堅穴住居があり、この時期に至ってようやく定住生活の様相を示す遺構が出現する。なお、朝日貝塚は前期末葉“朝日下層式”土器の標識遺跡である。遺跡数もわずかながら増大し、小矢部川左岸の岩坪岡田島遺跡（111）でも土器がまとまって見つかっている。上久津呂中屋遺跡においても貝塚が再び形成される（A 4地区X II層）。

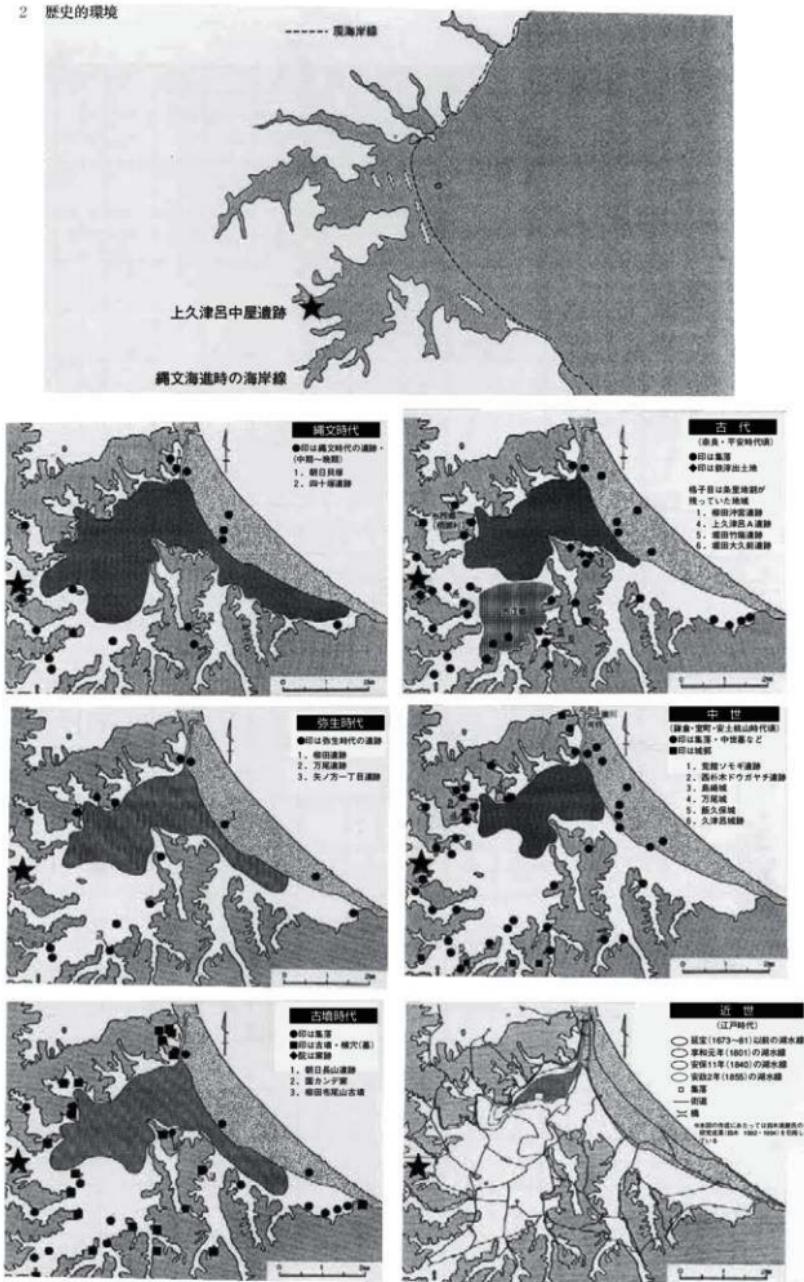
中期になると海進から次第に海退に転じるとともに沿岸部では砂丘が形成され、海水から汽水へと変化し始め、汽水湖が形成されていく（布勢水海）。

貝塚は、上久津呂中屋遺跡のある氷見平野奥部から現汀線方向へと移動し、中波貝塚（1）、朝日貝塚、四十塚遺跡（83）でみられるようになる。また、大境洞窟遺跡（6）や大境エンニヤマ下洞窟

① 経済企画省企画調査局 1973「土地分類図（地形分類図）富山県」

② 氷見市史編さん委員会 1999「氷見市史9 貨物編一 自然篇」





第8図 遺跡周辺の地形変遷

永見市立博物館 2005『別別展 水辺の人ひとー布施水海の歴史をさぐるー』より転載

遺跡（7）のような海進によって開口した洞窟の利用がはじまる。丘陵裾部では、上久津呂中屋遺跡で1号谷の捨て場利用が再び活発化する。また、長坂貴船遺跡（3）・桑ノ院吉谷遺跡（61）・堂前遺跡（107）など山間部でも遺跡が展開し、様々な地形に遺跡が形成される。

後晩期は気候の冷涼化と海退が進み、阿尾島田A遺跡（27）・布施八ヶ田遺跡（80）・江尻南遺跡（101）などそれまで海であった低地の利用が可能となる。一方で朝日貝塚や大境洞窟遺跡などの前時期から引き続いた遺跡もある。“前田式”の標識遺跡である一剣前田遺跡（16）や勝木原宮之前遺跡（120）など山間部の利用も前時期同様に行われている。上久津呂中屋遺跡では1号谷の捨て場利用を後期前葉に終え、晩期には丘陵裾部のテラス状部分へと移動する。

## （2）弥生時代

海退傾向に気候寒冷化が重なり現在よりも海面が低下していたようで、布勢水海はさらに縮小する。

中期初頭までは縄文時代晚期とほぼ同様な様相で、大境洞窟遺跡と大境エンニヤマ下洞窟遺跡で洞窟内貝層が形成される。中期中葉以降になると遺跡数が増加し、鞍川中B遺跡（43）・大野江瀬遺跡（44）・惣領浦之前遺跡（87）などの低地や、間尽遺跡（112）・上久津呂中屋遺跡など丘陵裾部に遺跡が展開する。山間部には遺跡はほとんどみられない。上久津呂中屋遺跡では中期後葉から遺物が出土し、後期になると周溝を持つ建物を中心に集落を形成する。遺跡周辺からは布勢水海は遠のき、現在の万尾川にあたる自然流路が流れようになり、この周囲に集落を形成していたものと見られる。

## （3）古墳～飛鳥・白鳳時代

古墳時代になると水見では丘陵上に宇波古墳群（10）・加納南古墳群（37）・稲積オオヤチ古墳群（29）・朝日長山古墳（66）・柳田布尾山古墳（82）・惣領古墳群（89）など数多くの古墳が造営され、県内でも随一の量である。のことから大きな勢力をもつ豪族の存在が想定されるが、その居館や集落は見つかっていない。庶民の集落は、上久津呂中屋遺跡の丘陵をはさんだ北側の谷間にある中谷内遺跡（76）で堅穴住居6棟がみつかっているにすぎない。

飛鳥・白鳳時代においても集落はほとんど見つかっておらず、その主体は脇方横穴群（9）・加納横穴群（35）などの丘陵斜面を削り抜いた横穴墓となる。上久津呂中屋遺跡では明確な遺構はないが、南側の丘陵斜面（C地区）から県内では唯一の角杯形須恵器が出土している。

## （4）古代

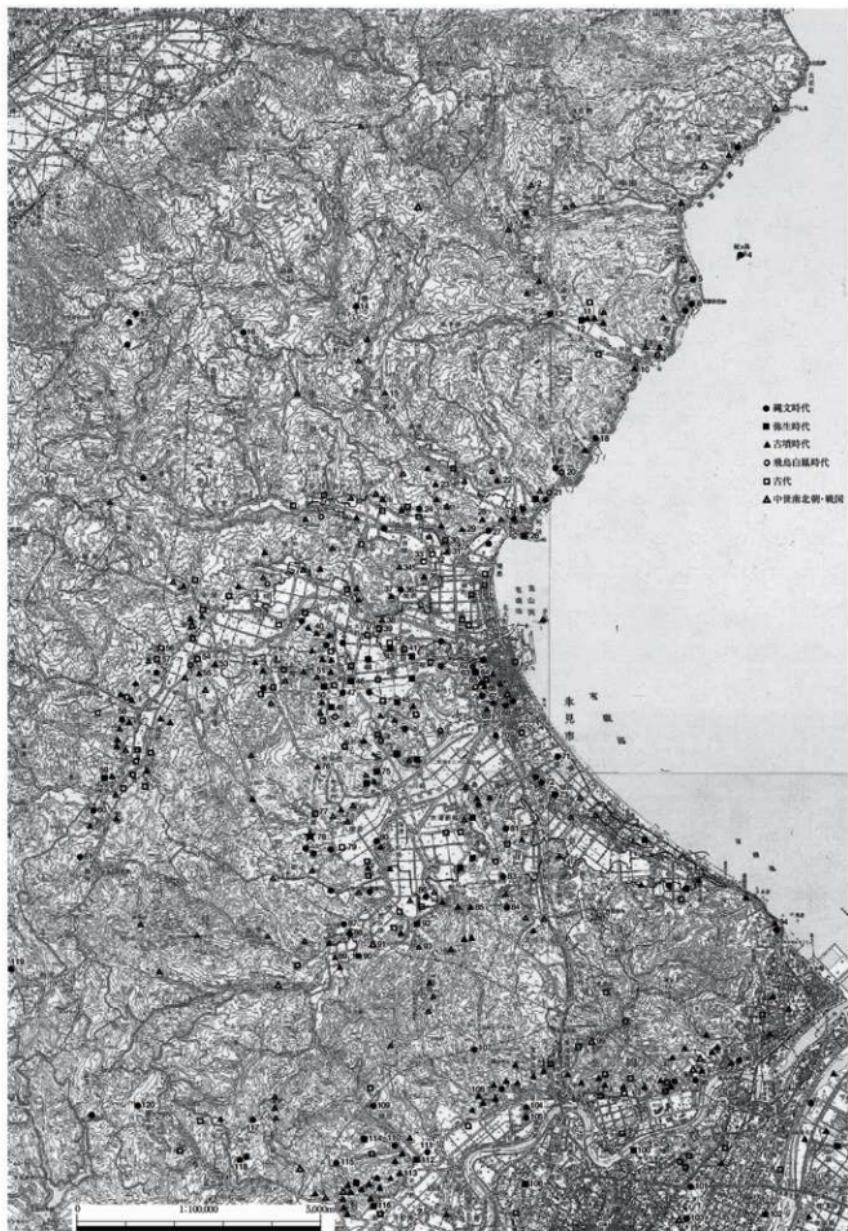
気候が安定化し、穏やかな汽水湖となっていたようで、8世紀半ばには越中国司大伴家持が遊覧し、『万葉集』に和歌を残している。周囲には穀倉地帯が広がっていたようである。ただし、潟周辺は低地であるため、度々洪水に襲われていたものとみられる。

低地には阿尾島田A遺跡や稲積天坂北遺跡（32）などの集落、山間部や丘陵部には泉中尾庵寺跡（49）や小窪庵寺跡（56）などの古代寺院がみられる。上久津呂中屋遺跡は布西郷に属し、B地区で掘立柱建物からなる集落を形成している。

## （5）中世

古代よりも寒冷化していたようで布勢水海は東方へ減少する。

低地には中尾新保谷内遺跡（47）や惣領野際遺跡（88）などの集落、丘陵上には阿尾城跡（26）や



第9図 周辺遺跡位置図

飯久保城跡（91）などの中世城郭がみられる。上久津呂中屋遺跡は、耳浦荘という莊園の一部に所在し、A4・B地区で掘立柱建物や井戸などを検出し、莊園を支える農村であったものと考えられる。

### （6）近世以降

近世になると、新田開発のため布勢水海は次々に干拓され縮小し十二町潟へとその姿を変貌させる。

上久津呂中屋遺跡からは近世の集落遺構はなく、水田や山林へと変化した。なお、丘陵部からは瓦が大量に出土しており、丘陵部を利用した瓦窯が営まれた可能性も伺える。  
(町田賢一)

第6表 周辺遺跡一覧(1)

番号	遺跡名	所在地	種別	主な時代	主な遺物
1	中波貝塚(女郎貝塚)	永見市中波	貝塚	縄文中期	縄文土器、石斧
2	長坂マウト遺跡	永見市長坂字山田マウト	中世墓	中世	馬糞甕、人骨 2 体、宋銅 3 枚、五輪塔
3	長坂貢物道跡	永見市長坂字前田	集落	縄文中期・後期	縄文土器、石器、石斧
4	鶴が島遺跡	永見市安字浜原	散布地	縄文前期・古代～近世	縄文土器、石器、土師器、珠陶、石垣用材
5	九段浜遺跡	永見市安字久段	製塗場	縄文～中世	須恵器、土師器、製塗土器
6	大境浜岸道跡(大境側居住跡)	永見市大境字駒首	洞窟	縄文中期～中世	縄文土器、牛生土器、須恵器、土師器、中世陶器、人骨、獸骨、石棒、角骨器
7	大境ニンニヤマ下洞門道跡	永見市大境	洞窟	縄文中期・弥生	縄文土器、生土器、人骨、獸骨、貝殻、石碑
8	鷲方谷内出中世墓	永見市鷲方	中世墓	中世	板石塗装、五輪塔、宝鏡印塔、一石一尊仏、中世土師器
9	鷲方谷六群	永見市鷲方字丹が瀬	横穴・中世墓	飛鳥白鳳、中世	直刀、須恵器、管玉、切子玉、人骨
10	宇波古墳群・宇波神社遺跡	永見市宇波字宇波・宇波神社境内	古墳・散布地	古墳前期(1号墳は 6 世紀後半)・中世	人骨・文様、直刀、須恵器(提取・鑑)、石造物
11	熊野神社古墳群・集石羣	永見市宇波吉田	古墳・中世墓	古墳・中世墓	-
12	宇波西遺跡	永見市宇波・白川	散布地	弥生・古墳・古代・中世	土師器、須恵器、珠陶
13	鶴鉢神社遺跡	永見市白川	散布地	縄文後期	縄文土器、石斧、石器
14	鶴迎門遺跡	永見市鶴迎門北山	散布地	縄文	縄文土器、石器
15	森古墳群(湯山城跡)	永見市森古字城山・吉浦	城館	中世	珠陶、土師器、白磁、瀬戸美濃酒、鉄釘
16	一側田遺跡	永見市一側田字前田	集落	縄文・後期	縄文土器、石器、石斧、跳状耳飾
17	懸札ホシシバ遺跡	永見市懸札	散布地	縄文中期・古代	縄文土器、石器、須恵器
18	泊御賀遺跡	永見市小移	洞窟	縄文・前南か	人骨、土器片
19	敷田遺跡	永見市敷田竹の越	集落	縄文～近世	縄文土器、須恵器、土師器、製塗土器
20	敷田垂暮跡(敷田垂暮 横穴群・中世墓)	永見市敷田字垂暮	横穴・中世墓	飛鳥白鳳、中世	須恵器、直刀・土師器、人骨、石造物、古鏡、銀洋
21	阿尾島(アユ)谷内横穴群	永見市阿尾字阿尾	横穴	飛鳥白鳳	人骨 2 体
22	北八代古墳	永見市北八代	古墳	古墳	-
23	猪崎町内古墳群	永見市猪崎字向山	古墳	縄文前期・古代・中世	直刀、管玉、須恵器、鑑(13号墳出土遺物)
24	猪崎後山遺跡	永見市猪崎字西谷内	散布地	縄文前期・古代・中世	縄文土器、石器、須恵器、土師器、珠陶
25	阿尾島尾山遺跡	永見市阿尾字尾山	集落	縄文・古墳・古代・中世	縄文土器、石器、須恵器、珠陶、漆器、貿易陶器
26	阿尾城跡	永見市字阿尾・城山	城館・散布地	弥生後期・後期・中世～近世初期	须生土器、珠陶、土師器、瀬戸美濃酒
27	阿尾島尾山遺跡	永見市阿尾字島田	集落	縄文・古墳・晩期・古代・中世	須生土器、土師器、珠陶、貿易陶器
28	阿尾島古墳群・土塁群	永見市阿尾	古墳・城館	古墳・中世	鐵瓶、鐵網、鐵簾、鐵製刀子、鐵製鎌、鐵製ヤス、ガラス小玉、石製管等 (A1 号墳出土品)
29	細柄オヤチ古墳群	永見市細柄	古墳	古墳	-
30	細柄オヤチ古墳群	永見市細柄	集落	古代・中世	-
31	細柄川上遺跡	永見市細柄	散布地	古墳・古代	須恵器
32	細柄大阪北遺跡	永見市細柄	集落	古代・中世・近世	須恵器、珠陶
33	細柄大坂遺跡	永見市細柄字天坂	集落	古代・中世・近世	-
34	木谷城跡	永見市細柄字木谷・細柄・余田	城館	中世	-
35	加納横谷群	永見市加納字横子	横穴	古墳後期～飛鳥白鳳	須恵器(杯・提瓶・高杯・鑑・刀子・金闇・勾玉・切子玉・管玉・小玉・人骨)
36	加納谷内遺跡	永見市加納	集落	縄文・古代・中世・近世	-
37	加納南古墳群(加納中程 古墳群)・加納城跡	永見市加納	古墳・城館	太刀・挂甲・銅鏡・須恵器(箭筒器台・杯)・水晶製勾玉・三輪玉	
38	七分一堂口遺跡	永見市七分一	集落	中世	-
39	大野中遺跡	永見市大野	集落	古代	-
40	泉古墳群	永見市泉字御毛	古墳	古墳中～後期	水晶切子玉・ガラス小玉・管玉 (9 号墳出土品)・人骨・勾玉・小玉・直刀・鐵鍊等 (17 号墳出土品・東濃大淀灰瓦行方不明)・須恵器
41	輶川D遺跡	永見市輶川	集落	古代・中世	須恵器、珠陶・土師器・丸木舟・木製品
42	輶川中A遺跡	永見市輶川字中・大野新	散布地	古代・中世・近世	須恵器、珠陶・土師器
43	輶川中B遺跡	永見市輶川字中	集落	弥生・古代・中世・近世	须生土器・石器・植物形陶器・須恵器、珠陶・土師器・曲物
44	大野江瀬遺跡	永見市中尾・輶川・大野新・大野	集落	弥生・古墳・古代・中世後	须生土器・石器・土師器・須恵器
45	津布入遺跡	永見市津布字引畠	散布地	弥生・後期～古代	弥生土器・土師器・須恵器
46	神明北遺跡	永見市中尾	集落	弥生・後期～古墳	弥生土器・土師器・須恵器
47	中尾新保谷内遺跡	永見市中尾寺尾	集落	縄文前期	縄文土器・石器
48	中尾古道跡	永見市中尾	集落	弥生・古墳・古代	土師器・須恵器・珠陶
49	皇中城廻寺跡	永見市泉字中尾	寺院	古代・中世	金剛杖
50	中尾芦古墳群・中世墓	永見市中尾	古墳・中世墓	弥生末～古墳初期・古墳後期	土師器・珠陶(壺・抹瓶・瓶)・石造物

第6表 周辺遺跡一覧(2)

番号	遺跡名	所在地	種別	主な時代	主な遺物
51	竹里山の岩塙堂	永見市皇子山中尾山	祭祀	中世・近世	石造不動明王像
52	千人塚城跡	永見市中字茅ヶ口	城跡	中世	土器器、瓦片
53	イヨノリヤマ古墳群	永見市大田・新保	古墳	古墳中期	精良、銅刀・銅鑿・良玉、須恵器(杯・鱗・甕)・土師器(3号罐出土遺物)
54	新保古墳群	永見市吉保字伊川田	集落	古代・中世	須恵器、珠飾、貿易陶磁
55	速川神社古墳群	永見市吉保・弓削	古墳	古墳	平瓦、丸瓦、須恵器、等心櫛石
56	小原木古墳	永見市吉保字塙のスマ	古墳	古代	平瓦、丸瓦、瓦片
57	小原木古墳	永見市吉保	室	古代	平瓦、丸瓦
58	小久木古墳	永見市吉保字森溝平	集落	鐵文・弧牛糞・中世	男生土器、石器、珠飾
59	久日谷古墳群	永見市久日	古墳	男生・古墳初期	—
60	解放古墳遺跡	永見市吉保広瀬	散布地	鐵文・古墳・古代・中世	鐵文土器・石器・土師器、須恵器、珠飾
61	桑ノ谷古墳遺跡	永見市吉院字吉谷	散布地	鐵文中期	鐵文土器・石器
62	朝日山城跡	永見市大町	城跡	中世	珠飾、古墳中期器
63	朝日山古墳	永見市大町	集落	男生・未	男生土器・石器
64	上日中世墓群	永見市吉日本町	中世墓	古代・中世	須恵器、珠・土師器・石造物・人骨
65	朝日山古墳遺跡	永見市吉日本町	古墳	古墳中期	—
66	朝日長山古墳	永見市朝日本町(長山)	古墳	古墳(6世紀前葉)	須恵器、土師器、直刀・銅鑿・杏葉・冠網片・網金具・骨・土・輪鏡
67	朝日貝塚	永見市朝日丘	貝塚	鐵文一期・二期・男生・中世	鐵文土器・男生土器・土師器・須恵器・石器・石器・石伴・土偶・角形・人骨・骨質
68	沿上遺跡	永見市朝日本町・本町	散在堆	鐵文一期・二期・男生・古代	鐵文土器・土師器・須恵器・石器・石伴・瓦片
69	朝日山古墳群	永見市朝日本町(山田)	古墳	古墳(無蓋なし中世以降)	須恵器(無蓋)
70	十町羽掛水機場遺跡	永見市津	散布地	鐵文前期・中期・古代	鐵文土器・石器・石鍬・土師器・自然遺物
71	松田山古墳	永見市津・柳田	散布地	鐵文・弥生・古代・中世	鐵文土器・石器・弥生土器・須恵器・土師器・珠飾・中世後期器
72	柳田裏塚	永見市柳田	集落	鐵文・弥生・古墳一期・古墳	男生土器・土師器・須恵器・製塗土器
73	柳田木道跡	永見市柳田	散布地	弥生・中世	男生土器・珠飾
74	廻カニ室跡	永見市柳田カニ	室	古墳後期	須恵器・陶器・鉄洋
75	万尾塚跡	永見市カニ尾字二日臣	散布地	男生後期～近世	土師器・須恵器・珠飾・瓦器唐津
76	中谷内遺跡	永見市中谷内	集落	古墳中～後期・古代・中世・近世	土師器・鳥形土製品・須恵器・墨書き土器・白瓦・石造物・铁洋
77	栗原山遺跡	永見市栗原	集落	古代・中世・近世	須恵器・土師器・製塗土器・珠飾・越中繩目
78	上久我呂中屋遺跡	永見市上久我呂	集落	鐵文・弥生後期・古墳・古	鐵文土器・石器・獸面瓦・舟角瓦・木製品・弥生土器・土師器・須恵器・角件・中世土器・石器
79	上久我呂古墳	永見市上久我呂子浦田	散布地	古代	須恵器・土器
80	高岡山古墳	永見市高岡八日田	散布地	鐵文後期・古代	鐵文土器・須恵器
81	柳田山尾山道路・柳田河	永見市柳田・園・大瀬	散布地	鐵文・近世	鐵文土器・石器・弥生土器・須恵器・珠飾・近世陶器
82	柳田山尾山古墳	永見市柳田字尾山	古墳	古墳	男生土器・土師器
83	四十瀬古墳	永見市柳田字四十瀬	集落	鐵文二期・晚期・古墳・古	鐵文土器・石器・石器・腰骨舟・須恵器・土師器
84	田子遺跡	永見市田子子坂場	散布地	古墳中～晚期・古代	鐵文土器・石器・土師器・須恵器
85	塙田山シマダ古墳	永見市塙田字塙塚	古墳	古墳後期	—
86	神代遺跡遺跡	永見市神代字田浦	散布地	鐵文・弥生	石器・弥生土器・土師器・須恵器・珠飾・近世陶器
87	惣領宿前遺跡	永見市惣領	集落	弥生・古墳・古	須恵器・土師器・製塗土器・珠飾・中世後期
88	惣領野際道路	永見市惣領	集落	鐵文晚期・弥生中～後期	鐵文土器・弥生土器・土師器・須恵器・珠飾・淡色・曲物・青釉人形像
89	惣領古墳群	永見市惣領字紅地平	古墳	古墳後期	刀劍・刀・鉢・腰袋・筒玉・ガラス小玉・須恵器(高作・模倣)
90	正保古墳	永見市飯久保・神代	散布地・寺院	鐵文・弥生・古代・中世・近世	鐵文土器・石器・弥生土器・須恵器・土師器・珠飾・石造物・木製品
91	飯久保城跡	永見市飯久保字河山・神代字正保寺	城跡	中世	土師器・越前・染付
92	矢ノ方言日進路	永見市矢ノ方言	散布地	弥生・未・古墳	弥生土器・土師器
93	神代古跡	永見市神代ノ由	城跡	中世	土師器
94	因守古墳群	高岡市伏木國分寺字崎暮	古墳	古墳	—
95	越中田間准溝遺跡	高岡市伏木国府	地方官衙	古墳(飛鳥・白鳳)・古代(金・平安・中世・鎌倉・室町)	—
96	高美道路	高岡市高美町	散布地	鐵文	—
97	寺守山遺跡	高岡市高美寺	古墳	—	—
98	城光寺表上野遺跡	高岡市高光寺字表上野	散布地	鐵文	鐵文土器・須恵器・土師器
99	守山遺跡	高岡市上	城跡(山城)	中世(鎌倉・室町)・近世	—
100	向野古跡	高岡市向野町字閑閑	散布地	弥生・古墳・古代(奈良)	—
101	江戸川遺跡	高岡市江戸川	散布地	鐵文後期・晚葉・古代・中世	鐵文土器・石器・土師器・須恵器・珠飾
102	下石瀬古墳	高岡市下石瀬	散布地	鐵文・古葉・中世	土師器・須恵器・珠飾・近世陶器
103	中川(瀬野)遺跡	高岡市中川字瀬野版(中川丁1丁目)	集落	鐵文後期・晚葉・古葉・古葉	鐵文土器
104	埴田山の木造跡	高岡市中川東町	集落	古葉・古葉・奈良(?)	—
105	百貫田遺跡	高岡市中川東町	散布地	鐵文後期・晚葉	—
106	波洞北遺跡	高岡市波洞・長慶寺	散布地	弥生・古墳・古葉・中世	弥生土器・土師器・須恵器・珠飾
107	空洞跡	高岡市中川五丁里	散布地	鐵文	鐵文土器
108	五十井田遺跡	高岡市五十里	散布地	古葉・古代	—
109	須造町中龍跡	高岡市川子宮中	散布地	鐵文中期	—
110	瀬々谷内 I 遺跡	高岡市瀬瀬	散布地	鐵文・古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)	鐵文土器・須恵器・土師器・珠飾
111	岩坪須田島遺跡	高岡市吉原	散布地	鐵文・古代・中世・近世	土師器・須恵器・中世土師器・珠飾・中世後期器・木製品・石製品・金屬製品・土製品
112	間尽古跡	高岡市吉原(手野野)	集落	弥生・古墳・古葉・飛鳥・奈良(?)・古代(奈良・平安)・中世	土師器・須恵器・珠飾・飛鳥・白鳳・瓦
113	手洗赤浦遺跡	高岡市吉原	散布地	中世・近世	須恵器・土師器・珠飾・中世陶器・土製品・調理器
114	明田古跡	高岡市吉原・明田	散布地	弥生後期	弥生土器
115	月野分野飛石遺跡	高岡市月野谷	散布地	鐵文	—
116	宮田遺跡	高岡市月野谷	散布地	弥生・古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)	須恵器・土師器・珠飾・周磁器
117	山田川シマダ遺跡	高岡市吉原字ウシロダ	散布地	鐵文	—
118	大字・B遺跡	高岡市吉原字大字	散布地	鐵文	—
119	坪池古墳遺跡	永見市坪池	散布地	鐵文早・中期	鐵文土器・石斧・石器
120	勝木原の前遺跡	高岡市木原字宮の前	散布地	鐵文中期・後期	—

# 第三章 繩文時代の遺構・遺物

## 1 概要

繩文時代の遺構には、1号谷と貝塚がある。

1号谷は、B地区南西の丘陵上からC地区の低地に向かって扇状に広がり、深部は南東へ抜ける。規模は東西8~70m、南北150mを測る。谷肩部の標高は、B地区的丘陵上で11m、C地区的低地で2mである。谷は繩文時代早期後半頃には開口しており、これ以降後期前葉までの長期間に亘り、繩文土器、石製品、木製品、骨角器等の製品・未成品のほか、食物残渣（骨貝類）を含む多量の遺物が投棄された、いわゆる捨て場・送り場であったと考えられる。谷の土層は、色調や土質の違い、堆積の停滞などにより上・中・下の3層に大別できるが、2000号自然流路の西からの流れ込みや、谷斜面の崩落や地滑り等によって各層とも攪乱を受けており、層位毎に埋没時期を捉えるのは困難である。繩文土器は、早期後半～前期前葉（佐波・極楽寺式、柏畑～入海式、布目式）、中期中葉～後葉（上山田・天神山式、古府式、串田新式）の段階のものが特に多く出土している。

貝塚は、A4地区の弥生時代検出面の下層で確認し、主に2枚の貝層からなる。層序は、X層（自然貝層、中期末）、XI層（包含層、中期初頭～中期末）、XII層（第1貝層、前期末～中期初頭）、XIII層（包含層、前期前葉～前期末）、XIV層（第2貝層、早期末～前期前葉）、XV層（包含層、早期後葉～早期末），である。第1・第2貝層は厚さ約20cmと比較的薄い混貝土層で、標高0～2mで検出している。貝層面積は、第1貝層が340m<sup>2</sup>、第2貝層が217m<sup>2</sup>で、東側にまだ続くと考えられる。出土遺物は、繩文土器、石製品、骨角器、貝（カキ・サルボウ・オノガイ等）、人骨、獸骨、魚骨等がある。貝塚の特徴としては、現在の汀線から大きく内陸に入っていること（約5km）、県内最古であること、未成品を含む骨角器が多く出土しており骨角器製作が行われていたと考えられること、貝層以外に遺構を伴わないことが挙げられる。

## 2 1号谷

### （1）1号谷（S D 1, 第10～19図、図版2・16～18）

1号谷は、B地区南西の丘陵上からC地区北部の低地にかけて扇状に広がる。発掘調査において、a～hの8箇所で土層断面を観察しているが、傾斜のきつい谷上方や東西肩部の崩落および地滑りによる土砂の流入、西側からの2000号自然流路の流れ込みにより土層が攪拌されており、複雑な堆積をみせる。以下に北部、中央部、南部の3つのブロックに分けて堆積状況を記述する。

#### A 北部（b・c・d断面、第11・13～15図）

谷中部から丘陵上の奥部に向かってb、c、dの3箇所の断面を設けた。土層は上・中・下層に大別され、丘陵上方に向かうにつれて上層が厚く、また中・下層が薄くなっている。d断面では上層のみの堆積となる。土層はおもむね自然堆積とみることができる。またb・c断面では上層と中層の境が若干東に下降する平坦面となっており、堆積が一時中断した時期のあることがわかる。

上層の土色は10YR2～4/1～4の黒色、黒褐色、褐灰色、灰黄褐色、にぶい黄褐色、褐色の粘土や粘質土、粘土質ロームを基調とする。埋土全体に土器片等の遺物が多く混じるが、d断面上層下

半にあたる19~22層からは殆ど遺物は出土しなかった。おそらく、谷に急な傾斜があるため、遺物は堆積時に下方へ流出したのであろう。遺物は縄文時代のものもあるが、弥生時代~中世の遺物も包含していることから、新しい段階の堆積と考えられる。c断面の上層土壤10試料について珪藻分析を実施した結果、3・5層から耐乾性の高い陸生珪藻群が多く検出されたことより、当時、陸域の乾燥した環境であったことが推測できる。同試料については花粉分析も合わせて実施し、風化に強いマツ属やシダ類胞子が検出されており、珪藻分析の結果と整合する。

中層は黒色、オリーブ黒色、暗灰色、灰色の粘土を基調とする。埋土全体に縄文土器等の非常に多くの遺物を含んでおり、粘性の強い土質と相まって掘削は困難を極めた。中層の厚さはb断面において最大約1.7mを測るが、c断面では約50cmと薄くなり、d断面に至る前に消滅する。埋土の色調も、b断面よりもc断面の方が全体に酸化が進み、赤味があるものに変化していた。b断面の中層下半には黒色有機質土（24層）や貝層（25層）の堆積がみられる。25層は東西6.1mの範囲に広がる土層であるが、中に含まれる貝類は24層に接する付近に集中して観察できる。貝類は2枚貝を主体とするようであったが、残存状態が悪く原形を留めるものがなかったため、同定などの分析は行っていない。c断面の中層土壤4試料（30~33層）については珪藻・花粉分析を実施しているが、残存状態が悪く良好な結果が得られなかった。珪藻分析で検出された少量の海水性種と汽水性種、陸生珪藻については、これらの殆どが丘陵を構成する新第三系に由来するものであり、当時の環境を反映したものではない可能性が指摘されている。

下層は黒色粘土を基調とする。中層と同様に、埋土全体に縄文土器を中心とする非常に多くの遺物を包含する。土層内に砂や植物遺体が混じるため、中層よりも若干粘性が弱い印象であったが、深いV字形の谷地形の中での作業であり、依然として困難な掘削であった。遺物の残存状態は非常に良好で、縄文土器、木胎漆器、木製品、石製品、骨角器、獸骨、魚骨等、多くの貴重な資料が出土した。下層下半にみられる緑灰色粘土質ロームは地山と同じ土で、地滑りに由来するものと思われる。b断面の黒色粗砂層（28層）は貝層で、X130~131、Y60~61の範囲に堆積していた（第13図）。貝層土壤は土嚢袋に詰めて全て持ち帰り（全59袋）、重量の計測及び洗浄を行い（第V章第33表）、選出した2袋に含まれる貝試料7.16kgのうち1.5kgについて貝同定を行った。その結果、サルボウガイを主体に、ヤマトシジミ、ハマグリ、ウミニナ、アカニシ等が同定され、その大半が被熱していることが判った。付近の内湾で採取され、食後に廃棄されたものと考えられる。b断面の下層土壤6試料（26・28~31・33層）と地山土壤1試料については珪藻分析を、また下層土壤1試料（28層）については種実同定を実施している。b断面28層の珪藻分析において、淡水~汽水性種のうち塩分豊富な水域や有機汚濁の進んだ腐水域に生育する種、陸生珪藻のうち耐乾性の高い種や水域にも陸上にも生育する種等が検出された。したがって28層堆積時には、滯水と離水を繰り返すような環境にあり、滞水していた水は、廃棄された食物残渣等による汚染により富栄養状態にあったことが考えられる。b断面31層の珪藻分析結果も28層とほぼ同様であるが、地山が多く混じる土質であることから、丘陵を構成する新第三系に由来する第三紀絶滅種も多く検出されている。c断面の下層土壤4試料（34・36~38層）についても珪藻分析を実施したが、地山の含有の多い36~38層では新第三系由来の第三紀絶滅種が多く検出される傾向にあった。34層についても同様であるが、多少の湿気を好む陸生珪藻も検出されている。

また、北部~中央部北寄りの範囲から出土した遺物15点について、放射性炭素年代測定（AMS法）を実施している。このうち、b・c断面間から出土したカワハギ腰帯（ $7,160 \pm 40$ yrBP, IAAA-80514）、マグロ椎骨（ $7,160 \pm 40$ yrBP, IAAA-80515）、マガキ（ $7,190 \pm 40$ yrBP, IAAA-80550）、

サルボウガイ ( $7,150 \pm 40$ yrBP, IAAA-80551) は、一様に縄文時代早期に遡る測定結果が得られた。一方、b断面付近から出土したサメ骨 ( $6,540 \pm 30$ yrBP, IAAA-80511), シカ中手骨 ( $4,180 \pm 30$ yrBP, IAAA-80512), 漆塗膜試料2 ( $4,050 \pm 25$ yrBP, PLD-4688), 漆塗膜試料3 ( $4,085 \pm 25$ yrBP, PLD-4689), 丸木舟 ( $1,907, 4,400 \pm 40$ yrBP, IAAA-80505), 漆弓 ( $1,898, 4,340 \pm 30$ yrBP, NUTA-10452), 漆器浅鉢 ( $1,886, 4,280 \pm 40$ yrBP, IAAA-80501), 漆器小型鉢 ( $1,896, 4,210 \pm 40$ yrBP, IAAA-80502), 木胎漆器 ( $1,887, 4,170 \pm 40$ yrBP, IAAA-80503), 足付土器 ( $1,552, 4,100 \pm 30$ yrBP, IAAA-70570), 耳栓 ( $1,703, 4,170 \pm 30$ yrBP, IAAA-70571) の測定結果は、縄文時代早期に遡るものと中期後葉(串田新式)の範囲に収まるものに分かれた。測定結果が近い年代を示す遺物は出土地点の分布がまとまりをみせており、縄文土器の時期別出土分布(第256図)と共に傾向を示すと考えられる。

#### B 中央部(a・e・f断面, 第11・12・16・17図)

包藏地確認調査において、B地区南西(1号谷中央部)に古代～中世の遺構検出面のあることが確認されていたため、包含層掘削開始にあたって、検出面を確認するためのトレンチを入れた(a断面)。トレンチは1号谷の低地範囲を横断するように、B地区南西端から北東の1号谷落ち際にかけて設け、人力で掘削した。

a断面における1～3層を主体とする層は、砂混じりの黒褐色・オリーブ黒色・灰色粘土を基調とし、北部(b・c・d断面)の上層に対応する。1～3層は多くの遺物を包含するが、縄文土器に加えて弥生時代以降の新しい時代の土器も混じる点は北部上層に共通する。a断面の7・8層を主体とする層は砂混じりのオリーブ黒色粘土で、北部の中層に対応し、これと同様に縄文時代の遺物を多量に含む。この上層と中層の境が古代～中世の遺構検出面と考えられる。遺構検出面の標高は西半部で5.0m前後であるが、東半部では5.0～5.4mを測り、谷地形に沿って僅かな傾斜がみられる。古代～中世の遺構の多くは西半部に集中しており、1号谷の東肩付近の遺構密度は疎らであったため、東半部を中心に一部深く掘り下げて下層確認を行った。この結果、7層以下に、2m以上もの深い堆積のあることが判明したため、古代～中世の遺構掘削終了後、a断面と重複する方向(f断面)と南北方向(e断面)の2方向にトレンチを設定し、重機で深掘りして下層確認を行った。

e・f断面の1～49層については、堆積状況から、1～22層、23・24層、25～49層の大きく3段階に分けることができる。1～22層は有機質土を基調とし、粘土、粘質土、砂質土、砂等が薄く挟まり互層をなす。有機質土に含まれる植物遺体は、腐蝕せずに良好な状態で保存されているものもみられた。堆積範囲は1号谷の中央部から南部に広がっており、西から東に向かって自然流路が流れ込んだことによる堆積と考えられたため、これにSD2000の番号を付した。

23・24層は褐灰色の固く締まった粘土で、ビートを含む。全体に縄文時代の遺物を含有しているが、特に24層からは骨が多く出土した。基本的に1号谷の堆積と捉えているが、堆積範囲は1～22層と重複しており、2000号自然流路の影響も強く受けたものであると考えられる。

25～49層は、北部(b・c断面)の下層に対応する。36層はビートと砂混じりの灰褐色粘質土、37層はビート混じりの黒色砂質土で、いずれも底面近くに薄く広がっており、早期後半～前期後葉の縄文土器を多量に包含していた。43層は黒褐色有機質土で、骨貝類を多く包含する。f断面をみると、43層は24層の下部に溜まった自然木等の堆積とも考えられ、24層と一体のものと捉えることもできる。24・43層から出土したタヌキ下顎骨の放射性炭素年代測定結果( $6,780 \pm 40$ yrBP, IAAA-80510)は、縄文時代早期後葉に遡るものである。46層は40層に似たビートが多く混じる褐灰色粘質

土で、少量の貝類を含んでいた。これらの土層のうち、43層の土壤について珪藻・花粉分析を行うと共に、包含されていた骨貝類の同定を行った。43層土壤の試料採取地点は、Y65列範囲内(f断面の南西ポイントfから北東ポイントf'に向かって5.6~7.9mを測る範囲)である。Y65列範囲における43層の標高は2.61~3.40m(主体は2.9m付近)、層厚は20~60cmを測る。43層の珪藻分析では、海水性種と汽水性種が約50%ずつ検出され、内湾~干潟の環境が想定される結果が得られた。43層試料採取地点は内湾の河口にあたり、西から2000号自然流路が流れ込むことにより汽水域が形成されていたと推定される。また花粉分析では、低湿地に生育するエノキームクノキ属が極めて多く検出された。貝同定では、アサリを主体とし、オオノガイ、マガキ、サルボウガイ等を伴う組成が示された。骨同定ではサバ、カツオ、ボラ、イワシ、カワハギが検出された。これらは1号谷に廃棄された食物残渣の一部であったと推測できる。一方、貝同定で検出されたカワザンショウガイはほぼ完存しており、当時生息していたものと思われる。カワザンショウガイは河川の河口域や芦原の広がる入り江など内湾のやや奥まった環境に生息するとされ、珪藻分析結果と整合する。中央部下層の堆積は、1号谷、2000号自然流路に加えて潮の干満の影響も受けていることが想定され、これらが複合的に影響を及ぼし合いながら形成されたものと思われる。

(朝田亜紀子)

#### C 南部(g・h断面、第11・18図)

ここでは、C地区で検出した1号谷の概要を記述する。B地区とC地区は幅約4mの農道を境界とし、地区間は掘削境から測ると約12mの間隔があった。このために、B地区からC地区への堆積状況の連続性が判断しにくい状況にあった。また、C地区北側全域は現況は水田であったが、その地形から南北の丘陵に挟まれた埋没谷であったと推測される。この谷は少なくとも弥生時代には埋没を経、それ以降の地盤は比較的安定し、古代・中世の遺構が形成されるようになったと推定している。その当時においても、地形は西から東に向かって緩やかに傾斜し、高低差は約1.5mである。

C地区北側で古代~中世遺構検出面(Ⅲ層)の下層の堆積状況を確認したのは、南北方向のY65ラインとY80ラインとこの1号谷のg・h断面である。南北方向のY65ラインとY80ラインにおいては、Ⅱ層(古代・中世の遺物包含層)下に、厚さ約1m以上の青灰色粘質土を確認している。この粘質土にはわずかな炭化粒と繩文土器片が混入するが、厚み及びその下層の状況については確認していない。埋没谷の堆積土の最上層である。

g・h断面においては、2層がこの青灰色粘質土に相当する。ここでは、搅乱で層位は乱されてはいるが、谷の肩部を確認し、青灰色粘質土の下にオリーブ黒色粘質土、黒色砂質シルト、貝層、黒色粘質シルト、灰色粘質土の順に、それが南に向かって傾斜しながら堆積している状況が判明した。しかしながら、この断面の南側延長及び下層については崩落の危険性があり、確認作業は行っていない。遺物は、繩文時代早期終末から前期前葉の繩文土器、動物遺体が貝層とその周辺の黒色砂質シルト層から多く出土しており、堅櫛(1902)やヒトの下顎骨<sup>11</sup>などもこの一帯から出土している。また、その上面の3層や18層の粘質土からも繩文土器や動物遺体が散発的に出土し、18層からは遺存状態が良好なイスの骨が1体分出土している。この他にも、ミズナギドリ科、キツネ、イノシシ、ニホンジカ、マイルカ属、カマイルカ、ハンドウイルカ、オキゴンドウなどの骨が出土している。貝層は断面では6層を挟んで大きく2時期あるように観察できるが、平面的に東に向かって大きく広がっているような状況ではなく、小規模なものであったと考える。13層が貝類の混入率が40%と1番高く、次いで7層の10%である。14層~17層は5%以下と少ない。貝の種類は遺存状況が悪く、同定はしていないが、カキ類が主体であったと推定する。

(鳥田美佐子)

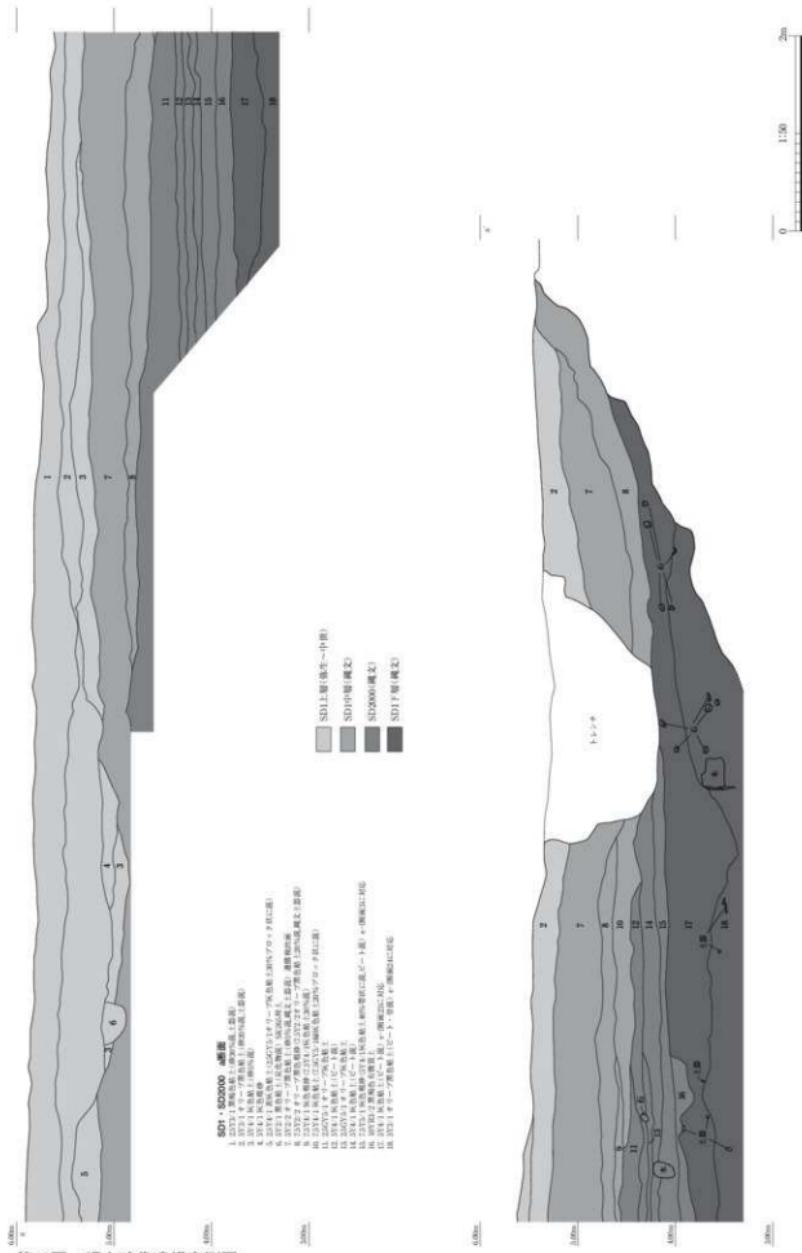
註1 第V章第5節「縄文時代人骨の分析」試料1822番、第V章第6節「骨DNA分析」、第7節「炭素・窒素安定同位体比分析」試料番号20である。



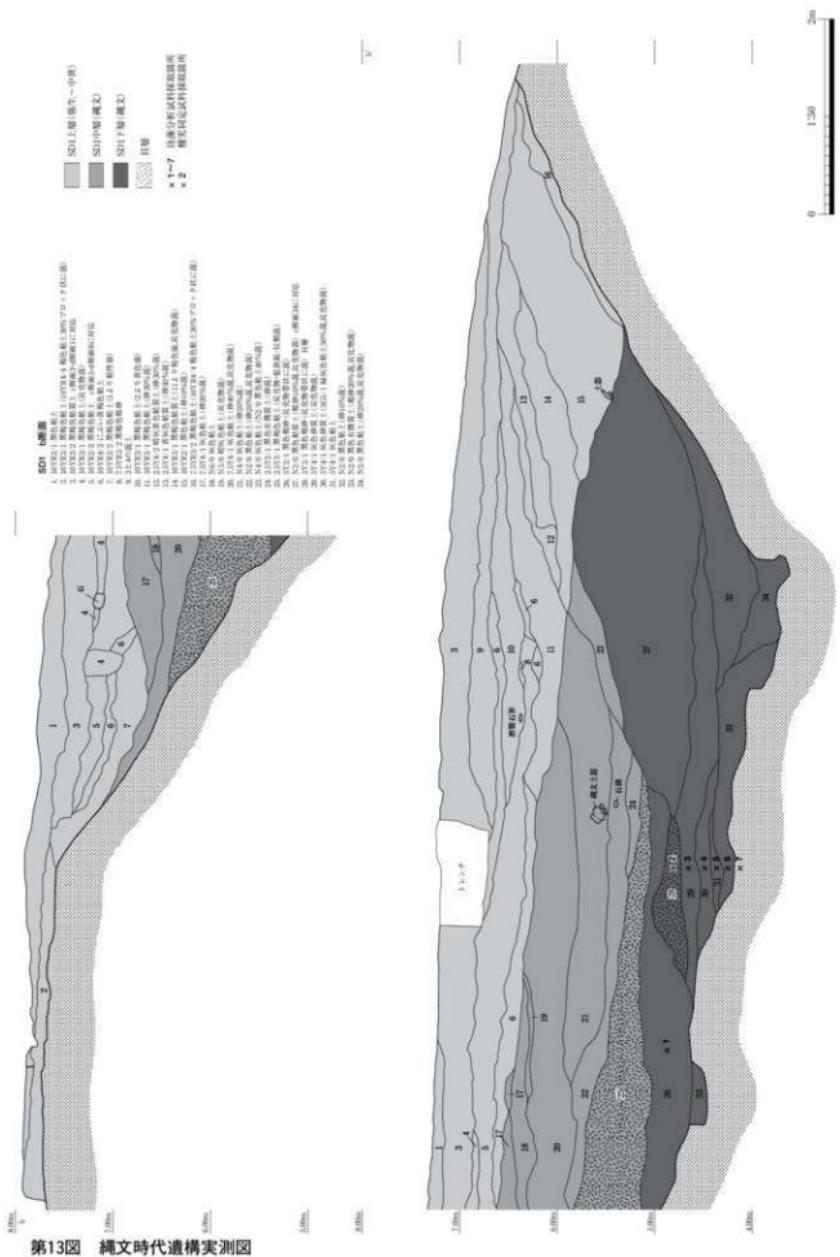
第10図 純文時代遺構全体図  
SD1 貝塚

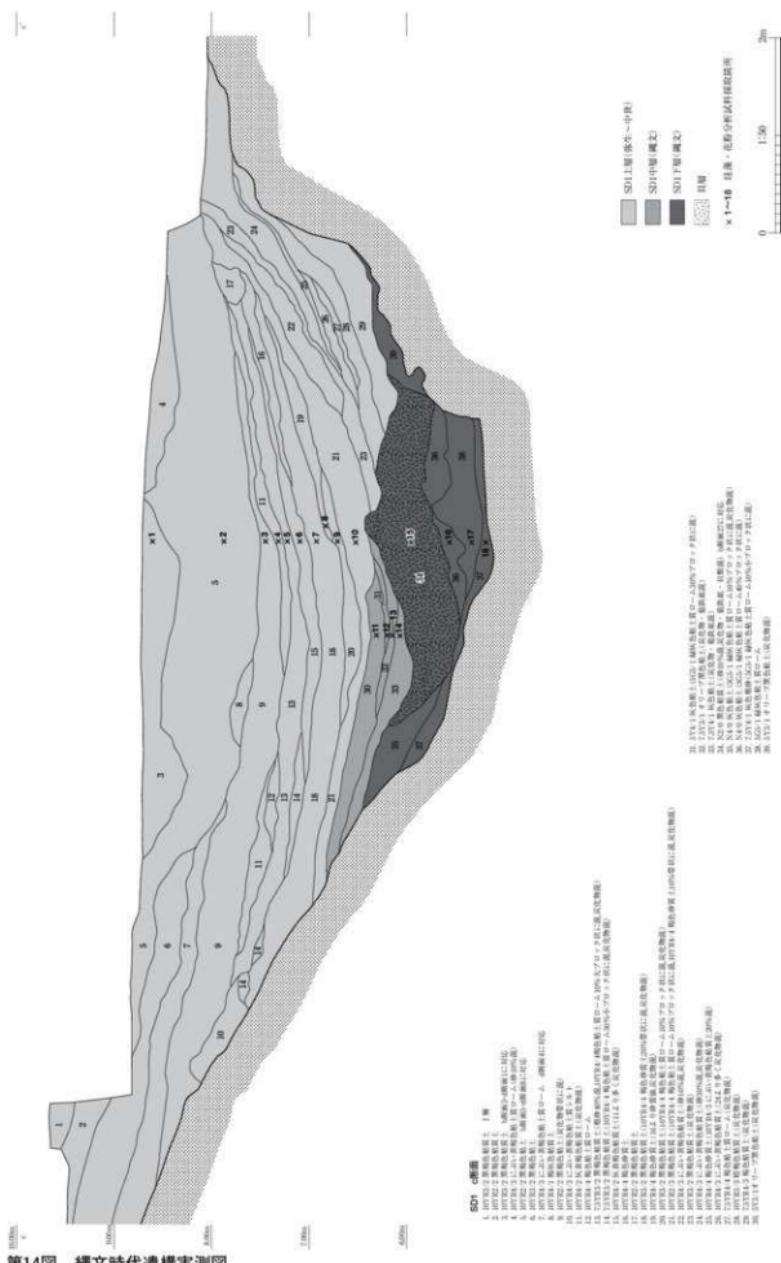


第11図 桜文時代遺構実測図  
SD1

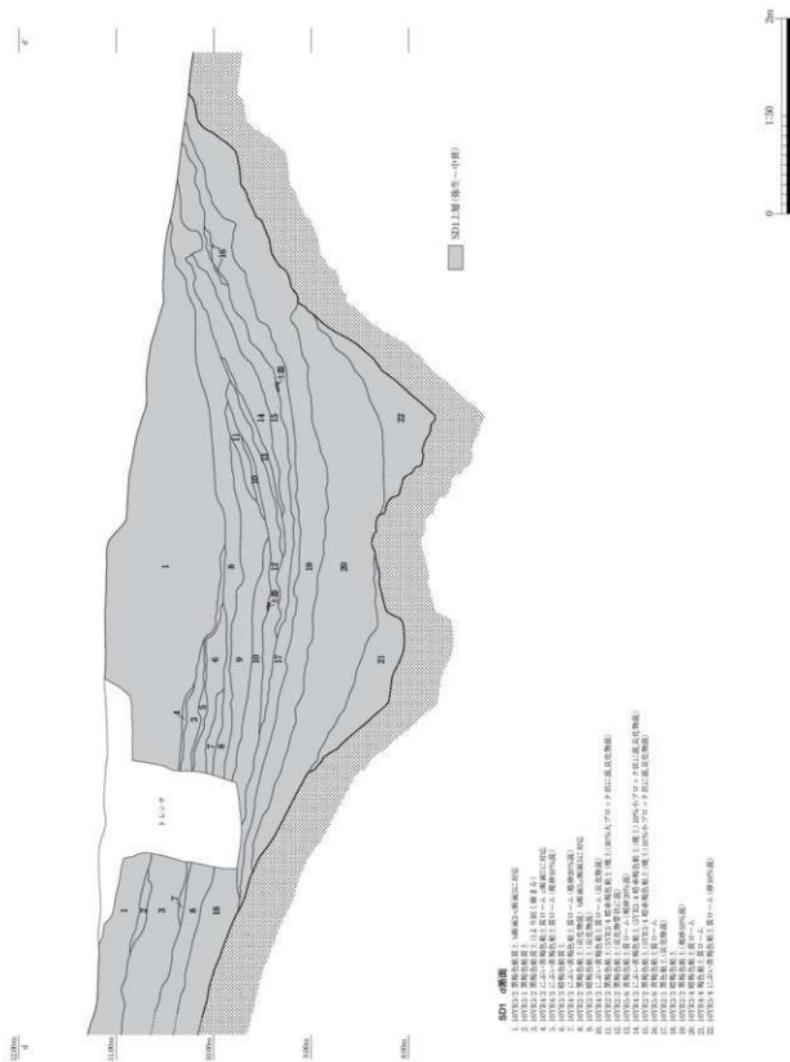


第12図 繩文時代遺構実測図  
SD1

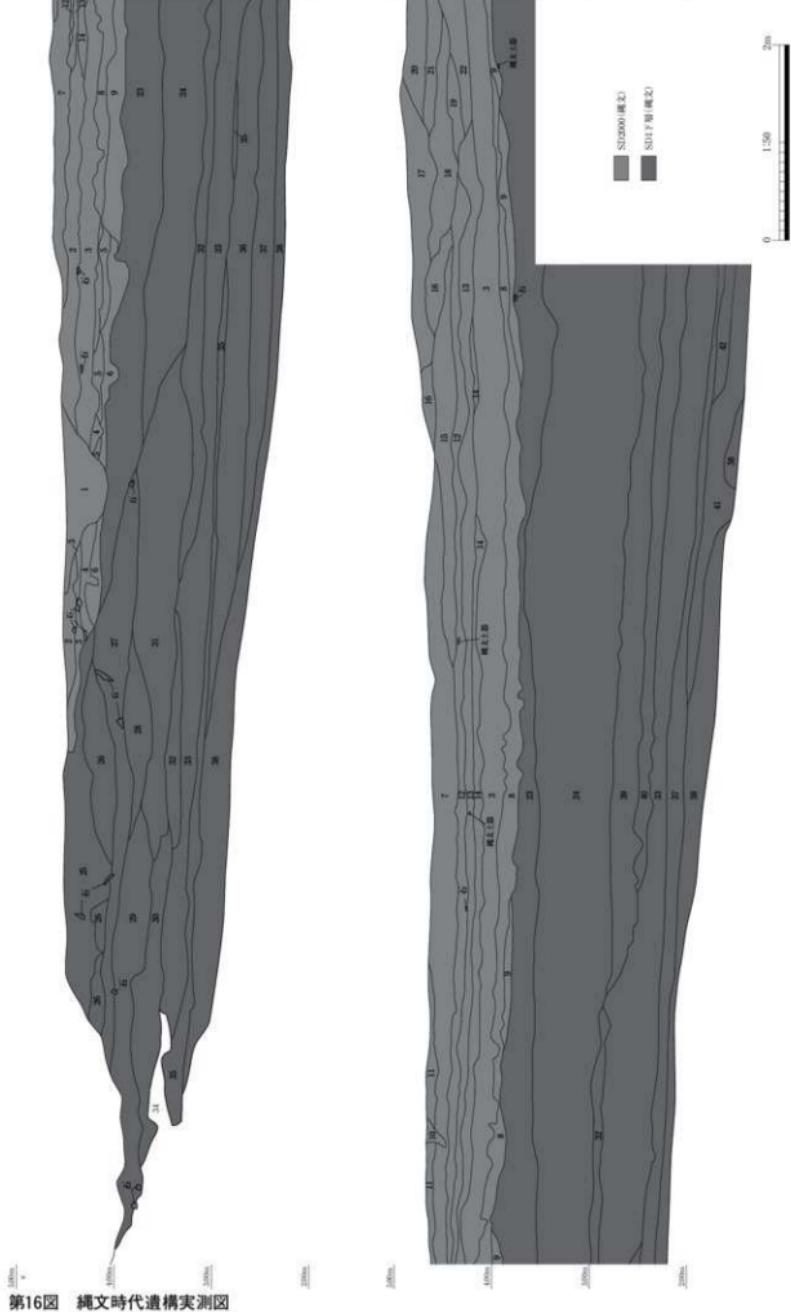
第13図 桜文時代遺構実測図  
SD1



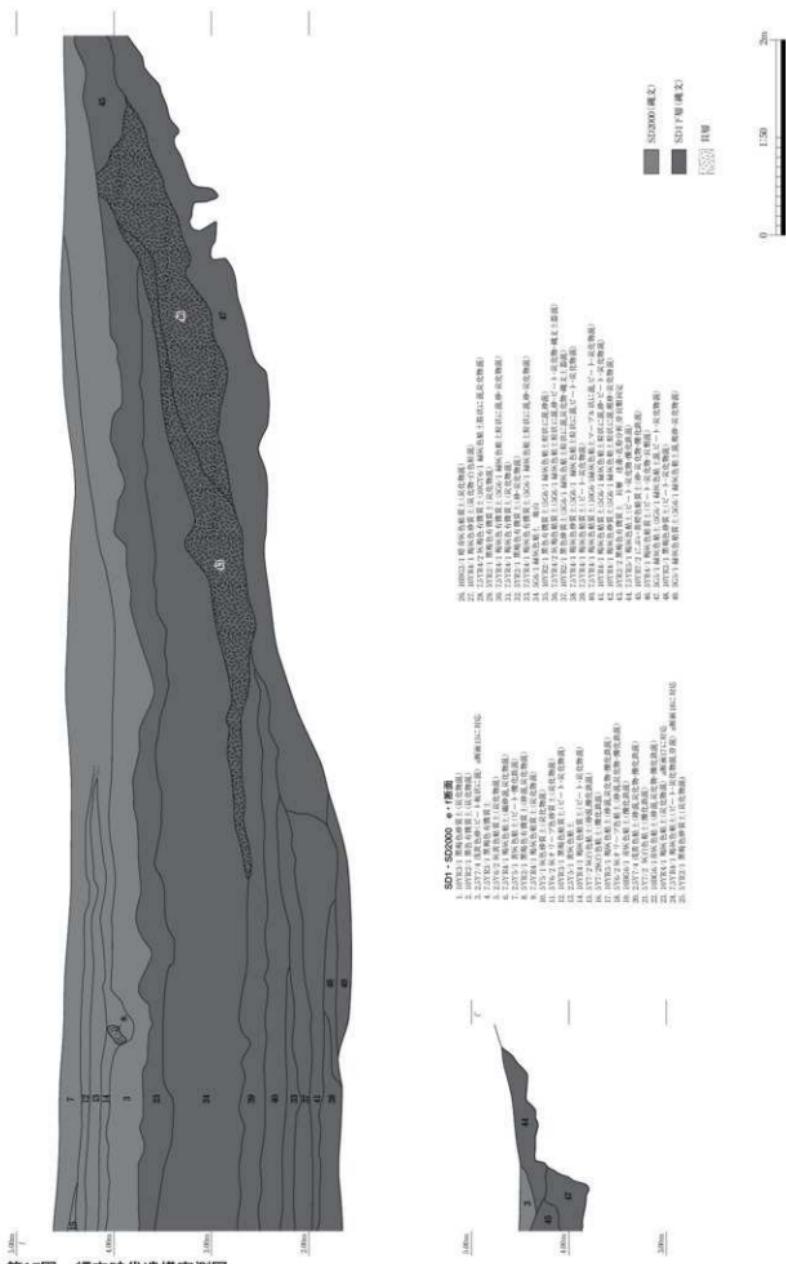
第14図 繩文時代遺構実測図  
SD1

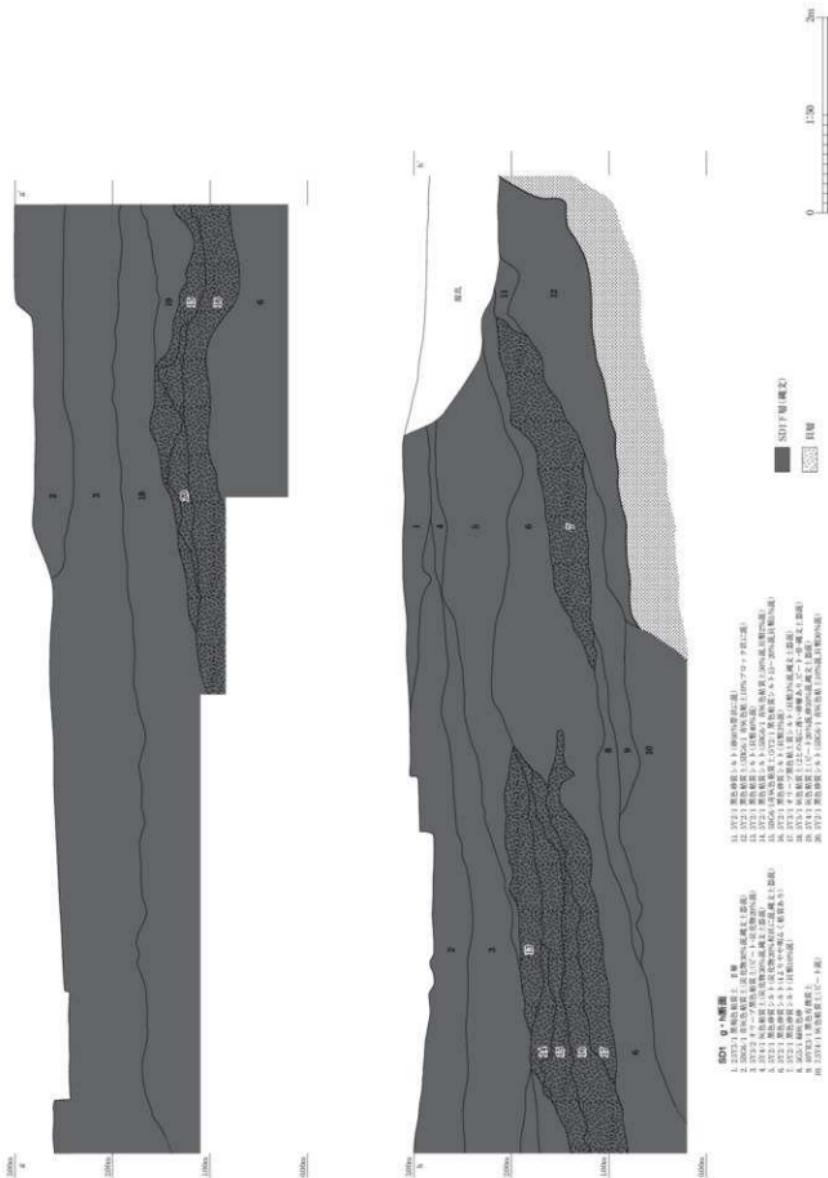


第15図 桶文時代遺構実測図  
SD1



第16図 純文時代遺構実測図  
SD1

第17図 縄文時代遺構実測図  
SD1



第18図 繩文時代遺構実測図  
SD1



第19図 繩文時代遺構実測図

1. 骨・遺物出土状況 2. 木製品出土状況 3. 石製品出土状況

## (2) 縄文土器

1号谷からは、早期後半～後期前葉の、長期に亘る時期の縄文土器が出土している。出土量は極めて膨大で残存の良好な個体も多いが、前述したように、層位的な先後関係や出土状況による共伴関係が捉えにくい状況にある。したがって、出土した全ての縄文土器を、早期後半～前期前半、前期後葉、中期、後期前葉の4時期に大別した上で土器型式に基づいて分類し、詳述を行うこととする。

縄文土器は、型式ごとに、器形、文様①(地文)、文様②により小分類し、各土器型式の内容把握に努めたが、出土量が少ないためにこうした分類を行わなかった土器型式もある。また佐波・極楽寺式については、現段階で稀少な資料であることを鑑みて、多様な資料を掲載することを第一としたため、折衷的なものや破片資料について積極的な小分類は行わず、各分類に応じた典型的な土器を抽出するに留めた。

### A 早期後半～前期前半

#### a 佐波・極楽寺式 (I ~ 598, 第20~70図, 図版27~35・55~77)

石川県能登島町佐波遺跡と富山県上市町極楽寺遺跡から出土した土器群を標識とする在地の土器型式である。石川県小松市六橋遺跡及び石川県七尾市三引遺跡等の発掘調査の成果から、土器型式の詳細が明らかになりつつある。

器種は深鉢が主体で、口縁部から胴部にかけて直立、外傾、外反する3種類の器形を基本とする。胴下部は砲弾状に窄まり、底部は、尖底、丸底、平底となるが、高台状の貼付底部となるものも多い。口縁部は平縁と波状口縁があり、波状口縁は4単位の小波状が多い。体部に縄文、羽状縄文、貝殻条痕を施す地文のみの土器が比較的多いが、口縁部に棒状具、貝等による沈線や刺突、押し引きの連続文様を入れるものもある。文様は横位、縦位、縦位置を揃えた横位等に施すものの他、各文様が組み合わさり、緩杉状、菱形状、半弧状、波状等に展開する。土器の器壁は8mm~1cm位と厚みがあるものが多く、器表面は内面が摩滅したり、外面に炭化物が厚く付着しているものが多くみられる。胎土には植物性繊維のほかに海綿状骨針、白色粒、石英を含み、黒雲母・金雲母を含むものもある。

分類 器形 深鉢A 平口縁を基本とし、胴部から口縁部にかけて直立気味に立ち上がるもの。

胴部の張らない長胴を持ち、胴下部は砲弾状に窄まる。

深鉢B 平口縁を基本とし、胴部から口縁部にかけて外傾気味に立ち上がるもの。  
胴下部は直線的に窄まる。

深鉢C 口縁部が緩く外反し、胴部に軽い張りを持つもの。4単位の緩やかな波状  
口縁をもつものが多い。胴下部は砲弾状に窄まる。

鉢 浅いもの、小型のものを括る。

有孔鉢 底部に貫通する孔をもつもの。

文様① 1類 外面に2段(LR・RL)の縄文を施すもの。施文された縄文の条は、縦行、横行、斜行する。0段が2条のものと3条以上(多条)のものがある。

2類 外面に非結束羽状縄文を施すもの。0段が2条のものと3条以上(多条)のものがある。横位施文が主体である。

3類 外面に第1種結束羽状縄文を施すもの。横位の帯状施文が主体であるが、  
条が多方向、菱形状となるものもある。

4類 外面に貝殻条痕文を施すもの。施文方向は縦位、横位、斜位があり、波状  
や矢羽根状とするものもある。

- 5類 無文で、ナデ痕や擦痕を残すもの。外面全面を無文とするものは少なく、口縁部の無文帯に文様②を加えて幅広の文様帯とするものが主体である。
- 6類 その他を一括する。
- 文様② a類 口唇部に刻みを施すもの。指頭、ヘラ状、竹管状、貝殻腹縁等がある。
- b類 横沈線を1~数条巡らせるもの。
- c類 短沈線を連続して施すもの。横位、斜位、矢羽根状、斜格子状等がある。
- d類 刺突文を連続して施すもの。円形、半截竹管状、巻貝頂部、貝殻腹縁等があり、横位、縱位、斜位、矢羽根状、鋸齒状、菱形状、波状等の文様帯を構成する。
- e類 押引文を施すもの。用いる道具はd類と同様である。
- f類 隆帶、突起をもつもの。
- g類 その他を一括する。

1類（外面繩文）を第20~43図に示す。1類の原体はLRで0段が多条のものが過半数を占め、LRで0段が2条のものがこれに次ぐ様相であり、RLは少ない。内面調整は全面ナデのみで指頭痕を残すものが多く、このうち口縁部に繩文を施すものは2割程度みられる。内面に貝殻条痕を施すものは、僅かではあるが一定量みられる。またa類（口唇部刻み）は7割を超える個体に施しており、a類の無いものは繩文を口唇部まで施文する傾向にある。但し5類（口縁部無文帯）と組み合わさる土器については、口唇部をナデのままとするものが多くみられる。

深鉢A 1類の典型は、1・2・4・48・51・52・63・71・161である。底部は台状高台をもつもの（63・161）がある。外面に施す繩文は、条が縱行（斜位施文）するものが過半数を占め、条が横行（斜位施文）するものがこれに次ぐ。口縁部と胴部で施文方向を変えるもの（1・5・24・49・62・64）も一定量みられる。繩文の条が器面全体に斜行（縱・横位施文）するものは深鉢A類では少なく、深鉢B類の器形に比較的多いようである。深鉢A 1類が文様②と組み合わさるもの（106~175）は、a類（口唇部刻み）、b類（横沈線文）、c類（短沈線文）が中心で、d類（刺突文）は少ない。またこの場合、繩文地に文様②を施すのが常であり、口縁部無文帯をつくりだして文様を施す例は、185（A 1 5 c類）の1点のみである。

深鉢B 1類の典型は、78~80・149である。口縁部が外傾して立ち上がり、胴下部はそのまま窄まるため、深鉢A類ほど長胴ではない。底部（78・80）は深鉢A類と同様に台状高台であるが、平底に近い形状である。外面に施す繩文は、条が斜行（縱・横位施文）するものが主体である。深鉢B 1類が文様②と組み合わさる例は少ないが、149・150・155等を見る限りでは、a類（口唇部刻み）、c類（短沈線文）が中心となっており、深鉢A 1類とはほぼ同様の傾向が伺える。

深鉢C 1類の典型は、103・104・186~189である。4単位の緩やかな波状口縁で、波頂部に短く垂下する隆帶を持つもの（f類）が多い。底部の形状については、資料がなく不明である。外面に施す繩文は、条が斜行（縱・横位施文）するものが主体である。深鉢C 1類が文様②と組み合わさる場合、繩文地に施文するものは少なく、口縁部に無文帯を設けた上に施文するものが多くみられる（186~191・194）。文様②はd類（刺突文）、f類（隆帶）が中心である。但しこれらの多くは口縁部破片で、胴部には繩文が横位施文されているのが僅かに確認されるのみであるため、186~188等は2類（非結束羽状繩文）に分類される可能性もある。

2類（外面非結束羽状繩文）を第44~49図に示す。2類の原体は0段が2条のものが大半を占めて

おり、0段多条は少ない傾向にある。通常、1個体に対して、同じ条数を撚り合わせた原体を2本用いて施文するが、稀に0段2条と0段多条の原体を用いるもの(224・256)がある。施文1単位の幅は5~7cmで、手のひらの幅とはほぼ同じである。縄文施文は粘土が柔らかい段階の作業と考えられ、土器表面の粘土が押されて施文帯間に軽く段ができることが多い。原体は撚り方向の異なる2種類を交互に使用することにより羽状の効果を得るものが主体で、1種類の原体の施文方向を変えることにより羽状の効果を得るものは218の1点を確認したのみである。2種類の原体による施文において、以下4種の施文パターンが観察できる。①口縁部に横位施文するが、非常に短い間隔で原体を持ち替えるもの、②原体を1周毎に持ち替えて器全面を帶状に横位施文するもの、③器全面を帶状に横位施文するが、一定間隔で原体を持ち替えるもの、④器全面を施文するが方向や間隔を揃える意識が弱く、短い間隔で施文方向や原体を変えた結果、多方向となるもの、である。①には212~215・219~221があり、胴部との境を連続刺突文(d類、215)や横沈線(b類、221)で区切るなど、口縁部文様帯を強調するものがある。219は極めて短間隔で原体を持ち替えており、口縁部に縱位矢羽根状短沈線文(c類)をもつ132・133・135・136との間に、文様構成における共通性が考えられる。なお101は、口縁部に短間隔で斜縄文を施文しており、羽状縄文ではないが共通する施文技法が観察できる。②には222・223・229~231・239・253がある。1周毎に撚りの異なる原体を持ち替えるが、その規則性は緩やかで、原体を持ち替えず施文方向のみをわずかに変える帯があるもの(229)や、原体と施文方向を同じくする縄文帯が2帯続くもの(253)もみられる。222は口縁部の連続刺突文(d類)で、①に類似する文様をつくる。③については、上下で原体の持ち替え位置を合わせ、条を菱形状にするもの(249・250)がある。249は4波頂の頂部から垂下する隆帯と菱形中央の位置が合い、正面を意識したつくりとなっている。252は羽状縄文地に沈線文を加えて菱形文様を強調する。2類の内面調整は、全面にナデや指頭痕を残すものが大半を占めており、口縁部に縄文を施すものと貝殻条痕は僅かに見られる程度である。2類の各器形分類の典型としては、深鉢A2類は212・213・229、深鉢B2類は242、深鉢C2類は243・244・249が挙げられる。深鉢B2類とC2類の中間形態(220・223・230・239・240・255)が多くみられる。

3類(第1種結束羽状縄文)を第50~53図に示す。3類は、5類(口縁部無文帯)および文様②(a類を除く)とは組み合わさらず、基本的に地文のみの施文である。原体は0段2条の2段同士の結束が大半を占めるが、1段同士の結束(284・290・296・302・303・307・314)も一定量ある。0段多条の2段同士の結束(292・297・306)は少なく、0段2条の2段と0段多条の2段の結束(288)は1点のみ確認した。施文方向は横位が主体であり、以下4種の施文パターンが観察できる。①原体を同一方向に転がして器面全体を帶状に横位施文するもの、②器面全体を帶状に横位施文するが、一帯毎に原体の上下を変えるもの、③器面全体を帶状に横位施文するが、一定の短間隔で原体の上下を変えるもの、④横位施文であるが規則性がみられないもの、である。①には272・285・288・291~293・301がある。結束部を中心として両翼を均等に施文するもの(272・285・291)と、片翼状となるもの(288・292・293・301)がある。②には273・278~282・300がある。原体の上下を変えることにより上下に接する施文帯で条が同じ並びとなる部位が生じるが、これを各施文帯分の幅をとて長く残すもの(278・281・282・300)と、一施文帯分を片翼状にするもの(273・279・280)がある。③には275・305~307・311・313~315がある。原体の上下を変える位置を上下帯間で合わせることにより条を菱形状にするもので、2類(非結束羽状縄文)にもみられる文様構成であるが、施工作業自体は2類よりも効率的であることから、施文単位がより短く緻密な文様構成をとるもの(307・313)

もある。④には274・289・308・310・312がある。3類の内面調整は、ナデや指頭痕を残すものと貝殻条痕が多くみられる。口縁部内面に第1種結束羽状繩文を施すものは2割程度であるが、これを見殻条痕地に施すもの(273・277・279・283・309)もある。分類の典型としては、深鉢A3類は272、深鉢B3類は274・278・306、深鉢C3類は295・296が挙げられ、深鉢B・C類の器形が中心となっている。2・3類の底部の形状については、資料がなく不明である。

4類(貝殻条痕文)を第54~62図に示す。4類の施文方向は、斜位、横位、縦位、綴位波状、横位波状等があり、これらが組み合わさる。また文様②の施文と同じ効果を得るために、貝殻条痕文が代替として用いられる例もある。つまり、貝殻条痕を横沈線状に引き巡らせて口縁部と胴部の区画をするもの(b類の代替、366~368・381・405・408・415・416)、貝殻条痕を口縁部に連続して短沈線状に引き、矢羽根状の文様とするもの(c類の代替、365~368)がそれである。また貝殻条痕文を口縁部に山形あるいは鋸歯状に引くもの(323・324・346)は、1c類の132・133・135・136・149、2類の212~215・219~221等と文様構成が共通する。菱形状の条痕文(341)は、繩文の条が菱形となる2・3類と文様構成が共通する。横位波状の条痕文(363・364)は、天神山式の影響を受けたものか。4類の内面調整は、貝殻条痕とナデや指頭痕を残すものが約半数ずつである。347・373の口縁部内面には矢羽根状の貝殻条痕文がある。分類の典型としては、深鉢A4類は316、深鉢B4類は318・321、深鉢C4類は363・377が挙げられる。波状口縁を持つ長胴形(323・325)は深鉢A4類とC4類の中間形態とみられる。底部の形状は、台状高台(317)のほか、小さい平底(568~571)、尖底(593~598)がある。

5類を第43・63・64図他に示す。5類は、外面全面を無文とするもの(209~211)と、1~4類の口縁部に無文帯をつくり文様②を加えて口縁部文様帯とするものがある。なお、口縁部文様帯をもつ深鉢を観察すると、地文(文様①)を口縁部まで施した後に文様②を加えるものと、ナデ等で口縁部の器面を無文に調整した上に文様②を加えるものとがある。本遺跡では比較的前者が多く、後者は少ない様相である。後者は主に深鉢C類の口縁部にみられるが、地文を撫で消す調整をしたと思われるものは殆どなく、多くは地文を施文する前から口縁部文様帯をつくり出す意図があったと考えられる。口縁部に施す文様②は、d類(刺突文)、e類(押引文)、f類(隆帶、突起)が中心である。d類には、円形、半截竹管、巻貝頂部、貝殻腹縁等の刺突があり、使用する道具としては、円形・半截の竹管かこれに類するもの、二枚貝、巻貝、ヘラ状の道具等が考えられる。これらを連続刺突するが、垂直方向に刺突するものは少なく、多くは下方から角度を付けて、押すようにして刺す。これを繰り返すことで、横位、縦位、斜位、矢羽根状、鋸歯状、菱形状、波状等の文様帯を構成する。刺突の施文具は1個体に対して1種類を用いる場合が多いが、2種類以上の施文具を用いたもの(356・407・417)もわずかにある。e類の施文にはd類と同様の道具を用いたようであるが、d類に比べて資料が少なく、短沈線文に似た押引文(115)、貝殻条痕に似た貝殻腹縁押引文(360・403・404)のほか、半截竹管状押引文(461~464)が僅かにある程度である。f類は、波状口縁の波頂から垂下する短隆帶が最も多くみられるが、この他に、鋸歯状(175)、口縁内外に跨る(178~338)、口縁突起状(179・184・327)、口縁内面付着(180)、波状(182・183・255・337・397・400・421・423・444・456)、U字状(200)、横位(260・443・445・447・448・451)、環状(372)、渦巻状(452・453)の隆帶や、貼付突起(432・460)がある。g類には、口縁部の連続穿孔(412)、鋸い綴沈線(420)等がある。

6類を第65図他に示す。6類は、附加状繩文(465~468)、附加条付きの第1種結束羽状繩文(469)、1段と2段の第1種結束羽状繩文(470)、閉端環付繩文(471)、結節付繩文(472)、2段の反摺り(473)、

撲糸側面圧痕（476）がある。469は2段同土（L R・R L）の第1種結束羽状繩文であるが、R Lの側面にのみ附加条が見える。口縁部内面にも同じ原体を用いた施文がある。470はRとL Rの第1種結束羽状繩文で、横位に2帯、原体の上下を変えて施す。472の外面は、斜めの条痕で器面を調整した後、結節斜繩文を施す。473はRを2本合わせて反撲りにしたものである。476は口縁部無文帯に撲糸の側面圧痕、胴部に第1種結束羽状繩文を施すもので、花積下層式の影響が考えられる。6類の内面調整はナデや指頭痕を残すものが多い。

鉢は第66図他に示す。小型であるが炭化物が厚く付着するものが多く、大型の深鉢と同様の使用方法が考えられる。文様構成は深鉢と同じものがみられるが、資料が少なく詳細は不明である。

有孔鉢（484～507）は、深鉢の底部中央に貫通する孔があるものである。孔は焼成前穿孔であるため、穿孔方向がわかるものが多い。内面から外面へ向かって穿孔したもの（486・488・489・491・493・498・499）、外面から内面へ向かって穿孔したもの（485・487・494・495・500・501・503・507）、内外両面から穿孔したもの（492）がある。穿孔する深鉢の底部形態は丸底、尖底、平底に限られ、台状高台やイボ状突起を持つ尖厚底など穿孔部の器壁の厚いものがない。焼成前穿孔であることを考え合わせると、土器の製作段階において、穿孔を行う深鉢の底部形態が選択されていると考えられる。有孔鉢の完形品は出土していないが、孔をもつ特定の器種があった可能性が高い。

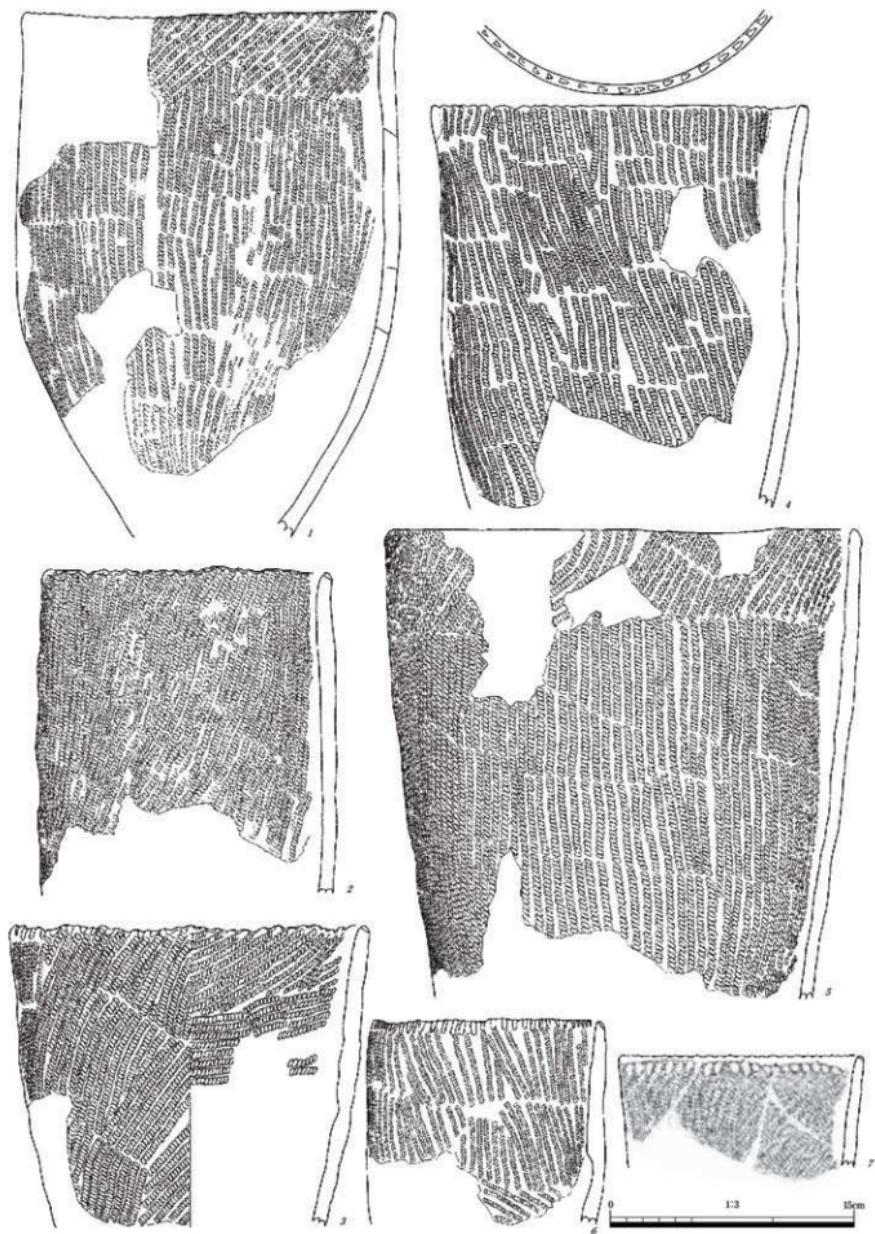
508～519は孔を埋め戻した有孔鉢である。有孔鉢と同様に、丸底、尖底、平底がある。いずれも焼成前穿孔であるが、穿孔と埋め戻しの粘土の境は明瞭に確認できるので、土器本体の乾燥がある程度進んだ段階か、土器を焼成した後に埋め戻しをしたと思われる。内面側からの埋め戻し（510・518）、外面側からの埋め戻し（508）がある。

520・521は穿孔途中の深鉢底部である。内面からの穿孔（520）と内外両面からの穿孔（521）がある。いずれも焼成前の穿孔作業であるが、未貫通の状態で止まる。

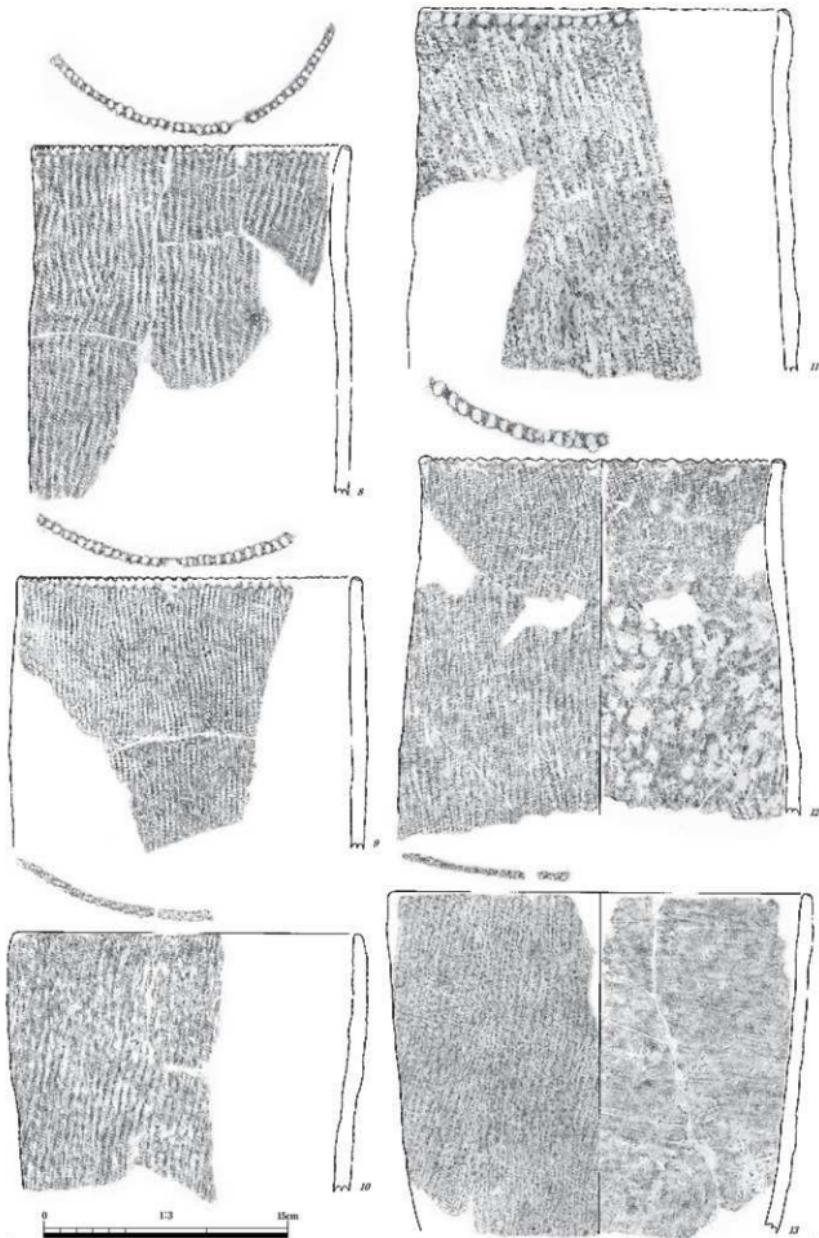
深鉢底部（522～598）の形状には、台状高台（522～566）、平底（567～578）、イボ状突起をもつ丸底（579～581）、丸底（585～587）、尖厚底（582）、尖底（583・584・588～598）がある。台状高台は最も多くみられる底部形態で、深鉢A 1類（63・161）・B 1類（78・80）・A 4類（317）に確認される。台状高台や平底をもつ深鉢の土器断面や割れ方を観察すると、底部から土器の成形作業を開始していることや、外底面の施文を胴部成形に先行させて行うといった土器の製作方法が推測される<sup>22</sup>。外底面の施文は、深鉢の台状高台と平底および有孔鉢の平底において多く行われており、繩文（494～500・522～545・572）、貝殻条痕（547～549）、沈線文（502～507・519・550～558・567・571・576・577）、刺突文（559・560）等の文様がある。これらは、それぞれが組み合わさって、平行、格子目状、放射状、井桁状、矢羽根状、渦巻状等の複雑な文様を構成する。

また、底端部の刻みや底部側面に施した調整の観察からも、土器の成形と施文の順序を推測することができる。528の底部側面をみると、繩文は刻みのある下の面とその上に薄く被さる上の面の両方に観察でき、下面の繩文は上面の繩文が施された粘土の下へ潜り込んでいるように見える。また535・539・562は、胴部の繩文施文により上から押し出された粘土が底端部の刻み部分に薄く被さっている。この他、底部側面の調整の上に胴部の繩文や貝殻条痕の調整が被さっているものが多く観察されることより、底部調整を胴部成形に先行させる製作方法が想定できる。つまり、底部から胴部にかけての土器製作は、成形と施文の各工程でまとめて行われるのではなく、部位ごとに細分し、成形、調整・施文、乾燥といった一連の工程を繰り返し行っていることが判る。

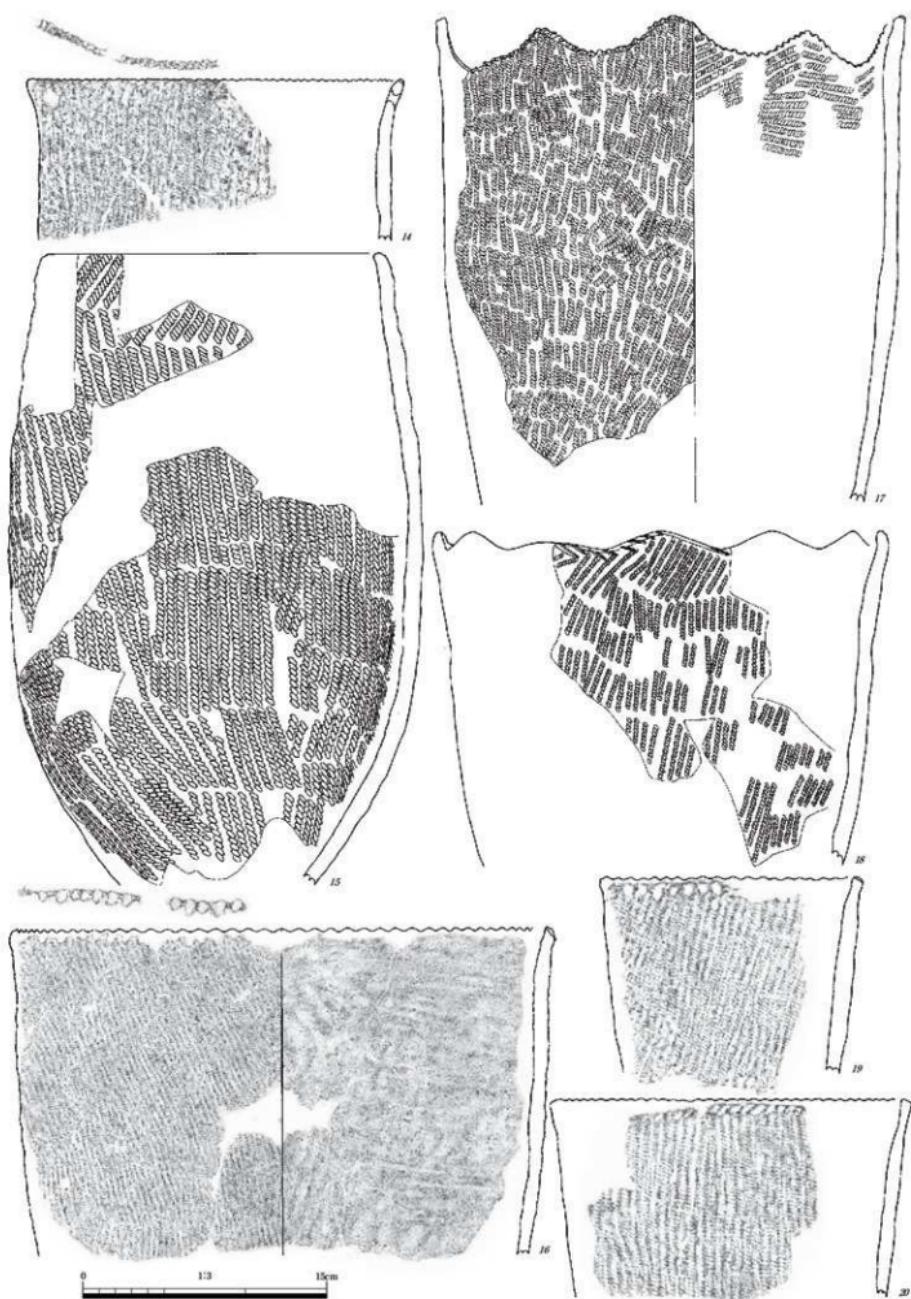
注2 前田新紀子「佐波・福永寺式土器の製作方法—土久津呂中屏風掛土器文部の概要から—」『紀要 畠山考古学研究』第15号 公益財團法人畠山考古文化振興財团



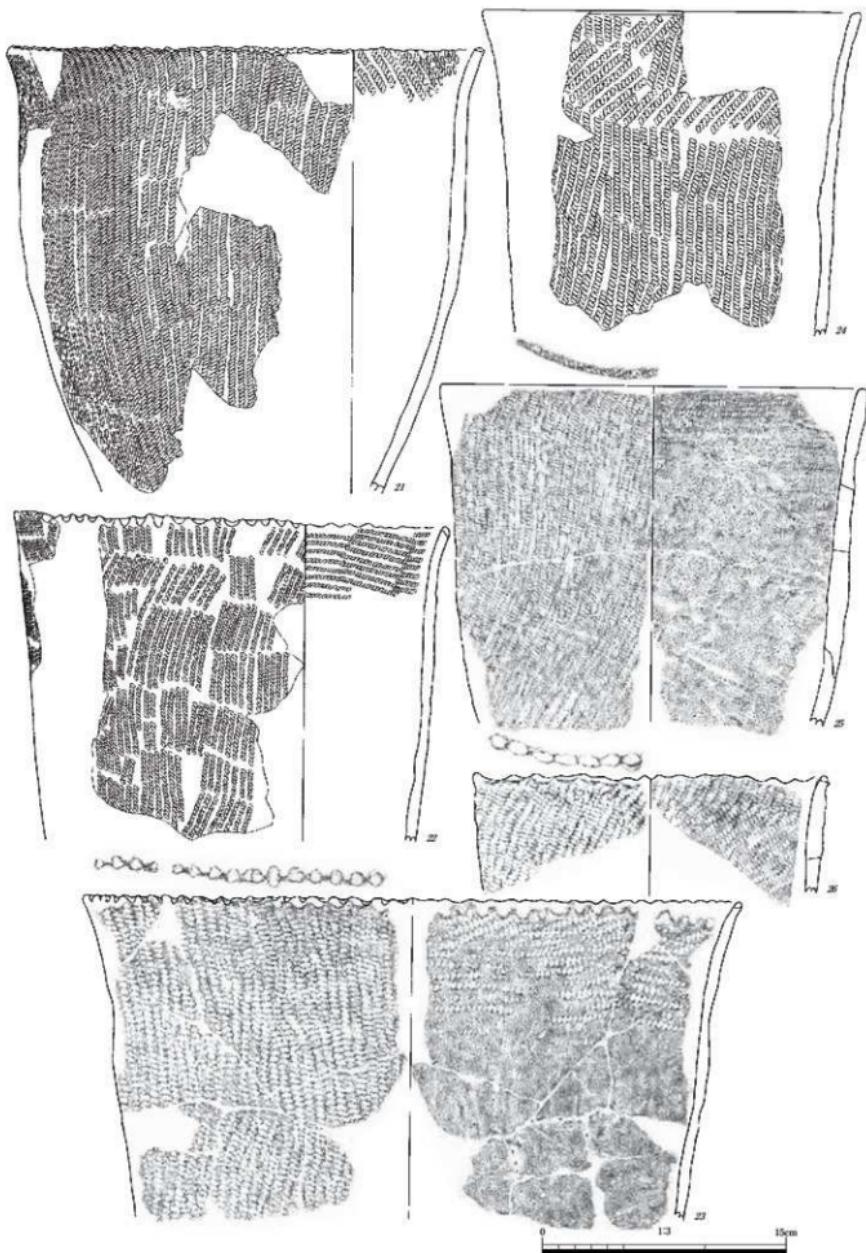
第20図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



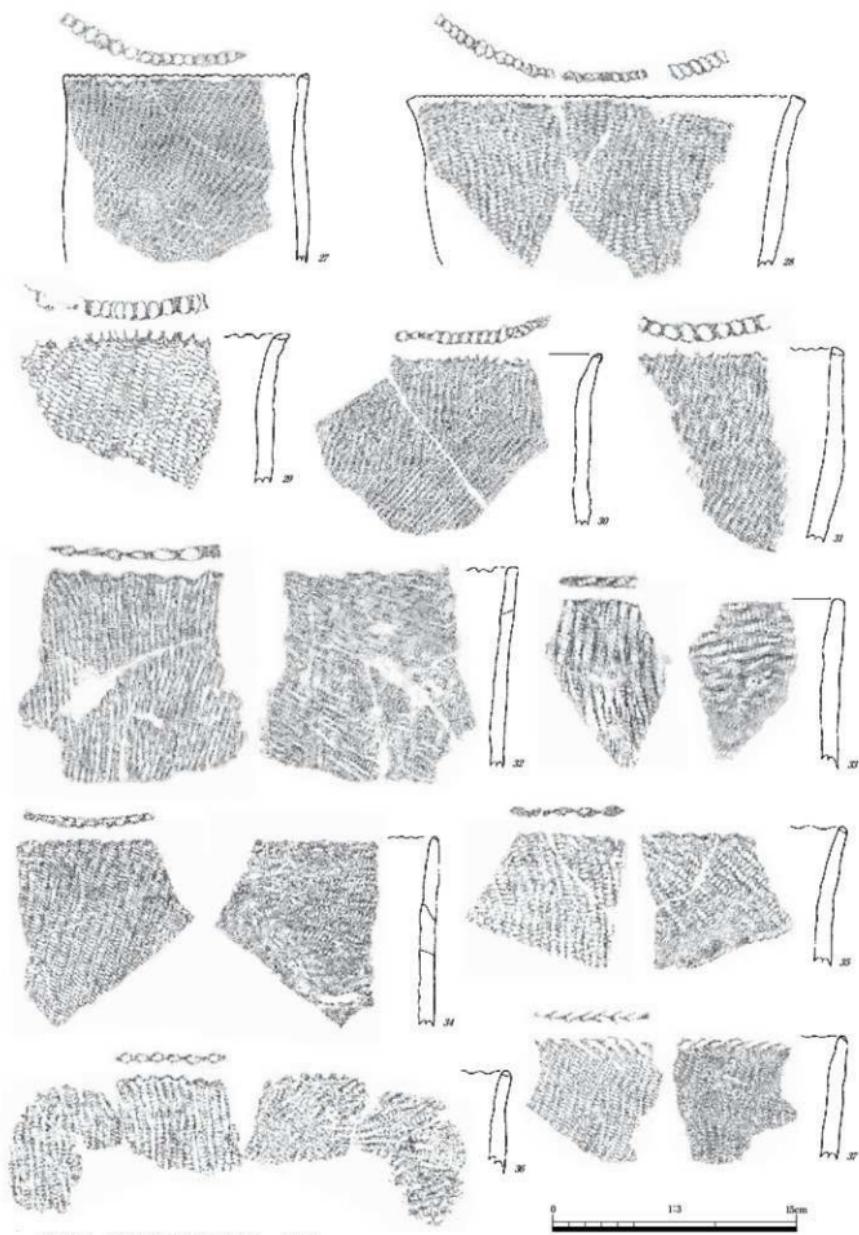
第21図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・極楽寺式



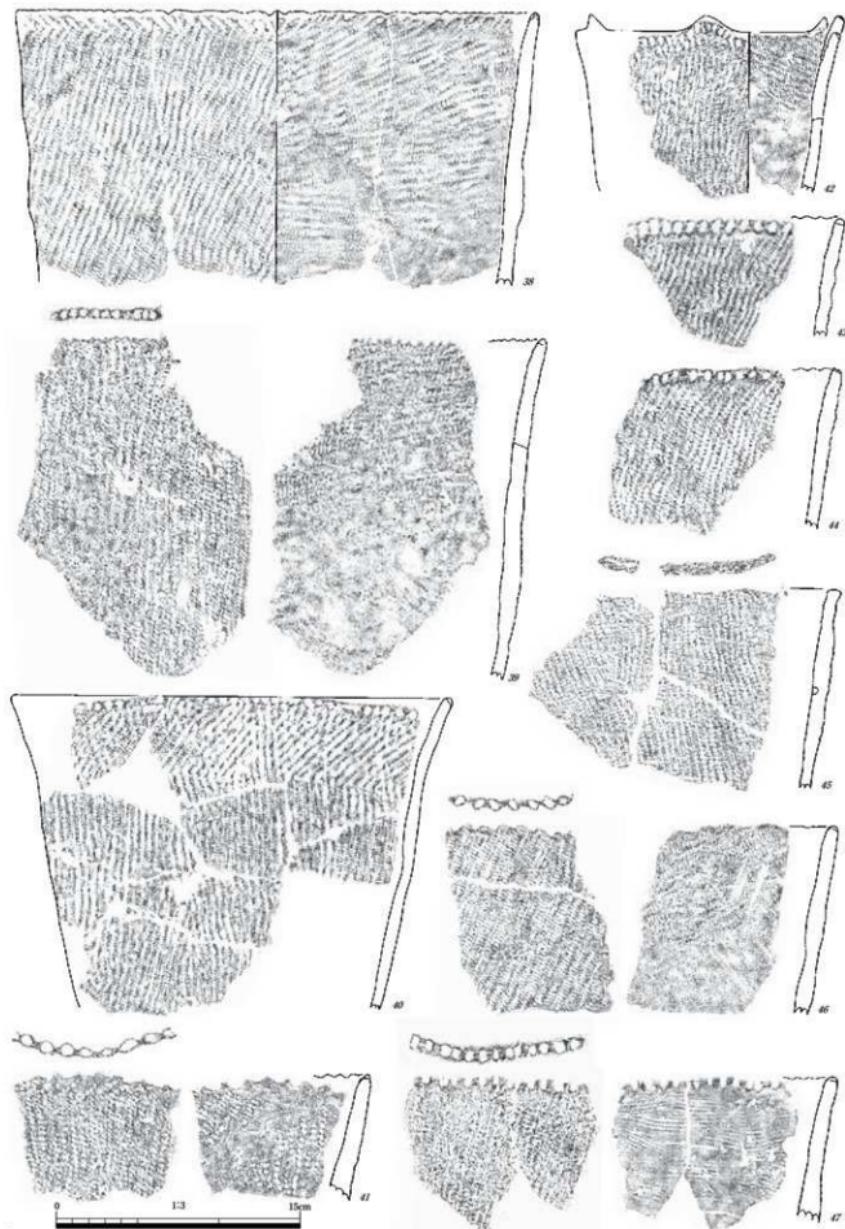
第22図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



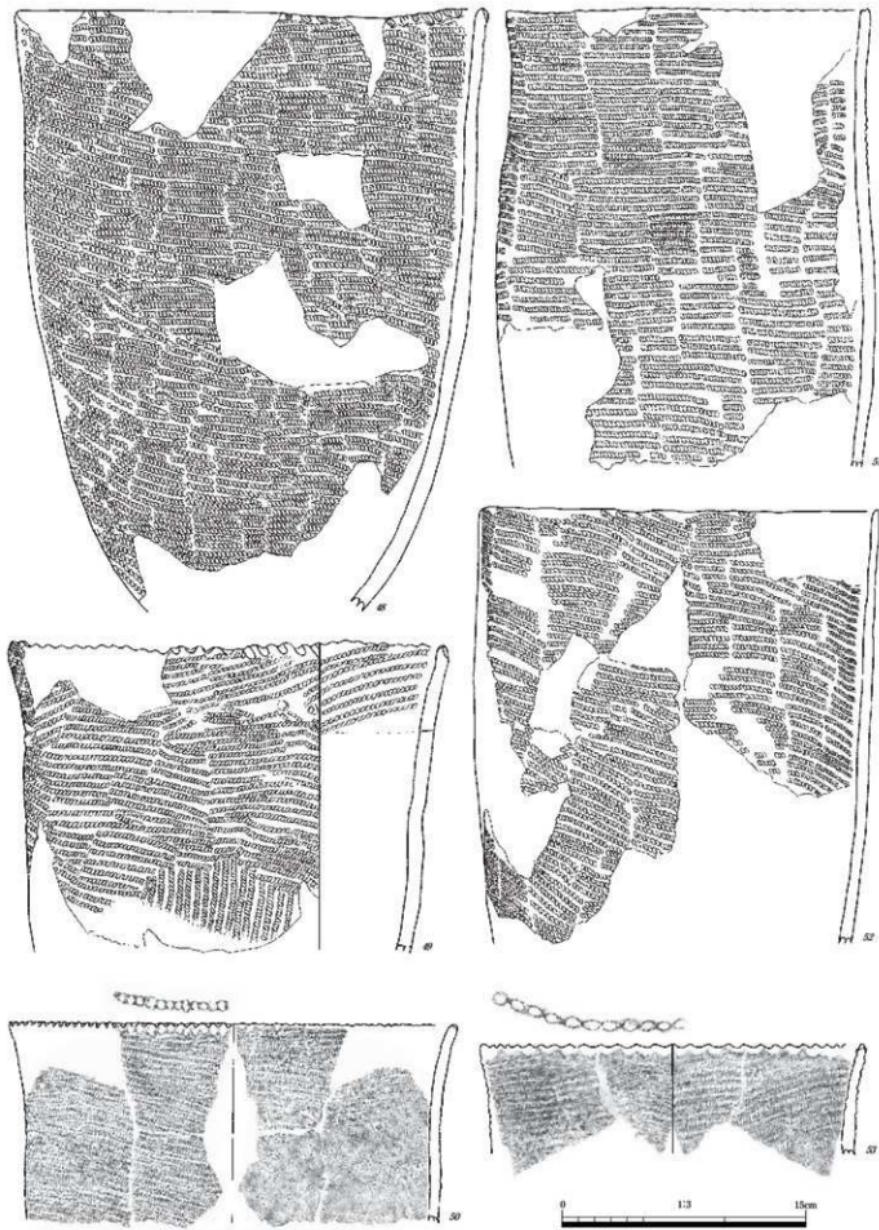
第23図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・極楽寺式



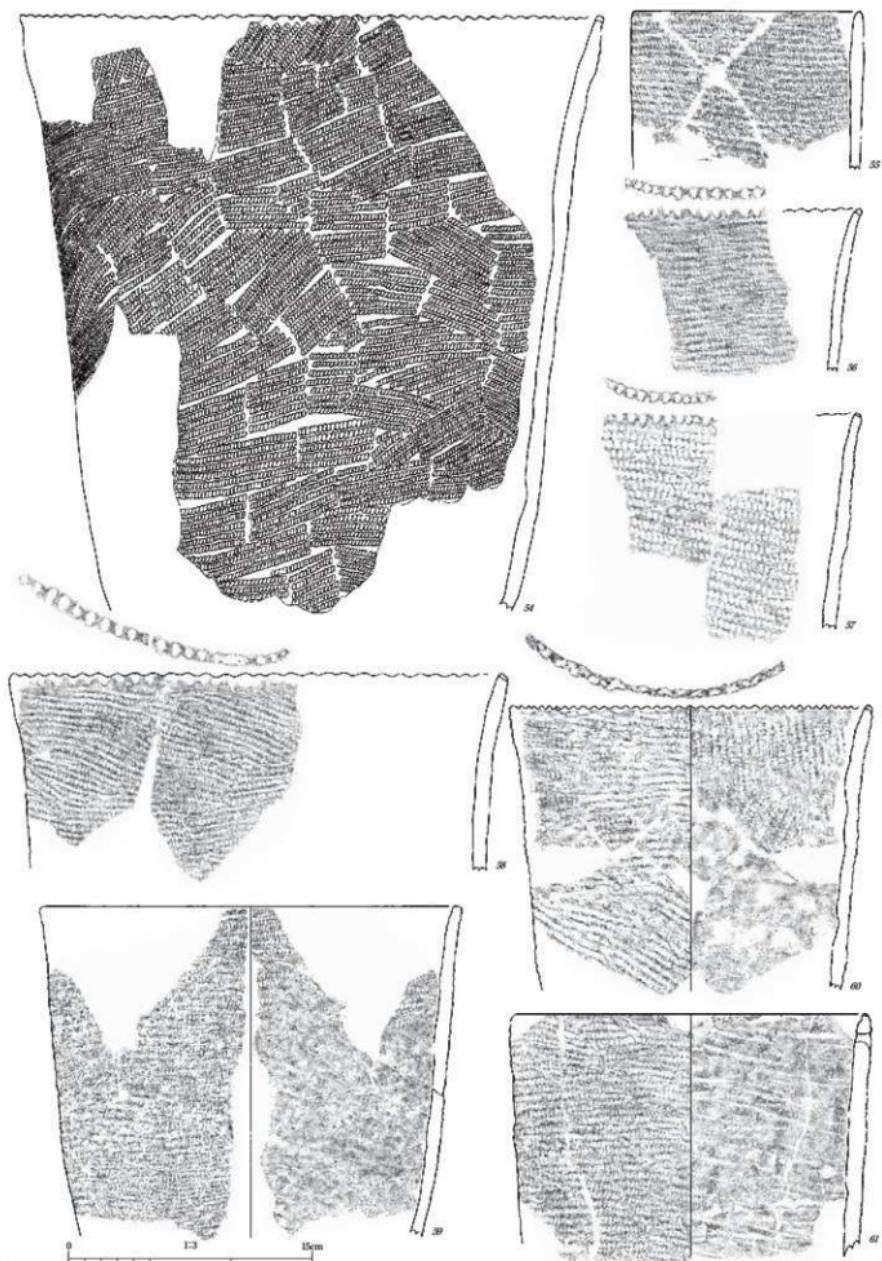
第24図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



第25図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・極楽寺式



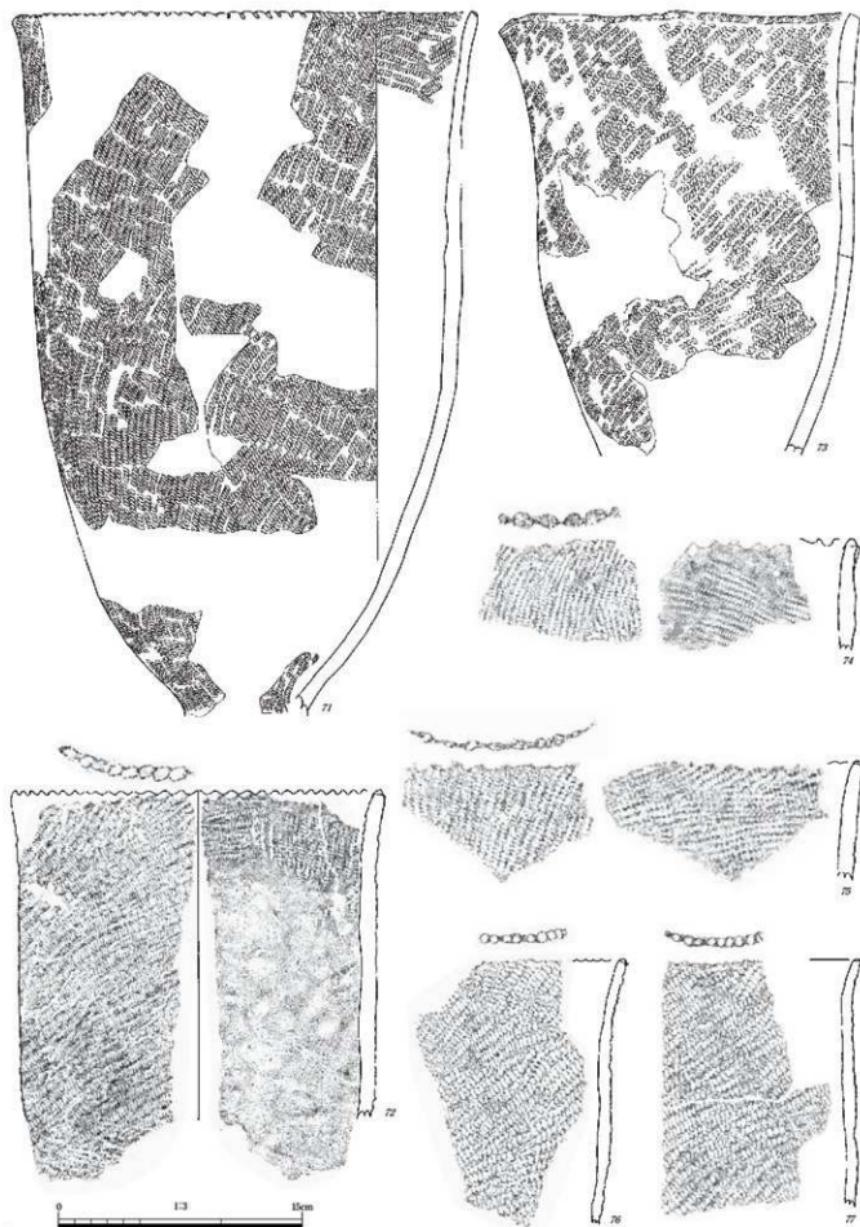
第26図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



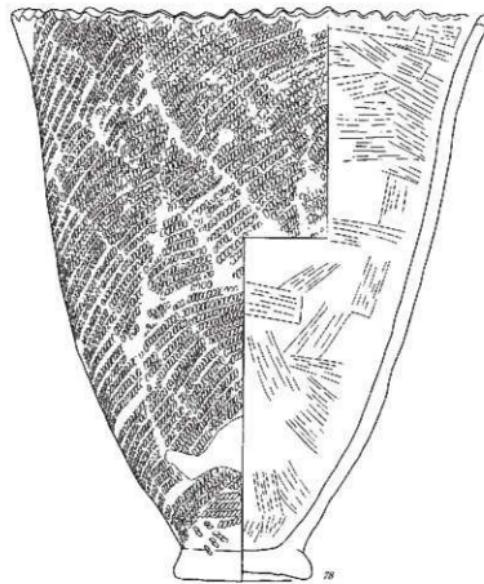
第27図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



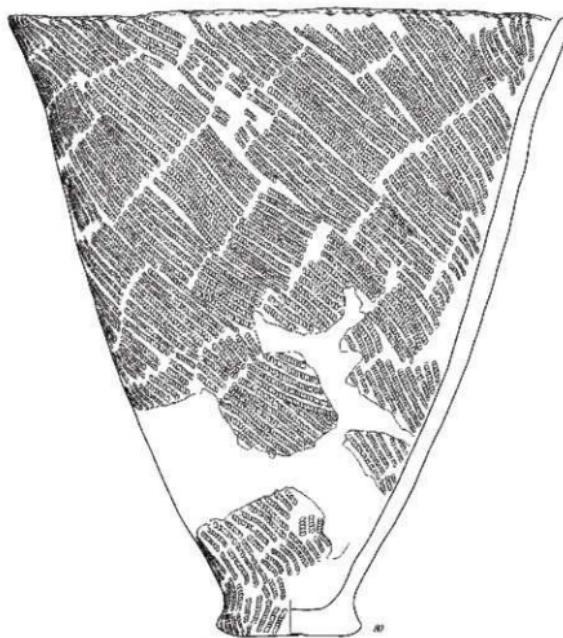
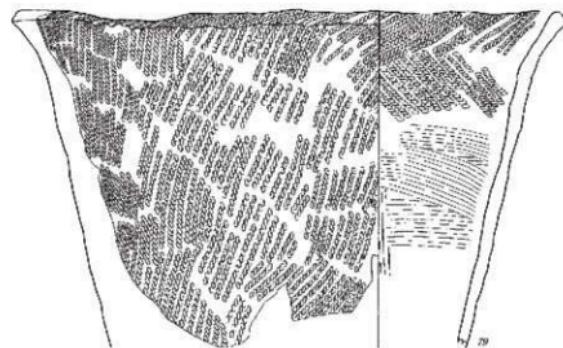
第28図 桶文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



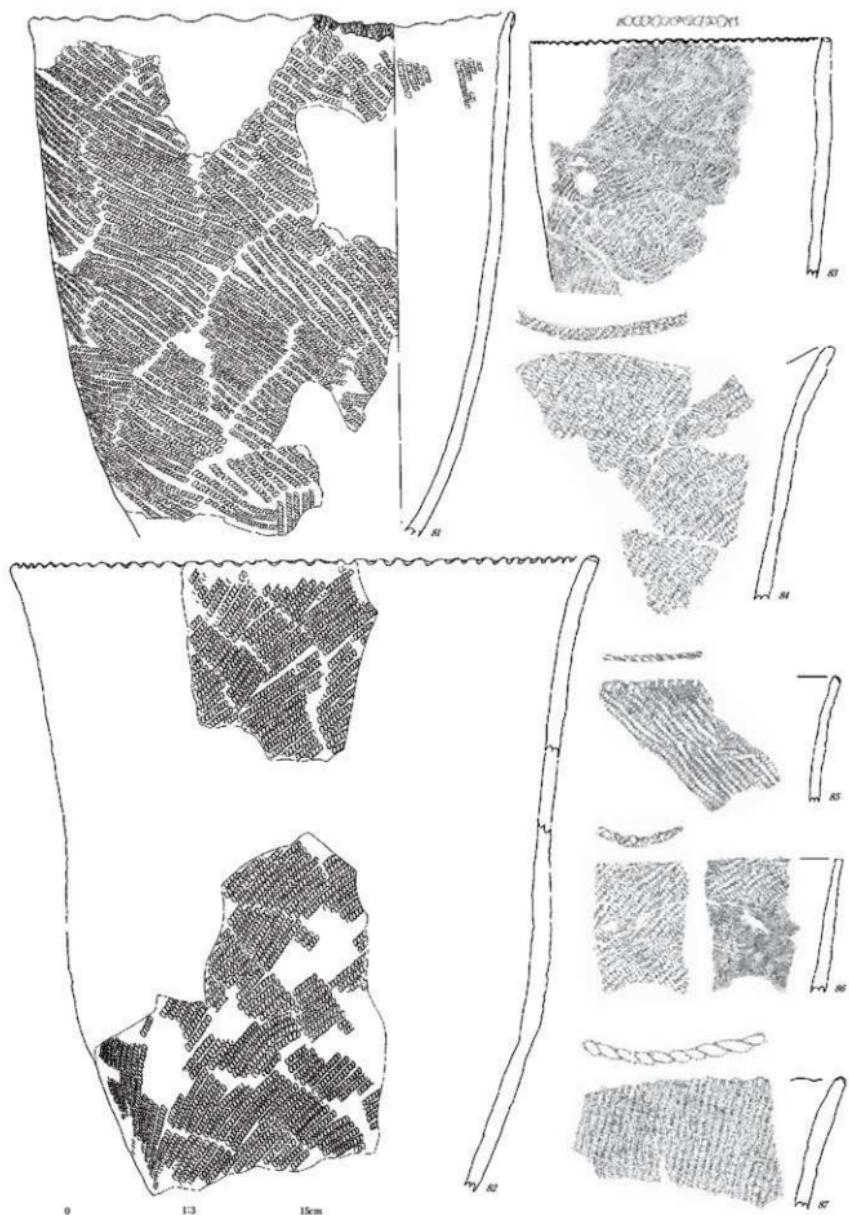
第29図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・黒森寺式



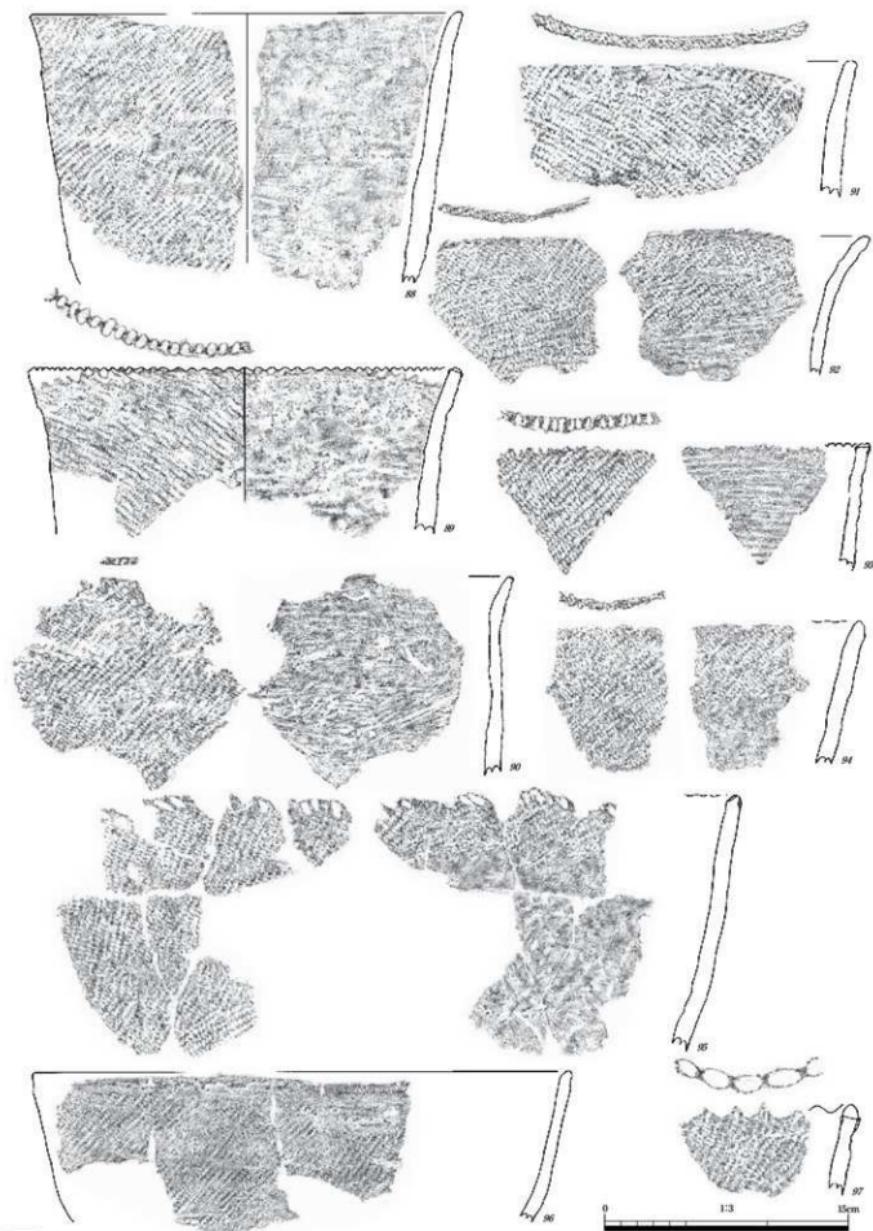
第30図 桶文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



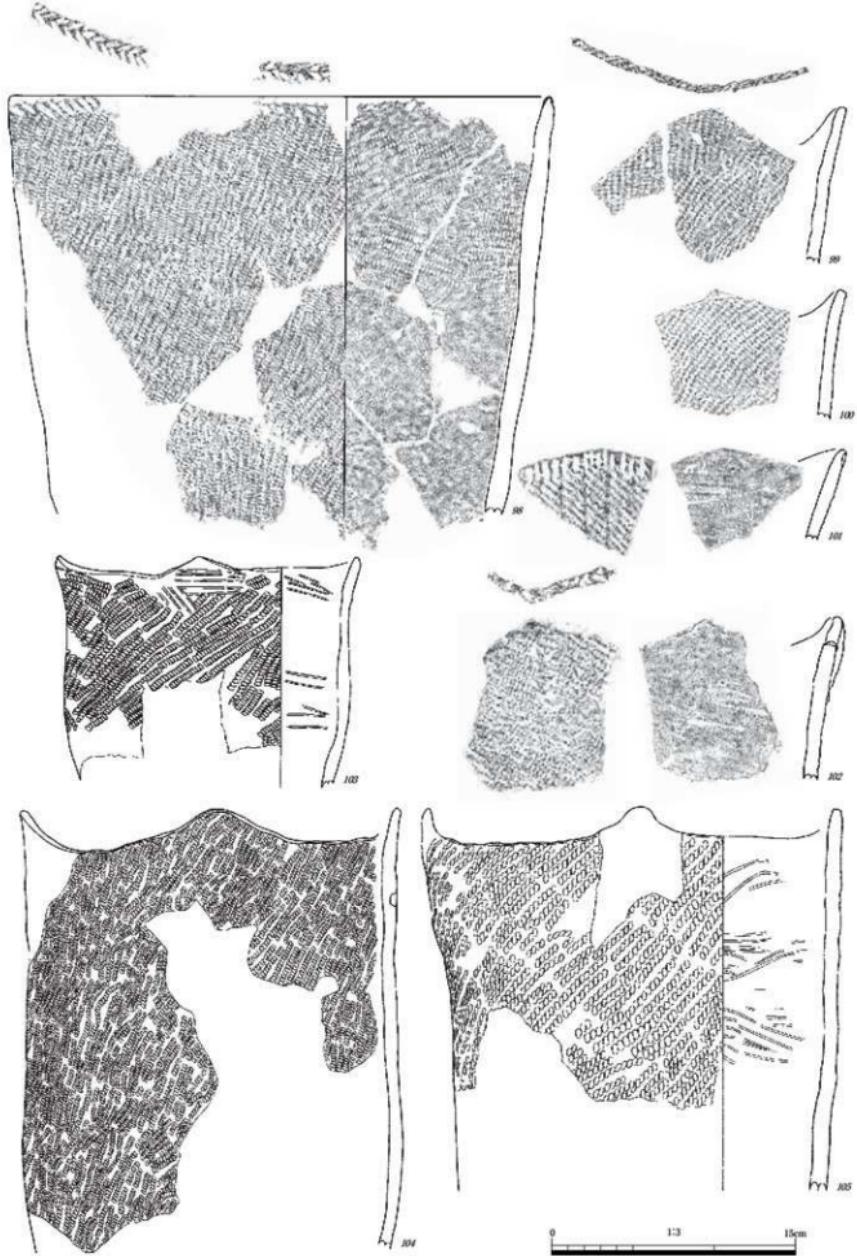
第31図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



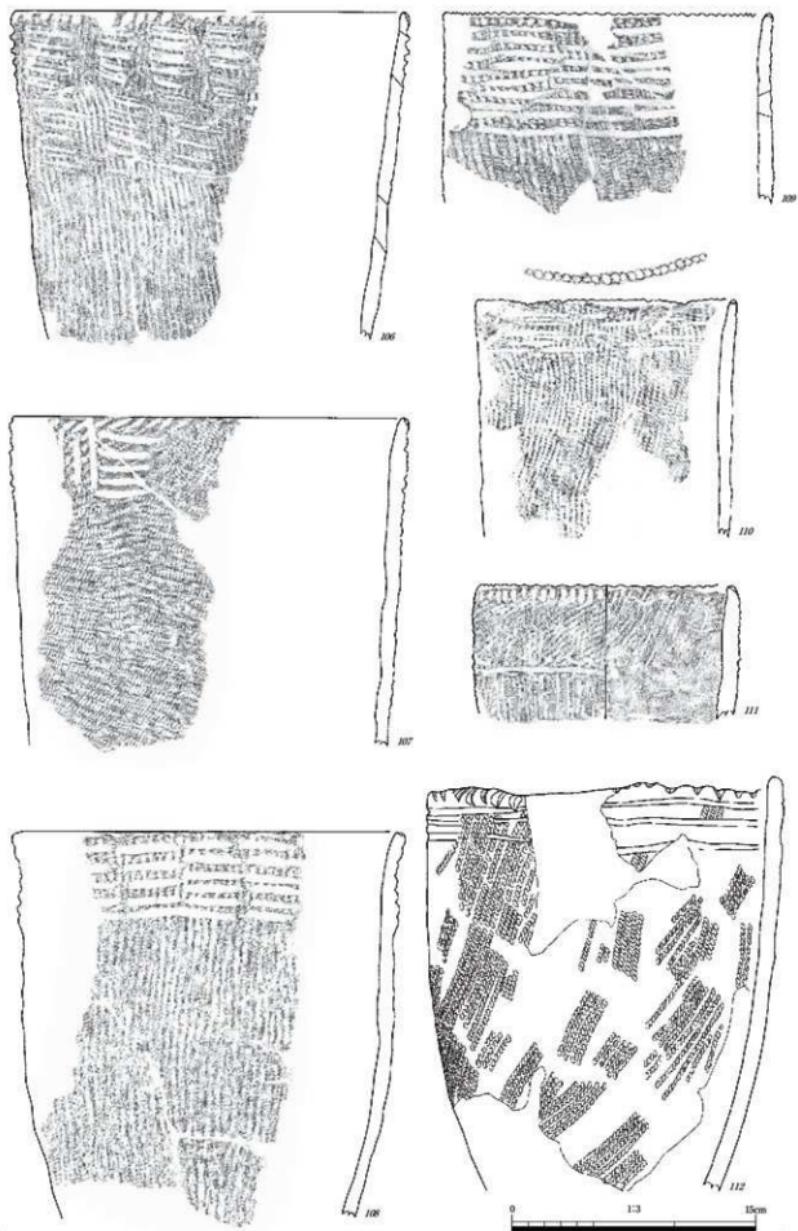
第32図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



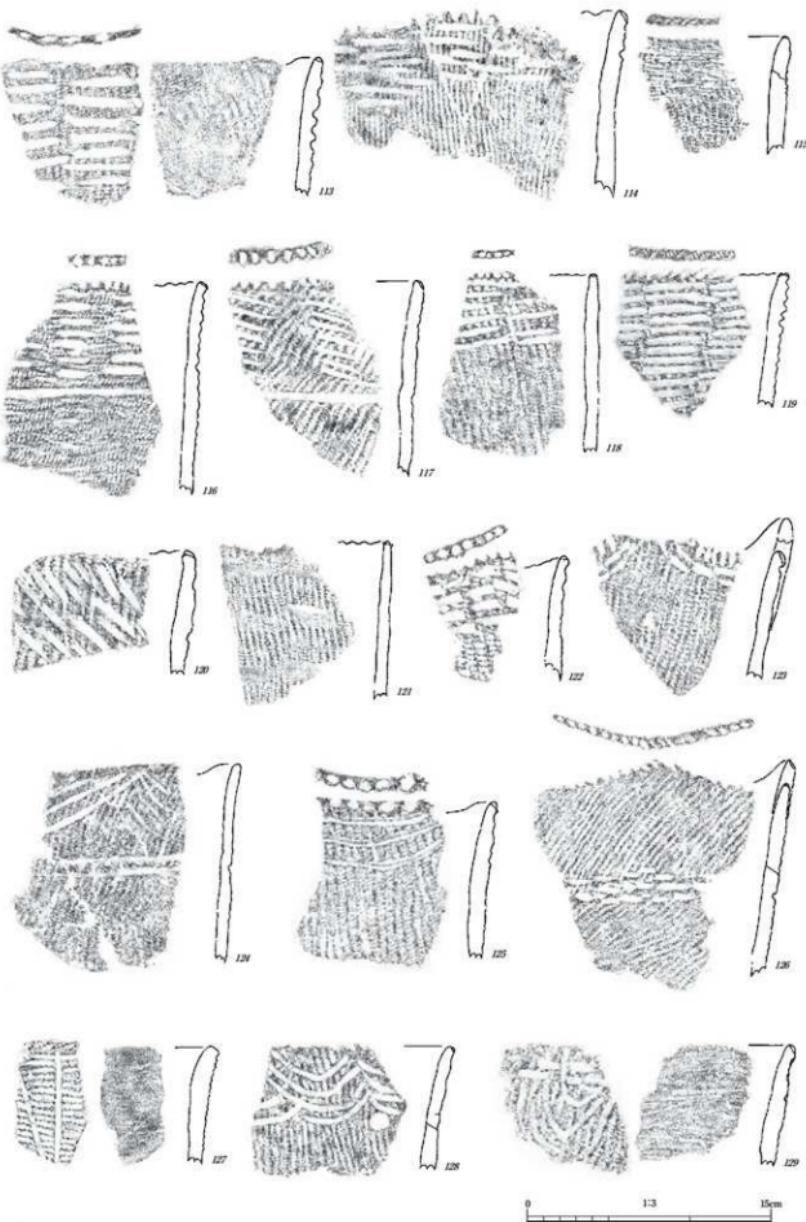
第33図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・極楽寺式



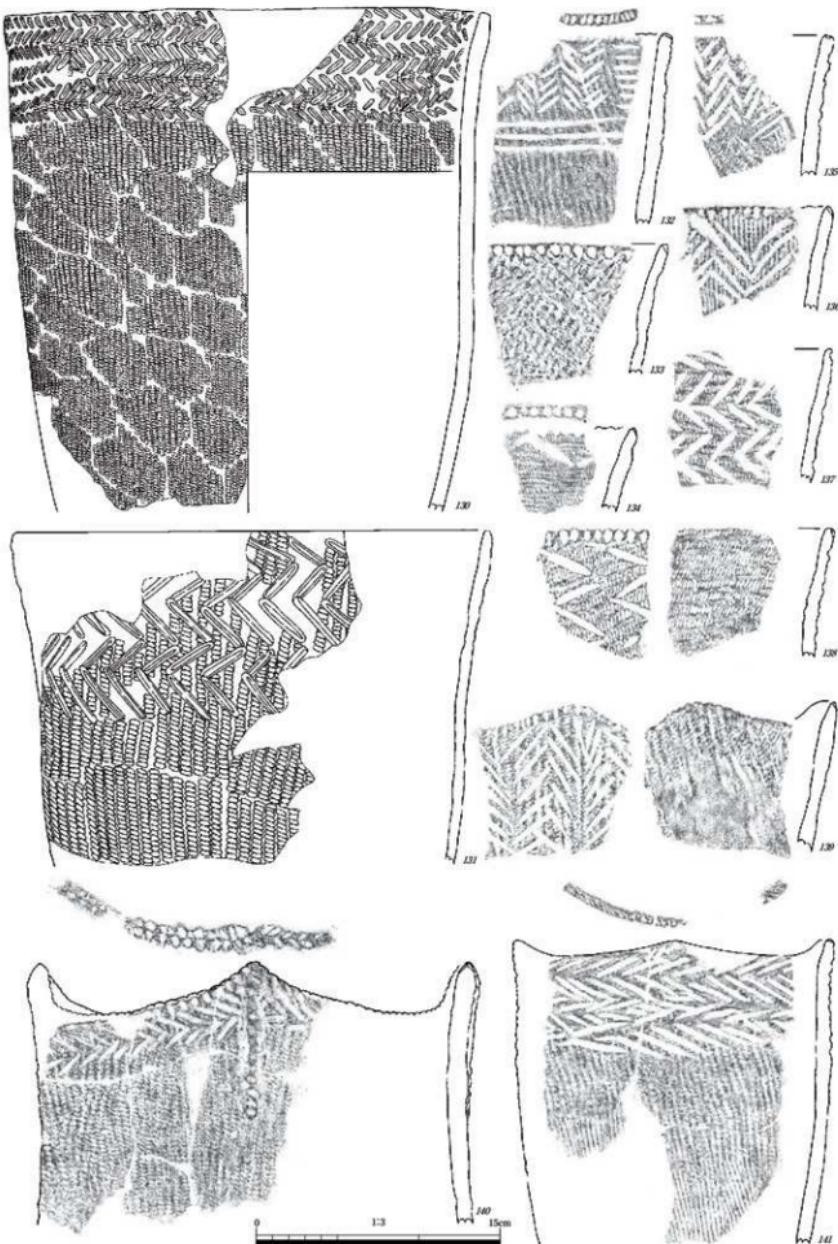
第34図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・極楽寺式



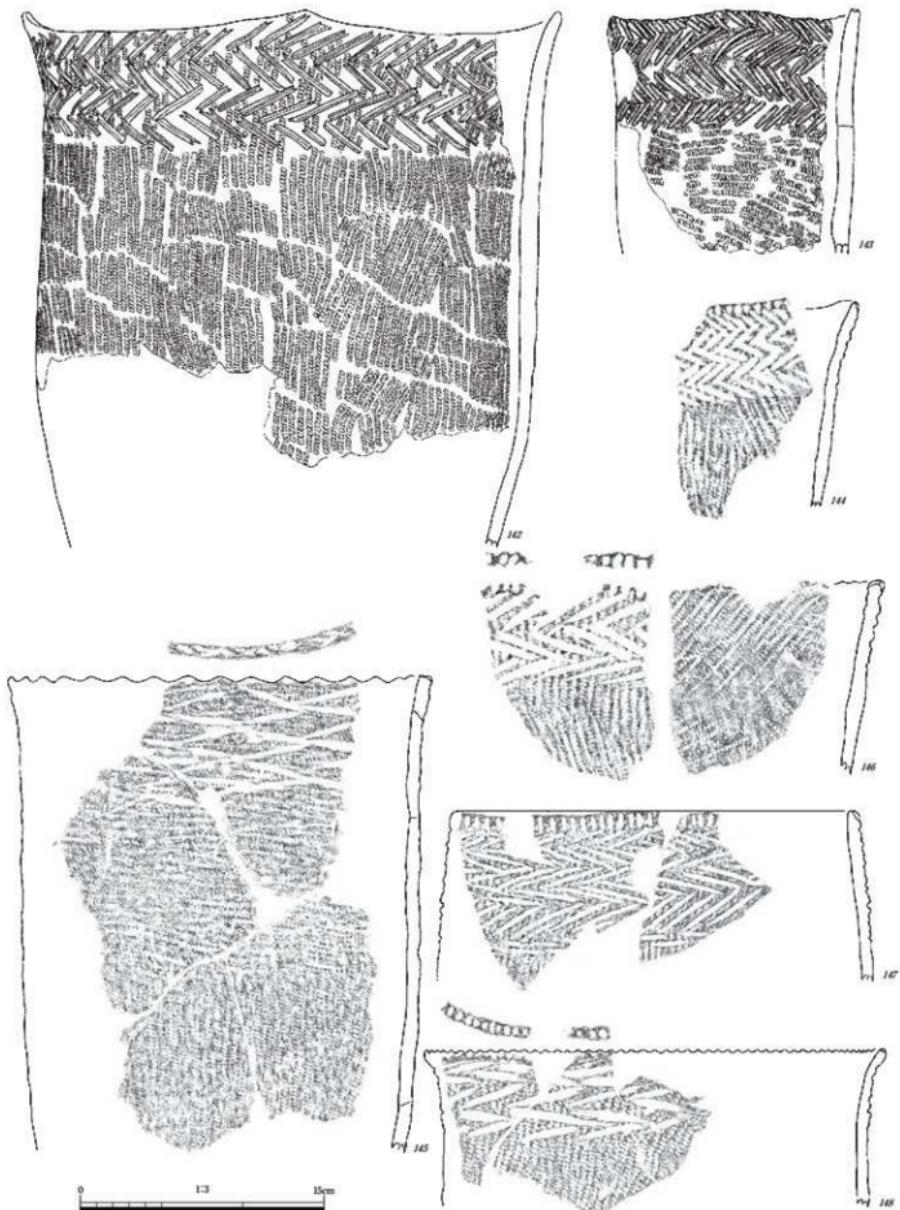
第35図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



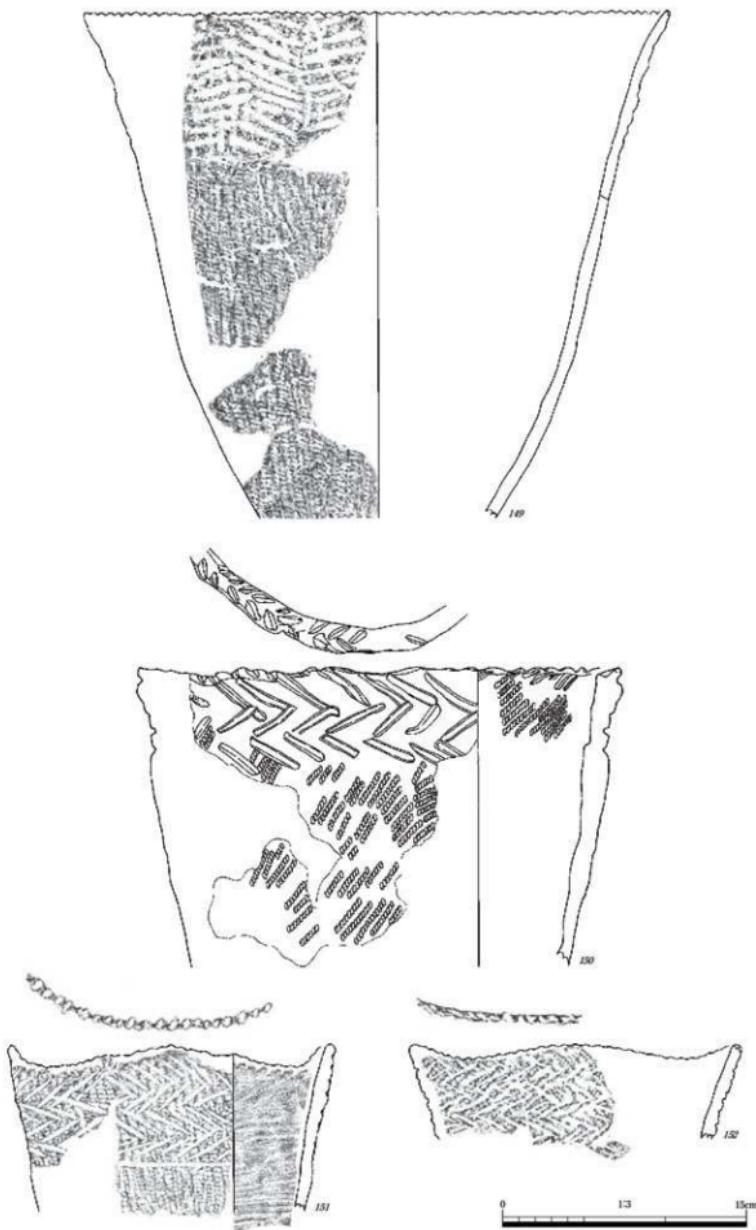
第36図 桶文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



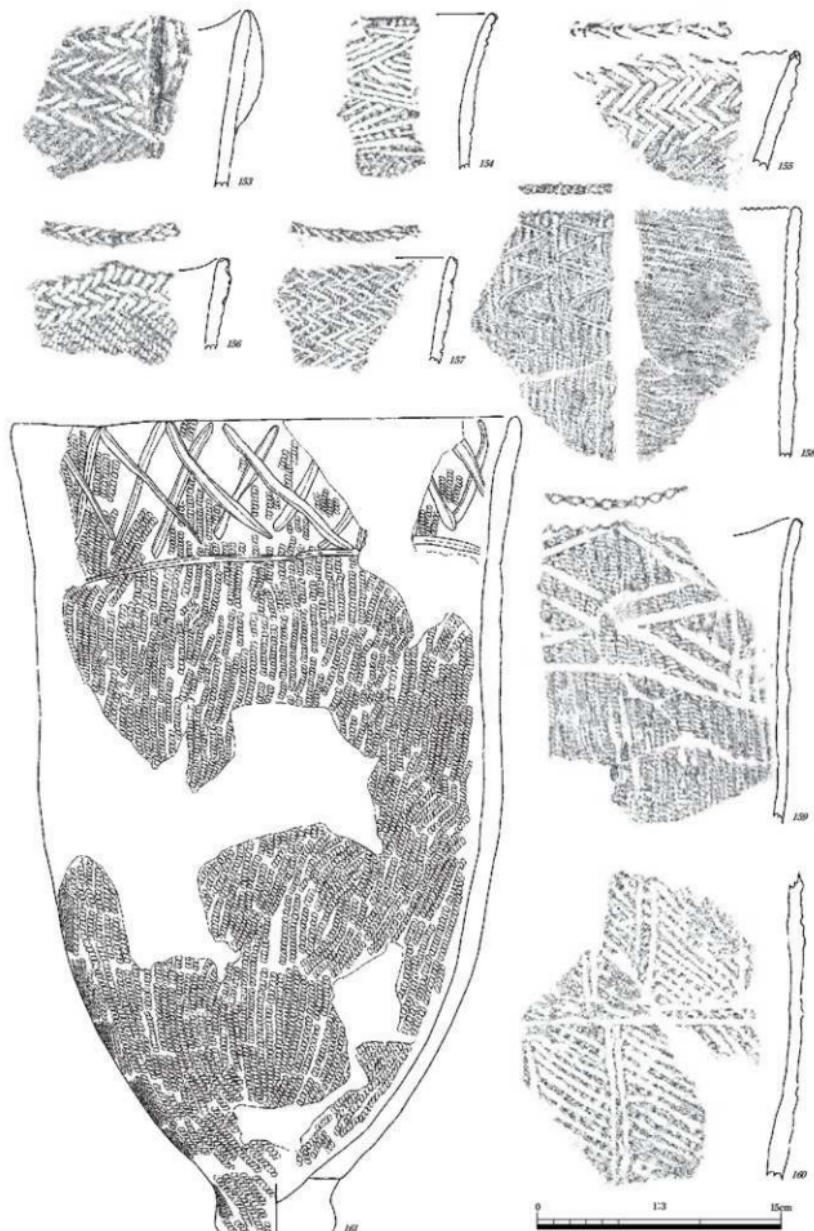
第37図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・極楽寺式



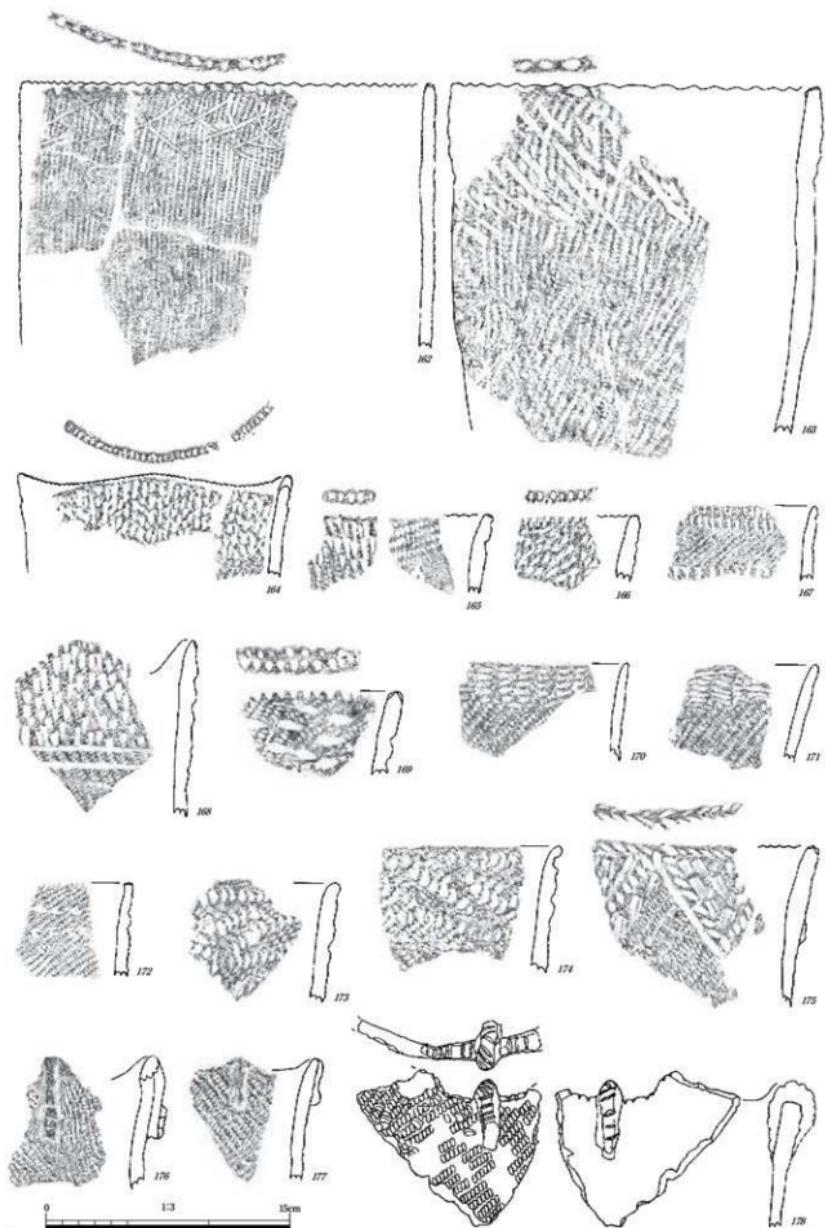
第38図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



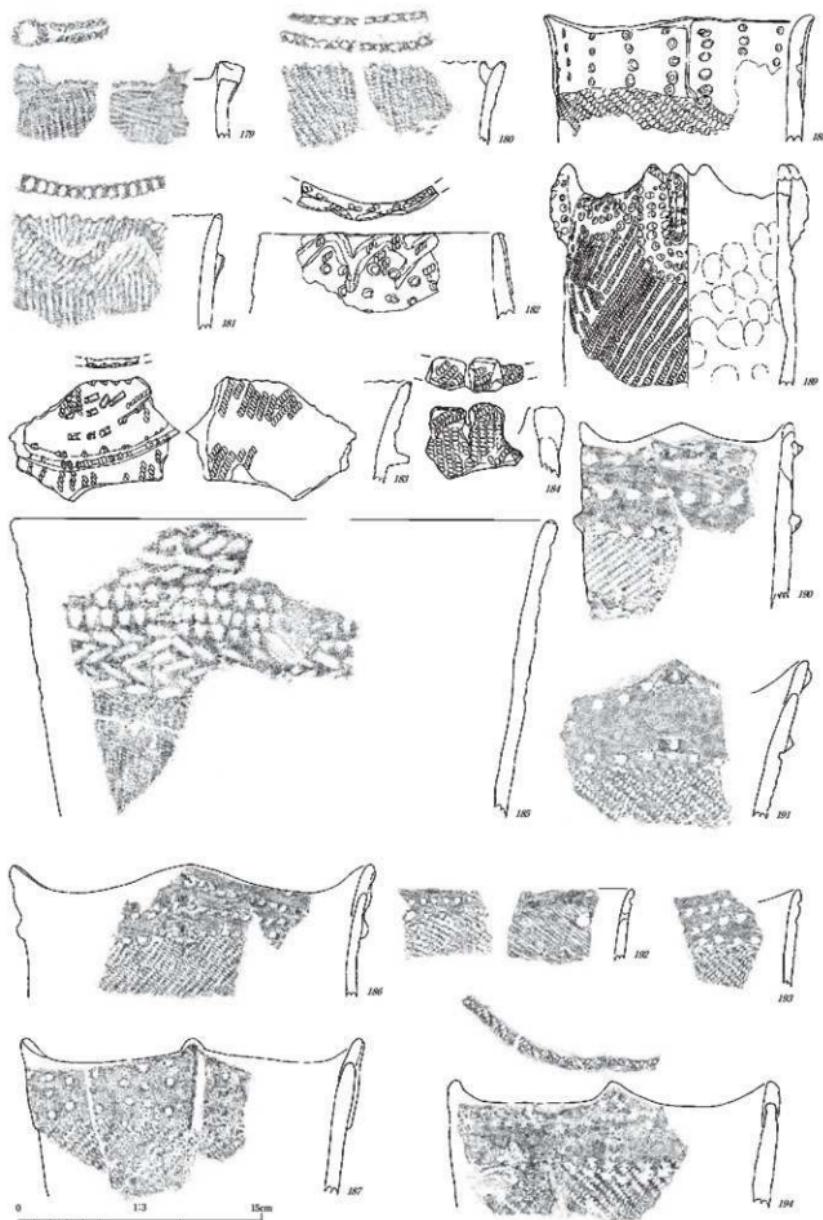
第39図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



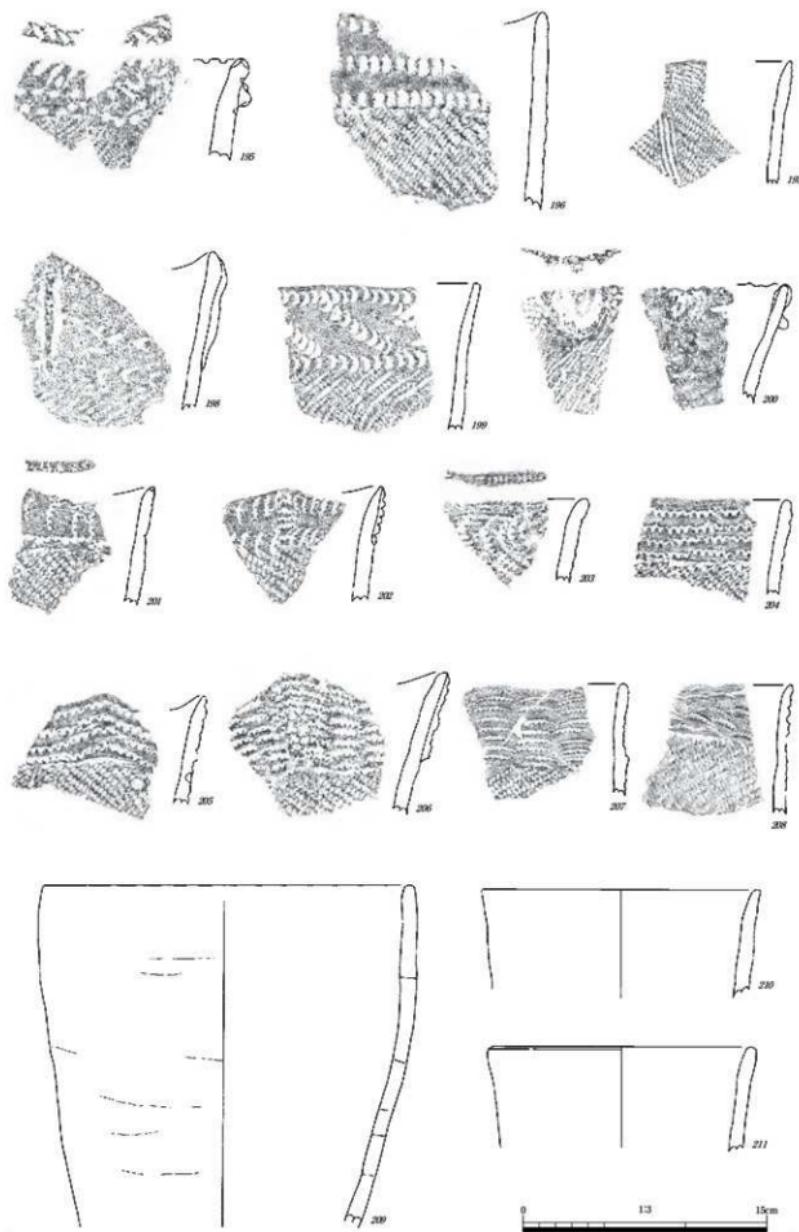
第40図 桶文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



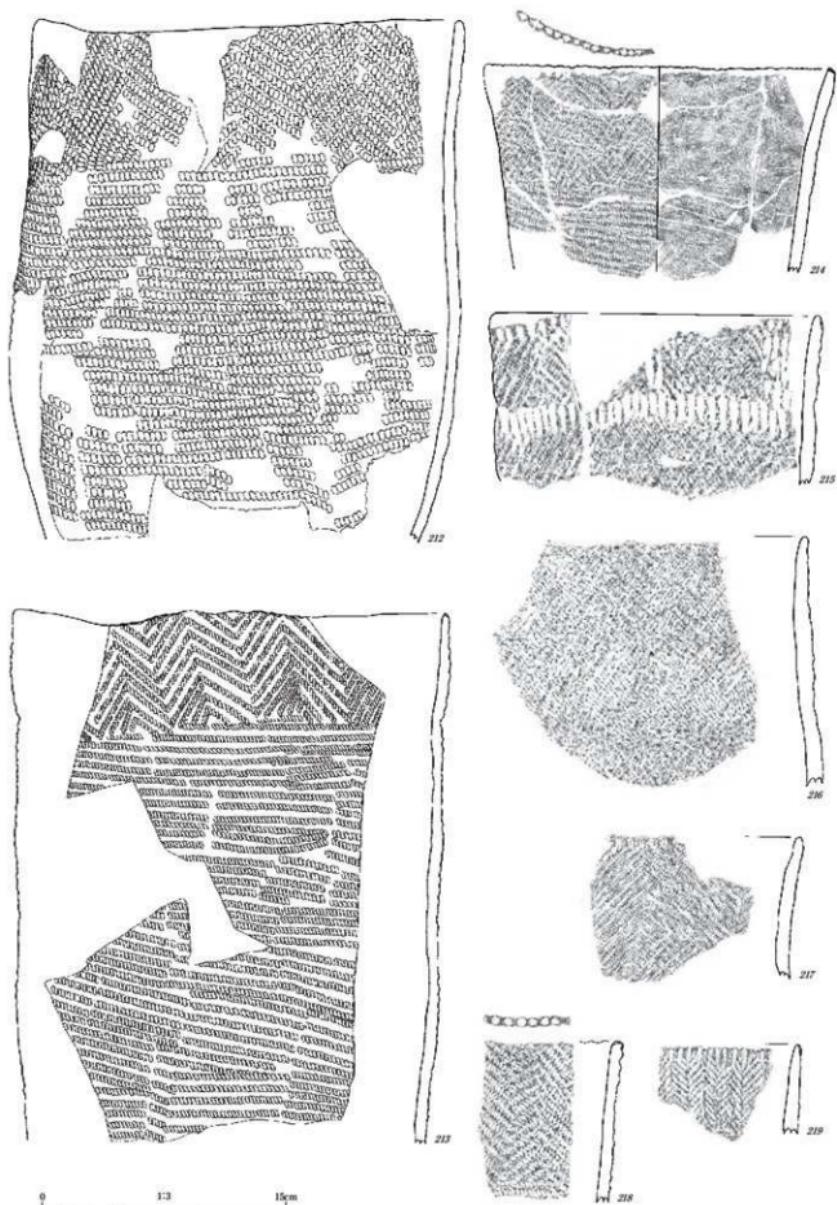
第41図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・黒森寺式



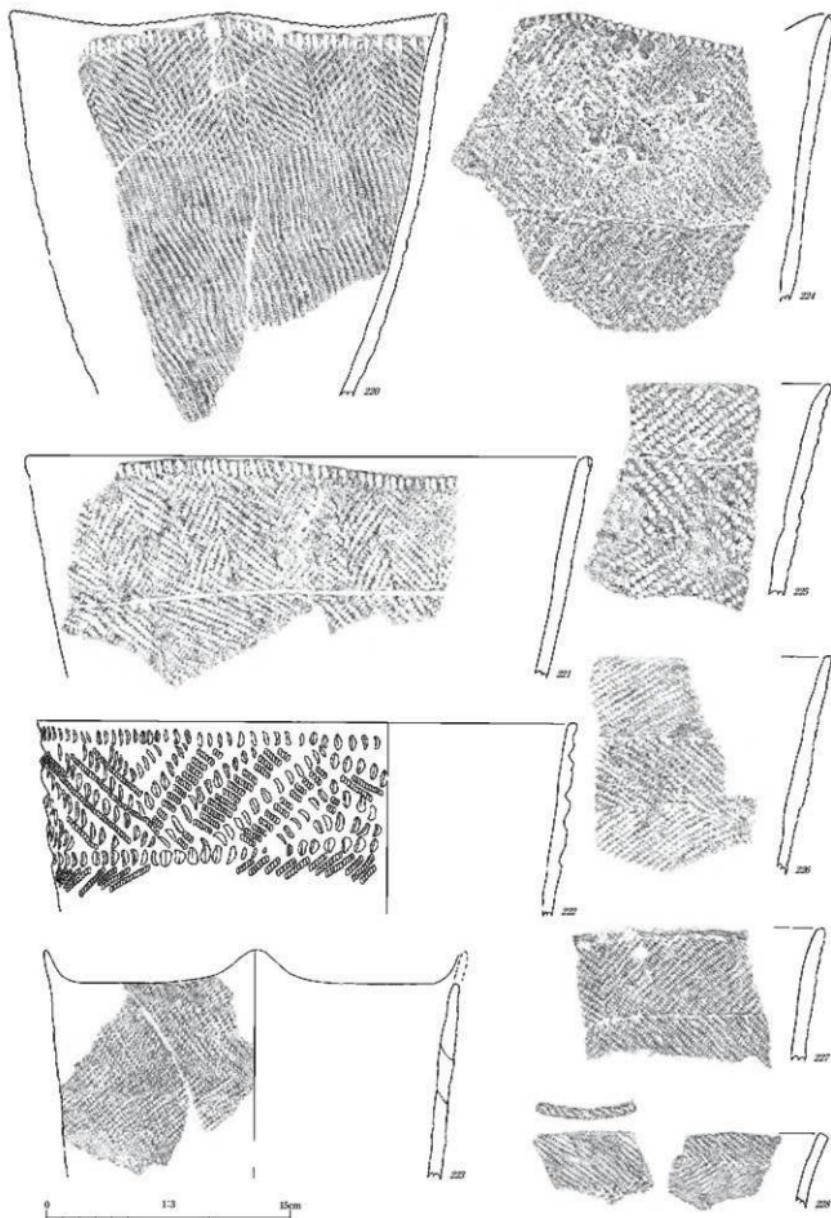
第42図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



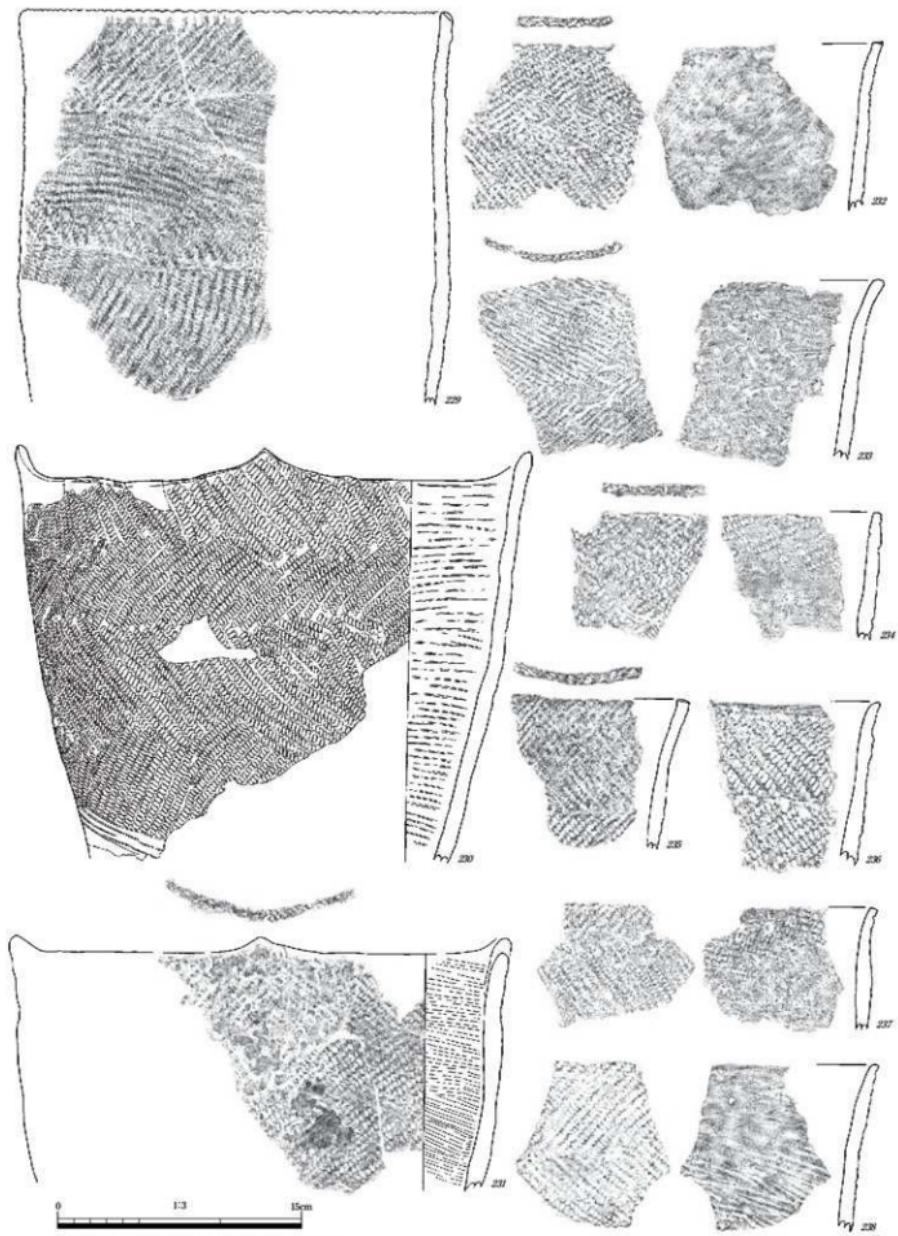
第43図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・黒森寺式



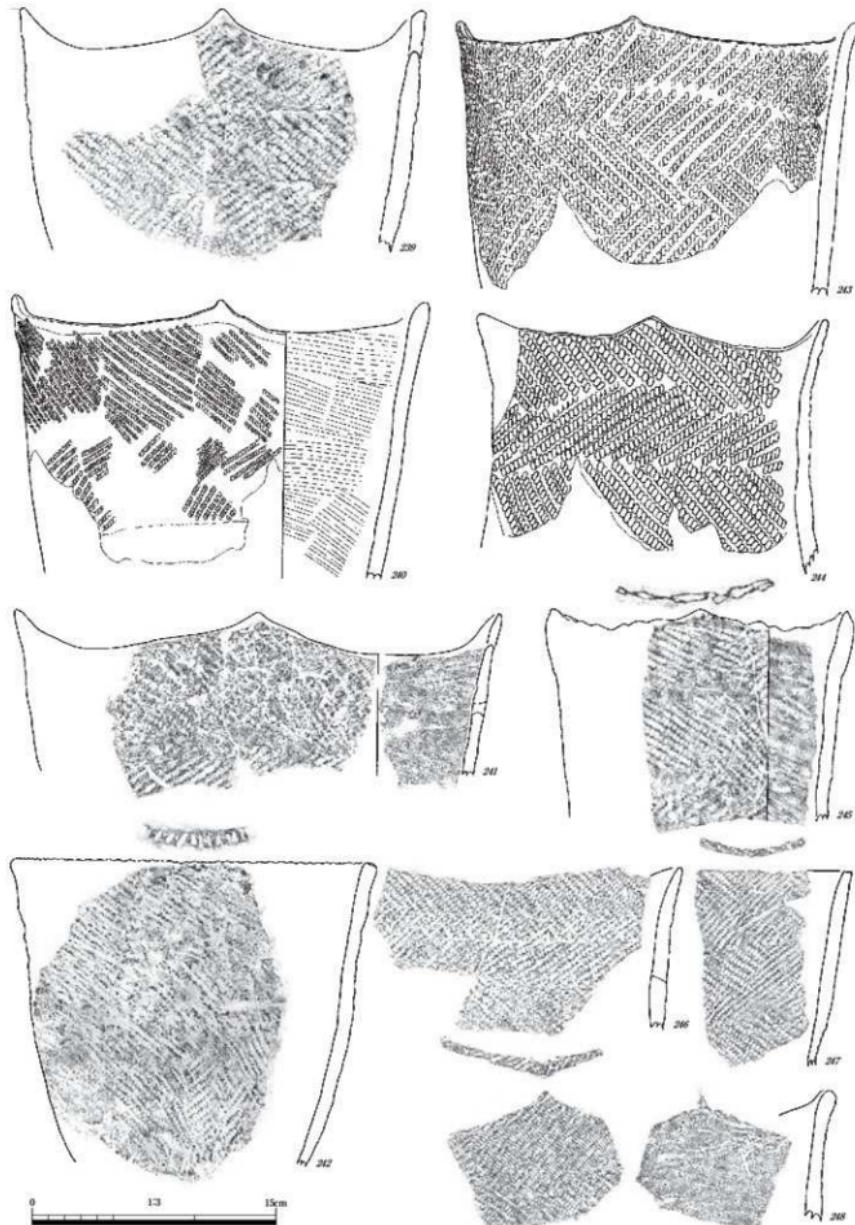
第44図 桶文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



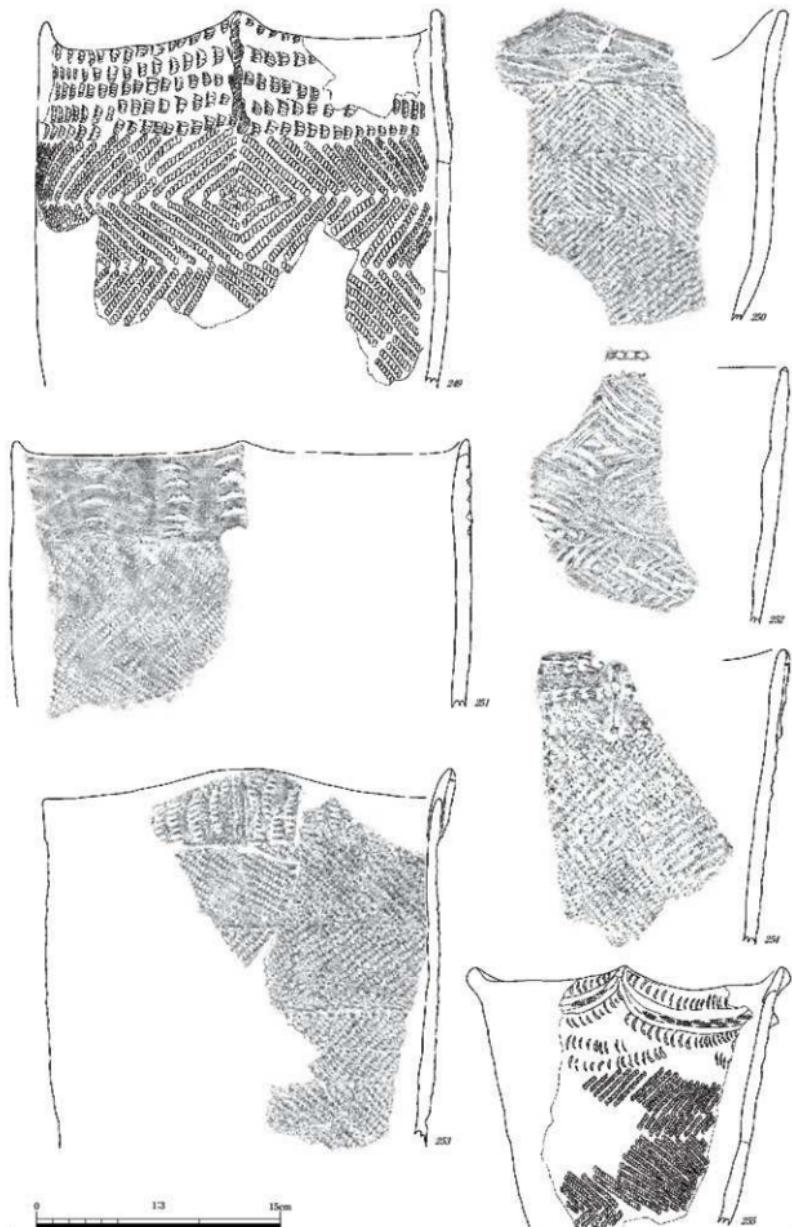
第45図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



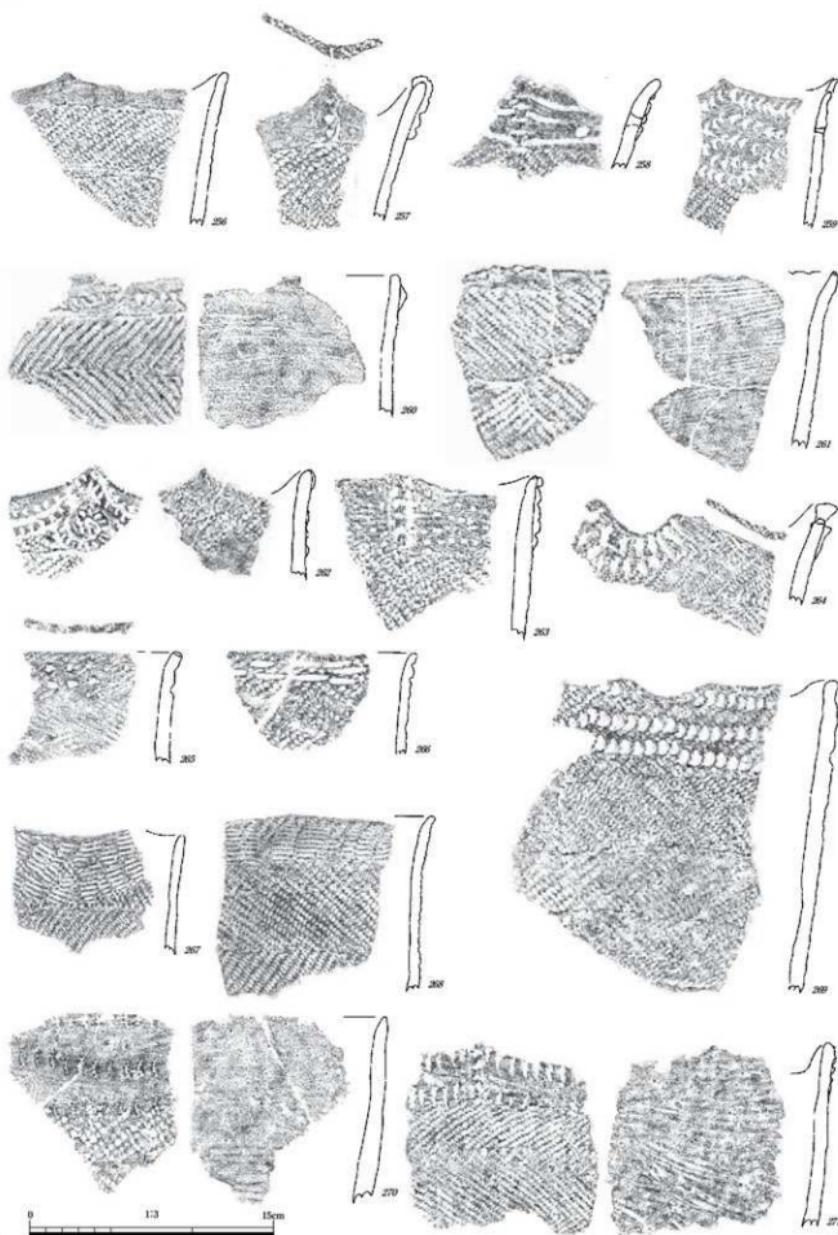
第46図 桶文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



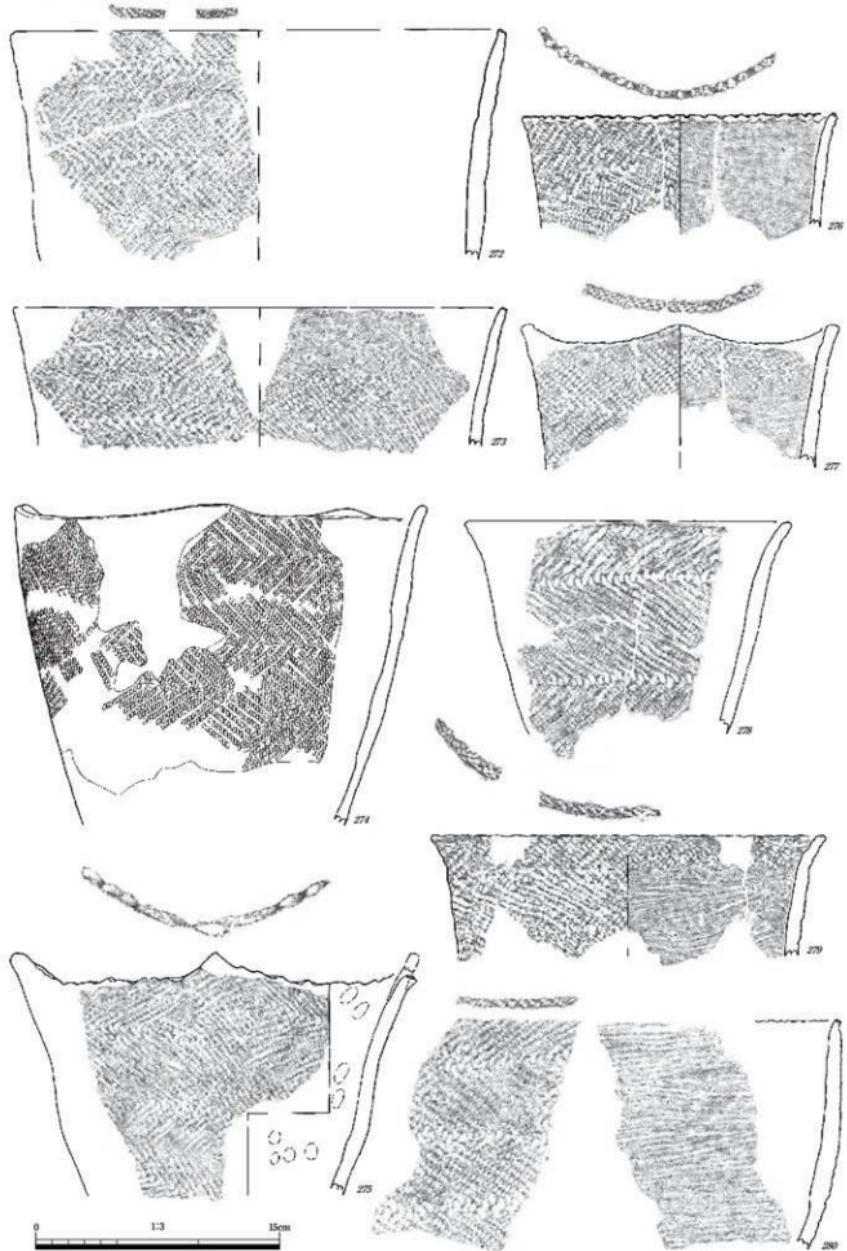
第47図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・極楽寺式



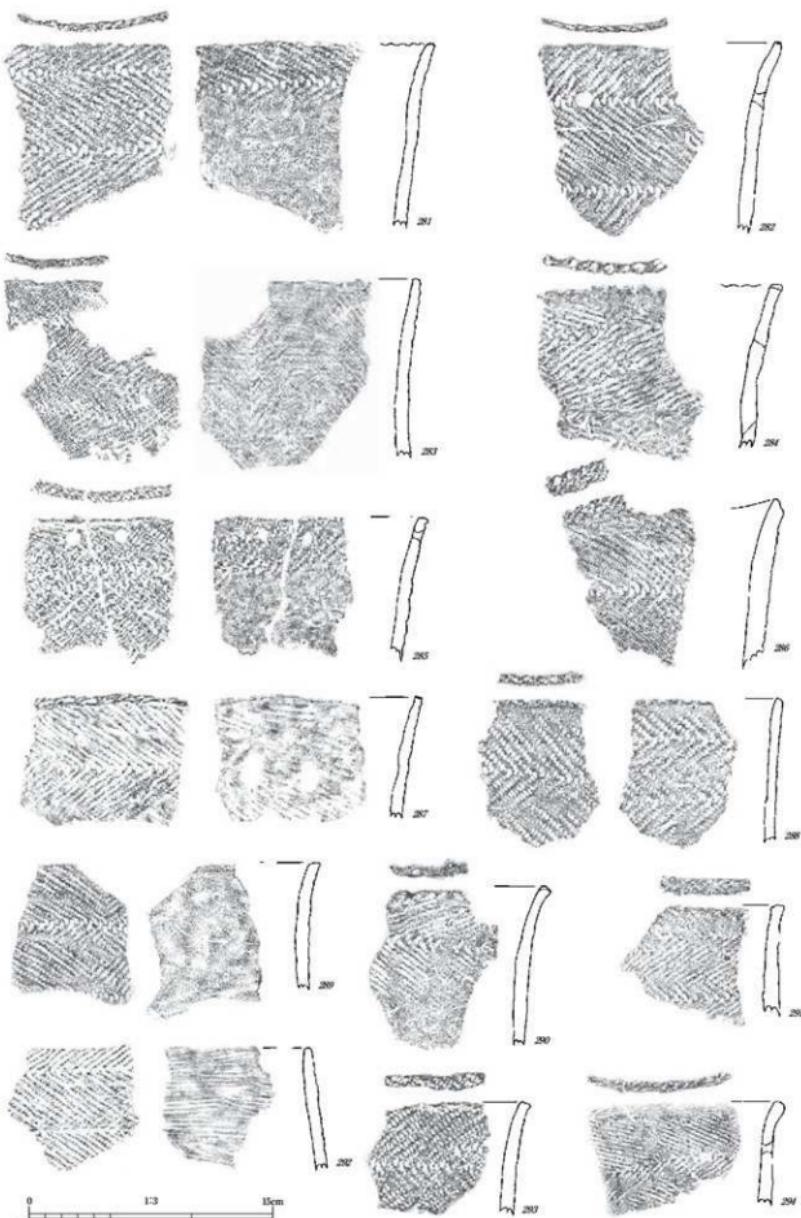
第48図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



第49図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



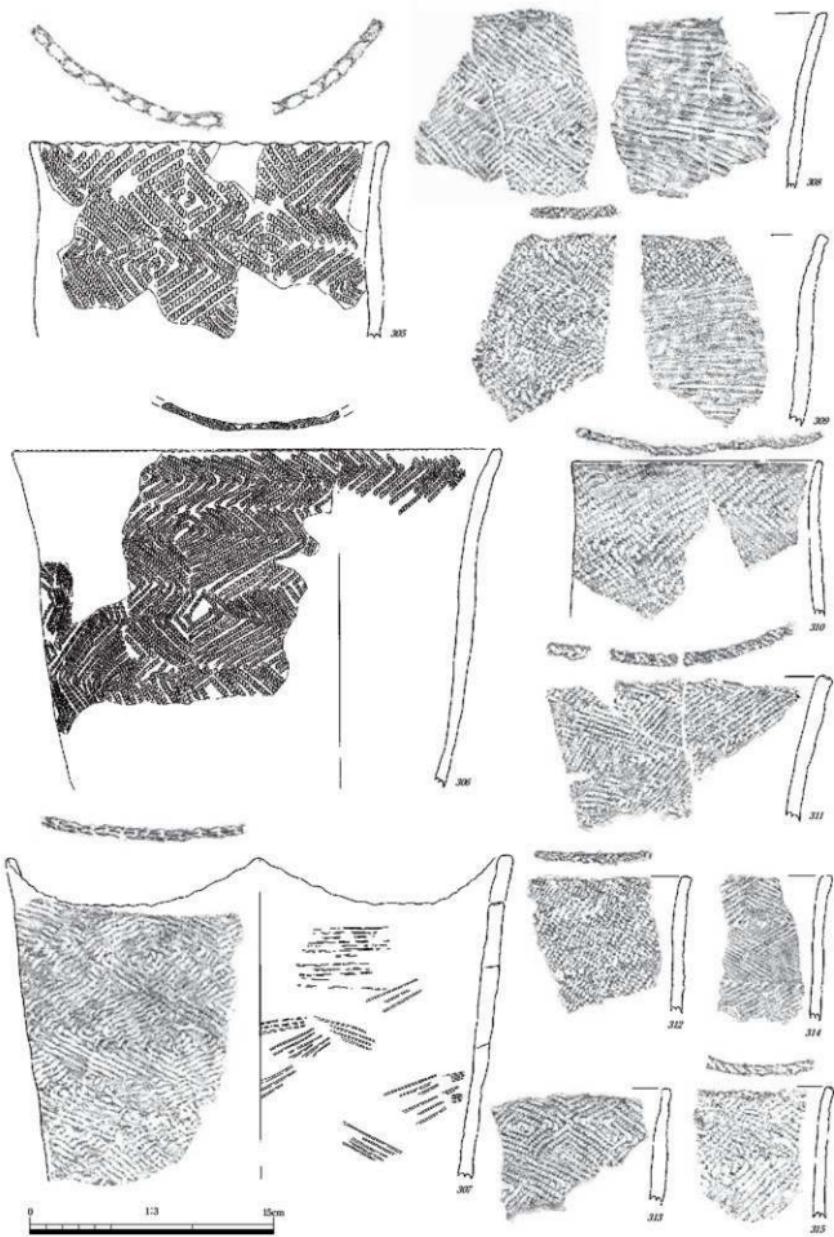
第50図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



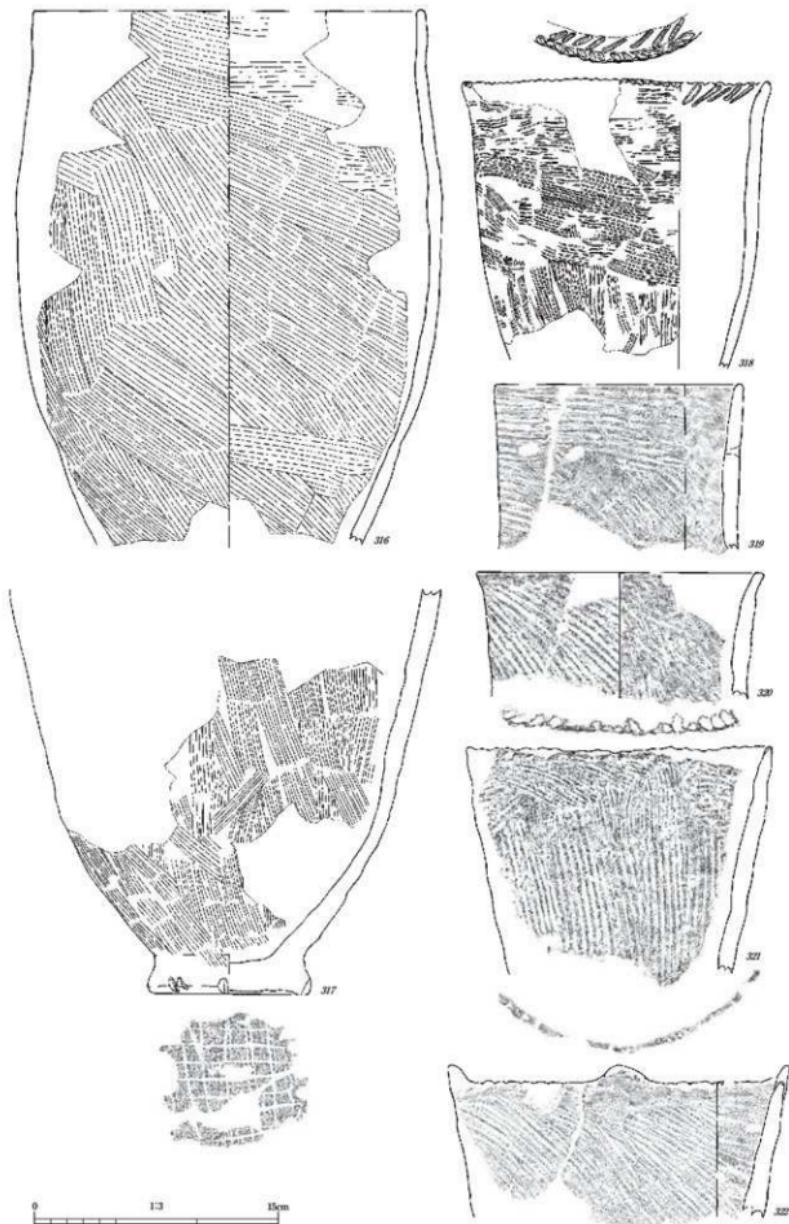
第51図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・極楽寺式



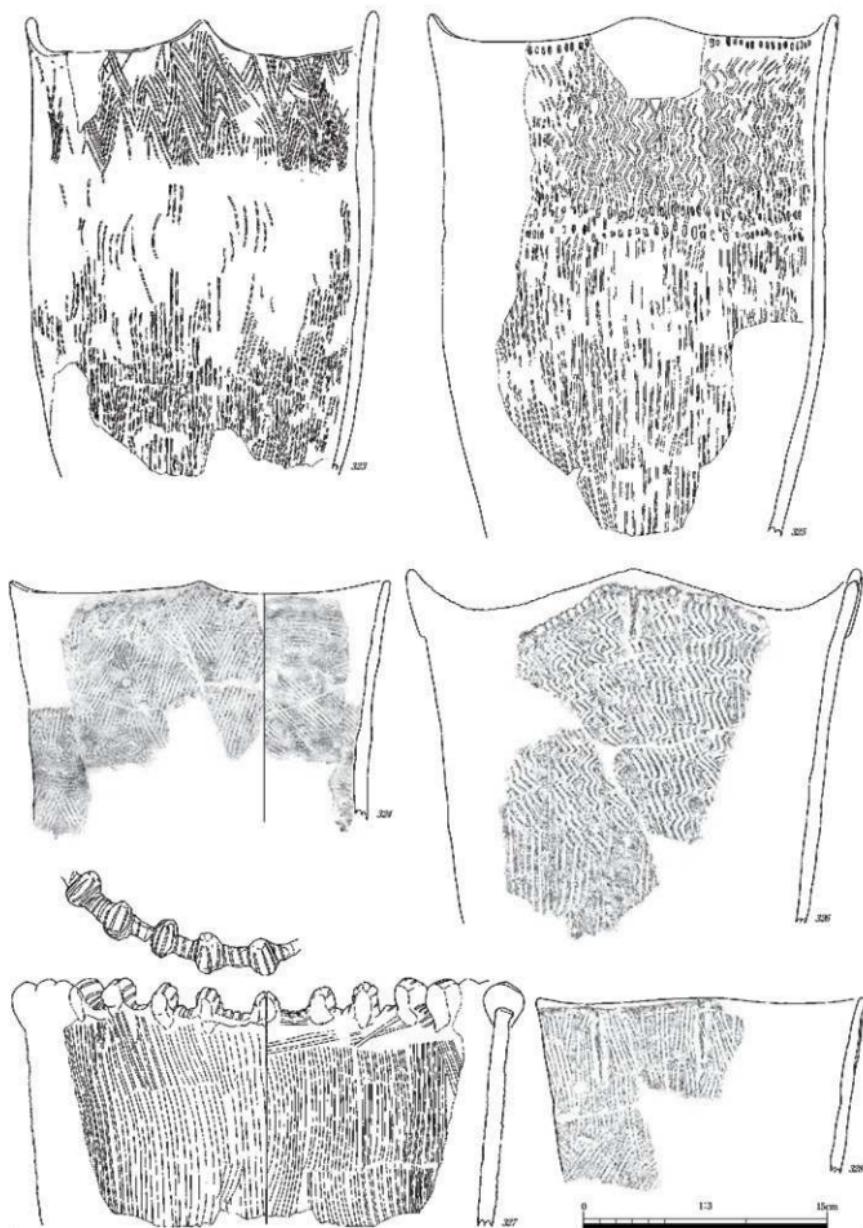
第52図 桜文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・極楽寺式



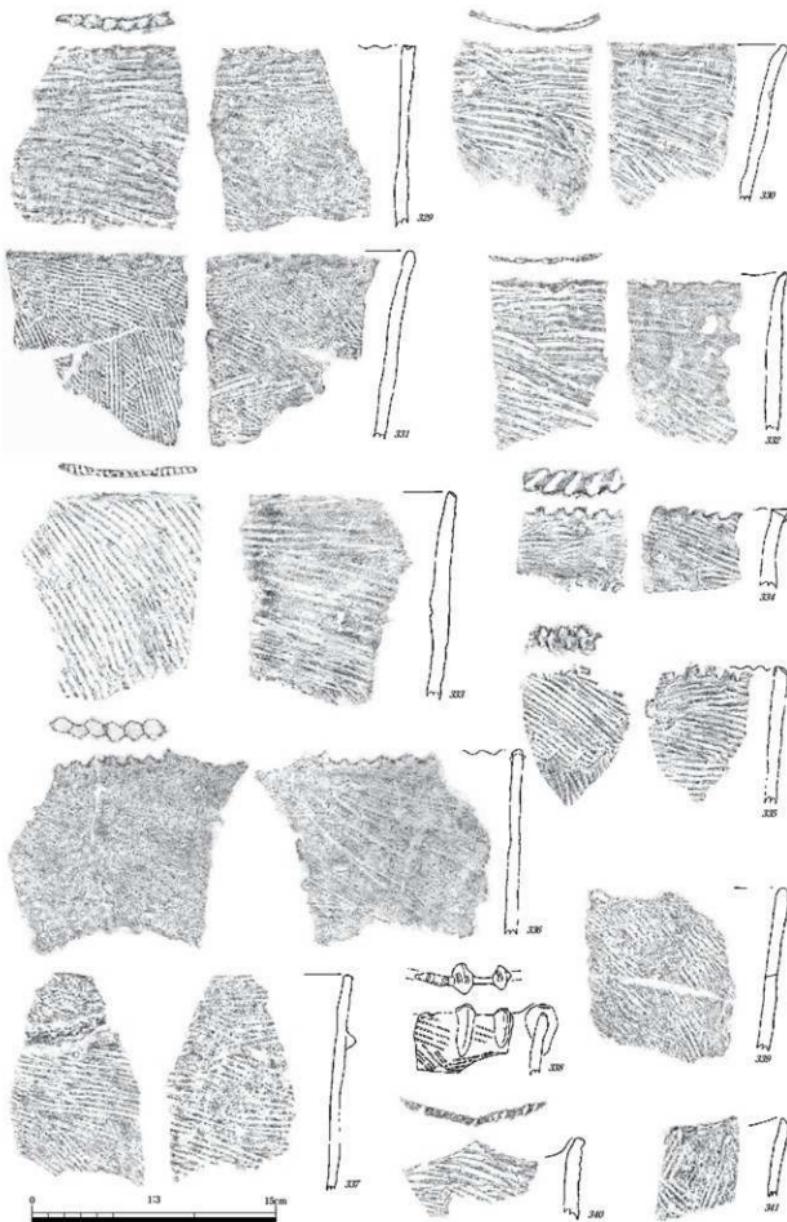
第53図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・極楽寺式



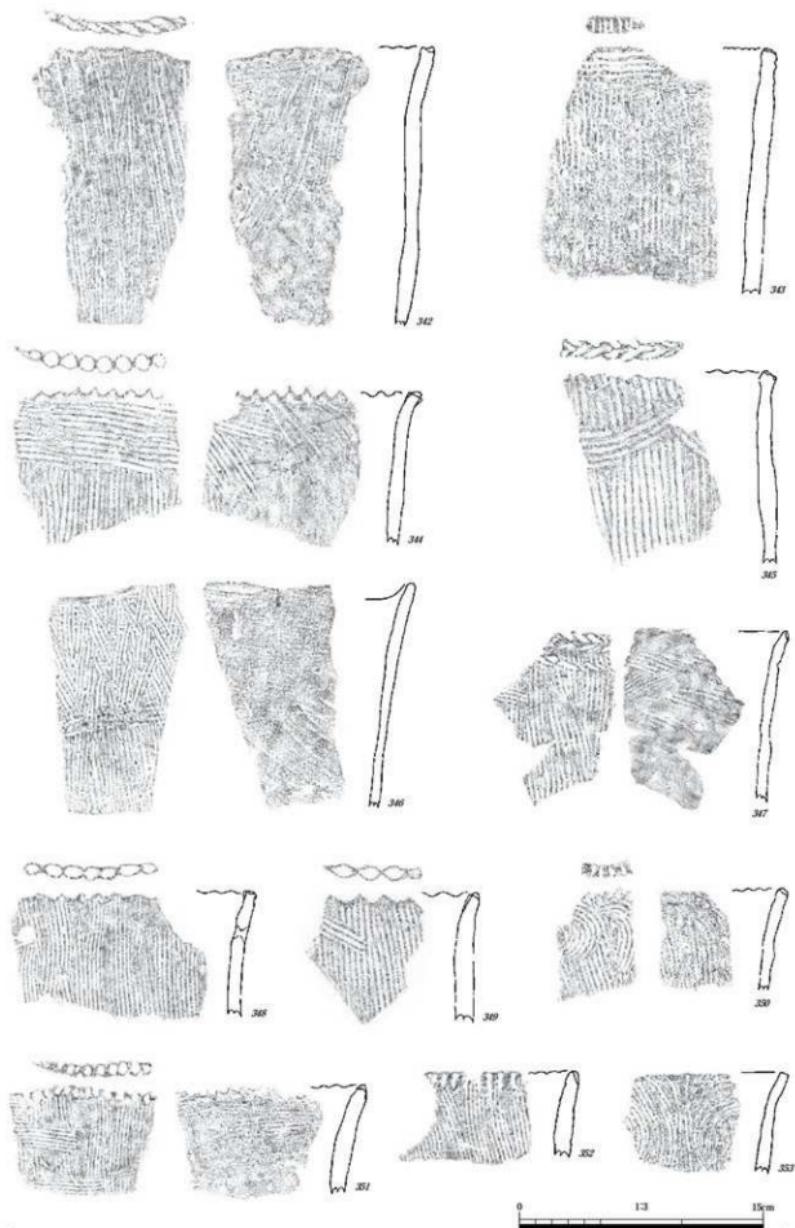
第54図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



第55図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・極楽寺式



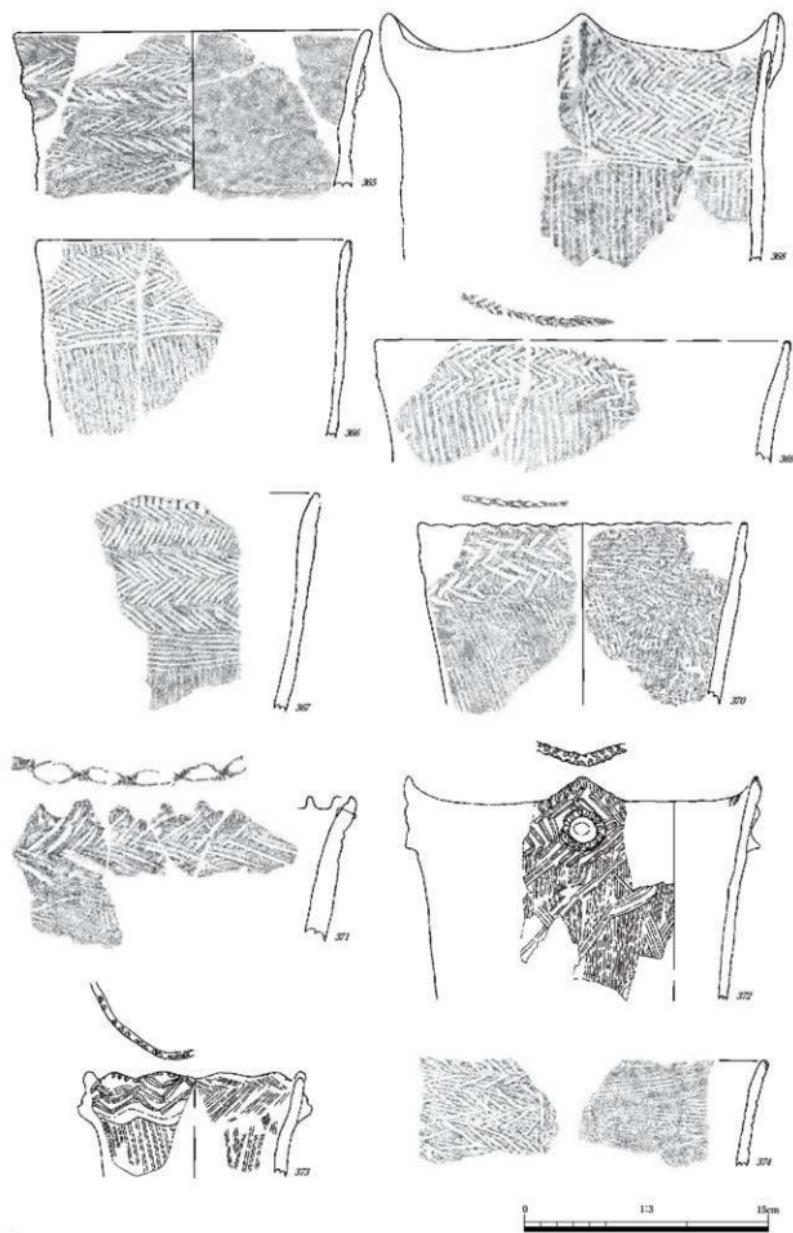
第56図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



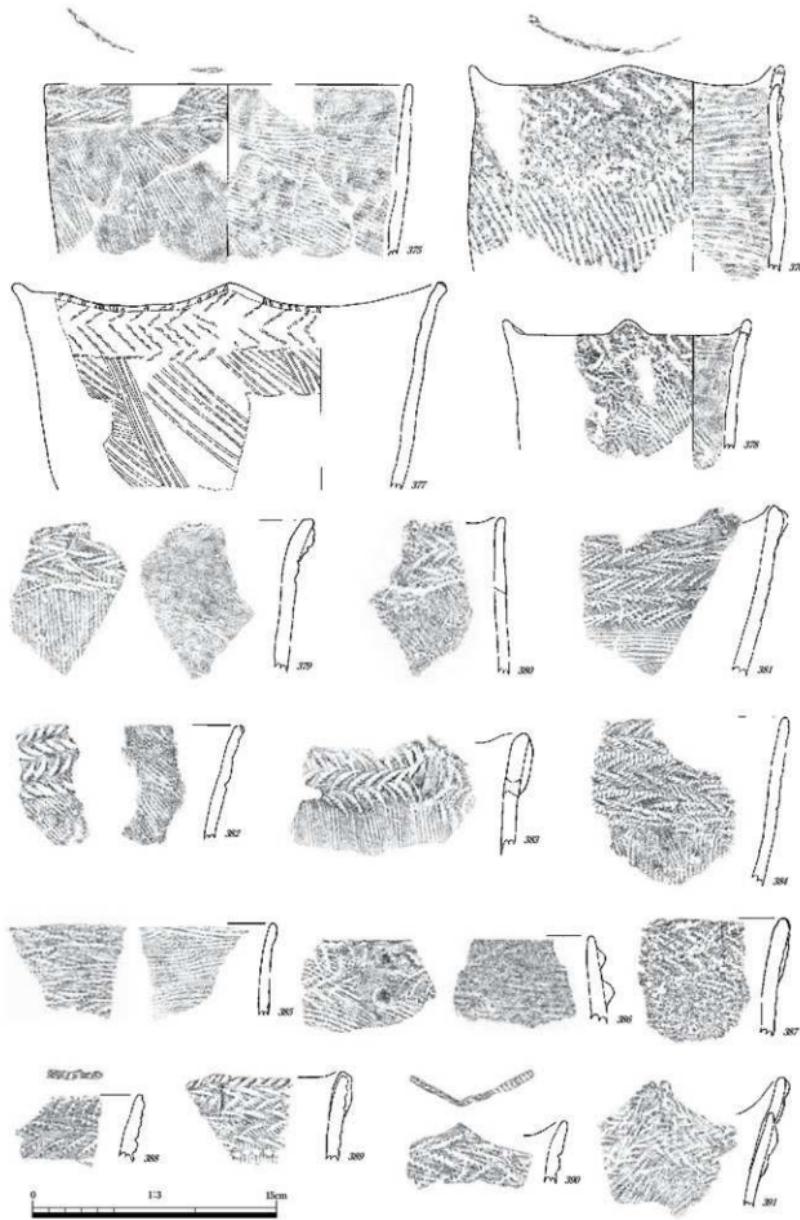
第57図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



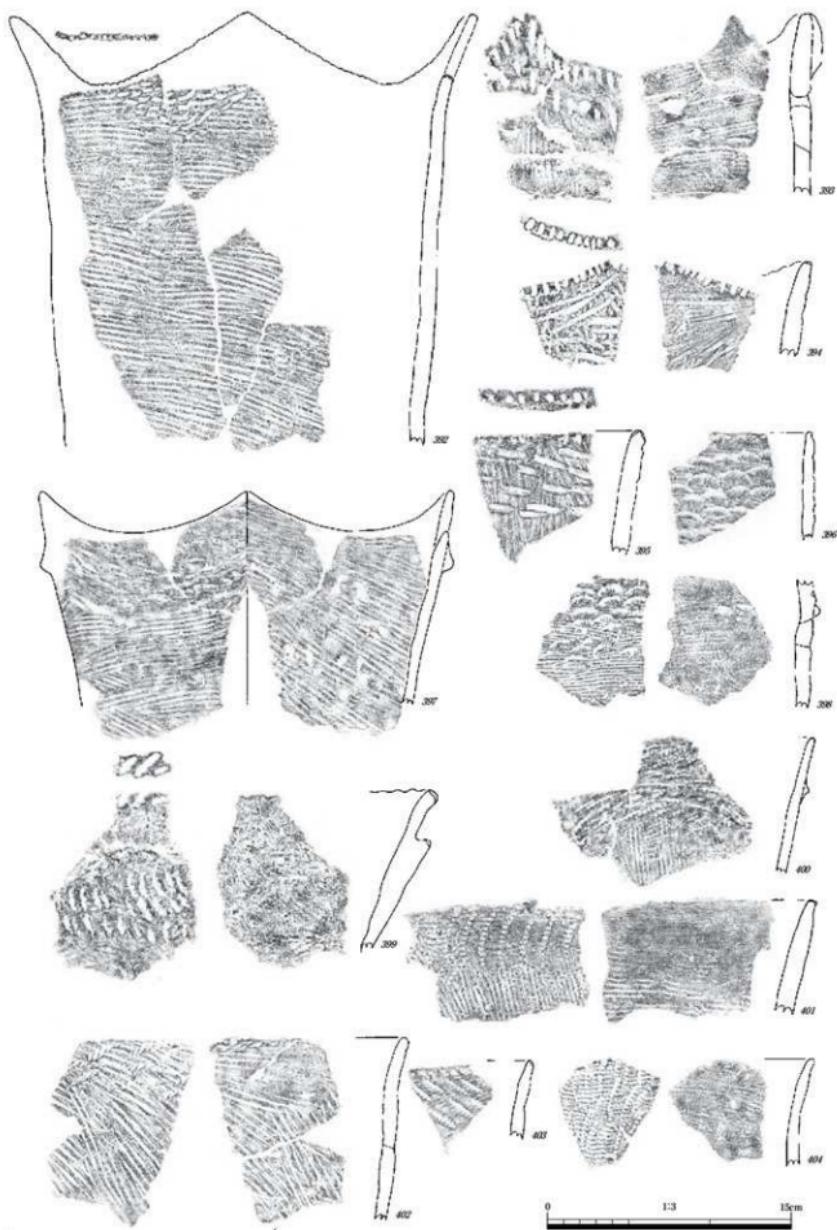
第58図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



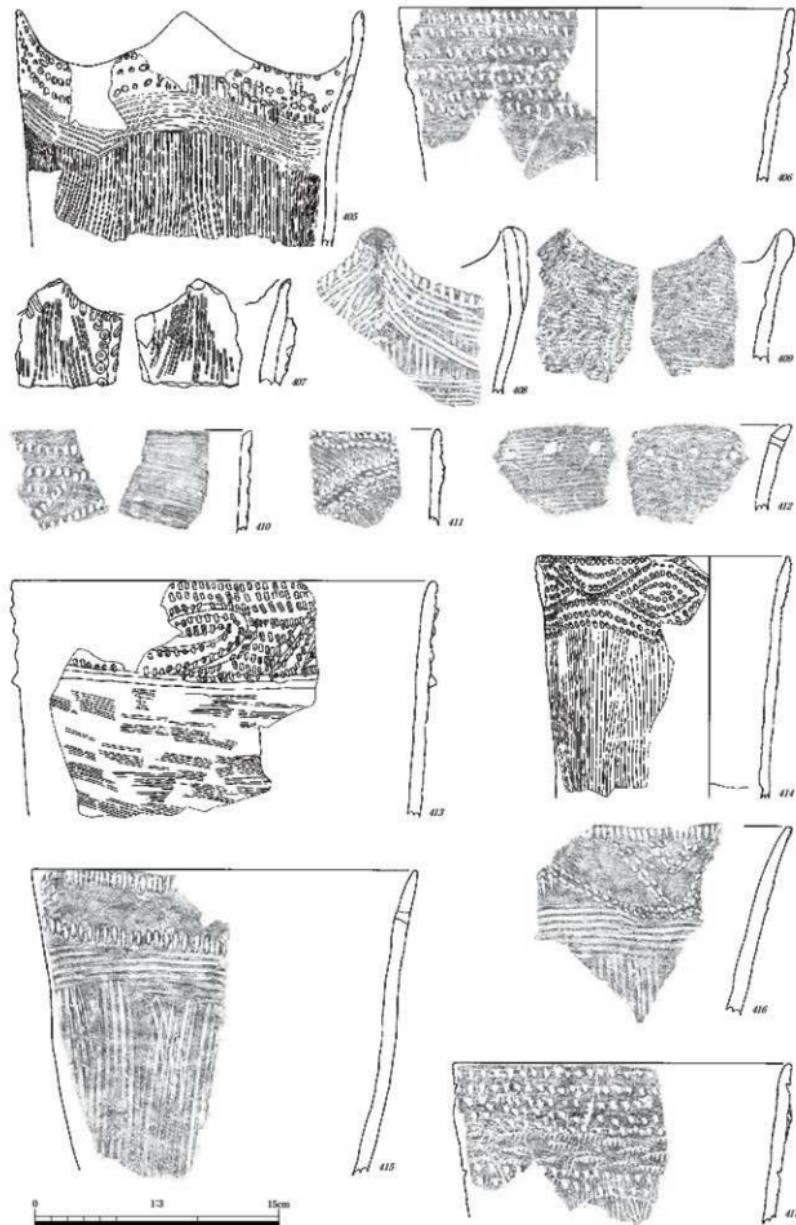
第59図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



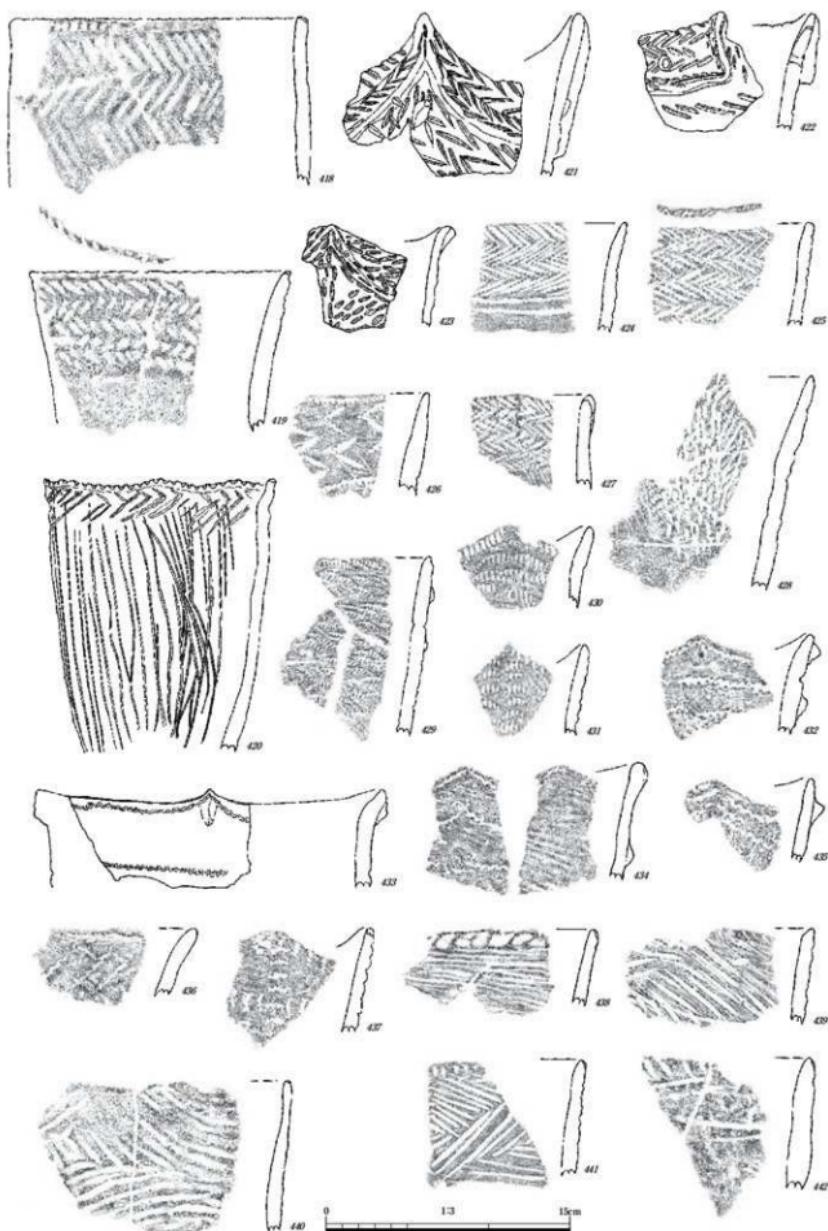
第60図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



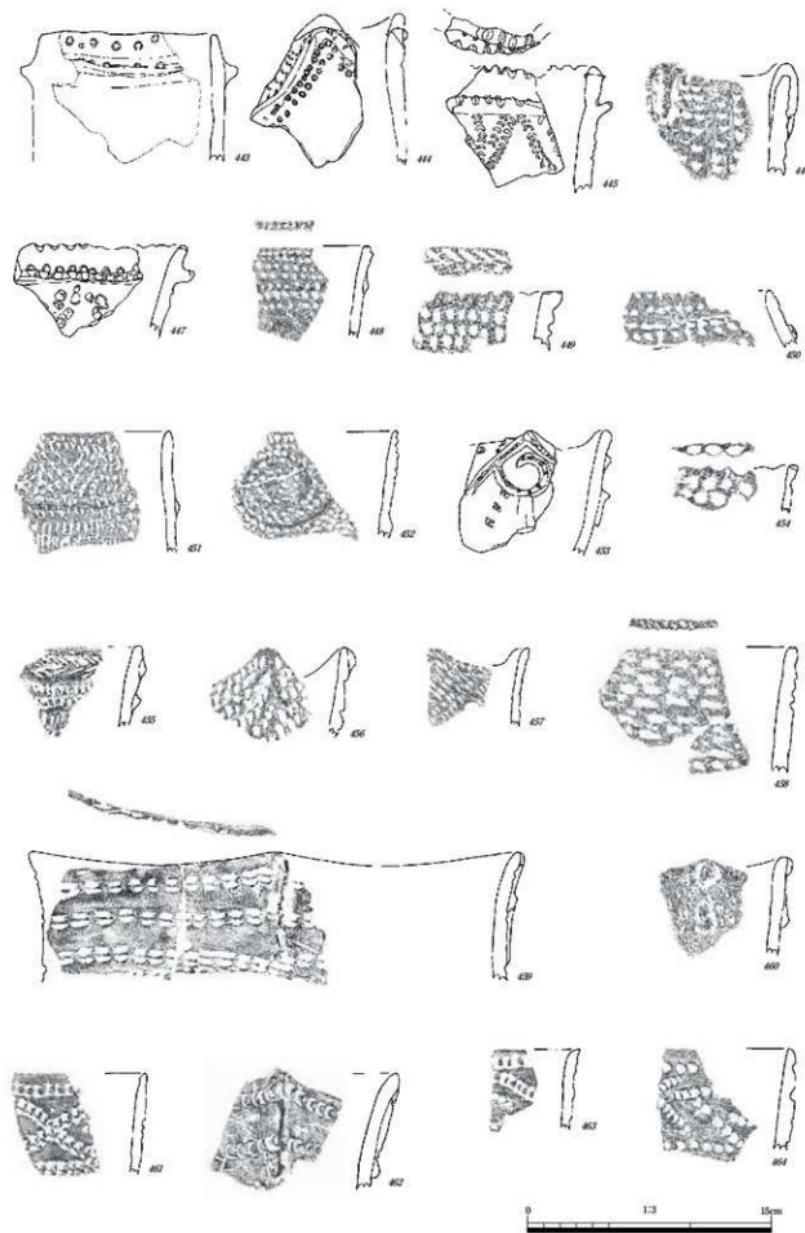
第61図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



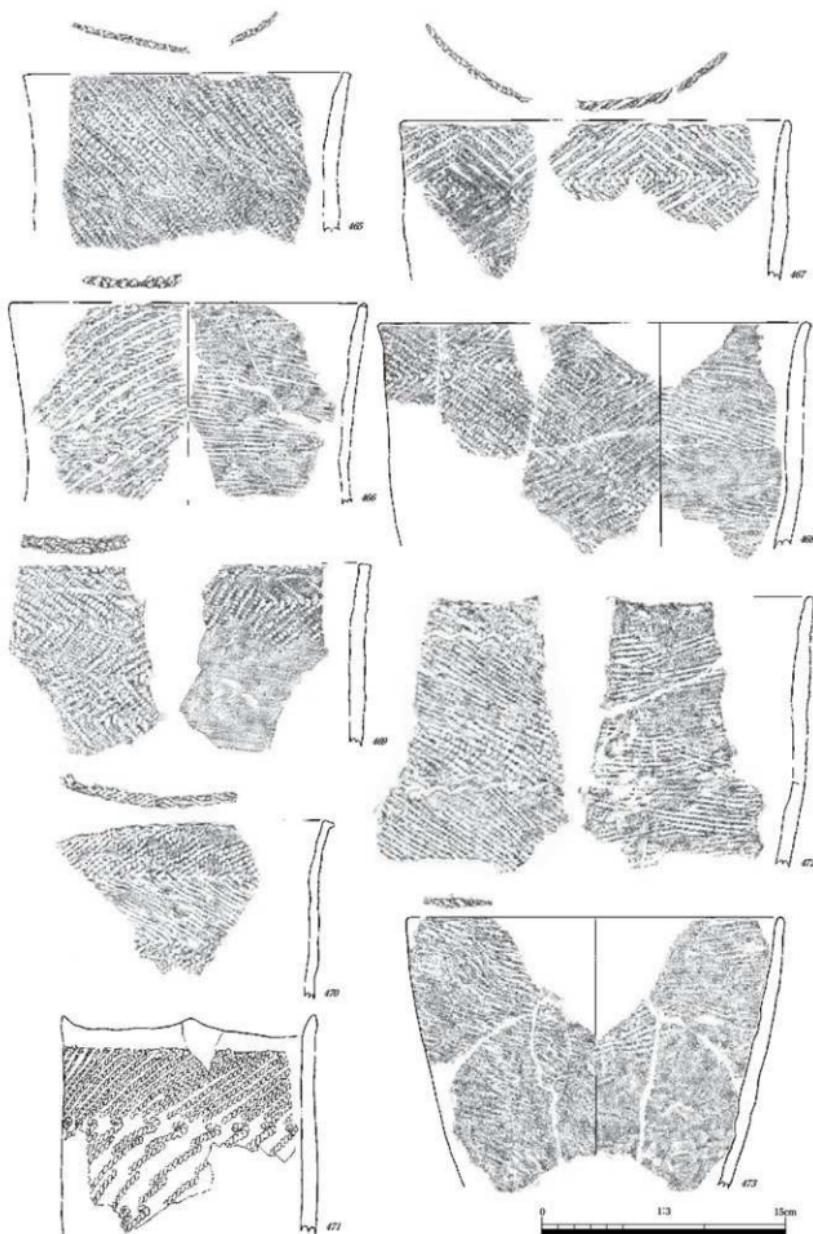
第62図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



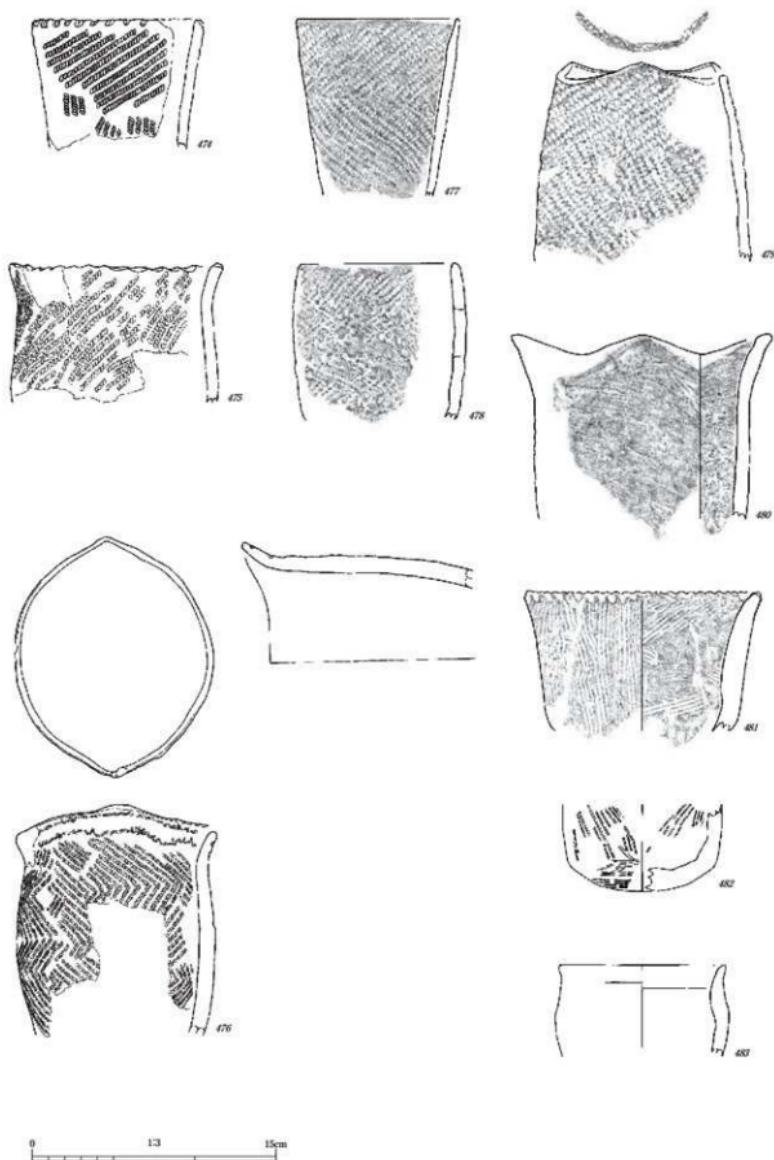
第63図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・極楽寺式



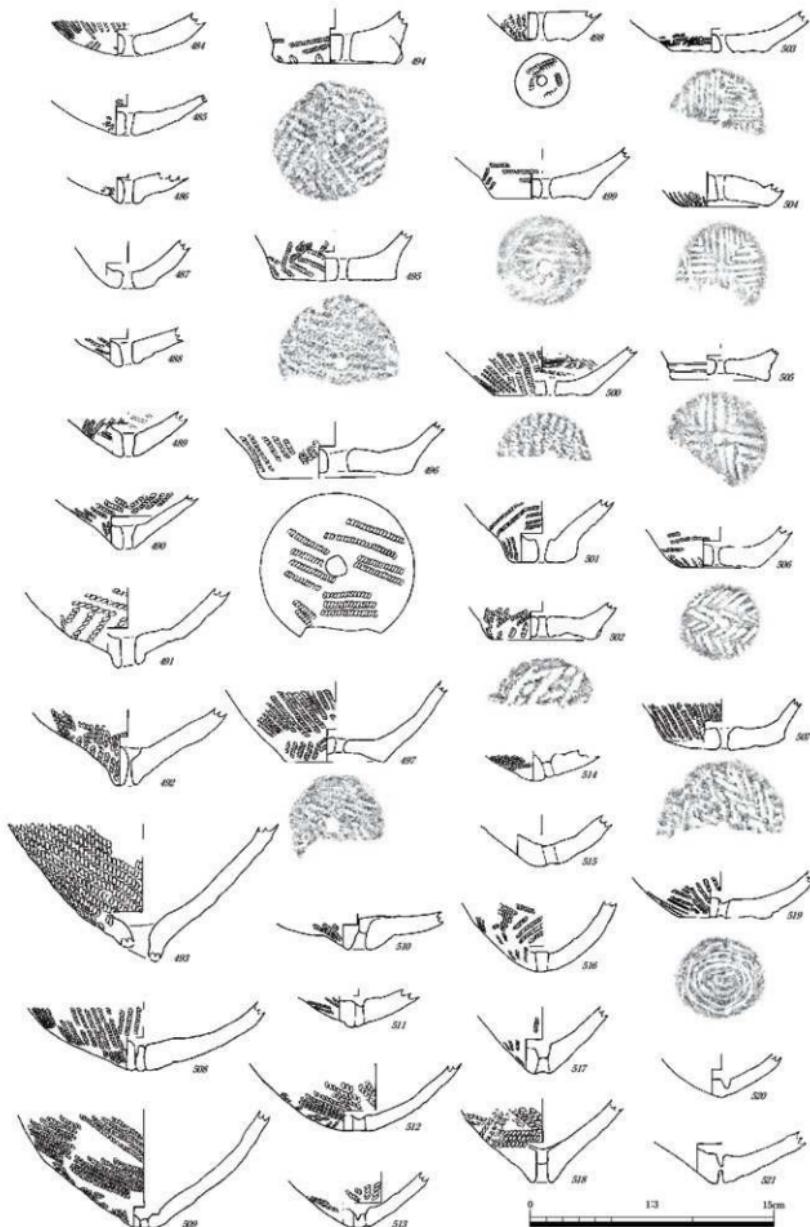
第64図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



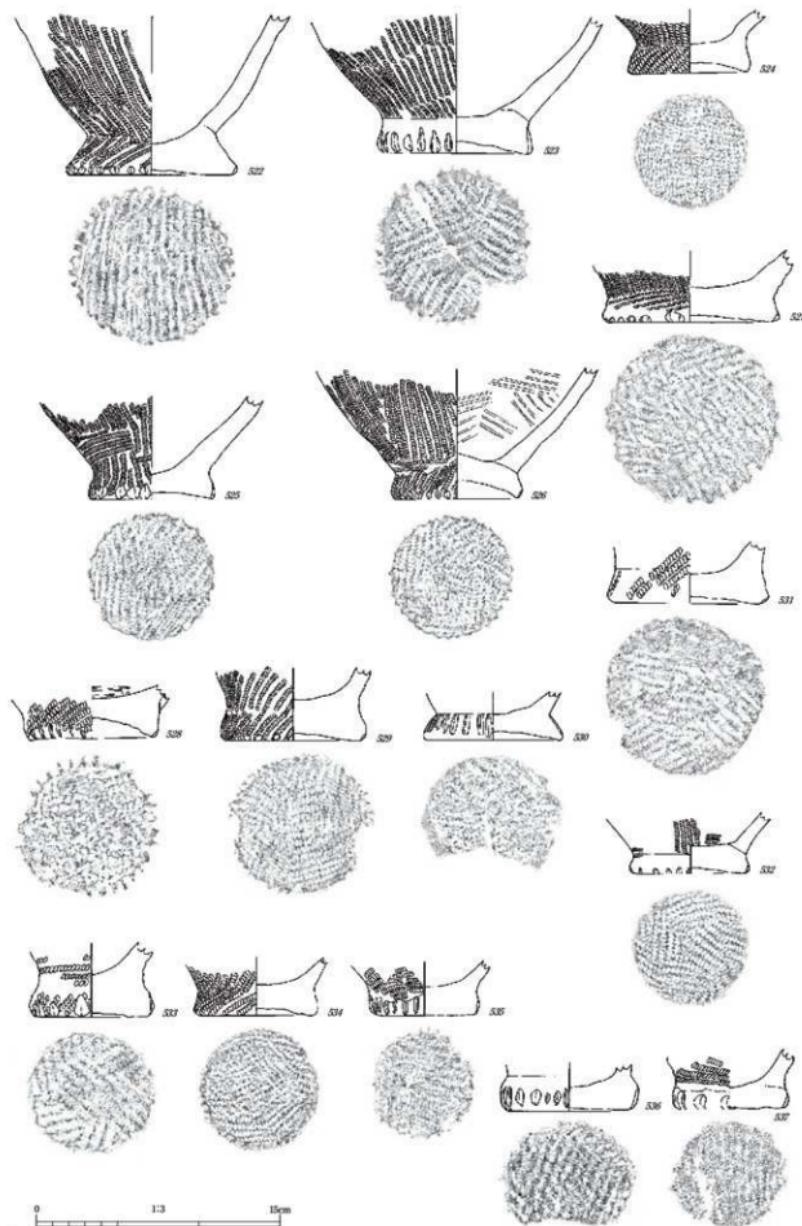
第65図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・極楽寺式



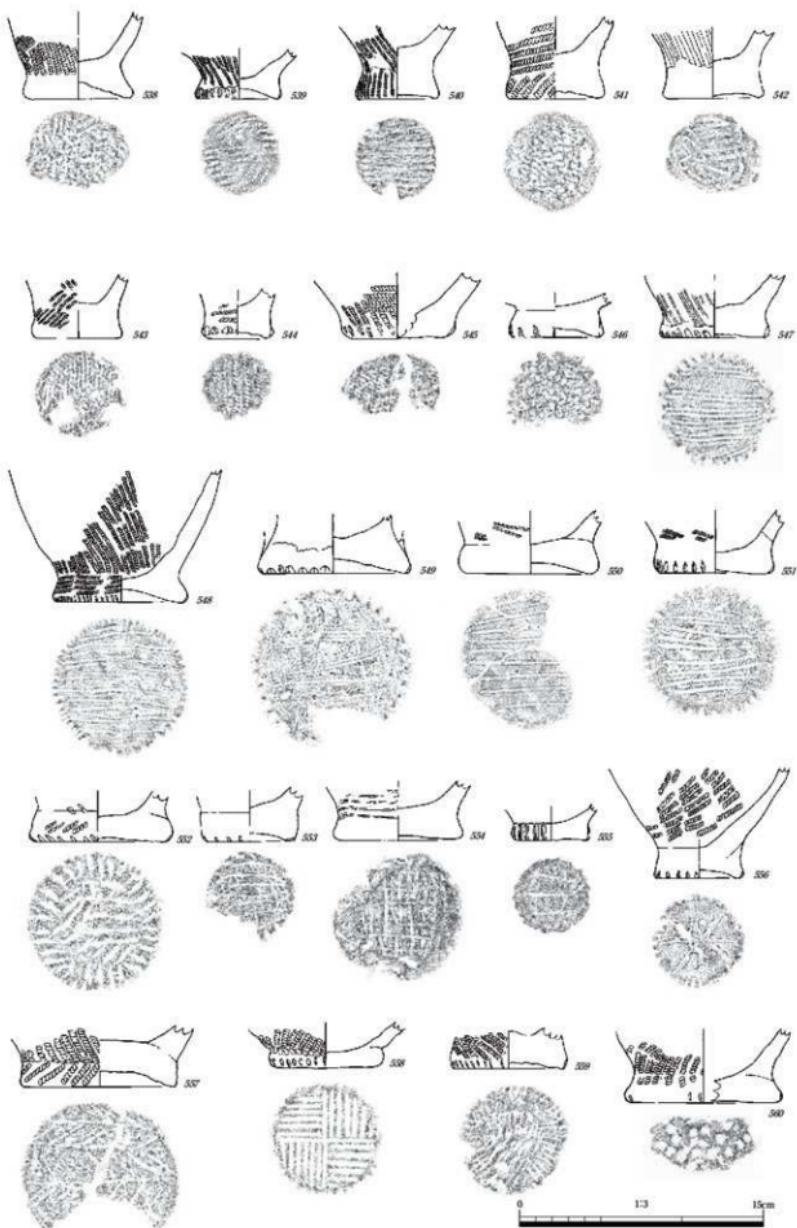
第66図 桶文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



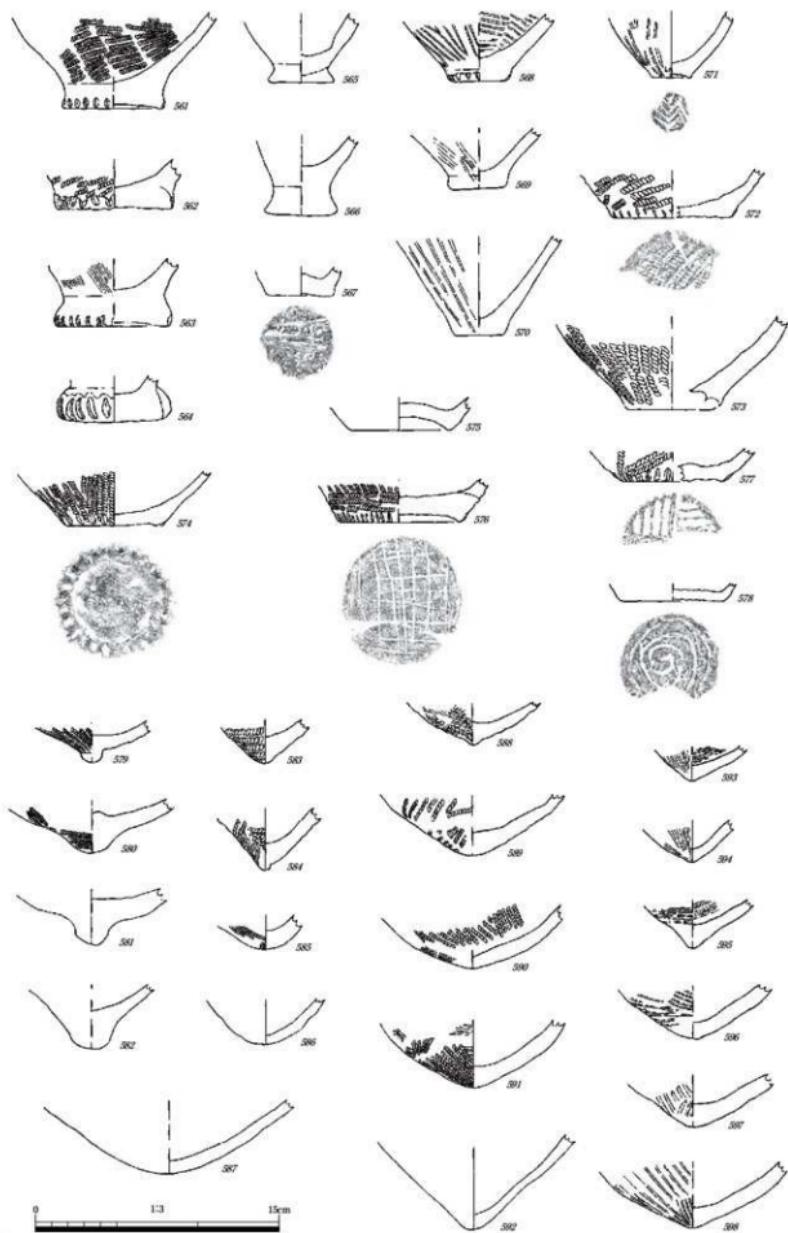
第67図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



第68図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐渡・極楽寺式



第69図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式



第70図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 佐波・極楽寺式

b 東海条痕文系土器 (599~760, 第71~83図, 図版35・36・77~81)

東海地方を中心とし、近畿から関東南西部にかけての広い範囲に分布する。本遺跡では、柏畠式から、上ノ山式、入海式、石山式、塙屋中層B式、天神山式、桶廻間式、木島式、中越式に至るまで、各土器型式がほぼ途切れることなく連続と出土している<sup>注3</sup>。柏畠式～桶廻間式が早期後半、木島I・II式が早期末、木島III式～木島X式、中越式が前期初頭～中葉に位置づけられており、これらの詳細な編年にはあわせて、各地域の土器型式間の併行関係についても多く論じられている。本遺跡では、これら外来土器と、外來土器の影響を受けてつくられた在地土器が出土している。

**柏畠式 (599~608)** 器壁の薄いくりで、器表面が暗赤褐色を呈する硬質な焼成である。胎土には纖維のほか、石英、雲母を含む。深鉢は口縁部に大きな突起をもつ波状口縁 (599~602) と平口縁 (603) がある。波状口縁深鉢は胴部から口縁部にかけて直線的に外傾し、皿状、帽子状等の大きな突起をもつ。器面調整は内外面とも貝殻条痕や擦痕を施し、器面に直接刺突を加える。603は逆U字状の隆帯をもち、隆帶上にも刻みを入れる。608は柏畠式類似の在地土器で、外面には貝殻条痕と棒状工具による下方からの刺突穴がある。

609~617は貝殻条痕や擦痕を施す深鉢、618~624は深鉢底部で、柏畠式～入海式段階のものと考えられる。609・611・613・615・616・618・619は器壁の薄いくりで胎土に黒雲母や角閃石を多く含むといった特徴から外來土器に、他は東海系類似に比定しておく。

**上ノ山式 (625~636)** 柏畠式と同様の、器壁が薄く硬質なつくりである。器表面は灰黄褐色や暗褐色を呈するものが多い。胎土には纖維、石英、雲母のほか、白色粒を多く含む傾向にある。深鉢は胴部から口縁部にかけて直立し、口縁部が僅かに外反する器形である。平口縁を主体とするが、波状口縁 (628・633) もみられる。器面は内外面とも貝殻条痕、擦痕を施す。口縁部には、ヘラ状、指頭状の施文具を用いて、上端面や、内外両側から連続刺突を施す。口縁部直下には隆帯を1条巡らせ、隆帶上をヘラ状施文具で連続刺突し (625~629)、また指頭状施文具で上下交互押捺する (630~636)。625は隆帯下の器面に、斜位の貝殻腹縁刺突を加える。

**入海式 (637~686)** 土器の胎土、色調、焼成は上ノ山式と同様である。深鉢は胴部から口縁部にかけて直立し、口縁部が僅かに外反する器形である。平口縁のほか、緩やかな波状口縁がある。口縁部に巡らせる隆帯の帯数や刺突の形状等により、入海0式、入海I式、入海II式に細分されている。器面調整は上ノ山式と同様に貝殻条痕と擦痕がみられるが、入海II式段階では擦痕のみとなる。

入海0式 (637~646) は、上ノ山式同様の上下交互押捺を加えた隆帯を、口縁部に複数条巡らせるものである。施文具は、指頭状 (637~641・643・644)、棒状 (642・645)、ヘラ状 (646) がある。

入海I式 (647~663) は、口縁部に複数条巡らせる隆帯上の刻みが、単方向からの刺突となる。施文具は指頭状がなくなり、棒状 (649・651・656・661・662)、ヘラ状 (647・648・650・652~655・657~660・663) に限られる。隆帶には高さがあり、断面に隆帶の貼り付け痕が観察できるものが殆どである。648・656は口縁部に突起が付く。661・662は2条目の隆帶を波状に巡らせるもので、同一個体の可能性がある。

入海II式 (664~686) は、口縁部に刻みのある隆帶を複数条巡らせるが、隆帶は比較的低いものとなり、刻みの間隔は密になる。隆帶上に斜位の刻目を細かく施すものが多く、他の特徴としては刻目が鋭いもの (667・669・671・677)、隆帶上に加えて器面にもヘラ状刻みを施すもの (666・668・673・674・677)、隆帶下方から刺突をするもの (681・683・684) がある。これらの中でも、低い隆帶上に非常に密な間隔の刻目を施すもの (682~686) については、入海式の中でも新しい段階のもの

<sup>注3</sup> 東海条痕文系土器の編年は、山下勝平 2008「東海条痕文系土器」『船窓・國宝』小林道雄編、森谷昌平 2008「篠原式・木島式・中越式土器」『船窓・國宝』小林道雄編に従う。

とされている。全体に波状口縁の深鉢が多いが、波頂部が双頭（665・673・681）、三頭（666）となるものがある。675の胎土は金雲母が多く混じる特徴的なもので、貝殻条痕や擦痕を施した資料として示した609・613・615・616・618・619がもつ胎土と共通する。

687～689は入海式類似の在地土器である。687は口縁部にヘラ状刻みのある隆帯を1条巡らせ、隆帯に沿って器面を棒状具で連続刺突する。688・689は、東海系の施文ではみられない縄文を胴部に施しているため、佐波・極楽寺式に含めるとする考え方もあるが、隆帯の施文技法や器形に東海系土器との類似を見いだせることを重視して入海式類似に含めた。688はLR縄文を横位施文し、口縁部に隆帯を2条巡らせる。口唇部内外と隆帯上には、棒状具による刻みを施す。胎土は入海式のものに近いが、白色粒や石英など砂粒の混入が多い。689はLR縄文を斜位・横位施文し、口唇部に隆帯を1条巡らせ、この直下に半弧状の隆帯を貼り付ける。隆帯上には、深い刻みを連続して施す。

**石山式（690～697）** 入海式と同様の、器壁が薄く硬質なつくりである。胎土は、繊維、白色粒、石英、雲母を含んでおり、中には金雲母の微細粒を多く含む特徴的な胎土（690・693～697）もみられる。690～697は口縁部を直立気味に立ち上げる深鉢で、口縁部をやや外反させるものもある。器面調整は擦痕が中心で、内面に指頭圧痕を残すものが多い。口縁部外面には爪形文を3条程度、横位に連続刺突するが、697は爪形文の連続刺突が斜行する。

**塩屋中層B式（698・699）** 698は緩やかな波状口縁の深鉢である。内外面とも器面を擦痕で調整し、内面には指頭圧痕を残す。口縁部外面には貝殻腹縁を2条押し引きする。699は内湾気味の深鉢口縁部で、卷貝を斜めに半回転させる施文を連続して施す。698は胎土、焼成とも石山式と同様であるが、699の胎土には海綿状骨針が含まれていることから、699は塩屋中層B式の影響を受けた在地土器の可能性がある。

**天神山式（700～702）** 700は横位波状の沈線文、701・702は貝殻腹縁による横位波状文を施す。胎土、焼成とも石山式や塩屋中層B式の外来土器と同じであるが、700の胎土には海綿状骨針が含まれていることから、天神山式の影響を受けた在地土器の可能性がある。

**楠廻間式（703～706）** 天神山式と同様の、器壁が薄く硬質なつくりであるが、胎土に繊維を含むもの（704・705）と、含まないもの（703・706）がある。また706は黒雲母を多く含む特徴的な胎土をもつ。いずれも口縁部直下に貼付隆帯を1条巡らせ、705・706は隆帯上を貝殻腹縁で刻む。

**木島式（707～755）** 器壁が薄く硬質な焼成で、暗赤褐色、暗褐色を呈する。器面には横位に連続する指頭圧痕を残す。胎土は白色粒や石英、雲母を含むが、総じて精良で、繊維を含まないものを基本とする。木島I式～木島X式に細分されており、木島VII式の資料が特に多く出土している。

**木島I式（707～711）** は、平口縁と波状口縁がある。いずれも口縁部に隆帯を横位に巡らせており、波状口縁の710は波頂部から隆帯が垂下する。隆帯上には刻みを入れ、707・709・711は口唇部も刻む。707の器面は、内面に指頭圧痕を残し、外表面は擦痕で調整する。707・708は器壁が薄く胎土に繊維を含まない外來の土器である。709～711の胎土は繊維を含んでいることから、木島I式の影響を受けた在地の土器と思われる。

**木島II式**は712の1点のみである。外面に隆帯を貼り付け、隆帯上に貝殻背圧痕を施す。器外面には擦痕、内面には横位に連続する指頭痕を残す。器壁の厚さは4mm程を測る、薄く硬質な外來土器である。胎土には繊維を含まず、微細な雲母のみを多く含む。

**木島III式（713～716）** は、外面に横位、鋸歯状、波状の隆帯を貼り付け、隆帯の上から貝殻条痕を斜位に施す。器壁の厚さは更に薄くなり、3～4mm位となる。713・714・716は硬質な焼成の外來土

器で、胎土には石英・雲母の微細粒を含む。715も同様な胎土を持つが、摩滅が著しい。

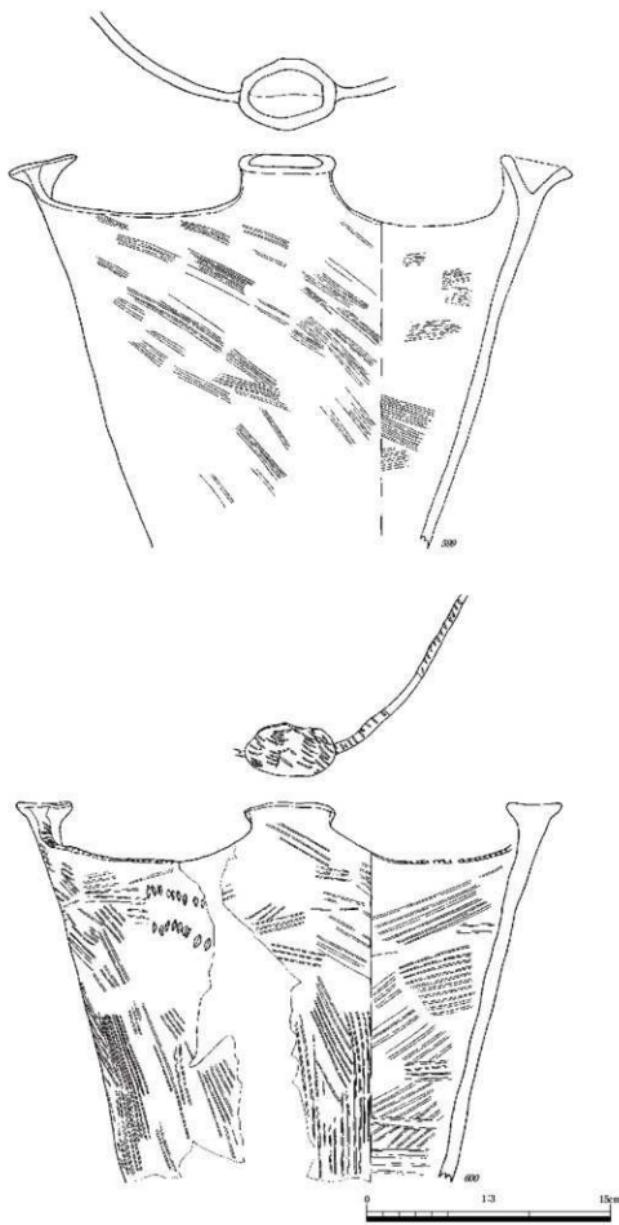
木島Ⅷ式（717～723）は、反りのある胴上部から、口縁部が短く内屈、あるいは直立する平口縁をもつ器形を中心とする。717は、口唇部から垂下する短隆帯を波頂とする、緩い波状口縁となる。口縁部と胴上部の境には屈曲を持たせており、屈曲部には棒状具で刻みを加えたり指頭で摘んだ隆帯を巡らせる。小型の719は、口縁部外面に粘土を貼り付けて段をつくり出し、段の境を人の爪で連続して刻んでおり、布目式の施文技法と共に通する。外面の施文は、櫛歯状条痕を斜位に施すものと、無文で、連続する指頭圧痕を残すものがある。胎土は白色粒、石英、雲母が混じるものが多い。胎土に海綿状骨針を含む718・722、器壁の厚い723は、木島Ⅸ式類似、あるいは在地の土器である可能性が高い。

木島Ⅸ式（724～744）は、木島式の中で最も資料数が多い段階である。口縁部外面の施文は、櫛歯状や半截竹管状の施文具で斜位に沈線を入れるものと、無文で、連続する指頭圧痕を残すものほか、斜位の強い指頭ナデを施すもの（734）がある。739の口縁部外面には、斜繩文と思われる圧痕が摩滅するものの薄く残るのがみられることから、布目式の影響を受けたものか在地の土器と考えられる。胴部施文は口縁部とはほぼ同じであるが、730には竹管状工具による縱横の沈線を引く。屈曲部には、棒状具やヘラ状具で刻みを加えたり指頭で摘みを入れたりした隆帯を巡らせる。また、隆帯と器壁が密着する隆帶上端面についてても、隆帶に沿って指頭や爪で刻むものがあり（726・738・739）、布目式の影響が見受けられる。743・744は外面に連続する指頭圧痕を残す胴部破片で、744の内面には横方向の強いナデが加えられるが、いずれも断面に粘土の輪積み痕を残す。胎土は木島Ⅷ式と同様であるが、海綿状骨針を含む731・735・738～741・744、繊維を含む732・733・743・744、白色粒や石英を特に多く含む734、厚手の737は、木島Ⅸ式類似、あるいは在地の土器である可能性が高い。

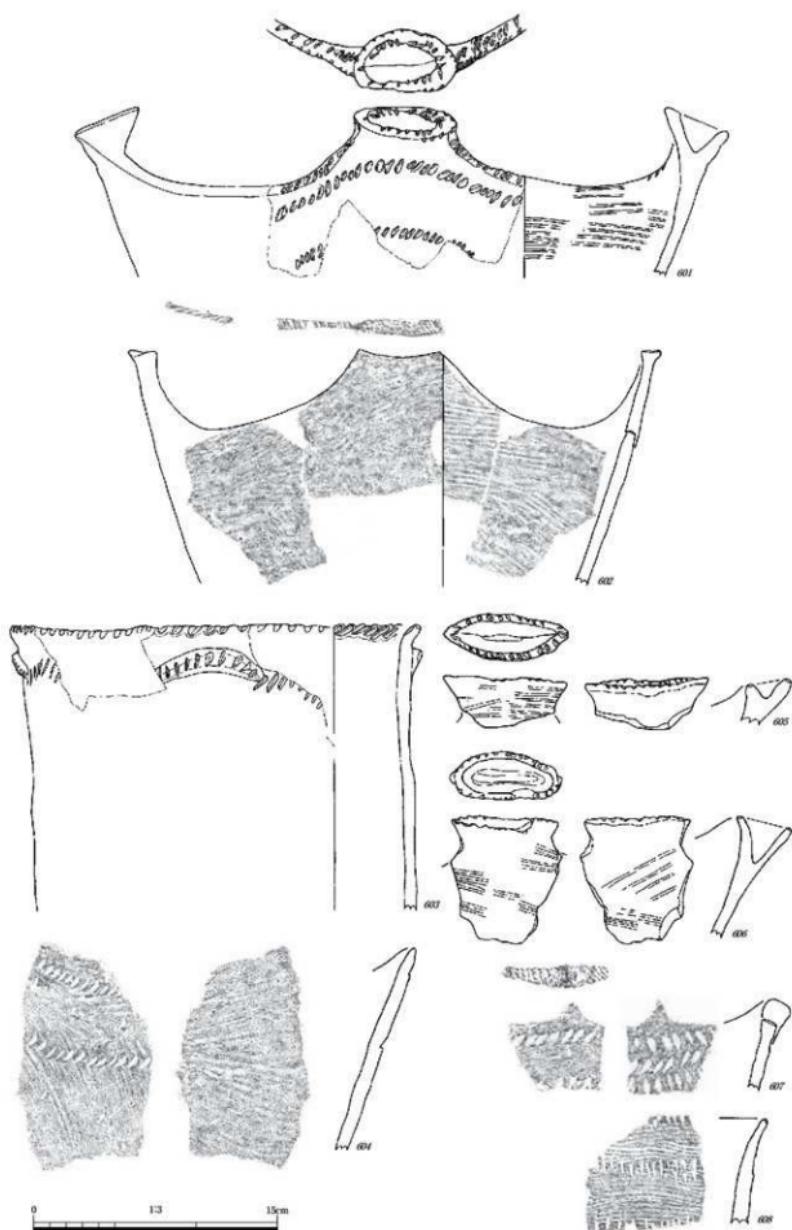
木島Ⅹ式（745～750）は、前段階に比べて資料数が少なくなる。745・748～750は口縁部が短く屈曲して立ち上がる。口縁と胴部の境の屈曲部に巡る隆帯の高さは、低いものに変化しているようである。746・750の外面には、半截竹管状工具で斜位の沈線を引く。746は胎土が精良で焼成も良好な外來土器である。胎土に海綿状骨針を含む745・749、海綿状骨針と繊維を含む750は木島Ⅹ式類似、あるいは在地の土器と思われる。

751～755は胎土に繊維や骨針を含むものが多く、木島式類似や在地の土器と考えられるものである。751は厚手の在地土器で、口唇内面と隆帶上に刻む。752～755は内外面に指頭痕を残す。753の指頭痕は横位に連続するが752は不均等で、752には薄く擦痕のような調整痕が残る。753は口縁部が急角度で窄まっており、壺形の器形になるものであろうか。755の外面には、指頭で横位に押し引いたような調整が残る。

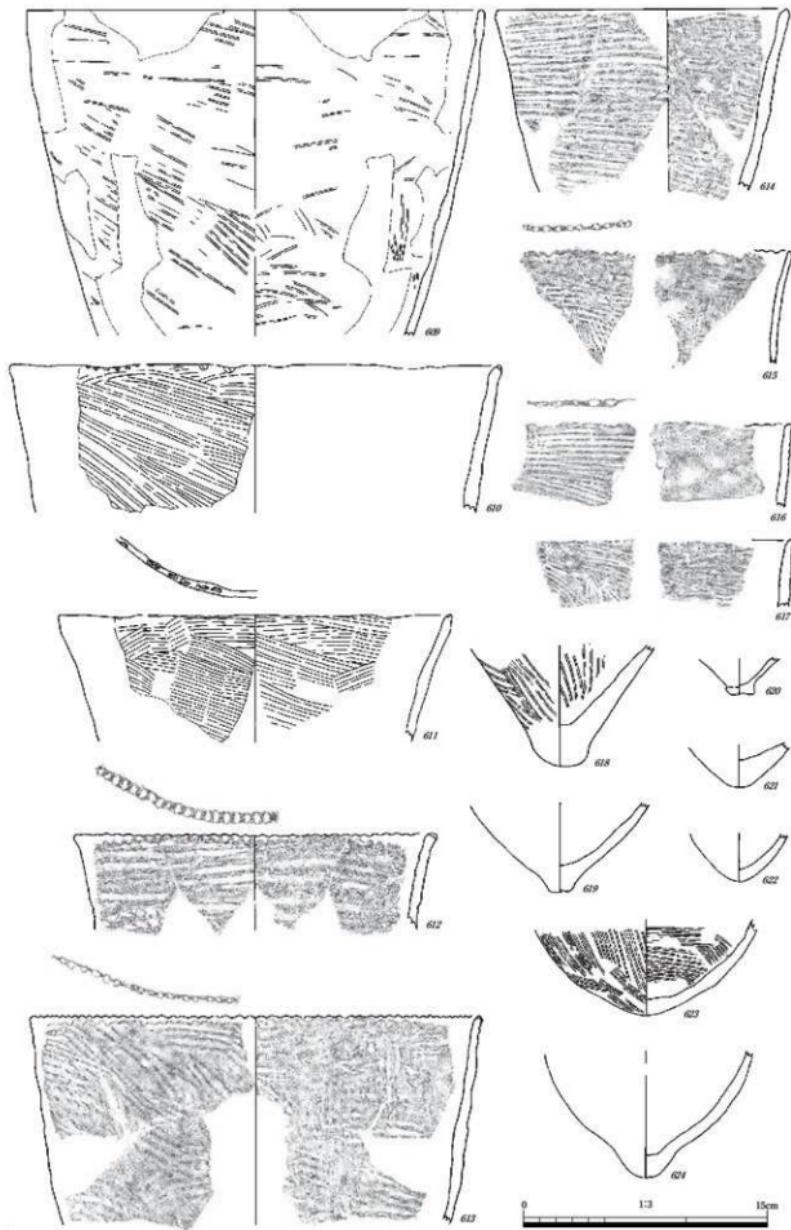
中越式（756～760） 長野県伊那谷・諏訪地方を中心に広がる土器型式で、木島Ⅸ式の影響下で成立したとされる。胎土は白色粒や石英を含むものもあるが少なく、全体に雲母の微細粒を多く含む傾向にある。756～759はいずれも繊維や海綿状骨針を含んでおり、中越式の影響を受けた在地土器と考えられる。外面には貝殻条痕を施した後、半截竹管状（756・757）、鋭い棒状（758）の施文具で格子目文を引く。759は草茎状の施文具で沈線文を施す。760は薄手の無文土器である。口縁部が緩やかに内湾しながら立ち上がる器形をもつ深鉢である。内外面とも丁寧な調整を施しており、擦痕は残らないが、断面とわずかに器表面に粘土の輪積み痕が観察できる。胎土は雲母の微細粒を含む精良なもので、硬質な焼成である。胎土に海綿状骨針を含むため、在地土器の可能性がある。中越式の、無文土器が増加する新段階に相当する土器と考えられる。



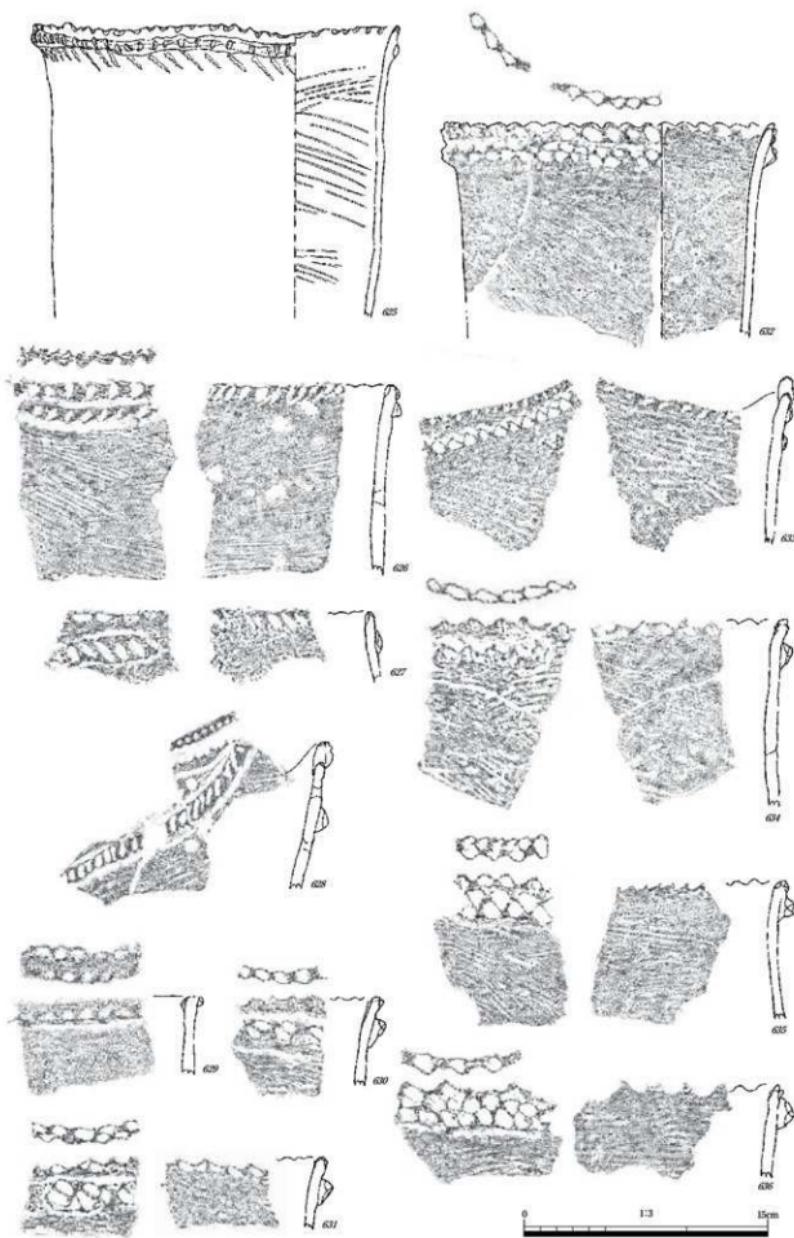
第71図 桜文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 粕烟式



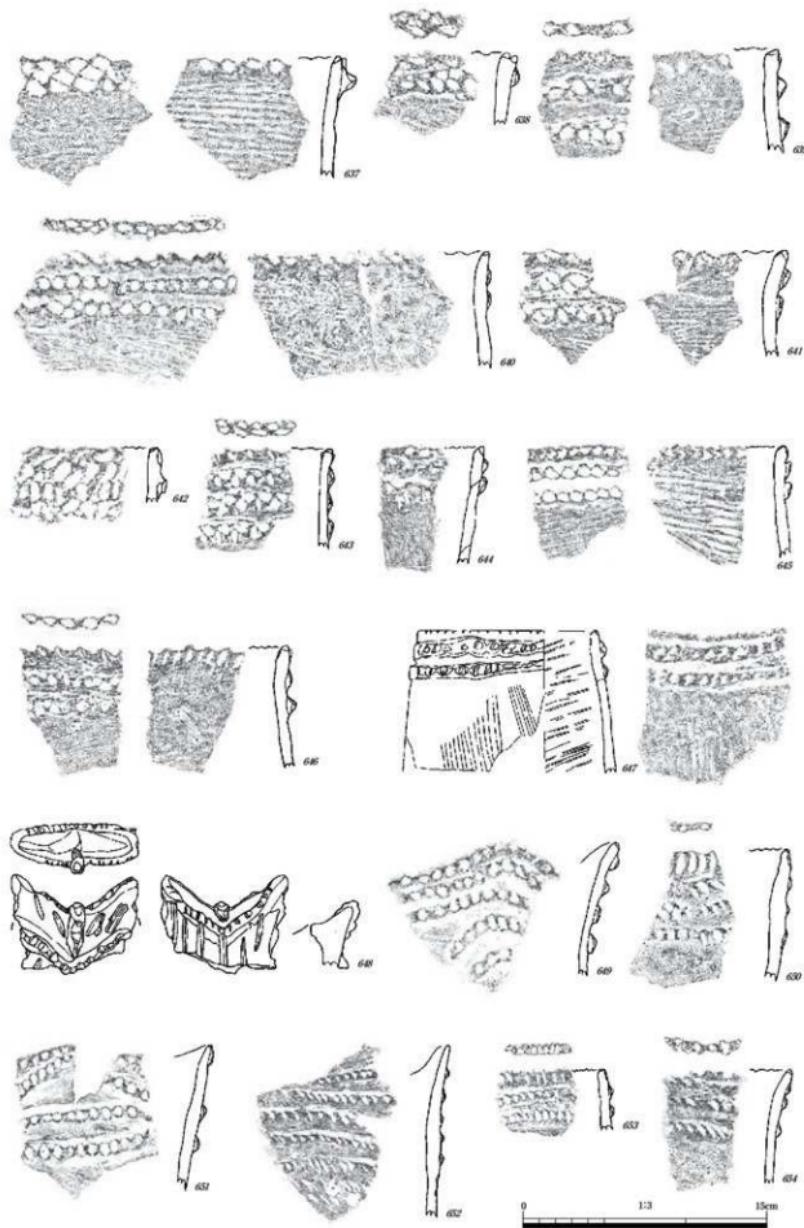
第72図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 柏畠式



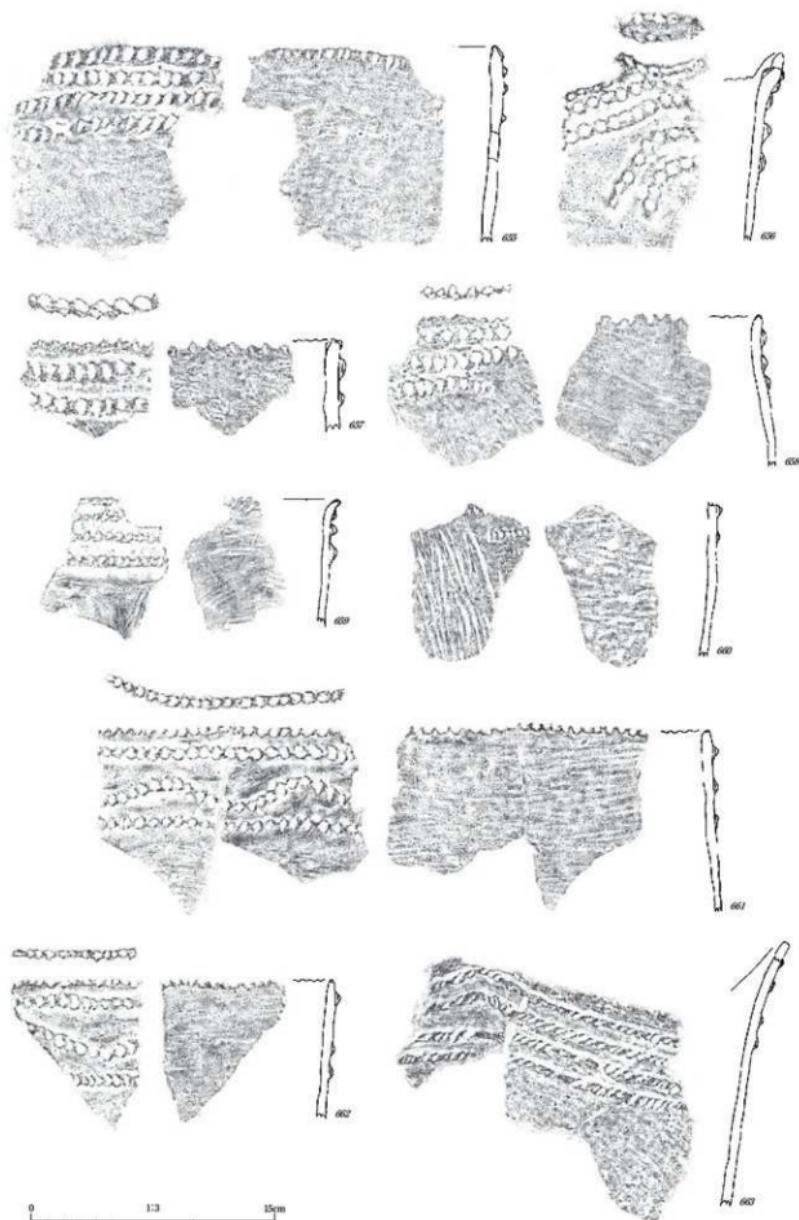
第73図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 東海条痕文系



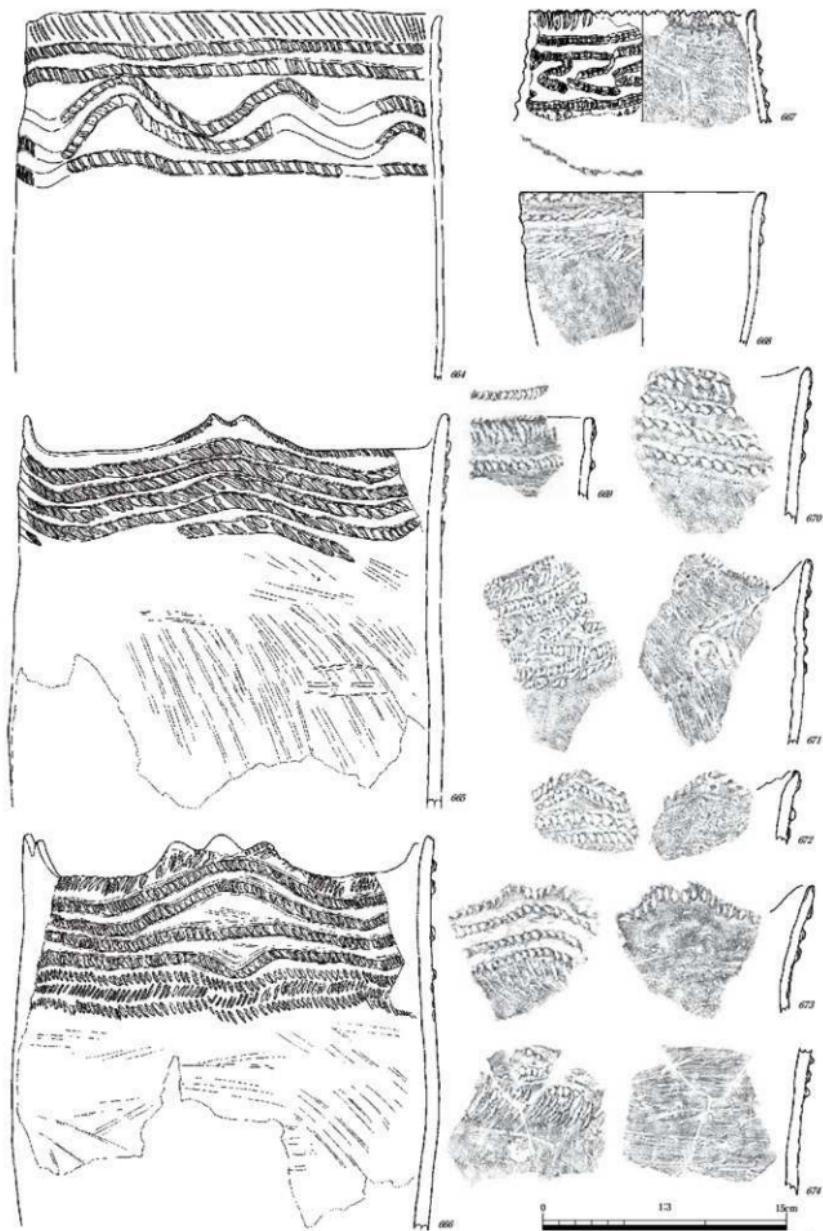
第74図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上ノ山式



第75図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 入海式



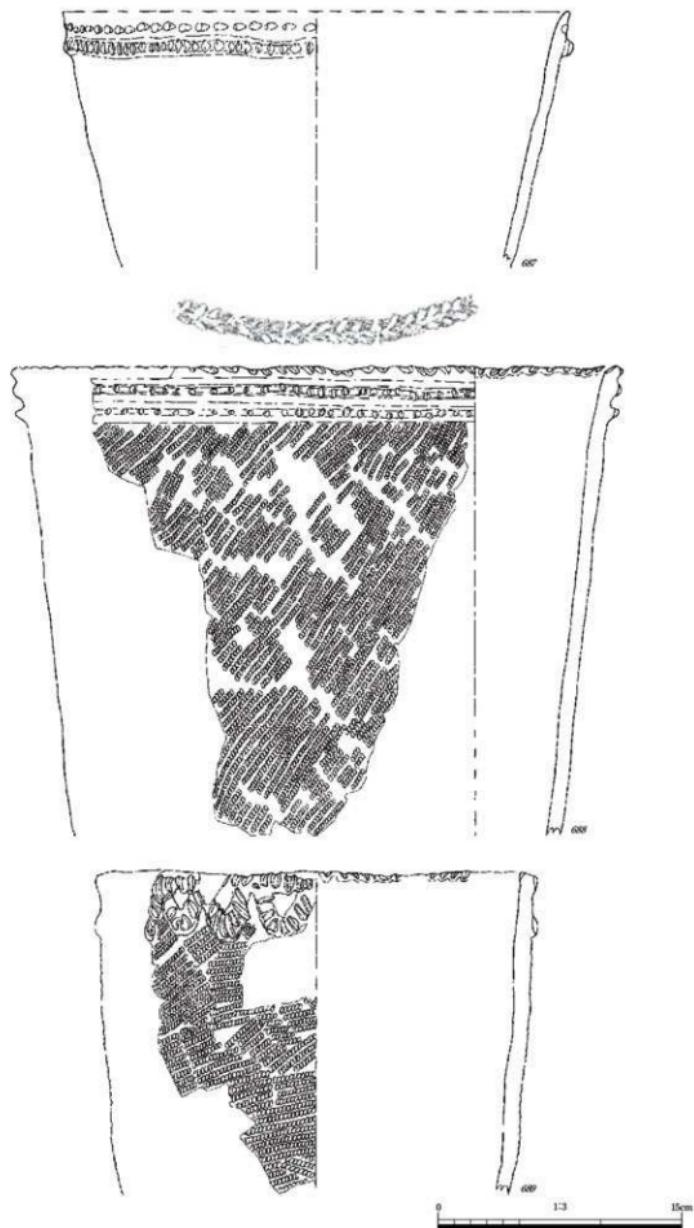
第76図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 入海式



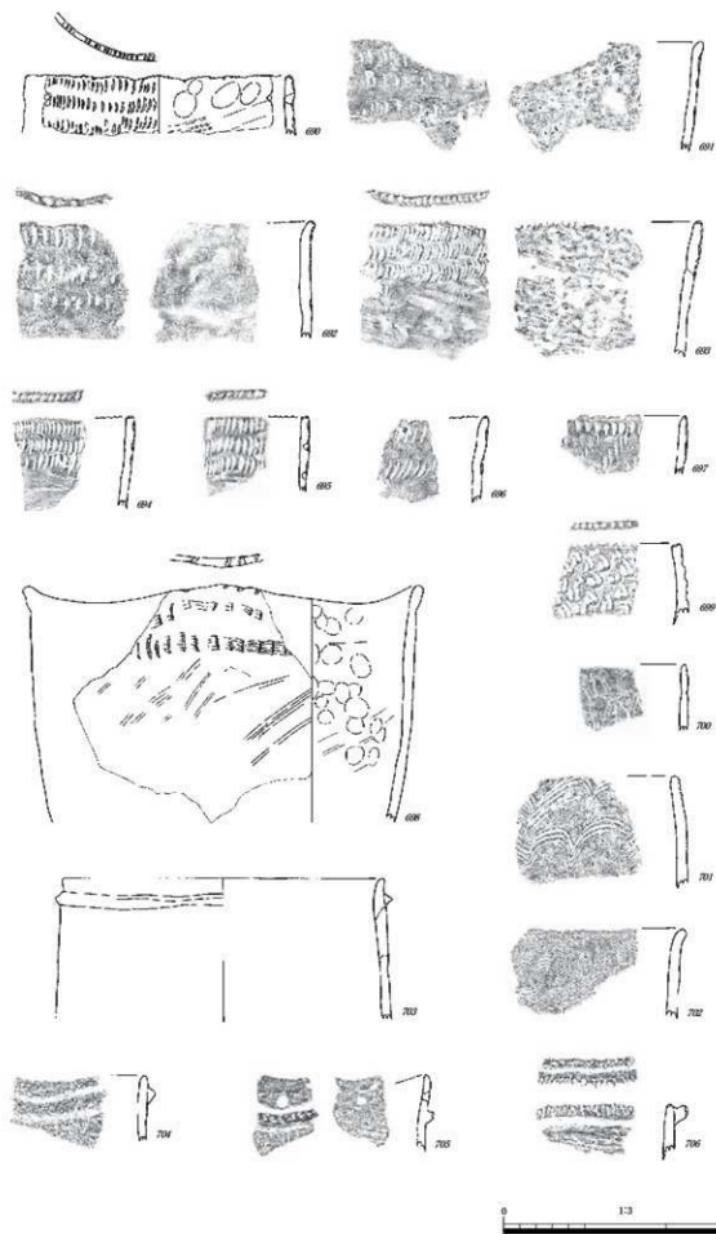
第77図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 入海式



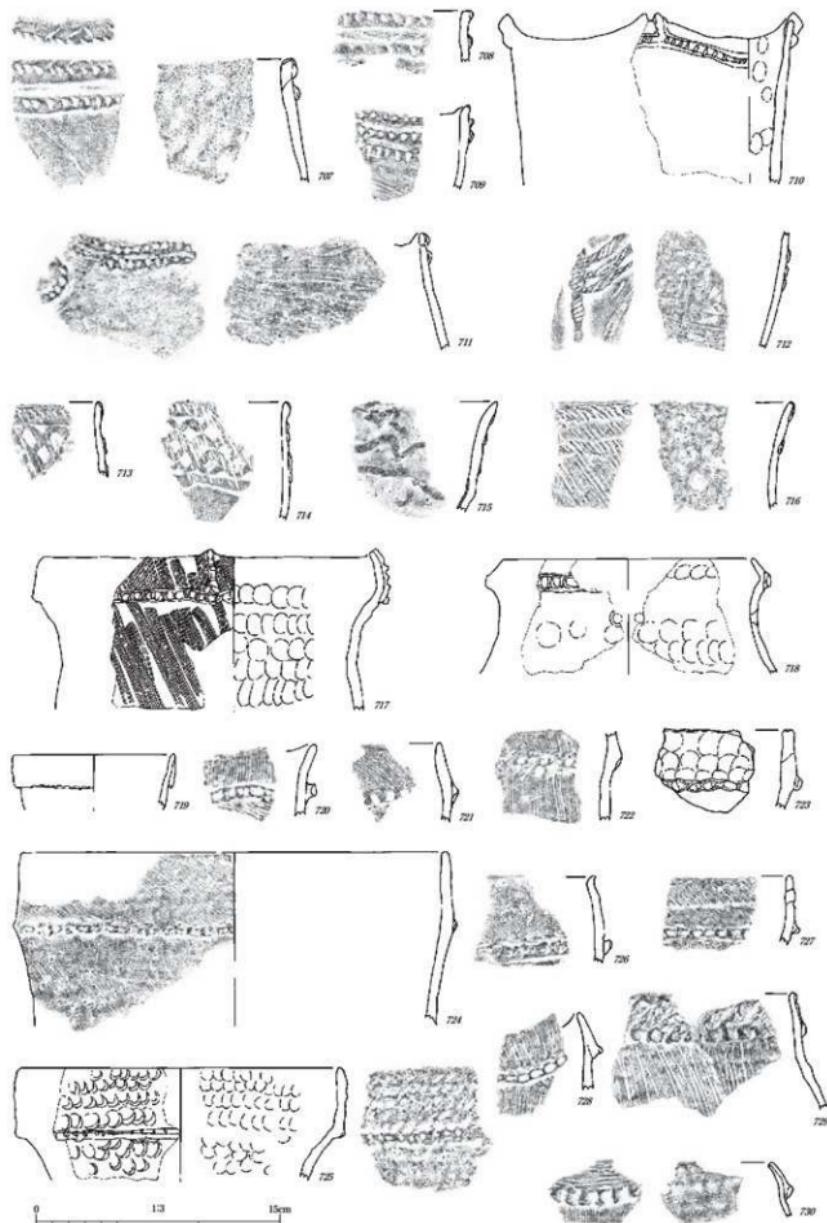
第78図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 入海式



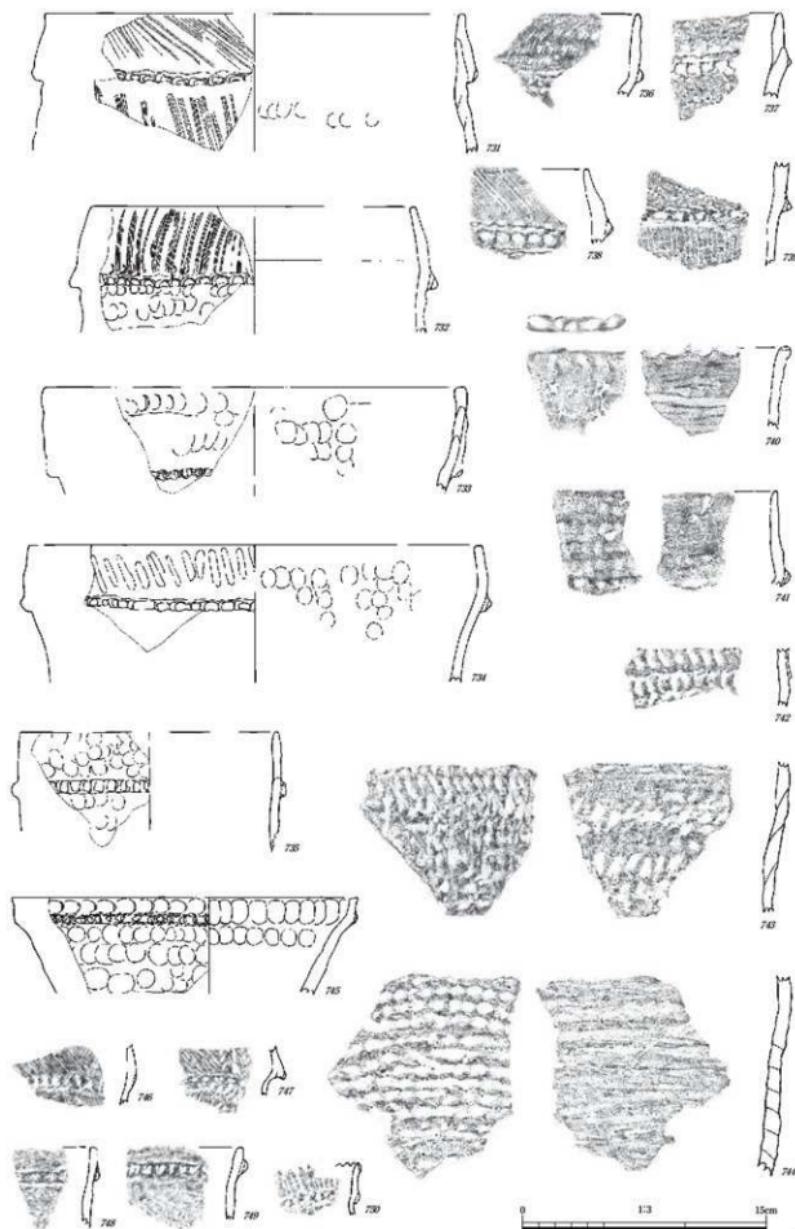
第79図 桶文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 入海式類似



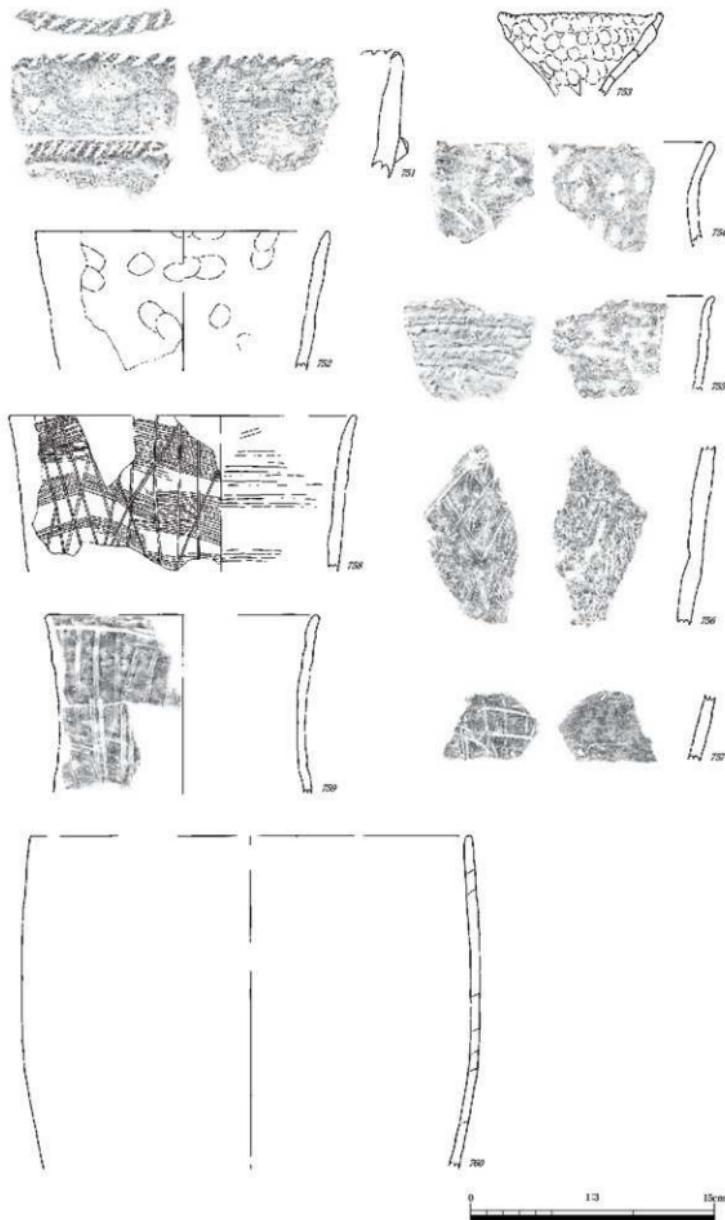
第80図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石山式 塩屋中層B式 天神山式 植垣間式



第81図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 木舟式



第82図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 木鳥式



第83図 桜文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 木鳥式 中越式

## c 神之木台式・下吉井式・花積下層式 (761~825, 第84~87図, 図版36・82・83)

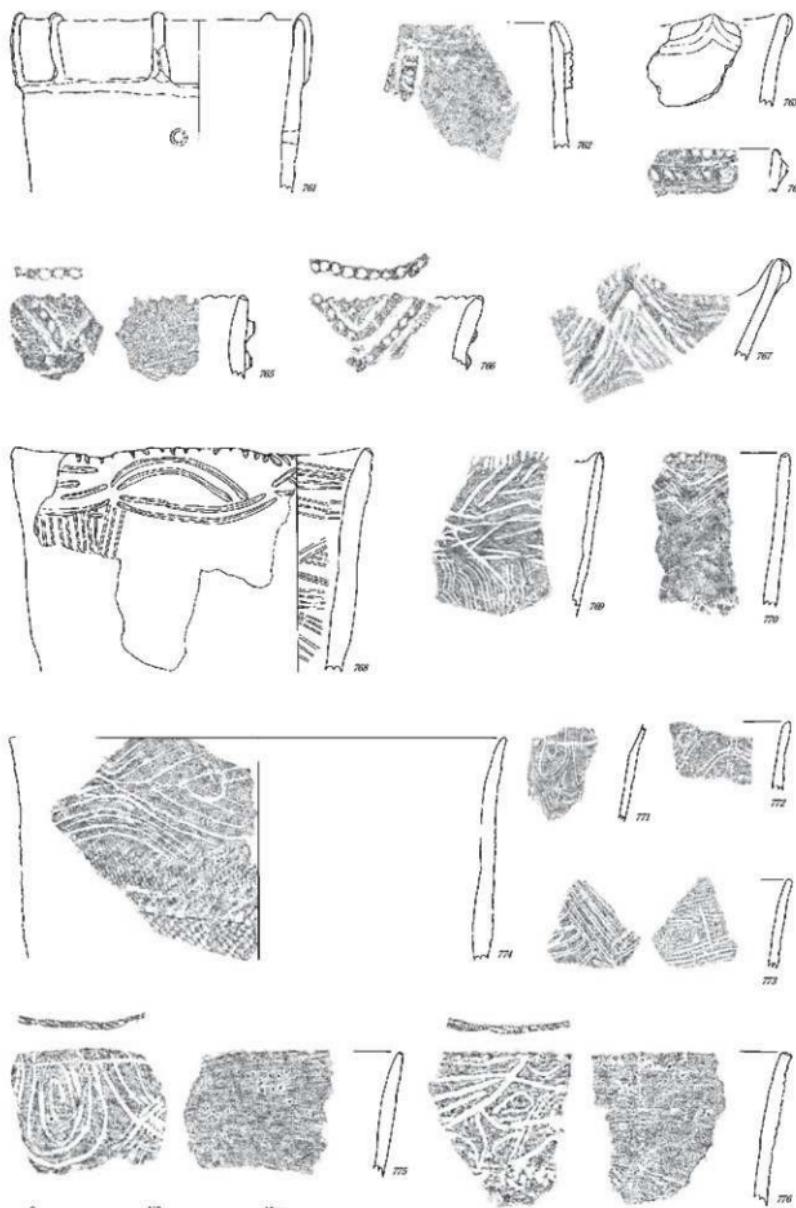
関東地方の遺跡を中心に設定されている土器型式である。神之木台式・下吉井式は条痕文系土器系譜の最終段階である早期末～前期初頭に位置づけられており、東海地方東部から関東地方西南部の比較的狭い範囲を分布域とする。<sup>花積下層式</sup>は東北地方の羽状縄文系土器の系譜を引き、前期前半に位置付けられる土器型式で、関東地方を中心に広い分布域を形成する。

**神之木台式 (761~767)** 胎土に纖維を含む厚手の土器である。平口縁と緩い波状口縁の深鉢がある。口縁部に太い隆帯を巡らせ、761は口唇から垂下する短隆帯とつなげる。765・766は隆帯を鋸歯状に屈曲させて貼り付ける。762・764・766は隆帯上に刻みを入れる。765・766は外面にL R縄文、767は貝殻条痕がみられ、在地の土器である可能性が高い。

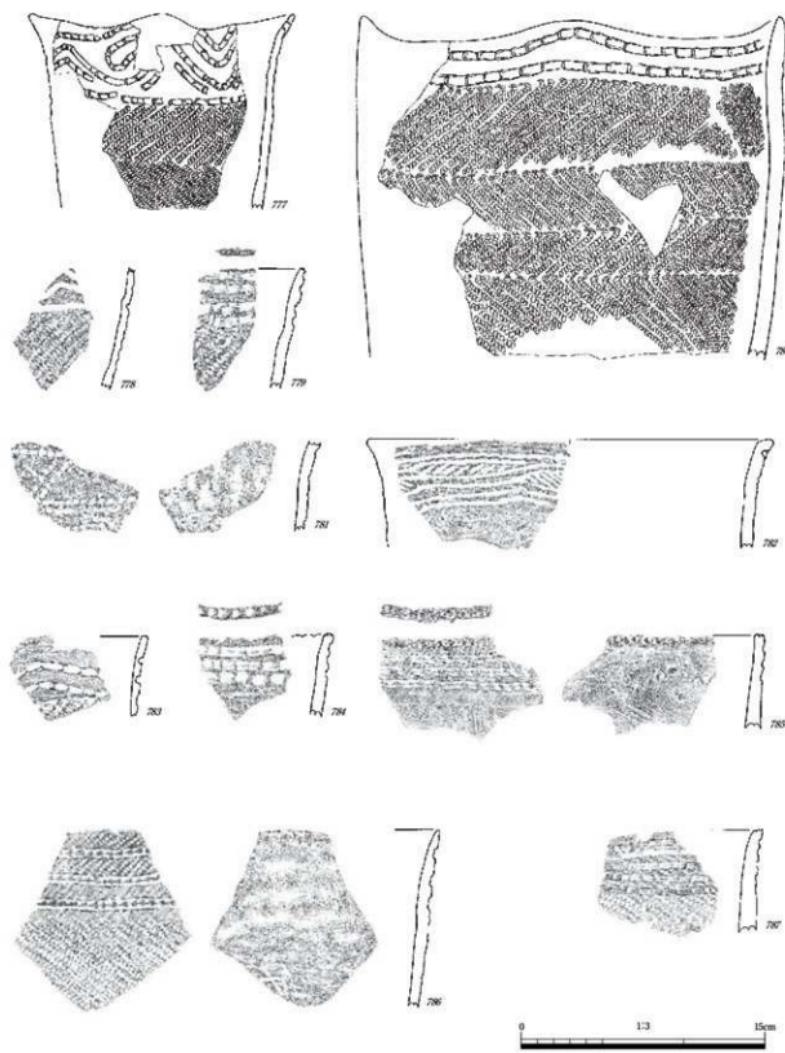
**下吉井式 (768~787)** 平口縁と緩やかな波状口縁の深鉢がある。口縁部に沈線や結節沈線を巡らせ、波状文、弧線文等を描く。沈線と結節沈線は、棒状や半截竹管状の施文具のほか、3本1単位の施文具(769下半)、草茎か貝殻(785)などを用いる。胴部施文は、花積下層式の影響により、縄文を施すものが多くみられる。777・780の胴部施文は非結束羽状縄文で、780は横位施文帶の上側に閉じた末端がみえる。器壁の薄いものと厚いものがあるが、どちらも胎土に纖維を含んでおり、雲母の微細粒も含むものが多く見受けられる(769・771・772・774~779・782・784)。このうち、777および777と同一個体と思われる778は外來土器、胎土に海綿状骨針を含む769~771・773・775・776・779~781・783~785や、長石などの白色粒を多く含む786・787は、下吉井式の影響を受けた在地土器である可能性が高い。

**花積下層式 (788~825)** 平口縁と波状口縁の深鉢がある。胴部に斜縄文や羽状縄文を施し、口縁部には撚糸側面圧痕で文様を描く。788~790は、胎土に纖維のほか雲母を多く含む外米土器である。788の口縁部には、撚糸側面圧痕による横長の菱形文と渦巻文を組み合わせて施し、間隙を棒状施文具による刺突で充填する。789は横位の非結束羽状縄文地に撚糸側面圧痕による渦巻文を施す。790は波状の口縁部から刻みのある隆帯が2条斜位に延びるが、隆帯両脇と隆帯間には、隆帯に沿わせて撚糸側面圧痕を施す。器面左端には撚糸側面圧痕による渦巻文の一部が残る。文様の間隙は棒状施文具による刺突文を入れる。788~790の内面には横位の擦痕がみられる。

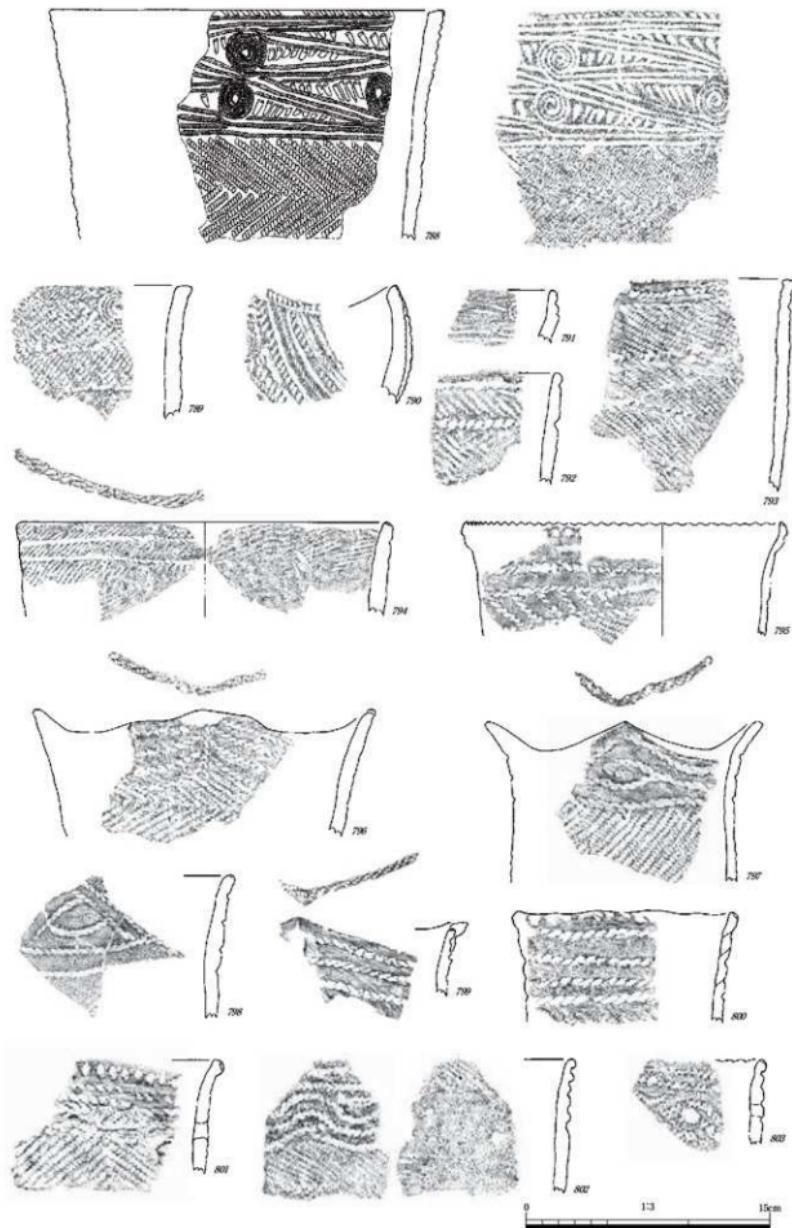
791~825は花積下層式類似、あるいは花積下層式の影響を受けた在地土器と考えられるものである。撚糸側面圧痕文があるものをまとめて示すが、第66図476のように、器形を重視して佐波・極楽寺式の中に含めたものもある。口縁部の狭い範囲に撚糸側面圧痕による施文があるもの(791~794)と、口縁部文様帶が拡大し、胴部にも撚糸側面圧痕による施文があるもの(795~825)がある。撚糸側面圧痕の文様は、横位に数条巡らせるもの、緩い波状、渦巻き状がある。817・818は同一個体と考えられるもので、下吉井式にみられる文様意匠が表現されている。819・821の文様の間隙には、棒状施文具による刺突文を施す。土器の器壁には、厚いものと薄いものがあり、795・797・799・800・808・809など器壁の薄い土器の内面には、連続する指頭圧痕が残る。この他の内面調整にはナデや擦痕が多くみられるが、貝殻条痕(816)、口縁部に1段(794・802・803・813・817・818)や2段(814)の縄文を施すものもある。791以外は胎土に纖維を含んでおり、この他に長石などの白色粒、石英、少量の雲母、海綿状骨針などを含むものが多い。また824は、骨針を多く含む布目式に特徴的な胎土をもっており、隆帯の爪形刻みの施文技法も布目式に共通するものである。



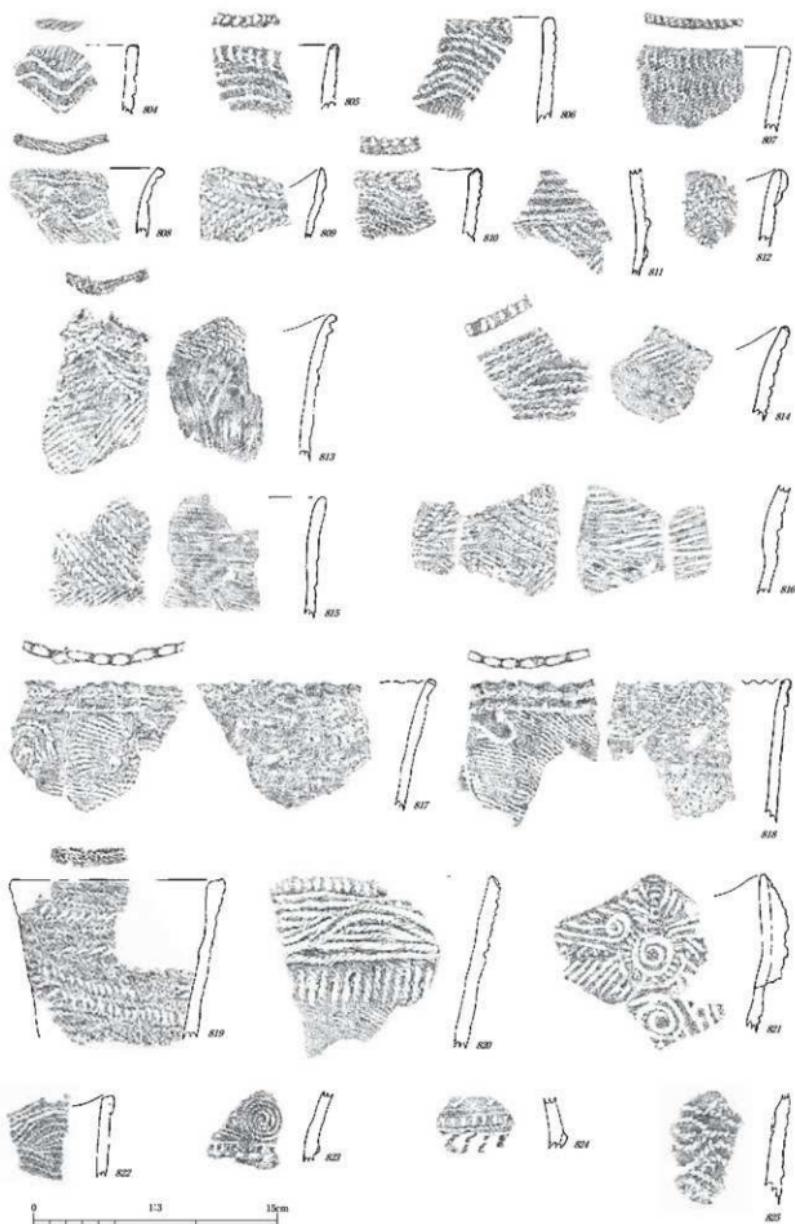
第84図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 神之木台式 下吉井式



第85図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 下吉井式



第86図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 花積下層式



第87図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 花積下層式

## d 絡条体圧痕文土器 (826~831, 第88図, 図版83)

早期末葉の中部地方から関東地方にかけて、広範囲に分布する。関東・東海系土器における茅山上層式や柏畠式～天神山式との併行関係、および細分化などが論じられている<sup>24</sup>。本遺跡では、小破片数点の出土に留まる。いずれも器厚約0.8～1cmを測る厚手の土器で、胎土には纖維、長石などの白色粒、石英を含む。826・827は口縁部破片、828は胴部破片であるが、胎土や絡条体の施文がよく似ており、同一個体の可能性がある。826・827は横位に3条絡条体を押圧し、その間に縦位の押圧を並べる。面取り風に整形した口唇部上面にも絡条体の押圧を施す。829・830は黒曜石と思われるガラス質の石粒を含む特徴的な胎土で、829には特に多量に含まれている。829は横位と斜位に、830は突起の周囲を菱形状に絡条体押圧をする。830・831は内面に条痕を施す。831は外面にも条痕を施した後、横位多条の絡条体押圧をする。

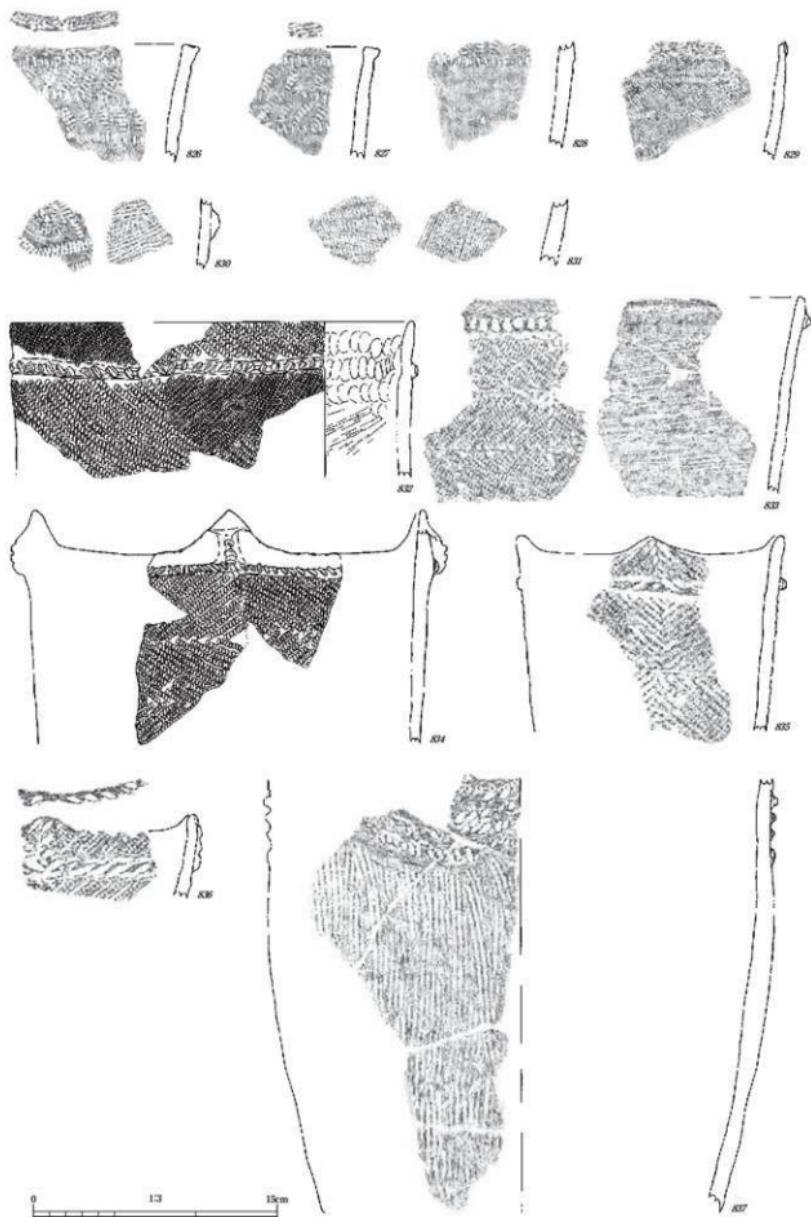
## e 塚田式 (832~836, 第88図, 図版83)

長野県御代田町塚田遺跡及び下弥堂遺跡出土土器を基準資料として設定された。口縁部の隆帯文等を特徴とし、前期初頭に位置づけられる。平口縁 (832・833) と波状口縁 (834~836) の深鉢がある。いずれも口縁部に刻みのある隆帯を1条横位に巡らせる。波状口縁深鉢は、横位に巡らせた隆帯が波頂部から短く垂下する隆帯とつながり、逆T字状となる。胴部には燃りの異なる2種類の原体による非結束羽状繩文を横位に施しており、多くは条が菱形構成をとるようである。繩文原体は0段2条 (832・836) と0段多条 (833~835) の2段があり、836は附加条である。832の繩文は、器面に現れる粒の大きいR Lと小さいL Rの組み合わせがみられる。833の口縁部はナデによる無文調整で、口縁部に巡る隆帯上の刻みは燃系側面圧痕によるもの可能性がある。内面調整は、832は指頭圧痕と擦痕、833は擦痕、他はナデである。器厚はいずれも0.8cm前後を測る。胎土は纖維、白色粒、雲母を含み、硬質な焼成のものが多くみられる。

## f 一乗寺南下層土器 (837, 第88図, 図版83)

関西地方から東海地方西部に分布すると考えられ、滋賀県弁天島遺跡、知多市楠廻間貝塚などで出土例が報告されている。特に楠廻間貝塚では天神山式土器に伴って発見されたことから、所属時期を早期末とする予測がなされている<sup>25</sup>。本遺跡では837の1点を確認した。口縁部は欠損するが、胴部が直立してやや膨らみを持つ器形である。調整は外側が縦方向の貝殻条痕で、内面はナデである。口縁部に4条の半弧状の隆帯を巡らせ、押しつぶすような刻みを加える。一番上に貼り付けられた隆帯に沿って、円形の竹管刺突を連続して施す。器壁は約1cmと厚く、胎土には直径1～3mmとやや大きい白色粒や透明度の高い石英等の石粒を多く含む。

註4 横田正実 1996「中央高地における繩文早期末期移動性住文化」[「長野県立歴史文化研究所紀要」第2号  
註5 牧野俊哉 2000「知多市楠廻間貝塚発見の一乗寺南下層土器」[「伊勢湾考古」19 知多考古研究会



第88図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 線条体压痕文土器 塚田式 一乘寺南下層土器

## g 布目式 (838~1068, 第89~102図, 図版36・83~88)

新潟県卷町布目遺跡出土土器を標識とし、新潟県を中心とする日本海側に分布する土器型式である。富山県では現在に至るまでまとめた出土例がなく、未だ型式設定されていない。新潟県において、布目式は前期前葉に位置づけられており、本資料は、富山県小杉町南太閤山I 遺跡<sup>26</sup>の報文中、Z II 群とされた一群に先行する段階の土器群であると考えられる。

器種は深鉢を中心とし、僅かに小型の鉢がある。深鉢の器形は平口縁と波状口縁があり、いずれも口頭部に屈曲や段を有する。口頭部の段には、細かく刻みを入れた貼付隆帯を巡らせる。胴部は泡弾状に窄まり、尖底か丸底となるようである。文様は地文を中心とし、端正な幅狭文様帶が横位に展開する。土器の内面は削って平滑に調整しており、横方向の擦痕を残すものが多くみられる。器壁は5mm前後と薄く、灰褐色を呈する硬質焼成の土器が多い。胎土は纖維と多くの海綿状骨針を含むものを基本とし、白色粒や石英、雲母を含むものもみられる。

- |       |                                                              |
|-------|--------------------------------------------------------------|
| 分類 器形 | 深鉢A 平口縁で、口縁部に段があり、胴部が張らないもの。                                 |
|       | 深鉢B 平口縁で、口縁部に段があり、胴部が強く張り出すもの。                               |
|       | 深鉢C 波状口縁で、頭部に段があり、口縁部が大きく外反するもの。                             |
|       | 深鉢D 頭部に段がないか弱い段があり、口縁部まで直線的に外傾するもの。                          |
|       | 鉢 小型のものを一括する。                                                |
| 文様①   | 1類 外面に非結束羽状繩文を施すもの。繩文の段は1・2・3段がある。                           |
|       | 2類 外面に第1種結束羽状繩文を横位に施すもの。結束部強調施文、片翼状施文、両翼状施文がある。              |
|       | 3類 外面に繩文を横位に施すもの。繩文の段は1・2・3段がある。                             |
|       | 4類 外面に結節のある繩文を施すもの。                                          |
|       | 5類 外面に緩い結節回転文を施すもの。                                          |
|       | 6類 外面にループ文を施すもの。原体の閉端環の部分のみを連続施文するものと、後条を長く施文するものがある。        |
|       | 7類 外面に単軸絡条件を施すもの。                                            |
|       | 8類 外面に組紐文を施すもの。                                              |
|       | 9類 無文で、指頭痕やナデ痕を残すもの。外面全面を無文とするものではなく、文様①・②と組み合わせる。           |
|       | 10類 その他を一括する。                                                |
| 文様②   | a類 口唇部に人の爪や半截竹管による連続刺突文を施すもの。                                |
|       | b類 口頭屈曲部や段部に貼付隆帯を巡らせ、人の爪や半截竹管、ヘラ等による連続刺突文を加えるもの。             |
|       | c類 外面に渦巻状の隆帯を貼り付け、人の爪による連続刺突文を加えるもの。                         |
|       | d類 口縁部から刻みのある隆帯を垂下させるもの。                                     |
|       | e類 口縁部や口頭屈曲部に刺突文や押引文などを連続して施し、横位に巡らせるもの。                     |
|       | f類 口縁部や胴部の無文地に、半截竹管による沈線で、鋸齒状文、矢羽根状文、格子目文、継位平行線文、波状文などを施すもの。 |
|       | g類 口縁部や胴部の無文地に人の爪や半截竹管による連続刺突文を施すもの。                         |

26 山本正敏「1996「新」調査の成果 I 南太閤山I遺跡出土土器の編年」『都市近畿考古学』7期・太閤山・高岡城内道路帶発掘調査概要(1) 南太閤山I遺跡』富山県教育委員会

分類は、深鉢A 1 b類(838・880)、深鉢A 2 9 e類(893)、深鉢A 3 b類(905)、深鉢A 5 a b類(909)、深鉢B 1 a b類(840)、深鉢B 1 b類(875)、深鉢C 2 a b類(884)、深鉢C 5 a類(911)、深鉢C 5 a b類(934)、深鉢C 1 9 b d f類(1014)、深鉢D 1 a類(867)、深鉢D 2 b類(883)、深鉢D 5 a b類(932・933)、深鉢D 6 a類(948)、深鉢D 6 a b類(947)、深鉢D 1 7 a類(978)、深鉢D 8 a b類(995)、深鉢D 8 a e類(1002)、深鉢D 9 e f類(1019)、深鉢D 9 a g類(1058)、鉢1 a b類(878)、鉢6類(968)である。

1類(838~881)は、外面に非結束羽状縄文を施すものである。撚りの異なる2種類の原体による横位施文を基本とする。原体は長さ1.5~2cm前後の短いものを用い、土器の上から下へ、幅狭の横位施文を繰り返す。施文帯の上側には閉端が強調されるもの(838・847)があり、また各施文帯は粘土を押し出すように縄文を施文するものが多くみられるから、粘土がある程度柔らかい段階の施文と考えられる。1類の中には、同じ撚りが2段続く施文(860)、一施文帯の中で原体を持ち替える施文(868~870・872)、菱形状施文(873)が例外的に認められる。縄文原体は、2段(838~874)、1段(875~877)、3段(879~881)がある。2段の縄文は0段が3条以上の多条となるものが多い。1類と文様②の組み合わせはa・b類が多く、この他はf類(半截竹管沈線文、874・1014)がわずかにみられる。a類は口唇端部を面取りして爪などで細かい刻みを入れるものが多いが、867は面取りした口唇部に沈線を引き、外面側の端部に爪形刻みを入れる。874は上半に鋸歯状の半截竹管沈線文、下半に幅7~8mmと非常に幅の狭い縄文施文帯をもっており、木鳥皿式と布目式の文様意匠を併せ持つ土器である<sup>27</sup>。871・876は9類と組み合わさり、口縁部に無文帶や指頭痕を持つ。1類の内面調整は擦痕を残すものが多いが、連続する指頭痕を残すものも僅かにある(842・844・854・866)。また1類には小型の鉢(878)がある。878は口縁に4つの大突起をもち、各大突起間には小突起を配置する。小型品であるが内外面に煤が付着しており、深鉢同様の煮炊きの使用が考えられる。

2類(882~887・893)は、外面に第1種結束羽状縄文を施すものである。両翼状施文(886・887)、片翼状施文(883)、結束部強調施文(882・884・885)がある。施文方法は、1類と同様に土器の上から下へ向かって幅狭の原体による横位施文を繰り返す。882・884・885は結束部を特に強調した幅の狭い施文である。882・884の原体下部は撚紐で縛ってあるため、文様が結節回転文状になる。893は9類と組み合わさって口縁部に無文帶を持ち、胴部には0段の結束羽状縄文を菱形状に施文する。2類と文様②の組み合わせは、a・b類の他、c類(渦巻状隆背、882)、e類(連続刺突文、893)、f類(半截竹管沈線文、890)がある。882の外面には、結束羽状縄文を施した上に隆帶を渦巻状に貼り付け、隆带上を爪で両側から細かく刻む。この文様をもつものは882の1点のみであり、布目遺跡においても出土例がない。2類の内面調整は擦痕の他に、貝殻条痕(886・893)がある。893の内面には屈曲部を中心とする範囲に指頭圧痕が残る。

3類(892・894~905)は、外面に条が斜行する縄文を施すものである。1・2類と同様に横位施文であり、比較的施文帯の幅が広い傾向にあるが、口縁部をみると、894・905は横位に2帯、903は4帯の施文帯をもつなど狭いものもある。縄文原体は、2段(892~897・903・905)、1段(898・899)、3段(900~902・904)がある。3類と文様②の組み合わせは、a・b類の他、e類(連続刺突・押引文、894・896・897)がある。

4類(906~908)は外面に結節のある縄文を施すもので、908は上半に第1種結束羽状縄文を施す。

5類(909~946・966・967)は、外面に緩い結節回転文を施すものである。原体は2本の条で緩い結節をつくったもので、背面の2条が斜行し、腹面に2条が抱き合う形で交互に条があらわれる。結注<sup>27</sup> この土器の文様意匠を施文共の実物により地土器に表現したものが、佐渡・椎葉寺式の30件である。森谷昌彦氏よりご教示いただいた。

節の結びの強弱や原体の施文部位により文様の出方が大きく異なる。5類と文様②の組み合せはa・b類に限られる。967は縄文原体開端の縛り留めが強調される。

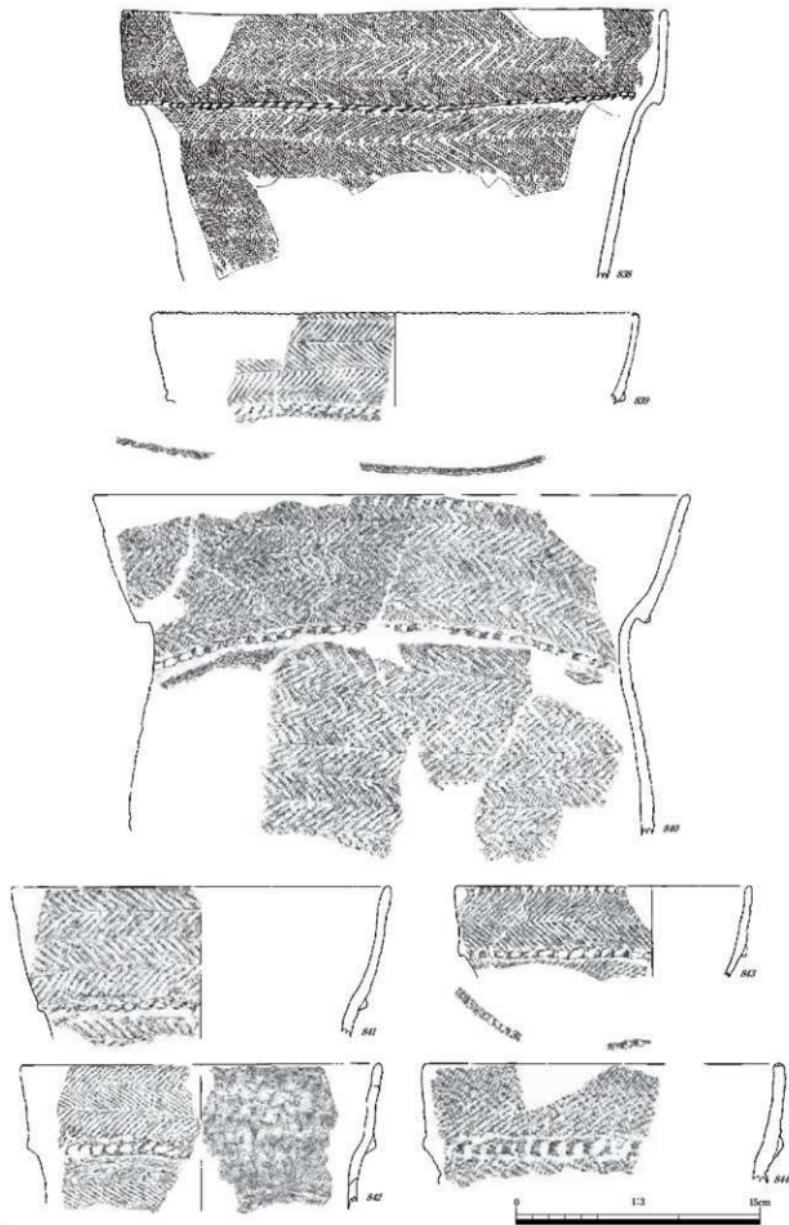
6類(947~965・968)は外面にループ文を施すものである。原体の閉端環のみを連続施文するものの(947~949・951~960・964),後条を長く施文するもの(961・962・965・968)がある。950は胴部上半には閉端環のみを連続施文し,下半には後条を長く施文する。957の屈曲部以下には2段の縄文の一部がみられる。963は口縁部側に2段の縄文,隆帯に閉端環の連続押圧を施しているようであるが,隆帯下半にみられる後条が複節であることから,隆帶上にはループ文ではなく3段の縄文原体の閉端が押圧されているのかもしれない。また,ループ文のうち閉端環のみを連続施文するものの中には,LとRを上下の施文帯で交互に替え,横位羽状に施文するものがある(954・955・957~959・964)ことも注目される。

7類(976~988)は外面に単軸絡条体を施すものである。単軸絡条体第5類(976~987)と第6類(988)がある。単軸絡条体第5類は,2本の条を,軸に対して一方を右巻き,他方を左巻きにし,器面上に転がしたとき網目状の効果を得るものである。978・981・982・987は2類(第1種結束羽状縄文)や3類(縄文)と器面で組み合わさり,976・982はd類(半截竹管による鋸歯状文)と組み合わさる。単軸絡条体第6類は,2本の条を,軸に対して一方を右巻き,他方を左巻きにするが,条の交点に係跡をつくり巻く方向を変えるもので,988の1点のみの出土である。

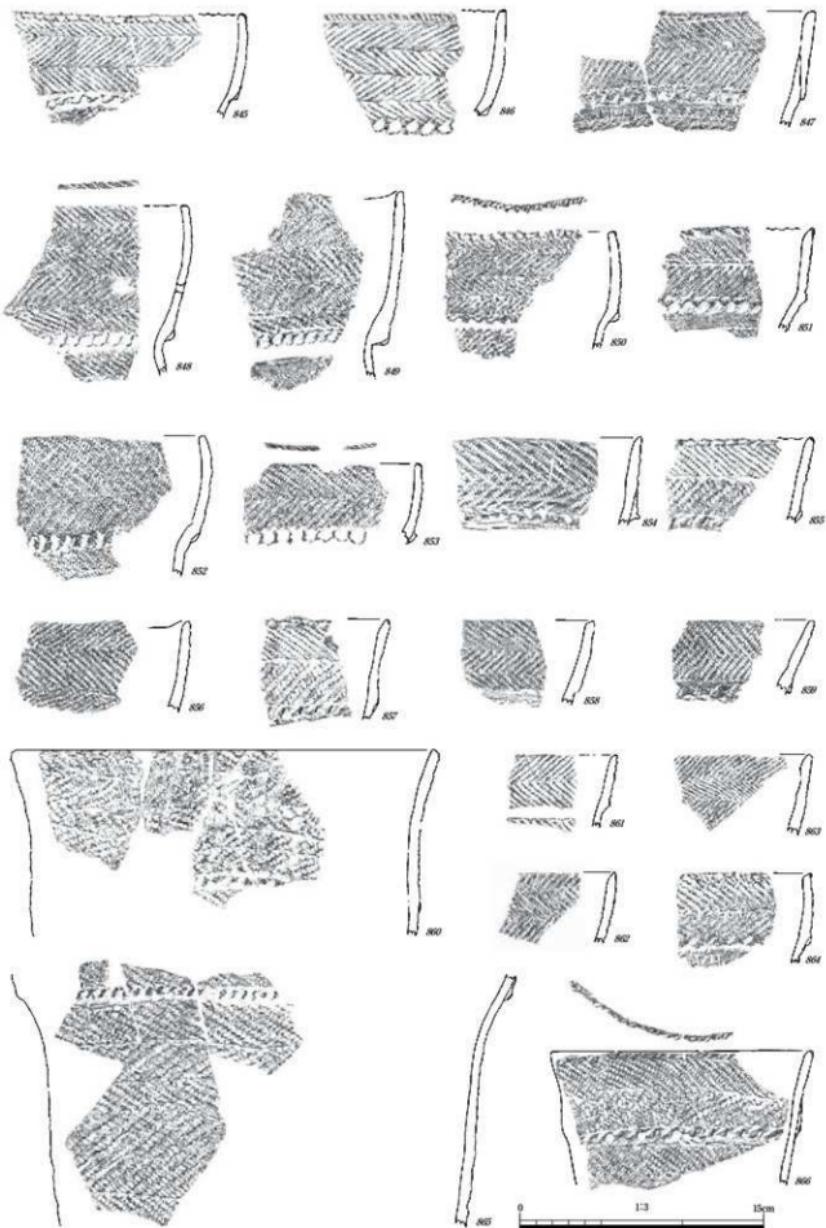
8類(995~1013)は外面に組紐文を施すものである。原体は4本の丸組紐と考えられる。組紐文は関東では関山II式に盛行することから,併行関係を考慮すると本類の時期が降る可能性も考えられる。資料は口縁部破片のみで胴部や底部近くの文様構成が判るものはないが,地文は組紐文のみを施し,文様①と組み合わさるものはない。文様②ではa・b類のほか,細い円形竹管の連続刺突(998),半截竹管沈線(1004),半截竹管押し引き(1005),半截竹管連続刺突(1003・1006)などe類を施すものがある。e類は8類の組紐文をもつものに多くみられる文様であり,これ以外では893・1019がみられるのみである。995~999は口頸屈曲部や段部に貼付隆帯を巡らせ,人の爪やヘラ等により連続刺突を施す1~7類同様のb類の施文であるが,1000~1002は口頸屈曲部に連続刺突を施すものの,貼付隆帯が低いものや,隆帯を持たず器面を直接刻むe類の施文である。996の口縁部は大突起と小突起による変則的な波状口縁である。

9類(1014~1068)は,主に口縁部外面を無文とし,文様②のf類(半截竹管沈線文)やg類(爪形連続刺突文)を施すものである。9f類(1014~1039)は半截竹管による鋸歯状文,矢羽根状文,斜位格子目文,格子目文,縱位平行線文,波状文があり,これらが組み合わさる例が多くみられる。またd類(口縁波頂部からの垂下隆帯,1014・1017・1020)と組み合わさるのも9f類の特徴である。1019は口縁屈曲部の段が弱く,隆帯の代わりに連続押引文(e類)を巡らせる。9g類(1040~1068)は,外面に指頭痕,ナデ痕,爪形刺突文,ヘラ刺突文を施すものである。施文は規則的で,爪形文はC字状,ヘラ刺突文は斜位,くの字状,V字状がそれぞれみられる。9g類は口縁部破片もあるが,尖底や丸底の底部に施されるもの(1061~1068)が多い。文様①と組み合わさるものとしては,1類(非結束羽状縄文,1014・1021),2類(第1種結束羽状縄文,1068)がある。

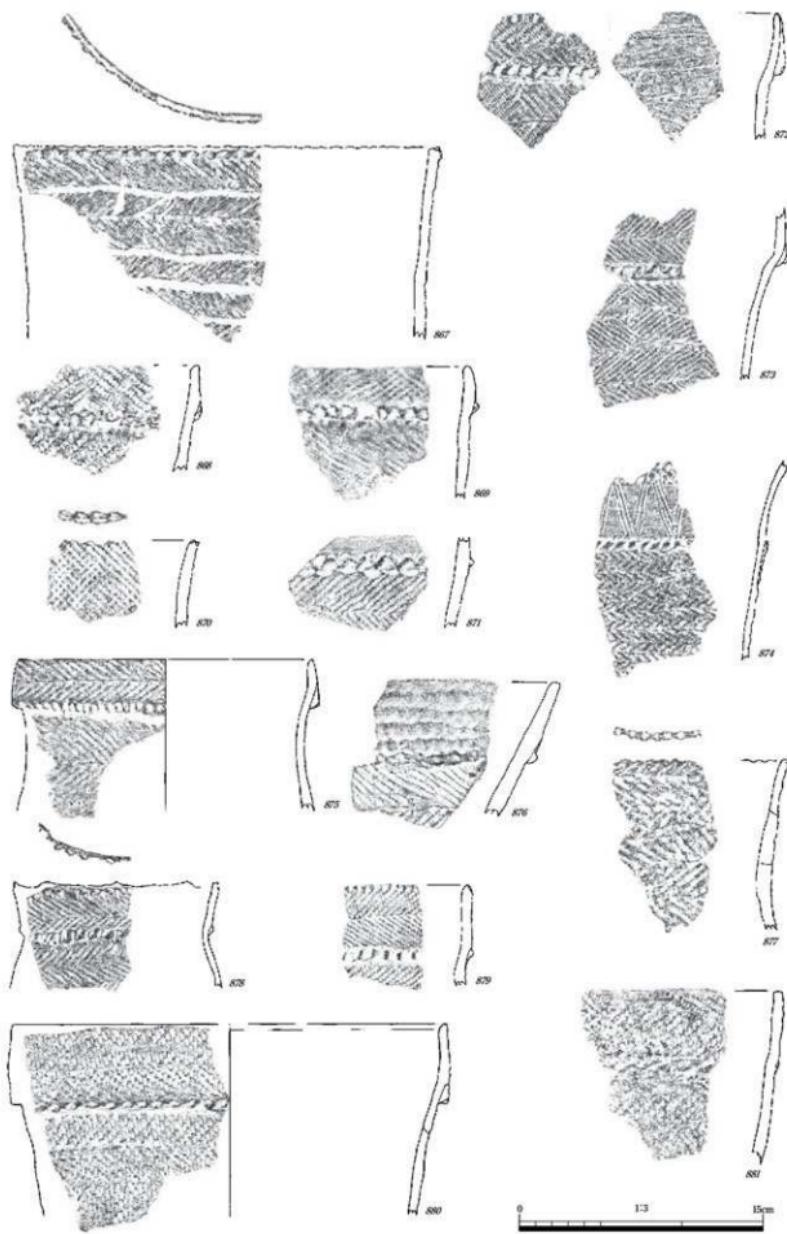
10類はその他を一括したが,現段階で施文方法が不明であるものも含めた。結節回転文か(888~891),附加条(969・970),結束第2種による回転文(971・972),撲糸側面圧痕か単軸絡条体第1類(973),直前段合撲(974),直前段反撲か附加条(975),結節回転文か羽状縄文(989),単軸絡条体第1類か(990),貝殻条痕(991・992),貝殻条痕か0段の縄文(993・994)がある。



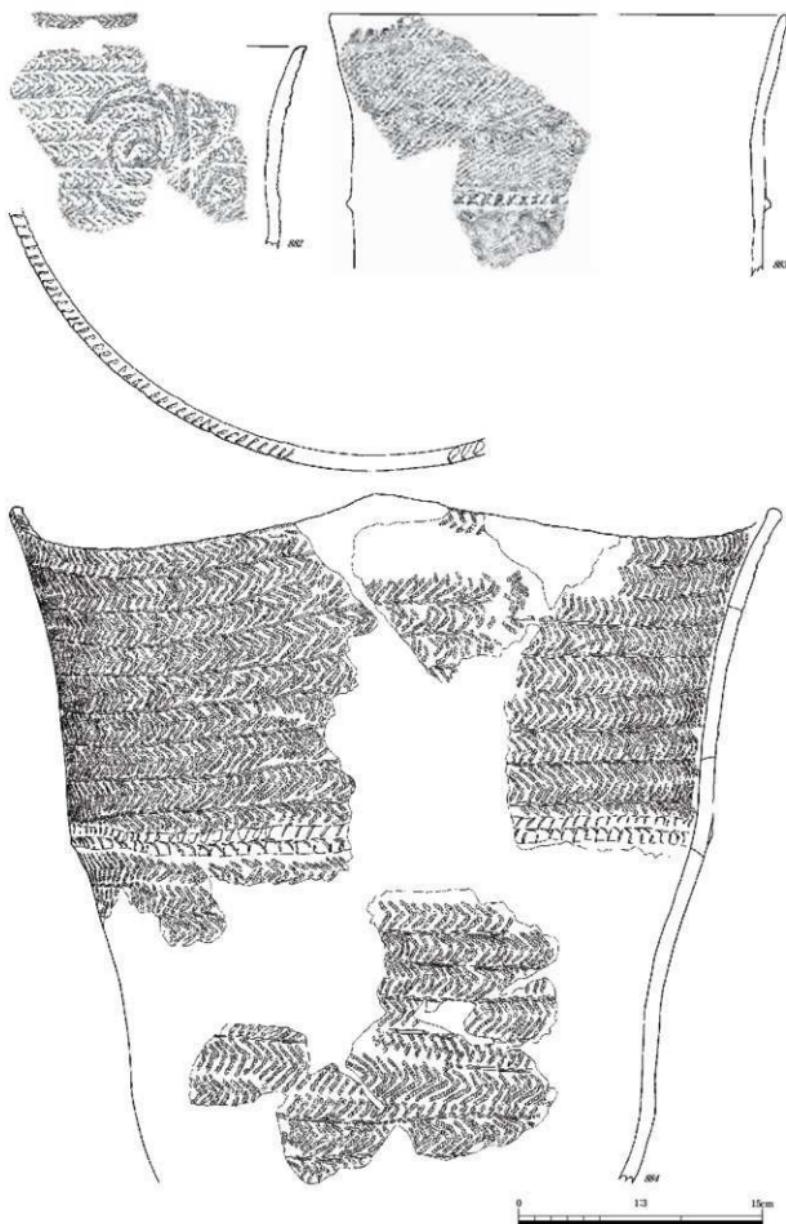
第89図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 布目式



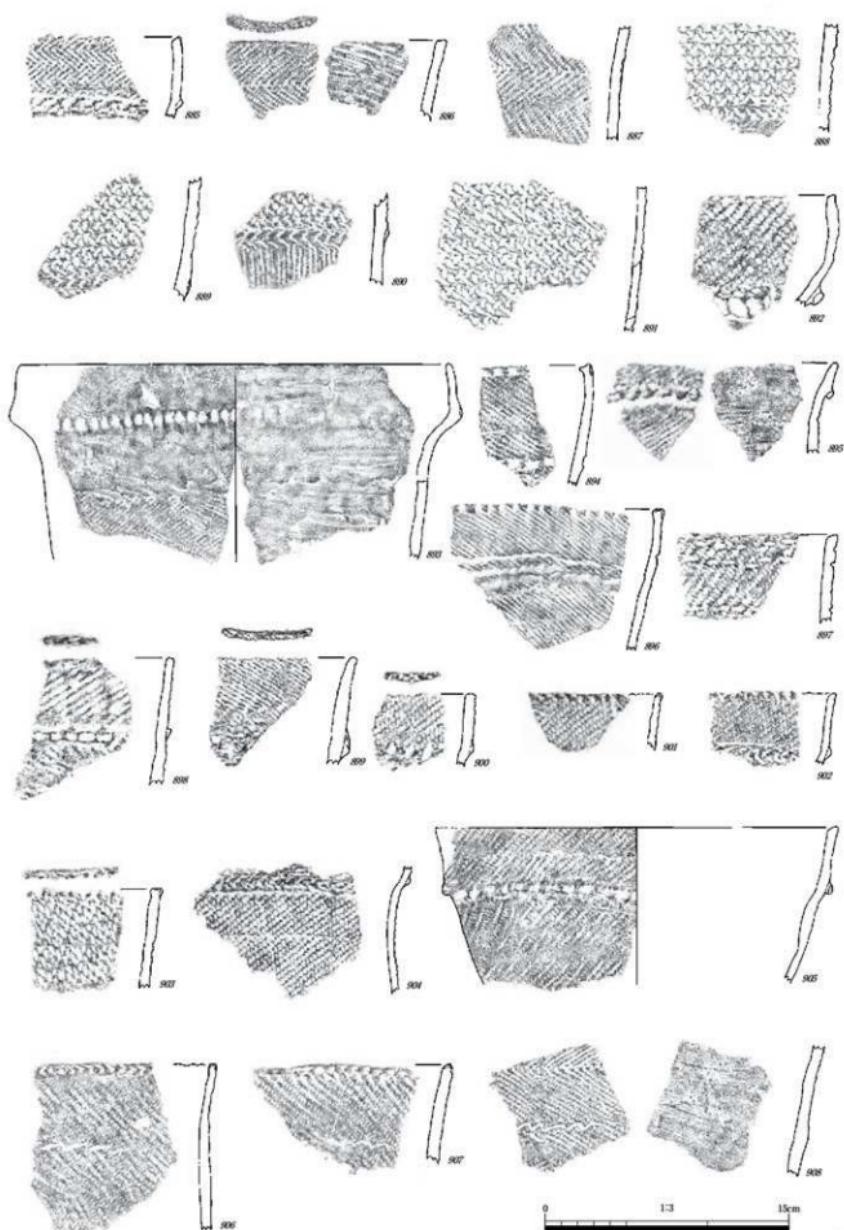
第90図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 布目式



第91図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 布目式

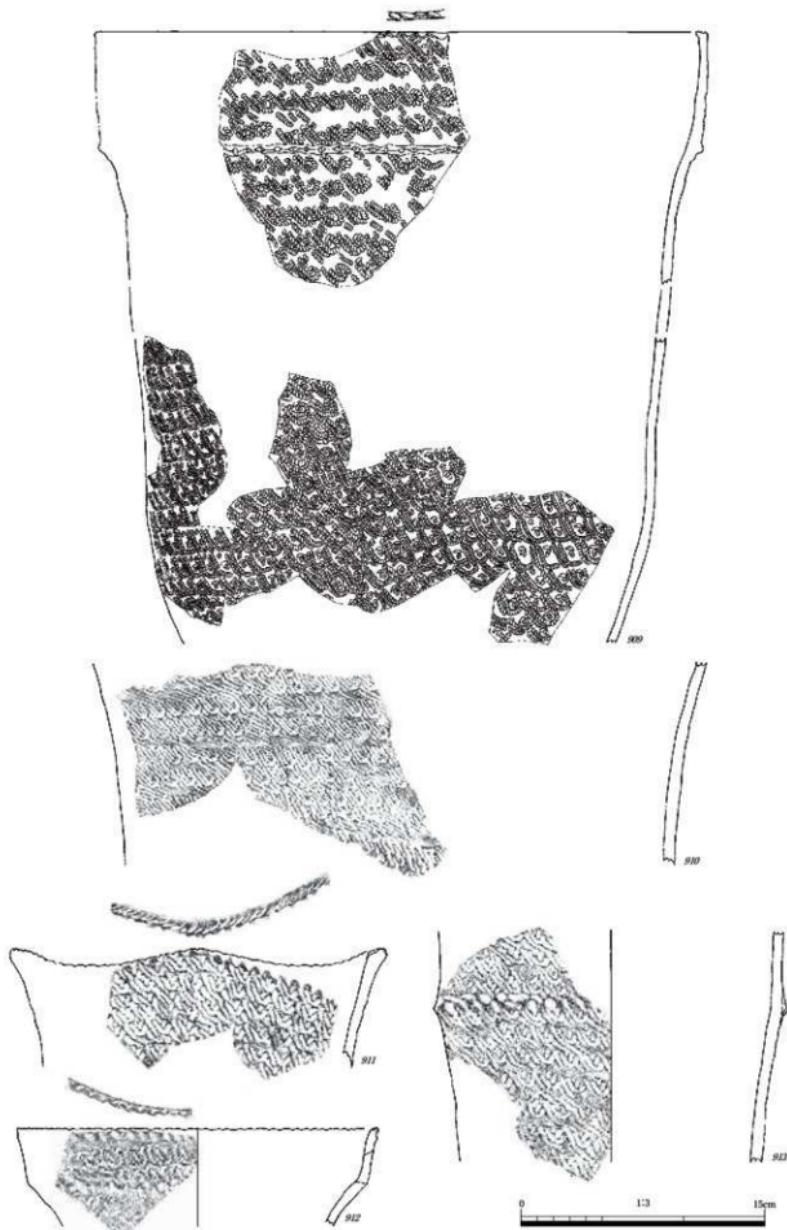


第92図 桶文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 布目式

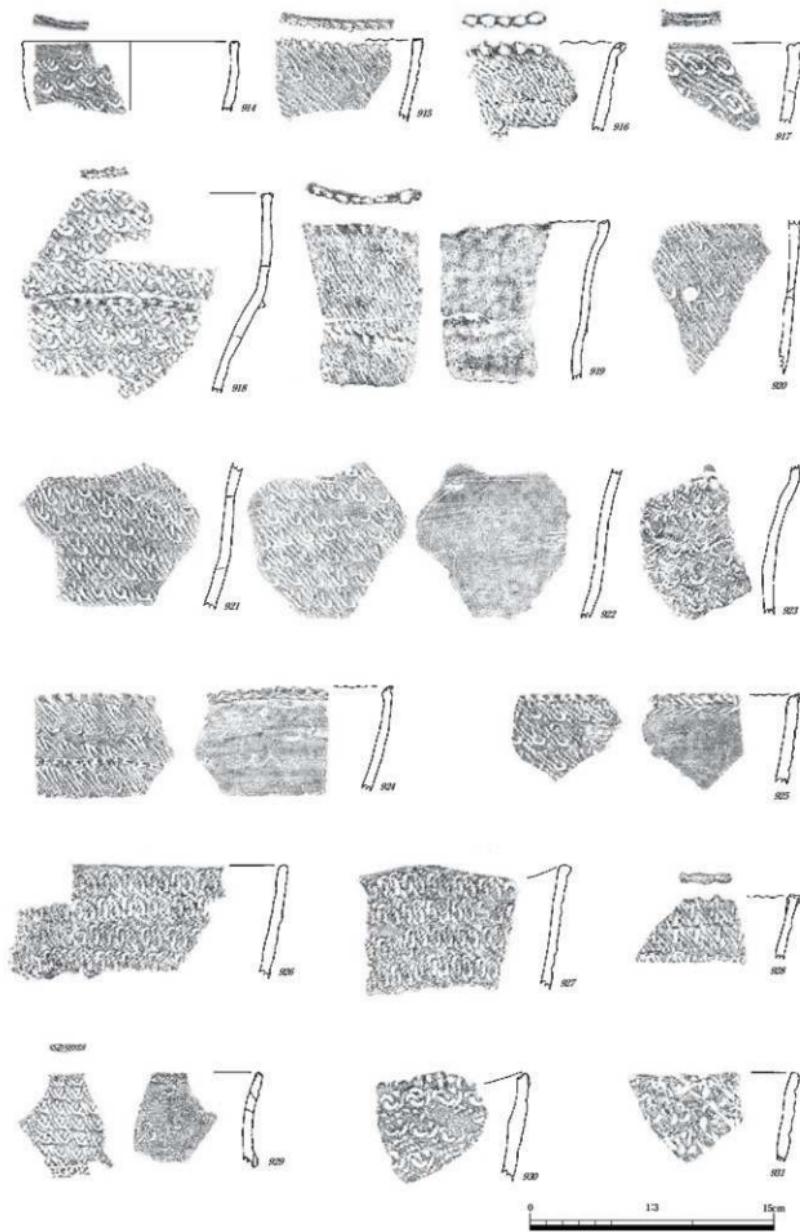


第93図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 布目式

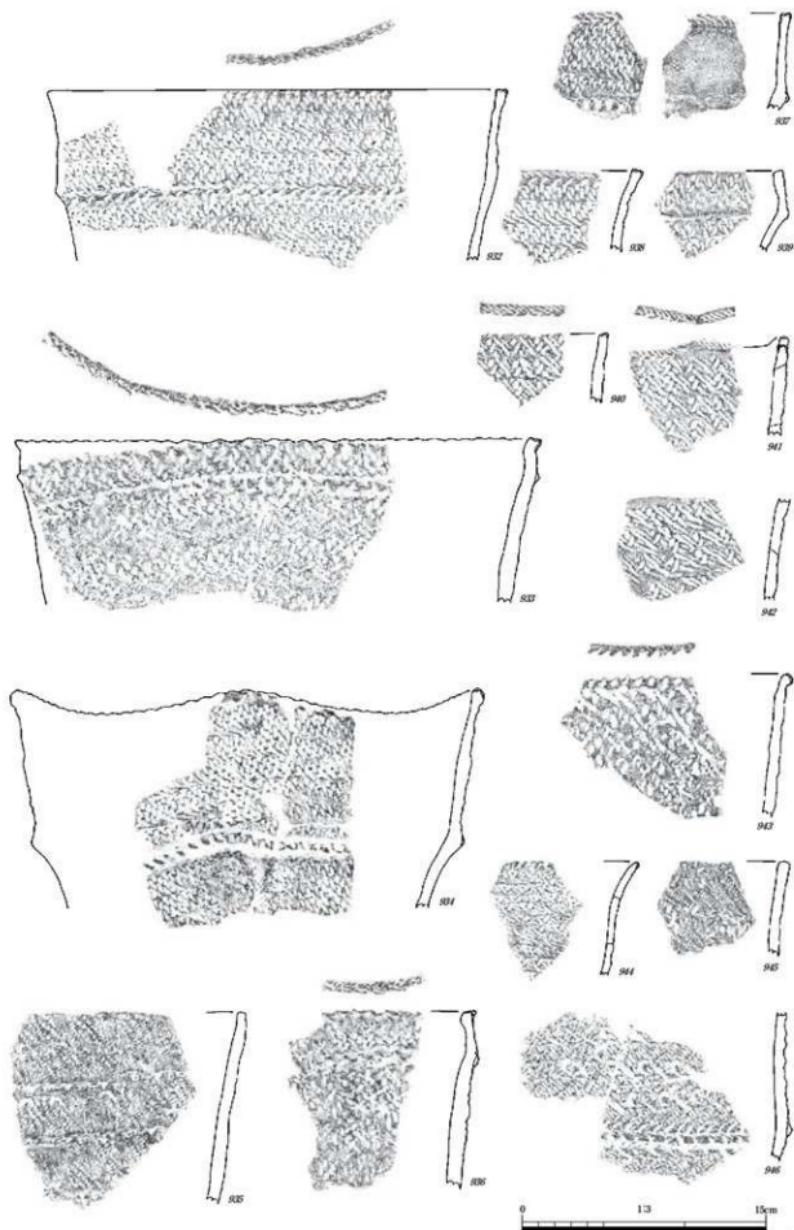
0 1.3 15cm



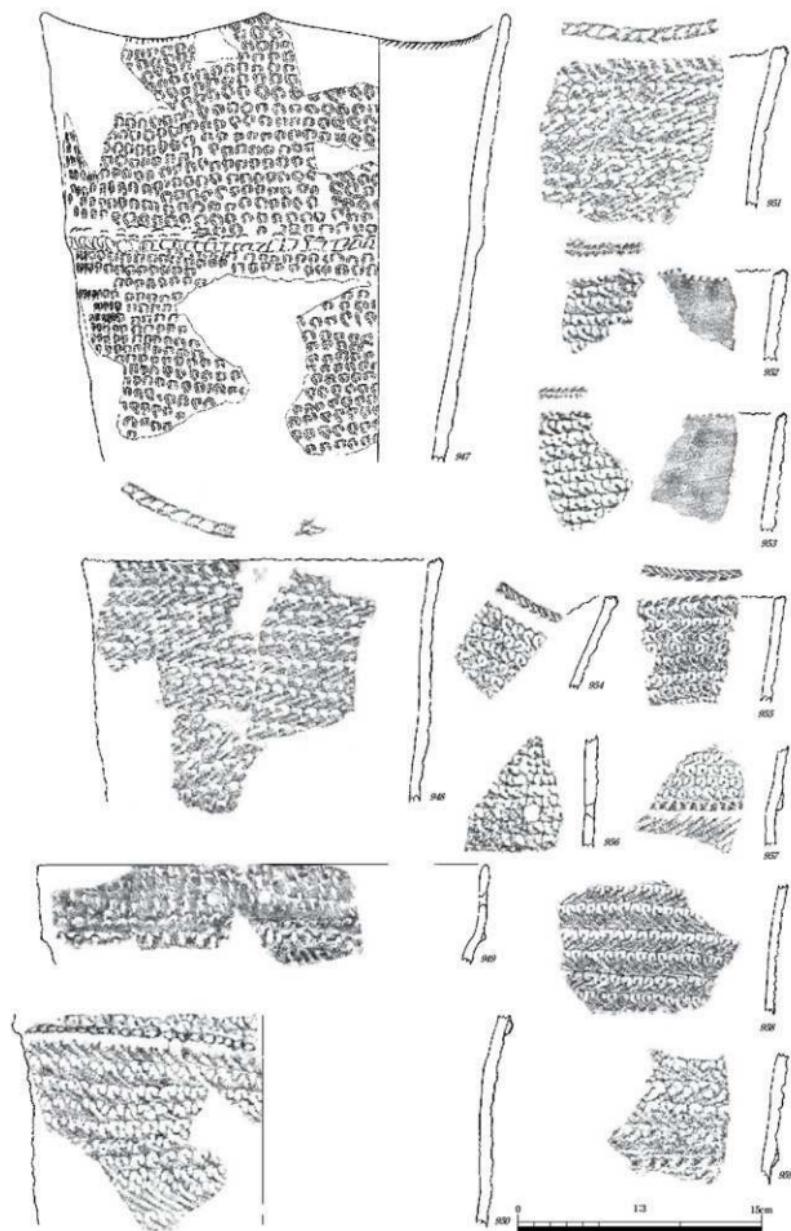
第94図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 布目式



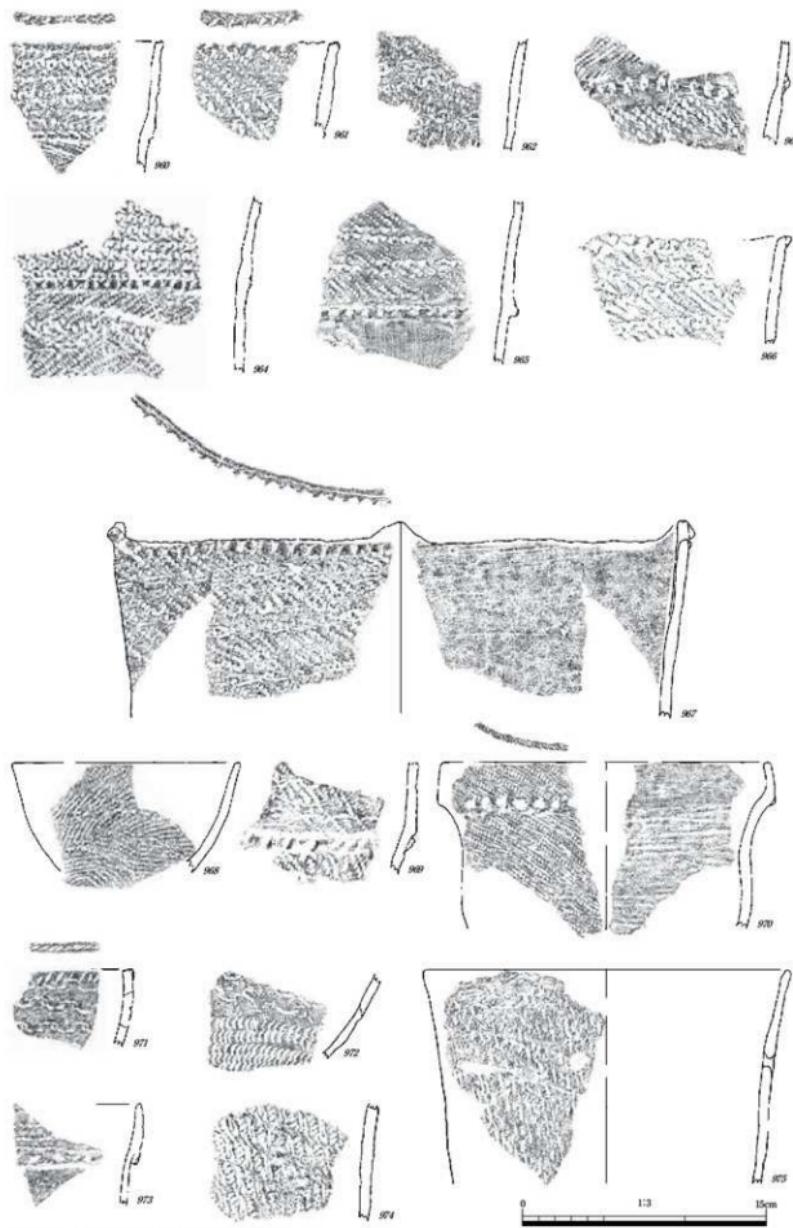
第95図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 布目式



第96図 桜文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 布目式

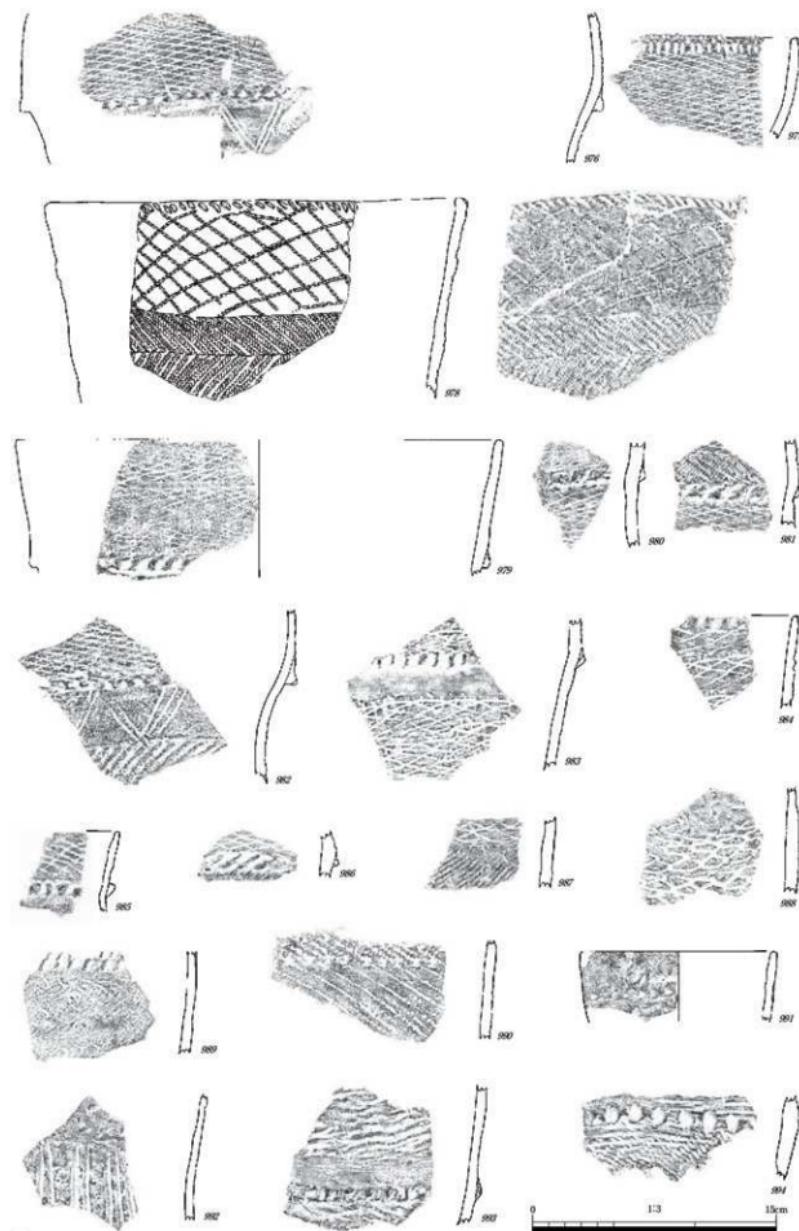


第97図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 布目式

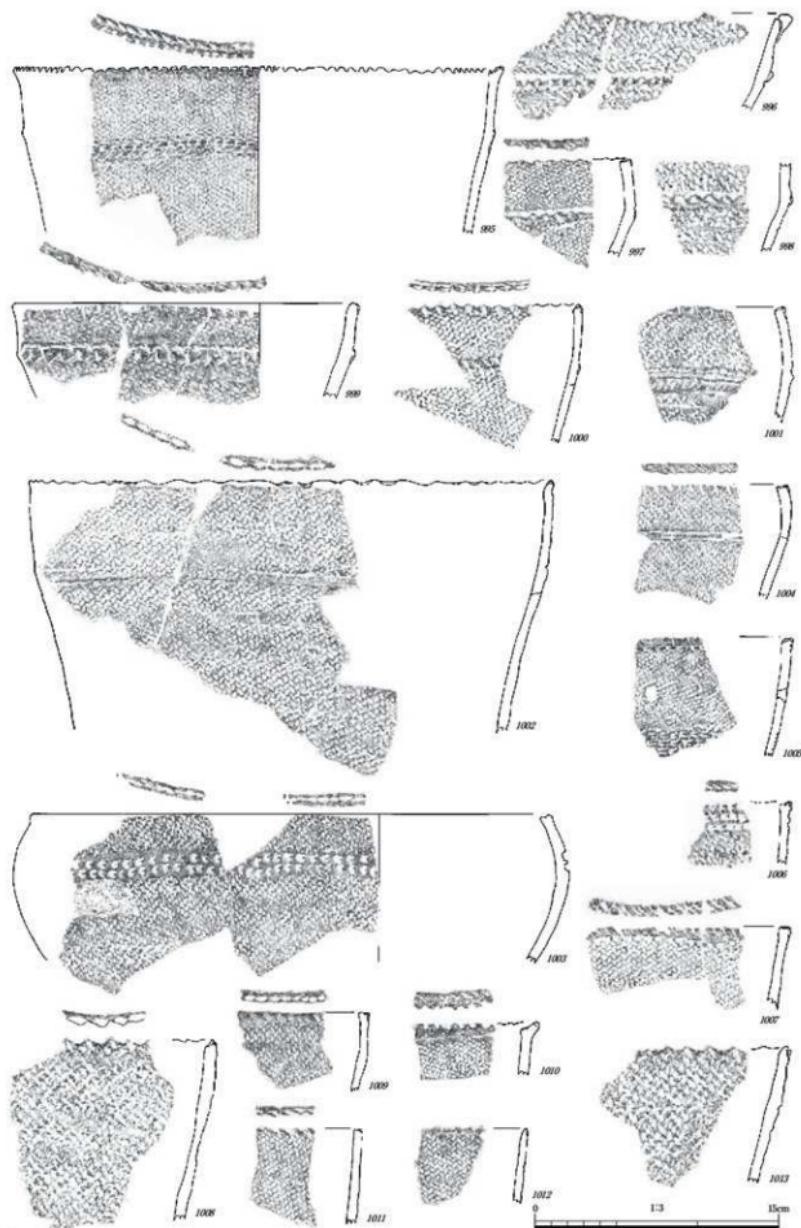


第98図 繩文時代遺物実測図 (1/3)

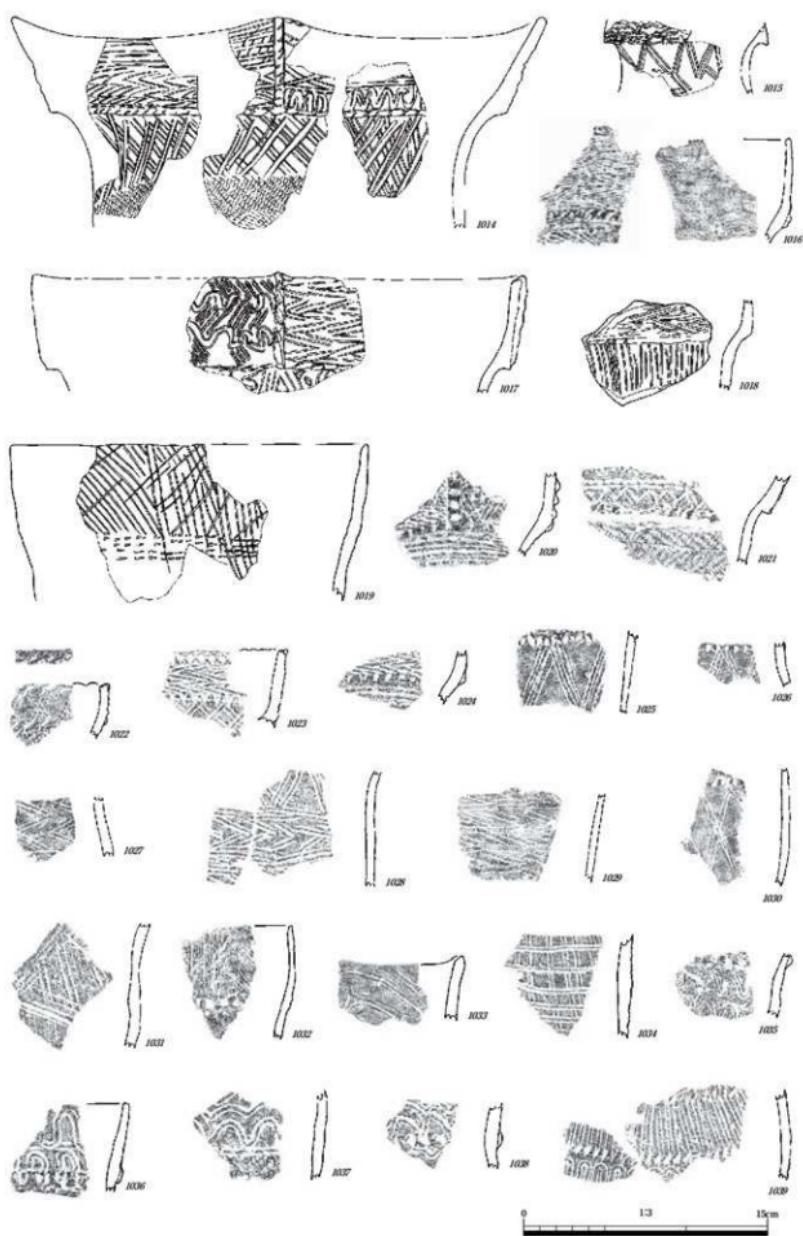
SD1 布目式



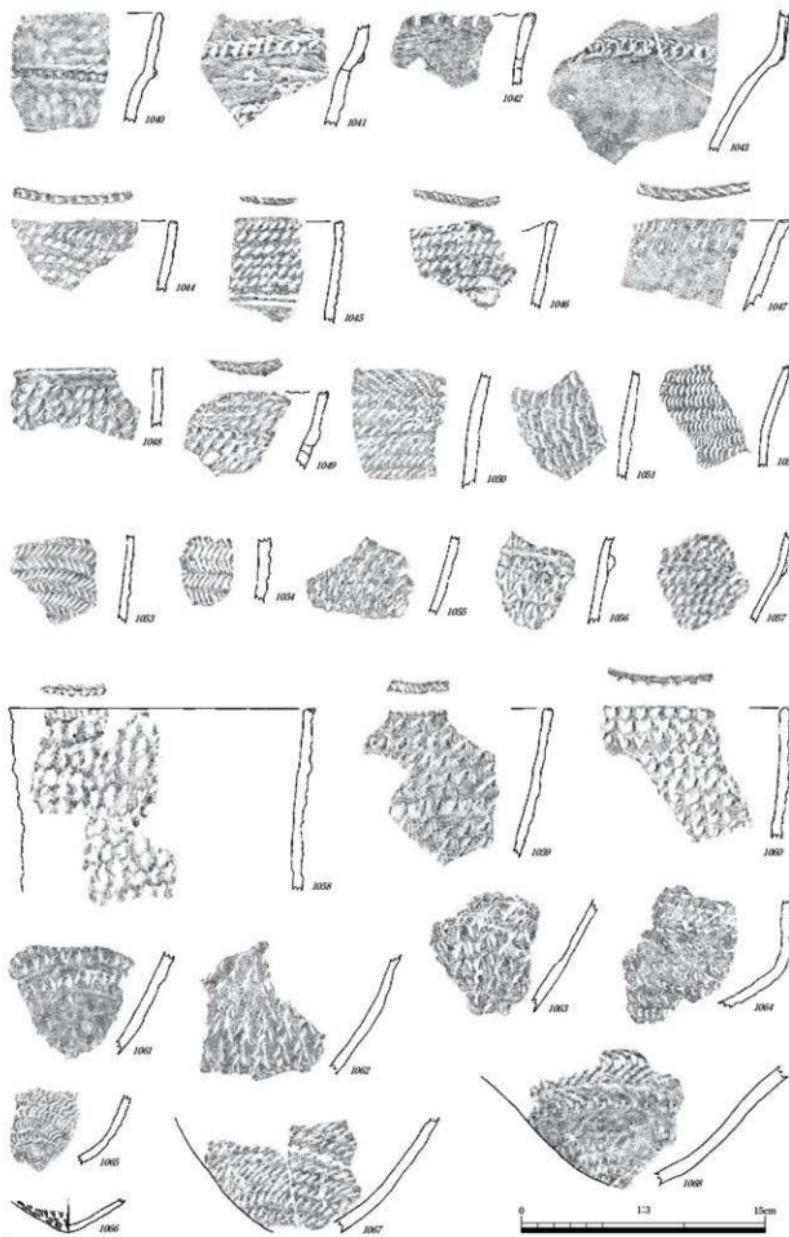
第99図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 布目式



第100図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 布目式



第101図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 布目式



第102図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 布目式

## B 前期後半

## a 朝日C式 (1069~1078, 第103図, 図版89)

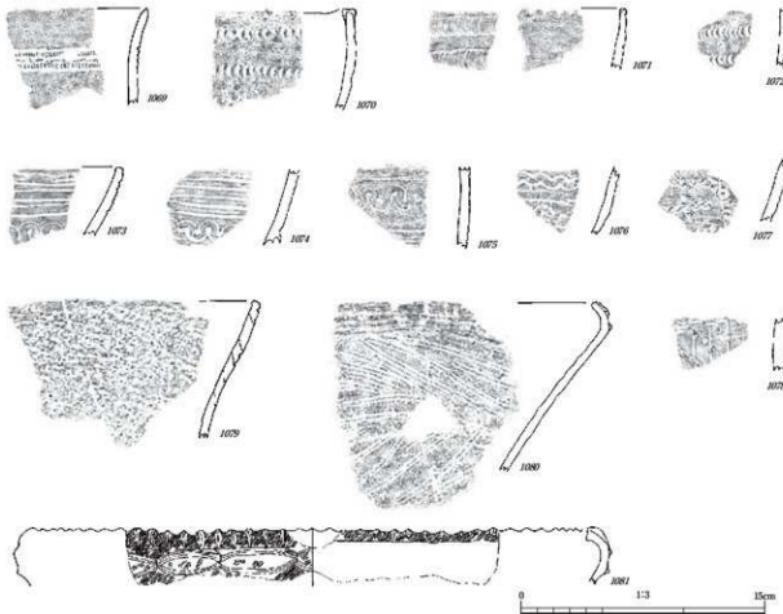
氷見市朝日貝塚C地点から出土した土器を標識とし、前期中葉に位置づけられる。小破片数点の出土に留まる。器壁は薄手で、内面に磨いたような丁寧な調整を施すものが多い。胎土には白色粒や石英、雲母、骨針を含み、厚手の1078のみ纖維を含む。平口縁が主体で、1070は口縁部に小突起があり、1071は口縁部内端に刻みがある。1069~1072は外面に連続爪形文を施すが、1069は強い押引刺突、1071は幅広の施文具による浅い押引刺突、1070・1072は刺突と、施文方法に違いがある。1073~1076は横位平行沈線やコンパス文を施すもので、1073~1075は同一個体の可能性がある。1077・1078は円形竹管を押す。

## b 北白川下層式 (1081, 第103図, 図版89)

京都市左京区北白川小倉町遺跡出土土器を標識とする。瀬戸内から中部・東海地方にかけて広範囲に分布するため、関東や北陸における前期後半の各型式との併行関係や時期区分等が多く論じられている<sup>28</sup>。1081は口縁部が強く内屈する北白川下層III式の深鉢である。器壁は薄手で、縄文地に細い凸帯を貼り付ける。口縁端面は面取りして縄文を施す。

また、北白川下層II b ~ II c式併行の土器が少量出土している。1079は縄文地にヘラ刺突を2列1単位で横方向に2段施すもので、福浦下層式段階（北白川下層II b式併行）と考えられる。内面はナデ調整で、断面には粘土の輪積み痕がみられる。1080は内屈する口縁部外面に細い粘土帯を貼り付け、外面に半截竹管沈線を横位や斜位に引くもので、諸磯b式古段階（北白川下層II c式併行）と考えられる。

図8 久々志義 2011「縄文時代前期後半の遺物」『大堀』第30号 富山考古学会



第103図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 朝日C式 北白川下層式

## c 蜈ヶ森式 (1082~1148, 第104~108図, 図版37・89~91)

富山市蜋ヶ森貝塚出土土器を標識とし, 前期後葉に位置づけられる。深鉢は平口縁が主であるが, 4単位の波状口縁もある。器形は胴部が張るものと直線的に延びるものがあり, 口縁部は外傾, 外反する。外面には2段の縄文や非結束羽状縄文を施し, 口縁部に浮線文を数条巡らせる。口縁部文様帶の地文の有無や浮線文の形態変化を軸として, 蜈ヶ森I式とII式に大別されている<sup>39</sup>。器壁は4~5mmと薄いづくりで, 内面はナデ調整により平滑に整えている。また内面には柔らかい粘土を薄く塗り, 器面を滑らかに整えるものが多くみられる。外面や断面には粘土の輪積み痕を残しており, 細く固い粘土紐を一気呵成に積み上げる<sup>40</sup>成形方法が考えられている。胎土は微細な赤色粒, 白色粒, 石英, 骨針を含む。煮焼きによる煤や炭化物の付着するものは少なく, 多くは明るい褐色の色調を留める。

分類 器形 深鉢A 平口縁で, 口縁部が外傾しながら直線的に立ち上がるもの。

深鉢B 平口縁で, 口縁部が強く外反しながら立ち上がるもの。

深鉢C 平口縁で, 口縁部が緩く外反し, 胴部が僅かに張るもの。

深鉢D 波状口縁で, 口縁部が大きく外傾するもの。

深鉢E 波状口縁で, 口縁部が強く外反し, 胴部が張るもの。

文様① 1類 外面に2段の縄文を施すもの。

2類 外面に非結束羽状縄文を施すもの。

3類 口縁部に無文帯をつくり出すもの。胴下半部には1・2類を施文する。

文様② a類 口縁部に粘土紐を貼り付け, 隆線とするもの。

b類 口縁部に粘土を薄く貼り付けたり, 器面を指やヘラ等で摘み出して, 細隆起線とするもの。

c類 口縁部の器面を指やヘラ等で撫で, あるいは押し引きし, 微隆起線とするもの。

d類 口縁部の器面を指やヘラ等で撫でてのみのもの。

e類 口縁部に草茎や半截竹管等による擦痕や沈線状の押し引きを施すもの。

分類は, 深鉢A 1 a類かA 2 a類 (1082), 深鉢A 1 3 a類かA 2 3 a類 (1093), 深鉢A 2類 (1142), 深鉢B 2 3 c類 (1118), 深鉢B 2類 (1147), 深鉢C 2類 (1145・1146), 深鉢D 2 3 a類 (1094), 深鉢E 1類 (1148) である。

a類 (1082~1112・1123~1127) は口縁部に貼付隆線をもつもので, 文様①の1・2類との組み合わせを中心とする。1082~1112は蜋ヶ森I式に位置づけられる一群である。口縁部の隆線は, 縄文か羽状縄文を施した上から貼り付けるものと, 無文地に貼り付けるものがあり, 前者が古い様相とされる。隆線は指で上下を連続して押さえて器面に圧着させているが, 指頭痕はあまり目立たずに隆線の断面形が丸みをもつもの (1082~1087・1095) と, 隆線を指やヘラなどで押さえたり撫で付けた結果, 隆線の断面が三角形状になるもの (1088~1094・1096~1099・1100~1112) とがある。貼付隆線の断面形が丸みをもつものは, 地文の縄文が撫で消されずに明瞭に残るものが多い。一方, 貼付隆線の断面が三角形のものは, 隆線間が狭く, 地文は指頭痕や爪痕, 撫で消しにより不鮮明となる。1107~1112は, 外面に柔らかく薄い粘土を貼り付け, それを指やヘラなどで引き起こしたり摘んだりして隆線状に整えたものと思われる。a類の口縁部文様は横位の直線文を基本とするが, 渦巻状, 縦位, 斜位などの曲線文 (1123~1127) もある。

b類 (1113~1117・1119) は細隆起線, c類 (1118・1120~1122) は微隆起線をもつもので, いず

註9 小島俊郎 2008 「船・舟式土器」『船底縄文土器』小林道雄編で示す解説および分類に基づく。  
註10 小島俊郎 2008 「船・舟式土器」『船底縄文土器』小林道雄編より引用。

れも3類（口縁部無文帶）と組み合わさるものが多く、規ヶ森II式に位置づけられる。口縁部無文帶のつくられ方には、2通りの方法が観察される。ひとつはa類（貼付隆線）の下にみられるもので、口縁部を含めた器面全面を縄文施文して整えた後に、口縁部の縄文を軽く撫で消す方法である。ふたつめはb類（細隆起線）およびc類（微隆起線）の下に多くみられるもので、口縁部の成形後に縄文を施文せず、最初から撫で調整に留めるものである。ただし1120のように、口縁部の微隆起線文の下に撫で消された縄文が薄く残る例も稀にみられる。1118・1120～1122は、柔らかい粘土を口縁部外面に薄く塗り、軽く撫でて微隆起線文とする。文様は横位の直線文の他、横位と縦位の組み合わせ（1113・1114）、波状か蛇行文（1116・1119・1122）がある。

d類（1128～1133）は、器表面を指やヘラ等で軽く撫でる調整に留めて、口縁部に浮線文をつくらないものである。口縁部外面には、厚さ7～8mm前後で積まれた粘土輪積痕を残す。

なおa類～d類の内面には、1104・1107～1110・1115・1116・1117・1120・1121・1128・1129・1133等に、器面を滑らかに整えるため柔らかい粘土を薄く塗った跡がみられる。

e類（1134～1141）は、草茎や半截竹管状の施文具で擦痕や沈線状の押し引きを施すものである。施文方向は1134～1140にみられるように横位が主体で、縦位に施文するものは、草茎状施文具を押し引きする1141の1点のみである。なお1134～1139は、口縁部に押し引きを施す前に地文の縄文を施文している。

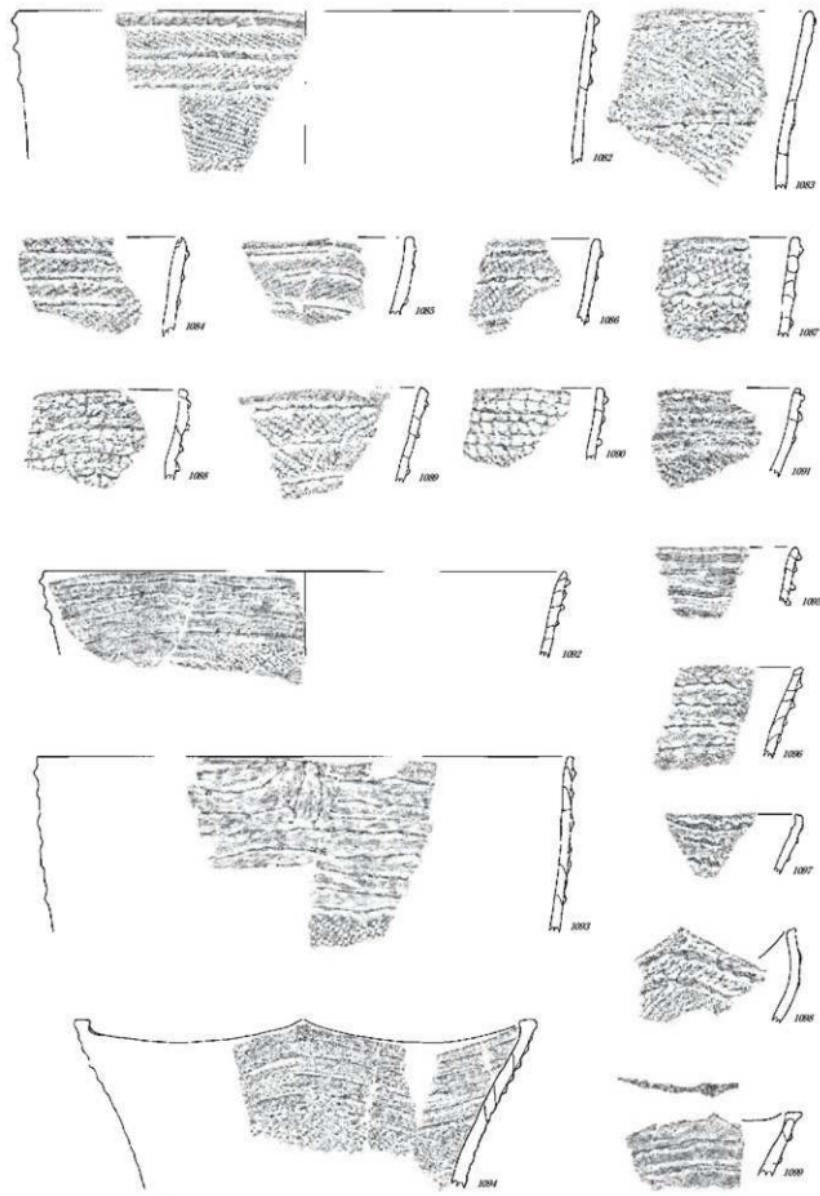
1142～1148は、地文のみで口縁部に文様帯をつくるものである。1類（1143・1144・1148）は外面に2段の縄文を施す。LR（1143・1144）とRL（1148）があり、いずれも横位施文する。1148は薄手で焼成良好な深鉢である。波状の口縁部が大きく開く器形や、粘土紐の輪積み痕が明瞭に残らないなど、規ヶ森式の土器群とは若干異なる雰囲気を持つ土器である。前期後半～末頃の時期に取まるものと考えられるため、暫定的に規ヶ森式に含めている。

2類（1142・1145～1147）は、外面に非結束羽状縄文を施すものである。原体は1類と同様の2段で、拂りの異なる2種類の原体による横位施文を基本とする。

#### d 諸織式（1149～1160、第108図、図版37・89）

関東地方を中心に、関西から東北に至る広範囲の分布域を持つ。北白川下層式と同様に、前期後半の各型式との併行関係や時期区分等が多く論じられている。半截竹管による沈線文をもつ深鉢（1149～1155）、有孔浅鉢（1156～1160）が出土している。1153～1155は半截竹管による沈線を施した口縁部に、断面三角形の粘土紐を縦位に貼り付けるもので、同一個体の可能性がある。1156は外面に赤彩痕を残す有孔浅鉢であるが、内面に煤が付着しており、火にかけて使用したと考えられる。厚手の1157も黒褐色に変色しており、二次被熱している可能性がある。1158・1159の外面には、図示していないが僅かに赤彩痕が残る。1160の外面は赤色漆塗りと考えられる。

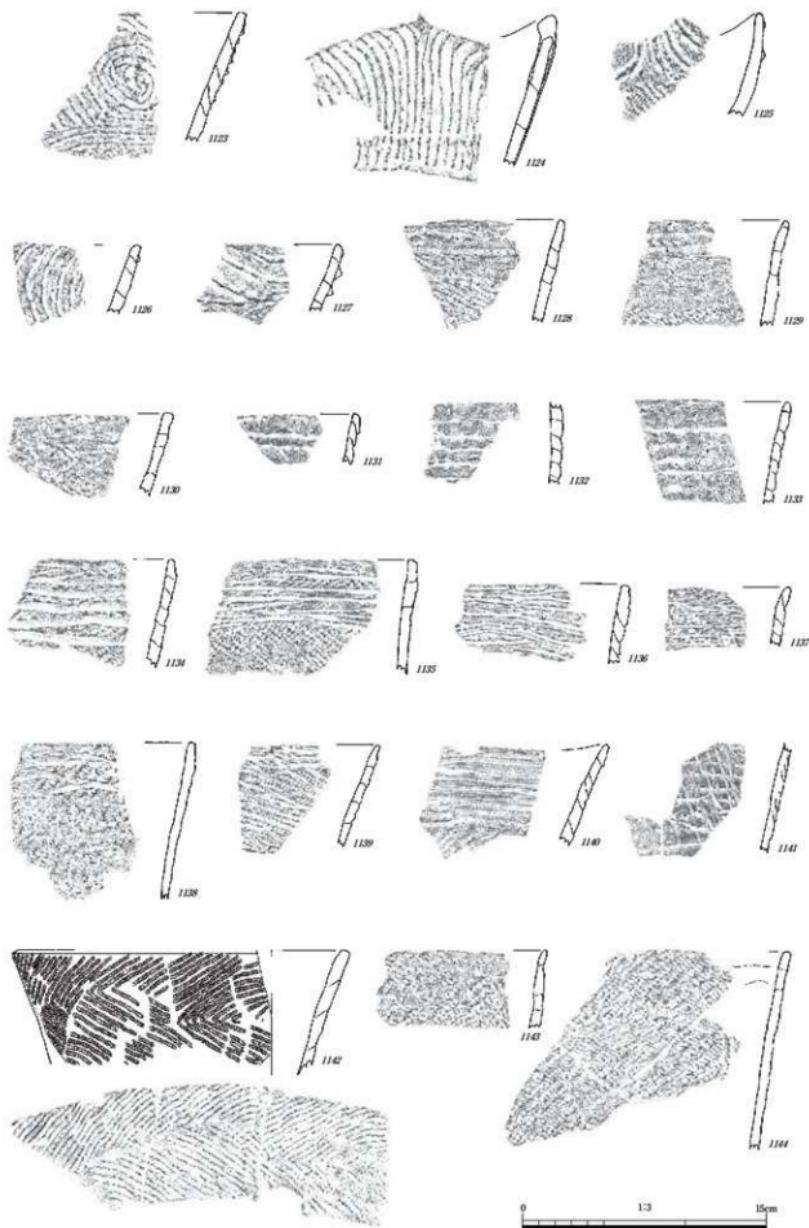
諸織式とした土器群の胎土には、赤色粒、白色粒、石英、雲母のほか骨針を含むものもあり、関東地方の影響を受けてつくられた在地土器も一定量含まれると考えられる。



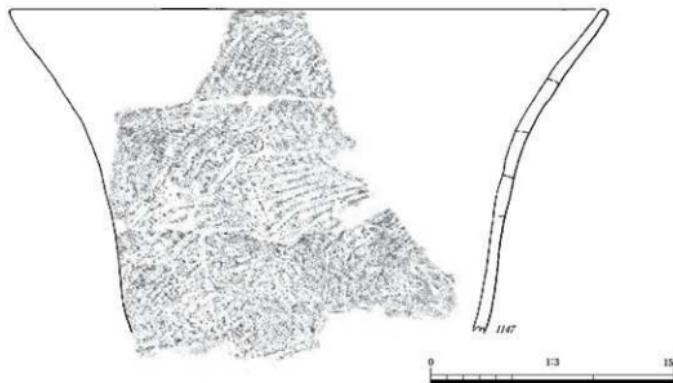
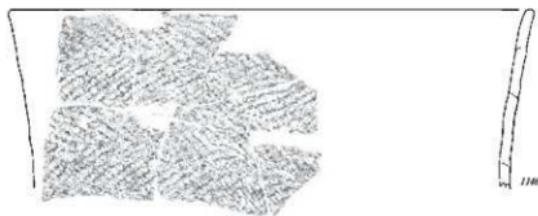
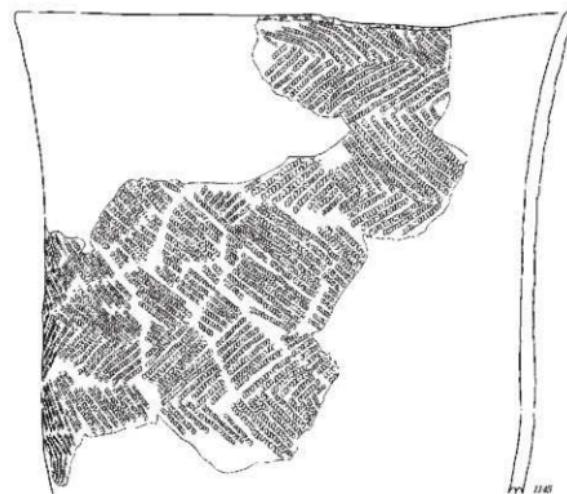
第104図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 規ヶ森式



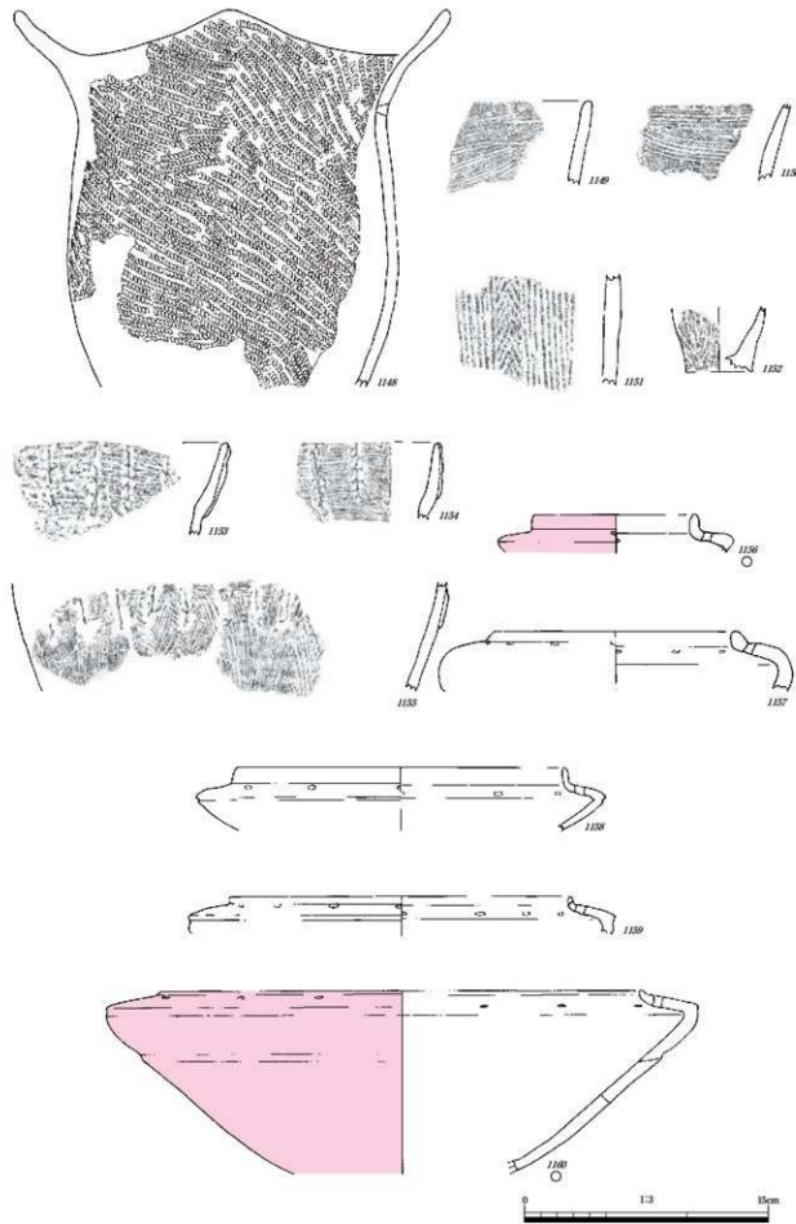
第105図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 規ヶ森式



第106図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 規ヶ森式



第107図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 規ヶ森式



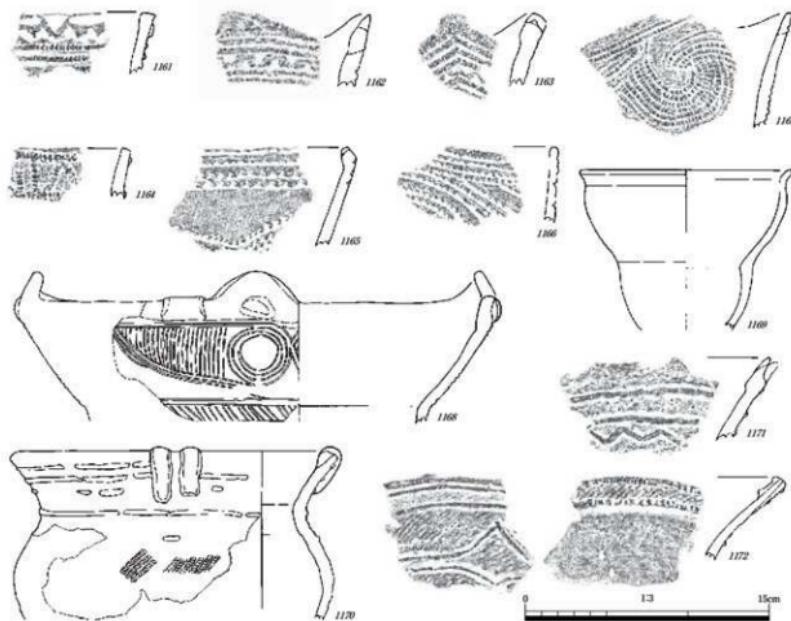
第108図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 規ヶ森式 諸磯式

## e 福浦上層式 (1161~1172, 第109図, 図版91・92)

関東地方の十三菩提式土器に併行する土器型式として設定されており、前期後葉～末葉に位置づけられる。前後の時期と比べて、出土点数が少ない傾向にある。口縁部が外傾あるいは外反する器形の深鉢を主体とする。1161~1163は口縁部に鋸歯状印刻文を施すものである。1161は口唇部外面に粘土帶を貼って、器壁に厚みをもたせた後に、上段に三角と横棒状、下段に連続三角形の抉りを入れる。1162・1163は器壁全体が厚いつくりで、上下を交互に抉った鋸歯状印刻文を施す。1164は無文地に粘土を貼り付け、その上を半截竹管で押さえて結節浮線文とする。1165~1167は結節浮線文で幾何学文を描く。1168は口唇部に棒状貼付文と大きな半円形の突起をもつ。口縁部には半隆起線で区画した中に縦の半隆起線文や円文を入れる。1169は内外面ともナデ調整をする小型の無文土器であるが、煤や炭化物の付着が著しい。丸みのある胴部が2回括れて段を持つ器形である。1170~1172は縄文地に浮線文を貼るもので、真脇式段階のものである。口唇部内面に粘土帶を貼り厚みをもたせている。口縁部が大きく外傾・外反する器形で、いずれも1170のような頸部に括れを持つ深鉢になるようである。1172は口唇部内面の粘土帶にも縄文を施し、結節浮線文を横に2条入れる。

## f 大木5・6式 (1213~1215, 第113図, 図版89)

東北地方中南部を中心に分布する土器型式である。大木5式段階 (1213), 大木6式段階 (1214・1215) と考えられるものが出土している。1213は口縁部近くの破片で、鋸歯状の貼付装飾をもつ。1214は球胴形となることが想定される深鉢で、隆带上を爪形刻みする。1215はいわゆる金魚鉢形の深鉢で、撲糸文を施した上に半截竹管押し引きによる渦巻文を施す。



第109図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 福浦上層式 真脇式

## g 朝日下層式 (1173~1212, 第110~112図, 図版92・93)

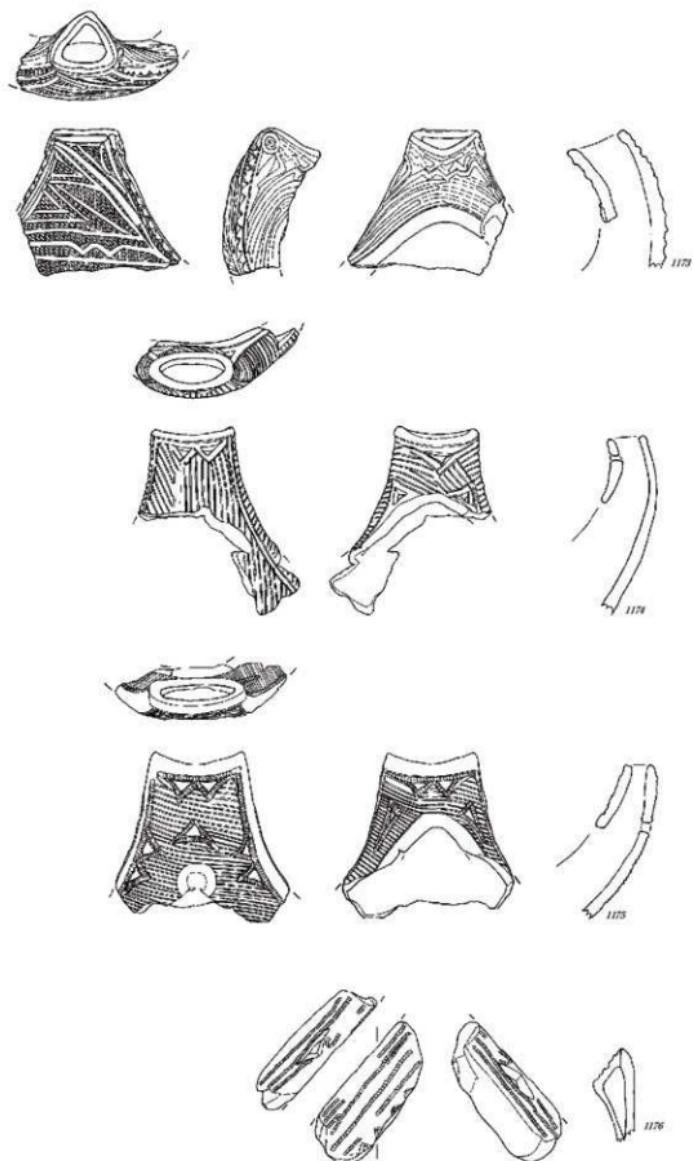
富山県永見市朝日貝塚下層資料を標準とし、前期末葉に位置づけられる。深鉢の器形は、波頂部が筒状になる波状口縁をもつもの、口頸部を強く張り出させて口縁部をくの字状に鋭く内屈・内湾させるもの、円筒形のものがある。文様は繩文地に結節状浮線文を施したり極細の粘土紐を貼り付ける加飾を基本とするが、この極細粘土紐貼り付けに細い半隆起線文を併せ持つものもある。全体に器壁の薄いつくりで、胎土には多くの白色粒や赤色粒、石英等を含んでおり、脆く破損しやすいものが多い。このため小片が多く出土している一方で、土器の全体形が判る資料は少ない。

1173~1176は波頂部が筒状になる深鉢である。1173は胎土や施文方法が1174~1176と異なっており、真脇式段階に遡ると考えられる。1173の器壁は比較的厚く、胎土への石粒の混入も少ない。波頂部は三角形に開口し、両側面には円形・鋸歯状の粘土紐貼り付けによる浮線文を施す。円形浮線文は魚の目を模したかのように見え、中心を深く抉り取る。内外面にも粘土紐貼り付けによる浮線文を施しているが、外面には地文の細密な繩文が薄くみられる。1174~1176は粘土紐貼り付けによる浮線文が非常に細く、半截竹管によるなぞりも加えられており、朝日下層式の施文技法とされるものである。1174・1175は開口部が梢円形で、器面を極細粘土紐の貼り付けと細い半隆起線文で埋める。1174~1176とも三角形の区画内は抉り取り、透孔とするが、1175は透孔の開みを結節状浮線文とする。

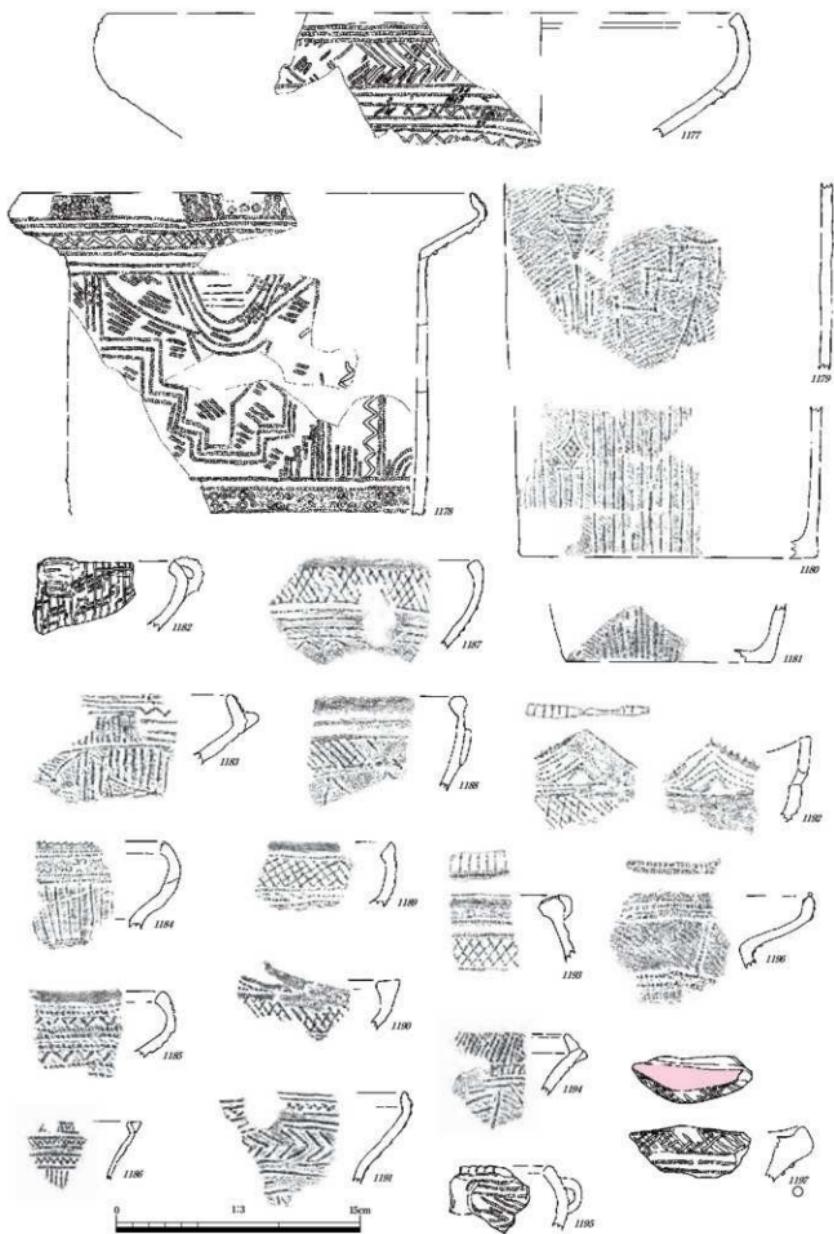
1177~1212は口縁部をくの字状に内屈・内湾させる器形の深鉢が主体と考えられる。1210のみ円筒形の深鉢で、文様構成から口頸部が外れてしまったかのような印象を受ける。1197は大きく肥厚した口縁部上面を赤彩する。口縁部に突起の剥離痕が残るもの（1178・1191）には、1198~1206のような正面性を意識した大きな突起がつくと思われる。器面の文様構成については、1177~1206は横方向に巡らせるものや区画の軸となるものを結節状浮線文とし、その間を極細粘土紐の貼り付けで埋めている。1191・1194・1207~1212は結節状浮線文をもたない。1191・1194は結節状浮線文とされるはずの主線が、細い半截竹管でなぞって押された粘土紐貼付文に置き換わる。また1191・1194には極細粘土紐の貼付文が残るが、1207~1212の文様は全て細い半隆起線文となっている。これらの文様は細かい2段の斜繩文地に施すものが多い。繩文の施文方向は、横位（1177・1179・1196）のほか胴部を縦位施文するもの（1178・1181）がある。特に胴部の地文施文方向に変化が生じており、口縁部と胴部といった部位毎に施文方向や原体を変える新保式に繋がる変化と思われる。1179・1210の地文は結節回転文で、1179は横位施文、1210は横位に施した後、重複して縦位に施文する。1211の胴部は摩滅して不明瞭であるが、単軸絡条体第1A類（木目状撲糸文）のようである。

## h 円筒下層式 (1216~1237, 第113図, 図版91・93)

円筒下層式の影響を受けたものとして単軸絡条体を施すものをまとめた。外来と考えられるものは1226の1点のみで、他は全て朝日下層式～新保式に属する在地のものである。1216~1226は円筒形深鉢で、口縁部に単軸絡条体第1類の押圧を行う。1225は胴部に結節のある2段（L R）の繩文を施し、口縁部との境には連続刺突を入れた隆帯を貼りつける。1226は口縁部に単軸絡条体第1類の押圧と半截竹管による連続刺突、胴部に単軸絡条体第1A類1（軸に縄を巻き付ける際、他の条で中心部を巻き留めたもの）の押圧を施す。1227・1228は口縁部に半隆起線文、胴部に単軸絡条体第1類を施す。1229~1237は胴部に単軸絡条体第1A類を施すものである。1229~1231は軸の中心部に孔があり、1本の縄を孔に通して左右対称に巻く第1A類2である。1229はRの条、1230・1231はLの条を用いる。1232~1234は軸の中心部の孔を通る縄を左右非対称に巻く第1A類3である。これらは3点ともRの条を用いる。1237の外底面にはスダレ状圧痕が残る。



第110図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 真脇式 朝日下層式

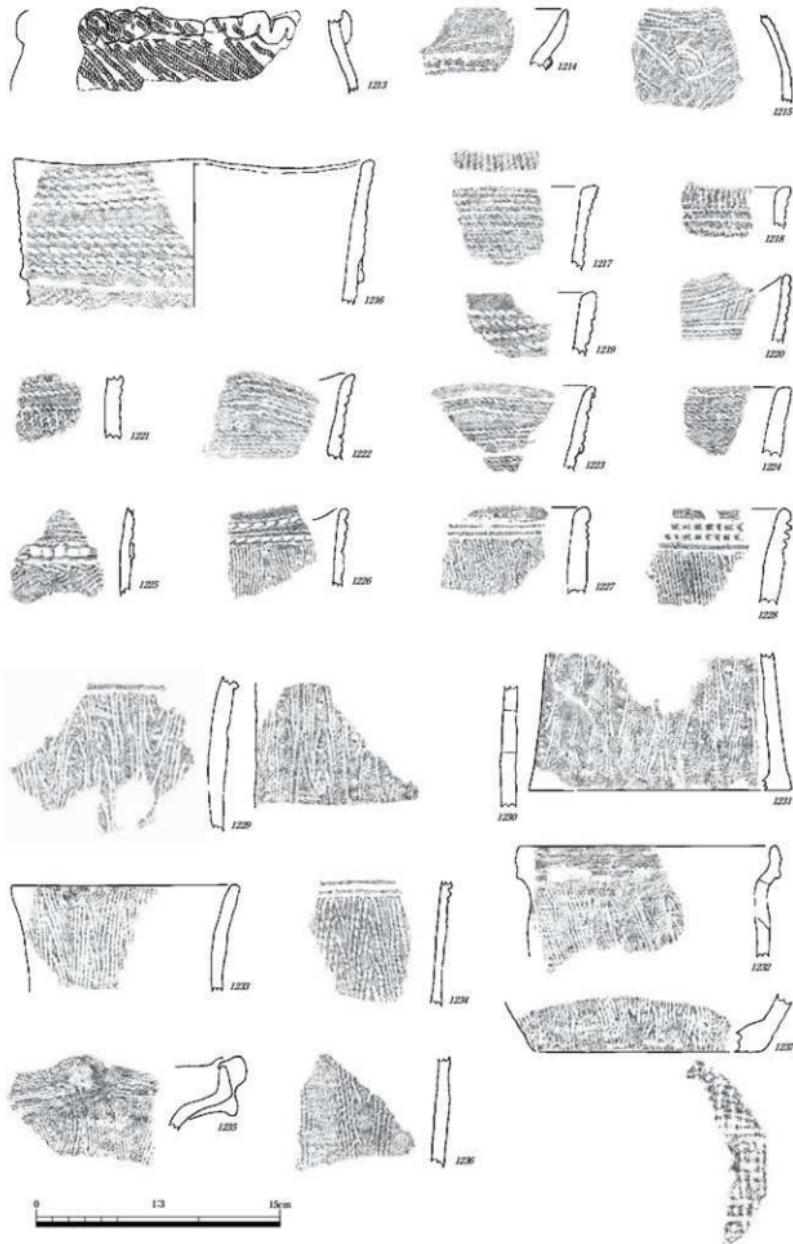


### 第111図 繩文時代遺物実測図 (1/3)

SD1 朝日下層式



第112図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 朝日下層式



第113図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 大木5・6式 円筒下層式

## C 中期

## a 新保式 (1238~1256, 第114~117図, 図版24・37・38・93・94)

石川県内浦町新保遺跡の土器を標識とし, 中期初頭に位置づけられる。器形や文様において, 先行する朝日下層式と密接な連続性を持つ。深鉢は細胴で口縁部が強く内湾する器形と, 太胴で口縁部が緩く外反する器形を主体とする。地文の種類としては繩文のほか, 第1種結束羽状繩文や単軸絡条体第1A類(木目状撲糸文)があり, これらを, 口縁部には横位, 脇部には縱位にと, 施文方向を変えて施す傾向にある。文様は半截竹管による施文が主体となる。器種は深鉢に加えて精製の浅鉢が出現する。器壁は厚手で, 胎土には赤色粒, 白色粒, 石英, 雲母, 骨針等が混じる。色調は黄褐色~黄褐色のものと灰褐色~黒褐色のものがあり, 黒褐色を呈するものの中には, 燐し焼きされたと思われるもの(1239・1245・1246)もある。

分類 器形 深鉢A 細胴で, 脇部から頸部にかけて外傾・外反しながら立ち上がり, 口縁部をキャリバー状に内湾させるもの。

深鉢B 太胴で, 脇部に軽い張りがあり, 口縁部を内湾させるもの。

深鉢C 太胴で, 脇部に軽い張りがあり, 口縁部を緩く外反させるもの。

深鉢D 長い筒形の脇部をもつもの。

浅鉢 浅く緩やかに内湾するもの。

文様① 1類 外面に2段の繩文を施すもの。

2類 外面に第1種結束羽状繩文を施すもの。

3類 外面に単軸絡条体第1A類を施すもの。

4類 外面に地文を残さず, 器面を文様②で埋めるもの。

文様② a類 口縁部に半截竹管による沈線を縦に浅く引き並べるもの。

b類 口縁部に軌軸文をもつもの。

c類 口縁部に横位無文帯をもつもの。

d類 口縁部に爪形文をもつもの。

e類 口縁部に逆位蓮華状文をもつもの。

f類 脇部に格子目文をもつもの。

g類 脇部に直線や曲線の半隆起線文をもつもの。

分類は, 深鉢A 1 a b類(1238), 深鉢A 1 a d g類(1239), 深鉢A 4 b c g類(1240), 深鉢B 3 b類(1241), 深鉢C 3 b c g類(1247), 深鉢C 1 b c d g類(1248), 深鉢C 1 c d g類(1249), 深鉢C 2 c類(1250), 深鉢C 3 e類(1254), 深鉢C 1 c g類(1255), 深鉢D 4 f g類(1246), 浅鉢1 e類(1256)である。

文様①の地文を口縁部に施すものは1238・1239の2点を確認したが, いずれも繩文を横位施文した後にa類(浅い半截竹管綴沈線)を加えるものである。脇部でも, 地文を施した上からg類(直・曲線半隆起線文)を加える場合, 地文は1類(繩文)が多く(1239・1248・1249・1251・1255), 3類(単軸絡条体第1A類)は1247の1点のみである。一方で, 脇部を地文のみで構成する1241・1250・1254は, 2類(結束羽状繩文)や3類(単軸絡条体第1A類)を縦位施文したものである。なお3類のうち, 1247は単軸絡条体第1A類2に分類されるもので, 軸にあけた孔を通る条が一方でR, 他方がLと異なっており, それぞれを左右対称に巻いている。1241はLの条で, 軸の中心部の孔を通って左右非対称に巻く第1A類3と考えられる。1254も残存範囲が少ないが, 第1A類3と思われる。

a類は、縄文地に半截竹管による沈線を縦に浅く引き並べるものである。口縁部がキャリバー状に内湾する深鉢A器形（1238・1239）と組み合わさる。a類に似たものとして、幅の狭い無文帯に半截竹管縦沈線を引き並べるもの（1240・1241）、縦に半隆起線文を密に引くもの（1243・1254）があるが、この類は新式以降にみられる長弁蓮華文に繋がる別系統の文様と考えられる。

b類（軌輪文）は、半隆起線でつくり出した口縁部の横位区画中にヘラで細かい縦刻みを入れ、中央に長い横線を引く文様である。口縁部に1段つくるもの（1238・1241・1242）、複数段つくるもの（1240・1243・1244・1247）がある。1240の下段の軌輪文はヘラ引きの横線を欠く。1247の下段の軌輪文は、円形の貼付突起と組み合わさり渦巻状の文様帯を構成するが、この頭部を巡る軌輪文は帯状の粘土を薄く貼り付けた上からの施文となっているため、上下を併走する半隆起線や横位無文帯よりも浮き出で見える。また軌輪文には間隔をあけて小三角形の抉りを入れるものが多く、中には四隅や上下2方、あるいは3方から抉りを入れてつくり出した円形区画の中央に鋭い刺突を加えるもの（1241・1243・1244・1247）もある。

c類（横位無文帯）は、深鉢の基本器形であるA・C類の口縁部につくりだされ、b類（軌輪文）かd類（爪形文）と組み合わさる。軌輪文とあわせて、新保式を特徴づける文様である。1240・1242・1247～1250・1252・1253・1255にみられる。

d類（爪形文）は1239・1248・1249に施文される。口縁上端から数えて2条目の爪形文は軌輪文と同じ意味を持つ文様とされ、軌輪文と爪形文は同一器面に共存しないとされる<sup>30</sup>。1248はこれに反して、口縁上端から2条目に軌輪文に似たヘラによる縦沈線と小三角形の抉りの施文帯があり、横位無文帯の下には爪形文を巡らしている。2条目の文様は、崩れた軌輪文か、あるいは逆位蓮華状文に近いものと思われる。1249は刻みの深い爪形文を2条重ねた施文で、これを一施文帯とすれば縦沈線の中央に1本の横線を引く軌輪文に通じる文様意匠である。1248・1249ともに、軌輪文から爪形文へ変遷する過渡期の様相と捉えることができ、新保式の中でも新しい段階に位置付けられる。

e類（逆位蓮華状文）は、半隆起線でつくり出した口縁部の横位区画中にヘラで細かい縦刻みを入れ、小三角形の抉りを下から連続して入れるものである。1253・1254・1256に施文される。軌輪文など細線文系の文様が彫刻蓮華文<sup>31</sup>へ変化する直前段階の文様である。

f類（胴部格子目文）は1246に施文される。1246は半隆起線で口縁部、頭部、胴部を横位に区画し、胴部全面に渦巻き・三角・W字・円・クランク状などの文様を描く。文様がつくりだす間隙は浅く抉り取り、広い区画内は半截竹管による斜格子目文で埋め尽くす。新保式の中でも古い段階に位置付けられる土器である。

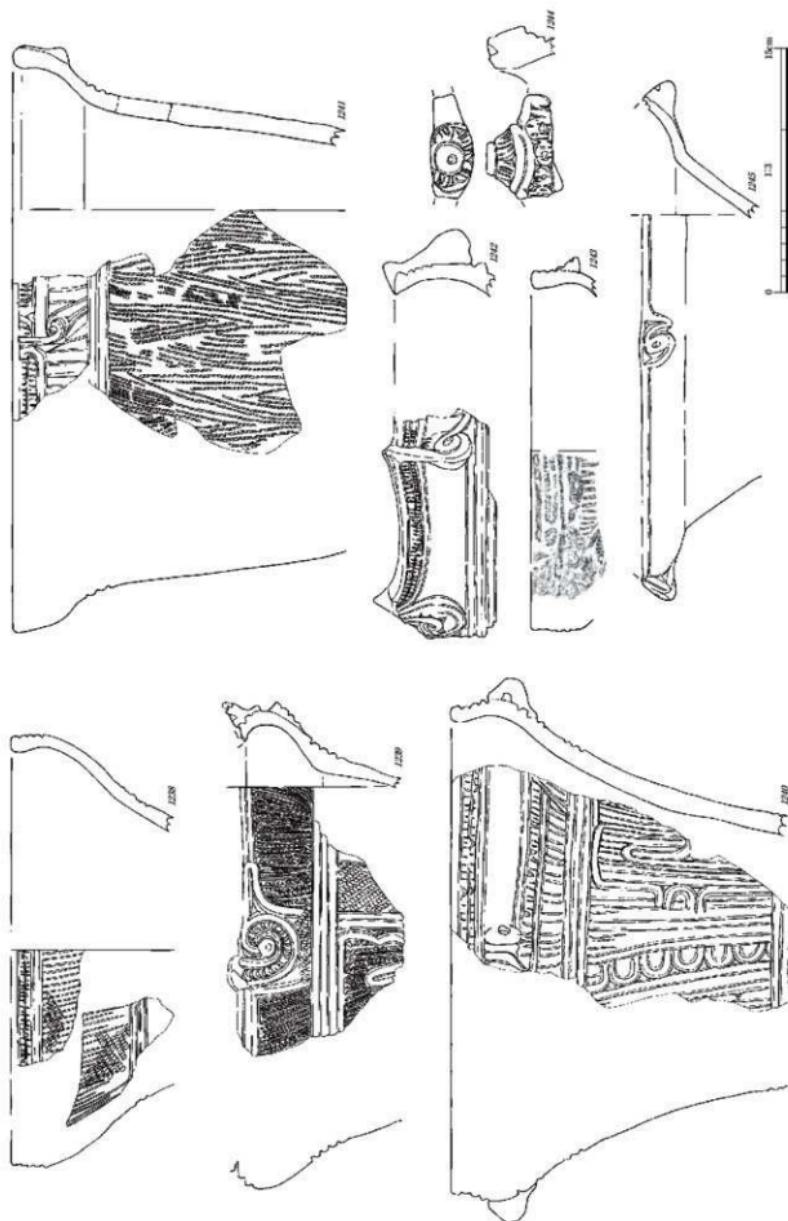
g類（胴部の直・曲線半隆起線文）は、1239・1240・1246・1247・1248・1249・1255に施文される。g類は、前述したように1類（2段の縄文）の地文の上から施すものが多い。1240は胴部施文を密に施して外面に地文を残さない。1246は文様による区画内をf類（格子目文）で埋める。1247は3類（単輪縦条件第1A類）上に施文するが、地文を残さずに斜位の半隆起線で埋め尽くす区画もみられ、一部斜格子目状となる所もある。

口縁部から頭部に付けられる突起には、縦位環状（1240）、しの字状（1239・1255）、入組状（1241・1242・1247）、「の」の字状（1245）、横位環状（1249）等がある。1242は小突起（図の中央）と大突起（図の左側）が残存する。小突起は高さのある入組状で、大突起は突起周囲を三叉文が取り巻く。1245は頭屈曲部に玉抱き三叉文を掘り込んだ突起をもつ。

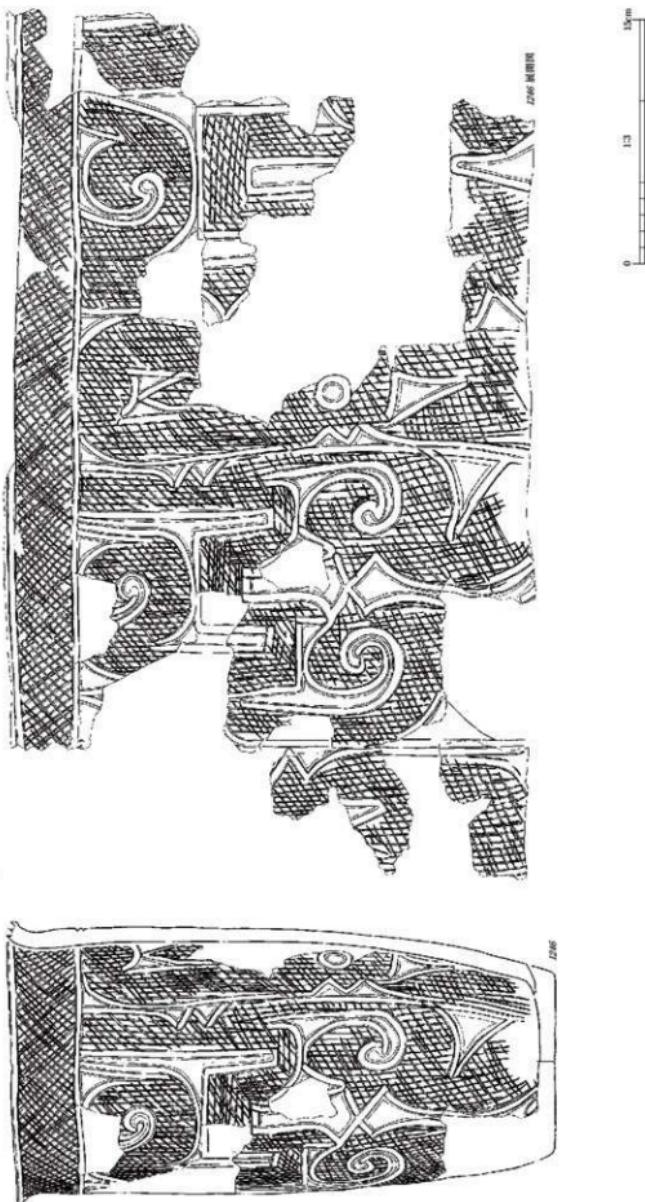
浅鉢（1256）は丁寧なつくりである。内面は丁寧に磨いているが、口縁部に施した縄文は磨き残す。

註31 加藤三千子 2008 「新保・新町式土器」「軌輪・圓文土器」小川達哉編

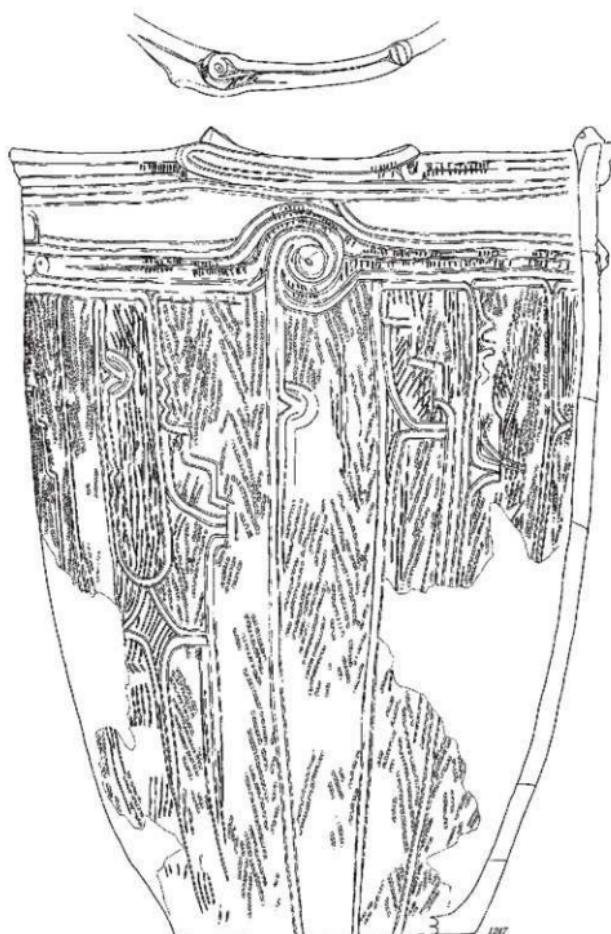
註32 清 久助 1976 「北陸の縄文小野古窯の編年に関する一試論」『石川考古学研究会誌』19号 石川考古学研究会



第114図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 新保式

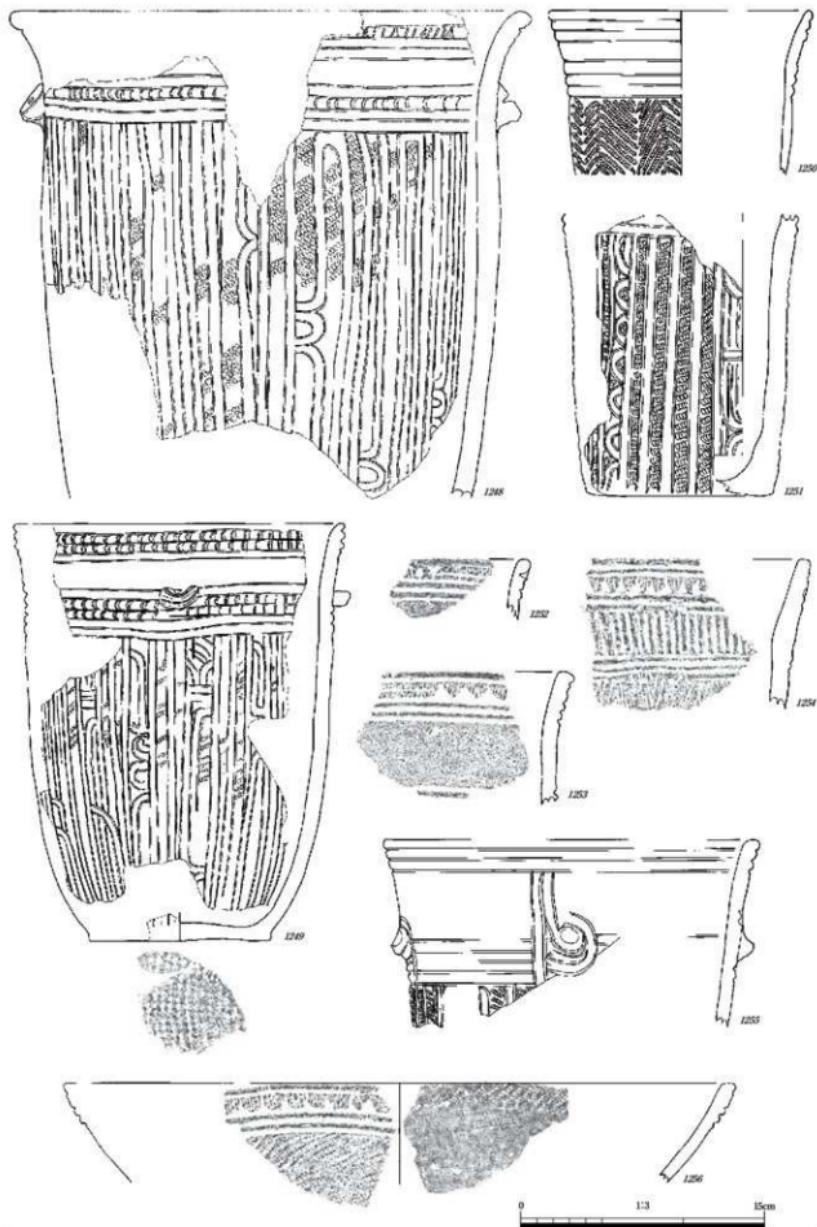


第115図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 新保式



0 13 10cm

第116図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 新保式



第117図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 新保式

b 新崎式 (1257~1273, 第118・119図, 図版5・38・92・94・95・106)

石川県鳳至郡穴水町新崎遺跡の土器を標識とする。新保式に後続し, 中期前葉に位置づけられる<sup>註13</sup>。前後の段階と比較して, 出土数は少ない状況にある。器種は, 深鉢 (1257~1259・1266~1273), 有孔鉢付土器 (1261), 浅鉢 (1262~1265) がある。

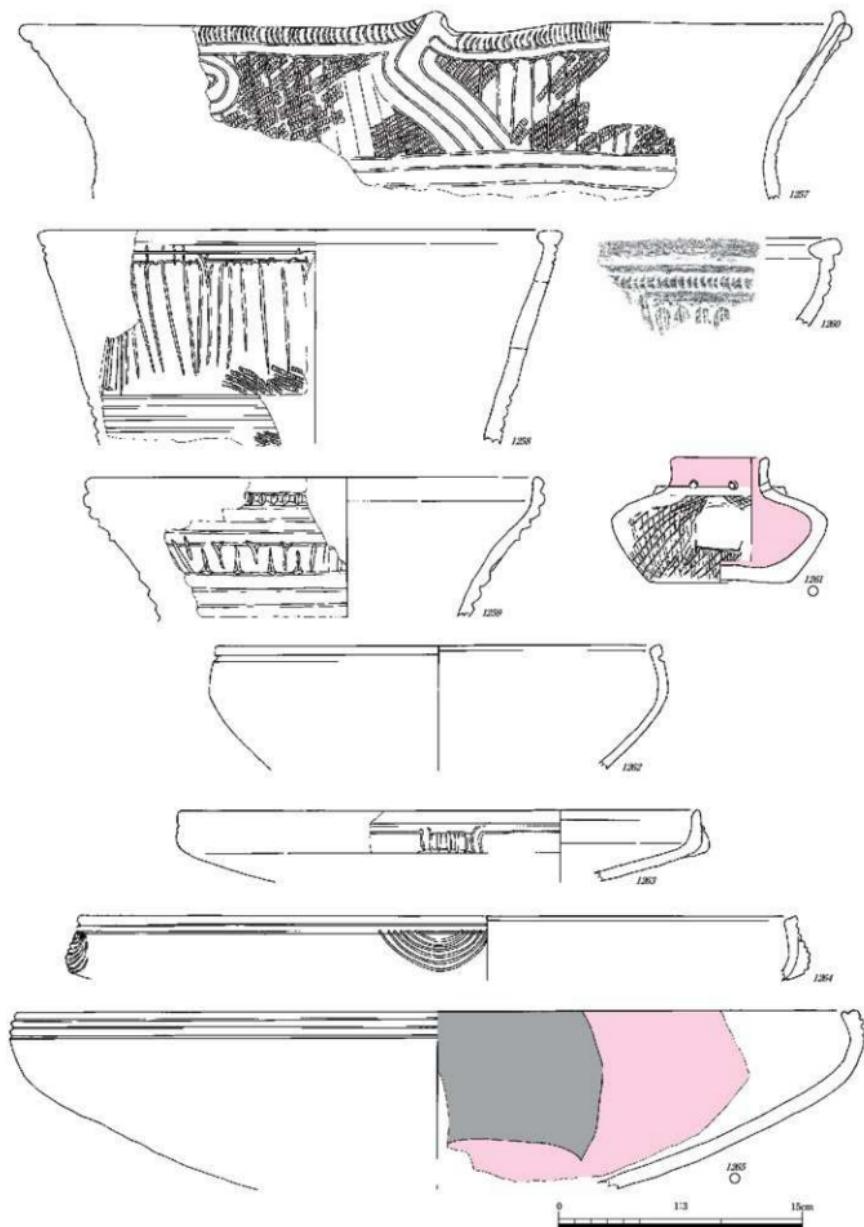
1257・1258の口縁部は縄文地に半隆起線を継位に浅く引き並べるが, いずれも上端に半截竹管の連續刺突がある。1257口縁部の入字状突起から垂下する隆帶は全て剥離しているが, 口縁部一条目に爪形文を刻む隆帶が巡っていることから, 垂下降帶にも爪形文が刻まれていた可能性がある。1259は新保式の深鉢Aに連なる器形であるが, 新保式段階に比べて口縁部の内済が弱くなっている。1260は口縁部に爪形文と有抉連華文<sup>註14</sup>を施すもので, 典型的な新崎式といえるものはこの1点のみである。1258・1260の口縁端部は内側へ丸く突出する特徴をもつ。

1261は有孔鉢付土器としたが, 孔列の下に巡る鉢は全て剥離している。胴部の器高が低く, 肩が張る器形である。胴部には多角形状の区画が4箇所あるが, 区画内は磨き, 区画外は斜格子目文で充填する。鉢の下, 多角形区画の上部にも剥離痕があり, 何らかの突起が付いていた可能性が高い。内全面および口縁部外面には赤色漆塗りをする。

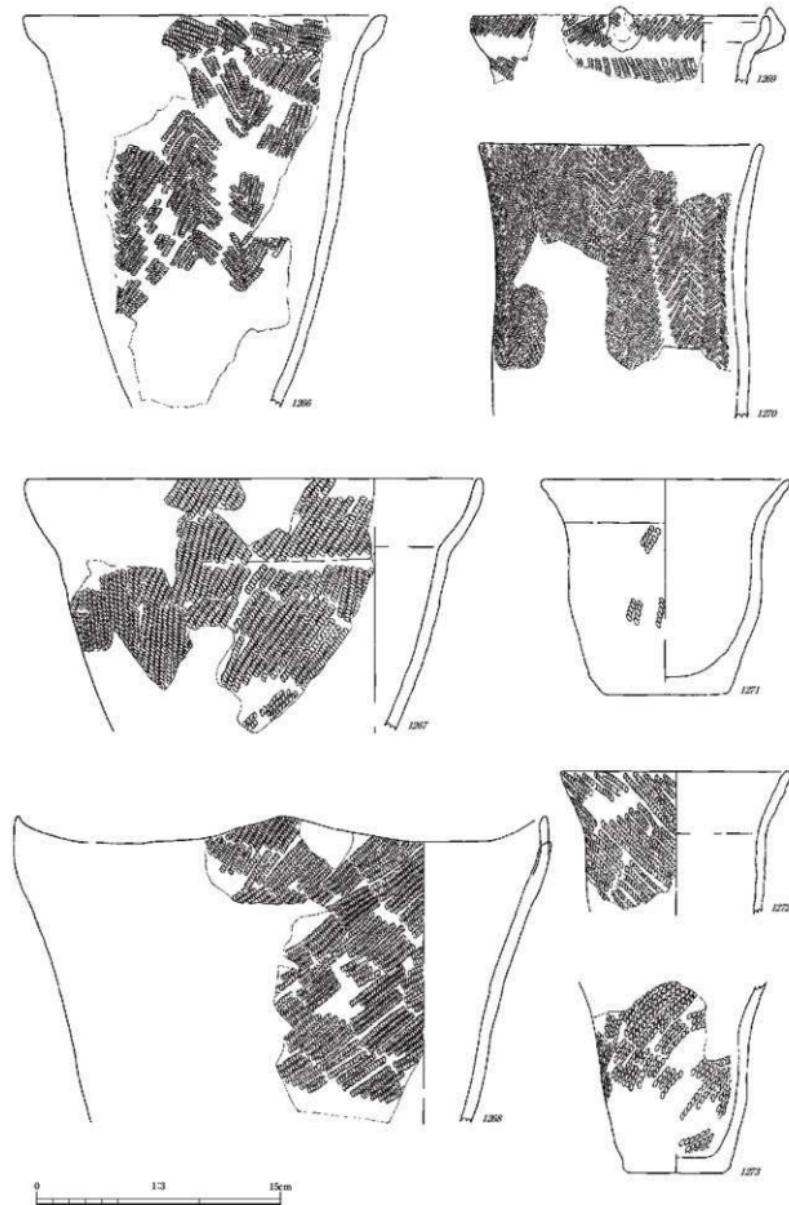
1262~1265は浅鉢である。1262は口縁部に半隆起線状の深い沈線を1条巡らせ, 内外面とも丁寧に磨く。器表面に残る痕跡が僅かであるため図示していないが, 内外面とも赤彩されていた可能性が高い。1263・1264は文様のある屈曲部分の器壁が粘土貼り付けにより厚みを増す。1265は大型の浅鉢で, 内面には黒色系漆と赤色(ベンガラ)漆による漆絵がある。漆塗膜分析を実施した結果, 内面を磨いた後, 内全面に薄く漆を塗り, 更に赤色(ベンガラ)漆を塗り重ねていることが判った。赤色(ベンガラ)漆は緩やかな弧を描いて丁寧に塗られている。

1266~1273は粗製深鉢である。新保~新崎式段階と考えられるものをここにまとめた。小型品(1271~1273)が一定量出土している。原体および施文方向は, 第1種結束羽状縄文の口縁部横位・胴部継位施文(1266), 第1種結束羽状縄文の全面継位施文(1270), L R縄文の全面横位施文(1267・1268・1271・1273), R L縄文の全面横位施文(1272), L R縄文の口縁部横位・胴部継位施文(1269)がある。第1種結束羽状縄文の胴部継位施文には, 両翼均等施文(1266), 片翼状施文(1270)がある。1266の口縁部には, 原体の結束部を含めた片翼のみ横位施文しており, 口頭の括れ部分には, 結束部を強調して押圧する。

註13 新保式と新崎式の区分は, 加藤三千重, 2008「新保・新崎式土器」[収載: 織田一郎・小林道雄編]に従う。  
註14 南 久和, 1976「北陸の縄文中隔垂葉の発展に関する一試論」[石川考古学研究会会報]19号 石川考古学研究会



第118図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 新崎式



第119図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 新保式 新崎式

## c 上山田・天神山式 (1274~1313, 第120~133回, 国版17・24・25・38~42・95~97)

石川県河北郡字ノ気町上山田貝塚および富山県魚津市天神山遺跡出土土器を標識とし、中期中葉に位置づけられる。器種は深鉢、台付鉢、浅鉢、有孔鈎付土器があり、後続する古府式段階にかけて台付鉢が数を増していくことが特筆される。深鉢は、直立気味に立ち上がる胴部に外傾する頸部、強く内傾する口縁端部がつく器形を主体とする。文様は半截竹管を用いて施文し、基線とした隆帯（基隆帯）の周囲に半隆起線を沿わせ、大きく渦を巻いて器面を飾ることを特徴とする。基隆帯は粘土紐を貼りついているため周囲の半隆起線よりも1段高く成形されており、基隆帯上をヘラ刻みし、また基隆帶上両側を斜めに刻んで綾杉状とするものもみられる。半隆起線の形状は、断面形が半円形に近い、比較的深さのあるものが多い。文様は2単位、4単位での繰り返しを基本とするが、単位の不明な文様構成をもつものも一定数ある。内面調整は横方向の削りとやや粗い磨きを主体とする。土器の胎土は赤色粒、白色粒、石英、骨針が混じるものが多く、一部に雲母の微粒がみられる。焼成は良好で、色調は黄灰色、淡褐色を呈するものが多い。

分類 器形 深鉢A 平口縁で、胴部が直立気味に立ち上がり、口頸部が外傾し、口縁端部が内屈するもの。

深鉢B 平口縁で、太い胴上部に軽い張りがあり、口頸部が外傾し、口縁端部が内屈するもの。

深鉢C 頂部に突起が付く波状口縁で、胴部が直立気味に立ち上がり、口頸部が外傾し、口縁部が内屈するもの。波頂部は外傾して広がる。

深鉢D 波状口縁で、丸みのある胴部が、胴中程と頸部で2回括れるもの。

深鉢E 小型のものを一括する。

台付鉢 浅い器形で底部に高台を持つと思われるものを一括する。

浅鉢 浅いものを一括する。

有孔鈎付土器 口縁部に孔列と鈎をもつもの。

文様① 1類 外面に2段の縄文を施すもの。

2類 その他を一括する。

文様② a類 口縁部に三角形と半円形を組み合わせた区画文様をもつもの。

b類 大きな眼鏡状突起をもつもの。

c類 外面を横位に区画し、区画内を基隆帯や半隆起線で埋めるもの。

d類 基隆帯と半隆起線が斜位に大きく流れる文様を描くもの。

e類 脇下半部に半截竹管沈線を縦に間隔をあけて浅く引き並べるもの。

分類は、深鉢A 1 a類 (1275), 深鉢A 1 d類 (1277), 深鉢A 1 d e類 (1278~1279・1281~1282), 深鉢A 1類 (1296), 深鉢A 2 d類 (1274), 深鉢A 2 d e類 (1283), 深鉢B 1 a類 (1276), 深鉢C 2 b c類 (1289~1291), 深鉢D 2 c類 (1292), 深鉢E 2 d類 (1284~1286), 有孔鈎付土器 (1293), 台付鉢 (1298~1306), 浅鉢 (1307~1313) である。

文様①の地文は2段の縄文のみを確認している。精製深鉢で地文が観察できる部位は胴部のみであり、口縁部はすべて間隙まで施文されるため、口縁部文様の下に地文が観察できる例はない。粗製深鉢 (1294) と台付鉢 (1298~1300・1302) は、口縁部まで地文を施す。縄文はLRとRLがあり、全て横位施文である。

a類 (三角区画文) は新道式にみられる文様意匠であり、長野地域等との関連が求められる。深鉢

A (1275), 深鉢B (1276) 器形と組み合わさる。刻みのない陸帯で口縁部を区画し、区画の要所には半環状突起や中央が窪む円文を置く。1275・1276の基本文様は同じであるが、陸帯の配置場所が異なっており、1275は三角形区画、1276は半円形区画および渦巻きを陸帯とする。1275の文様区画内には半隆起線を一定方向に平行して引くが、半円形区画内の上端には半截竹管の刺突があり、長弁蓮華文風になる。1276は口縁部がほぼ全周残存しているが、文様構成が複雑で規則性がみられず、文様の単位が把握し難い。

b類（眼鏡状突起）は、深鉢C器形の波頂部下につく（1289～1291）。外面には横位区画内に文様が展開するc類を施す。半隆起線は細く深いもので、1289・1291のヘラ刻みされる基陸帯は半隆起線よりも高く高い。1289は4波頂の波状口縁で、正面に大型の三ツ山装飾環状把手<sup>15</sup>を配置する。同形の三ツ山装飾環状把手がほかに1点出土しており、大突起を少なくとも2箇所に配置する構成であったと思われる<sup>16</sup>。1289には三叉文、円文のほか2個1単位のヘラ刻目、1291には2個1単位の粘土貼付が各所にある。1290の口縁部と胴部の境には丸く潰した粘土を連続して貼り付け、中央にはヘラで横方向の押し引き状刺突を入れる。これと類似の文様は、深鉢（1316）や台付鉢（1303・1334～1336・1359・1512）など、上山田・天神山式新段階から串田新式の土器にみられる。

c類（横位区画内文様）は、深鉢C（1289～1291）、深鉢D（1292）器形と組み合わさる。1292は器形の括れた部分で横位に区画をしており、刻印蓮華文や無文帶の沈線内ヘラ連続刻目など、新崎式的な文様要素を残す。区画内に基陸帯と半隆起線を施すが、間際に生じた余白は抉り取り、無文部には三叉文や円文、刻印蓮華文を入れる。半隆起線よりも高く盛り上がりのある基陸帯上はヘラで刻目を入れ、両側を刻む正面の渦巻文などは綾衫状となる。口縁部は4波頂で、4面のうち2面が残存するが、文様構成はそれぞれ異なっている（写真図版41参照）。

d類（斜行文様）は、深鉢A（1274・1277～1283）、深鉢E（1284・1286）器形と組み合わさる。1274・1280はこれらの中でも特に半隆起線が細く、古手の様相である。半隆起線の中心にあり細かくヘラ刻みされる基陸帯は、半截竹管を用いて整形されておらず、粘土紐の貼り付けもなされていないため、高さがない。1274の口縁部には基陸帯が延びる開始点に円文の窪みがあり、周囲を放射状にヘラ刻みする。また沈線内と無文帶にも細かいヘラ刻みがある。1277・1278・1283は、深鉢Aの内屈する口縁部に、更に外傾する口唇部が付加されるものである。付加部外面はナデによる無文調整で、半截竹管文は施されない。上山田・天神山式の中でも新しい段階の器形と考えられる。1277は頸屈曲部から垂下する基陸帯が、短く丸まるものは6本、斜位に長く延びた後丸まるものは7本あるようである。無文部の縁の楔形刻目文は一部省略されている。1278の基陸帯の高さは周囲の半隆起線と同じで、末端の渦巻部分のみ粘土を貼り付けて高さを出す。半隆起線は断面半円形を呈する深いもので、間際に生じた三角の余白は抉り取る。1279の余白は一部が抉り取りされずに残る。1282の半隆起線は断面三角形状に角張る。1280・1283の基陸帯上のヘラ刻みは一部が綾衫状となる。無文部に入る三叉文は、1281はヘラによる沈線状に、1283は半截竹管による沈線状に省略化される。1283は4単位で基陸帯が斜行する文様構成であるが、ヘラ刻みを施す基陸帯にズレが生じて一部が半隆起線に置き換わる。1283の基陸帯は渦巻部分と円文周囲のみ高さをもつ。小型の深鉢E（1284・1286）は細く深い半隆起線を巡らせ、高さのある基陸帯が頸屈曲部から垂下する。1288は口径59cmを測る大型の深鉢で、d類を施すと思われる。口縁部の渦巻き頂部や無文部には玉抱き三叉文を配置する。

e類は、半截竹管沈線が胴部横位区画から垂下するもの（1279・1282）、胴部に横位区画がなく斜行文様から垂下するもの（1278・1281・1283）がある。半截竹管沈線は半隆起線と同じ施用具を用い

註5 小畠雅利：2005「バケット型土器と三ツ山装飾環状把手」『木塊』第25号 萩山考古学館

註6 実測図では、2点目の三ツ山装飾環状把手を正面に向かって左側面に配置しているが、暫定的なものであり、実際の複合面図はない。

ると思われるが、浅く間隔をおいて施すため断面半円形にならずに地文が残る場合が多い。

有孔鍔付土器(1293)は、表面全体に鉄分が付着した上に所々が薄く剥離しているため文様が判りにくくなっているが、ほぼ完形で残存する。外底面を除く全面に赤色漆を塗る。胴部中程の強い括れ部に半隆起線を巡らせて、口縁部文様帯と胴部を区画する。口縁孔列下にはブリッジ状突起を4箇所配置する。基隆帶は半隆起線よりも高く太くつくり、右下がりに2本、左下がりに1本斜行させる。右下がりの基隆帶脇には円文がつき、左下がりの基隆帶は先端を軽く巻いて收める。基隆帶は3本とも下端に近づくと自然消滅する。基隆帶上は綾杉状に刻み、無文帶や三叉文の周囲には細かいヘラ刻目を入れる。胴部にはR L 縄文を横位施文する。

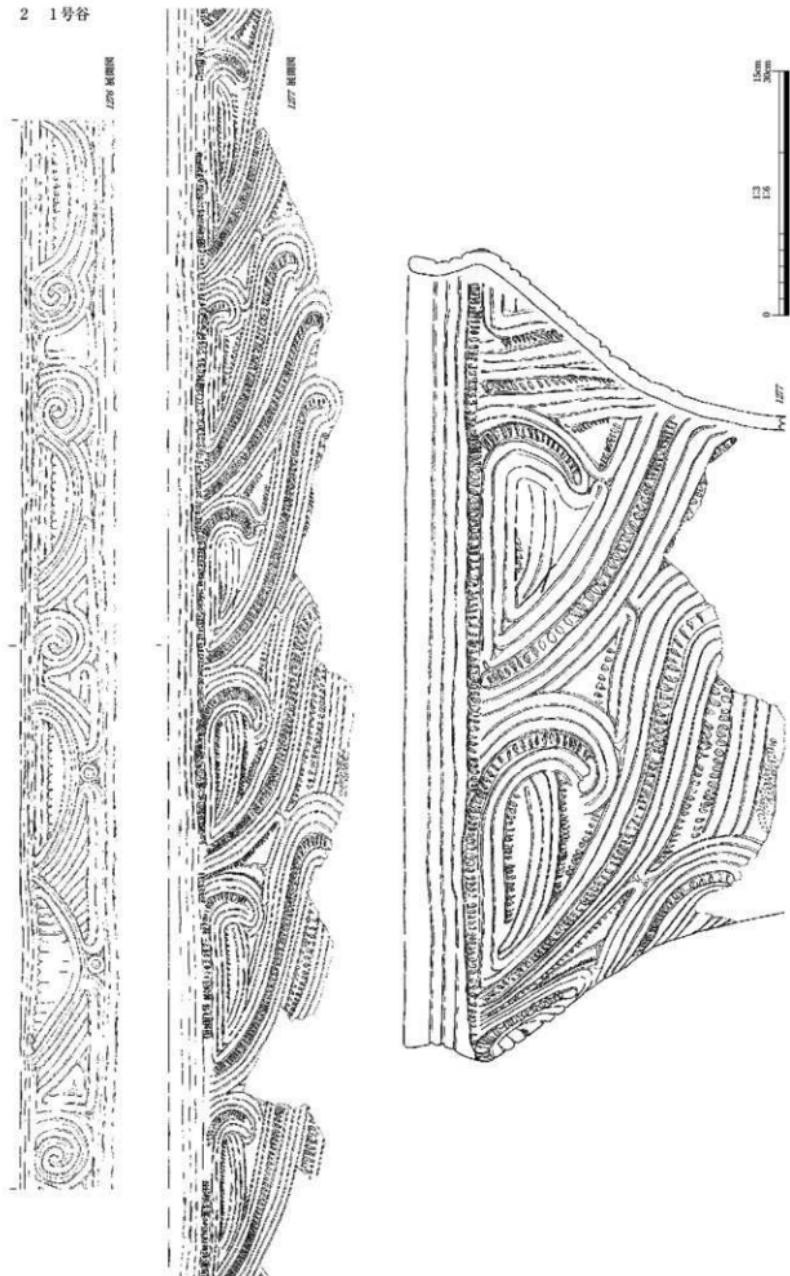
粗製深鉢(1294~1297)の施文は地文と単純な半隆起線文からなる。いずれもほぼ全面にL R 縄文を横位施文する。1294は小型深鉢で胴部がやや張り、軽く内湾する口縁部がつく。4単位の波状口縁であるが、3単位のうちの1区間に無理矢理1波頂を加えたような不規則な4波頂をもつ。口縁部には半隆起線が3条1単位で垂下しており、半隆起線の形状から新崎式~上山田・天神山式古段階のものと考えられる。1295・1296は深鉢Aの口縁端部に外傾する口縁が付加される器形である。1295は口縁の強い屈曲部に半隆起線を2条巡らせ、その下に長いヘラ刻みを施す。1296の付加口縁は無文部を長く引き延ばす。1297は深鉢か台付鉢の口縁部で、波頂部下にしの字状の半隆起線を引く。

台付鉢(1298~1302・1306)は、口縁部の平面形が楕円形(1298・1299・1302)と円形(1300・1301・1306)がある。1298・1299・1302はヘラ刻みのあるS字状の基隆帶と半隆起線が横位に展開する文様構成である。地文は2段の縄文で、L R (1298), R L (1299・1302)を横位施文しており、胴部下半や文様の間際にあらわれる。1298は中央が窪む円文を4箇所に配し、口縁の無文部はヘラ刻みで充填する。1299は基隆帶が渦巻く頂部に3個1単位のヘラ刻みを施す。1302は大型で、2単位の頂部と台部を欠損する。半隆起線を深く施しており、半隆起線間は幅広の沈線状になる。無文部には三叉状抉りとヘラ刻みがみられる。1300・1306は口縁部が強く屈曲する。1300の半隆起線は1302と同様に深く、半隆起線間が幅広の沈線状になる部分がある。基隆帶の一部は両側から刻まれて綾杉状となる。1301は内湾する胴部をもち、頂部はU字状に落ち込むようである。基隆帶上をヘラ刻みし、無文部はヘラ刻みで充填する。口縁部内面にも半隆起線を引く。1306は強く内屈する口縁部に外傾する口唇部を付加する大型品である。口縁部には三ツ山装飾環状把手の大型と小型のセットが交互に4箇ずつ付く。把手間は綾杉状刻みのある太い横隆帶で結ばれる。大突起の下にはヘラ刻みのある基隆帶と半隆起線が渦を巻く。外傾する口唇部内面には数条の半隆起線と玉抱き三叉文状の文様が入る。1303~1305は台付鉢の台部である。1303は半隆起線を横位多条に巡らせ、下部には丸く潰した粘土を連続して貼り付けた隆帯を巡らせる。1304・1305は丸い透孔を入れる。1305は底部と台部の境に爪形文を持つ隆帯を巡らせる。当遺跡において爪形文は上山田・天神山式にはみられないため、1305は新崎式に含めた方がよいかもしれない。台付鉢は、外面に煤、内面下半部に炭化物が厚く付着するものが多くみられることから、深鉢と同様に火にかける調理に用いられたと考えられる。

浅鉢(1307~1313)は、口頭部がくの字状に屈曲するもの(1307・1308・1313)、口頭部の屈曲が弱く口縁部がほぼ垂直に立ち上がるもの(1309・1310)がある。いずれも体部の器壁を均一に仕上げて丁寧な磨き調整を施す。多くは口唇部上面に玉抱き三叉文を入れ、口頭部にX字状の突起やブリッジを付けて正面をあらわす。隆帶上は、刻みのないもの(1309・1313)、ヘラで刻むもの(1308・1311)、ヘラで両側を刻み綾杉状とするもの(1307・1310・1312)がある。1307は内面と口唇部に赤色漆を塗る。1309は摩滅するが、内面および口唇部の玉抱き三叉文を赤彩していたようである。



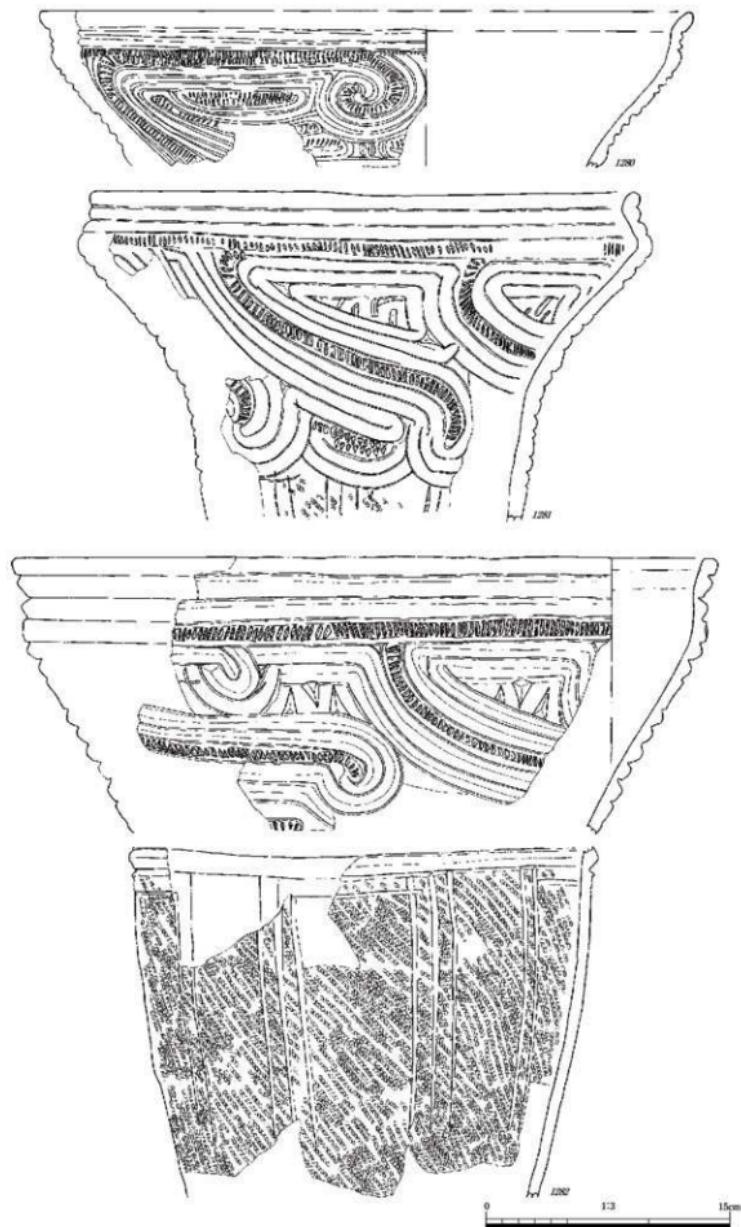
第120図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式



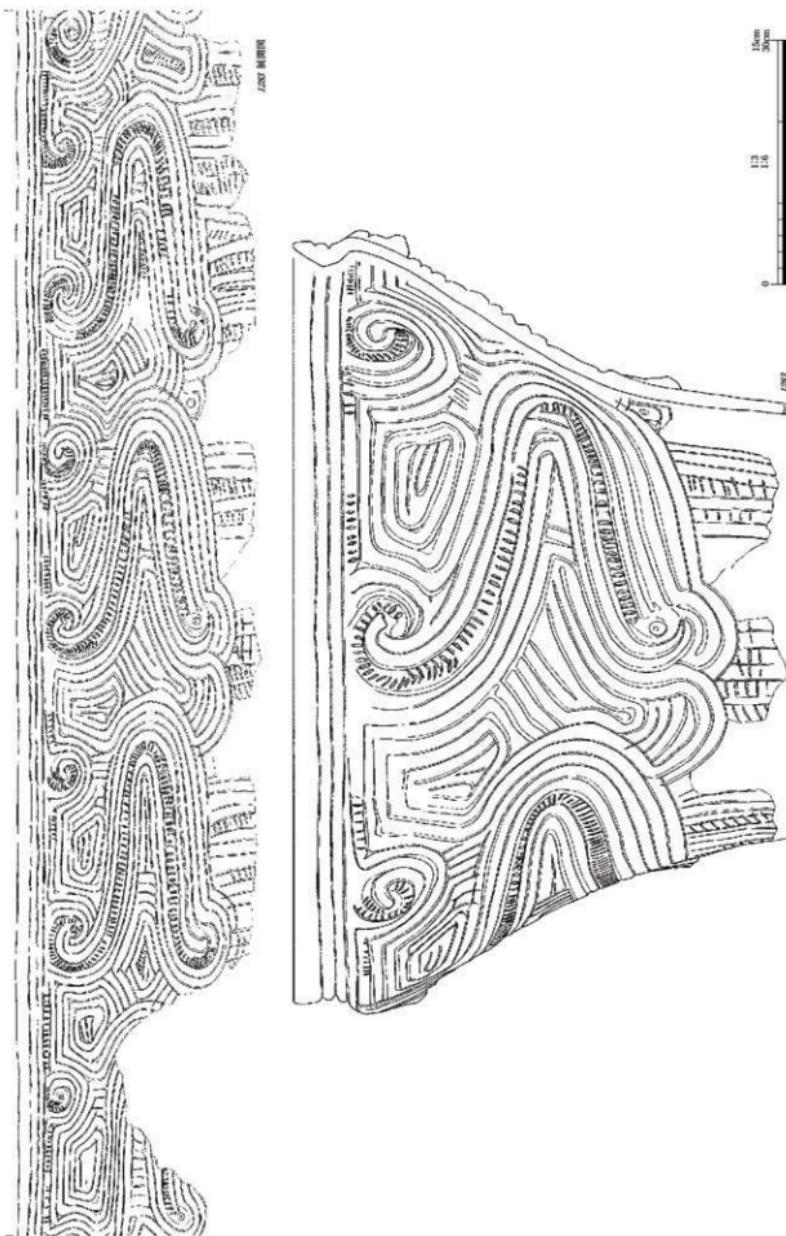
第121図 繩文時代遺物実測図 (1/3, 展開図 1/6)  
SD1 上山田・天神山式



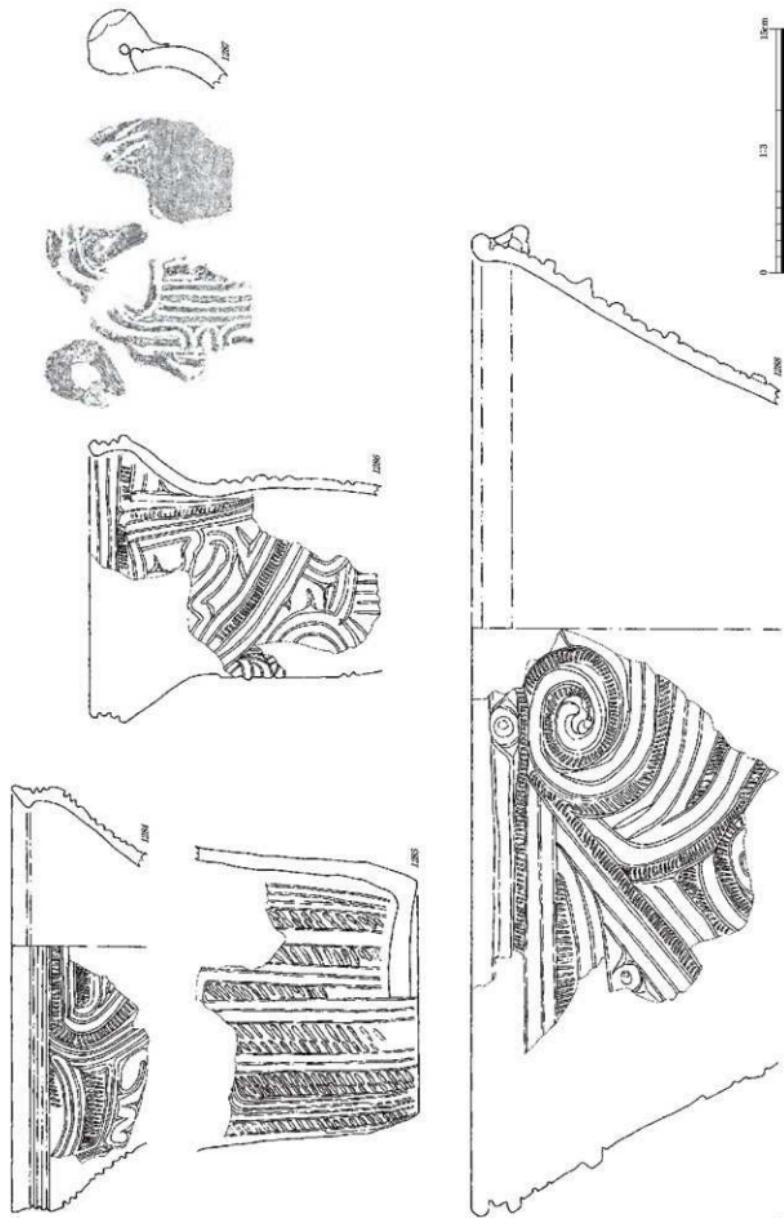
第122図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式



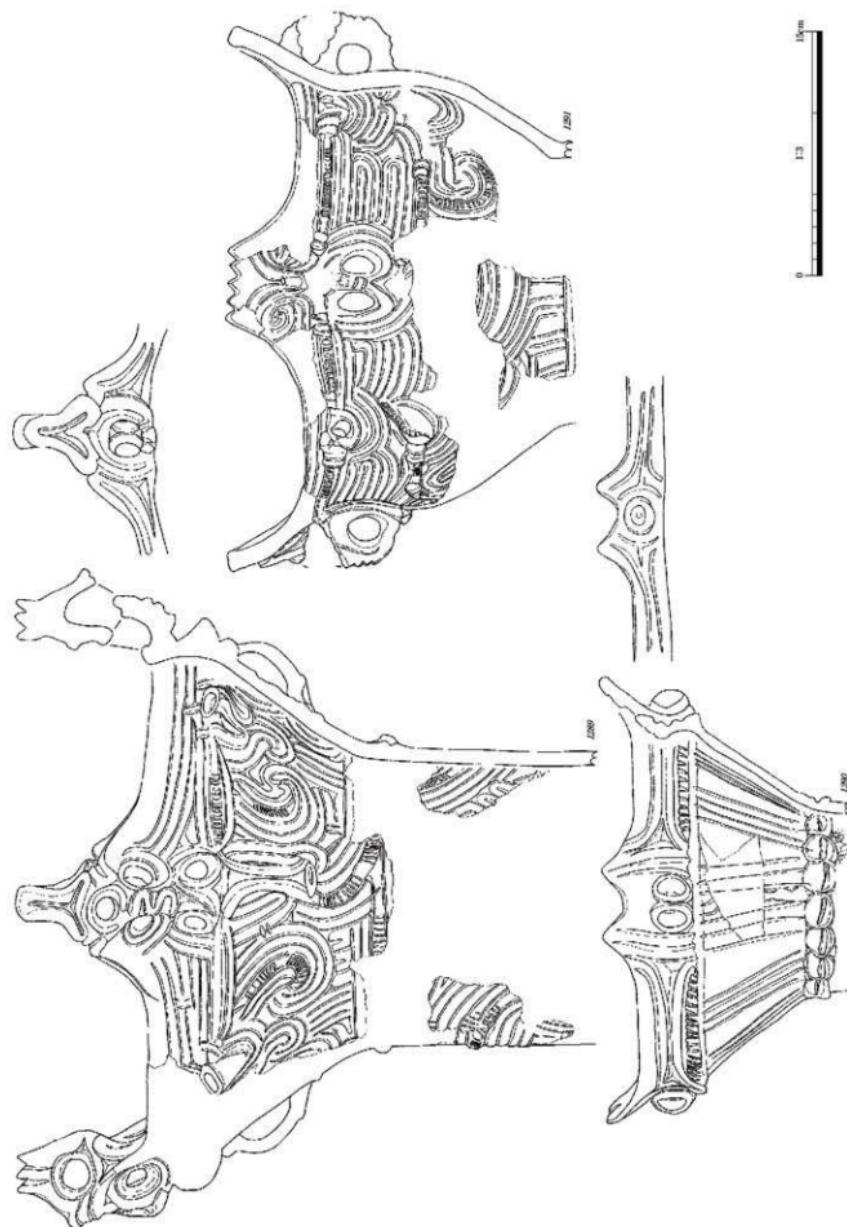
第123図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式



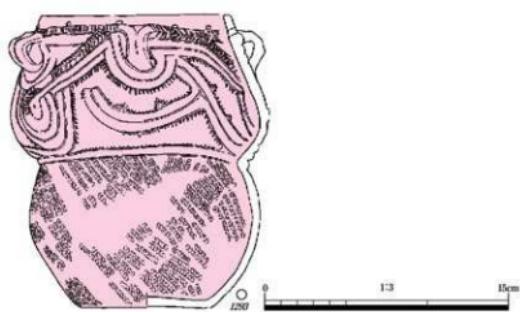
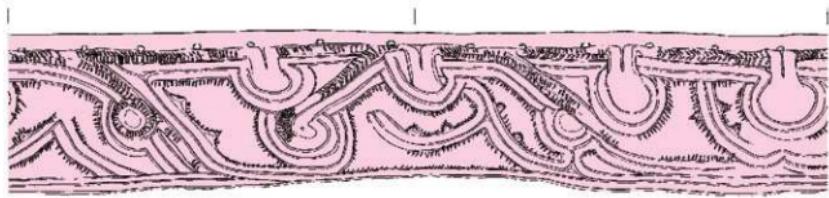
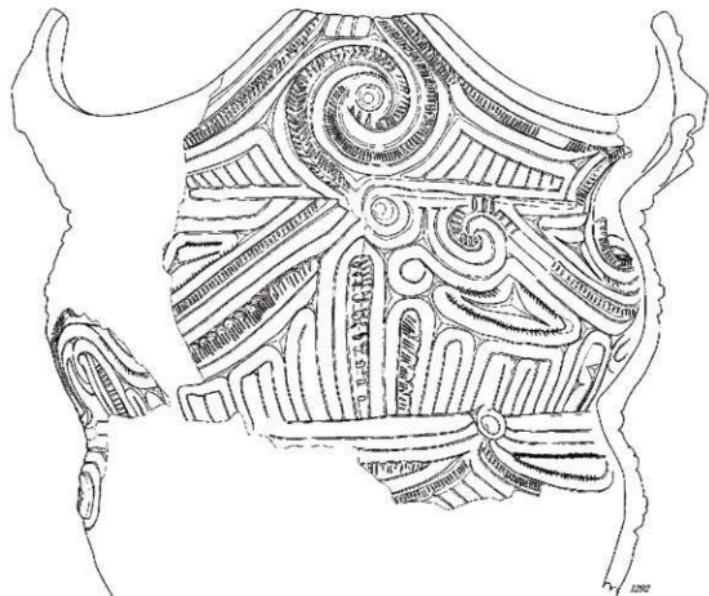
第124図 純文時代遺物実測図 (1/3, 展開図 1/6)  
SD1 上山田・天神山式



第125図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式



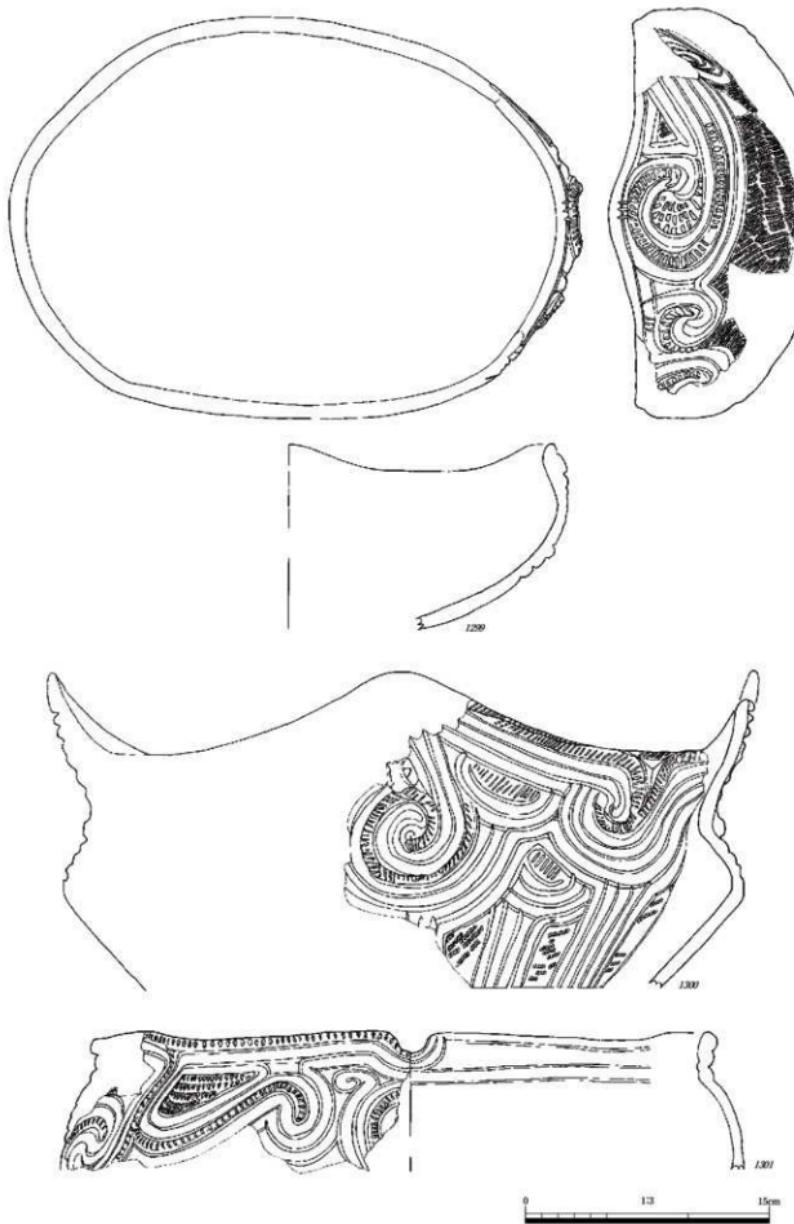
第126図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式



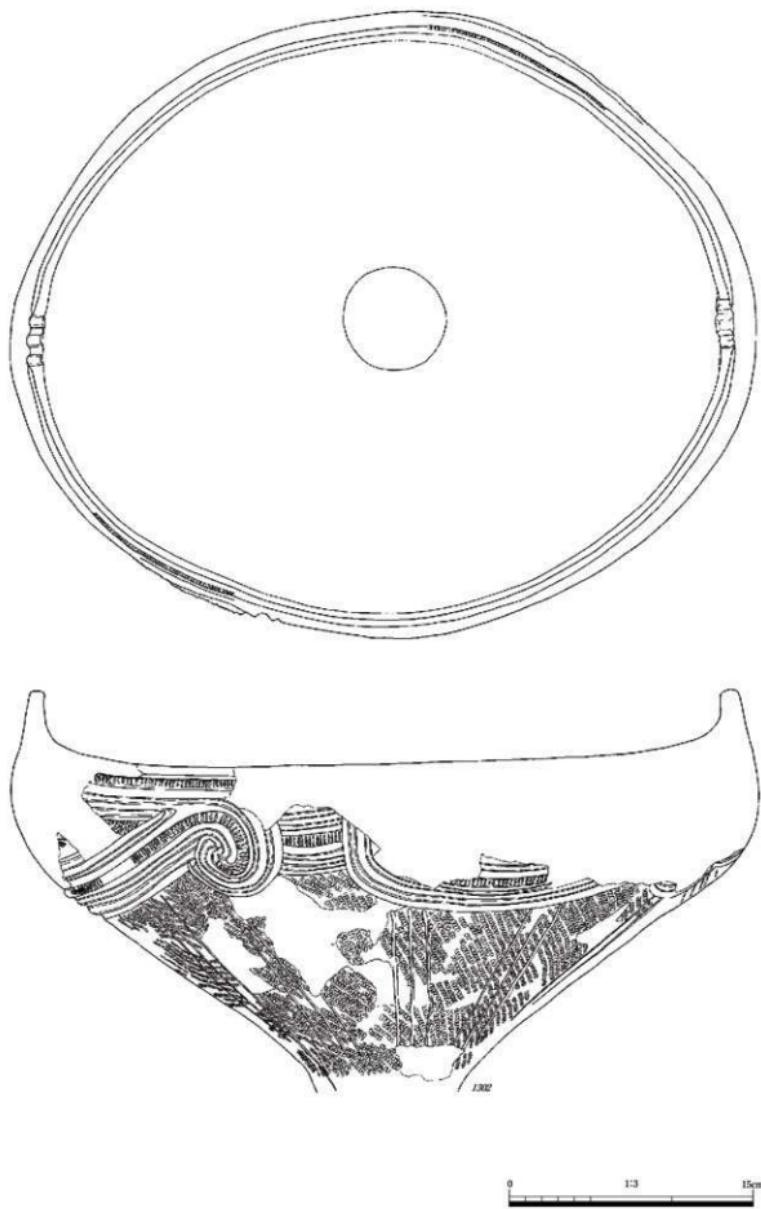
第127図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式



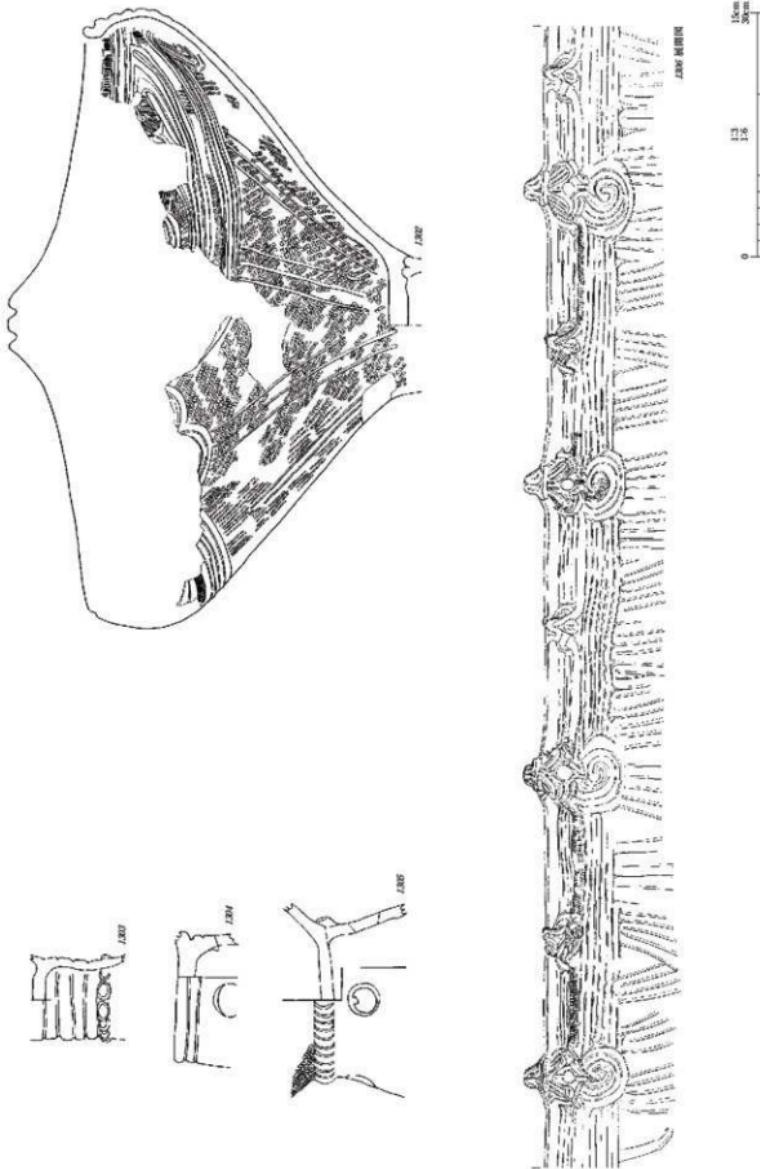
第128図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式



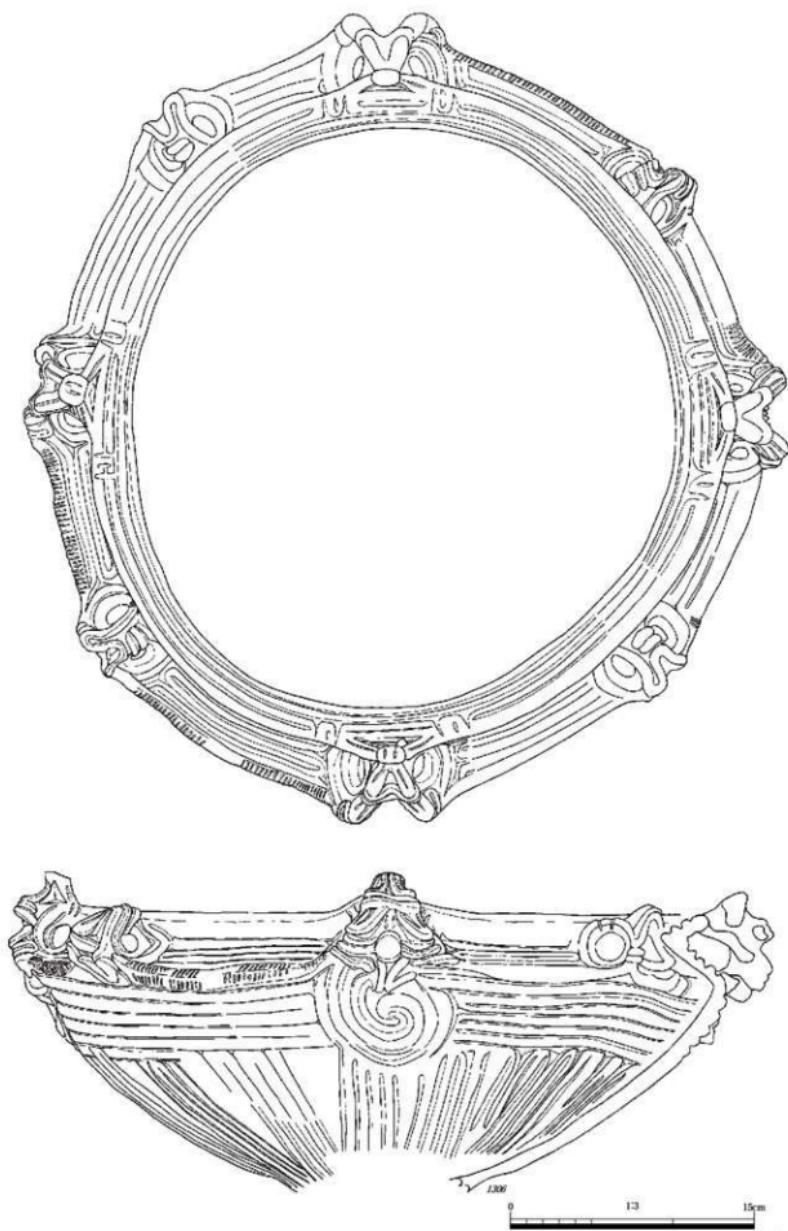
第129図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式



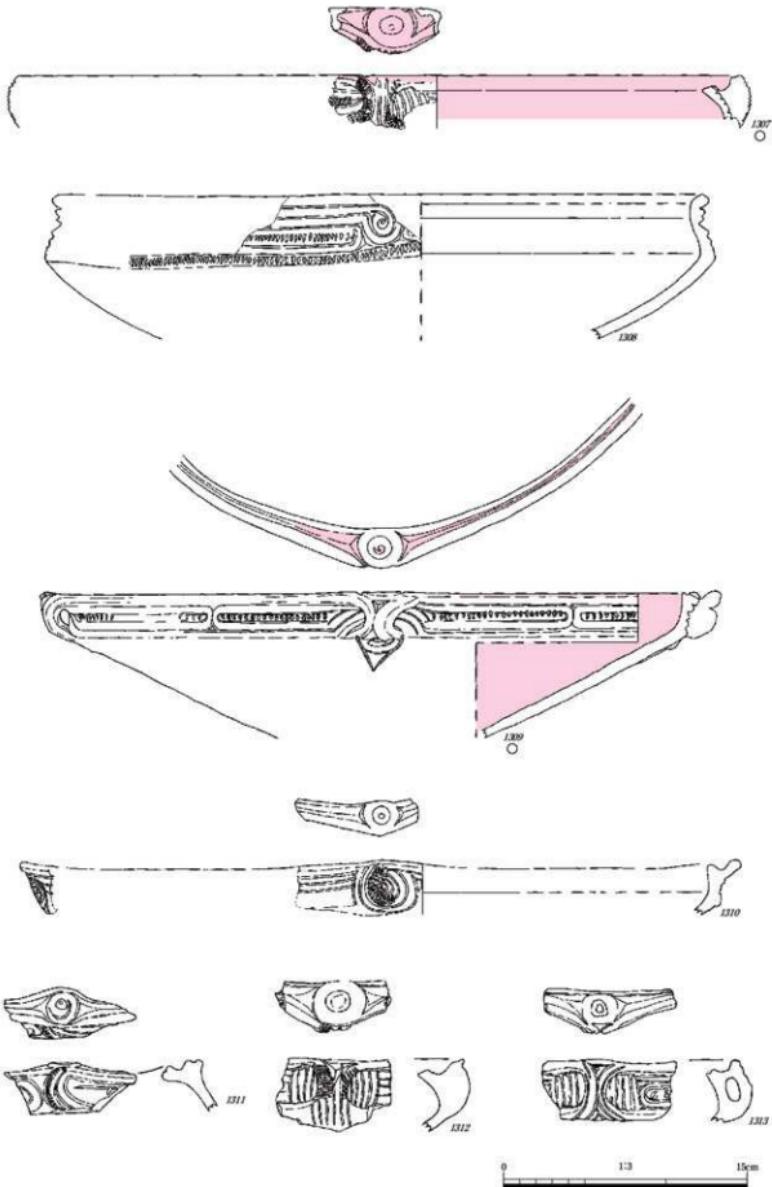
第130図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式



第131図 縄文時代遺物実測図 (1/3, 展開図 1/6)  
SD1 上山田・天神山式



第132図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式



第133図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式

## d 古府式 (1314~1389, 第134~150図, 図版25・42~45・97~102)

石川県金沢市古府ヒビタ遺跡出土土器を標識とする。上山田・天神山式から継承した器形や文様が変容する段階である<sup>207</sup>。器種は深鉢、台付鉢、浅鉢、ミニチュア土器があり、精製深鉢の他、粗製の深鉢や台付鉢もつくられる。この中でも台付鉢は、上山田・天神山式以降、引き続き多く出土している。深鉢は、平口縁で、内屈する口縁部に外傾する口唇部を付加する器形が多くみられる。文様では、渦巻文を構成する基隆帯と半隆起線から高さや深さが失われ、立体感が乏しくなるものが多い。土器の胎土や色調、内面調整等は上山田・天神山式と共に通する。

分類 器形	深鉢A	胴部が直立気味に立ち上がり、口頭部が外傾し、口縁端部が内屈するもの。
	深鉢B	太い胴上部に張りがあり、口頭部が外反し、口縁端部が内屈するもの。
	深鉢C	深鉢Aの口縁端部に、外傾する口唇部を付加するもの。
	深鉢D	深鉢Bの口縁端部に、外傾する口唇部を付加するもの。
	深鉢E	胴上部に張りがあり、口縁部が直立するもの。
	深鉢F	胴上部に張りがあり、口縁部が外傾するもの。
	深鉢G	胴部が外傾気味に立ち上がり、強く外反する口縁部に短い端部がつくもの。
	台付鉢A	底部に高台をもち、膨らみのある体上部から続く口縁部が内湾するもの。
	台付鉢B	台付鉢Aの口縁端部に、外傾する口縁部を付加するもの。
	浅鉢	精製で浅いものを一括する。
	ミニチュア土器	小型のもの。
文様①	1類	外面に1段の縄文を施すもの。
	2類	外面に2段の縄文を施すもの。
	3類	外面に3段の縄文を施すもの。
	4類	その他を一括する。
文様②	a類	口縁部に基隆帯と半隆起線で渦巻文等の文様を描くもの。基隆帯上はヘラ刻みする。
	b類	口縁部に半隆起線のみで渦巻文等の文様を描くもの。
	c類	胴下半部に半截竹管沈線を縱に間隔をあけて浅く引き並べるもの。
	d類	口縁部に基隆帯と半隆起線で渦巻状の文様を描くが、基隆帯上に櫛状具や貝殻腹縁による刻みを施すもの。

分類は、深鉢A 2 a c類 (1314), 深鉢A 2 a類 (1316), 深鉢A 2 d類 (1376), 深鉢B 2 b類 (1315), 深鉢B 2類 (1339), 深鉢B 4 d類 (1380), 深鉢C 2類 (1337), 深鉢C 4 a類 (1319・1320), 深鉢D 2 a類 (1317・1318), 深鉢D 2類 (1340), 深鉢E 2類 (1341~1343・1348・1349), 深鉢E 3類 (1345・1346), 深鉢F 2類 (1322・1354・1355), 深鉢F 2 b類か台付鉢B 2 b類 (1321), 深鉢F 2類か台付鉢B 2類 (1357), 深鉢G 2 d類 (1381), 深鉢G 4 d類 (1382・1383), 台付鉢A 1類 (1367), 台付鉢A 2類 (1368・1369), 台付鉢A 2 a類 (1325・1326・1328), 台付鉢A 2 b類 (1323・1324・1327), 台付鉢B 2類 (1358~1366), 台付鉢B 2 b c類 (1333), 台付鉢B 4 a類 (1332), 台付鉢B 2 a類 (1329・1330), 台付鉢B 2 a c類 (1331), 浅鉢 (1371~1374・1387~1389), ミニチュア土器 (1375) である。

文様①の地文は2類 (2段の縄文) が主体であるが、この他に1段のL (1類, 1367), 3段のR L R (3類, 1345・1346) がある。2段の縄文はR L, L Rともにあるが、R Lが7割強程の割合を

207 佐久、北陸の中部中盤の兩土器型式大差無整理、標記する動きがみられる。小島俊郎「1990年」、河島における縄文土器型式編年研究の進度と展望(2)「北陸地方」中間「『縄文時代』109」第2分冊では、天神山式、古府式、古布田式を主山田式に統合する考えが示されている。小島俊郎「2006『上山田・天神山式』」[前掲]「縄文土器」では、上山田・天神山式の3・4種類が従来の古府式にあたりと説明されている。ここでは中盤中葉の資料を新古に分離できることを示すため、便宜的に古府式の型式名を用いることとする。

占める。R L と L R 繩文の割合は、新崎式段階では L R が主体で、上山田・天神山式段階では両者が拮抗する印象であったが、古府式段階において逆転する。繩文の施文部位は胴部が通例であるが、この他に口縁部文様の無文部（1314・1316・1323～1325・1327）や隆帯剥離部分（1326・1330）に地文が現れる場合がある。施文方向は新崎式以降横位施文であったが、胴下半の一部に縱位施文するもの（1315・1348）や、斜位施文により条が縱走するもの（1381）もみられるようになる。また1356・1366は、口縁部の波頂下に繩文原体の押圧をする。

文様②の a 類（ヘラ刻み基隆帯と半隆起線文）は、上山田・天神山式から続く文様である。渦巻文の基線にヘラ刻みのある隆帯を置いて周囲に半隆起線を沿わせる構成は同じであるが、古府式に至り、渦巻文の文様単位が2単位から4単位に変わることで文様が縱に走った固いものになることや、施文具である半截竹管が、径が大きく浅いものを用いるようになるため半隆起線から深さが失われること等の理由により、躍動感や立体感に乏しい文様に変化するとされる<sup>210</sup>。隆帯はその太さや高さをえて周囲の半隆起線と区別する意識が弱くなり、半隆起線と同化する b 類が現れる。また、半隆起線が平行沈線状となり、隆帶上に櫛状具や貝殻腹縁による刻みを施すものを d 類とし、從来古串田新式とされてきたものを該当させている。

1314はヘラ刻みの隆帯と幅広の半隆起線で器面を4単位に飾る。口縁部に無文部ではなく、R L 繩文を横位施文する地文がみられる。1315には隆帯がなく、半隆起線のみで文様を構成する。半隆起線はやや幅広であるが深く、断面形は丸みを持つ。繩文はR L で口縁部から胴上半部にかけて横位施文、胴下半部は縱位施文と、施文方向を変える。1316の半隆起線は浅く幅広で、余白の抜去はない。ヘラ刻みされる基隆帯は半隆起線よりは太いが、粘土紐の貼り付けを伴わないと半隆起線と同じ高さである。胴部との境には、指頭で中央を潰した楕円形粘土を連続して貼り付ける。1317・1318は大型の深鉢で、1317は特に器壁の薄いつくりである。いずれもヘラ刻みされる基隆帯は高さを保ち、口縁無文部をヘラ刻みしたり上下交互に三叉文を入れるなど、文様に古い要素を残す。但し、三叉文はヘラによる沈線状となっており、1317の半隆起線は深い沈線状となる。1318の半隆起線は半截竹管の背（表皮側）を押し引きしており、断面形が半円形ではなく三角形状となる。1319は基隆帯と半隆起線を同一の半截竹管で施文しており、半隆起線の1本にヘラ刻みを施して基線状とする。無文部に入る上下交互三叉文はヘラによる沈線状の表現である。1320の基隆帯は半隆起線よりも太いものであるが、高さがくなっている。半隆起線も浅く、余白の抜去はない。1321の口縁部文様は沈線によるもので、半截竹管を用いた施文ではないようである。渦巻きの中心部のみに粘土を貼り付けて、高さを出している。1322は粗製に近い深鉢であるが、半隆起線の断面形は半円形で深く、口縁端部に緩やかに縫合部を密に入れるなどの特徴から、上山田・天神山式に含めてよいかもしれない。口縁部の無文部となるべき部位は撫で消されずに地文の繩文を残し、上側のみ楔形刻目を連続して入れる。

台付鉢（1323～1336・1357～1370）は、口縁部を上から見た平面形が橢円形（1323・1328）と円形（1324～1327・1329～1333・1357～1370）がある。1323はU字形の2波頂を長軸にもち、単軸頂部は緩やかな波状となるようである。口縁内端に押し引いた半隆起線1条が一部に薄く残る。1324はR L 繩文が残る口縁部無文部に、縦の短い半隆起線を引く。1325・1326はS字に渦巻く基隆帯を横位に配し、1326は口縁部隆帯との接点に3個1単位のヘラ刺穴を施す。1327は弛緩気味の器形で、文様に基隆帯を欠く。文様の余白には地文の繩文を残す。1328はほぼ平線であるが、口縁部を上から見ると波頂部にあたる箇所が3の字状に器内側に入り込む。口縁上端と基隆帯、無文部にヘラ刻みを入れるが、無文部の刻みは棒状刺突に近い。1329は緩やかな波状口縁で、残存部位が少ないものの、大波頂4と

210 小島俊郎 1971「北陸の國古代小彌の編年一概説」の研究史と復元－『大槻』第5号 落山考古学論  
小島俊郎 1998「上山田・天神山式」落山式「國古代小彌」3 小学館

小波頂4を交互に配する波状口縁と推測される。ヘラ刻みする基隆帶全体には高さがないが、円文周囲のみ高さを出す。1330は大波頂3と小波頂3を交互に配する波状口縁である。基隆帶には高さがあり、半隆起線は太い沈線状の表現である。半隆起線の断面形をみると押し引き部分が半円形に窪んでおり、細い竹管の表皮側か棒状具を用い、間隔をあけて押し引いたものと考えられる。1331は口縁部の屈曲が弱くやや弛緩した器形である。頸部に巡らせた隆帶から基隆帶が下方に6本延び、下端の渦巻部からc類（綫の浅い半截竹管沈線）が3本1単位でそれぞれ垂下する。このc類は渦巻部以外の3箇所からも垂下しており、合計で9箇所を数える。半隆起線はやや幅広で浅く、口縁無文部には上下交互に半隆起線で半円を引く。1332の半隆起線は細く高さがあるものの、基隆帶に高さがない。付加される口縁部は無文である。1333は細く深い半隆起線のみ胴部に渦巻文や半円形の文様を描く。外全面には地文のR L繩文を残す。

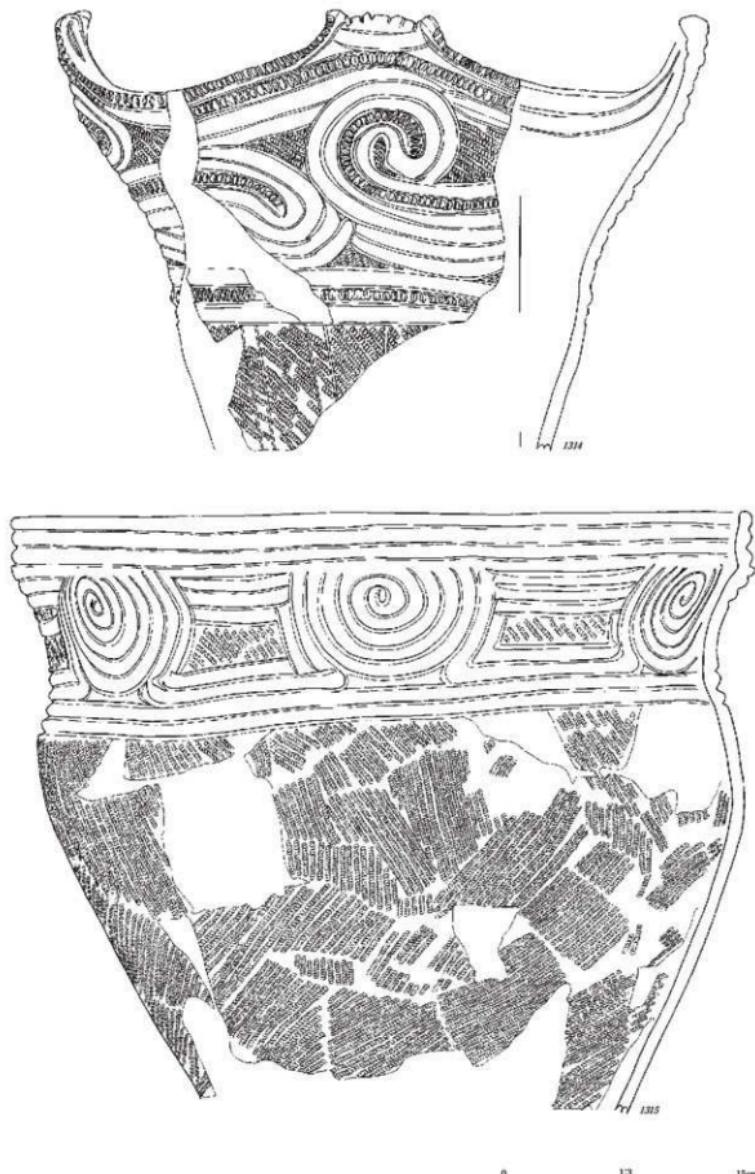
深鉢（1371～1374）は、上山田・天神山式段階よりも口縁部の屈曲が弱い器形となる。内外面を磨き、1371～1373は口縁部に半隆起線を1条巡らせる。1372は平底、1374は高い台が付く。

ミニチュア土器（1375）は台付鉢を模したものか。外面に綫の半隆起線を引く。

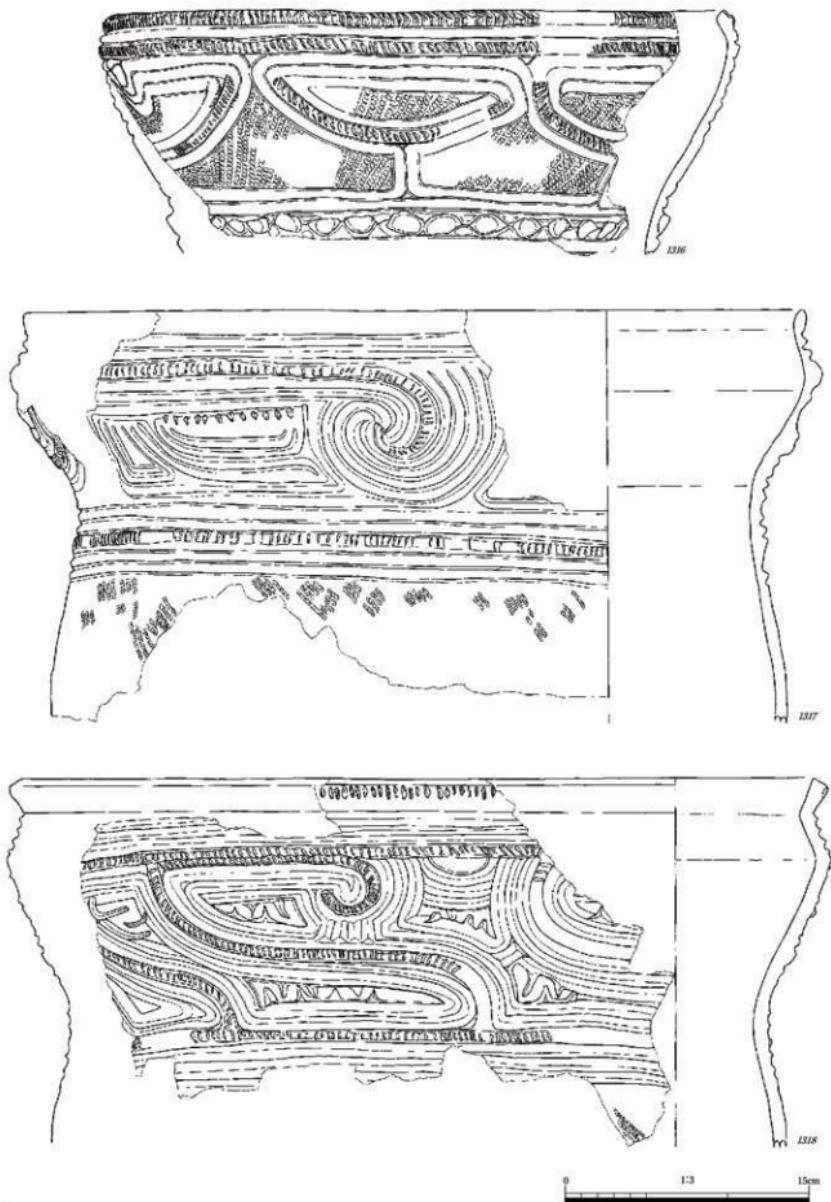
1376～1386は古府式の中でも新しい段階のもので、過渡的な様相が強く、従来古串田新式と呼称されてきた一群である<sup>30</sup>。深鉢G器形が成立し、基隆帶上に櫛状具や貝殻で刻むd類が出現することを特徴とする。1376～1379は口縁が内屈する深鉢A器形で、波頂部の形態には、双頭状（1376）、上面W字状（1377）、方形と山形状（1378）、綫やかな山形（1379）がある。文様は幅広の半隆起線と低い基隆帶で渦巻文等を描き、基隆帶上には櫛状具刺突（1376・1379）や貝殻腹縁刺突（1377）、細かいヘラ刻み（1378）をする。1376の基隆帶は半隆起線よりも高く整形しているが、その中でも縦横に伸びる基隆帶同士の交点や接点などの要所をひとときわ高く仕上げる。1380は古府式に多くみられる深鉢B器形であるが、外面には工字状文様をもち口唇部に沈線を入れるなど新しい要素を持つ。1381～1383は強く外反する口縁部に短く立ち上がる端部が付く深鉢C器形で、後続する串田新I式の段階までみられる器形である。1381の基隆帶は、1376と同様に基隆帶同士の交点や接点で高さを増す。1381・1382の口縁部には半円形の透孔をもつ突起が付く。1383は突起の内面側にも貝殻腹縁刻みを施した隆帶がつく。1384は隆帶を貝殻腹縁で刻み、波頂部近くに円形刺突を入れる。1385は3山の波頂部中央に貝殻腹縁刻みのある渦巻隆帶を配置する。1386は波頂部上面の厚みを増した部分に沈線で渦巻文を入れる。これら古串田新式に該当する深鉢の色調は、褐色系の古府式とは異なり、焼し焼きされたような黒褐色を呈する個体が多い。また内面調整については、古府式の土器が削りに近いやや粗い磨きであるのに対し、これらは外反する口縁部周辺を特に丁寧に磨くものが多くみられる。またこの部位に炭化物が帯状に付着する特徴がみられ（1376・1377・1381～1383）、調理方法に変化が生じた可能性を考えられる。こうしたことから、先行する古府式よりもむしろ後続する串田新式との間に共通点が多い印象を受けるが、いずれにしても、古府式最終段階において、土器の製作技法や使用方法等に一定の変化が生じていることが伺える。

1387・1388は同じ文様意匠を持つ浅鉢である。屈曲して立ち上がる口縁部の4箇所に渦巻文を配置し、横位区画内に櫛状具刺突を入れる。1389は体部が内湾する浅鉢で、4単位の波状口縁を渦巻く隆線で飾る。

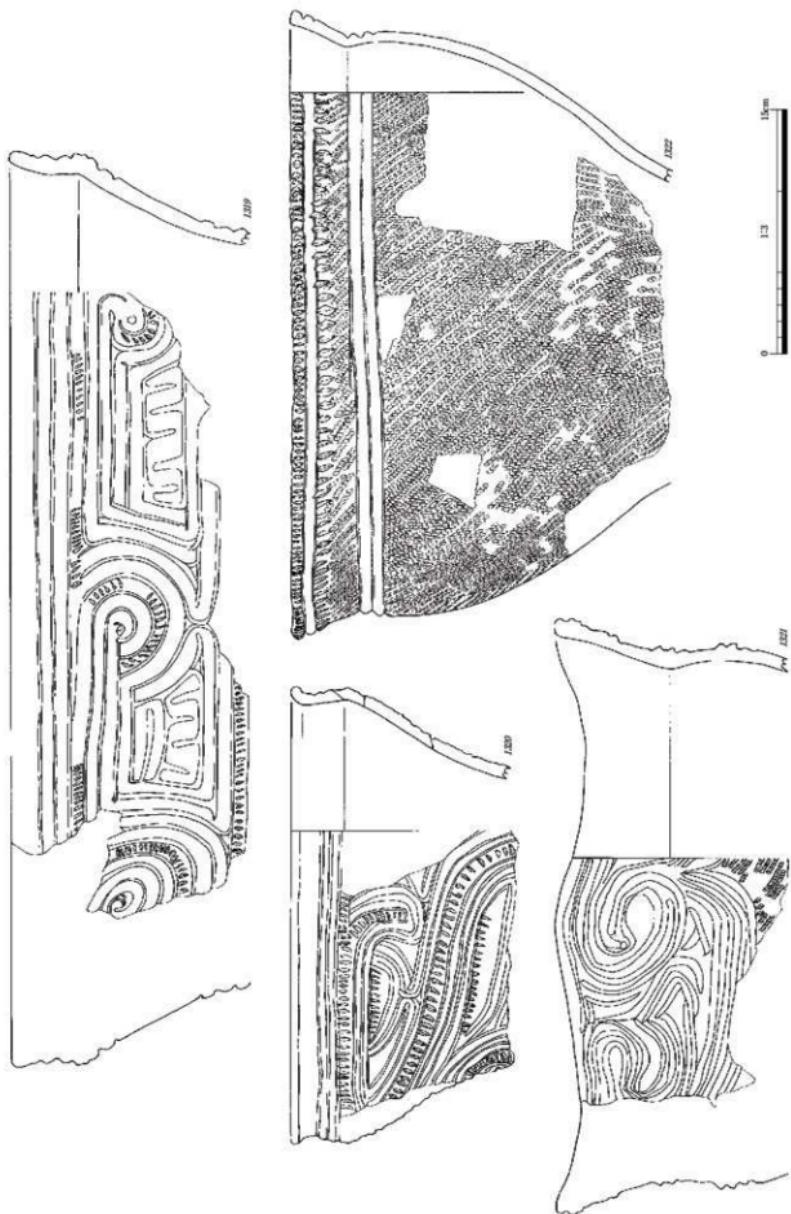
<sup>30</sup> 古串田新式については、古府式の中の新段階とみる意見と、串田新式の中の古府式とみる意見がある。ここでは、小西雅也 2008「上山田・天神山式土器」『紀聖・純文土器』小林道雄編に示された解釈に基づき、古府式の最初段階に含めた。



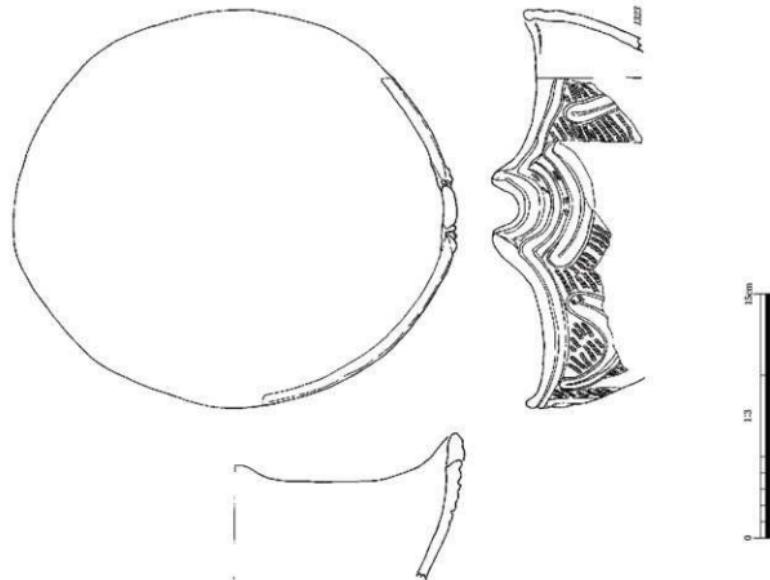
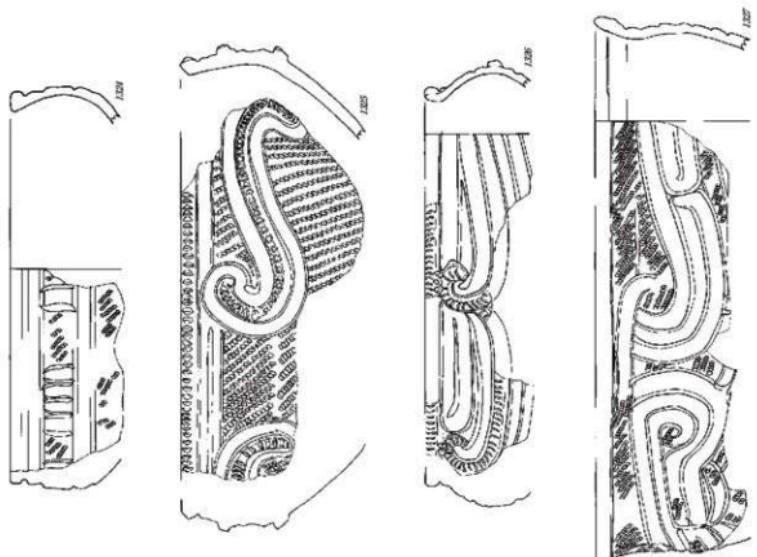
第134図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 古府式



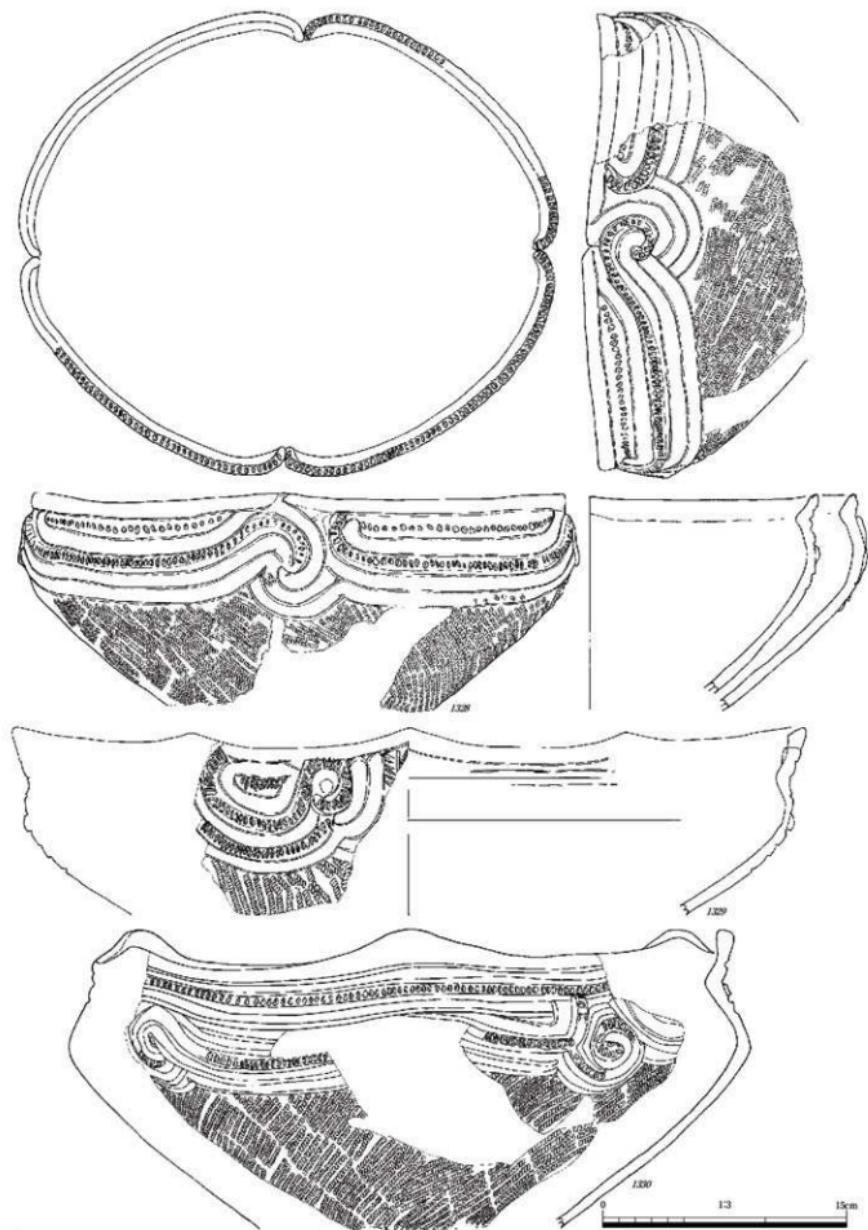
第135図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 古府式



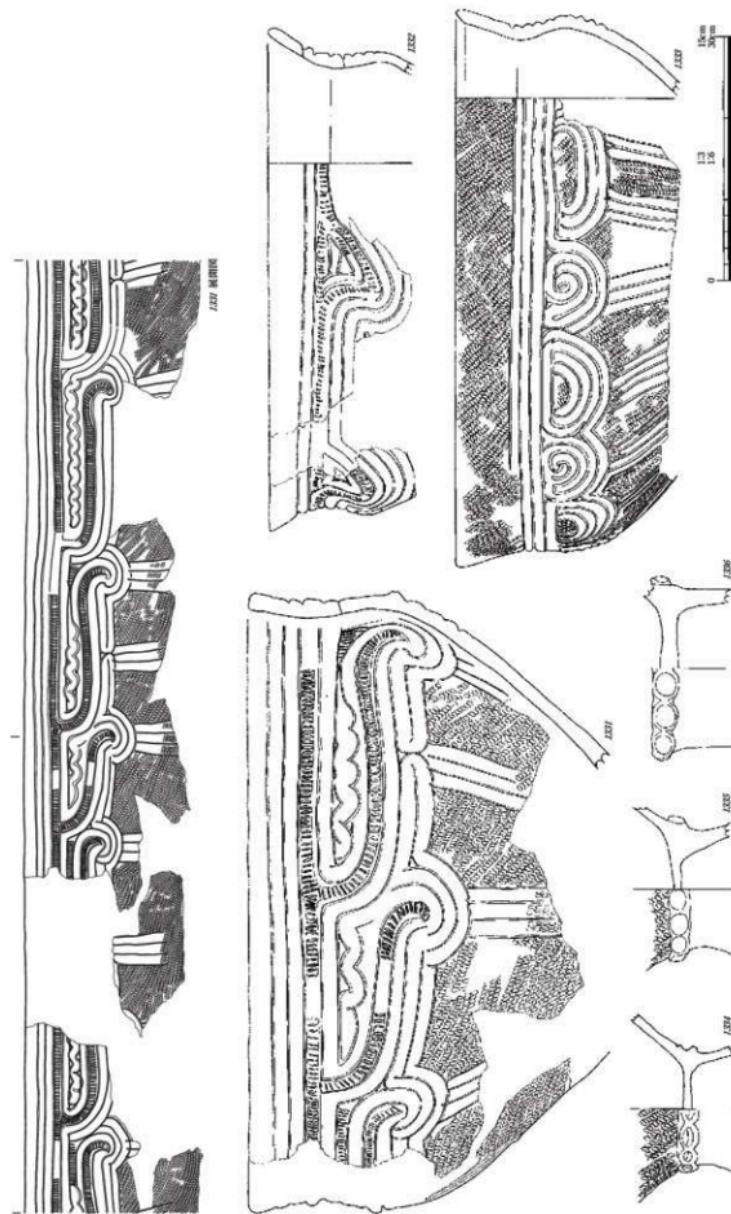
第136図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 古府式



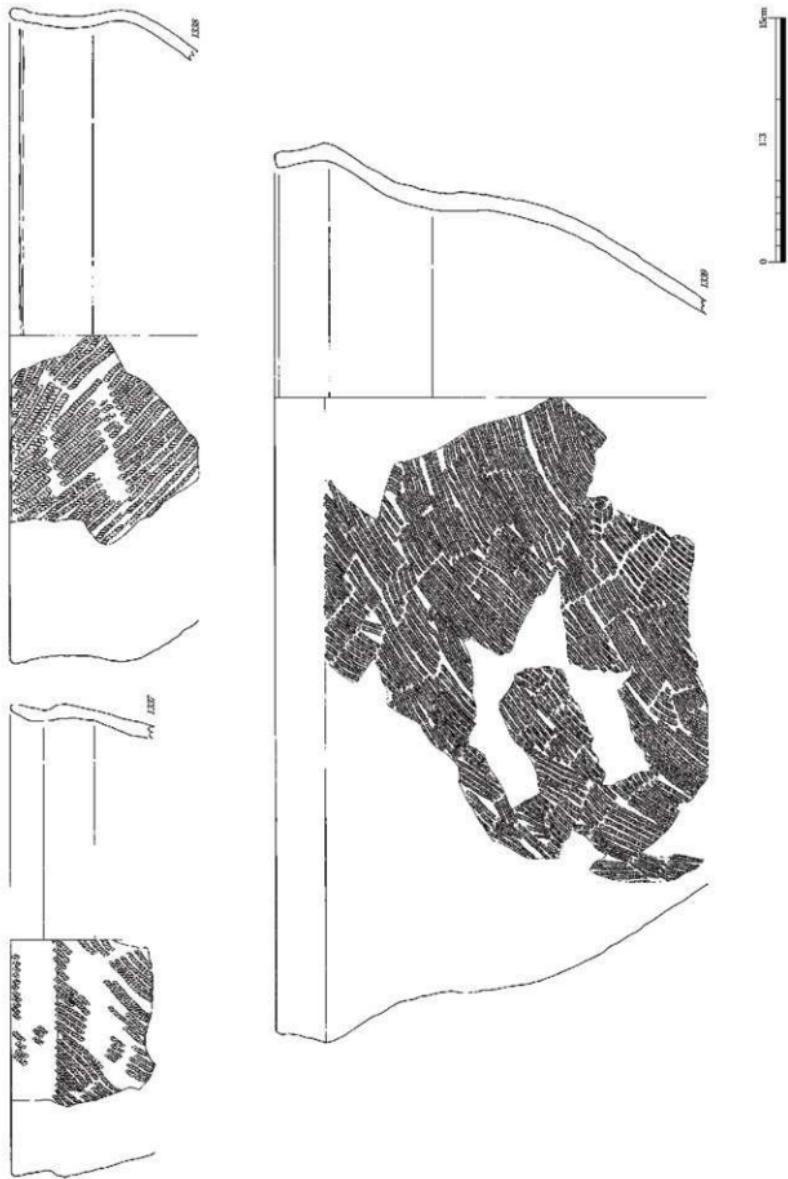
第137図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 古府式



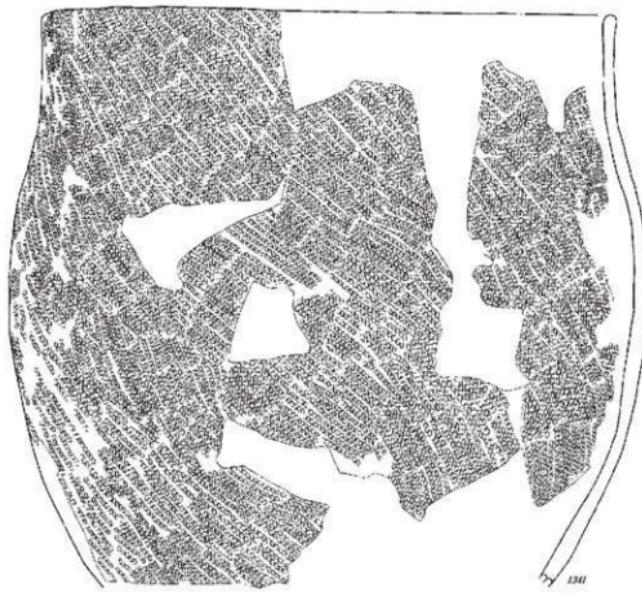
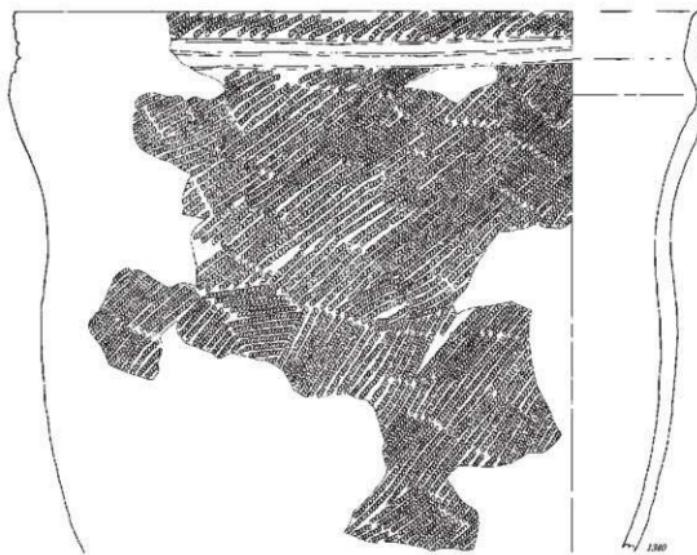
第138図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 古府式



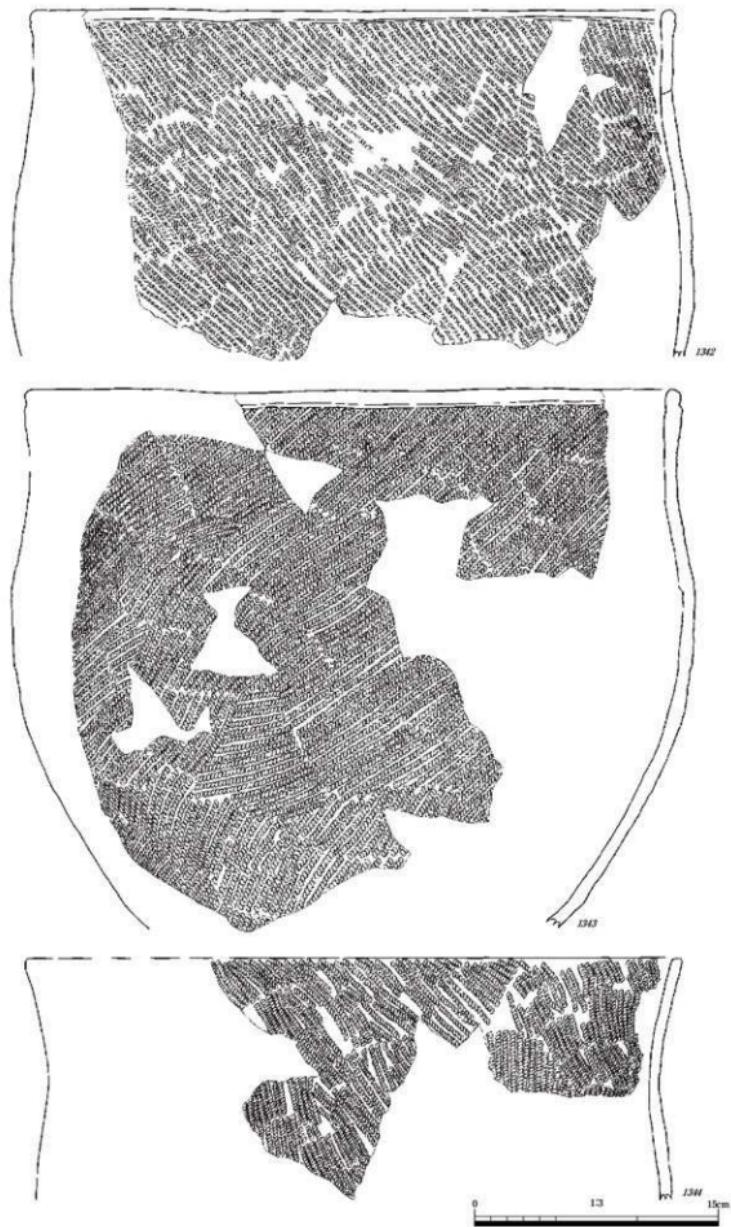
第139図 純文時代遺物実測図 (1/3, 展開図 1/6)  
SD1 古府式



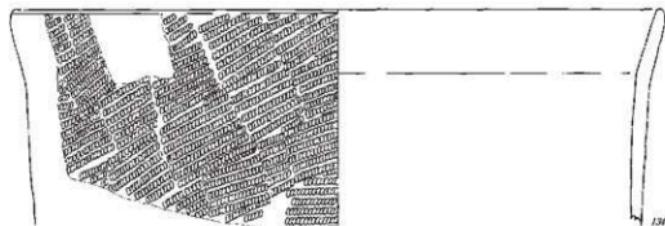
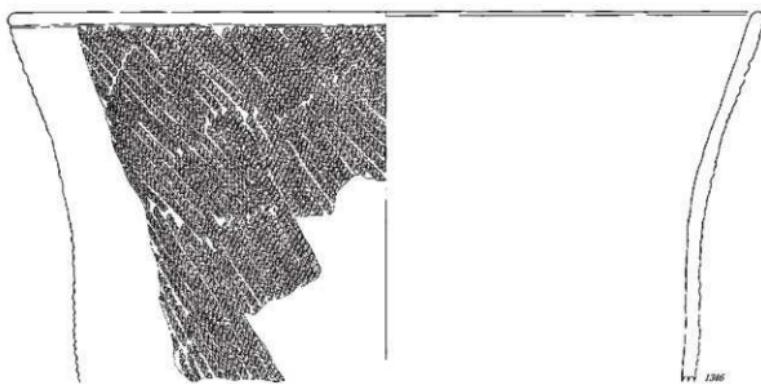
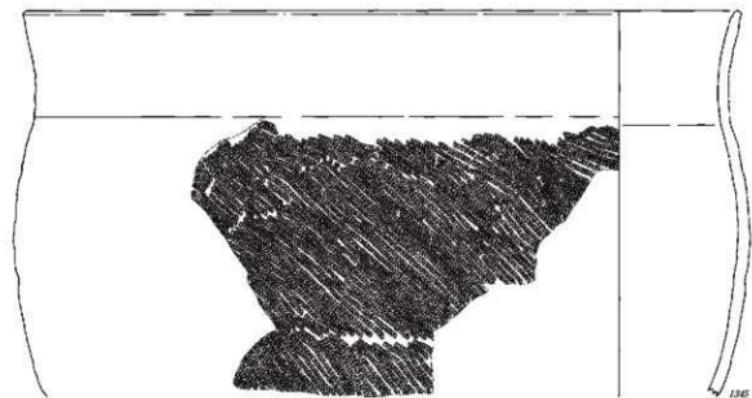
第140図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式 古府式



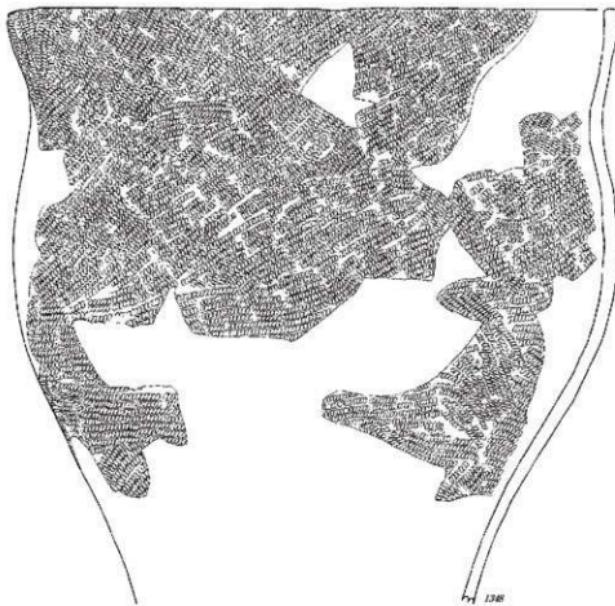
第141図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式 古府式



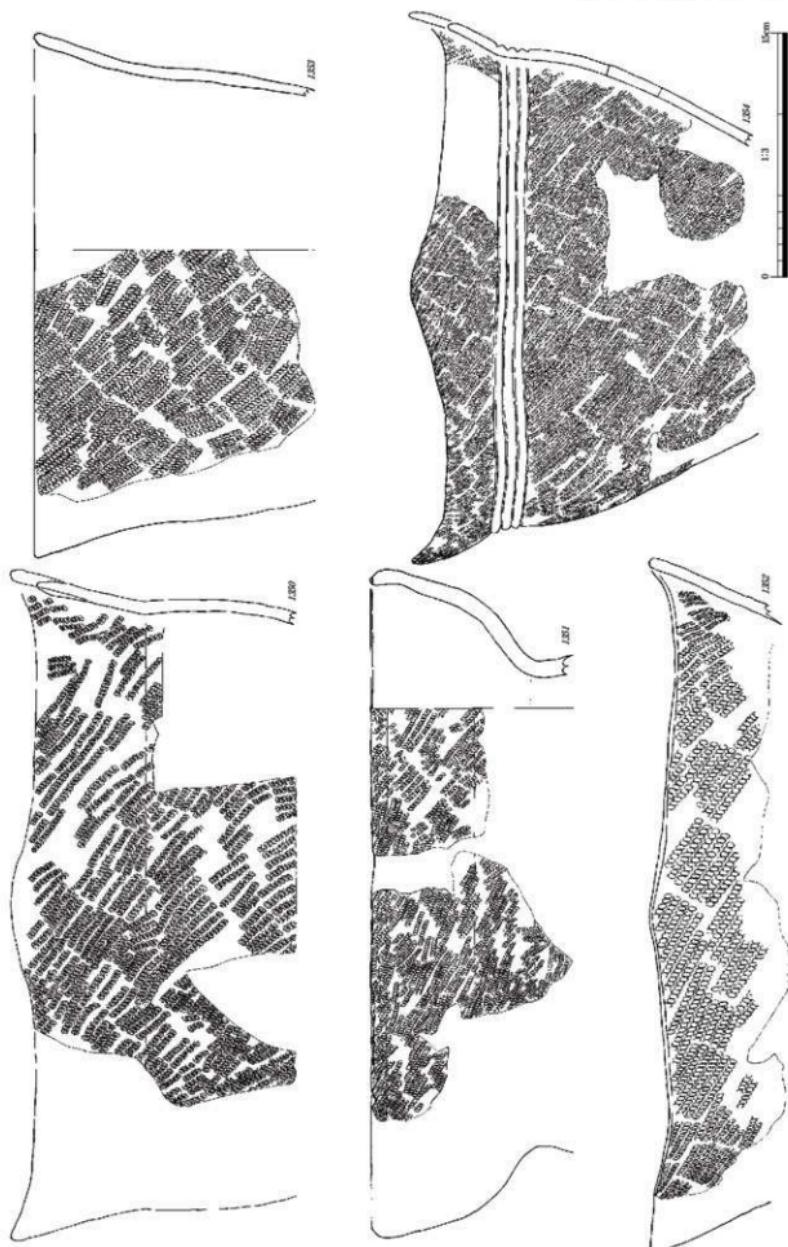
第142図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式 古府式



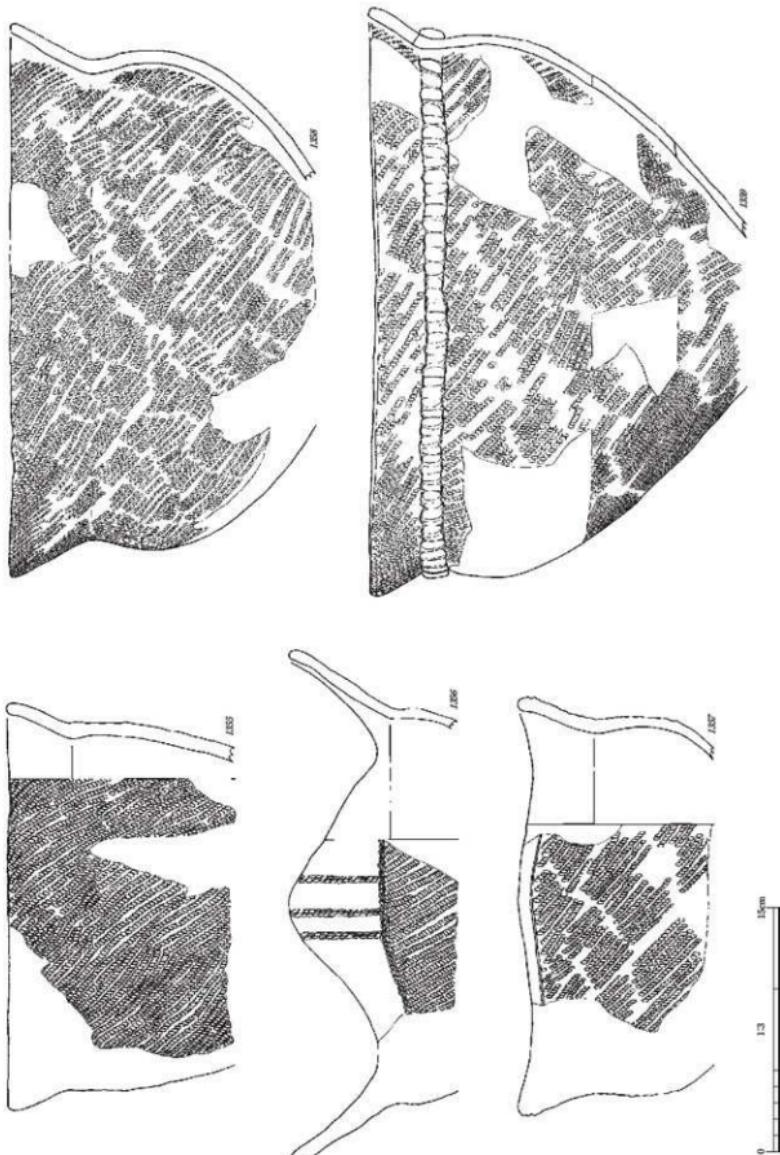
第143図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式 古府式



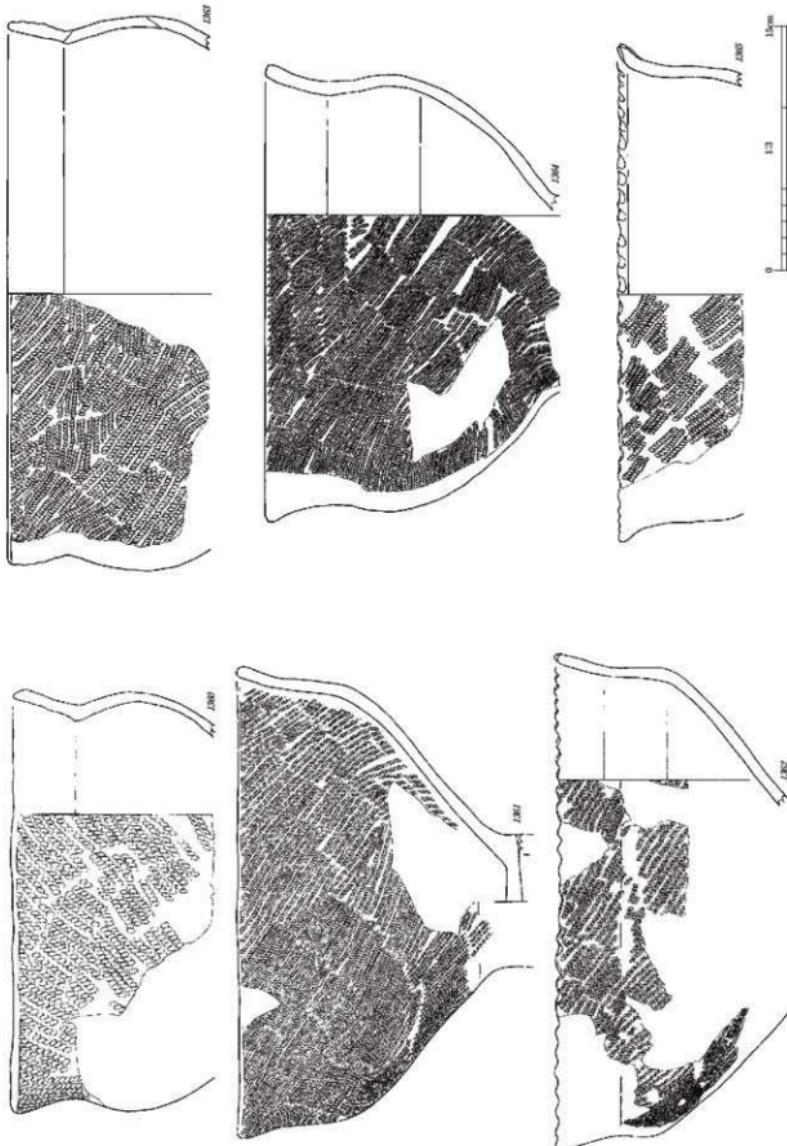
第144図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式 古府式



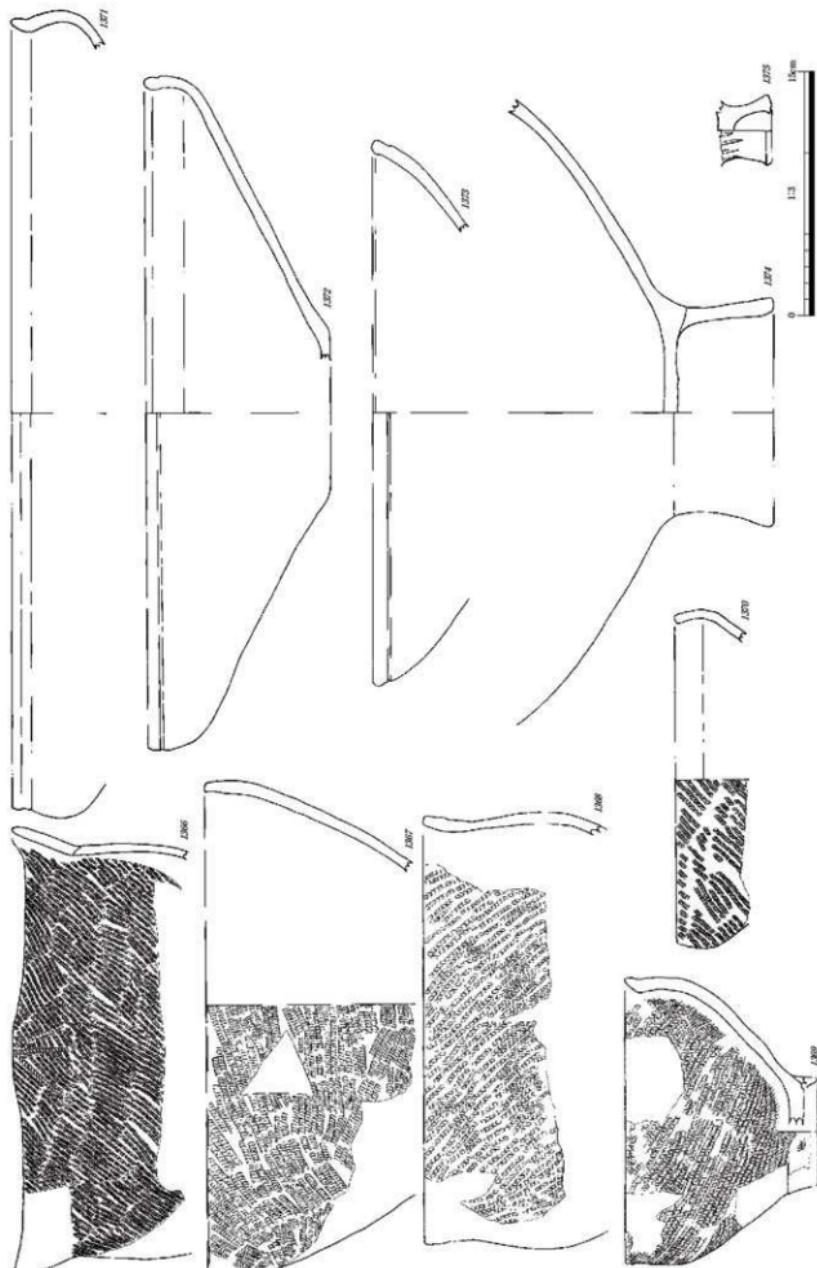
第145図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式 古府式



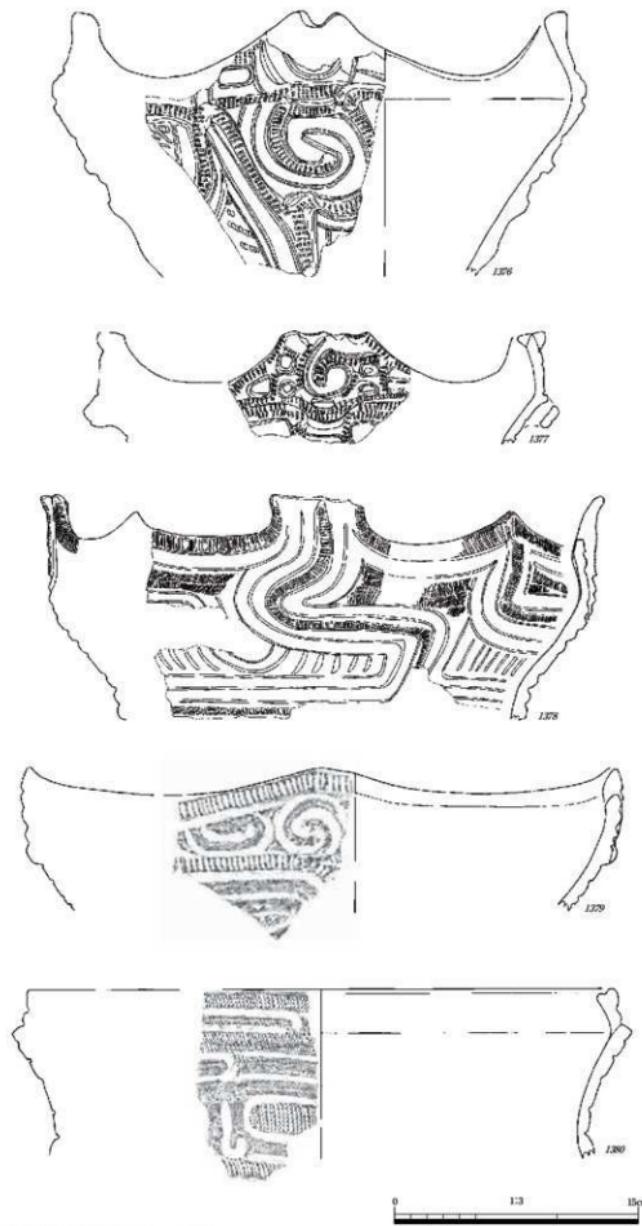
第146図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式 古府式



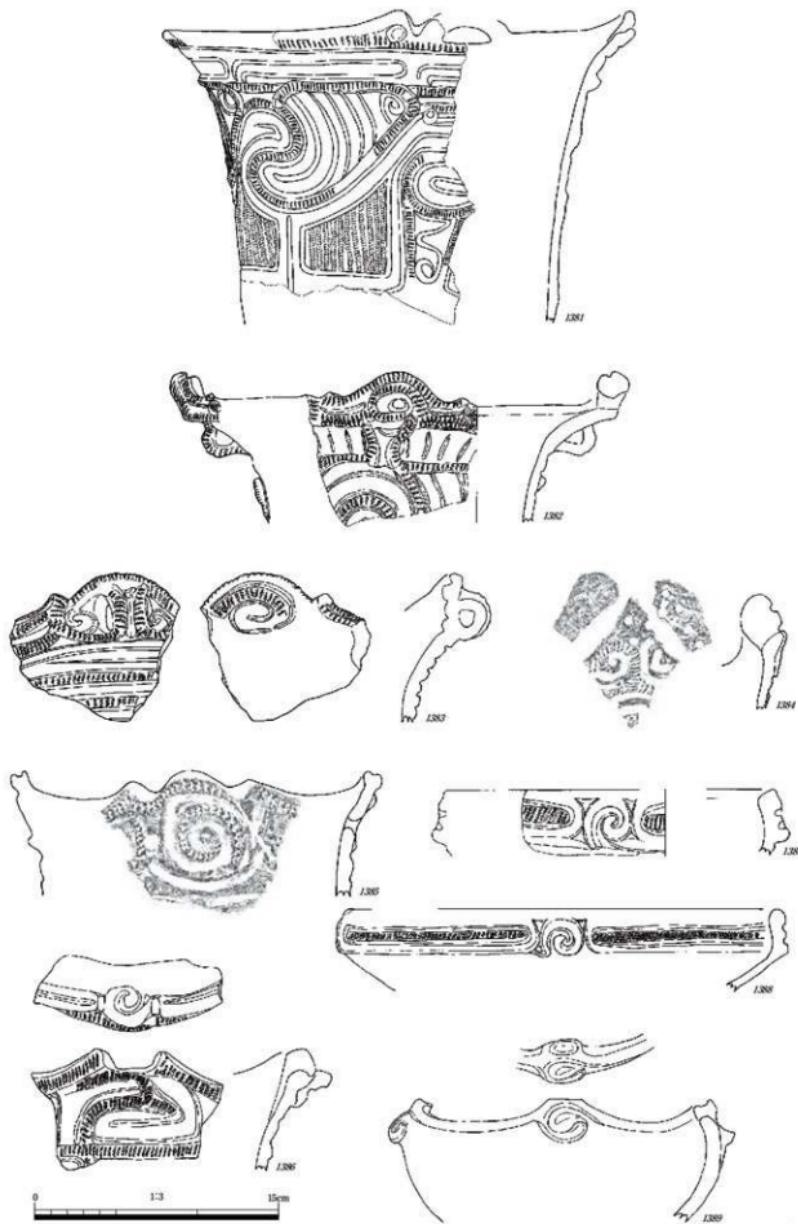
第147図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式 古府式



第148図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 上山田・天神山式 古府式



第149図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 古串田新式 串田新式



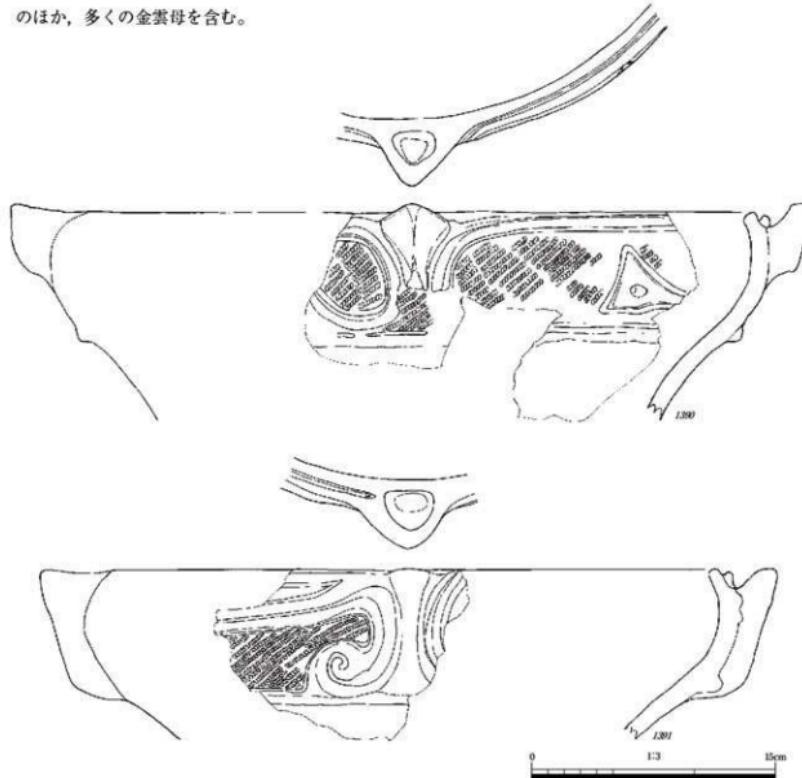
第150図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 古串田新式 串田新式

## e 大木8 b・9式 (1390~1397, 第151・152図, 図版45・111)

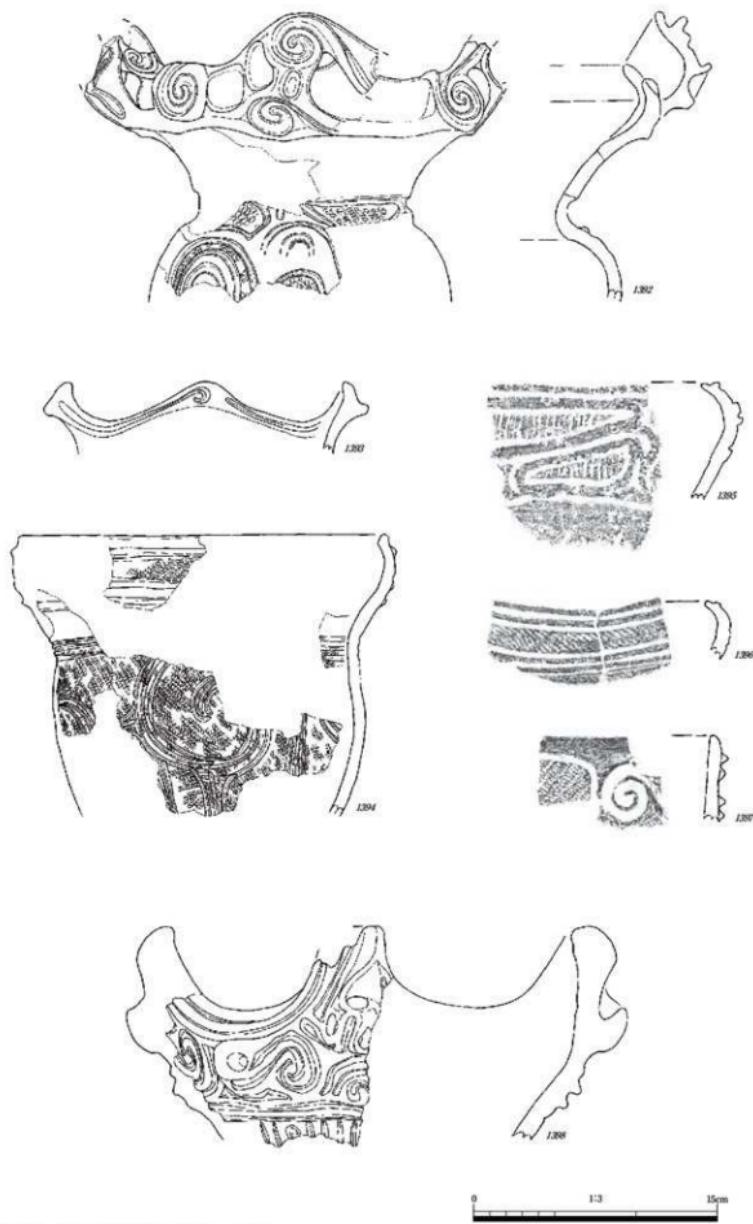
東北地方中部と南部を中心に広く分布し、中期中葉から後葉にかかる時期に位置づけられる。大木8 b式 (1390~1396), 9式 (1397) が出土している。1390~1392・1394・1395は口縁部がキャリパー状に内湾し、頸部を無文帯とする深鉢である。1390・1391は大型の深鉢で、中央に三角形状突起を配し、口縁部文様帶には縄文地に隆帶と沈線で渦巻文を描く。1392は頸部と胴部の境で強く括れ、球状の胴部を持つ。1392・1394は胴部の縄文地に大きな渦巻文を描く。1393は外反する口縁端部に沈線で渦巻文を描く。1395は口縁部の小区画内を浅い半截竹管文で充填する。1396は口縁部に横位沈線を引く。1397は隆帶渦巻文をもち、沈線区画内に縄文を施す。

## f 火炎土器 (1398, 第152図, 図版111)

新潟県を中心に分布し、中期中葉に位置づけられる。王冠型の土器が1点出土している。正面に伸びる短冊形突起は、左上端と右側に続く部分を欠くものの大きく伸びており、口縁部を隆帶と隆線による渦巻文で飾る。突起直下と渦巻文に繋がる口縁部にはトンボ眼鏡状突起を付ける。横位に区切った頸部以下には縦方向の隆線を引く。器壁は厚手で灰黄褐色～にぶい黄橙色を呈し、外面に煤が付着する。内面を丁寧に磨き、口縁部下側から頸部にかけてコゲが薄く付着する。胎土には白色粒、石英のほか、多くの金雲母を含む。



第151図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 大木8 b式



第152図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 大木8 b・9式 火炎土器

## g 串田新式 (1399~1592, 第153~179図, 図版5~7・17・26・45~53・92・102~113)

富山県大門町串田新遺跡出土土器を標識とし, 中期後葉に位置づけられる。深鉢は口縁部が強く外反するものが多く, 双頭波状口縁深鉢などの特徴的な器形も現れる。文様は, 貝殻腹縁文を多用するものと, 刻みのない隆線や葉脈状文を主文様とするものがある。土器は内面調整を丁寧に行っており, 削りや磨きにより内面を非常に滑らかに仕上げている。深鉢の内面には口縁外反部に炭化物が付着するものが多くみられる。小型の鉢にも煤や炭化物が付着しており, 調理具として使用されたようである。小型で高い脚をもつ台付浅鉢, 台形土器, 鍔付土器, 有孔鍔付土器, 釣手土器など特殊器形も一定量出土している。また土器の中には赤色漆を塗り, 特殊性を示すものがあることも特徴のひとつである。胎土には白色粒, 石英, 骨針, 雲母等の微粒を含む。土器の色調は, 串田新I式では褐色系が多く, 中には燃し焼きされたような黒褐色を呈するものもみられるが, II式では灰黄色やにぶい黄橙色など白味の強い色調を呈するものが多くなる傾向にある。

- 分類 器形 深鉢A 口縁部に突起が付く平縁で, 脚部が外傾気味に立ち上がり, 強く外反する口縁部に短く立つ端部がつくもの。
- 深鉢B 山形の波頂部を持つ波状口縁で, 外反する口縁部に内屈する端部がつくもの。
- 深鉢C 脚部がやや張り, 口縁部が緩く外反するもの。
- 深鉢D 深鉢Aと同様であるが, 口縁部に短く立つ端部がつかないもの。
- 深鉢E 深鉢Bと同様であるが, 口縁部に短く立つ端部がつかないもの。
- 深鉢F 台形の波頂部を持つ波状口縁で, 脚部が外傾気味に立ち上がるものの。
- 深鉢G 双頭波状口縁で, 脚部が外反気味に立ち上がるもの。
- 深鉢H 平縁で, 脚部から口縁部にかけて直線的に外傾するもの。
- 深鉢I 脚部が外傾気味に立ち上がり, 口縁部が緩やかに外反するもの。
- 深鉢J 脚上半部に張りをもち, 頸部が話れ, 口縁部を外傾するもの。
- 台付鉢 深鉢よりも浅い器形で, 底部に台をもつものを一括する。
- 浅鉢 浅いものを一括する。
- 鉢 深鉢よりも小型で, 深さのあるものを一括する。
- 台形土器 円形の受け面とこれを支える脚部をもつもの。
- 鍔付土器 口縁部に鍔をもつもの。
- 有孔鍔付土器 口縁部に孔列と鍔をもつもの。
- 釣手土器 釣手をもつもの。
- 文様① 1類 外面に1段の繩文を施すもの。
- 2類 外面に2段の繩文を施すもの。
- 3類 外面に単軸絡条体第1類を施すもの。
- 4類 外面に貝殻条痕を施すもの。
- 5類 その他を一括する。
- 文様② a類 口縁部に貝殻腹縁文を施した隆線をもつもの。
- b類 口縁部に一点破線状の沈線を引くもの。
- c類 口縁部の2条の隆線間に連続する縦短沈線を引くもの。
- d類 口縁部に橋状把手をもつもの。
- e類 口縁部の隆線間に横位蛇行沈線を引くもの。

- f 類 口縁部に繩文を施した隆線をもつもの。
- g 類 沈線で工字状文を描くもの。
- h 類 平行な 2 条の沈線間に連続する短沈線を引くもの。
- i 類 隆線による区画内を列点や刺突文で充填するもの。
- j 類 脊部に沈線で連弧状文を描くもの。
- k 類 脊部を隆線で三角形状に区画するもの。
- l 類 脊部を 2 条の隆線で縱位区画するもの。
- m 類 隆線や沈線による区画内を貝殻腹縁刺突で充填するもの。
- n 類 脊部の隆線や沈線間に縱位蛇行沈線を引くもの。
- o 類 脊部に沈線で葉脈状文を描くもの。
- p 類 口縁部に逆凹字状の区画沈線文をもち、間を列点で充填するもの。
- q 類 口縁部に半円・三角形状の区画沈線文をもつもの。
- r 類 口縁部に沈線を巡らせ、列点を押し並べるもの。

深鉢の分類は、A a b g 類 (1399), A 3 a b g m 類 (1400), A a b c e 類 (1404), B a g m 類 (1417), C a g h 類 (1405), C a g 類 (1406・1416・1418), C 2 a g 類 (1419), C 2 類 (1436・1492・1494・1496・1497), C 2 p 類 (1451・1456), C 2 q 類 (1452・1457), C 2 h 類 (1453・1454), C 2 r 類 (1458・1495), C 3 類 (1493), C 4 類 (1498), C 5 p 類 (1439), D a b d g m 類 (1403), D a g h 類 (1408), D g 類 (1410), D 5 g m 類 (1401), D 5 b c d k m 類 (1402), D 2 g m 類 (1409), D 2 f 類 (1437), D 4 類 (1484・1485), D 5 c f 類 (1438), D 5 類 (1490), E 2 a h 類 (1429), E 2 f h 類 (1440), E 2 類 (1468), E 5 i 1 類 (1441), E 5 o 類 (1446・1447), F a c d i 類 (1414), F 2 f 1 類 (1431), F 3 a b c d e j 類 (1412), F 3 a c d j 類 (1413), F 5 i 類 (1434・1435), G a c d g 類 (1407), G 5 c d l m 類 (1430), G 5 c l n 類 (1432), G 5 d i l o 類 (1433), H 1 類 (1475), H 2 a g 類 (1411), H 2 類 (1470～1472・1476～1482・1501), H 2 h 類 (1459・1460), H 2 r 類 (1461), H 3 類 (1502), H 4 類 (1483・1488), I 2 r 類 (1463・1464), I 2 類 (1469・1473・1474), I 3 r 類 (1462), I 5 o 類 (1448～1450), J 2 i 1 類 (1442), J 2 類か (1503), J 5 o 類 (1443～1445) である。

深鉢 A (1399・1400・1404) は、突起付平縁で立ち上がり口縁をもつもので、串田新式の中でも古段階に限られる器形である。器形自体は古串田新式段階に成立しているが（古府式の器形分類で深鉢 G に対応、1381～1383），これらよりも端部の立ち上がり幅が狭くなる傾向にある。1399・1400は口縁立ち上がり部分に a 類（貝殻腹縁文隆線）と b 類（1点破線状沈線）を、口縁外反部分に g 類（工字状文）を組み合わせて施文する。1404は深鉢 A としたが、脣部の径が比較的大きいため、深鉢 C に立ち上がり口縁が付く器形と捉えた方がいいかもしれない。1404には a・b 類のほか、c 類（隆線間連続縦短沈線）、e 類（横位蛇行沈線）を施しており、1399・1400とは文様②の様相も異なる。

深鉢 B (1417) は、山形波頂で口縁部が内屈する。古串田新式の1379に系譜が連なるものである。やや幅広に立ち上がる口縁部に a 類（貝殻腹縁文隆線）、頸部以下に g 類（工字状文）を施し、波頂部につの字状に渦巻く沈線を引く。能登地域における山形波頂口縁深鉢は、波頂部渦巻文や口縁部文様帶の保持に加えて、新出のブリッジをもたないなど古い要素を維持する<sup>120</sup>とされており、1417にも同様の傾向が見られる。

深鉢 C は、脣部に張りがあり口縁部が外反する器形である。1405・1406・1416・1418・1419は g

<sup>120</sup> 加藤三子著「能登平原における串田新式系土器群の範囲―宇治津式土器の再検討―」『北陸の考古学Ⅱ』石川考古研究会会員叢書第2号 石川考古学研究会において深鉢 B と説明されるものに対応する。

類（工字状文）を施文するもので、口径40cm弱の大型（1405・1406・1416）と30cm弱の小型（1418・1419）がある。工字状文は2段構成（1406・1418）と1段構成（1405・1416・1419）がある。1405に施文されるh類（2条沈線間連続短沈線）は、粘土帶を薄く貼った上から短沈線を連続して強く引くもので、1512など台付鉢に多くみられる文様に雰囲気が似る。1436は口縁部を隆線で横位区画し、横位に蛇行する隆線の貼り付けをする。1497はナテ調整した口縁部に2条の隆線を貼り付け、隆線上に繩文を転がす。1498は全面に縱方向の条痕を施した後、口縁部に沈線を2条強く引き巡らせ、沈線より上の条痕を磨き消す。1439・1451～1458・1492～1496は串田新式の中でも新しい一群で、前田式とされるものである<sup>32)</sup>。文様は、h類（2条沈線間連続短沈線）、p類（逆凹字状区画沈線文）、q類（半円・三角形状区画沈線文）、r類（沈線と列点）を施す。1439は口縁部を4箇所内側に押し込む。1492・1496は頸部の低い隆線上を刻む。

深鉢Dは、深鉢Aの立ち上がる端部がなくなり、口縁が外反して終わるものである。文様は、a類（貝殻腹縁文隆線）やm類（区画内貝殻腹縁刺突）と組み合わさるもの（1401～1403・1408・1409）と、f類（繩文施文隆線）と組み合わさるもの（1437・1438）がある。a・m類と組み合わさるものは深鉢Aの系譜に連なると考えられ、串田新I式に位置づけられる。これらは立ち上がり口縁がなくなることにより、2条の貝殻腹縁文隆線と一点破線状沈線からなる口縁部文様帯が欠落している。1401・1402は口縁部内面に沈線と一点破線状沈線を巡らせる。口縁形態は、突起付き平縁（1401・1403）、平縁（1402・1408・1410）、小U字状（1409）と様々である。1402・1403はd類（橋状把手）を縦横に組み合わせたT字状の把手を貼り付ける。1402は胴部の三角形に区画する隆線の交点にも、横向きの橋状把手を配置する。深鉢D器形がf類（繩文施文隆線）と組み合わさる1437・1438は、串田新II式に位置づけられる。1437は口縁部の正面1箇所を内側へ押し込む。1438は2条の繩文施文隆線間に斜位の連続する短沈線を入れる。文様帯を挟む2条の隆線の片側には沈線を引き、胴部には繩文施文のない隆線と沈線による文様がある。粗製の深鉢D器形には、縦位の貝殻条痕（4類、1484・1485）、無文（5類、1490）がある。

深鉢E（1429・1440・1441・1446・1447・1468）は、山形波頂口縁をもち口縁部が外反して終わる器形である。1429・1440は深鉢Bの系譜にあるもので、1429はa類（貝殻腹縁文隆線）、1440はf類（繩文施文隆線）と組み合わさり、それぞれ隆線と平行にh類（2条沈線間連続短沈線）を施す。1440の正面と対面の山形波頂下には逆U字に点を加えたような沈線文を入れるが、これは深鉢B（1417）にみられる、つの字状渦巻き沈線が変化したものと考えられる。1440の側面波頂は低く緩やかに盛り上がる程度となっており、沈線文は入らない。1441は波頂部を欠損するが、同一個体と思われる波頂部近くの破片から山形波頂部を復原した。波頂部下は隆線で縦位区画し、列点で充填する。1446・1447はo類（葉脈状文）を施文するもので、1446は刻みのある隆線、1447は交点に突起のある隆線が垂下して胴部を区画し、区画内に基線のある葉脈状文を施す。1446は2単位、1447は1単位の波状口縁である。

深鉢F（1412～1414・1431・1434・1435）は台形波頂口縁をもつものである。1412・1413は、3類（単輪絡条件第1類）、a類（貝殻腹縁文隆線）、c類（隆線間連続縦短沈線）、d類（橋状把手）、j類（胴部連弧状文）の施文が共通する。ただし1412は口縁部にb類（一点破線状沈線）があり、胴部連弧状文が縦短沈線の加わった、工字状文により近い表現であることから、1413よりも古手と考えられる。e類（横位蛇行沈線）は、1412のほかは1404にみられるのみであり、串田新II式にかけて盛行する能登地域とは異なる様相である。1414は波頂部中央が落ち込む。波頂部には刺突を2列入れ、

<sup>32)</sup> 小島敬重「板野遺跡の純文時代中期施文から後期初期の位置分け」「板野遺跡発掘調査報告書 純文時代板野遺跡」小矢部市教育委員会に示された癡牛軒に基づき、前田式古段階のものについては串田新式の最初段階として本道に含め、新段階のものは後尾式古段階として次項に記した。

下にd類（橋状把手）をT字状につける。1431は2単位の台形波頂部をもつ。胴部は4単位のf1類（縦文施文隆線による縦位区画）である。1434は細い施文具による連続押引沈線を施しており、前田式新段階にみられる文様の施文技法に通じるものである。1435は大きな台形波頂部に隆線で区画をし、主に隆線基部に連続刺突を加える。

深鉢G（1407・1430・1432・1433）は双頭波状口縁をもつものである。1407は小さめの波頂部をもち、文様②の組み合わせも1430・1432より古い様相を示す。1430・1432は大きな双頭波状口縁を持つもので、1430は橋状把手が横方向につき、口縁部に巡る隆線とつながって一体化する。胴部の隆線区画文は短弧隆線であるべき文様を沈線であらわしており、1407等の口縁部文様が変化したものであろう。1432は器高56cmを超える大型品で、口縁部に巡らせた隆線が廟状に高く張り出す。胴部にn類（縦位蛇行沈線文）が施文される唯一の例である。1433は横方向の橋状把手をもち、短弧隆線で器面を縦横に区画する。区画内は刺突で充填し、区画外には基線のある葉脈状文を施す。

深鉢Hは胴部から口縁部にかけて直線的に外傾する器形である。a類（貝殻腹縁文隆線）やg類（工字状文）を施すものは1411のみで、他は前田式古段階に降るもの（1459～1461）と粗製土器である。粗製土器には、1類（1段縄文、1475）、2類（2段縄文、1470～1472・1476～1482・1501）、3類（単軸絡条体第1類、1502）、4類（貝殻条痕、1483・1488）があるが、2類が最も多くみられる。2段の縄文は、R LかL Rの横位施文が主体であるが、斜位施文して条が縦行するもの（1470・1471）、条が横行するもの（1481・1482）もある。1482は口縁部を1箇所内側に押し込む。1502の内面には薄く貝殻条痕が残る。

深鉢Iは口縁部が緩く外反する器形である。胴部にo類（葉脈状文）を施文するもの（1448～1450）、前田式古段階に降るもの（1462～1464）、粗製土器（1469・1473・1474）がある。1448は口唇部と口縁部隆線に沿って刻みを入れ、葉脈状文の基線は接点に突起のある隆線となっている。1450は口縁部に隆線を巡らせ、隆線より下にヘラで基線のない葉脈状文を描く。粗製土器は全て口縁部を無文とする2類（2段縄文）で、1469は隆線、1473・1474は沈線を口縁部に巡らせる。1473は内側に押し込まれた口縁部分が1箇所残存しており、これを正面とした。

深鉢J（1442～1445）は胴上部に張りがあり、頸部が括れる器形である。無文の口縁部が大きく外傾するものが多い。1442・1444は、正面1箇所に突起や大きな把手をつける。1442は縄文地の胴部に刻みのある巖手状隆線がびびる。頸屈曲部には刺突列を2列入れる。1443は胴部を巖手状隆線で区画し、基線のある葉脈状文を入れる。1444・1445は縦横に区画する隆線と半円状隆線があり、交点に円形突起を貼り付ける。胴部区画内に基線のある葉脈状文を引き、1445には半截竹管刻みを加える。

台付鉢は、脚台の高さが8～13cmを測るもの（1509～1511・1517・1518・1523・1524）、3～7cm位のもの（1514～1516・1519～1522・1525・1526）、2cm位のもの（1527・1528）に大別できる。8cmを超える特に高い脚台には、透孔や隆線などの装飾を施すものが多い。これらは器表面に煤の付着がみられない傾向にあり、1509のように浅鉢状の上半部と接合する例もあることから、火にかける土器ではない可能性が高い。1509は高い脚部に直線的に外傾する浅い鉢部がつく器形である。平縁であるが、口縁部を内側に1箇所押し込む。脚部付け根に横位の隆線を貼り巡らせ、間隔をおいて縦位の隆線を垂下させる。隆線間に長梢円形の透孔を4箇所あける。口縁部と脚裾には粘土帶を貼り付けて横位の連続する短沈線を引き、鉢部には縦横の沈線文を施す。1510は無文で、内面は指押さえと横ナデ調整をし、外面は縦方向に磨く。1511は大きく開く脚部で、縦位隆線間を刺突で充填する。1517は隅丸長方形の透孔を3箇所あける。透孔周囲や脚裾に貼り付けた隆線にはヘラ刻みを入れる。1518

はクランク状の隆線と円形の透孔がある。1523は縦3個の円形透孔列を6列並べる。1524は3箇所の透孔をあけるようであるが、残存する破片からは透孔の形状は不明である。次に脚台が3~7cm位のものであるが、これらは接地面に向かって緩やかなハの字状に開いて安定させており、いずれも台部をナデや磨き等の調整による無文とする。煤が観察できるものが多く、火にかける調理具であったと考えられる。これらについては当項で一括して提示したが、無文であるため時期の判別が難しいため、中期中葉~後期初頭までの時期幅を考えたい。1512は体部との境に粘土帯を貼り付けて梢円形の刺突文を連続して入れ、1513は櫛状具刺突隆線を巡らせる。1525・1526の脚部の接地面には網代旗を残す。次に脚台が2cm程度のものであるが、これらの太く短い台の外面には体部から続く純文や陸線を施すため、平底の深鉢と同じ外觀をもつ。1527の台部は、正面と裏の2箇所を、底部の傾斜に沿って斜めに棒状具で穿孔する。

また、1415・1420~1424・1499・1500・1504についても、底部から脚台部分の形状は不明であるが、台付鉢と思われる。1415は緩やかな波状口縁で波頂部に環を抱く。大型で、口縁部が強く外反し頭部に屈曲がある器形である。口縁部にはa類（貝殻腹縁文隆線）、c類（隆線間連続短沈線）、d類（橋状把手）を施し、胴部の貝殻腹縁隆線は弧を描くなど、古手の様相である。口縁部の橋状把手はT字状に貼り付けるが、横方向の把手はねじりを加えた形状である。口縁部内面には炭化物が厚く付着する。1420は突起付平縁口縁で、強く外反する口縁部には1415と同様のa・c・d類、胴部にはg類（工字状文）、m類（区画内貝殻腹縁刺突）を施す。口縁部の連続短沈線間に沈線で円を描く文様を入れ、正面の把手はX字状である。連続短沈線の下側には円形刺突文を横に1列連続して入れる。1421・1423はa類（貝殻腹縁文隆線）、g類（工字状文）を施す。1422は隆線を櫛状具で刻み、1424は区画内を貝殻で押しきする。1499は繩文施文の胴部と無文の口縁部の境に隆線を巡らせる。口縁は2単位の波状となるようである。1500は大型で、緩やかな波状口縁をもち、外面に3類（単軸絶条体第1類）を施す。1504は口縁部梢円形の浅い器形である。

鉢（1505~1508）は、深鉢よりも小型で、浅鉢よりも深さのあるものを一括する。1505~1507は外面に2段の繩文を施す。1508は無文で、口縁部の正面に1箇所、左右非対称の大突起を貼り付ける。外底面は剥離するが、高台状となるようである。鉢には全て煤や炭化物の厚い付着がみられ、煮炊きに使用したものと考えられる。

浅鉢は内外面無文のものが多く出土しており、中には後続する前田式に降るものもあると考えられるが、分離できなかったためここでまとめて報告する。器形としては、体上部をぐの字状に強く内屈させるもの（1425・1427・1428・1531・1534）、体上部を屈曲させて外反する短い口縁部をつけるもの（1529・1530・1533・1535）、体部から口縁部にかけて緩やかに内湾させながら立ち上げるもの（1536・1538~1543・1545~1548）がある。1425は内屈させた体上部に外傾する口縁部がつく器形で、胴部を隆線で隅丸長方形に区画し、上の隆線には刻みを入れる。隆線区画が左右に接してX字状となった箇所を正面とし、隆线上下にU字状、逆U字状の沈線を引く。正面の隆線上と隆線区画の内側には櫛状具刺突を施す。1426は低い高台をもつ底部で、全面を磨く。1427・1428は古串田新式の1387・1388と同じ文様意匠であるが、隆線文が沈線へと変化している。1531・1533~1536は口縁部に橋状突起をもつが、残存破片から推定すると1531は4箇所、1533は8箇所に突起が付くようである。1534は渦巻状と橋状のふたつの形状の異なる突起が残存する。突起内側はいずれも横位穿孔し、渦巻状突起上には刻みを、橋状突起上にはS字状沈線を施す。1536の橋状突起からは隆線が延びる。1537は縦横に隆線を貼り付け、横位隆線の上下に爪形刺突を施す。内面にコゲの付着痕が残っており、火にかける台付

鉢の可能性がある。1538は綏やかな波状口縁をもつもので、体部に縄文を施し、沈線で区切った口縁部を無文とする。口縁部外面には沈線を1条ずつ巡らせるが、波頂部内面には沈線下側に1箇所刺突を加える。1539の口縁部内面には、3条1単位の沈線状の深い刻みを6箇所入れる。1545は口縁部内外に粘土帯を貼り付ける。1546はやや幅広に面取りした口唇部に、卷貝頂部によると思われる刺突を3列連続して施す。1549の外底面には網代圧痕を撫で消したような跡が残る。

漆塗り土器（土器胎漆器、1552～1554）は、全て1号谷の同一地点から出土した。1552・1554は漆塗膜分析を実施したが、1553は試料が堅く漆塗膜の採取ができなかったため分析は実施していない。1552は底部に足が付く土器である。足の形状は、関東地方西部から中部山岳地方にかけて出土する立像土偶に共通点を見ることができる<sup>222</sup>。2つの丸みを帯びた扁平な足が底部にあり、先端に3箇所ずつ刻目を入れて4本指を表現する。くるぶしより上の脚部ではなく、腹部と思われる丸みを帯びた容器部分が足の甲から延びる。容器部分を上から見た内底面は円形である。寸法は、最大長9.7cm、最大幅9.7cm、片足の最大幅4.5cm、器高3.2cmを測る。胎土は精良で、直径1mm以下の大粒の長石、石英を含む。足裏を含めて全面を丁寧に磨いており、摩滅はあまりみられない。足上部から体部外面と体部内面に漆を塗り、更に赤色（ベンガラ）漆を塗り重ねる。足裏、指間は露胎とする。漆塗膜を採取して、放射性炭素年代測定（AMS法）を実施したところ、4096±32BPとなり、中期後葉（串田新式）の範囲に収まる結果が得られた（IAAA-70570）。1553は1552と胎土や漆の色調が似ており、同一個体の可能性がある。全面を丁寧に磨いた上から赤色漆を塗った把手状の破片で、側面からみると綏やかな屈曲がある。浅い沈線状の文様のある方を外面としたが、赤色漆を厚く塗っているために沈線は不明瞭となっている。1554は鉢状器形の口縁部近くの破片と考えられる。内外面とも漆を塗り、更に赤色（ベンガラ）漆を塗り重ねるが、外面中程にある段の上半は赤色（ベンガラ）漆が塗られないため黒色となっている。精製品であるが、下半の器厚は場所により2～5mmを測り、一定ではない。

台形土器（1555～1560）はいざれも受け部で、脚部まで全て残存するものはない。調整は、受け面から脚部外面の範囲は丁寧に磨くが、脚部内面は粗く撫でる程度に留めるものが多い。1555・1557～1560は受け部の厚いつくりで、受け面を平坦とする。1555の受け部は小型で特に厚いつくりである。欠損断面には粘土痕が明瞭に観察でき、板状の粘土を貼り合わせるように成形したことが判る。脚部の形状は不明であるが、柱状の脚部である可能性も考えられる。1556は比較的薄いつくりで、受け面の縁を少し立ち上げる。受け部側面には沈線を引く。1557～1560は受け部外縁よりも内側に脚部がつく円卓形である。1560は受け部側面に沈線を引く。土器の胎土は1556と1555・1557～1560とでそれぞれ異なる。1556は黄褐色系の色調で硬質な焼成であり、中期中葉頃の土器と共通する胎土である。1555・1557～1560は白味の強い色調で胎土がやや粗くボソボソしており、中期後葉頃の土器の胎土と類似する。土器の胎土から受け的印象ではあるが、おおよそこれらの時期のものと考えたい。

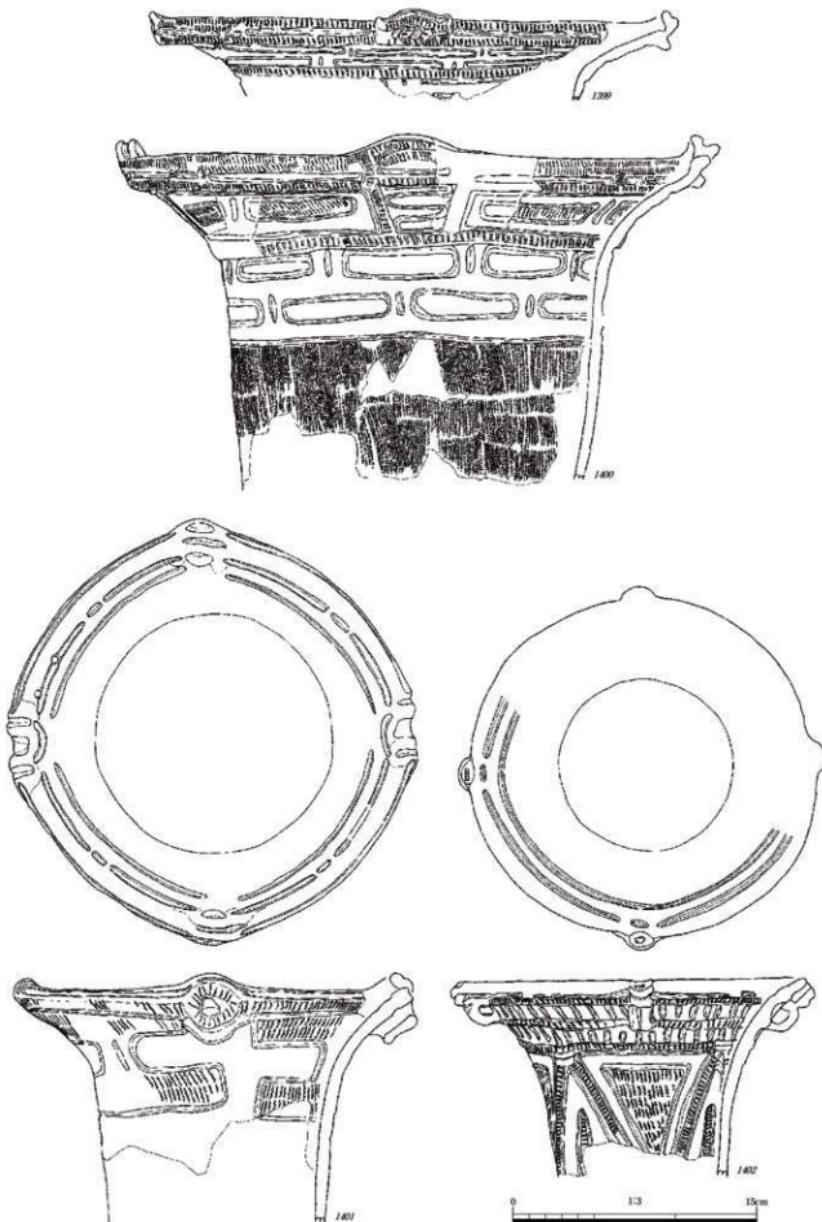
鍔付土器、有孔鍔付土器（1561～1579）が多く出土している。中には串田新式の前後の段階のものも含むと考えられるが、ここにまとめた。1561・1567・1569・1570・1572～1576・1578・1579に漆塗り、1565・1571に赤彩（ベンガラ）が認められる。1561・1570・1572・1575・1578・1579については漆塗膜分析を実施している。1561は肩部の張るカボチャのような器形の鍔付土器である。三面が残存しており、2単位の文様構成と推測される。正面と側面の二面を図示した。鍔を口縁部に巡らせ、橋状把手を4面の各中央に配置して、胴部の木の葉状の文様につなげる。木の葉状の文様は器面に粘土を貼り付けて厚みをもたせており、表面を丁寧に磨く。正面には櫛状具刺突のある隆線を縱の長楕円形に配し、隆線の上下はブリッジとする。隆線の左右と左側面には半円形の沈線文や一点破線状沈

<sup>222</sup> 朝田重紀著「2011「佐久津日置遺跡出土の足付土器」『紀聖・畠山考古学研究』第14号、財团法人畠山考古文化振興財団に詳しい。なお、山崎徳臣氏より、駒木原天皇市正和賀神の庭遺跡等の発掘の上例を教えて顶いた。山崎徳臣、2012「西日本における足付の若狭」『吉野川市立石室考古挖掘実習用記念論文集』矢石利義著者会議において、九州西部部の足付土器あるいは土器の出土例も資料が紹介されており。中島幾平山陽の日本海を通じた伝播ネットを想定している。

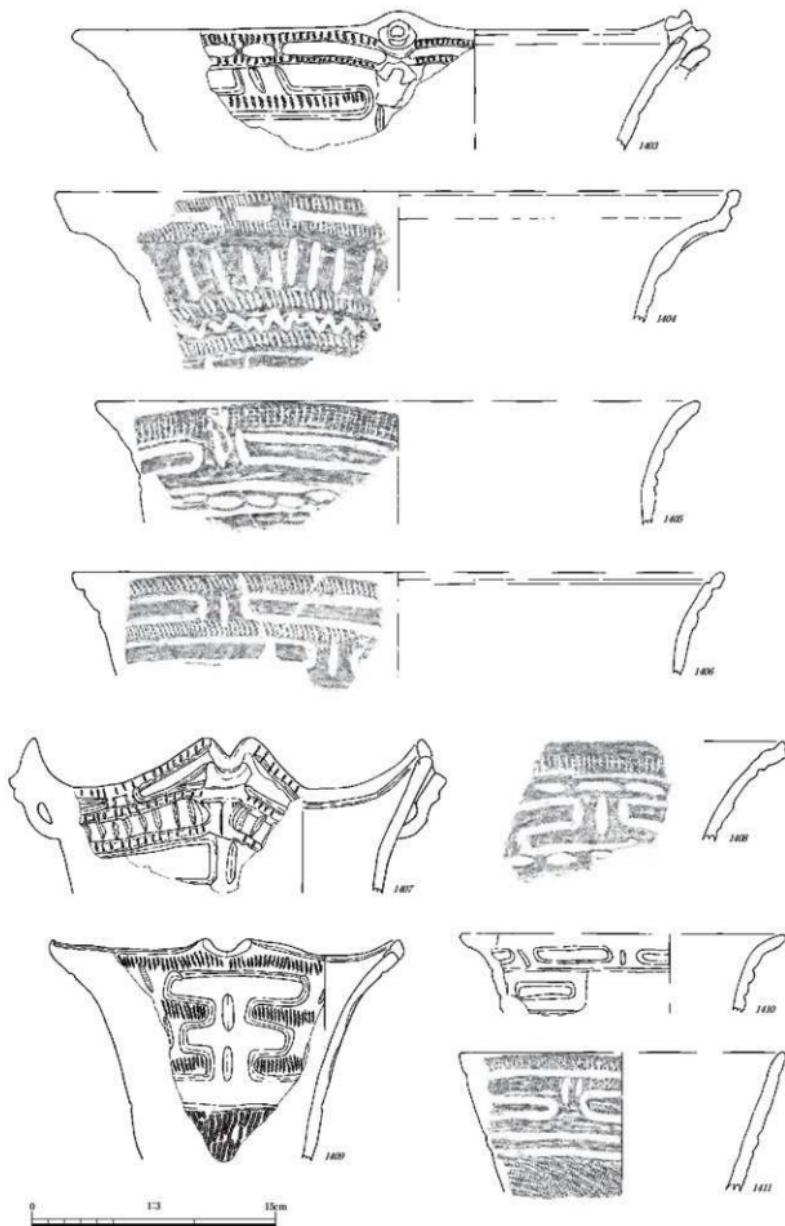
線を引く。木の葉状文様を除く部分には櫛状具刺突を充填する。内面および外面の口縁部、鍔、木の葉状文様の範囲には赤色（ベンガラ）漆を塗る。漆塗膜分析により、器面を磨いた後、漆を1層塗り、その上に赤色（ベンガラ）漆を塗り重ねたことが判った。赤色（ベンガラ）漆は、口縁部や外面、内底面といった塗りやすいところは厚くむら無く塗るが、手の届きにくい内面肩部は薄くかすれたようになっている。外底面には平行葉脈压痕と網代压痕（2本超え2本潜り1本送り）<sup>192</sup>を残し、上縁側の一部を撫で消す。順序としては、網代を敷き、網代の両側に少し重なるように箒の葉を2枚もしくはそれ以上置き、その上に土器底部となる粘土を載せたことが判る。1562は高さ約50cmを測る大型の鍔付土器で、胴上半部に渦巻沈線文を2単位で施す。渦巻文は巻く方向の異なるふたつを中央で繋いだものである。1563は4箇所のブリッジおよびブリッジ間の肩部に磨きを施した文様があり、この部分が内面から押圧されて膨らみを持つ。器形やブリッジの形状、文様構成などが1561に似る。1565は長いブリッジ外面に、蛇行する粘土帯を貼り付ける。1570は口縁部から鍔にかけての外面と内面を磨き、赤色（ベンガラ）漆を塗る。細かい撫りの単軸絡条体第1類を施した胴部外面は黒色の炭化物状の付着物に覆われているが、漆塗膜分析により漆であると判明している。1571の鍔はブリッジをもたず、胴部は浮き彫りのような表現で渦巻状の文様をあらわす。頸部より上の内面と、底部を除く外面に赤彩を施しているようであるが、殆どが禿げ落ちてしまっている。外面の赤彩は、浮き彫りされ盛り上がった部分にのみ塗られていた可能性がある。1572は橋状把手を逆T字状に貼り付け、把手には縱横に穿孔する。器全面を磨き、胴部に沈線文を入れる。赤色（ベンガラ）漆は内底面と外面の一部に僅かに残る程度であるが、当初は外底面を除く全面に塗られていたと考えられる。外面の漆塗膜分析によると、器面を磨いた後、漆を1層塗り、その上に赤色（ベンガラ）漆を塗り重ねている。1573は眼鏡状把手のある小型の有孔鍔付土器で、全面を赤色漆塗りする。1574も全面赤色漆塗りで、外面には中空の丸い棒状具による刺突文がある。1575は胴下部で、外面に縱の貝殻条痕を施す。内面は器表面を磨いた後、漆を塗り、その上から赤色（ベンガラ）漆を塗り重ねる。外面には煤が付着する。1577は2条の鍔が8箇所でつながりブリッジとなる。胴部外面には単軸絡条体第1類を施す。胴上半部の文様は粘土を貼り付けた幅広隆帯と浅い沈線で表現しており、I字状の両側に巻く方向の異なる渦巻文を配置するが、等間隔ではないようである。2面を写真図版53に示す。1578の内外面は、器面を磨いた後、漆を1層塗り、その上から赤色（ベンガラ）漆を塗る。眼鏡状把手から繋がる口縁部外面には漆を塗らない部分をつくり、塗り分ける。1579の外面上半部は粘土を貼り付けて隆帯状の文様をつくり、周囲を沈線で囲む。下半部には沈線を横位に1条引き巡らせ、下位を削って薄く均一な器壁に仕上げる。内全面には漆を1層塗った後に赤色（ベンガラ）漆を塗り重ねる。外面にも一部に赤色漆の付着がみられる。内外面には、胴下部を中心にコケや煤が付着している（写真図版6参照）。煮炊きなどに用いて故意に二次被熱させたと考えられ、特異な使用例が伺える。

釣手土器（1580～1592）は浅い鉢に釣手を掛け渡したもので、灯火具とされる。鉢部内面と釣手の天井寄り内面に煤が厚く付着するものが多い。1580～1583は貝殻腹縁隆線や沈線文、橋状把手など、深鉢同様の文様を施す。釣手部を上からみた形状は菱形である。天井は丸く開口し、直立、外反する口縁がつくようである。1582と1583は文様や胎土、色調が似ており、同一個体の可能性がある。1584の釣手部にはS字やC字状の沈線文を入れ、両脇を丸く透かしにするようである。梢円形の窓は沈線で囲み、四隅に円孔を穿つ。天井は丸く開口し、突起状の装飾がふたつ付くと思われる。1585～1587は帶状の釣手部で、上からみたとき開口部周囲の形状が菱形状に広がらないものである。文様は沈線主体で、1585・1587・1588にはヘラ刻み、1591・1592には刺突を施す。1583・1588～1591の外底面の敷物压痕は、1590が2本超え2本潜り1本送りの網代压痕、他はスダレ状压痕である。

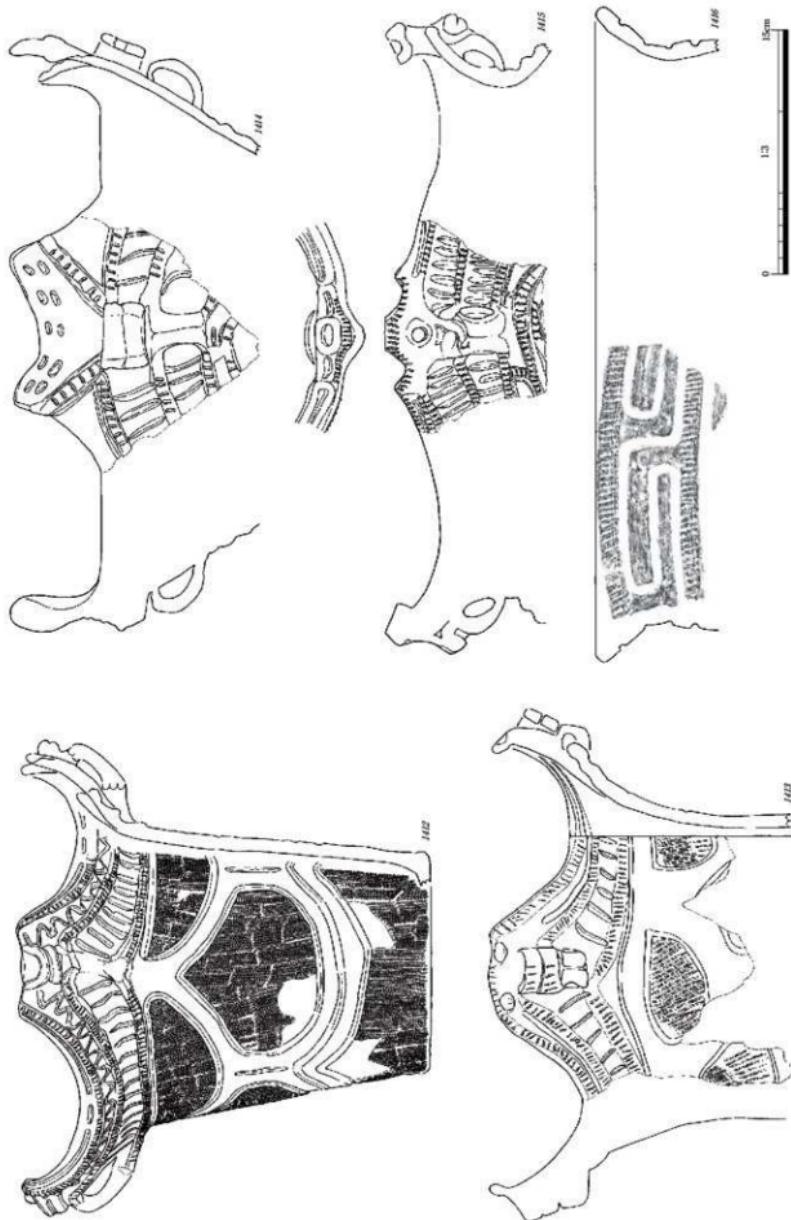
192 物物転倒について、佐木葉加氏より二教示いただいた。



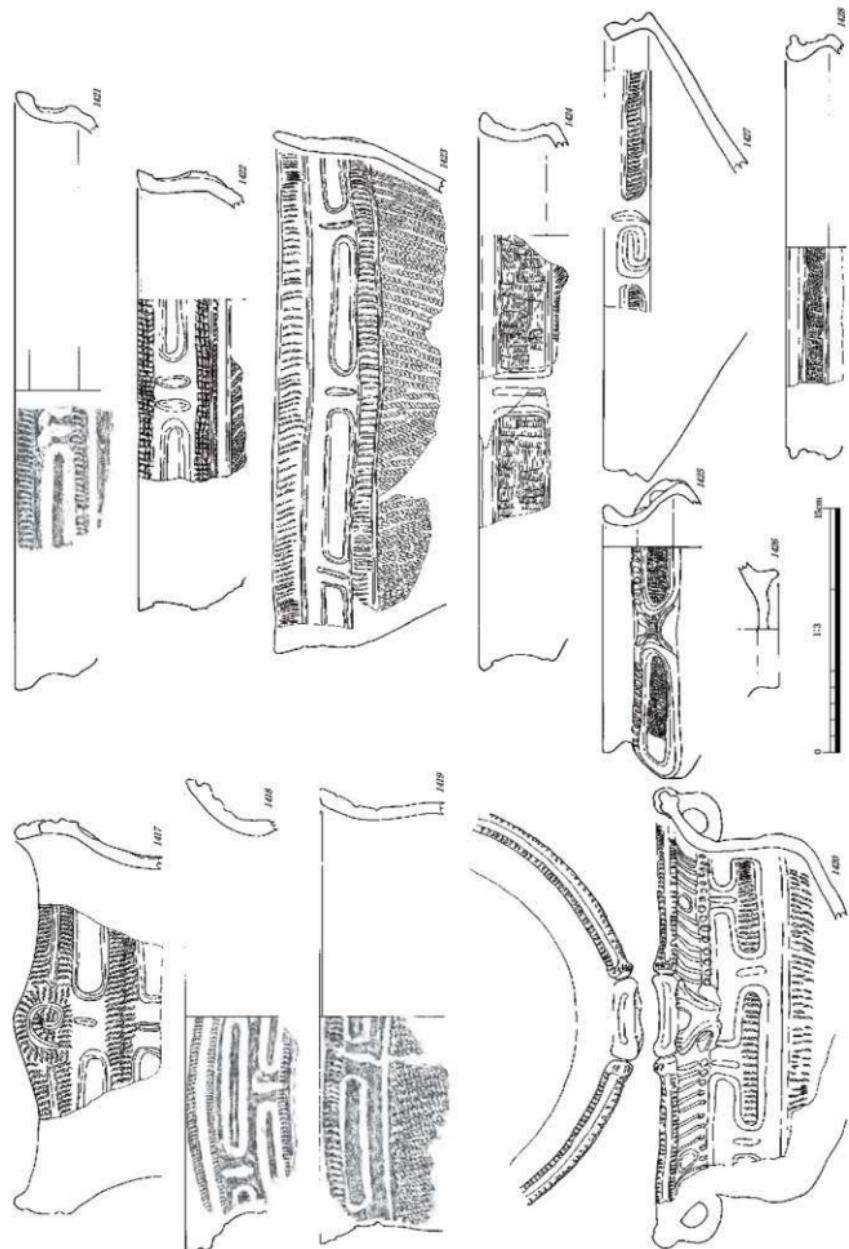
第153図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式



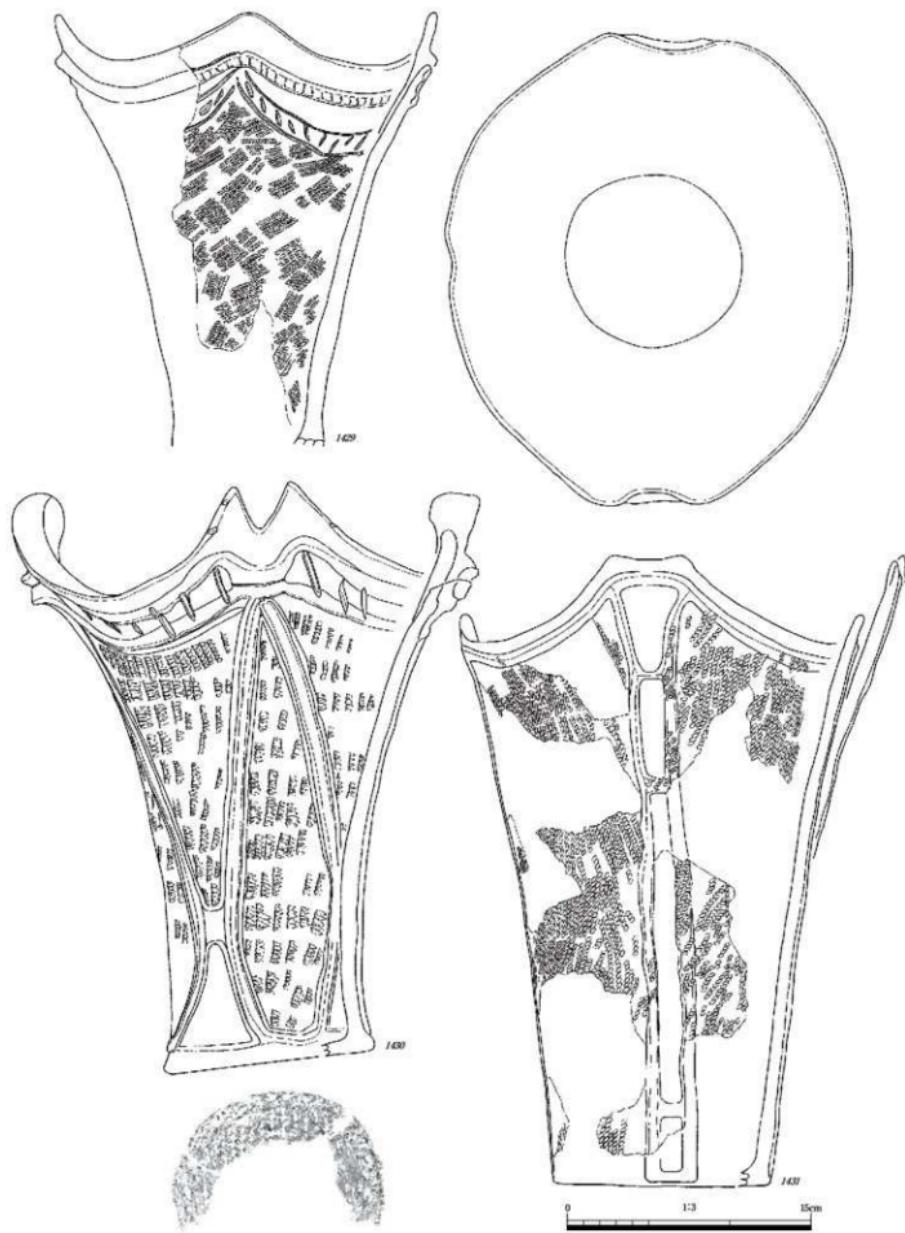
第154図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式



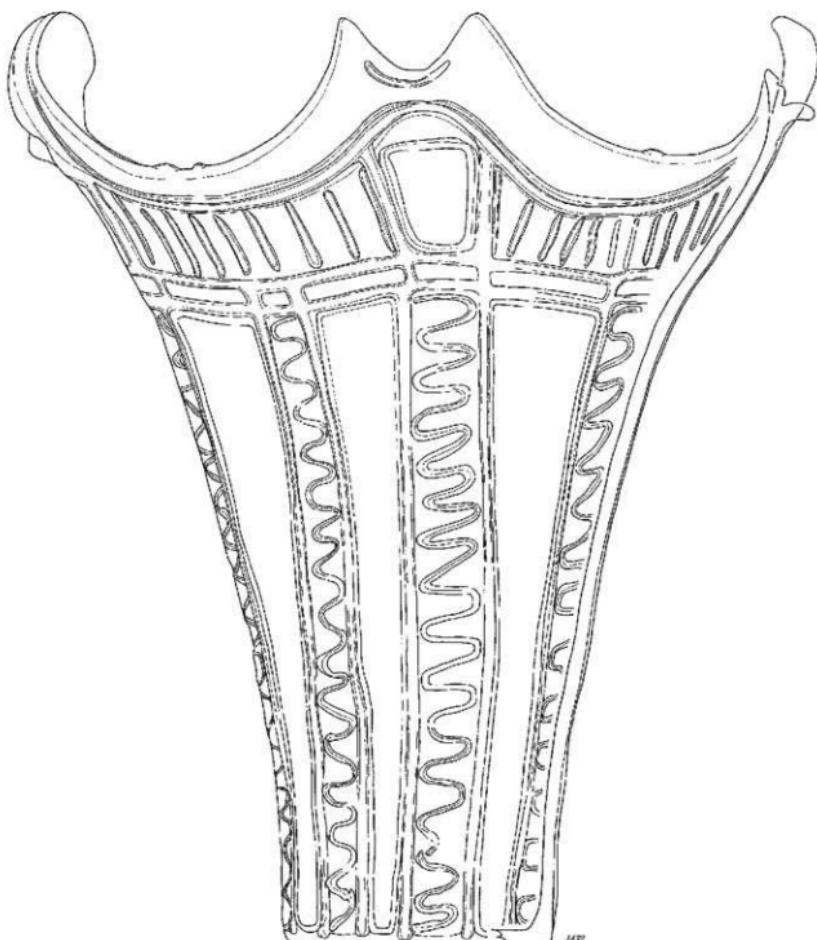
第155図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式



第156図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式

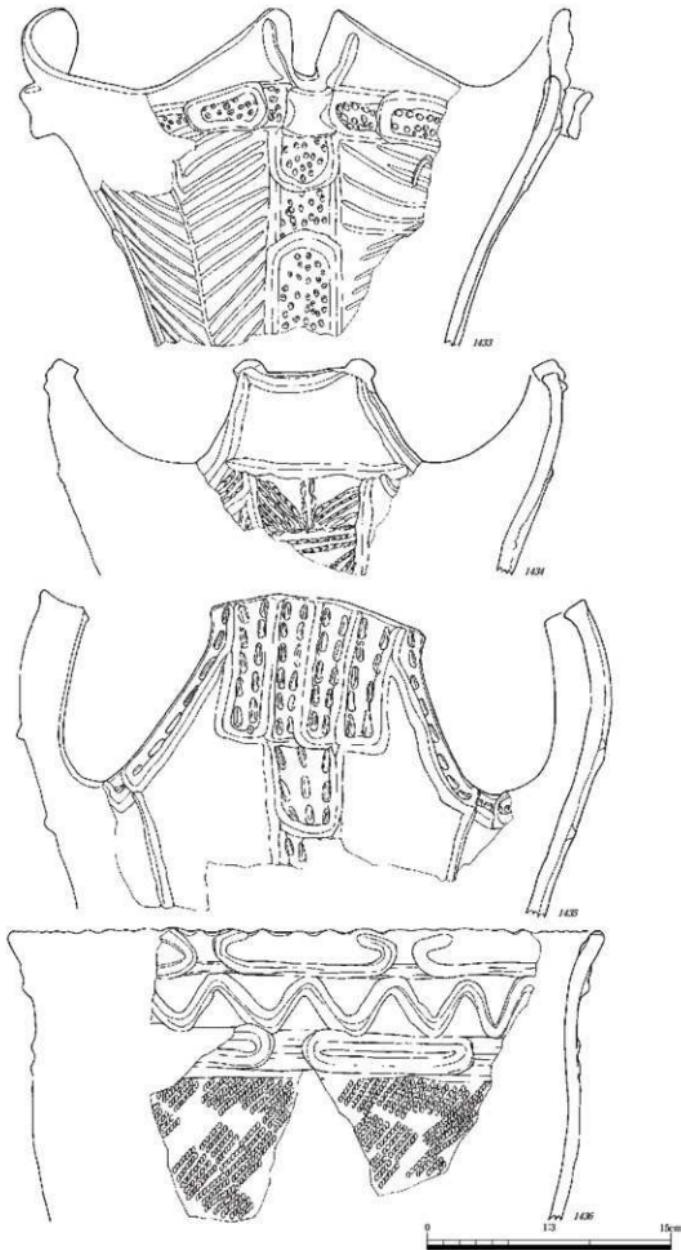


第157図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式



0 1:3 15cm

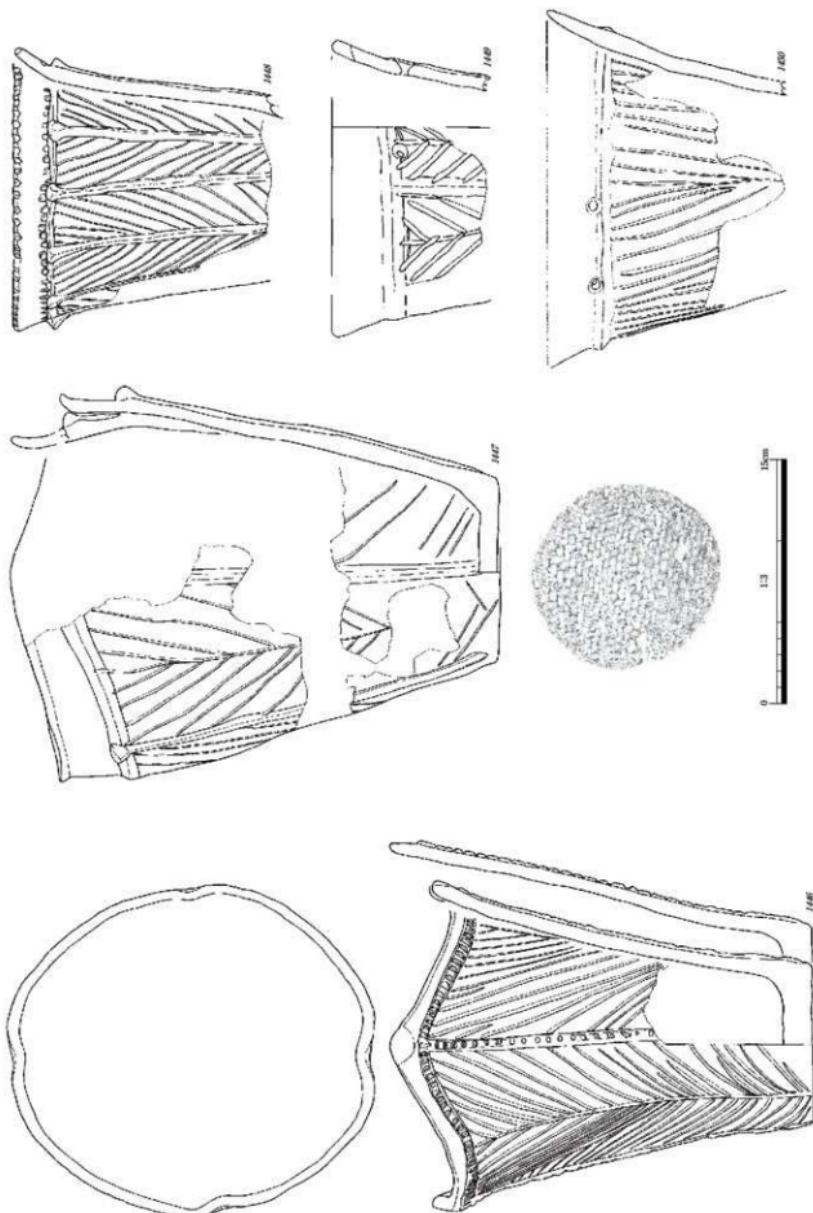
第158図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式



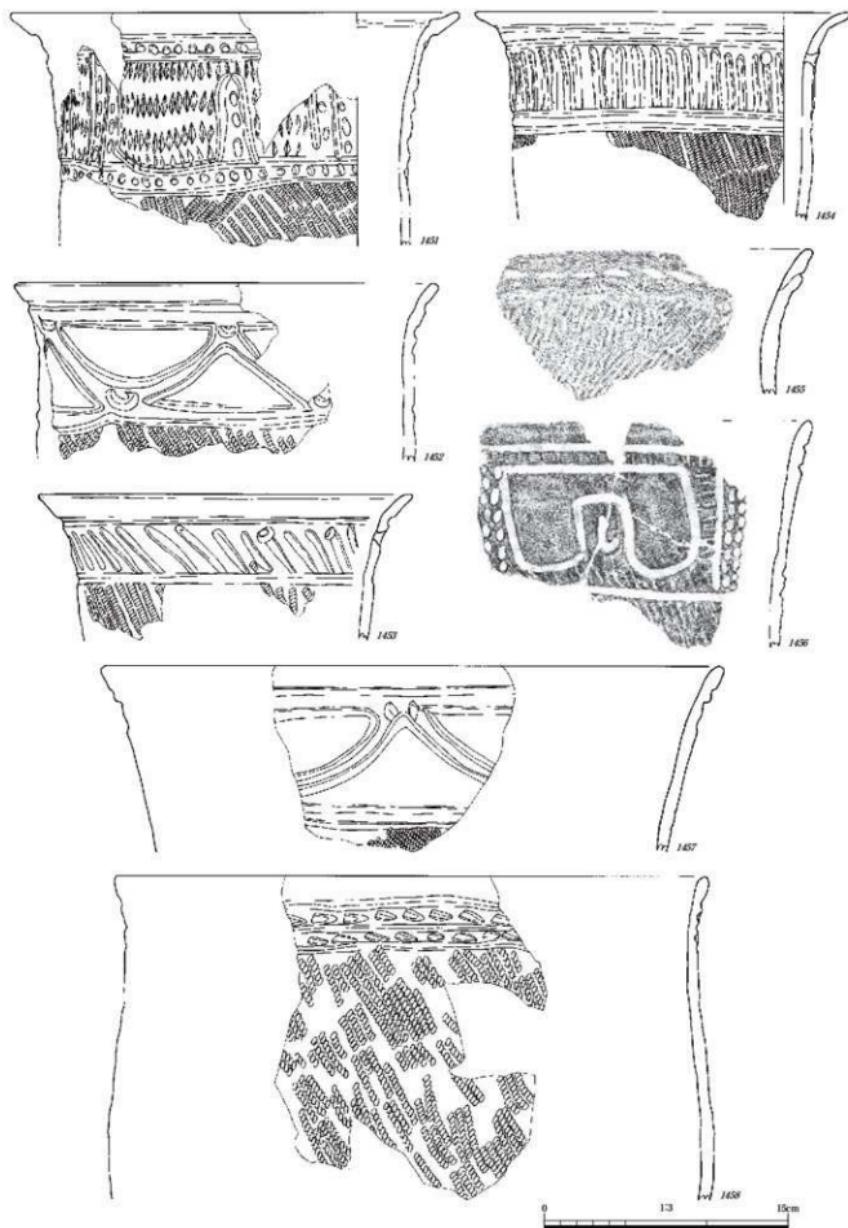
第159図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式



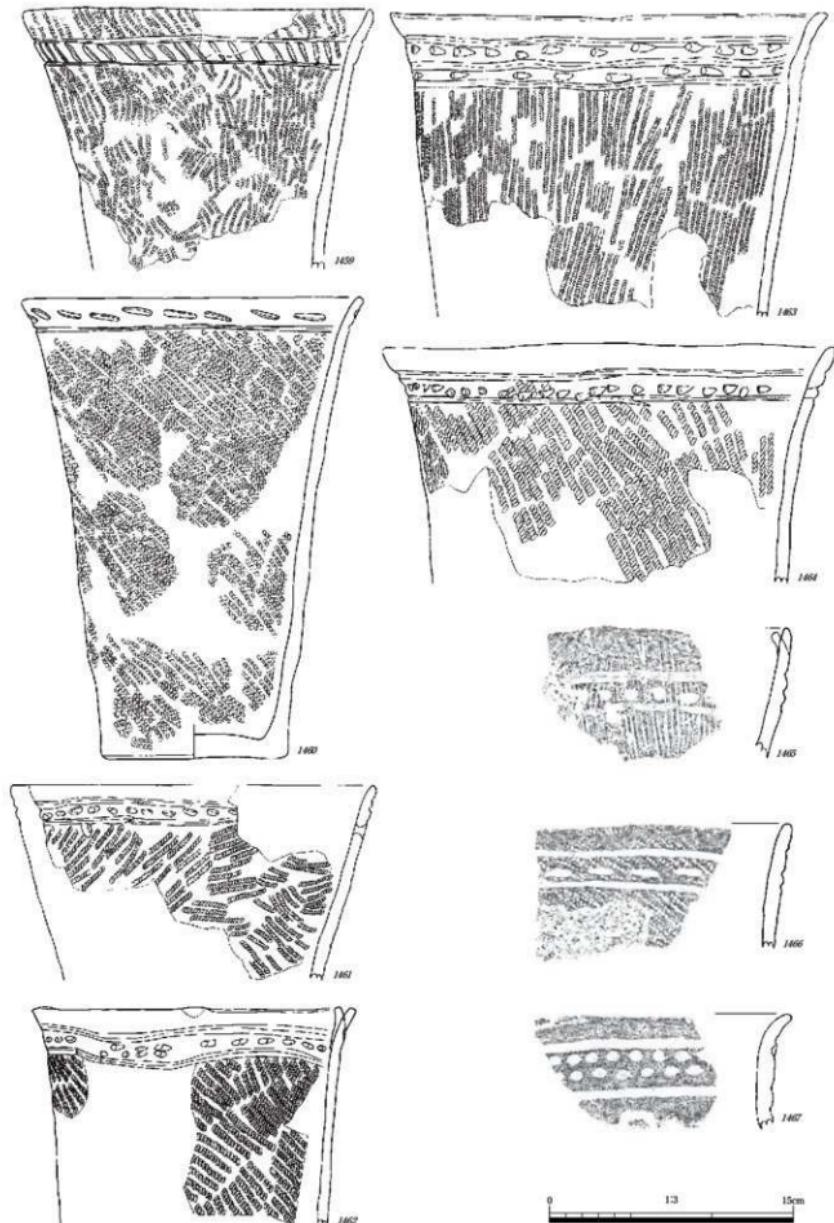
第160図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式



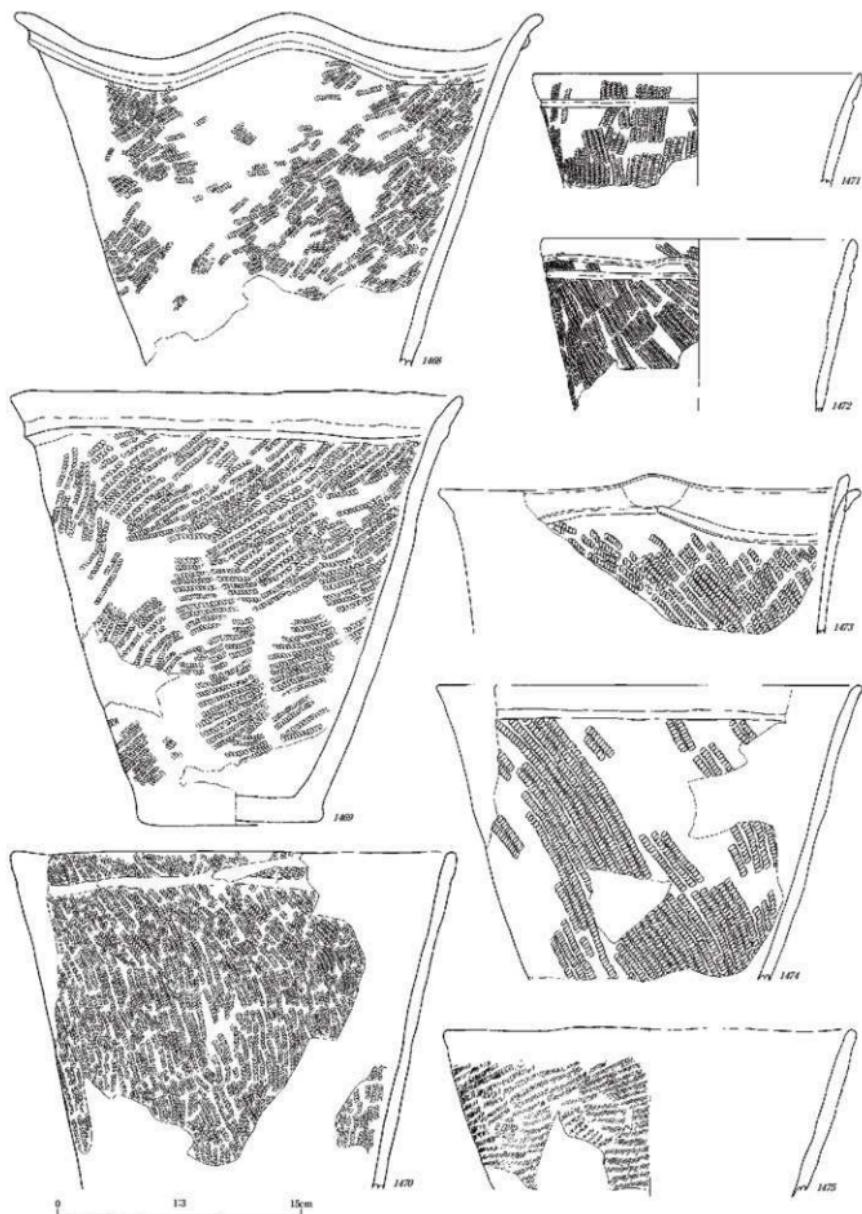
第161図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式



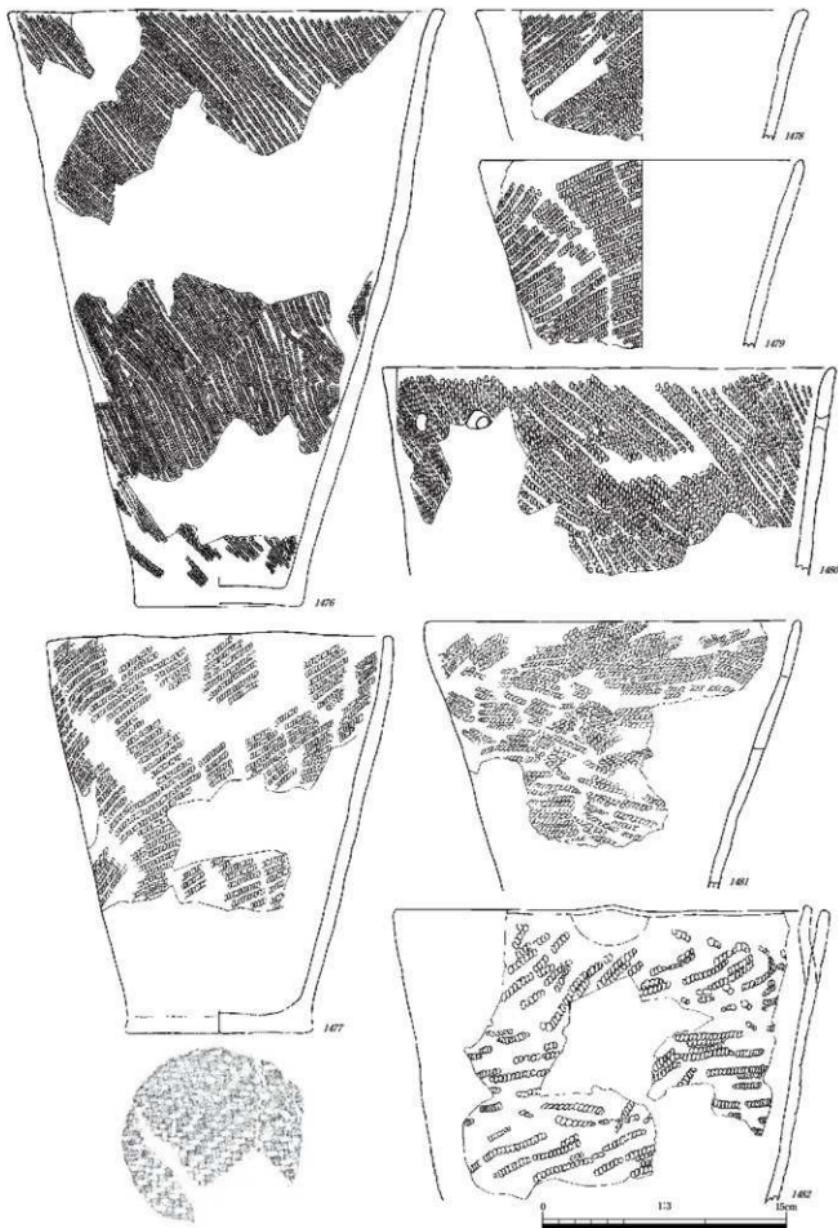
第162図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式



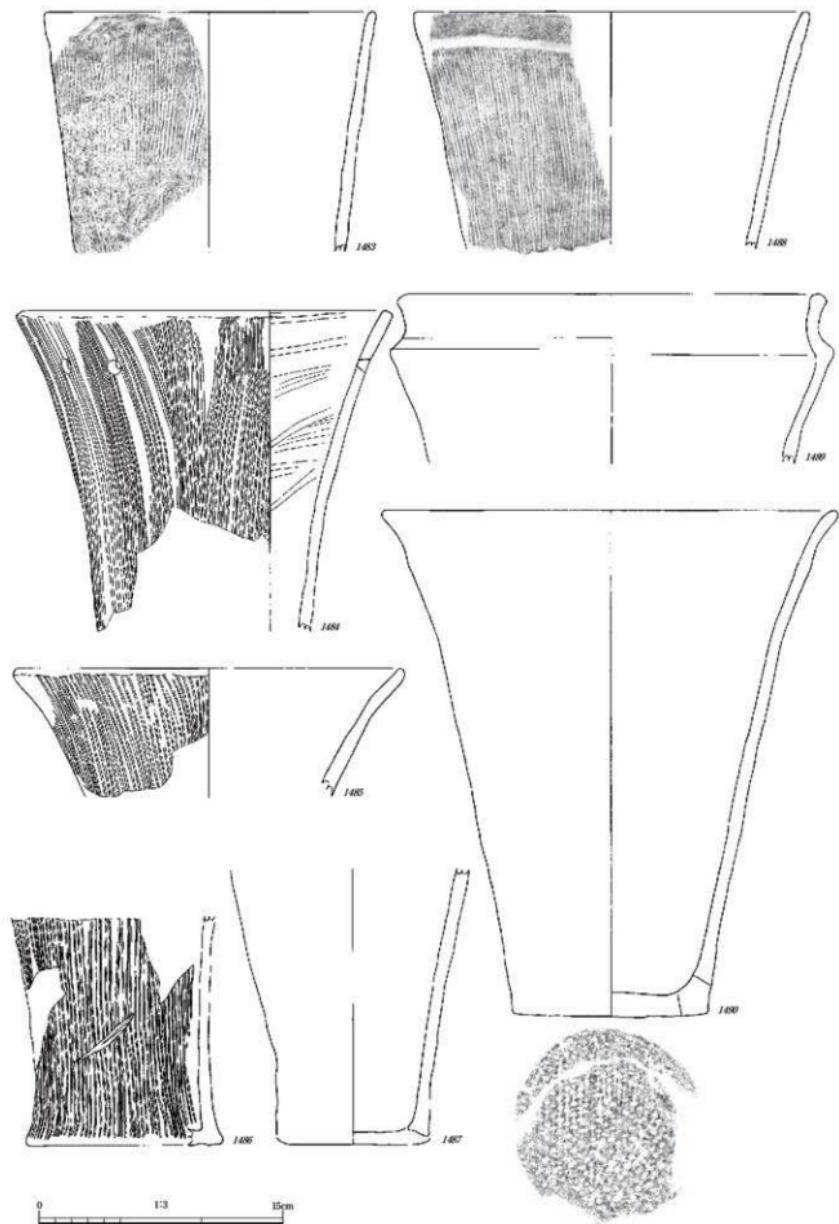
第163図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式



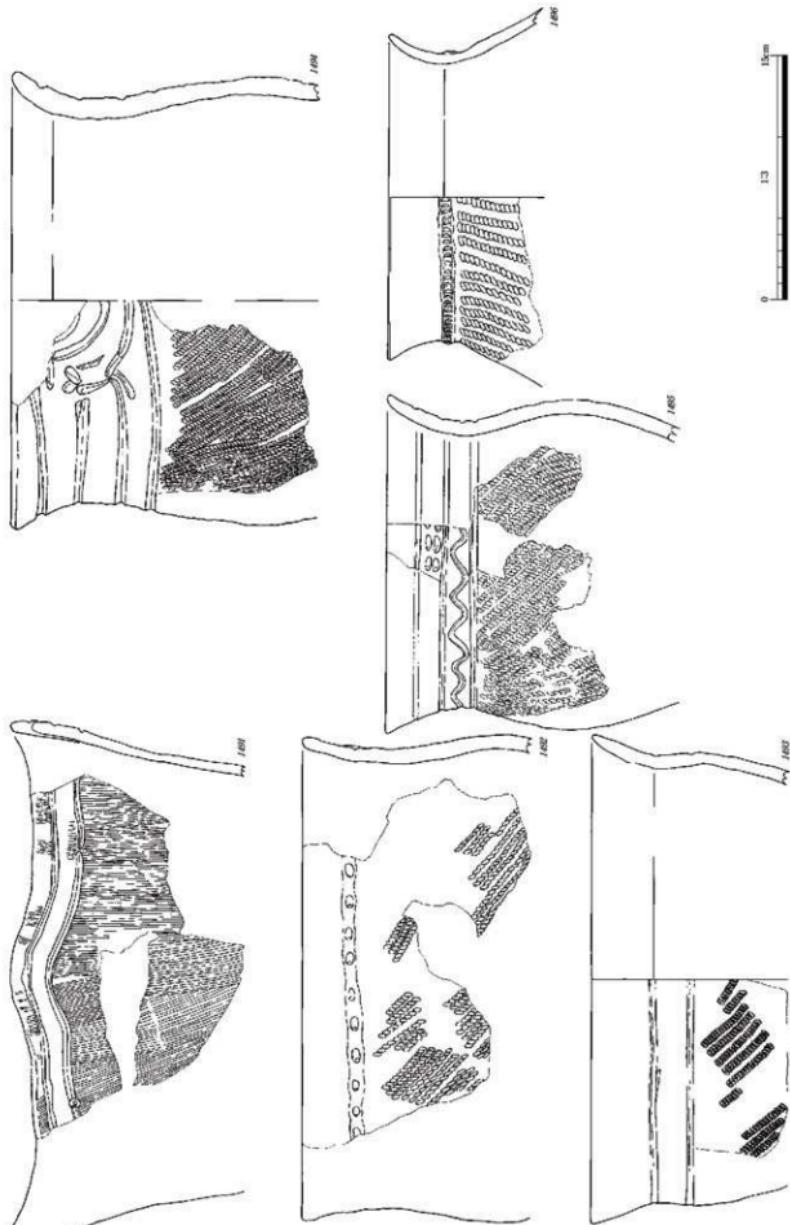
第164図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式



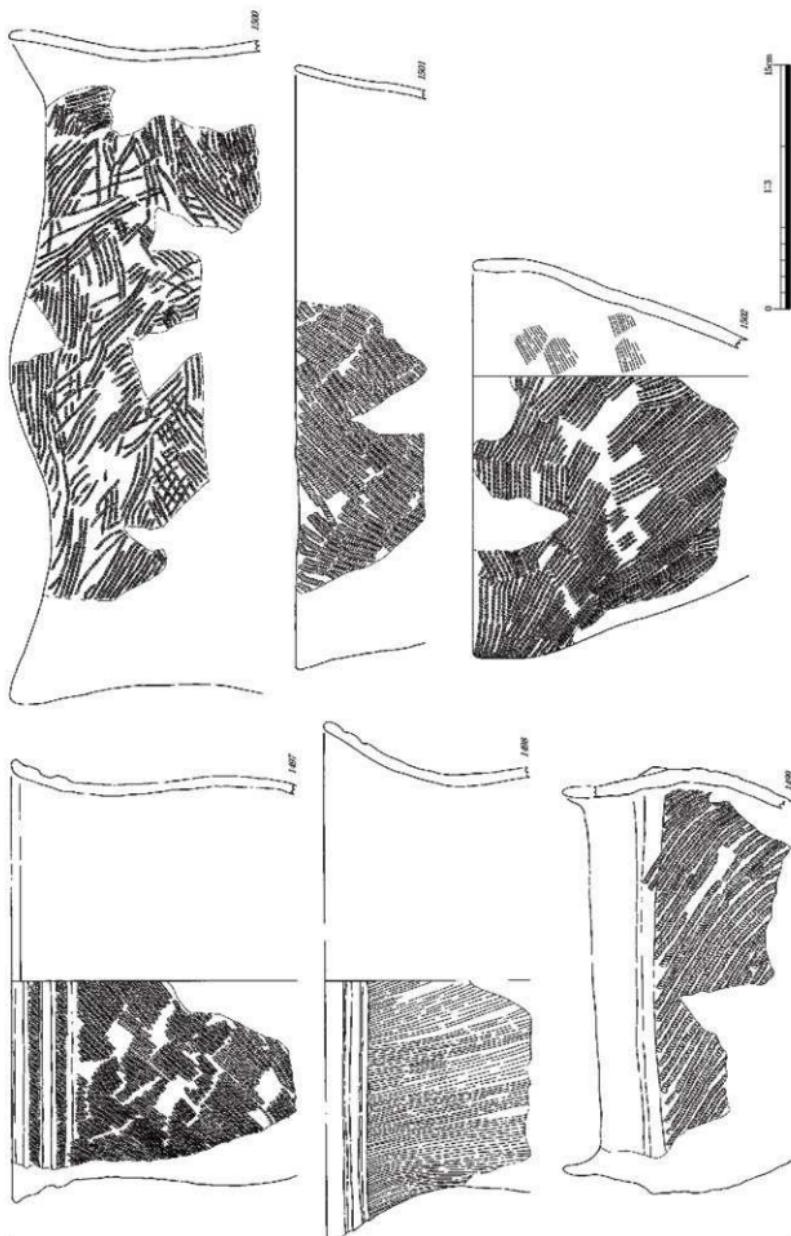
第165図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式



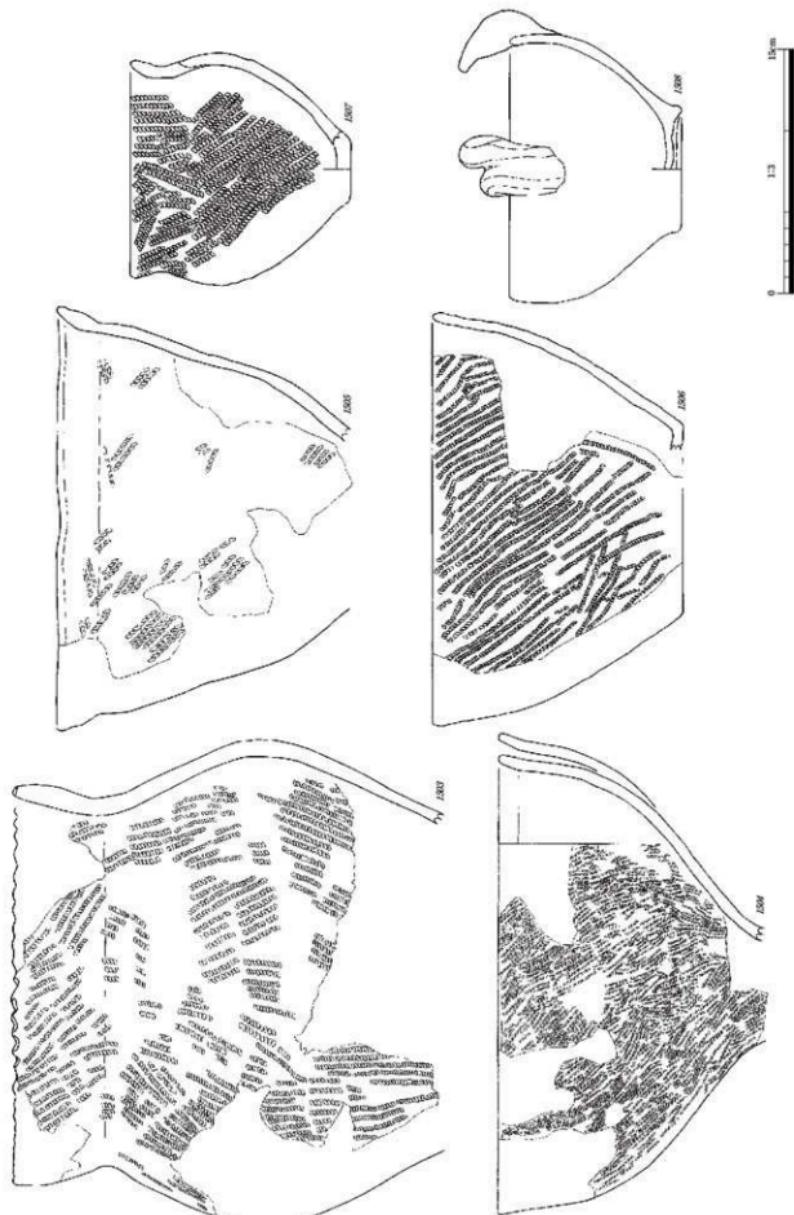
第166図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式



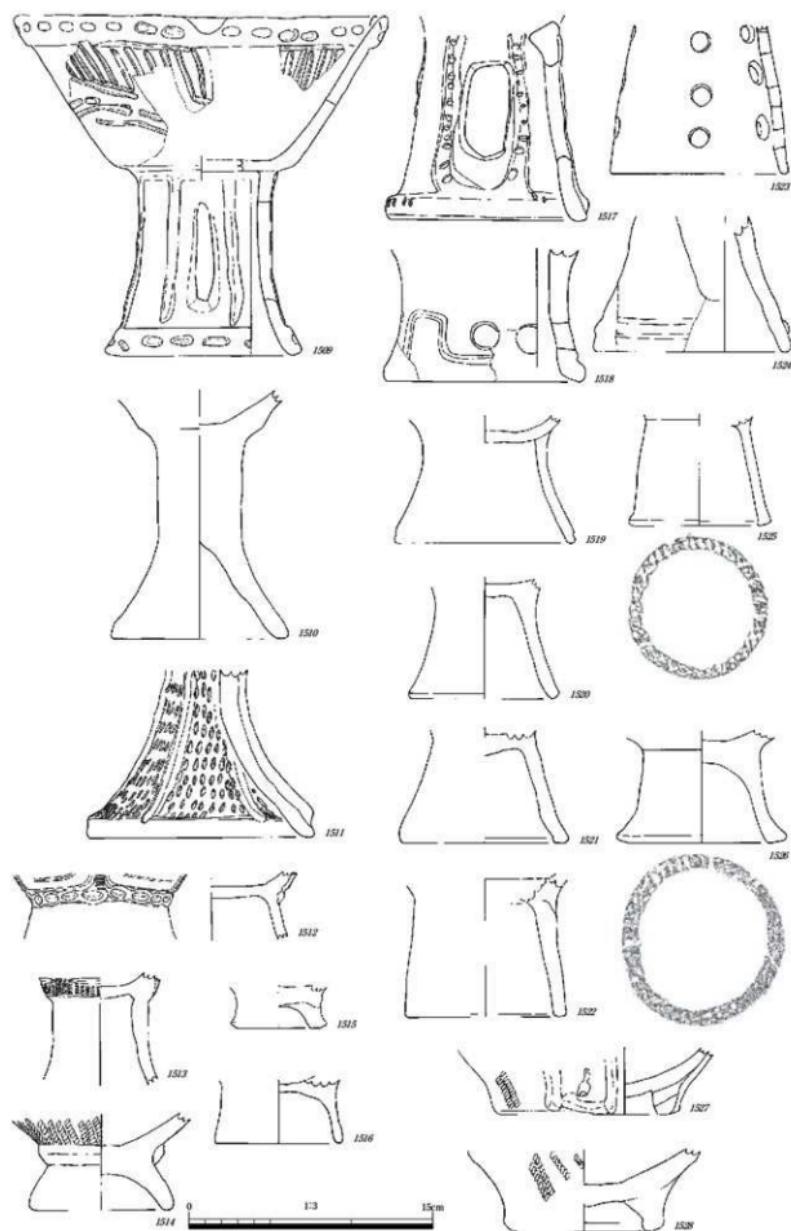
第167図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式



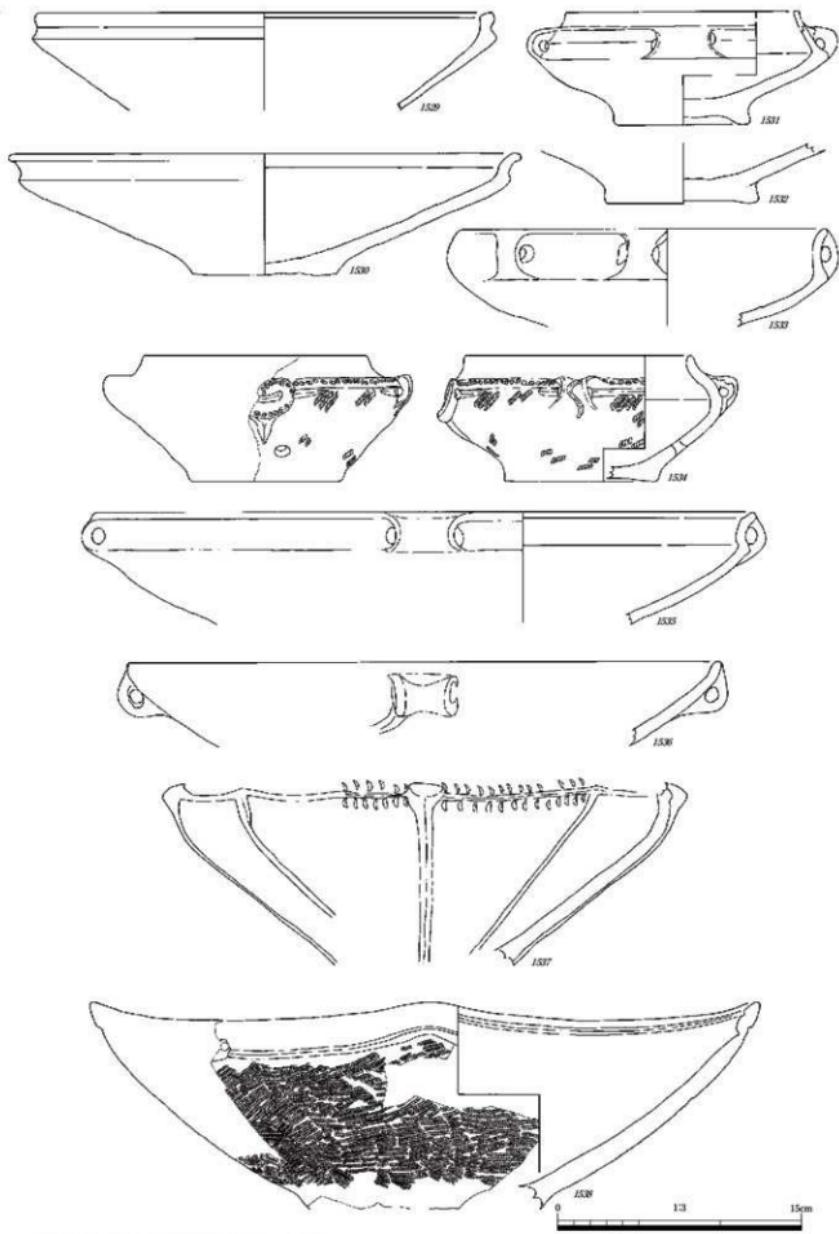
第168図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式



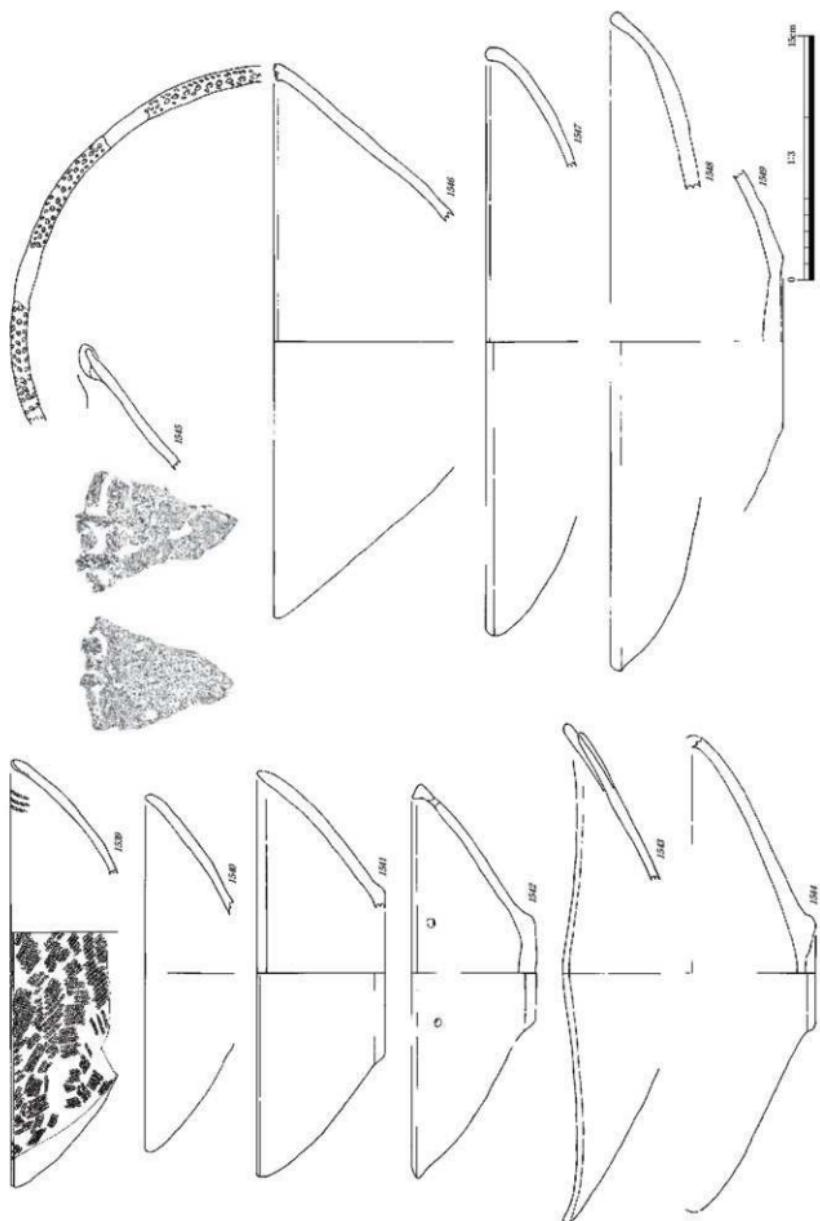
第169図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式



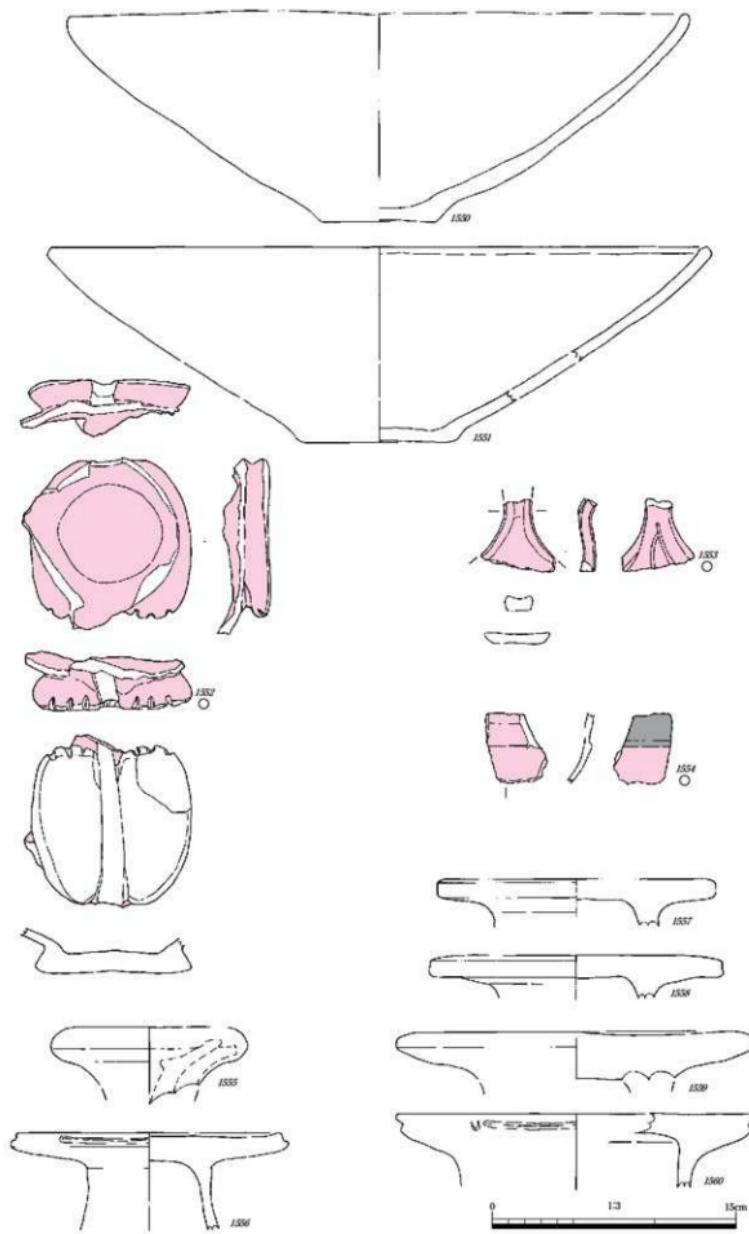
第170図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式



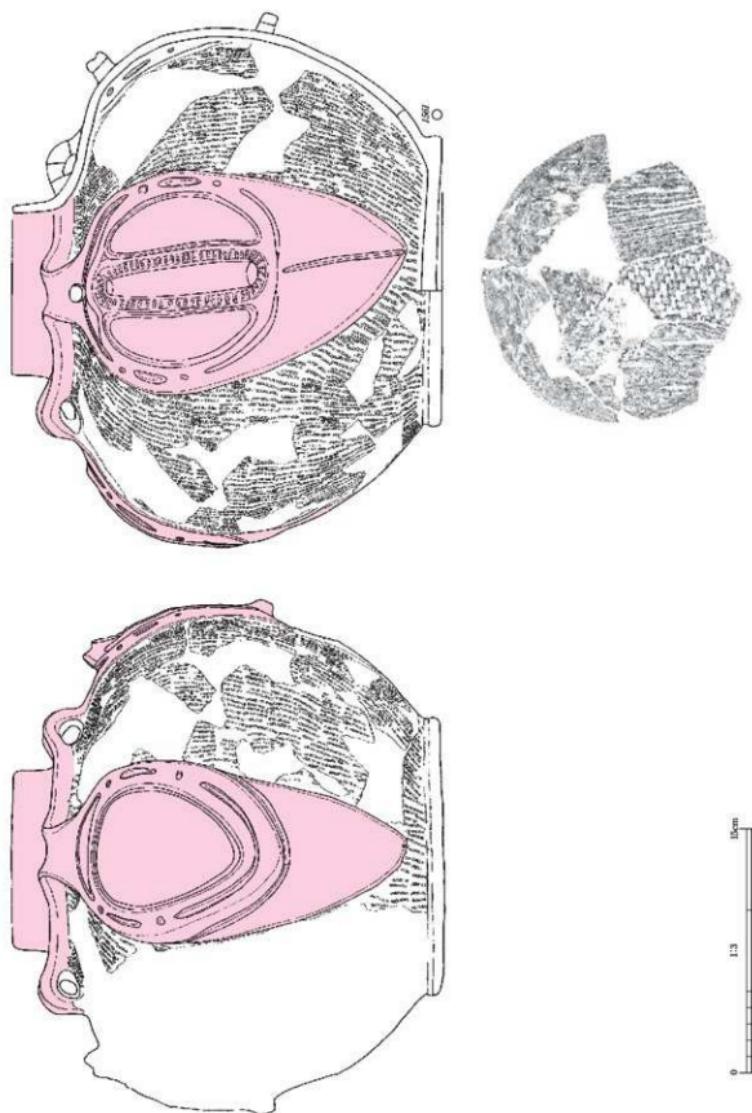
第171図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式



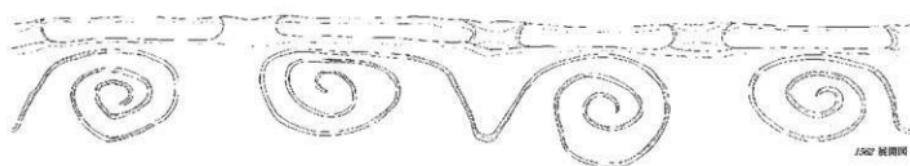
第172図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式



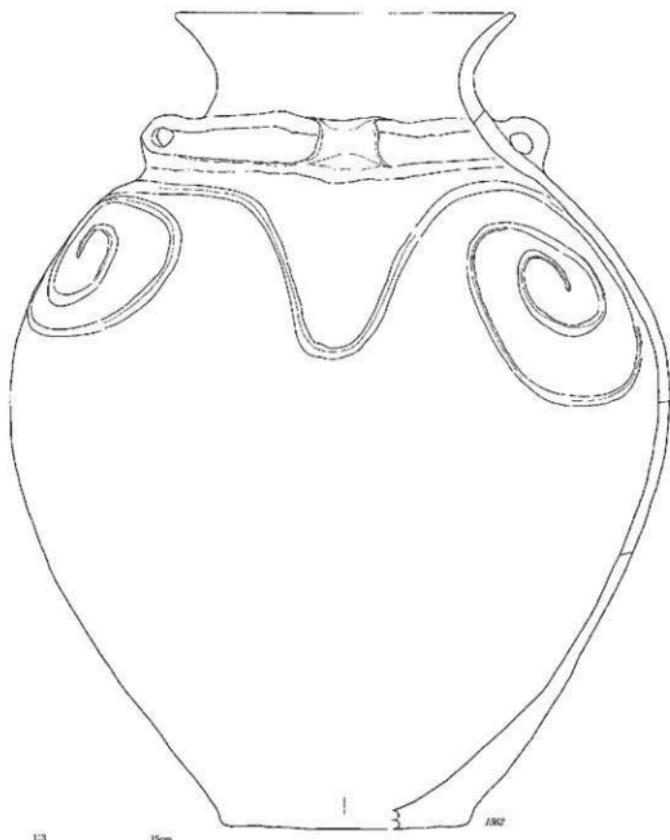
第173図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式



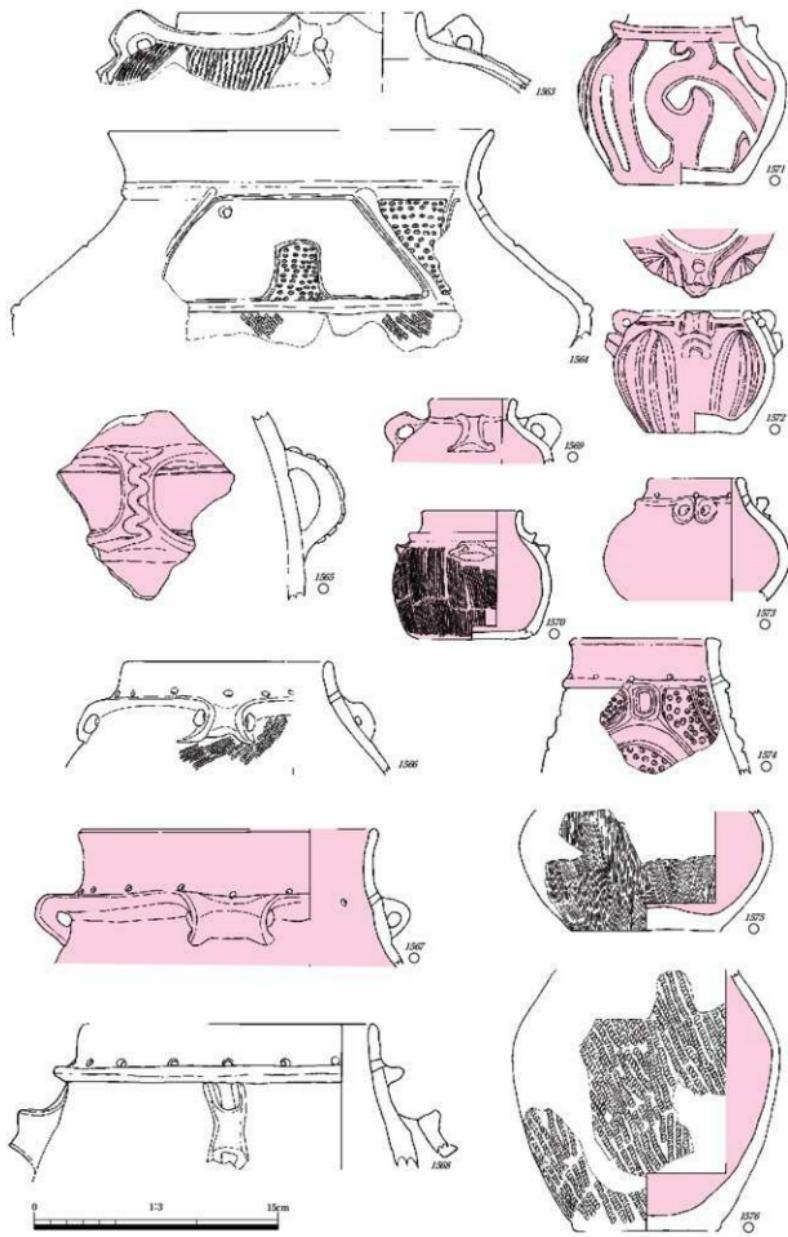
第174図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式



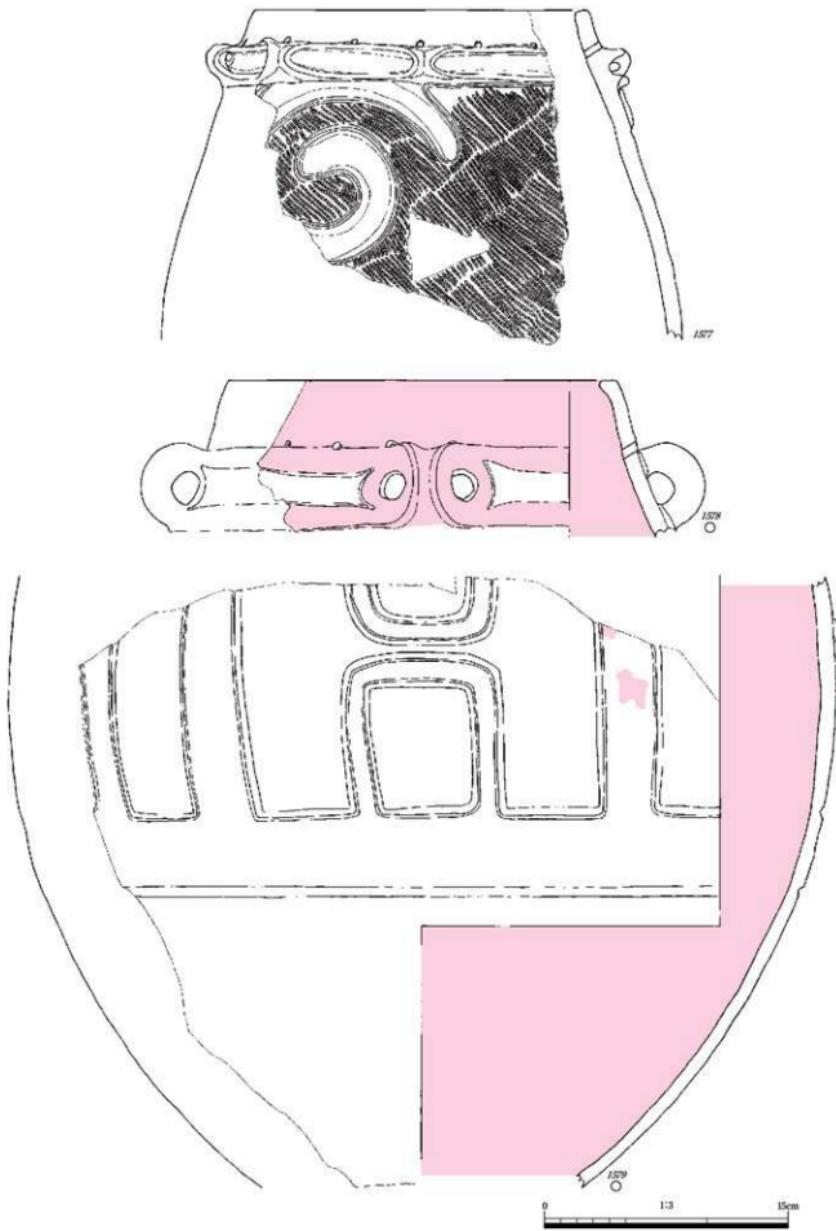
1862 畫圖



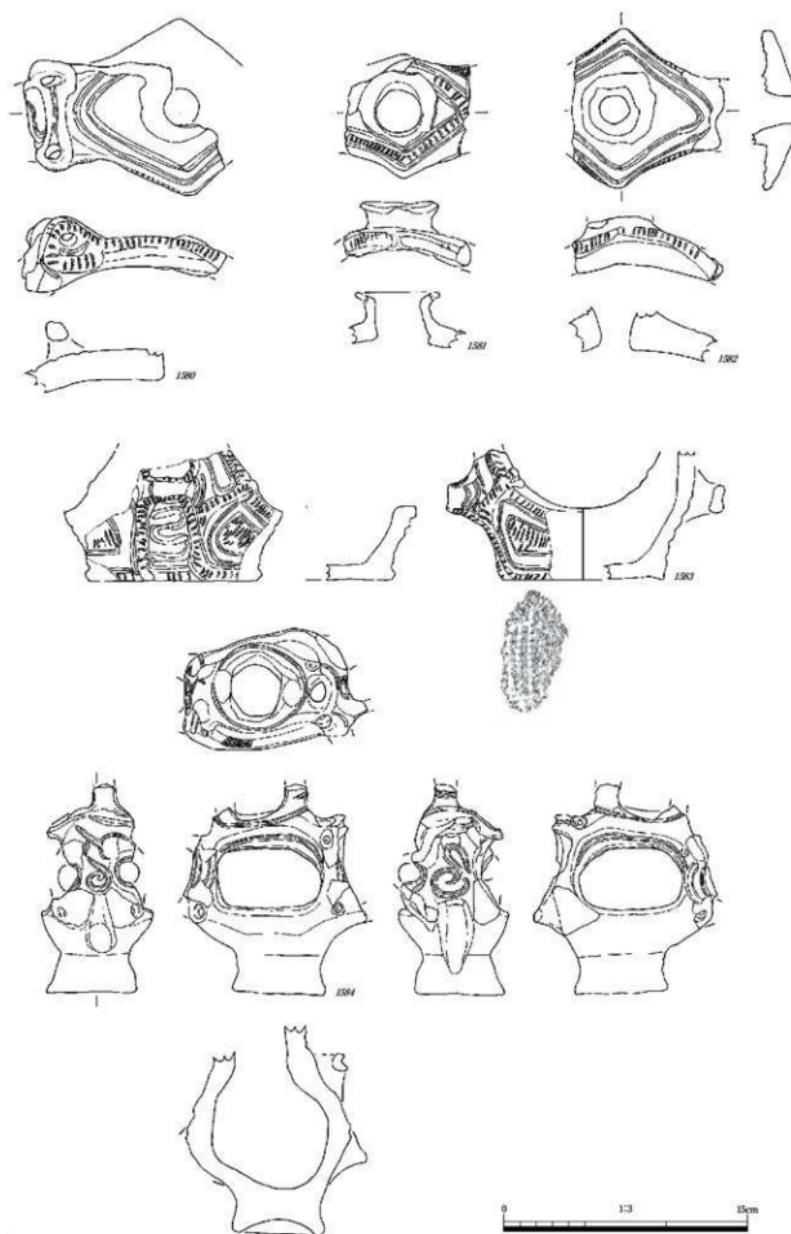
第175図 繩文時代遺物実測図 (1/3, 展開図 1/6)  
SD1 串田新式 前田式



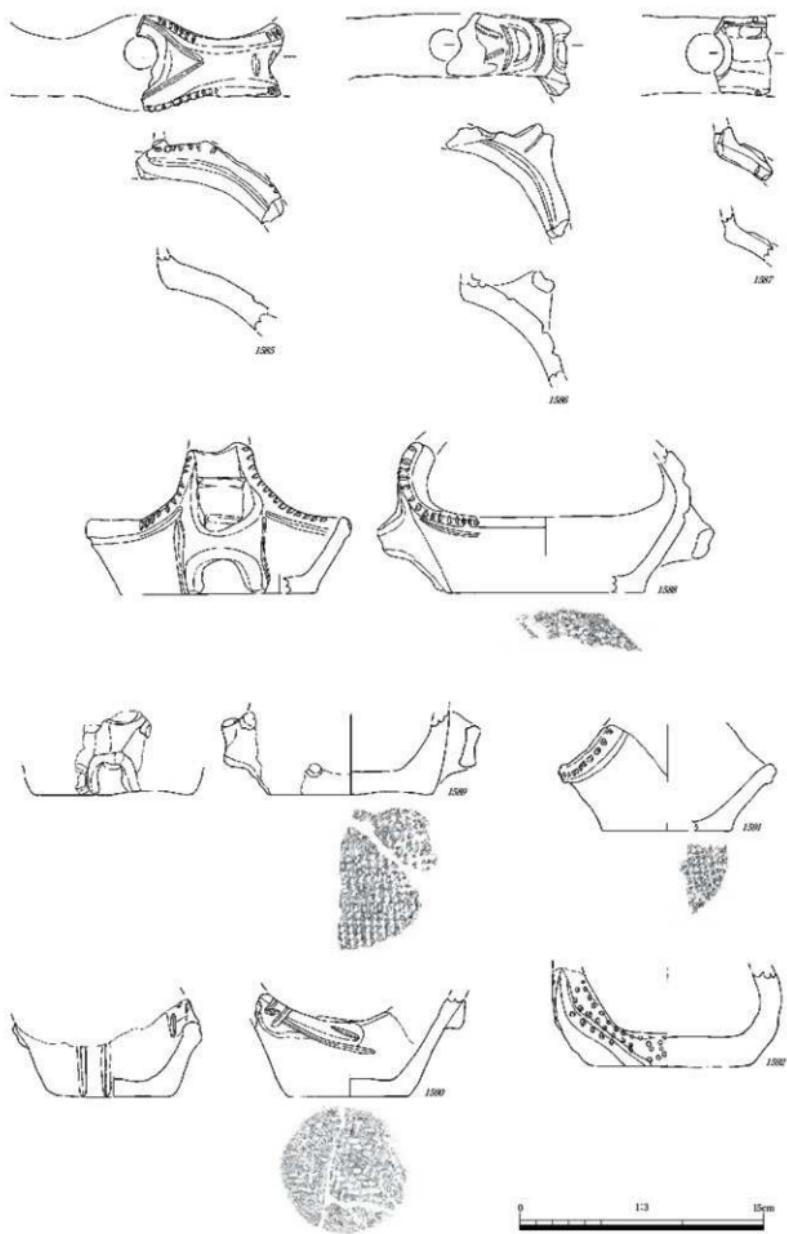
第176図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式



第177図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式



第178図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式



第179図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 串田新式 前田式

## D 後期

## a 気屋式 (1593~1656, 第180~186図, 図版26・54・55・113~116)

石川県河北郡宇ノ氣町氣屋遺跡を標識とし, 後期前葉に位置づけられる。連続三角形刺突や幾何学状沈線文を特徴とする。器種は, 深鉢, 浅鉢, 鉢, 壺, 蓋, 魚手土器, 注口土器, ミニチュア土器がある。色調は串田新Ⅱ式以降のものと同様に白色味の強い傾向にあるが, 中には橙色を呈するものもみられる (1601・1603・1604・1612・1635・1656)。

1593~1596・1604は前田式新段階とされるものである<sup>228</sup>。1593~1596は頸部が括れ, 口縁部が内湾する深鉢である。口縁部外面には波状, クランク状, J字状等の細い沈線文を入れるが, 1593の波状以外の沈線および1596の口縁部側2条の沈線は, 刺突を加えた押し引き状の沈線となっている。1604は胴上半部に張りを持たせ, 口縁部を外反させる器形である。口縁部外面には列点をつなげたような細い押引状沈線を数条巡らせ, 間に台形区画とS字状沈線を入れる。1593・1595・1604の胴部にはR L繩文を縱行させる。

1597~1635は, 頸部が括れ, 口縁部を内湾気味に立ち上げる深鉢である。1597は2本交互にねじった粘土紐を口唇部に貼り付ける。1597・1598の口縁部外面には隆線を貼りつけ, これに沿って刺突文を連続して施す。1598は口縁部に肥厚した丸い端面をもつ突起を有し, 間隔をおいて縦の隆線を貼り付ける。胴部には幾何学沈線文を施す。

1599・1601・1602は口縁部に連続三角形刺突を施す深鉢である。1599の胴部は斜行繩文の後, 一部に縱行繩文を施しているようである。1600は1599と同様の文様構成であるが, 刺突の原体は角のないヘラ状のものを用いる。

1605・1606は頸屈曲部からのびる口縁部を外傾させる深鉢である。口縁部の孔や円文を中心にして全面に幾何学沈線文を入れる。1607~1611は口縁部に円文を入れ, 周囲に沈線や連続刺突を加える。1608の頸部沈線間に細かい斜繩文を施す。1609の頸部には橋状把手をつける。

1612は口縁部を強く外反させる深鉢で, 口縁部に円文を入れ, 三角形連続刺突列を巡らせる。頸部にかけて三角形の幾何学沈線文を入れるが, 最上線と三角形の内周線のみ刺突を加えた押し引き状の沈線となっている。1613は口縁部が短く立つ壺状の器形となるようである。正面に2本の粘土紐を交互にねじった把手をつけ, 下端は円文を加えて押さえる。

1614~1617は粗製深鉢で, 外面に2段の繩文を施し, 口縁部に1~2条の沈線を巡らせる。1614は全面斜行繩文, 1615~1617は口縁部斜行, 胴部縱行と, 繩文の施文方向を変える。

1618~1624は浅鉢である。口縁部を強く内湾させる器形で, 端部を丸く取める。無文 (1618・1619), 幾何学沈線文 (1620・1621), 繩文地沈線文 (1622), 幾何学沈線文に繩文を加えるもの (1623・1624) がある。1623は口縁端部を少し立ち上げて, 円文と三角形連続刺突列を加える。

1625~1632は小型の土器で, 鉢や壺としてまとめたものである。1625・1626は胎土や焼成等から同一個体と思われるものであるが, 文様のつながりが把握し難く復原できなかった。口縁部が直線的に外傾する器形で, 外面に太い沈線文を入れ, 内面を丁寧に磨く。全体に白色~黄褐色系の土器が多い中で, 1625・1626は灰褐色系の色調で, 表面は一部黒褐色に撫し焼きされたような色調を呈する。1627は頸部がくびれる壺形の器形で, 正面に三角形状の大きな把手を持っており, 注口土器の可能性も考えられる。1628は丸みのある胴部で, 中程の内外面に煤の付着がみられる。胴上半部の内面には粘土輪積み痕を残す。1629~1631は橋状把手をもつもので, 前項に示した1531・1533・1534と関連の深い器形である。外面には沈線や充填刺突文, 列点を施す。前田式古段階に遡る資料であるかもしれない。

<sup>228</sup> 小島尚利, 2007 「板町遺跡の廣文時代中期後葉から後期初期の祭祀付け」「板町遺跡祭祀施設を報告者 純文時代新段階」小島尚利研究委員会, 木澤義光, 2008 「気屋式土器」「船形・圓筒土器」板町遺跡に示された祭祀施設に基づく。ここでは前田式古段階のものは牛山式に含め, 新段階のものは気屋式の内で扱うこととする。

1632は頸部が細くくびれる壺形の器形である。肩部に沈線を1条巡らせ、沈線の上側には粘土帯を薄く貼り付けて列点を加える。外底面には網代圧痕を薄く残す。

1633は注口土器の蓋と考えられる小型の蓋である。全面ナデ調整で、器面が荒れて薄く剥離する部分もみられる。上面のつまみは残存状態が良くないが、半環状に復原される可能性もある。1634は浅鉢形のミニチュア土器で、外面に渦巻沈線文を入れる。1635は台付鉢の脚部か。底面はナデ調整で、中心に太い棒状具を差し込んで回し広げたような深い穴がある。外面には末端刺突のある沈線や円形刺突文を施す。1636は小型の蓋である。外面中央に環状の把手がつくと思われ、縁に沿って沈線を巡らせる。1637は内面にかえりをもつ大型の蓋である。外面に薄く貝殻条痕を残し、2孔をあける。

1638～1641は浅鉢である。1638・1639は2孔をもつ。1638は肥厚させた口縁端部につの字状沈線文と押引状刺突穴を入れる。1640は口縁端部に列点を入れ、1641は波頂部を渦巻沈線文で飾る。

1642～1654は注口土器である。1642～1645は正面突起の下に注口をもち、突起と注口部がブリッジ状に繋がる。1642・1643・1646の突起端面は、逆S字を描くように円形刺突と沈線を入れる。1647は胴部がくの字状に屈曲する器形で、外面上半部に沈線文を入れる。器壁が5mm弱と非常に薄いつくりである。注口部分は残存しない。1648～1654は注口部分のみが残存する。注口部分はいずれも無文で、1648・1650は付け根に沈線を巡らせる。1653の付け根には、胴部に繋がる文様とみられる沈線の一部がわずかに残る。1649の注口部内面には、棒状具を差し込んで内面の粘土を撫でつけたような跡がみられる。1651の注口部内面には、棒状具を数回通したような跡が明瞭に残される。

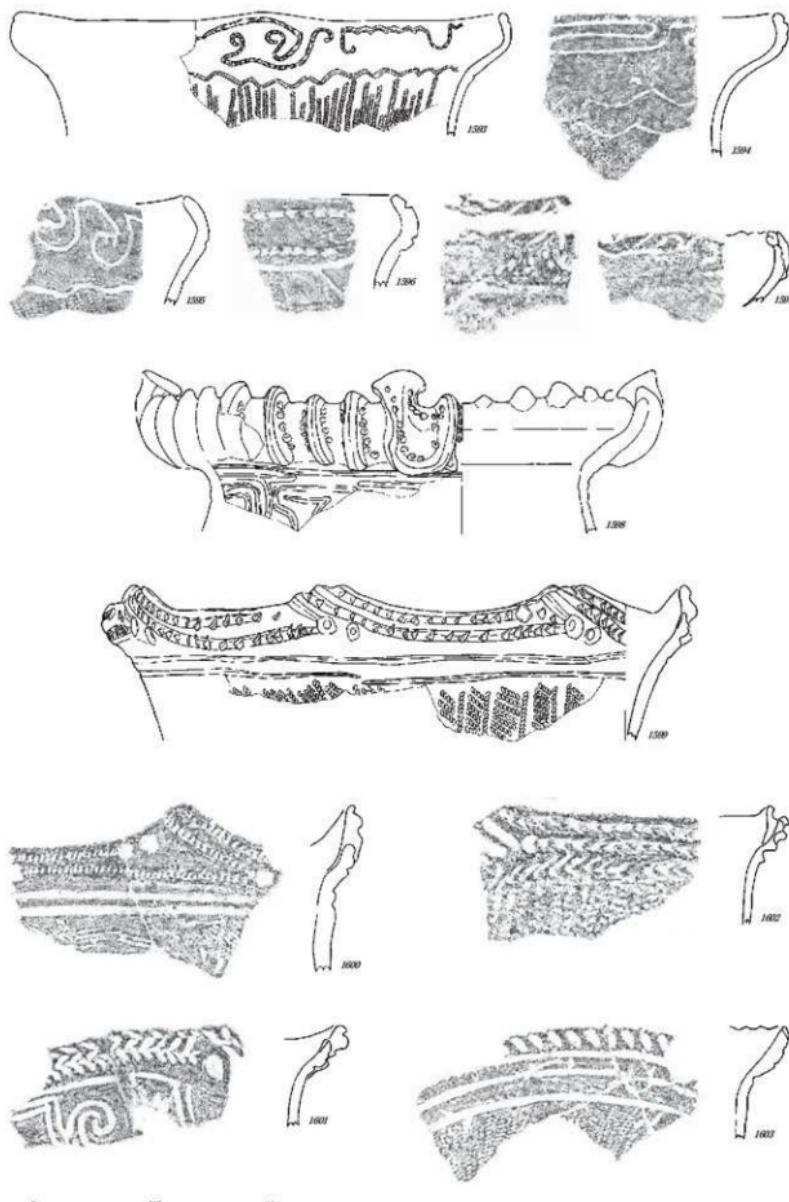
1655は深鉢の口縁部につく大型の突起である。斜め上方を向く端面と外面側の2面に、沈線で渦巻文を深く描く。内面側にも沈線が続く。

1656は釣手土器である。帯状の釣手部で、天井は丸く開口する。釣り手部の両肩にブリッジをもち、渦巻沈線文を入れる。

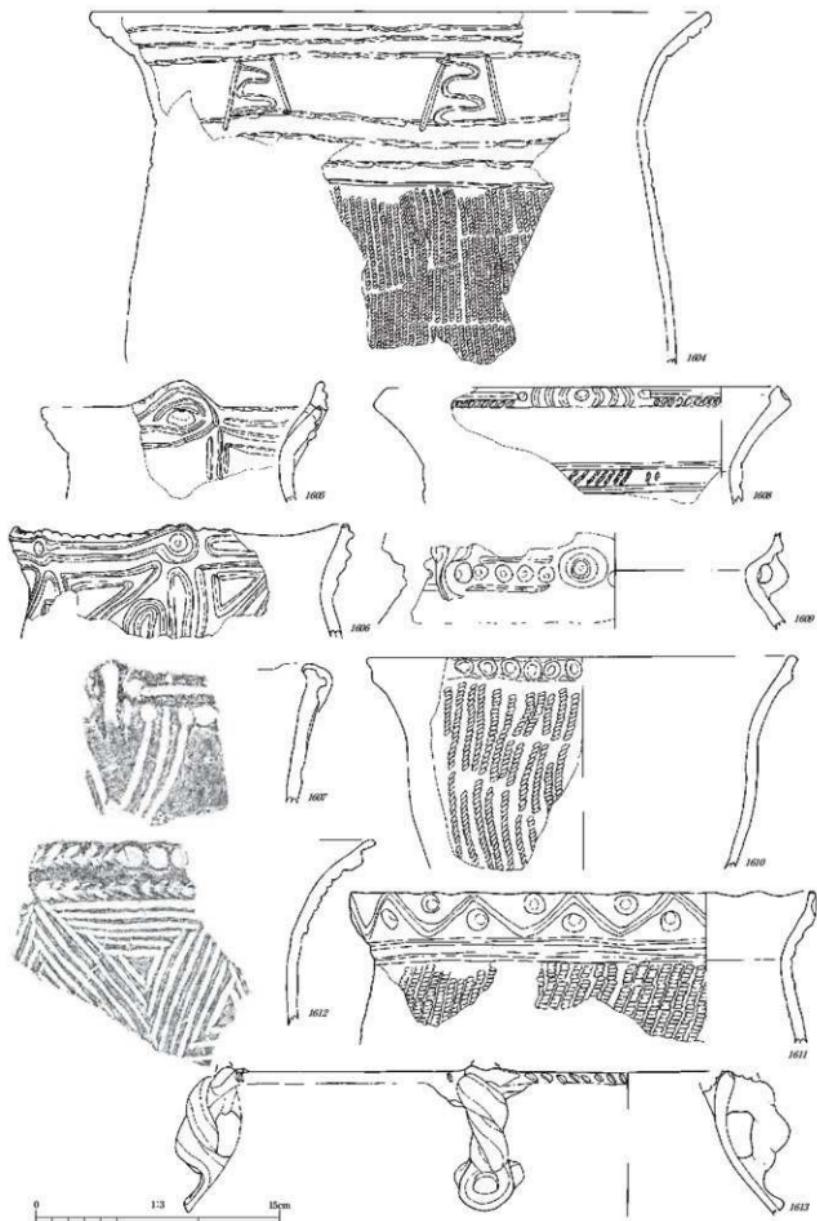
1660～1682は中期から後期の深鉢底部に残る敷物圧痕をまとめたものである<sup>225</sup>。網代圧痕（1660～1669）、平行葉脈圧痕（1670・1671）、スダレ状圧痕（1672～1682）がある。網代圧痕は、1本超え1本潜り1本送り（1660～1662）、2本超え1本潜り1本送り（1663）、2本超え2本潜り1本送り（1664～1669）である。1661は素材につる状のものを用いている。1662は縦の材が2本1組である。1668・1669は形に丸みのある素材を用いており、1669は縦と横の材が2本1組となっている。平行葉脈圧痕はいずれも複数枚の葉を用いており、1670に用いた葉の幅は5～10cmと推測される。スダレ状圧痕のうち、1680・1682は圧痕が二重となっている。

#### b 堀之内式（1657～1659、第186図、図版115）

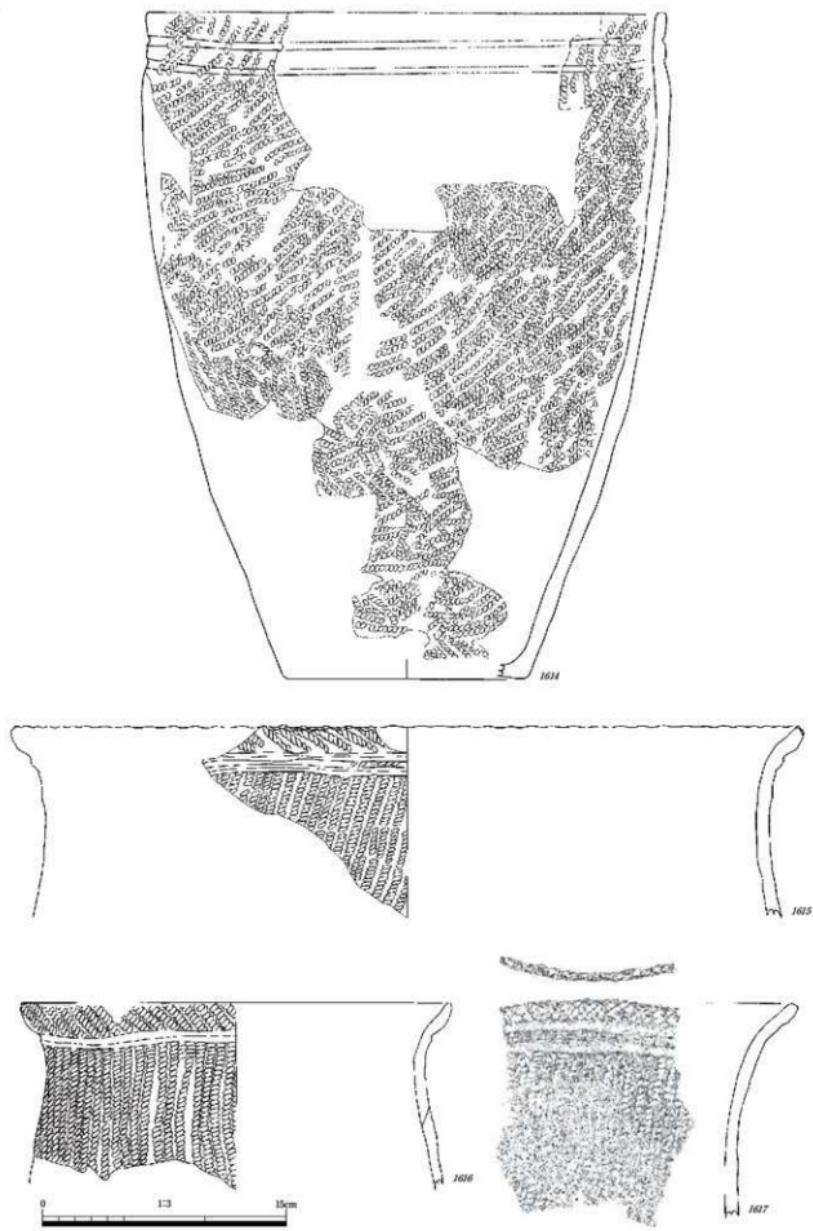
関東地方を中心に分布し、後期前半に位置付けられる。1657・1658は頸部に括れのある鉢である。1657は頸部に刻みのある隆線を2条巡らせ、正面にブリッジをもつ。胴部には沈線文と細かい縄文を施す、1658は緩やかな波状口縁の正面に1孔をもつ。口縁部と頸部に刻みのある隆線を巡らせ、正面で工字状につなぐ。胴部には末端刺突のある沈線で縦横に文様を描き、縄文を充填する。外底面には敷物圧痕が薄く残る。1659は頸部が僅かに屈曲する深鉢である。沈線で、横位、斜位、渦巻文等を描く。



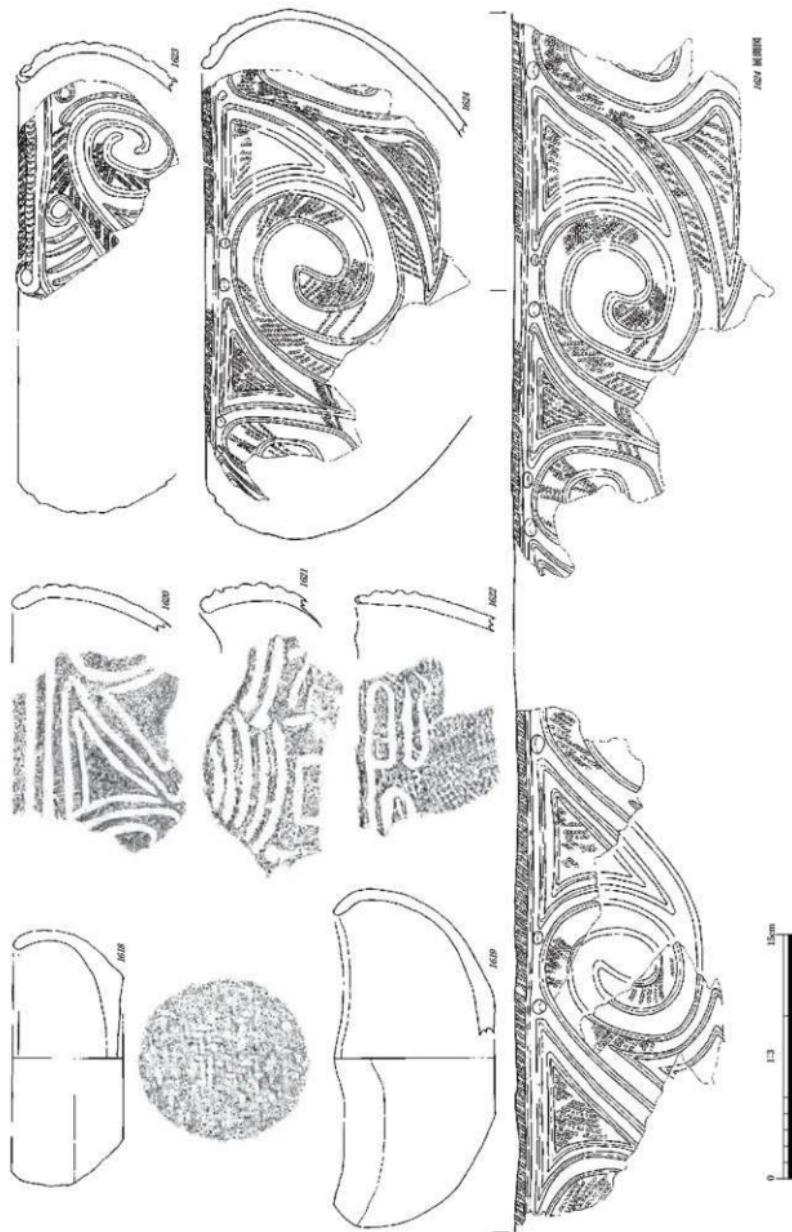
第180図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 前田式 気屋式



第181図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 前田式 気屋式



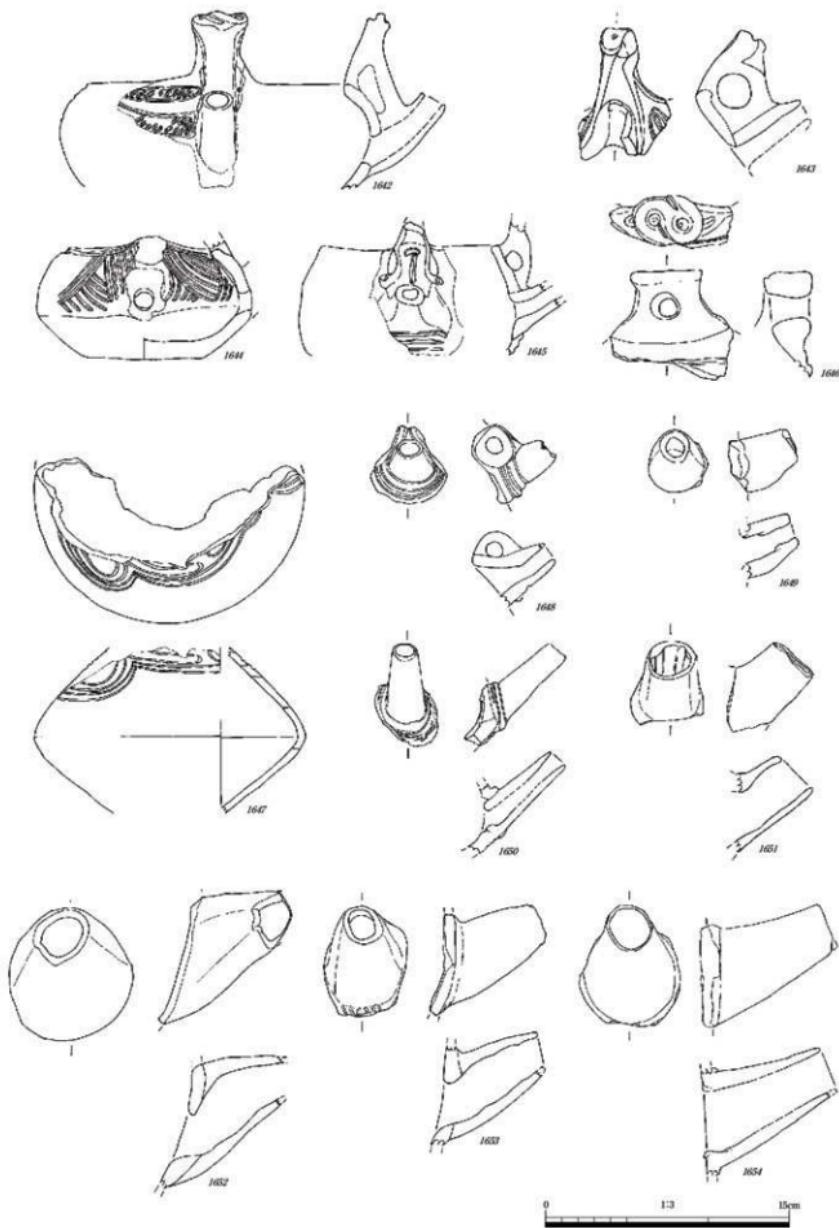
第182図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 気屋式



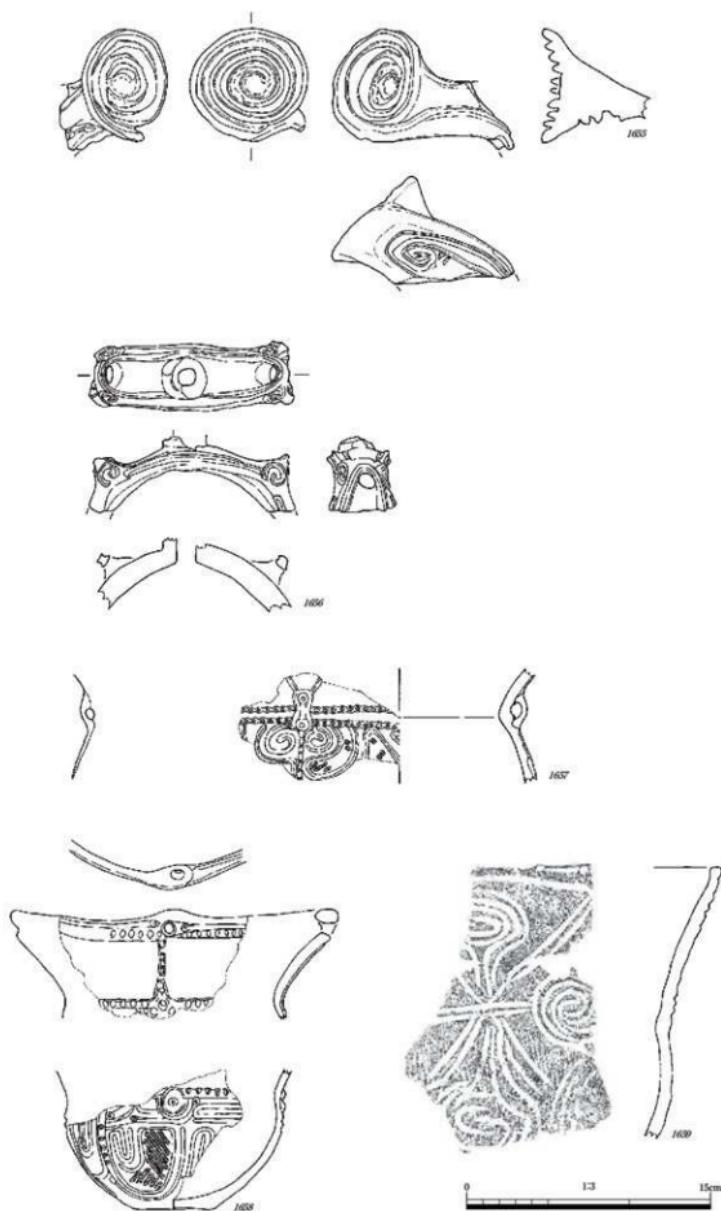
第183図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 気屋式



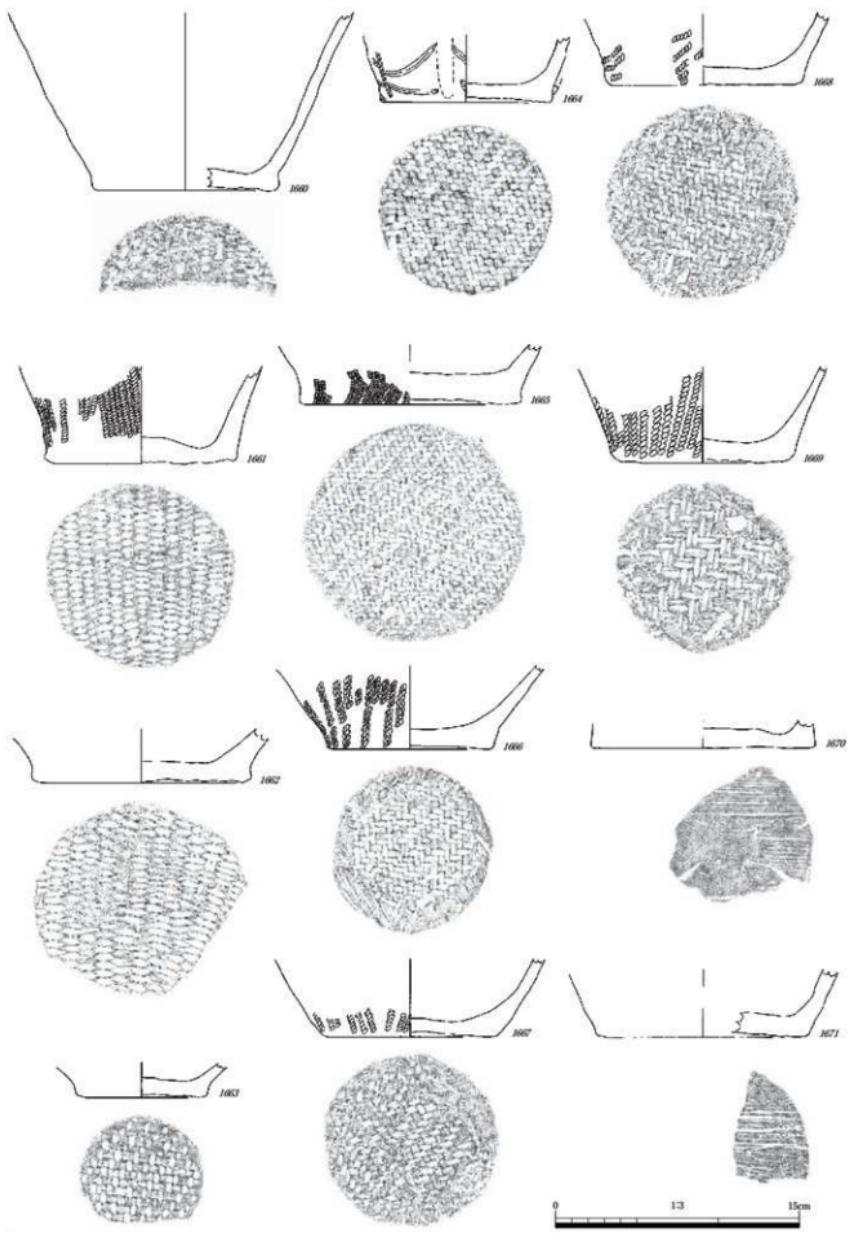
第184図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 前田式 気屋式



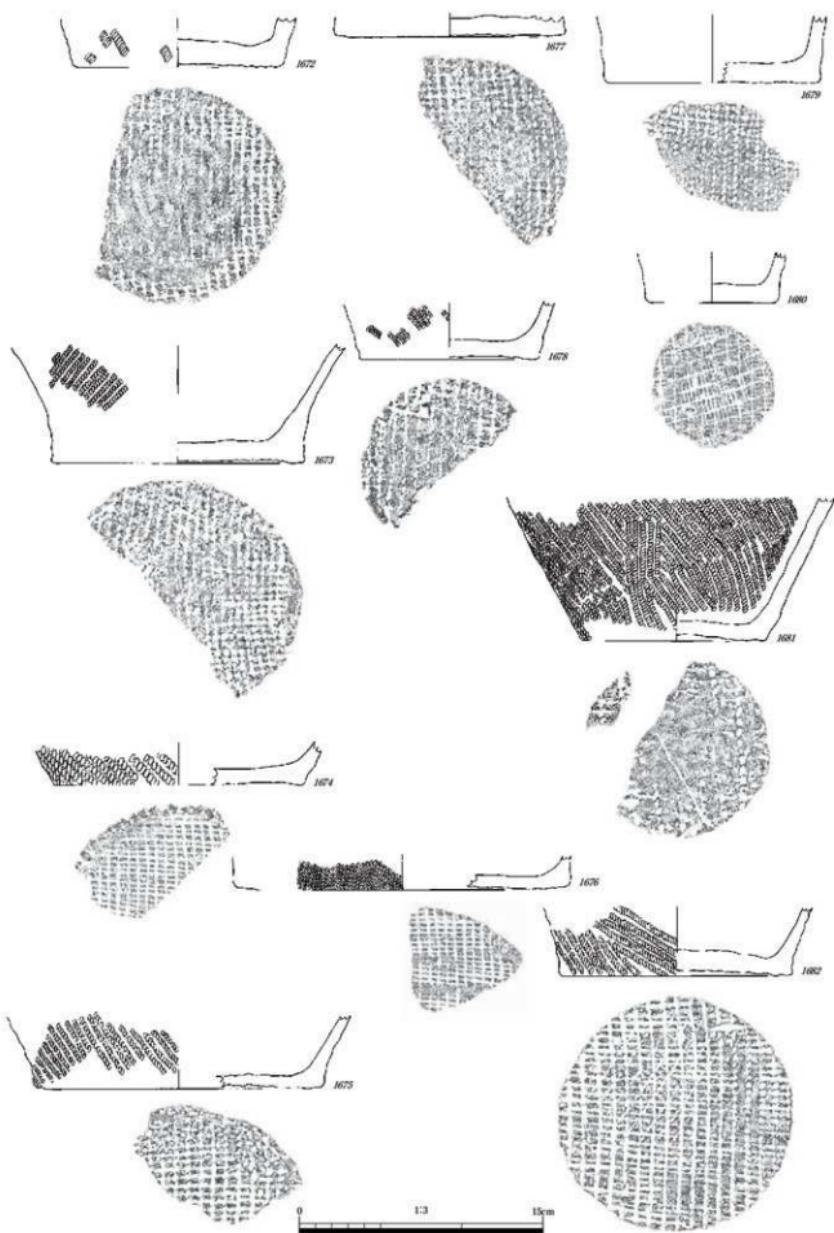
第185図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 気屋式



第186図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 気屋式 堀之内式



第187図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 中期～後期



第186図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 中期～後期

## (3) 土製品(1683~1885, 第189~195図, 図版135~140)

土偶(1683~1701) 早期末~前期(1683~1686), 中期中葉(1687~1692・1701), 後期前葉(1693~1700)と考えられる時期の土偶が出土した<sup>226</sup>。1683・1684は胎土がよく似る。1683は頭部に向かって厚みが増し, 腹から肩へ向かって穿孔し貫通する。胎土に纖維は含まないが, 肩の部分に植物の茎状の圧痕が残る。1685は板状の粘土を2枚貼り合わせたつくりである。腹部と背部に細く鋭い沈線文を入れる。1686は胸を反らせており, 胸体内を縱に孔が貫く。

1687は焼成が良好で摩滅が少ない。体上半部から左腕にかけての範囲が残存し, 直線的な沈線文を入れる。沈線内にはベンガラが残る。1688は顔部と後頭部が平らな円形で, 鼓状に繋ぐ。顔は眉に盛り上がりのある表現である。1689は把手に似た形状の顔部である。全体に摩滅するが, 刺突による目と口の表現がみられる。首部には木芯痕が残る。1690は高さ6.9cmを測る完形品である。乳房は剥離するが, 本体に割れはない。頭部に当たる部位は背側に引き延ばされて三角形状となる。1691は足から胴部にかけての破片で, 中央に貫通孔がある。1692は無文であるが全面を丁寧に磨いている。1691・1692は自立可能である。1701は円筒状の土製品の一部で, 中空土偶の体下部から脚にかけての左足側面と思われる。外面に半截竹管文を施しており, 僅かにベンガラの付着が認められる。背面の大きく剥離している部分に向かって隆起しており, 尻の表現と推測できる。富山県婦負郡細入村片掛遺跡にみられるような大型の土偶<sup>227</sup>であった可能性が高い。

1693~1699は白みがかった淡褐色を呈し, 風化したようなボソボソした質感で, 串田新式~氣屋式土器の胎土に類似するものである。1693・1694は首を伸ばして顔を前に突き出したような形状の頭部である。眉と鼻を張り出させ, 目と口は刺突で表現する。1693の左目は深い刺突, 右目は浅い刻み状となっており, 左右非対称である。1694の頬の縱沈線は入れ墨の表現であろうか。1695~1697は体上半部で, いずれも背中に軽い反りがある。1695・1696の肩から胸にかけて施される円形連続刺突施文は, 富山県福野町安居五百歩遺跡出土土偶に類例がある<sup>228</sup>。1698は体下半部で, 腹部と背部に深い沈線を入れる。体部に反りはなく, 逆V字に大きく開く足がつくが, 自立はしない。北陸には類例がなく, 他地域の影響を受けたと考えられる。1699・1700は足のない体下半部の表現である。前面に正中線を表すような沈線を入れ, 下中央には円形突起を貼り付ける。裏面に渦巻沈線文を施す。

イルカ形(1702) 長さ11.2cm, 幅3.5cmを測る完形品である。頭と尾のみを表現した流線形で, マイルカを模したものとされる<sup>229</sup>。全面ナデ調整で, 一部に指頭圧痕が残る。頭部は先端を指で摘み出して嘴を表現する。尾部は横位の三角形状で, 中央を凹ませる。盛り上がりのある背側を中心にひび割れがみられる。胎土は精良で, 骨針と微細な雲母が混じる。

耳飾り(1703~1706) 1703~1705は耳栓型の耳飾りである。1703はキノコ形を呈し, 頭頂部を欠く。漆塗膜分析の結果, 全面を丁寧に磨いた後, 赤色(ベンガラ)漆を塗っていることが判った。漆塗膜の放射性炭素年代測定(AAMS法)結果は $4,170 \pm 30 \text{yrBP}$ であり, 中期後葉の範囲に収まる年代であった。X線写真を撮影して内部を確認したところ, 頭部は内側に向かって丸く抉れていた。この部分に別素材をはめ込み, 耳栓の装飾としていた可能性が考えられる。1704は鼓型, 1705は中央に孔があく円盤型である。1705は欠損部が多いが, 表面にはベンガラが残る。1706は块状耳飾である。摩滅しているが全面磨いていることが判る。断面は三角形状で内側に向かって薄くなる。

三角墳形(1707) 大きく欠損するが, 3面が残存する。沈線と円形刺突を施す。後期前葉。

その他(1708~1711) 1708は円筒形の土製品で, 全面ナデ調整である。上方に向かってやや太くなっている, 俵形になるものであろうか。1709は手づくねの土製品である。長さ5.5cm, 幅5.0cm, 高

<sup>226</sup> 上田の年代範囲について、神野孝典氏、酒井英徳氏よりご教示いただいた。  
<sup>227</sup> 早川吉作、1996「桃平史跡出土・小舟形・神保道」1992「北潟の土偶」『国文化財化民俗博物館研究報告』第22集、主稿とその備考 国立文化財民俗博物館  
<sup>228</sup> 福野町教育委員会、1990「富山県福野町安居五百歩遺跡」

<sup>229</sup> 可田明一、2009「『イヌカ形土製品』『紀豪・富山考古学研究』第12号」財团法人富山県文化振興財団

さ4.9cmを測る。指頭で粘土帯を連続して摘み、フリルの様に細かいヒダを2段作り出す。胎土は石英、雲母等を含むもので、中期中葉～後葉の縄文土器の胎土に似る。ほぼ完形であるが、何を模したものは不明である。1710・1711は焼粘土塊である。1710は手づくねの小さな浅い土器を片手で握り潰したと思われる形状で、三指の指頭圧痕を残す。

**土器片錐（1712～1801）** 縄文土器の破片を打ち欠いて、梢円形、もしくは角の丸い長方形に整形し、長軸両端に紐掛けのための切り込みを入れたものである。切り込みは、刻みを擦り込むものと、打ち欠くもの、補修孔を利用したと考えられるものがある。素材となった縄文土器は、早期末葉～前期初頭（1712～1716）、中期～後期前葉（1717～1801）の時期のものがある。

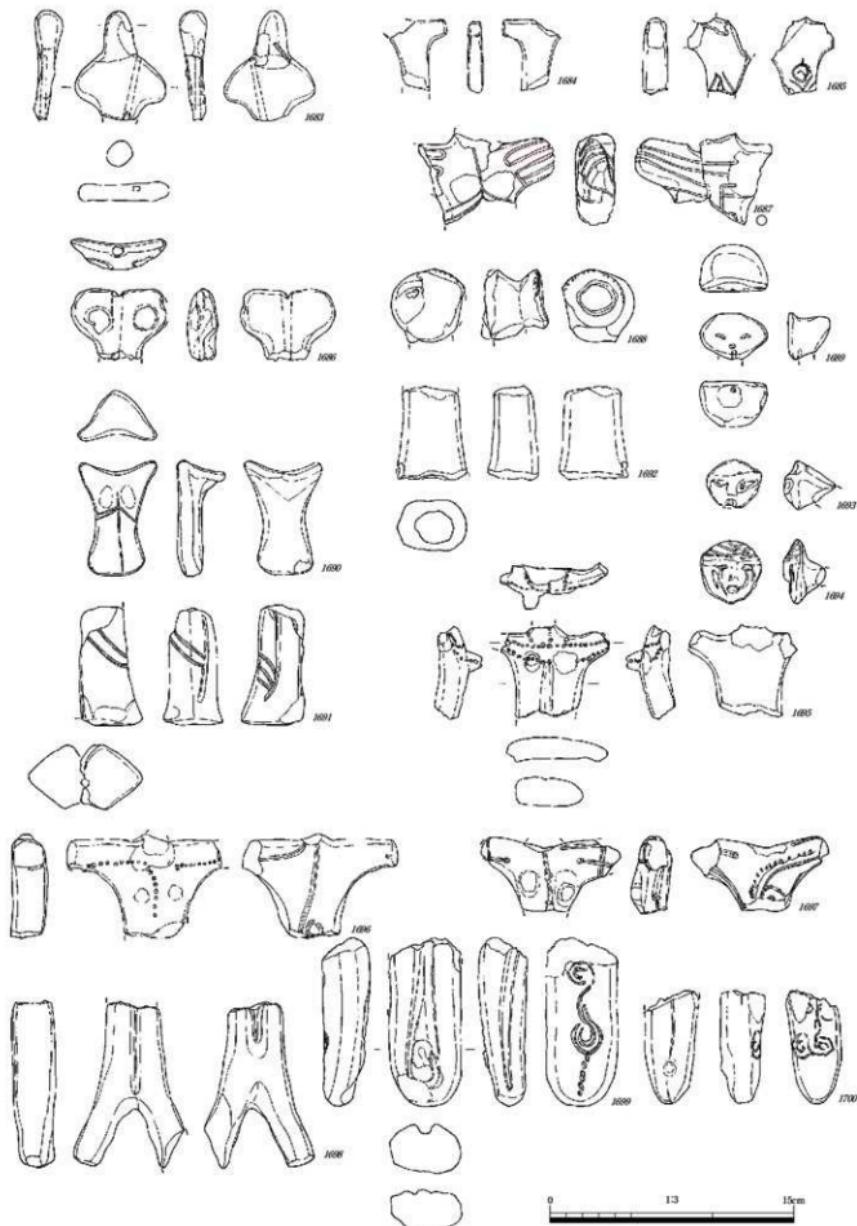
1712～1716は佐波・極楽寺式の深鉢を利用したものである。器壁に厚みがあるが、胎土に織維を含むため、若干の軽さを感じる。外面に2段の縄文があり、内面は1715が縄文、他がナデや指頭圧痕による調整である。切り込みは刻みを擦り込んでつくり出すものが多い。1715の切り込み部分は上下とも摩耗する。

1717～1760は外面に縄文があるものである。中期～後期前葉の粗製深鉢胴部片を利用したものと思われる。1723は第1種結束羽状縄文、1755～1760はR L R複節縄文、他は2段の縄文である。2段の縄文の中には、1段が多条となるもの（1720・1724・1731・1733・1736・1738～1740・1743・1748・1751）もある。いずれも硬質な焼成で、器壁はやや薄く、内面は削りに似た一方向のナデや磨きにより平滑に調整される。1719には縦に縫痕が残る。1734は底部近くの胴部片を利用したため湾曲が大きい。1761～1768は外面に貝殻条痕があるものである。串田新式を中心とする時期の粗製深鉢を利用したもので、内面は削りに似たナデ調整である。1761は上下を大きく打ち欠いているが、中央に3～4mmの幅で縫痕と思われる摩耗の跡が残る。1769は外面に単軸絡条体第1類のRの条がみられる。中期前葉か。1770～1772は外面無文のもので、上下端に幅2mmの縫痕が残る。1773～1796は外面に半截竹管文や沈線文があるものである。串田新式を中心とし、一部に古府式、氣屋式がみられる。深鉢の口縁部を利用するもの（1773・1774・1776・1781・1782・1784・1786・1787・1790～1792・1795）が多くみられる傾向にある。このほか、1785は台付鉢の破片、他は深鉢胴部を利用したものと考えられる。1775の下側の切り込みおよび、1786の下側の切り込みは半円状となっており、補修孔を利用した紐掛けと思われる。1797～1801は深鉢の底部破片を利用したもので、スダレ状圧痕が残る。

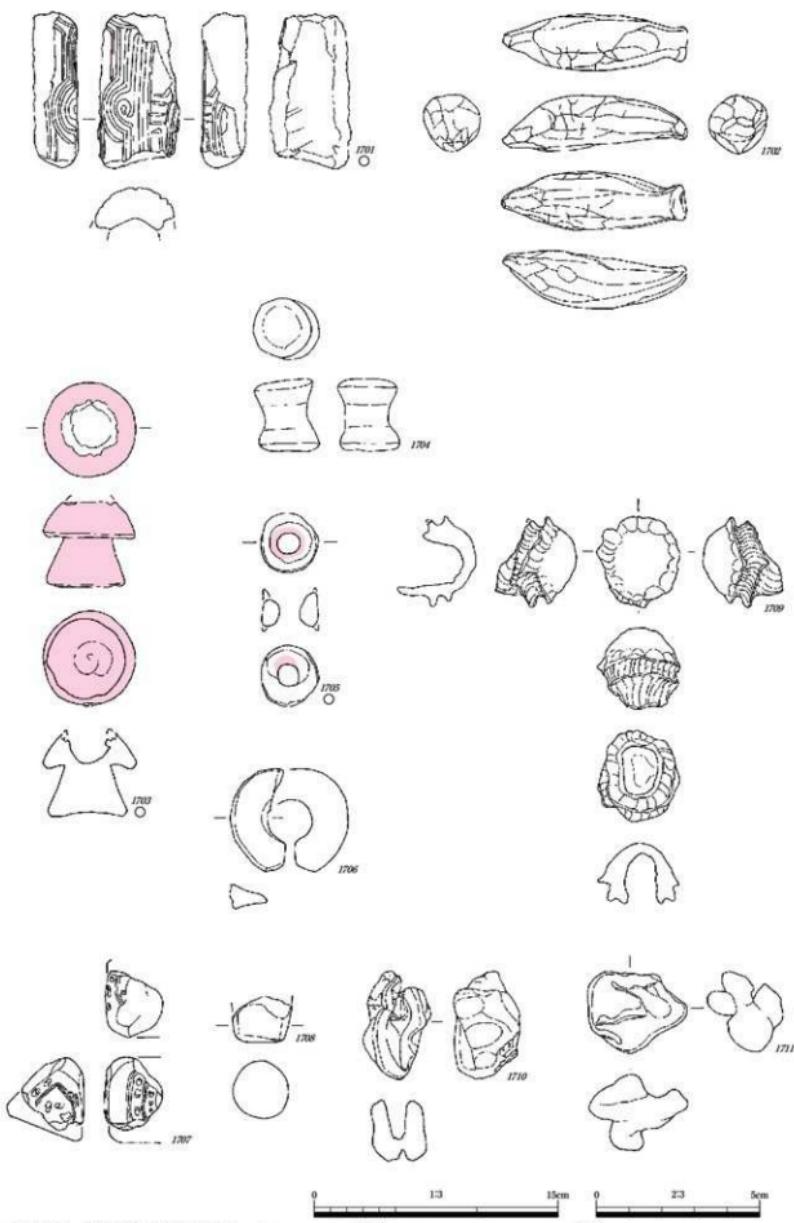
**土製円盤（1802～1885）** 縄文土器の破片の周囲を打ち欠いて、円形に整形したものである。時期は、早期末葉～前期初頭（1802～1839）、前期か（1862）、中期～後期前葉（1840～1861・1863～1885）がある。摩滅するものが多いが、胎土や外面の文様、内面調整の特徴から時期を推定した。また、孔のあくものがみられるが、1805はドングリ等木の実の抜け穴、1811・1832・1851・1855・1857は補修孔である。中央に孔がくるものもあり、そうしたものは意識的に配置したのであろう。

1802～1839は佐波・極楽寺式の深鉢を利用したものである。外面文様には2段の縄文の他、羽状縄文（1805・1808・1825）、貝殻条痕（1802・1817・1834）、短沈線文（1806）、刺突文（1810）、無文（1819・1820・1830）がある。1820は平底の底部片、他は胴部片と思われる。

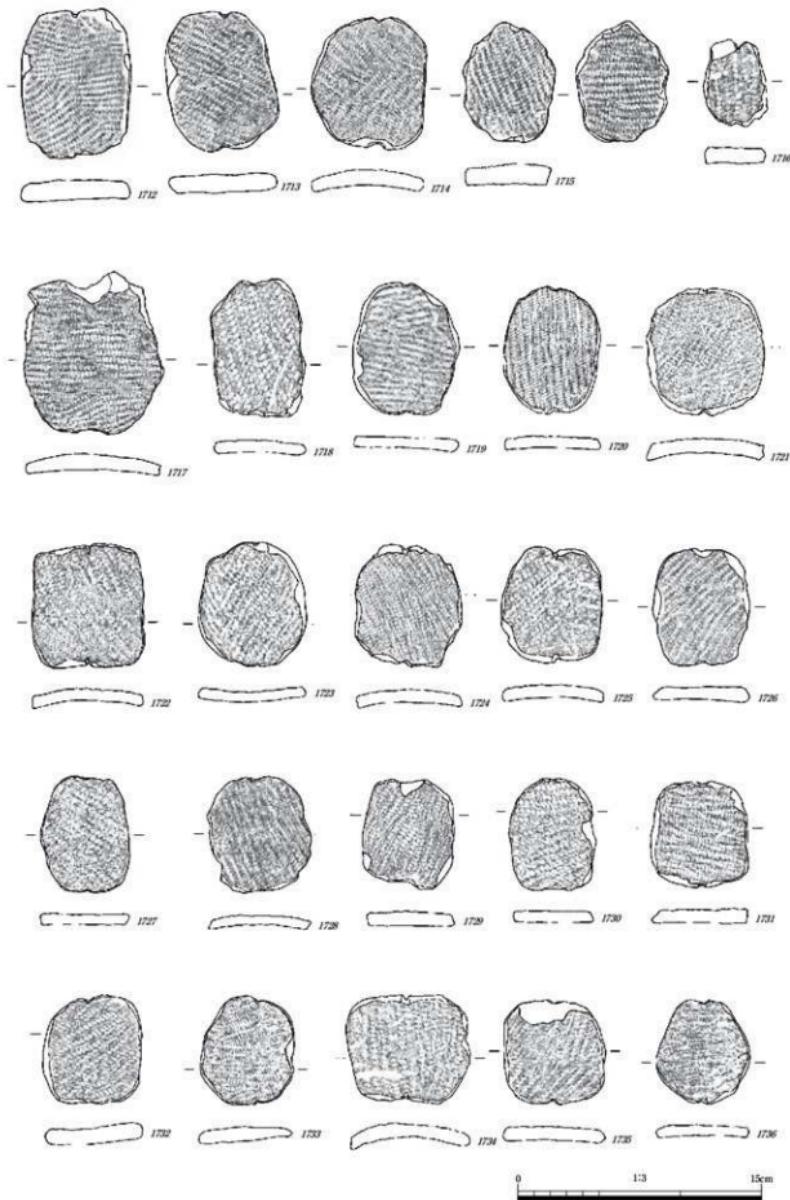
1840～1861・1863～1885は古府式～氣屋式を中心とするものである。第1種結束羽状縄文を施す1862、単軸絡条体第1類を施す1859は前期～中期前葉頃に遡るようである。深鉢などの胴部片を利用するものが多く、外面には縄文のほか、半隆起線文（1840・1845・1846）、貝殻腹縁文（1867）、沈線文（1843・1848・1850・1865・1867・1868・1874）、貝殻条痕（1849・1857・1875）がある。1877は内外面を磨く浅鉢、1842・1844・1852・1856・1858・1861は深鉢の底部破片で、1844・1856にはスダレ状圧痕が残る。



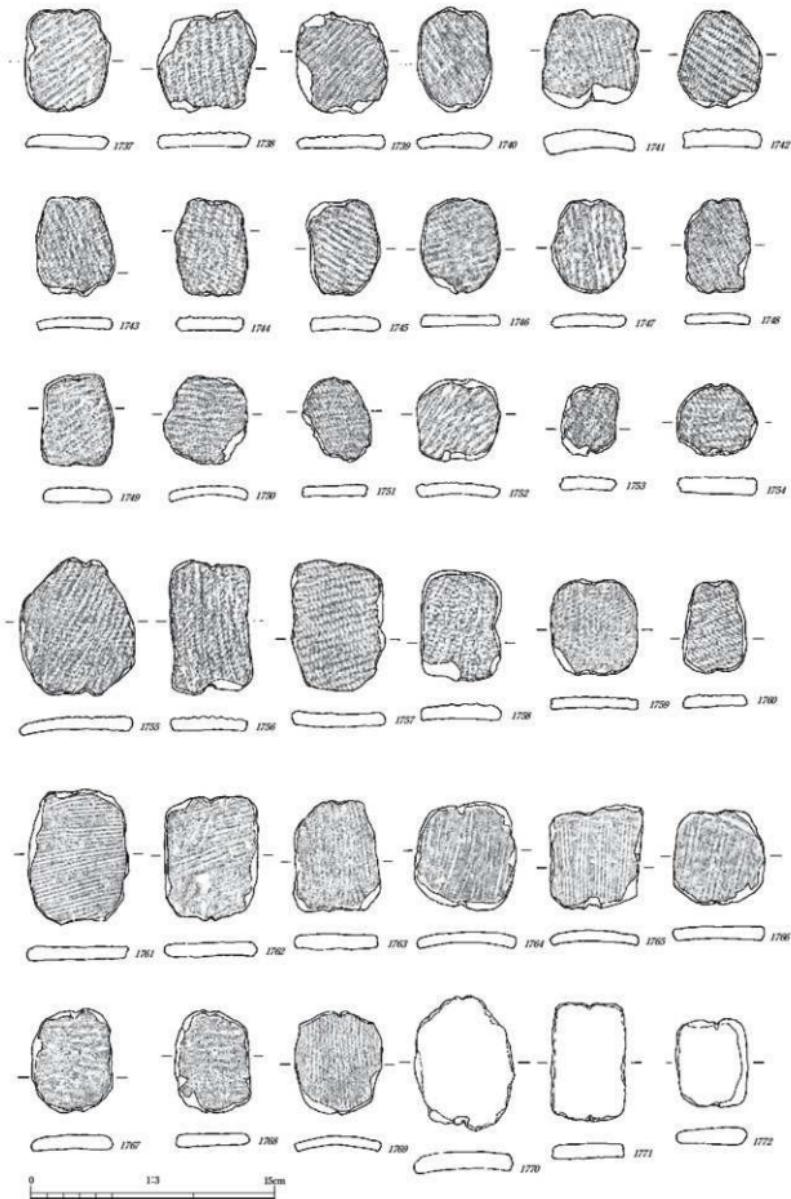
第189図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 土製品



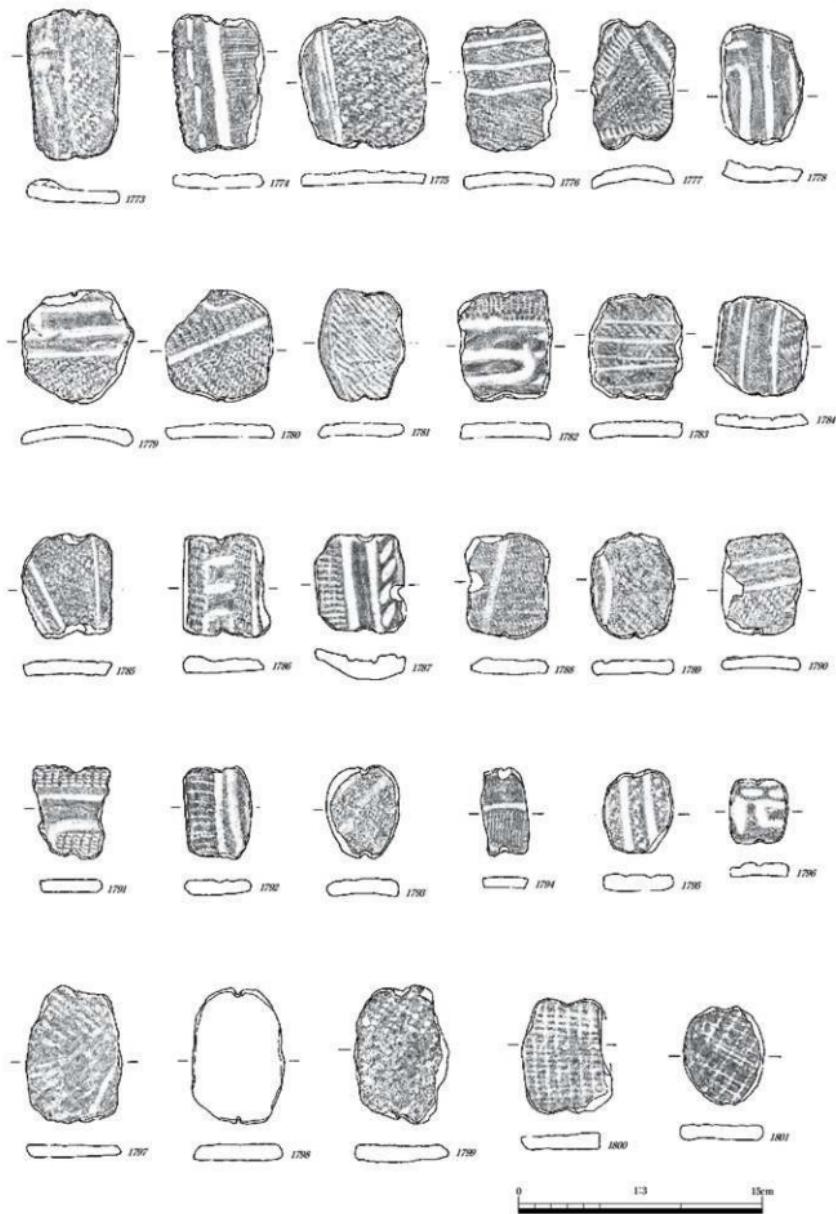
第190図 純文時代遺物実測図 (1703~1706 2/3, 1701・1702・1707~1711 1/3)  
SD1 土製品



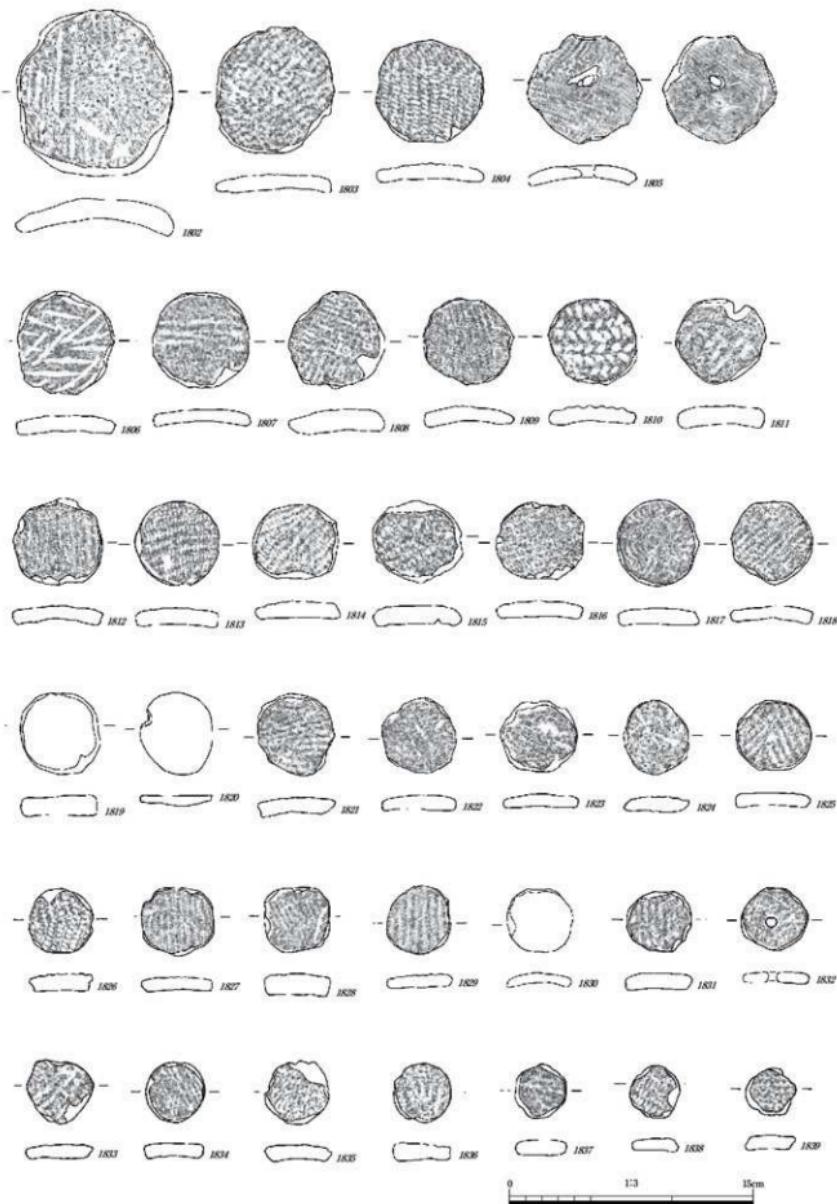
第191図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 土製品



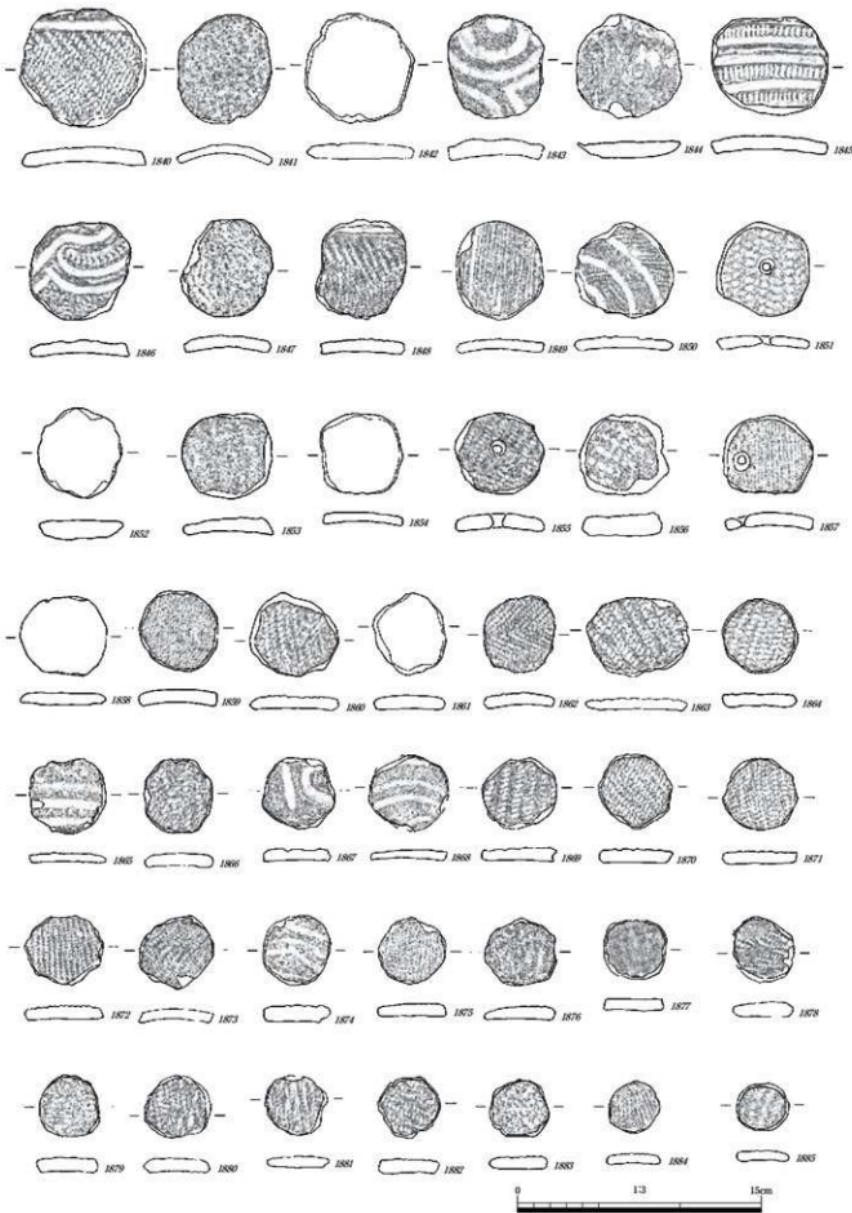
第192図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 土製品



第193図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 土製品



第194図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 土製品



第195図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 土製品

## (4) 木製品 (1886~1908, 第196~199図, 国版8~10・18・141・142)

1号谷下層から、浅鉢、飾り弓、腕輪、堅櫛などの木胎漆器のほか、刺突具、丸木舟等が出土した。これらのうち一部を選出して放射性炭素年代測定(AMS法)を行い、a・b・c断面付近の下層から出土した遺物については、中期後葉頃に一致する結果を得た。h断面付近から出土した堅櫛のみ早期末頃に遡る時期の製品である。また木胎漆器については、漆塗膜分析と赤外分光分析を行った。

## 浅鉢類 (1886~1897) b断面付近 (X127~130Y59~64列) の下層から出土した。

1886は総赤色漆の浅鉢である。刺突具(1904)や獸骨等とともに出土し、その状況を第19図に示す。木胎部分は変形しているが、元来円形で皿状に浅く広がる器形であったと思われ、内底面および外面の底部と体部の境に段をつくり巡らせる。口縁部は欠損する。漆塗膜分析の結果、内面は炭粉漆下地の上に赤色(ベンガラ)漆を2回塗り重ね、外面は炭粉漆下地の上に赤色(ベンガラ)漆を1回塗っていることが判った。外底面には突起状のものがみられるが遺存状態が悪い。突起本来の形状が、装飾か、把手か、あるいは脚であったのかは不明である。1887は内面に漆と赤色(ベンガラ)漆を塗る。木胎部分が歪んでおり、器形は不明である。外面が露胎であることから浅鉢と思われる。1888~1890は総赤色漆の浅鉢である。1888は体部が内湾し、口縁端部を面取りする。被熱のため特に内面が炭化するが、口径は約25cm程度と推測される。漆塗膜分析の結果、内外面とも炭粉漆下地の上に赤色(ベンガラ)漆を塗っていることが判った。1889・1890は漆の塗装工程から同一個体と判断される。いずれも木胎に漆を塗り、内面には赤色(ベンガラ)漆を3層、漆を1層、更に赤色(ベンガラ)漆を1層塗り重ねるものである。1891~1893は把手がつく鉢である。漆は1891・1892が総赤色、1893が内面赤色、外面黒色系である。把手はいずれも1本から作り出す。1894は小型の浅鉢である。外面に未貫通の孔がある。1895~1897は総赤色漆の鉢である。1895は被熱して木胎が炭化し、漆の残存も良くない。1896は口径10~12cmの小型品で、口縁部外面に段をもつ。1891・1892・1894~1896は漆塗膜分析の結果、下地として漆を塗った上から赤色(ベンガラ)漆を塗り重ねていることが判った。1893も内面は同様であるが、外面は漆層のみとする。1897は総赤色漆の鉢で、炭粉漆下地の上に赤色(ベンガラ)漆を塗り重ねるが、内外面とも赤色漆の塗りが薄く、下地の黒色が見えている。鉢や浅鉢の樹種はトチノキ(1886・1888・1890・1891・1897)、ケヤキ(1887・1893~1896)が主で、トネリコ属が1点(1889)である。

1886・1887・1896については漆塗膜を採取して放射性炭素年代測定を実施しており、1886が4,280±40yrBP (IAAA-80501), 1887が4,170±40yrBP (IAAA-80503), 1896が4,210±40yrBP (IAAA-80502)との結果を得ている。いずれも純文時代中期後葉(串田新式)の範囲に収まる測定結果である。

飾り弓 (1898) b断面付近 (X132Y60列) の下層から出土した。全体に漆を塗り、両端部に赤色漆による文様を施した製品で、当初は弧状漆塗木製品と称していた<sup>230</sup>。芯材の木材について樹種同定、漆について蛍光X線分析、塗膜分析、放射性炭素年代測定、先端部付着物について赤外分光分析を行った(第V章第15節 漆弓の分析)。コナラ属のコルク組織を芯材として両端に向けて細く加工し、先端部は小さな有頭状とする。この芯材に0.6~1mm間隔で斜めの刻みを入れ、その上にヤマザクラやシラカンバのような平滑樹皮を1~5mmずつ重複させながらほぼ全面に巻き付ける。樹皮の巻き付けは先端から約2cmの所で段を作り出して収束させる。その後全面に漆を塗布するが下地ではなく、漆を2~3層塗り重ねる。両端部は漆を3層塗り重ねた上にベンガラを混ぜた赤色漆で文様を描く。文様は両端部でそれぞれ異なっており、残存が良好な一端には、3~4条1単位の直線を帶状に巡らせ、間

<sup>230</sup> 石川ゆずは 2005『上久津谷中屋遺跡出土の弧状漆塗木製品』『紀要 岩山考古学研究』第8号 財団法人岩山文化振興財团

に蕨手状・半弧状の曲線文を描く。もう一端には不明瞭ながら数条の帯状直線文とこれを繋ぐような直線文がみられる。赤の発色は、残存良好な一端は赤褐色系、もう一端は鮮やかな赤色であった。また状態は良くないが、中央部にも赤色漆の残存がみられる。放射性炭素年代測定の結果は $4,340 \pm 30$  yrBP (NUTA 2-10452) であり、先述の浅鉢類より若干古い値であるものの、縄文時代中期後葉（串田新式）の範囲に収まる結果である。

**腕輪 (1899-1900)** b 断面付近 (X131Y60列) の下層から出土した。総赤色漆塗りで、弧状に曲がり、外側中央に溝状の窪みがある。樹種はクリである。鉢などの把手とも思われるが、クリを器の素材として用いたものは当遺跡内ではみられないため、輪状の復原を考えて腕輪を想定した。1899-1900とも炭粉漆下地の上に漆、赤色（ベンガラ）漆を塗っているが、1899には更に地の粉漆下地、赤色（ベンガラ）漆2層を塗り重ねる。このことについて、分析者である四柳嘉章氏は、修復（後補）であるとの考えを示している（第V章第16節）。1900は被熱しているが、出土地点が同じで形態が似ることと漆の塗装工程に共通点がみられることから、1899と同一個体と考えられる。

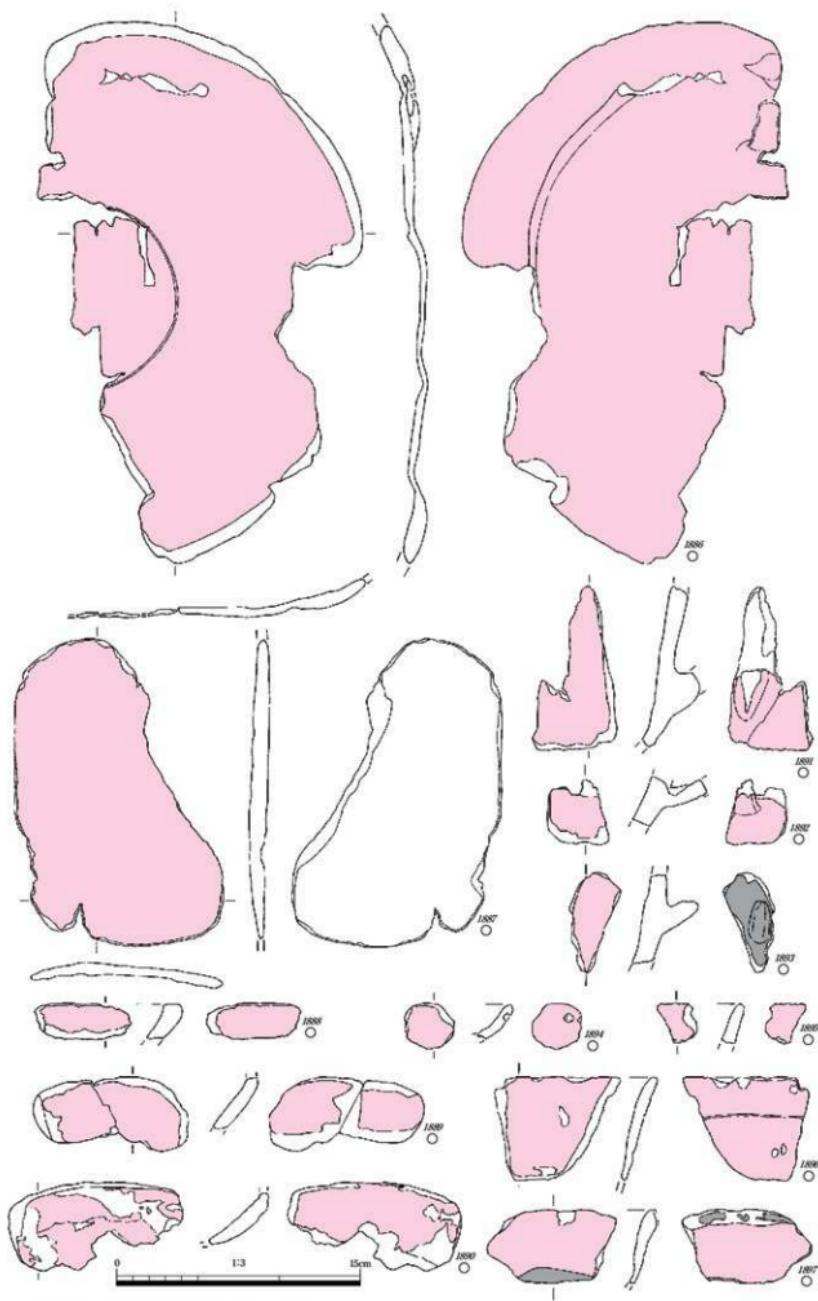
**樹皮 (1901)** e 断面西側 (X126Y60列) の下層から出土した。芯材に巻き付けていたと思われる樹皮である。幅約1cmのイネ科の樹皮を右上がりで丁寧に巻く。出土時は10巻以上残存していたが、芯材が失われていたため、非常に脆い状態であった。慎重に取り上げを行ったが、後に切断や割れ等が生じてしまい、結局前後のつながりが確認できた5巻部分のみを図化した。飾り弓（1898）も木胎に樹皮を巻き付けたつくりであることから、他にもこの製作方法を用いた製品があったと考えられる。

**堅櫛 (1902)** h 断面南側 (X121Y83列) の下層から出土した。総黒色系漆塗り結歯式堅櫛である。櫛歯は失われており、櫛歯の根本から頭部が残存する。櫛歯の樹種はサカキであり、これを丸棒状に加工し、13本を横に束ねて漆で固定する。結束材は植物性の纖維である。頭部両端に角状の突起をもち、黒色系漆を1~4層塗り重ねる。放射性炭素年代測定の結果は $6,630 \pm 40$  yrBP (IAAA-80518) であり、早期後葉に位置付けられる。

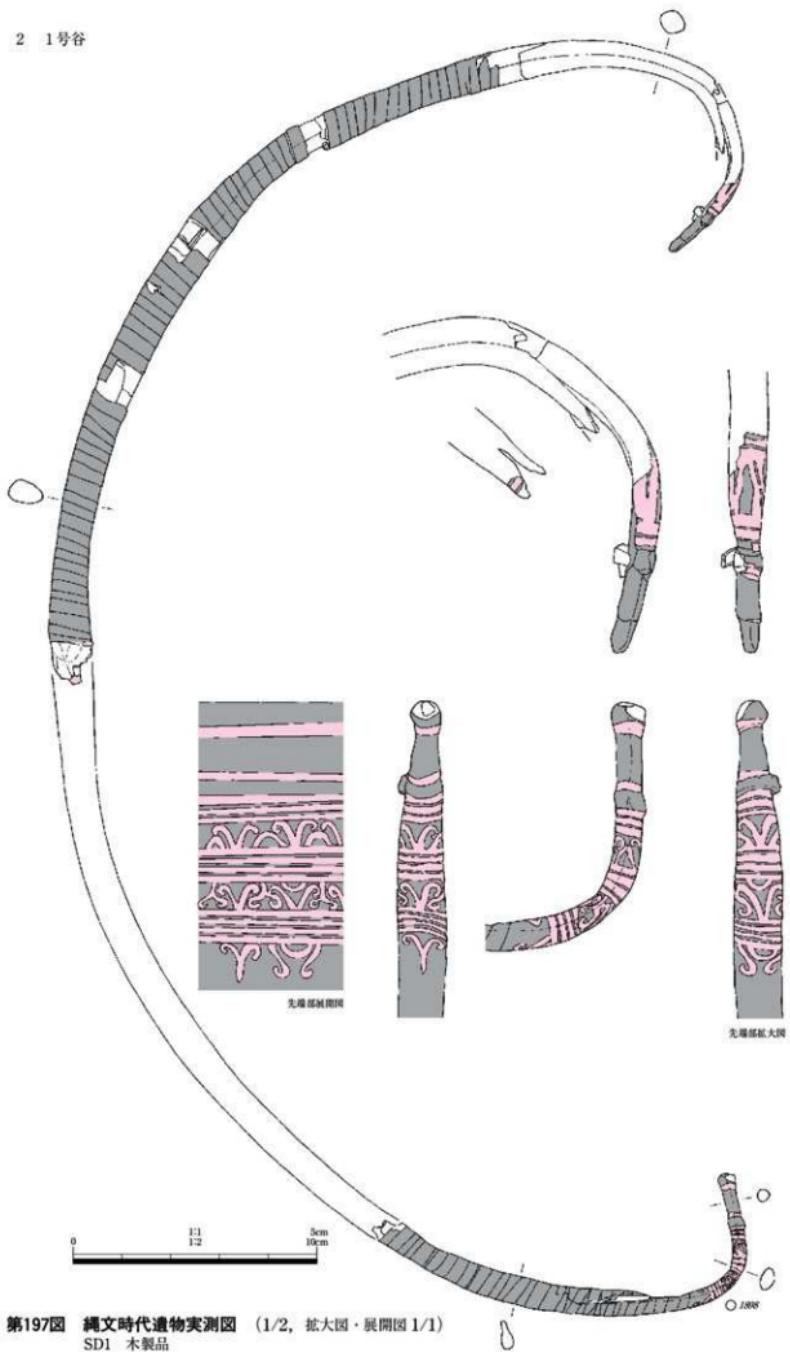
**柱 (1903)** クリの芯持丸木である。a・b 断面間 (X128Y64列) の下層から出土した。弥生時代～中世の集落が近辺にあり、集落建物の柱穴から類似の柱も出土していることより、こうした新しい時期に属する可能性もある。

**刺突具・棒材 (1904-1906)** 1904-1906はb 断面付近 (X128-129Y61列) の下層、1905はc・d 断面間 (X143Y64列) の上～中層から出土した。1904は木胎漆器の浅鉢（1886）や獸骨等と共に出土しており、第19図に出土状況を示す。1904-1906はスギ材を削り出し、断面円形に整形したもので、1904-1905は先端を鋭く削り出す。1905の放射性炭素年代測定の結果は $4,150 \pm 40$  yrBP (IAAA-80500) であり、縄文時代中期後葉（串田新式）の範囲に収まる結果であった。

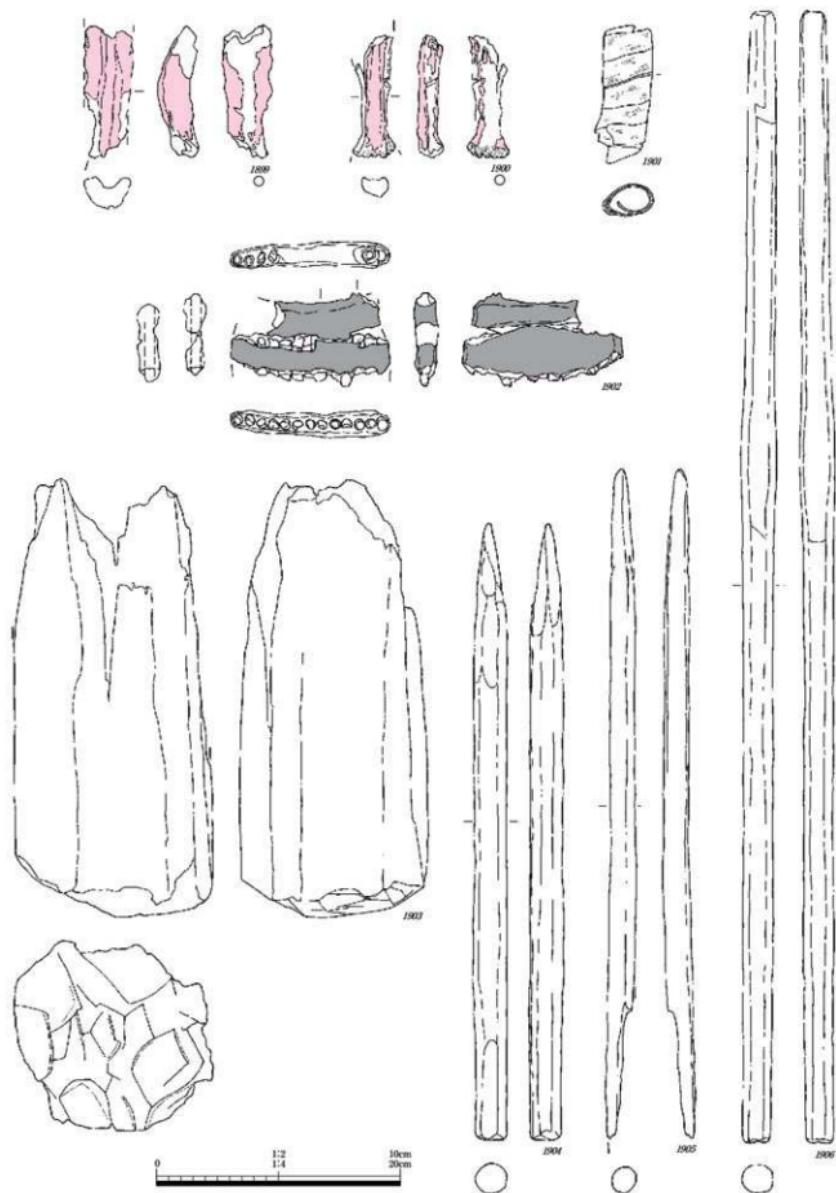
**丸木舟 (1907・1908)** 図示した2点は同一個体である。b 断面付近 (X130Y58列) の下層から、割れた断片がまとめて出土した。第19図に出土状況を示す。1907はスギ材の舟底板2点と舷側板3点が接合する。厚みは3~4cmと均一で、平らな舟底から約80°の角度で舷側が立ち上がる。断面の字状の、箱形の丸木舟となるようである。1908は舟底の断片で、最大厚約6cmを測る。外面の立ち上がりから、舟首と思われる。1907の放射性炭素年代測定の結果は $4,400 \pm 40$  yrBP (IAAA-80505) であった。先述の飾り弓や木胎漆器、木製品等よりも古い値であるが、ほぼ縄文時代中期後葉（串田新式）の範囲に収まる測定結果である。



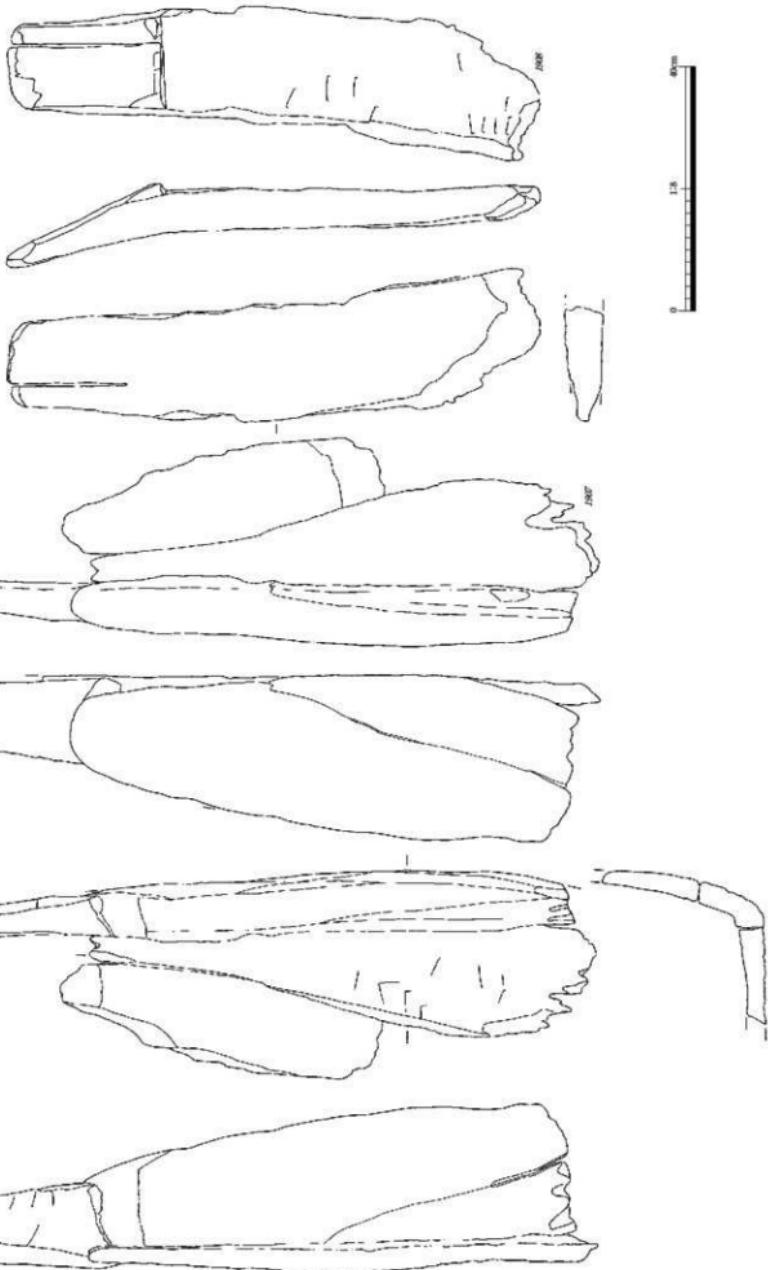
第196図 桶文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 木製品



第197図 縄文時代遺物実測図 (1/2, 拡大図・展開図 1/1)  
SD1 木製品



第196図 純文時代遺物実測図 (1899~1902 1/2, 1903~1906 1/4)  
SD1 木製品



第199図 縄文時代遺物実測図 (1/8)  
SD1 木製品

## (5) 石製品 (1909~2313, 第206~250図, 図版12・18・143・144・146~160・163~172)

1号谷から出土した石製品の点数は、台帳を作成したもので2,077点を数える。器種別の出土点数及び図示点数の内訳を第7表に示した。石製品については大きく27器種に分類したが、他の器種と用途を兼ねているものや転用品も多く、中には分類が困難なものもある。これらについては各項および観察表において詳述することとして、再検討に備えたい。1号谷から出土した石製品の特徴としては、石錐の出土点数が833点と非常に多いことが挙げられ、総点数の4割を占める。これに磨製石斧、敲石が次ぐ、各々の比率は1割程である。

石錐 (1909~1935) 60点出土しており、このうち完成品18点、未成品9点の計27点を図示する。石錐の型式分類は、山本正敏氏の分類<sup>228</sup>に基づき、①茎の有無、②基部の形状、③側縁の形状の順に行なった。無茎凹基式外湾型 (1909~1914), 無茎凹基式直線型 (1916~1917), 無茎凹基式内湾型 (1918), 無茎弱凹基式外湾型 (1919~1921), 無茎弱凹基式直線型 (1923~1924), 無茎平基式外湾型 (1925), 有茎柳葉式 (1926) である。1915は無茎凹基式であるが、基部の抉り込みが深く、逆V字状となる。

石錐の分類構成を第8表に示す。完成品39点のうち、無茎32点 (82.05%), 有茎1点 (2.56%), 不明6点となっており、無茎が大多数を占める。この傾向は1号谷に限らず、本遺跡全体の傾向のようである。無茎の中では凹基式が7割強を占め、次いで弱凹基式が2.5割となり (第8表比率2)。平基式は1点のみの出土である。側縁は外湾するものがいずれの型式においても多くみられる。完成品全体では、無茎凹基式外湾型が11点 (28.21%), 無茎凹基式直線型が8点 (20.51%), 無茎弱凹基式外湾型が4点 (10.26%) となっている。重量別の出土点数を第200図に示す。重さは最小0.31g、最大2.61gであるが、0.6~1.6gの範囲に含まれるものが多い。

石錐未成品は21点出土しており、そのうち9点を図示する。基部の加工の様子から、無茎凹基式 (1927~1928・1935), 無茎平基式 (1929), 有茎凸基式 (1930) と思われる。1935は長さ4.51cm、重さ6.71gを測る大型品である。

石錐の石材は、メノウ (1909~1911・1925), ガラス質安山岩 (1910~1913・1916~1917・1919~1921~1923・1926~1928・1932~1935), 流紋岩 (1912~1914・1929~1930), チャート (1915~1920・1931), 珪質頁岩 (1918~1924), 横山真脇石 (1927) である。横山真脇石は黒褐色半透明で玉髓質の、しばしば白色の斑が入る岩石である。能登半島北東端の珠洲市横山海岸西端に露頭が存在し、周辺の海岸に転礫がみられるとされるもので、石川県能都町真脇遺跡において、剥片石器の材料として多量に検出されている<sup>229</sup>。

石槍 (1936~1939) 5点出土しており、このうち完成品3点、未成品1点の計4点を図示する。いずれも欠損しているため、全体形は不明である。石材は全てガラス質安山岩である。1936は基部の欠損後、僅かに再加工する。1938は表裏の丁寧な加工で茎を作り出す。1939は石槍未成品である。縦長剥片を素材としており、裏面には一次剥離面を大きく残す。

石匙 (1940~1957) 22点出土しており、このうち完成品17点、未成品1点の計18点を図示する。1940~1949は横型石匙である。石材はガラス質安山岩 (1940~1942・1945~1949), 黄玉石 (1941~1948), 赤玉石 (1943~1946~1947), 黒曜石 (1944) である。1940~1942は整った三角形状を呈するもので、前期の北白川下層式段階に伴う典型的なものとされる。全て両刃であるが、1941は刃の中心がやや背面側にずれて片刃風になる。1943~1945は摘みを大きく作り出す。1943は素材剥片縁辺に押圧剥離を加え、片刃にする。黒曜石の1944は、素材剥片の鋭い縁辺をそのまま刃部とする。刃部には細かい刃口ぼれがみられる。蛍光X線による产地推定分析を行い、諏訪エアリ星ヶ台群の所産と比定

<sup>228</sup> 山本正敏 1990「1. 石器」『北陸百物語遺跡調査報告』朝日町編3、越入遺跡 石器篇「本文」富山県教育委員会  
<sup>229</sup> 高田秀樹・大室尚海・柳上正夫・古西里生・大庭正樹 2006「真脇遺跡出土の玉髓質石器とその産地」『研究紀要』第29号 財团法人特定文化財委員会叢書

されている。1945は両刃で、刃部のラインが丸みを帯びる。1946～1949は摘みの主軸と刃部が斜交するものである。1946は両刃で、刃部のラインが半円形を描く。1947・1948は素材剥片の縁辺に押圧剥離を施して片刃にする。1949は素材剥片の縁辺を刃部としており、刃こぼれする。

1950は摘みがなく、中期の勝坂式段階に伴い多く出土するものである。石材は珪質頁岩である。1951は銀杏形で、半円形の刃部は両刃である。石材はチャートである。1952は摘みを持っているが、下縁辺には刃部といえるほどの鋭さがない。粗製の石匙であろうか。石材はガラス質安山岩である。

1953～1956は縦型石匙である。石材は硬質頁岩（1953）、チャート（1954）、メノウ（1955）、赤玉石（1956）である。1953は縦長剥片を素材とする、細身で長身の石匙である。正面左側縁が鋭い片刃となっており、光沢のある使用痕が残る。1954は下縁辺を片刃、両側縁を両刃に加工する。1955は正面下端から右側縁にかけて片刃に加工する。1956は片刃で、正面右側縁の刃部には光沢があり、使用痕と思われる。

石匙未成品（1957）は摘みの加工途中で、刃部の加工はなされていない。石材はガラス質安山岩である。

打製石斧（1958～1982）84点出土しており、このうち完成品24点、未完成品1点の計25点を図示する。形態により、短冊形（1958～1974）、撥形（1975～1980）、分銅形（1981）に3分類し、更に側縁の形状により細分した。短冊形には、平行する側縁が直線的に延びるもの（1958～1969）、側縁は平行しているが基部に向かってすばまるもの（1970）、側縁が丸みを帯びるもの（1971～1974）がある。撥形には、側縁が直線的に延びるもの（1975～1977）、内湾するもの（1978～1980）がある。

多くは横長剥片を素材として、両側縁を中心で簡単な調整加工を施している。刃部は素材の鋭い縁辺をそのまま用いているものが多い。但し1971・1979は細長い円礫を素材としており、素材の形状を残す。両側縁は柄の装着のためつぶされているものが多くみられる（1958・1961・1963・1965・1967～1969・1974・1975・1978～1982）。1958は裏面中央に柄の装着痕を残す。1958・1963・1965・1976は刃部を中心に土擦痕がみられ、1969は裏面刃部に摩耗痕がある。1973は付着物により黒く変色する。

1号谷から出土した打製石斧全体の構成を第9表に示す。短冊形が52点（65.00%）、撥形が15点（18.75%）、分銅形が1点（1.25%）、破片のため不明なものが12点（15.00%）となっており、短冊形が大多数を占める。短冊形の中でも平行する側縁が直線的に延びるもののが7割を超える（第9表比率2）。打製石斧の長幅分布を第203図に、重量別点数を第201図に示す。完形品を中心に大きさをみていくと、最も多い短冊形では、長さ9.49～17.15cm（平均値12.99cm）、最大幅4.26～7.34cm（平均値5.41cm）のものが出土しており、長さ11～14cm、最大幅4～6cmあたりにピークがある。長幅比は2.5：1に集中する。厚さは2cm前後、重さは80～280g弱のものが多い。撥形では、長さ7.02～13.10cm（平均値9.61cm）、最大幅3.45～6.59cm（平均値5.35cm）のものがあり、長幅比は2：1に集中する。短冊形に比べて小型のものが多いため、厚さは1～2cm、重さは40～150gの範囲に収まるものが多い。石材は中粒凝灰岩（1958）、細粒凝灰岩（1976・1978）、粗粒凝灰岩（1981）、変質閃緑斑岩（1959・1962・1969）、変質安山岩（1960・1961・1963～1966・1975）、安山岩（1974）、砂岩（1967・1968・1979・1980）、碧玉（1970）、頁岩（1971）、ガラス質安山岩（1972）、粘板岩（1973）、蛇紋岩（1977）である。

打製石斧未完成品（1982）は、横長剥片の両側辺に調整を加える。形が整っていないため未完成とした。基部が欠損する。石材は石英斑岩である。

礫器（1983～1985）楕円形礫を素材とし、長軸方向の一端もしくは両端に粗い剥離を行い、刃部

を作り出すものをまとめた。8点出土しており、このうち3点を図示する。礫器は直接握って用いられたと考えられており、長さ約7~13cm、幅約4~6cmと、いずれも握りやすい大きさである。重さは60~120gのものが多いが、1985のみ369gと特に重くなっている。石材は石英片岩(1983)、中粒凝灰岩(1984・1985)である。

**石皿(1986~1989)** 1986~1988は大型の扁平礫片で、片面に擦痕を残す。1986・1987は皿部を窪ませてあり、1988は擦痕のみ観察できる。1987は欠損後、両側辺を叩打して再加工している。1989は小型の完形品である。自然石とも思われるが、扁平な面に擦痕が薄く残るため石皿の可能性を考えた。石材は砂岩(1986・1989)、多孔質安山岩(1987・1988)である。

**擦石(1990~1995)** 円形あるいは楕円形の礫を素材とする。扁平ではあるが厚みのある礫を用いているものが多い。擦痕だけではなく敲打痕がみられるものが殆どで、擦る、潰す、敲くなどの用途を兼ねていると思われる。ここでは表裏の平坦面に明確な窪みがみられるものは敲石に大別し、その他の中で擦痕が観察できるものを擦石とした。擦石は9点出土しており、このうち6点を図示する。やや厚みのある楕円形の礫を用いており、主に表裏両面を擦るもの(1990・1992・1993)、表裏と片側面を擦るもの(1991)、片面のみ擦るもの(1994・1995)がある。1992は表裏が非常に滑らかで鏡面光沢をみせる。側縁にはいずれも敲打痕がみられ、敲石を兼ねている。長さ約9~12cm、幅6~9cm、厚さ3~6cmを測り、いずれも握りやすい大きさである。重さは約400g~1kgである。石材は、安山岩(1990・1992・1995)、アプライト(1991)、多孔質安山岩(1993)、閃綠岩(1994)である。

**台石(1996~1997)** 円形の大型礫の平坦面に敲打痕を残すもの、あるいは広範囲を叩打して平坦面に整えたものをまとめた。4点出土しているが、完形かこれに近いものは図示した2点のみである。1996・1997はほぼ円形で、長さ、幅とも10~12cmの範囲に収まる。厚さは7~8cmで、長さに比して厚みがある。重さは12~13kgと持ち運びができる程度である。石材は安山岩である。

**敲石(1998~2044)** 手に持てる程度の大きさの礫を素材としており、表裏面や側辺に敲打痕のあるものをまとめた。260点出土しており、このうち50点を図示する。敲石は敲く、潰す、擦るなどの用途を兼ねていると思われ、敲打痕だけではなく擦痕がみられるものもある。明確に擦痕が観察できるものは擦石に含めたが、表裏の平坦面に擦痕以外の窪みがあるものは敲石とした。また石錘と用途を兼ねるものや石錘に二次転用されたもの、石錘未成品か敲石か判別しがたいもの等もあるが、これらについては全て石錘の項で扱った。なお磨製石斧や他の製品を敲石として二次転用する例も多くみられるが、未成品の転用以外は本来の製品の項でそれぞれ記述することとする。敲石は、素材となつた礫の形状、及び敲打痕のある部位に基づき、5類に分類した。

**1類(1998~2007)** は、円形あるいは楕円形の表裏の平坦面に1個から数個の窪みがあるものである。窪みの形状は正円ではなく、長軸に対して斜めの角度がついている。これらの中には凹石とされるものも含まれるが、手に持ちクルミ割りに用いた結果生じた窪みと考えられる<sup>333</sup>ことから、敲石の一つとした。長さ約7~12cm、幅約6~12cmの範囲に収まるが、平均の長さ9.5cm、幅8.1cmであり、円形に近い楕円形をなしている。厚さは約4~5cmを測るものが多いが、2006・2007のみ薄く、2.5cm前後である。重さは約180g~1kgと幅が広いが、300~550gのものが多い。石材は、変質安山岩(1998)、デイサイト(1999)、流紋岩(2000)、安山岩(2001・2002・2004・2005)、花崗岩(2003)、アプライト(2006)、ホルンフェルス(2007)である。

**2類(2008~2020)** は、扁平な円形あるいは楕円形の側縁に集中して敲打痕がみられるものである。敲打痕は細かいものが多く、2009・2012のように、敲くというよりは柔らかいものを振りつぶす

ような動きを繰り返し行った結果、生じたものもある。長さ約5~15cm、幅約3~10cmと大きさは様々である。厚さは約1.5~5.5cm（平均3.5cm）で、1類よりは薄い傾向にある。重さは約95~550gと幅が広い。石材は、頁岩（2008・2018）、砂岩（2009・2010・2013~2015・2017）、中粒凝灰岩（2011）、石英斑岩（2012）、安山岩（2016）、ホルンフェルス（2019・2020）である。

3類（2021~2032）は、長細い礫の両端、あるいは扁平な楕円形礫の長軸両端に敲打痕がみられるものである。敲打痕は長軸の延長上ではなくややずれた位置にあり、傾斜角を持っているものが多い。敲石を手で握るように持つて作業を行ったと考えられ、押しつぶすような動作が想定される。2021~2023の端部は、両側からの押しつぶすような使用によって、八字状の2面をなしている。長さ約4~9cm、幅約2~7cm、厚さ約1~4cmを測る。中には2028のように形状が2類に似るものもあるが、1類よりも長細く小さめの素材が選択されているようである。重さは約19~220gで、2類よりも軽い。石材は、流紋岩（2021・2022）、砂岩（2023・2025・2027・2031）、花崗岩（2024・2028）、透閃石岩（2026）、頁岩（2029）、蛇紋岩（2030）、ホルンフェルス（2032）である。

なお3類には他器種の転用と思われるものも含めた。2026は透閃石岩であるが、従来蛇紋岩と呼称されてきたもので、磨製石斧に多く利用される石材である。表面に磨きが施されており、磨製石斧未成品の転用と考えられる。2029は素材の形状や長軸上に残る敲打痕から、石錘未成品であるかもしれない。2031は側辺両側からの剥離加工を漬すように敲打痕が入っており、打製石斧未成品の転用であろうか。2032は両端部に垂直方向の敲打がみられることから、間接打撃具である可能性が考えられる。

4類（2033~2036）は、トチタキ石あるいはトチミキ石<sup>233</sup>とされるものである。長さ約10~15cm、幅約5~7cmを測る握りやすい大きさの楕円形礫の長軸一端に、使用面である平坦面を持つ。敲打痕は擦痕に似た細かいもので、トチの実などをたたき、すり潰したものと考えられる。重さは約520~780gと比較的の重みがある。石材は、アブライト（2033）、砂岩（2034）、石英斑岩（2035）、変質閃緑斑岩（2036）である。

1~4類以外を5類とした（2037~2044）。上下端や側縁に、叩いたことによる剥離や割れ、敲打痕が残る。2039は磨製石斧未成品の転用、2040は打製石斧未成品の転用である。2044は下端に敲打痕がみられたため敲石に分類したが、上側辺に磨きがみられることから、土器の磨き石として用いられた可能性も考えられる。石材は、石英斑岩（2037）、ホルンフェルス（2038・2039）、砂岩（2040）、変質閃緑斑岩（2041）、アブライト（2042）、透閃石岩（2043・2044）である。

石錘（2045~2140・2144~2149） 素材に楕円形もしくは円形の自然礫を用いるものが大半であるが、周縁整形するものや、敲石、磨製石斧等を転用するものもある。1号谷から出土した石錘全体の構成を第10表に、重量別点数を第202図に、長幅分布を第205図に示す。出土点数は833点であるが、このうち完成品96点、未完成品6点の計102点を図示する。糸掛けの作出方法に基づき3類に分けた。

1類（2045~2130・2140）は、打ち欠きにより糸掛けを作り出すものである。比較的扁平な礫を素材とする。打ち欠く部位は長軸両端、短軸両端、四方掛けの3種あるが、1類の中では長軸両端を打ち欠くものが大多数で732点（96.06%）あり、短軸両端の21点（2.76%）、四方掛けの9点（1.18%）がこれに続く（表10表比率1）。石錘全体でみても、長軸両端を打ち欠くものが93.97%と圧倒的に多い（表10表比率2）。寸法は、長さ4.0~13.5cm、幅2.7~11.8cm、厚さ0.8~4.7cmのものがあり、長さ5cm以下で幅4cm以下の小型、長さ5~8cmで幅4~7cmの中型、長さ8~12cmで幅7~9cmの大型におおよそ分類できる。中型の数量が最も多く、大型がこれに次ぐ。また重さは、70~80g前後のものが最も多く、次いで160~170g前後に小さなピークがある。寸法と重さの関係は厚さや石材にも左

<sup>233</sup> 鈴木道之助 2001「田舎・石器入門事典（国文社）」鈴木道之助著  
2000「後醍醐天皇のトチミキ石」『藤井松介直近考古学論集』

右されるが、長さと幅、重量でみると大・中・小型いずれも重量70~80g前後のものを含んでいるため、最も数量が多くなっていると考えられる。

2類(2131~2134)は、敲打により糸掛けを作り出すものである。敲打は長軸両端にのみ施すもの(2131~2133)と、浅い溝状に巡らせる有溝石錘(2134)がある。長軸両端に敲打するものの中には敲石と判別しがたいものもあるが、全体の形状や縦痕、敲打の位置などにより石錘とした。有溝石錘は長軸上を1周させるもので、1類に比べて厚みのある素材を用いる。また磨製石斧を有溝石錘に転用したもの(2143)もある。2類の数量は少なく、全体の比率は1.79%である(第10表比率2)。

3類(2135~2139)は切目石錘である。6点出土したうちの5点を図示した。全体の比率は0.77%と少ない(第10表比率2)。

なお、石錘完成品779点を残存状態別に示すと、完形661点(84.85%)、一部を欠くがほぼ完形29点(3.72%)、4/5残存11点(1.41%)、3/4残存3点(0.39%)、2/3残存8点(1.03%)、1/2残存40点(5.13%)、1/3残存1点(0.13%)、破片26点(3.34%)であり、大多数が完形かそれに近い残存状態であった。石材は、流紋岩、砂岩、石英斑岩が多く見られる。

石錘未成品(2144~2149)は、打ち欠きが片面にしかないもの、加工途中で割れたものなどである。殆どが石錘1類の未成品と思われる。

浮子・軽石(2150~2156) 軽石のうち孔が貫通するものを浮子とした。浮子は完成品で2点出土しており、このうち1点(2150)を図示した。2151は中央に未貫通の孔があるため、浮子未完成とした。2152・2153・2155の中央部にも窪みがみられるが浅い。2154は平坦面が見られるため、砥石として使用した可能性がある。

磨製石斧(2141~2143・2157~2242) 1号谷から出土した磨製石斧全体の構成を第11表に示す。完成品は258点出土している。このうち、21点が早期末~前期と考えられ、11点を図示した(2157~2167)。磨製石斧21点の残存部位は、完形、基部、刃部が7点(33.33%)ずつと拮抗する(第11表比率1)。完形品の寸法は長さ4.0~8.72cm、幅2.0~4.93cmと寸法や形状が様々である。重さは5.8~99.06gを測る。石材は、透閃石岩(2157~2160・2162・2164・2167)、蛇紋岩(2161・2163・2166)、流紋岩(2165)である。なお透閃石岩は從来蛇紋岩と呼ばれてきたもので、今回比重測定によって透閃石岩に比定されたものである。

中期以降と考えられるものは237点ある。方形柱状のいわゆる定角式が主体を占め、乳棒状のものは7点(2208~2210の3点図示)である。中期以降の磨製石斧の残存状況を見ると、完形35点(14.77%)、基部残存125点(52.74%)、刃部残存62点(26.16%)、両端欠損6点(2.53%)、破片9点(3.80%)で、基部の残存するものが半数以上を占め、刃部残存がこれに次ぐ(第11表比率1)。磨製石斧を使用中に欠損した場合、敲石等に転用するために持ち帰る行為があったことが考えられ、特に基部の残存率の高さから、磨製石斧使用者の属する集落が付近に存在したと考えられる。第204図に、完形品を中心とする長幅分布を示す。寸法より大型・中型・小型の3類に分類できる。小型品(2168~2184)は長さ3.95~7.00(平均5.57)cm、幅1.26~4.29(平均2.69)cm、重さ4.75~84.04(平均27.66)gを測る。中型品(2185~2202)は磨製石斧の中で最も数量が多い。長さ8.58~14.77(平均11.46)cm、幅4.33~7.50(平均5.56)cm、重さ95.84~572.98(平均261.26)gを測る。大型(2203~2207)は長さ16.67~22.63cm、幅6.89~7.69cm、重さ594.9~979.0gを測る。大型品は図示した5点のみ確認したが、2207のみ寸法が突出して大きく、他4点は中型に近い数値である。石材は透閃石岩(2168・2169・2171~2175・2179・2180・2182~2188・2190~2196・2198・2199・2203・2204)、蛇紋岩(2170・2176・

2178・2181), 変質安山岩 (2177・2197・2210), 安山岩 (2201), 角閃岩 (2189), 変質閃緑斑岩 (2200・2205・2207・2209), 流紋岩 (2202), 変質はんれい岩 (2208) である。

磨製石斧の転用としては、打製石斧への転用 3 点 (2222・2223 の 2 点を図示), 敵石への転用 60 点 (2211・2221 の 11 点を図示), 石錘への転用 4 点 (2141・2143 の 3 点を図示) が認められる。敵石への転用は 60 点と特に多いが、中でも敵石 2 類と 5 類への転用が多くみられる。敵石に転用される磨製石斧の残存部位をみると、基部残存 44 点、刃部残存か破片は 16 点であった。刃部を欠くが比較的の状態の良いものは打製石斧として再加工のうえ使用され、大きく欠損して基部のみ残るものは敵石や石錘等に転用される傾向にある。

磨製石斧未成品は 28 点出土しており、このうち 19 点を図示する。研磨を加えるもの (2224~2232), 剥離や敲打整形を加えるもの (2233~2242) がある。

砥石 (2243~2252) 42 点出土しており、このうち 10 点を図示する。砥面が平坦なものが圧倒的に多く、溝のあるものは図示した 2250~2252 の 3 点のみである。砥石の殆どが破片で、全体形の判るものは少ない。砥面が平坦なものは、磨製石斧等の研磨に用いられたと考えられるが、研磨痕が非常に滑らかなものもあり、木の実の搾り潰し等に用いられたものも含まれるようである。また砥面に溝のあるものは、玉類の他、骨角器等の研磨に用いられたと考えられる。溝の断面が U 字状になる、いわゆる筋砥石。玉砥石と呼ばれるものは 2252 のみであり、2250・2251 は溝の断面形が不定である。石材は砂岩が多用されているほか、安山岩 (2248), 細粒凝灰岩 (2251) がある。

擦切石器 (2253・2254) 2253 は剥片の縁辺が使用により摩耗する。2254 は砥石の転用と思われ、縁辺以外にも摩耗痕がみられる。石材は変質安山岩 (2253), 砂岩 (2254) である。

石錐 (2255~2259) 7 点出土し、このうち完成品 2 点 (2255・2256), 未完成品 3 点 (2257~2259) の計 5 点を図示する。2255 は大きめの摘み部をもつ。短い錐部がつくと思われるが、欠損する。2256 はほぼ完形である。2258 は上端が潰れており、素材が楔形石器の可能性がある。2259 に残る外皮には、風化による筋状の縞がみられる<sup>335</sup>。石材はメノウ (2255), ガラス質安山岩 (2256・2259), チャート (2257), 珪質頁岩 (2258) がある。

搔器・削器 (2260~2267) 16 点出土し、このうち 8 点を図示する。2260・2261 は不整形な剥片の一部を急角度に調整した刃部をもつ。早期の搔器である可能性が高い。2262~2267 は剥片の側縁に刃部を作り出す。2262 は正面左下端を石錐として利用した可能性がある<sup>336</sup>。2263 は下部両側が刃部となる。2265 の下端には、固いが弾力のあるものに対し、垂直方向に敵くなどして力が加わったことによる刃こぼれがみられる<sup>337</sup>。石材は下呂石 (2262), 珪質頁岩 (2260・2265・2266), 流紋岩 (2261・2264), ガラス質安山岩 (2263・2267) である。

楔形石器 (2268~2271) 9 点出土し、このうち 4 点を図示する。両極技法により、対辺に剥離痕がある。2268・2271 の上辺には、ハンマーでたたかれたことによる潰れがある。2270 は上辺 1 箇所に対して下辺 2 箇所に潰れがみられる。石材は流紋岩 (2268), ガラス質安山岩 (2269~2271) である。

石棒 (2272~2275) 5 点出土し、このうち 4 点を図示する。2272 は長さ 87.6cm, 幅 25.5cm を測る大型の完形品である。両端部や側面を中心に敲打整形する。全体に整った形状であるが、研磨を施していない類石棒<sup>338</sup>である。第 19 図、図版 18 に出土状況を示す。1 号谷の 2272 より南側を中心とする範囲約 6 m 付近から、大型の棒状礫が 7 点出土しているが、2272 以外の礫には加工痕が認められなかった。こうした出土状況からは、大型の棒状礫が集められ、1 号谷周囲からまとめて投棄されたか、流れ込んだ様相が伺える。石材は粗粒凝灰岩である。

<sup>335</sup> 高田秀樹氏より、石川県能美町直瀬遺跡において、剥離の特徴をもつガラス質安山岩が多数出土しているとのご教示をいただいた。

<sup>336</sup> 吉川知明氏からご教示を受けた。

<sup>337</sup> 尾崎一氏よりご教示いただいた。

<sup>338</sup> 長田友也 2009 「新潟県における石棒・石錐・刀石の変遷」『新潟県考古学』新潟県考古学会 石棒の発掘等に関する、高田友也氏よりご教示いただいた。

2273・2274は石棒の頭部破片である。2273は表面を敲石に、裏面を砥石に転用する。2275は石棒の端部破片で、断面円形の胴部をもつ。石材は中粒凝灰岩（2275）、砂岩（2273・2274）である。

**石冠（2276・2277）** 2276は背部が外湾し、頂部が蛤刃状になる。2277は石冠未成品と思われる断片を石錐に転用する。石材は粗粒凝灰岩（2276）、麥賀安山岩（2277）である。

**岩版（2278）** 扁平な隅丸方形の岩版で、側面に彫刻を施している。彫刻は鋭い道具で4側面に細かく刻みを入れ、側面中央に沈線を1周引く。石材は泥岩である。

**玉類（2279～2292）** 15点出土し、このうち14点を図示する。2279は大珠未成品である。石材は翡翠で、白地に鮮やかな緑が入っており美しい。片面穿孔途中であるが、孔は下方から右斜め上方へ向けて角度をつけて穿たれる。

**玦状耳飾（2280～2288）** は完成品6点、未成品3点が出土した。2280・2281は円形で、2281は中心の孔径が広い。2282は横長の楕円形状となるのであろうか、切れ目が残存する。いずれも断面形が上面と下面が平行で厚みがある。早期末～前期初頭頃のものである。2283は円形と思われるが非常に薄いつくりである。2284は楕円形、2285は三角形である。中心の孔径が小さく、切れ目が長くなっている、前期後半と思われる。2284は折れ面を研磨加工しており、片面に穿孔途中とみられる浅い窪みが2箇所ある。垂飾に転用しようとしたものか。石材は全て滑石である。

**耳栓型耳飾（2289）** は左右対称な鼓形である。石材は凝灰質泥岩か。

**垂飾（2290・2291）** は2点出土した。2290は鮫の歯を模したもので、素材の石材の模様を鮫歯の形状に巧みに取り込んでいる。上部に3箇所小孔をあける。2291は楕円形で中央に穿孔する。石材は滑石（2290）、曹長石（2291）である。

**頸飾（2292）** は半輪状で両端に孔を穿つ。上端部には2箇所の穿孔があるが、孔の部分を含めて欠損してしまったため内側に穿孔し直したものであろう。内径6cmを測る。中国で「璜」と呼ばれるものに対応すると考えられる<sup>230</sup>。中国では、埋葬人骨の出土状況から、玦は耳飾り、璜は頸飾りとされ、両者はセットをなすと考えられている。玦と璜は長江下流域の河母渡文化に起源をもち、中流域の大溪文化に伝播したとされる。2292は平面形では「弧形璜」に分類され、断面形は大溪文化期（約5300年前）のものに似る。石材は滑石である。

**二次加工剥片（2293～2296）** 50点出土し、このうち4点を図示する。2293は側面上方に摘みを作り出すような加工がみられるため石匙未成品と思われる。ただし側面両側の対となる位置の加工方法が異なるため、石槍未成品とも考えられる。下端には打点がある。2294は片側面に調整を入れる。2295・2296は剥片の周縁に調整を加える。石材は珪質頁岩（2293・2296）、ガラス質安山岩（2294・2295）である。

**石核・剥片他（2297～2313）** 石核（2297～2301）、残核（2302～2306）、剥片（2307～2312）である。石材はメノウ（2297）、横山真脇石（2298～2300・2302・2305・2306・2312）、碧玉（2301）、チャート（2303）、ガラス質安山岩（2304・2308・2309）、黒曜石（2307）、翡翠（2310）、細粒凝灰岩（2311）である。横山真脇石は1号谷出土遺物の中でも、製品（石鍼、1927）の他に石核3点、残核3点、剥片1点が出土しており、原石での流通及び遺跡付近での加工が伺える。2305は剥離面に付着物がある。被熱により褐色に変色しており、400度以上の熱を受けていると考えられる<sup>231</sup>。2307は蛍光X線による产地推定分析を行い、諏訪エアリア星ヶ台群の所産に比定されている。2309は削器として使用した可能性が考えられ、鋭い縁辺に使用痕がある。2313は表裏を丁寧に調整しているが、刃部を作り出す加工ではない。完成品であるが、器種不明である。石材は珪質頁岩である。

230 重田正士夫、1992「玉とヒスイ—日本の文化をめぐって—」同前書2版

231 大庭道義・高田秀樹・吉西豊美、2008「椎山真脇石製造の加熱による色調変化」『研究紀要』第21号 財团法人椎玉真脇石文化財調査委員会編

第7表 1号谷出土縄文時代石器一覧

器種	出土点数(全体比率)	内訳	回示点数
石鏸	60点 ( 2.89%)	完成品 39点	18点
		未成品 21点	9点
石槍	5点 ( 0.24%)	完成品 3点	3点
		未成品 2点	1点
石匙	22点 ( 1.06%)	完成品 21点	17点
		未成品 1点	1点
打製石斧	84点 ( 4.04%)	完成品 80点	24点
		未成品 4点	1点
縄器	8点 ( 0.39%)		3点
石皿	14点 ( 0.67%)		4点
推石	9点 ( 0.43%)		6点
台石	4点 ( 0.19%)		2点
籠石	260点 ( 12.52%)		50点
石鍤	833点 ( 40.11%)	完成品 779点	96点
		未成品 54点	6点
浮子	3点 ( 0.14%)	完成品 2点	1点
		未成品 1点	1点
軽石	36点 ( 1.73%)		5点
磨製石斧	353点 ( 17.00%)	完成品 325点	70点
		未成品 28点	19点
砥石	42点 ( 2.02%)		10点
捲切石器	2点 ( 0.10%)		2点
石錐	7点 ( 0.34%)	完成品 3点	2点
		未成品 4点	3点
搔器・削器	16点 ( 0.77%)		8点
櫛形石器	9点 ( 0.43%)		4点
石棒	5点 ( 0.24%)		4点
岩版	1点 ( 0.05%)		1点
石冠	2点 ( 0.10%)	完成品 1点	1点
		未成品 1点	1点
玉類	15点 ( 0.72%)	完成品 10点	10点
		未成品 5点	4点
一次加工渦片	50点 ( 2.41%)		4点
石核・残核	59点 ( 2.84%)		10点
渦片	169点 ( 8.14%)		6点
石材・原石	5点 ( 0.24%)		0点
不明	4点 ( 0.19%)		1点
合計	2077点 (100.00%)		408点

第8表 1号谷出土石鍤一覧

系	基部	側縁	点数	比率1	比率2	比率3	全体比率
無茎	外湾	11点	( 47.83%)	( 34.38%)	( 28.21%)	( 18.33%)	
		8点	( 34.78%)	( 25.00%)	( 20.51%)	( 13.33%)	
	内湾	2点	( 8.70%)	( 6.25%)	( 5.13%)	( 3.33%)	
		1点	( 4.35%)	( 3.13%)	( 2.56%)	( 1.67%)	
	その他	1点	( 4.35%)	( 3.13%)	( 2.56%)	( 1.67%)	
	計	23点	(100.00%)	( 71.88%)	( 58.97%)	( 38.33%)	
弱凹基	外湾	4点	( 50.00%)	( 12.50%)	( 10.26%)	( 6.67%)	
		3点	( 37.50%)	( 9.38%)	( 7.69%)	( 5.00%)	
	その他	1点	( 12.50%)	( 3.13%)	( 2.56%)	( 1.67%)	
	計	8点	(100.00%)	( 25.00%)	( 20.51%)	( 13.33%)	
平基	外湾	1点	(100.00%)	( 3.13%)	( 2.56%)	( 1.67%)	
		1点	(100.00%)	( 3.13%)	( 2.56%)	( 1.67%)	
	計	32点	(100.00%)	( 82.05%)	( 53.33%)		
有茎	柳葉	その他	1点	(100.00%)	( 2.56%)	( 1.67%)	
	計	1点	(100.00%)	( 2.56%)	( 1.67%)		
不明	不明	外湾	3点	( 50.00%)	( 7.69%)	( 5.00%)	
		直線	3点	( 50.00%)	( 7.69%)	( 5.00%)	
	計	6点	(100.00%)	( 15.38%)	( 10.00%)		
石鍤完成品			39点		(100.00%)	( 65.00%)	
			21点			( 35.00%)	
合計			60点			(100.00%)	

第9表 1号谷出土打製石斧一覧

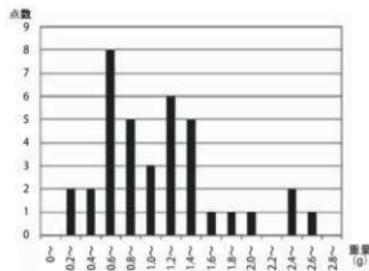
形態	側縁の形状	点数	比率1	比率2	比率3	全体比率
短彎形	平行	39点	( 95.12%)	( 75.00%)	( 48.75%)	( 46.43%)
	屈曲	1点	( 2.44%)	( 1.92%)	( 1.25%)	( 1.19%)
	外湾	1点	( 2.44%)	( 1.92%)	( 1.25%)	( 1.19%)
	計	41点	(100.00%)	(78.85%)	( 51.25%)	(48.81%)
ハの字	直線	1点	( 12.50%)	( 1.92%)	( 1.25%)	( 1.19%)
	外湾	7点	( 87.50%)	( 13.46%)	( 8.75%)	( 8.33%)
	計	8点	(100.00%)	(15.38%)	( 10.00%)	( 9.52%)
不明		3点		( 5.77%)	( 3.75%)	( 3.57%)
	計	52点		(100.00%)	( 65.00%)	( 61.90%)
彎形	直線	5点		( 33.33%)	( 6.25%)	( 5.95%)
	内湾	9点		( 60.00%)	( 11.25%)	( 10.71%)
	くびれあり	1点		( 6.67%)	( 1.25%)	( 1.19%)
分銅形		15点		(100.00%)	( 18.75%)	( 17.86%)
	直線	1点		(100.00%)	( 1.25%)	( 1.19%)
	計	1点		(100.00%)	( 1.25%)	( 1.19%)
不明	ハの字	直線	3点	( 25.00%)	( 3.75%)	( 3.57%)
	不明	9点		( 75.00%)	( 11.25%)	( 10.71%)
	計	12点		(100.00%)	( 15.00%)	( 14.29%)
打製石斧完成品		80点				( 95.24%)
打製石斧未成品		4点				( 4.76%)
合計		84点				(100.00%)

第10表 1号谷出土石錘一覧

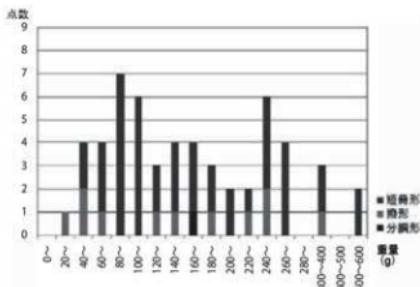
系掛の作出方法	点数	比率1	比率2	全体比率
打欠	長軸両端	732点	( 96.06%)	( 93.97%)
	短軸両端	21点	( 2.76%)	( 2.70%)
	四方掛け	9点	( 1.18%)	( 1.16%)
	計	762点	(100.00%)	( 97.82%)
敲打	長軸両端	10点	( 71.43%)	( 1.28%)
	溝状	1点	( 7.14%)	( 0.13%)
	計	11点	(100.00%)	( 1.41%)
切目	刃部	6点	( 100.00%)	( 0.77%)
	計	6点	(100.00%)	( 0.77%)
石錘完成品	779点		(100.00%)	( 93.52%)
石錘未成品	54点			( 6.48%)
合計	833点			(100.00%)

第11表 1号谷出土磨製石斧一覧

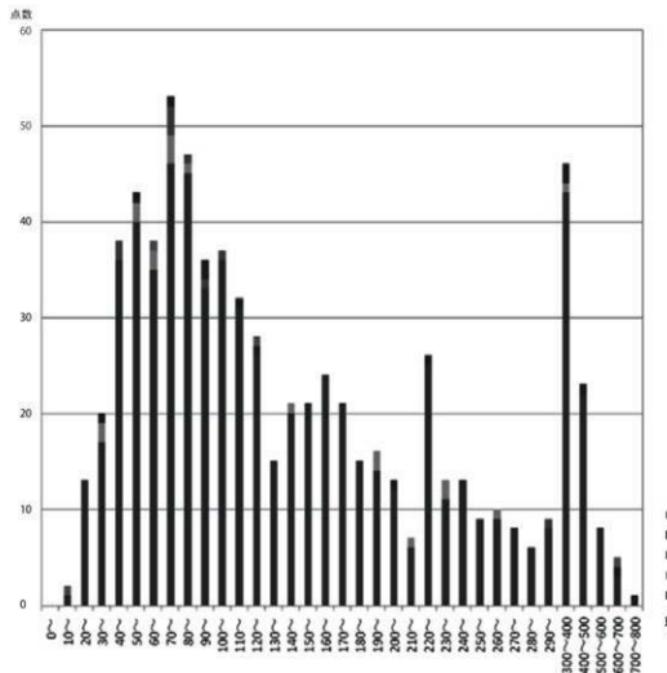
器種	残存部位	点数	比率1	比率2	比率3	全体比率
磨製石斧	完形・ほぼ完形	7点	( 33.33%)	( 2.71%)	( 2.45%)	( 1.98%)
	基部	7点	( 33.33%)	( 2.71%)	( 2.45%)	( 1.98%)
	胴部	0点	—	—	—	—
	(早期末～前期) 刃部	7点	( 33.33%)	( 2.71%)	( 2.45%)	( 1.98%)
	破片	0点	—	—	—	—
	計	21点	(100.00%)	( 8.14%)	( 7.34%)	( 5.95%)
磨製石斧	完形・ほぼ完形	35点	( 14.77%)	( 13.57%)	( 12.24%)	( 9.92%)
	基部	125点	( 52.74%)	( 48.45%)	( 43.71%)	( 35.41%)
	胴部	6点	( 2.53%)	( 2.33%)	( 2.10%)	( 1.70%)
	(中期以後) 刃部	62点	( 26.16%)	( 24.03%)	( 21.68%)	( 17.56%)
	破片	9点	( 3.80%)	( 3.49%)	( 3.15%)	( 2.55%)
	計	237点	(100.00%)	( 91.86%)	( 82.87%)	( 67.14%)
磨製石斧完成品		258点		(100.00%)	( 90.21%)	( 73.09%)
磨製石斧未成品		28点			( 9.79%)	( 7.93%)
磨製石斧 計		286点			(100.00%)	( 81.02%)
打製石斧に転用		3点	( 4.48%)			( 0.85%)
敲石に転用	{基部 刃部・破片}	44点	( 89.55%)			( 17.00%)
石錘に転用		16点	( 5.97%)			( 1.13%)
転用 計		67点	(100.00%)			( 18.98%)
合計		353点				(100.00%)



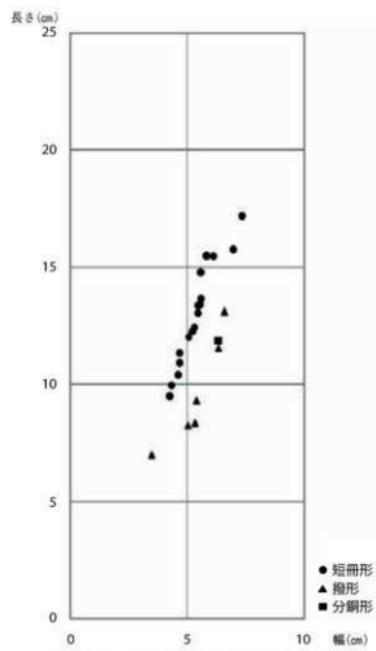
第200図 1号谷出土石鐵の重量別点数



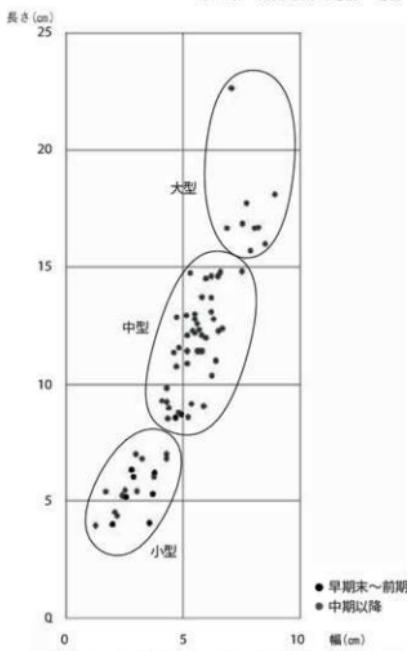
第201図 1号谷出土打製石斧の重量別点数



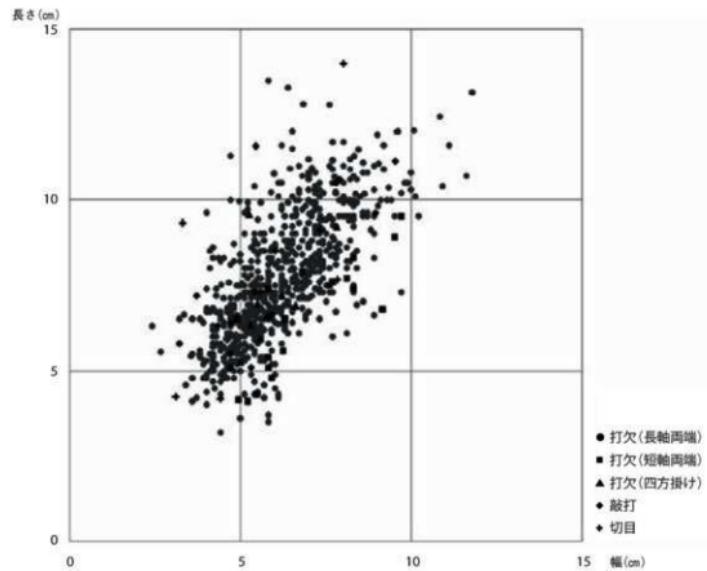
第202図 1号谷出土石錘の重量別点数



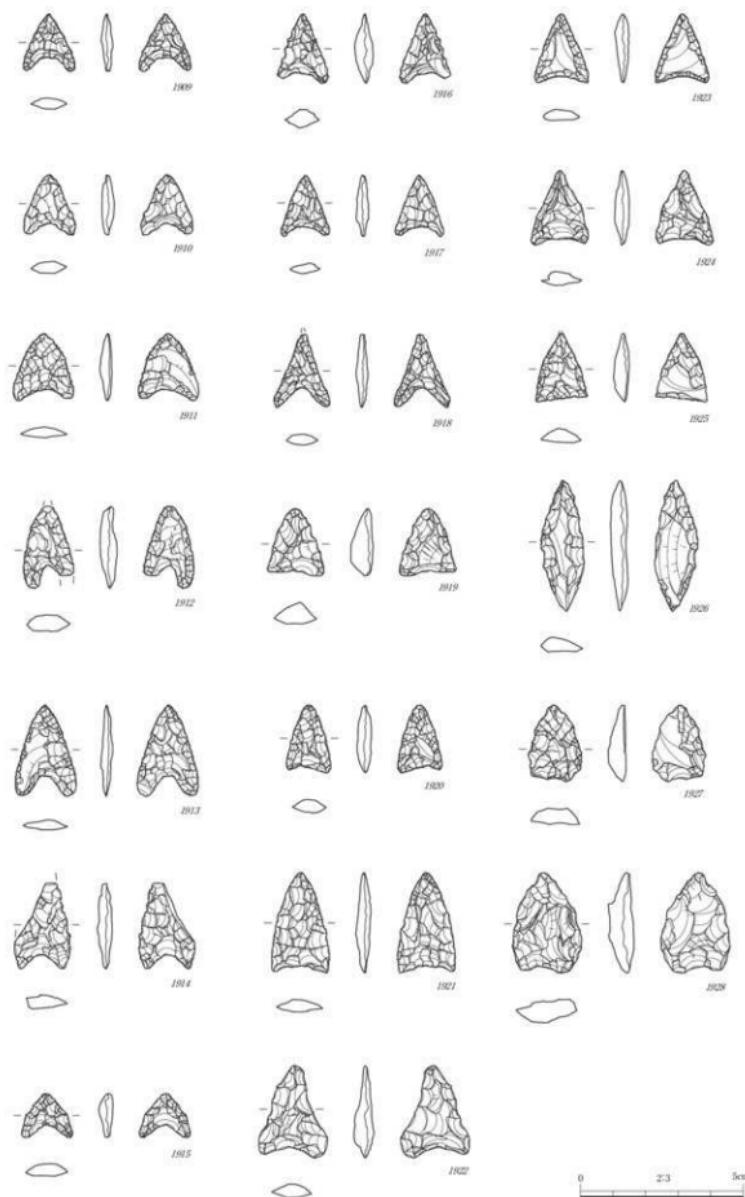
第203図 1号谷出土打製石斧の長幅分布



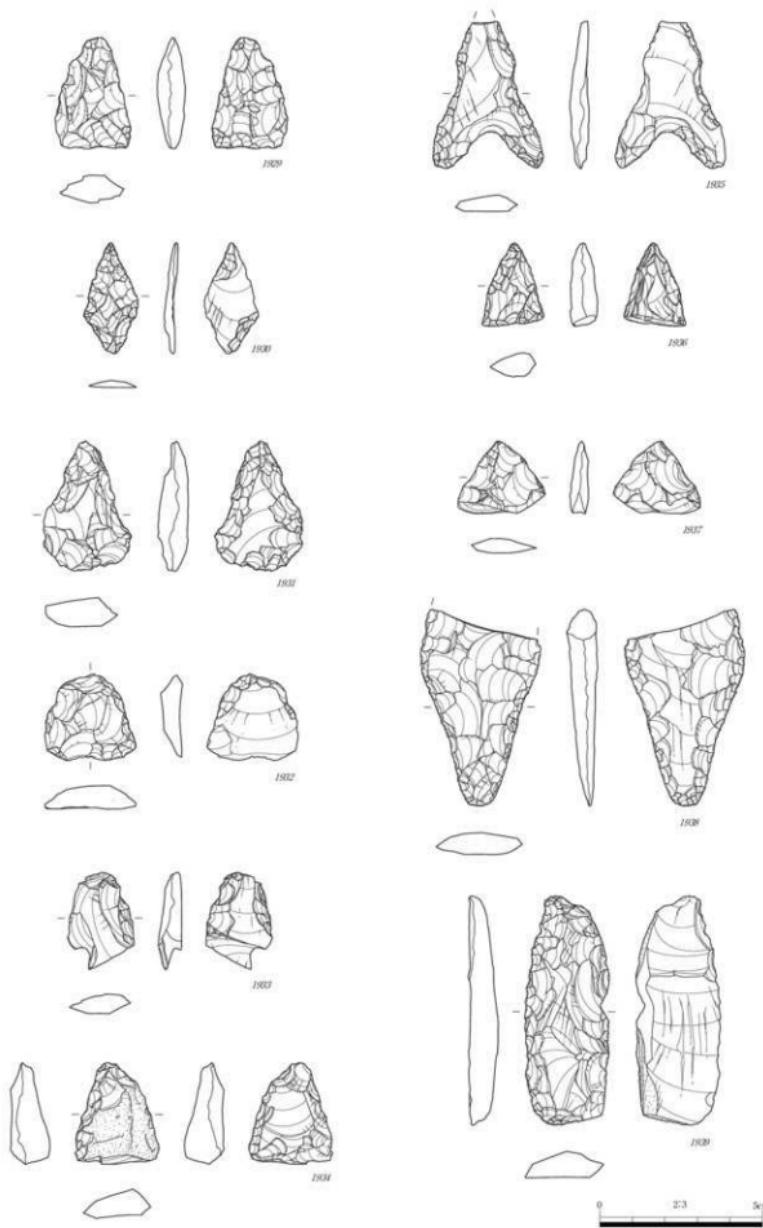
第204図 1号谷出土磨製石斧の長幅分布



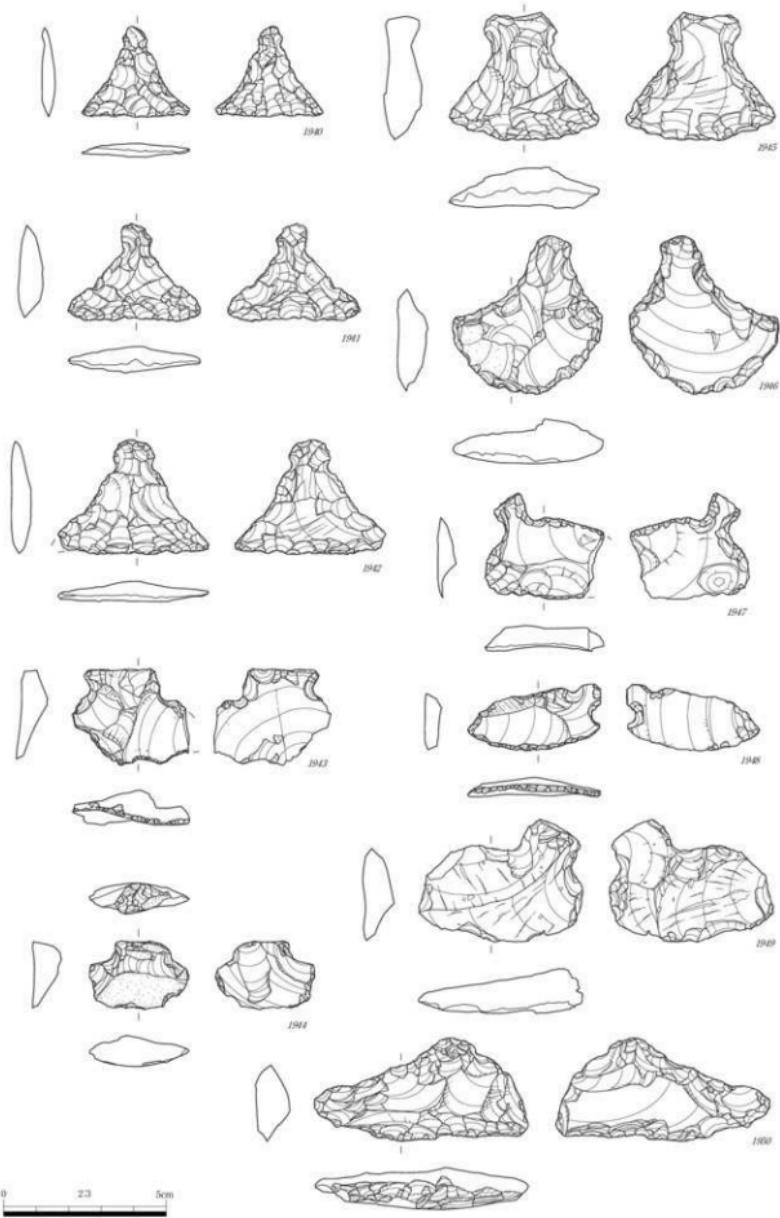
第205図 1号谷出土石錺の長幅分布



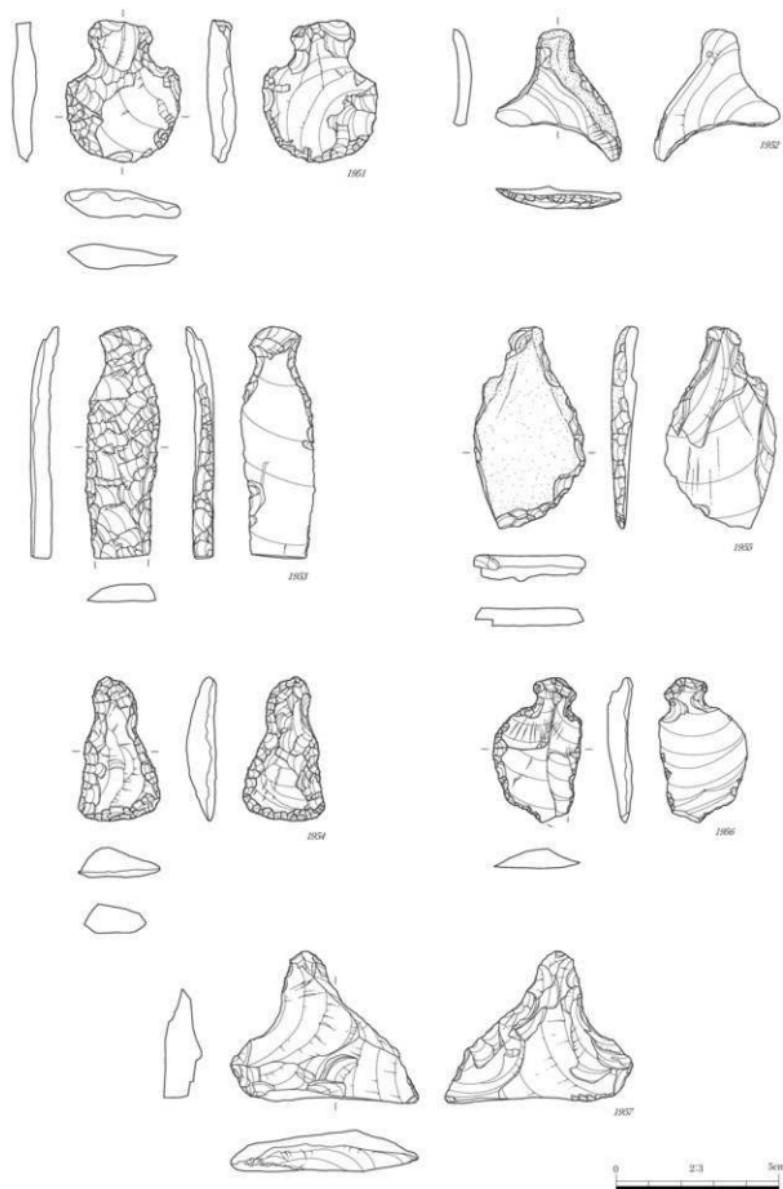
第206図 縄文時代遺物実測図 (2/3)  
SD1 石製品



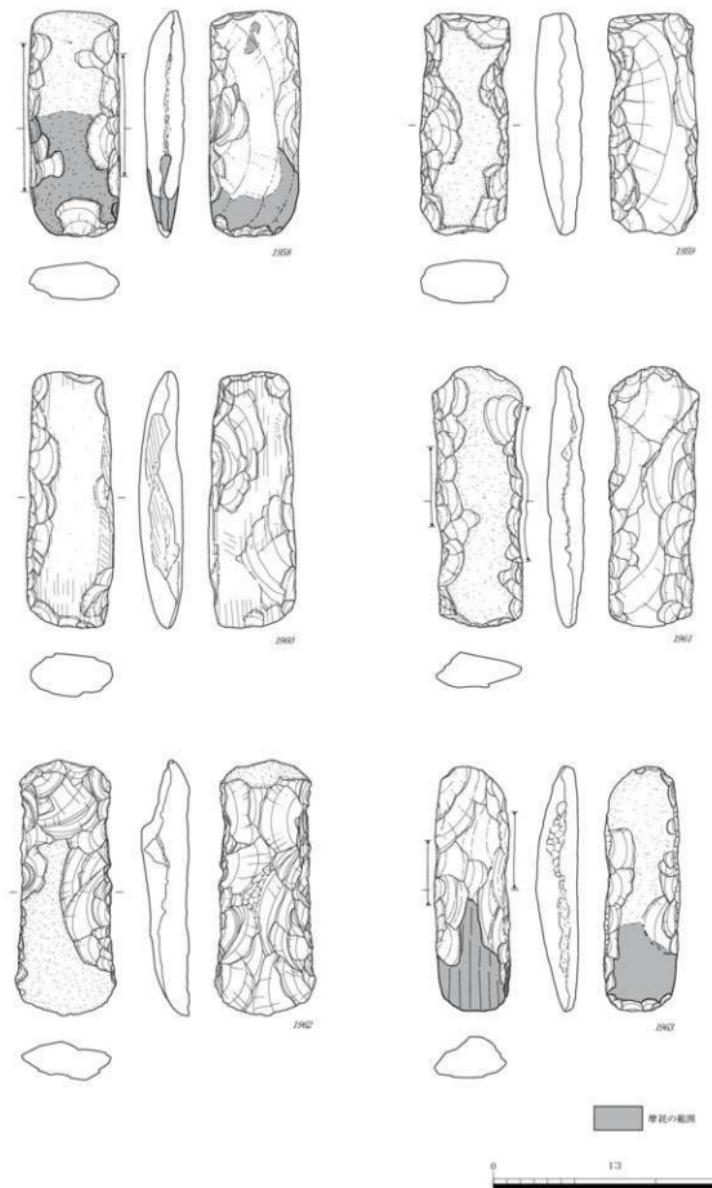
第207図 純文時代遺物実測図 (2/3)  
SD1 石製品



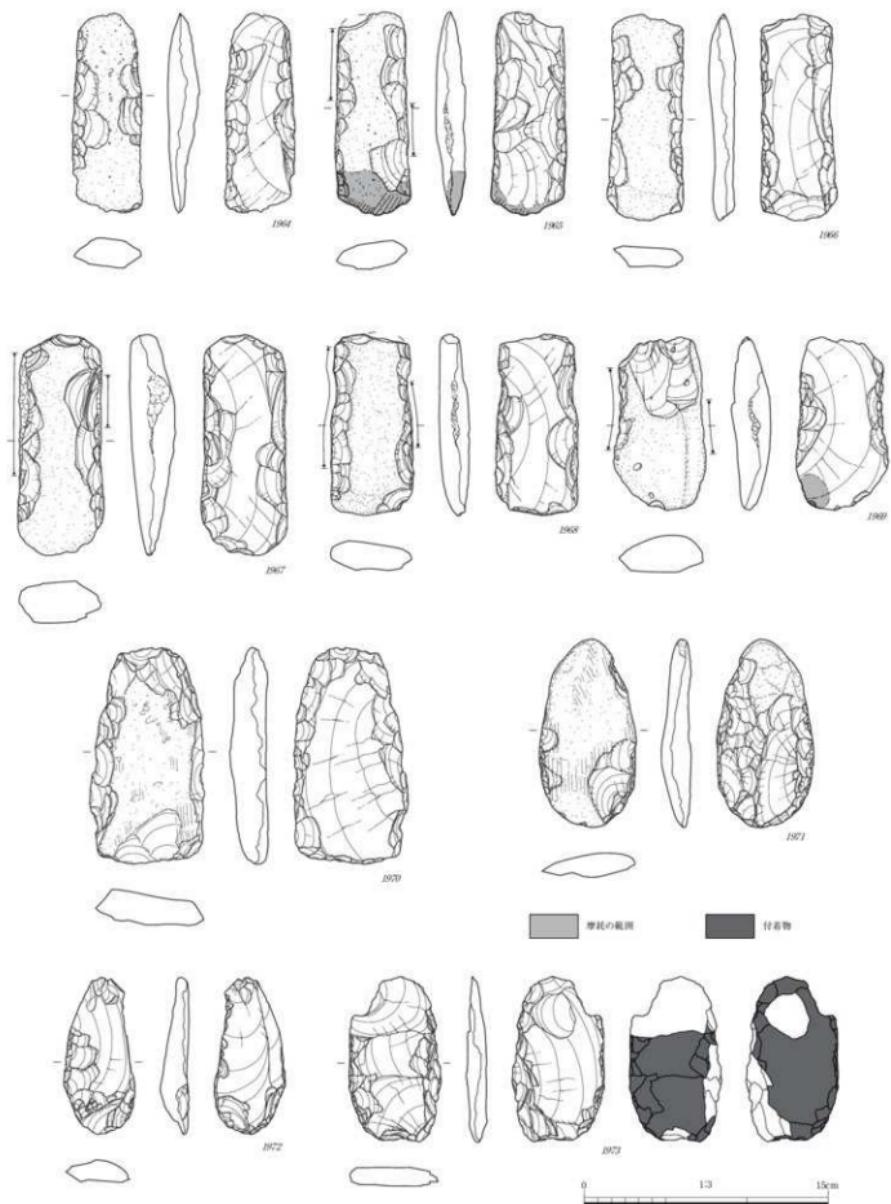
第208図 縄文時代遺物実測図 (2/3)  
SD1 石製品



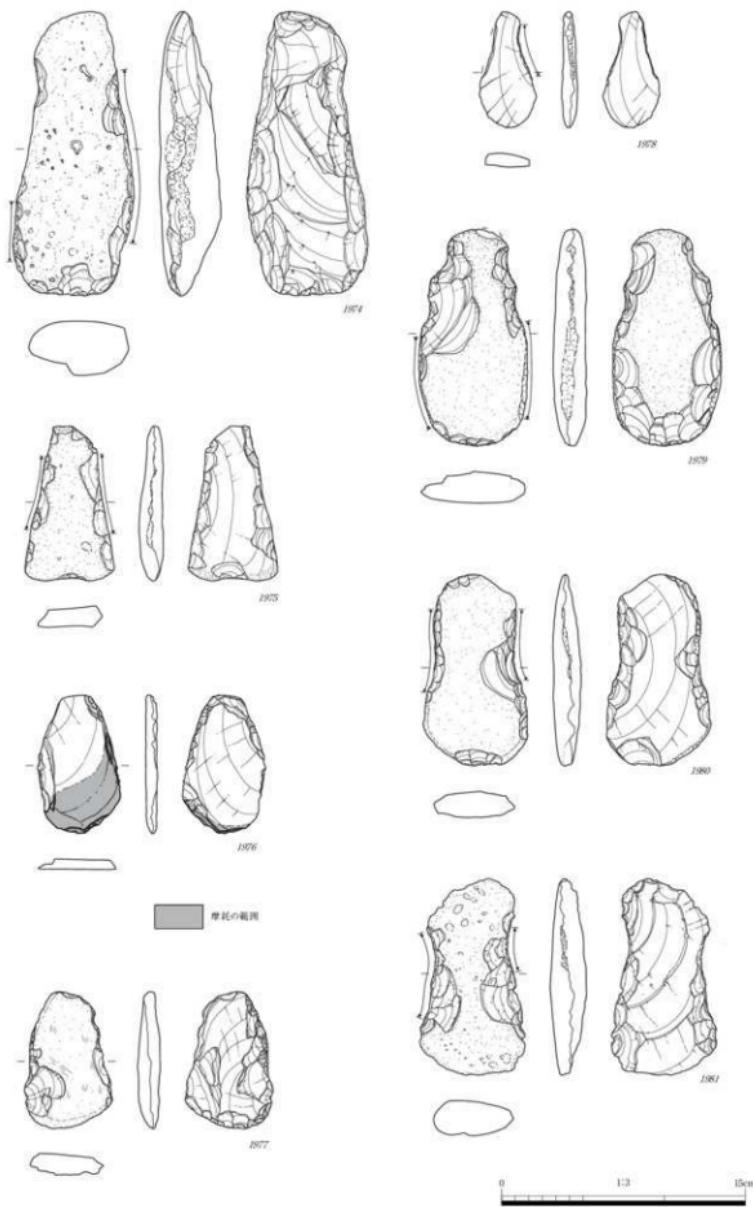
第209図 純文時代遺物実測図 (2/3)  
SD1 石製品



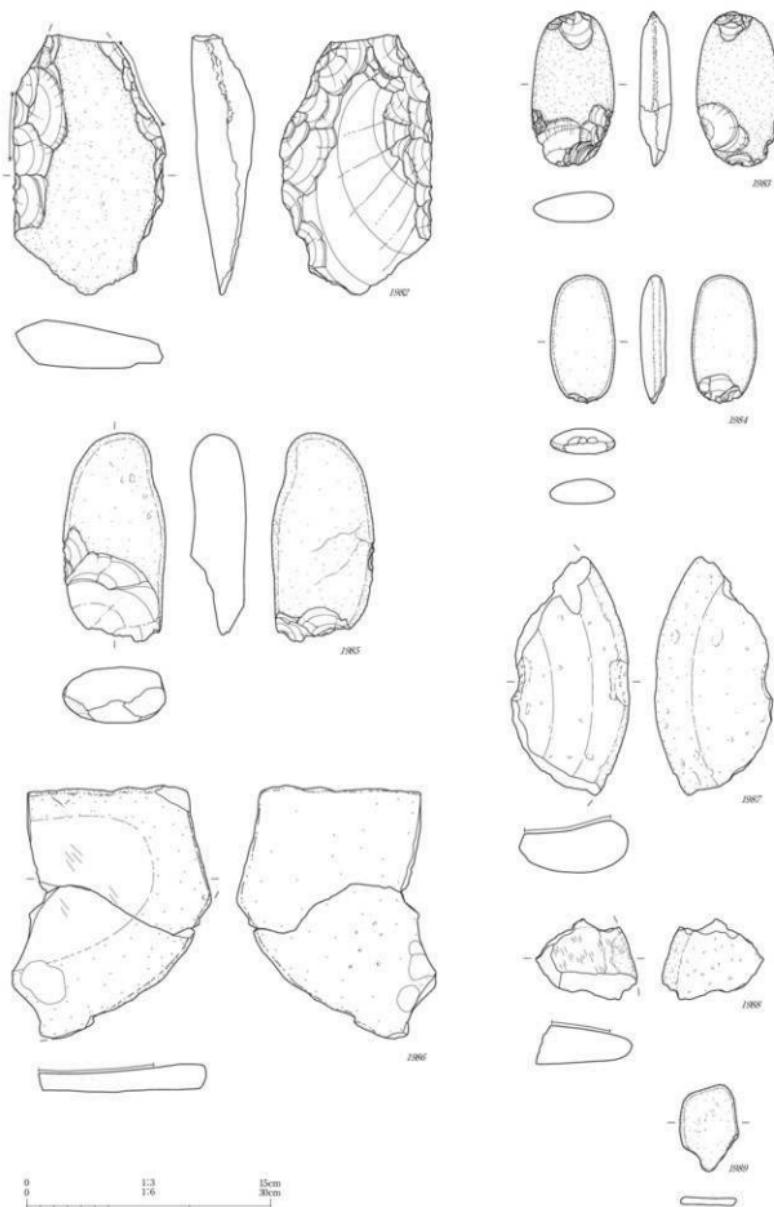
第210図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



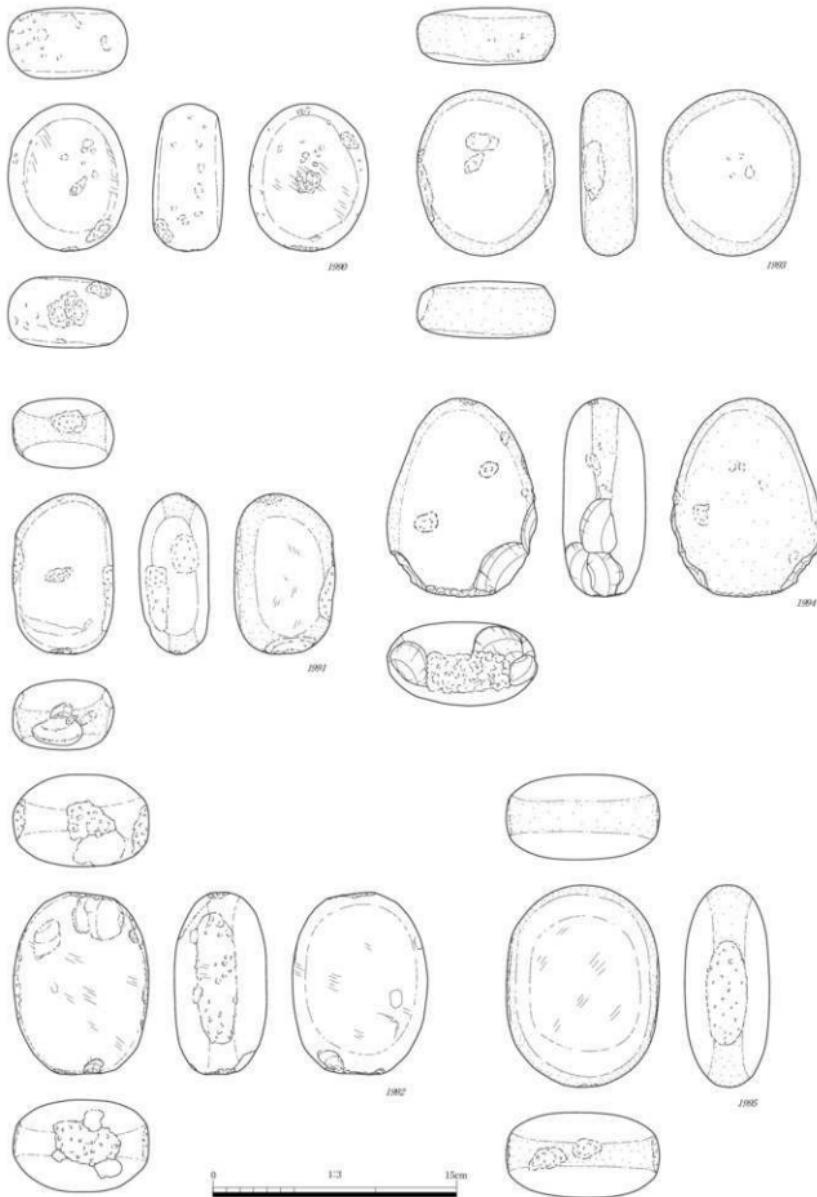
第211図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



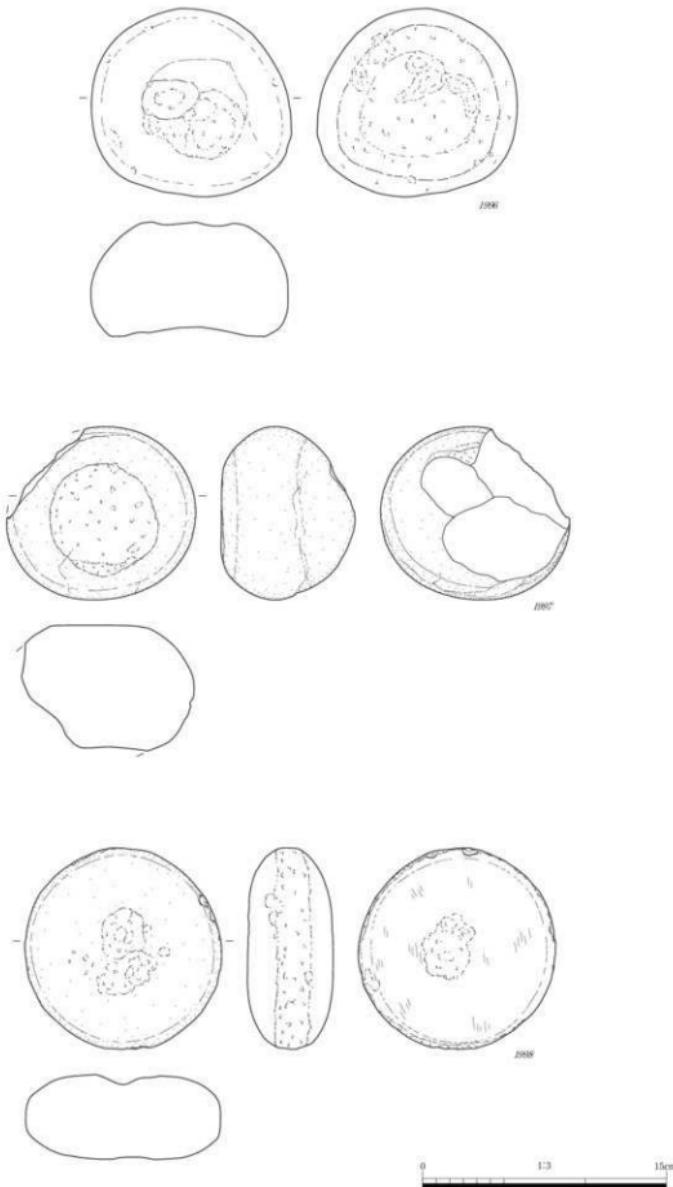
第212図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



第213図 純文時代遺物実測図 (1982~1985 1/3, 1986~1989 1/6)  
SD1 石製品



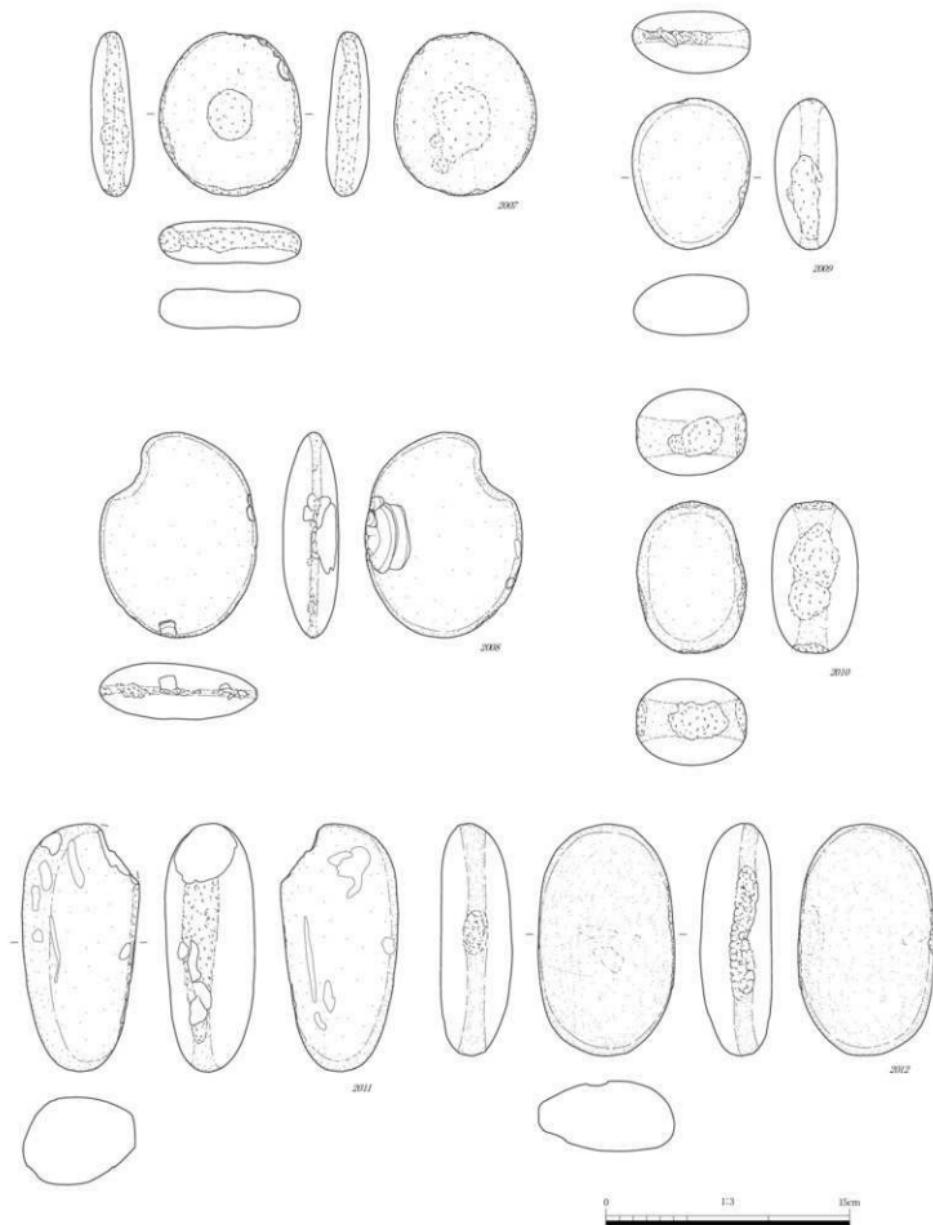
第214図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



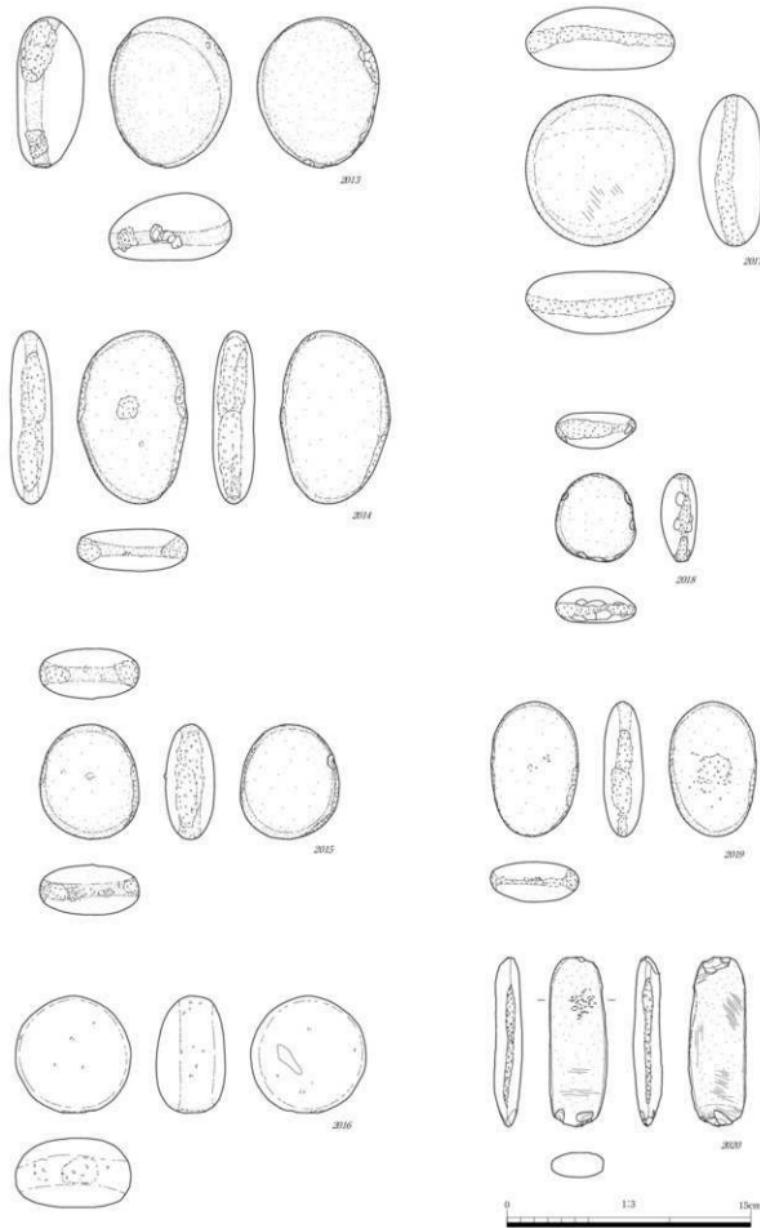
第215図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



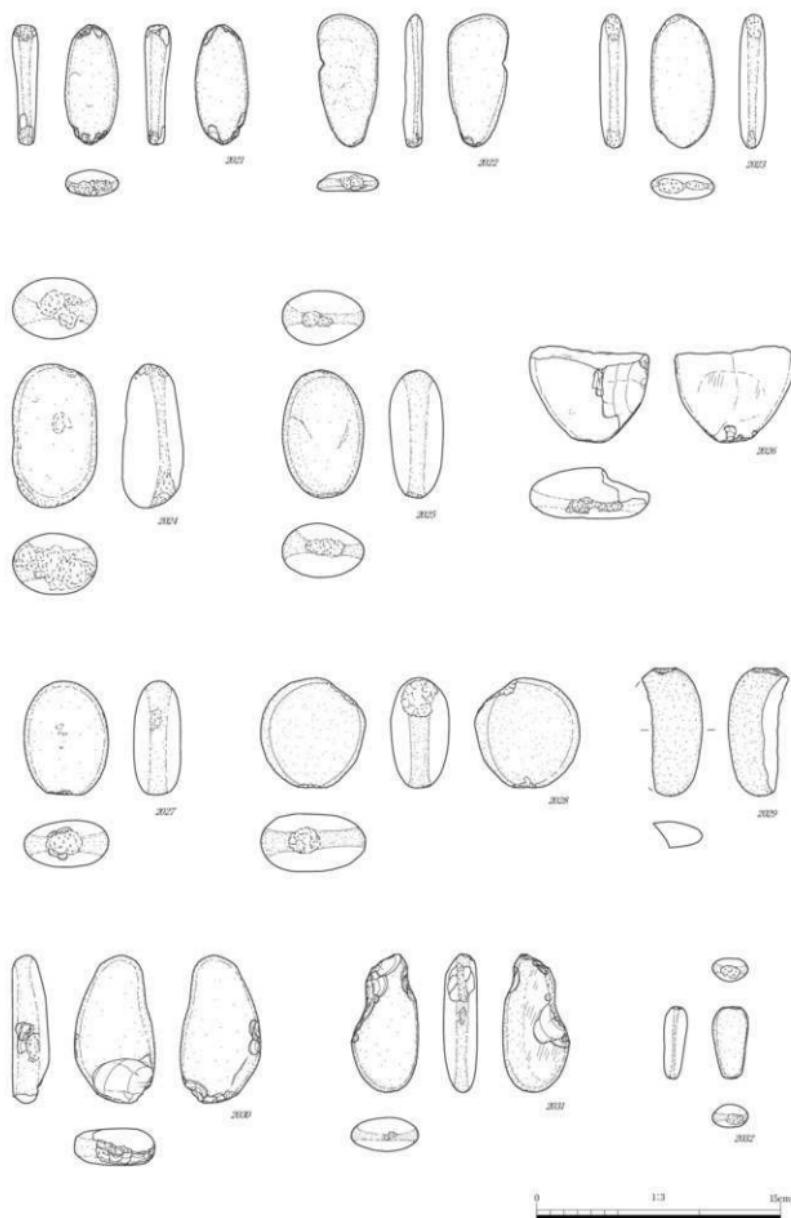
第216図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



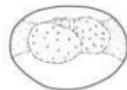
第217図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



第218図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



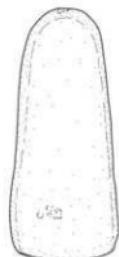
第219図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



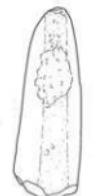
2002



2004



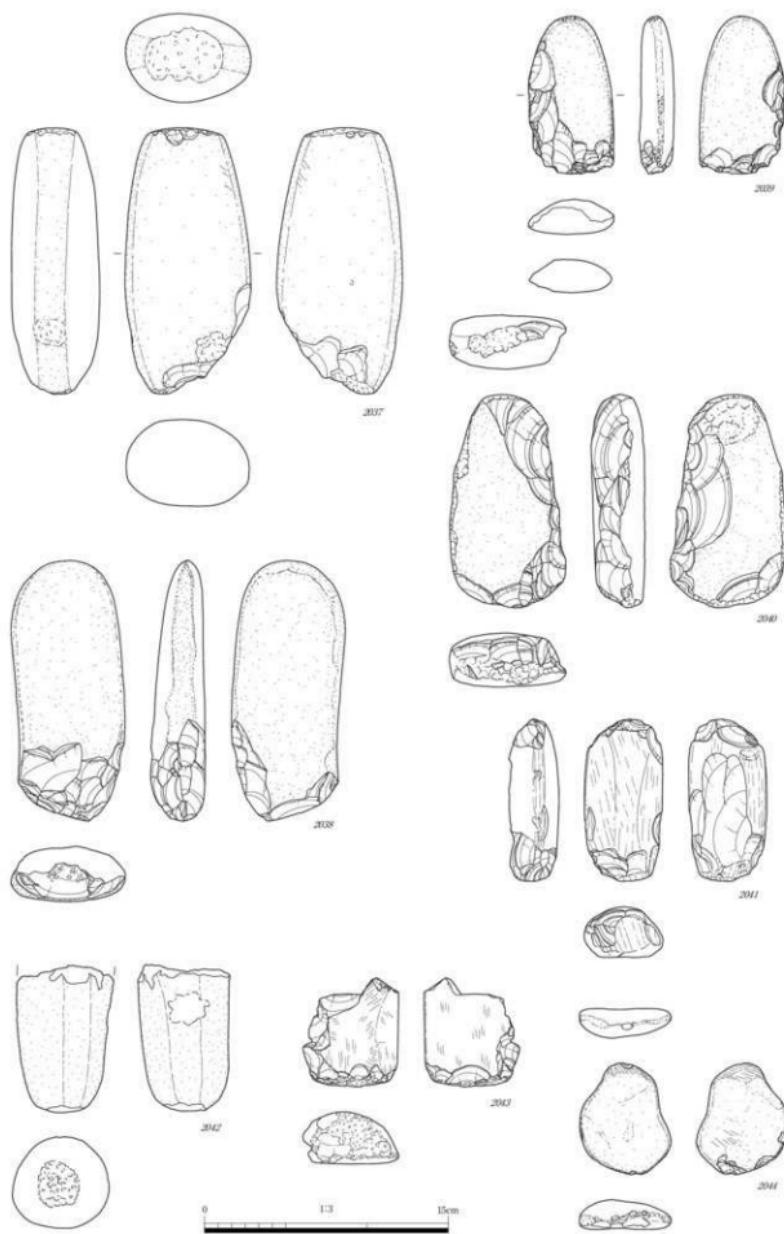
2009



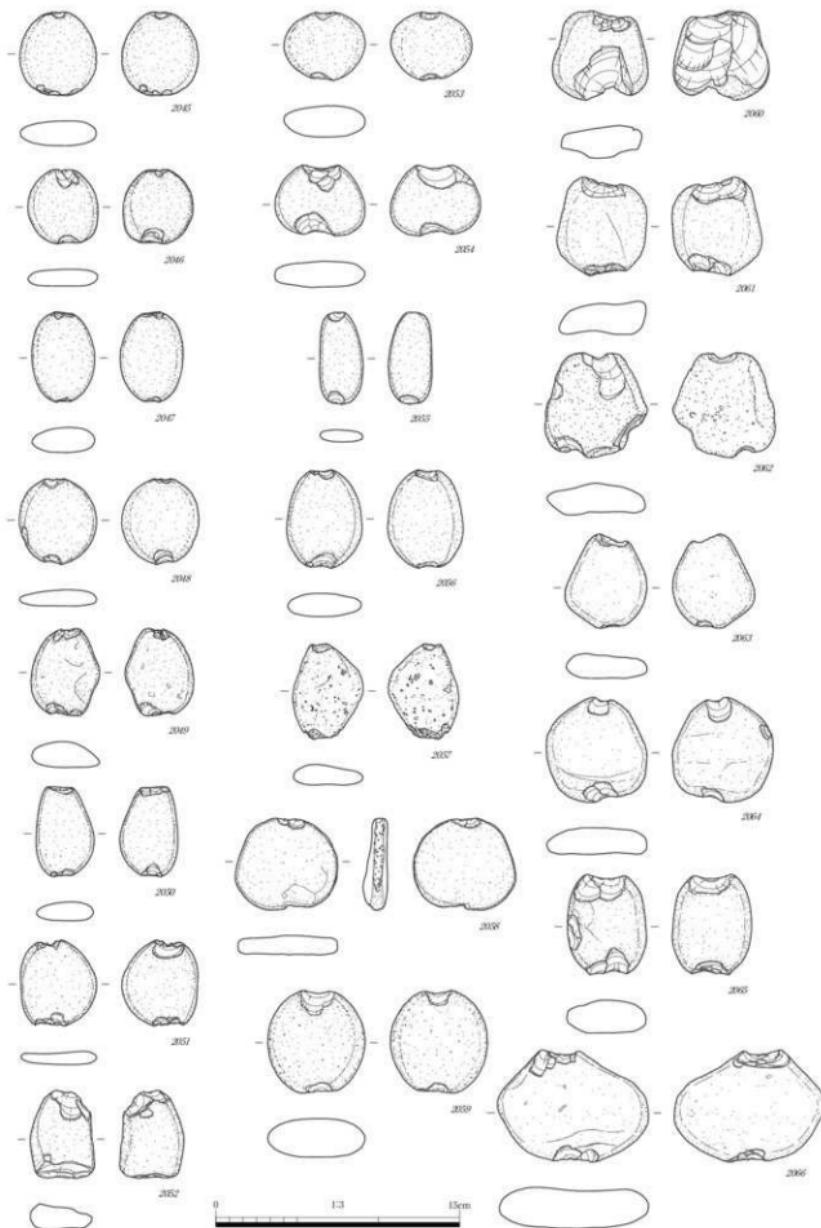
2010



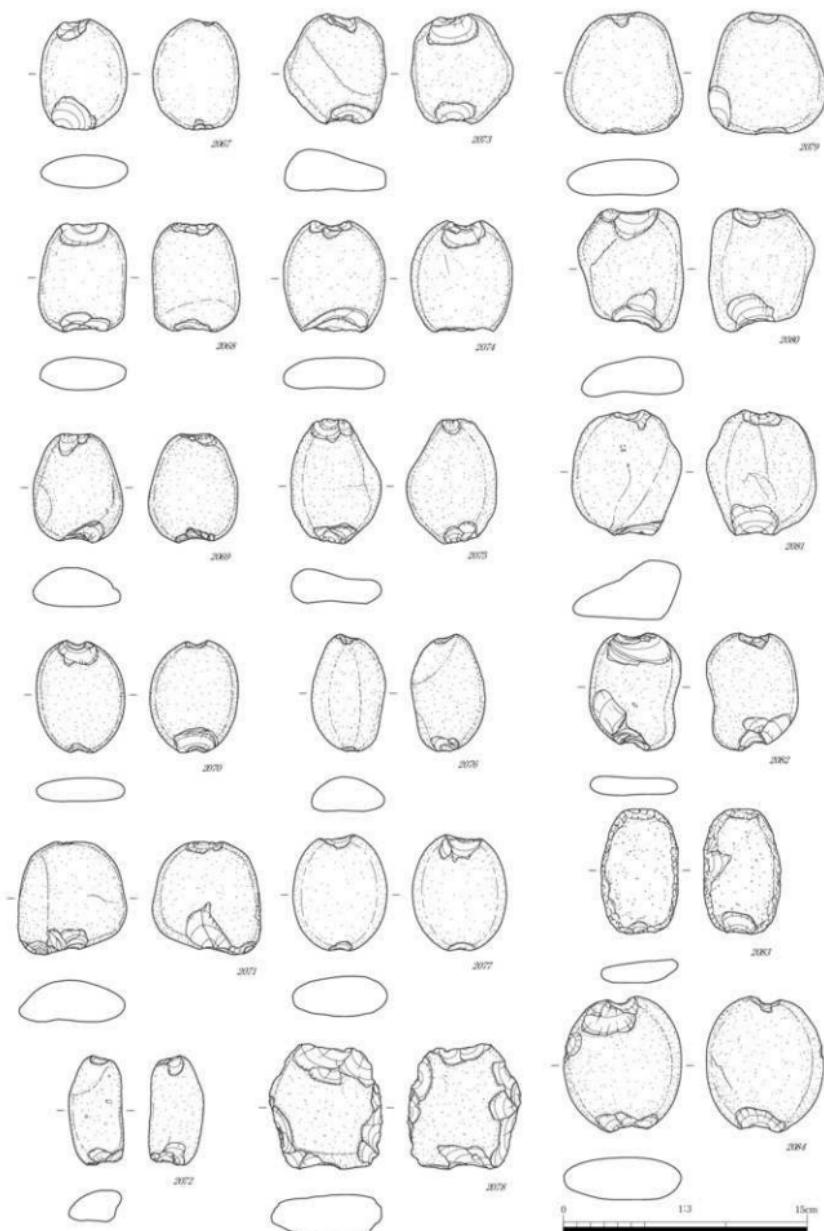
第220図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



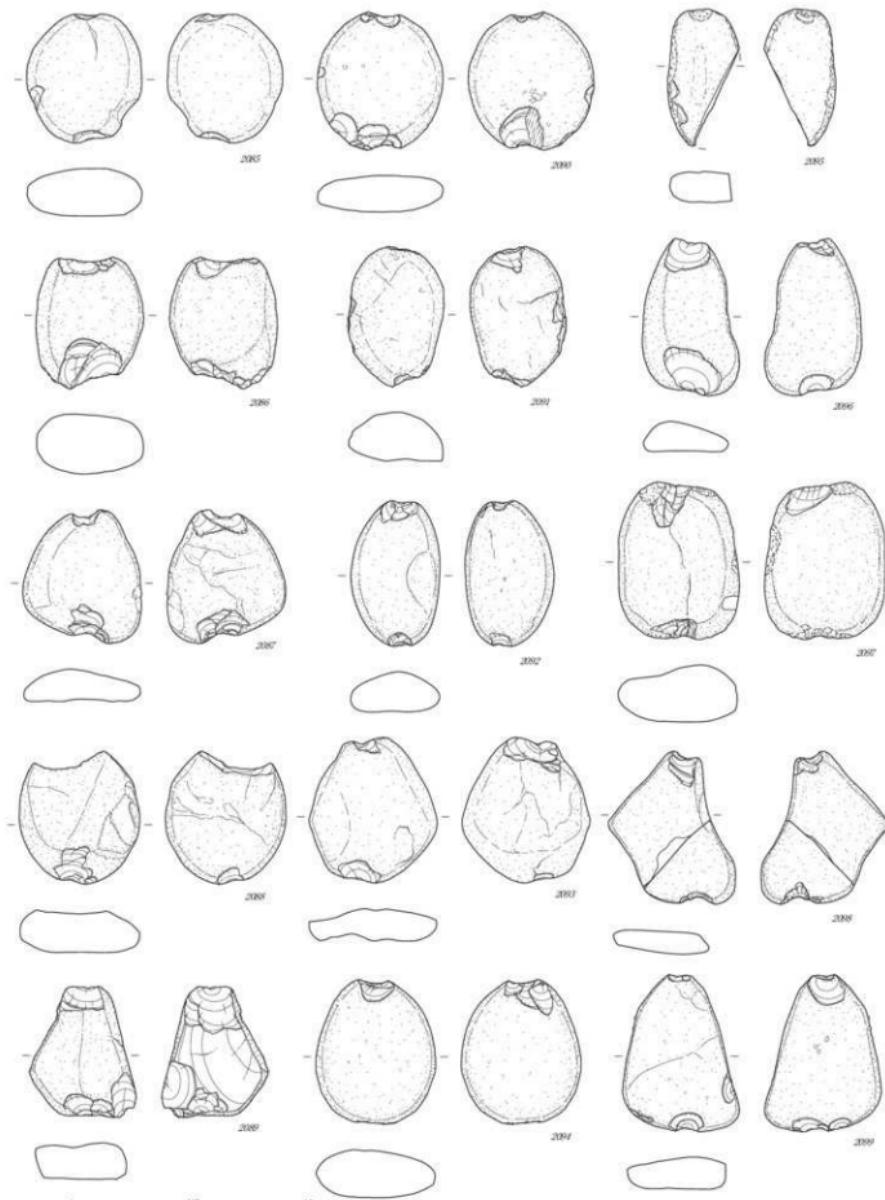
第221図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



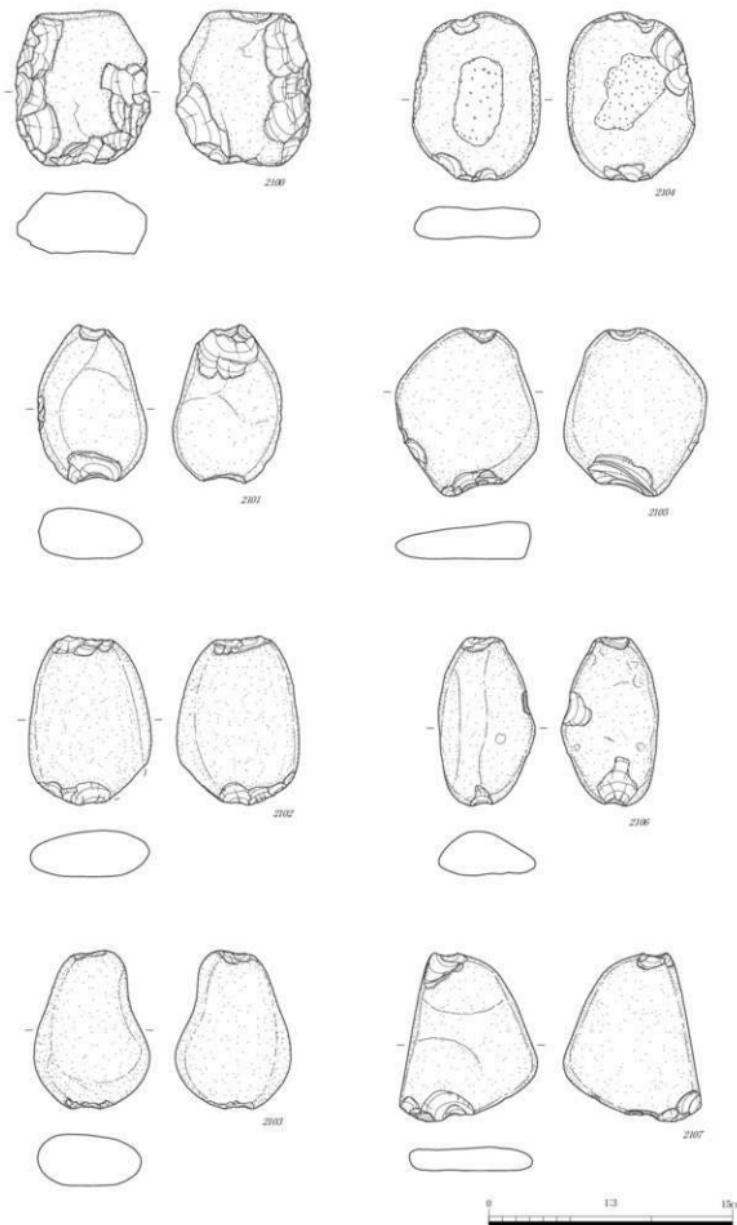
第222図 桶文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



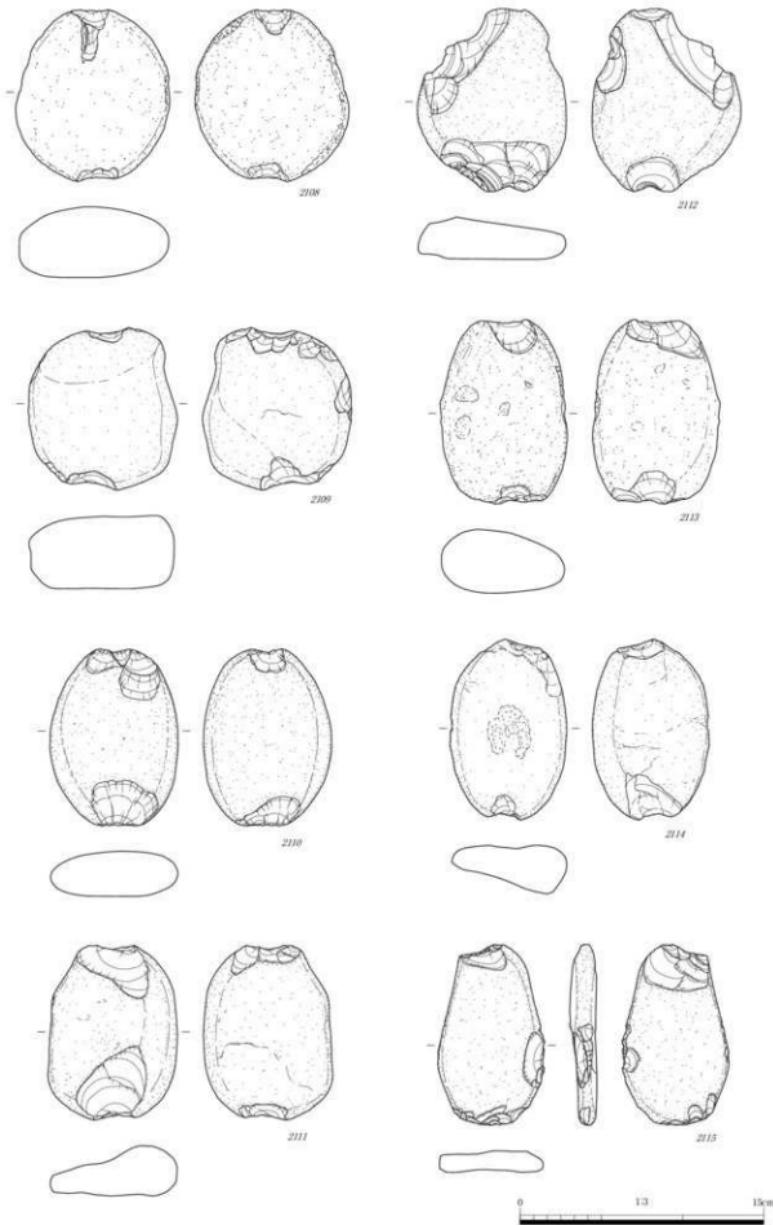
第223図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



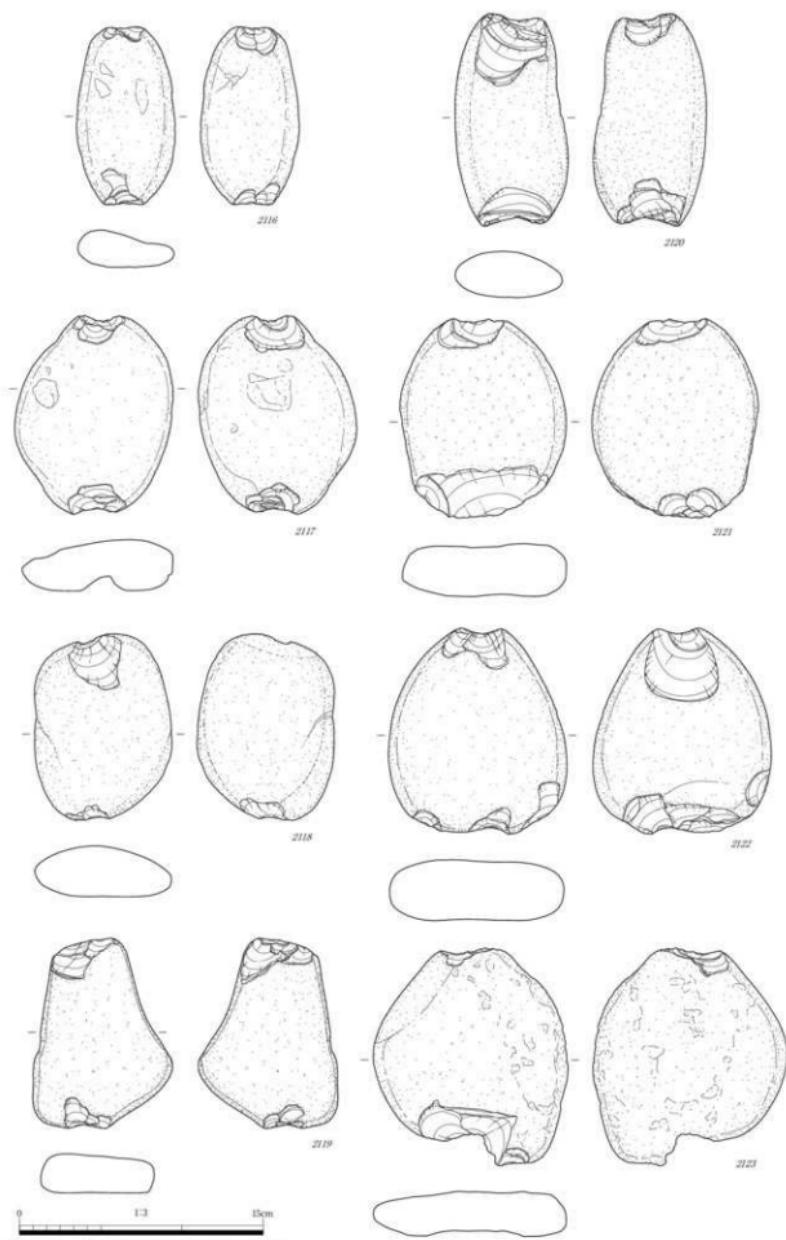
第224図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



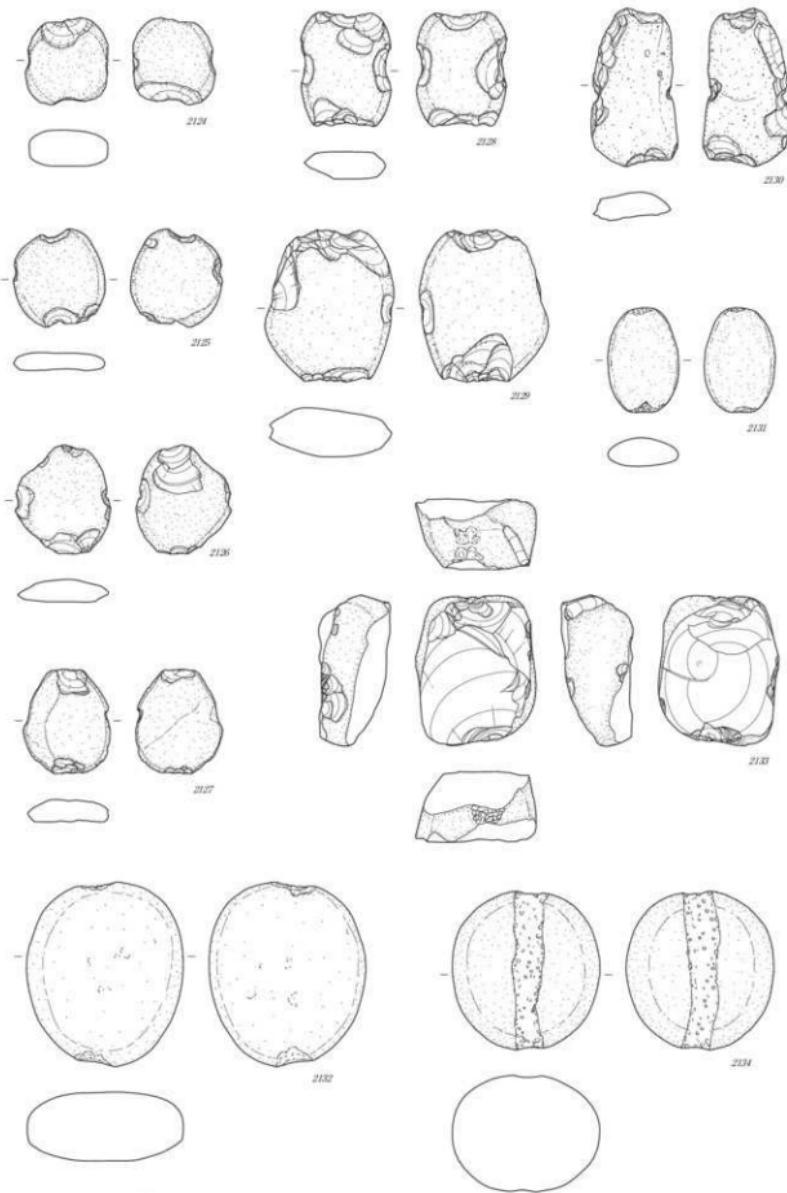
第225図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



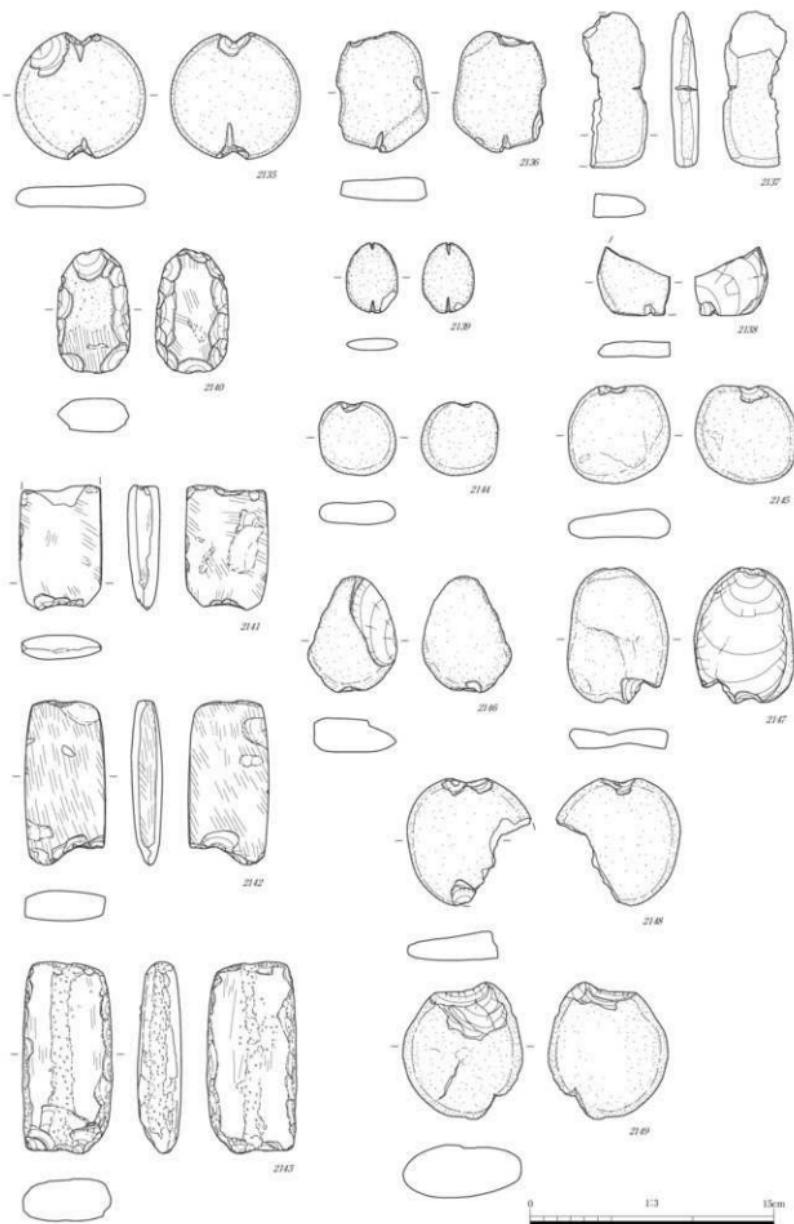
第226図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



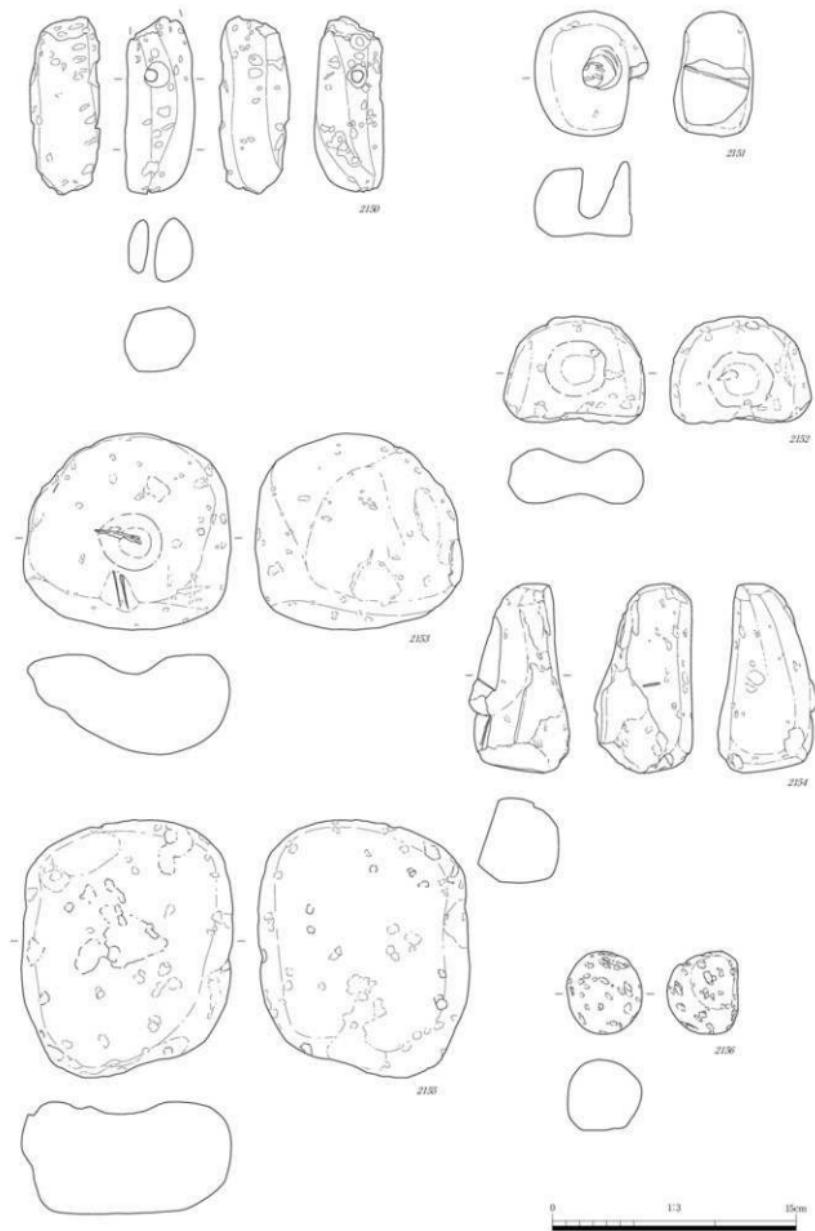
第227図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



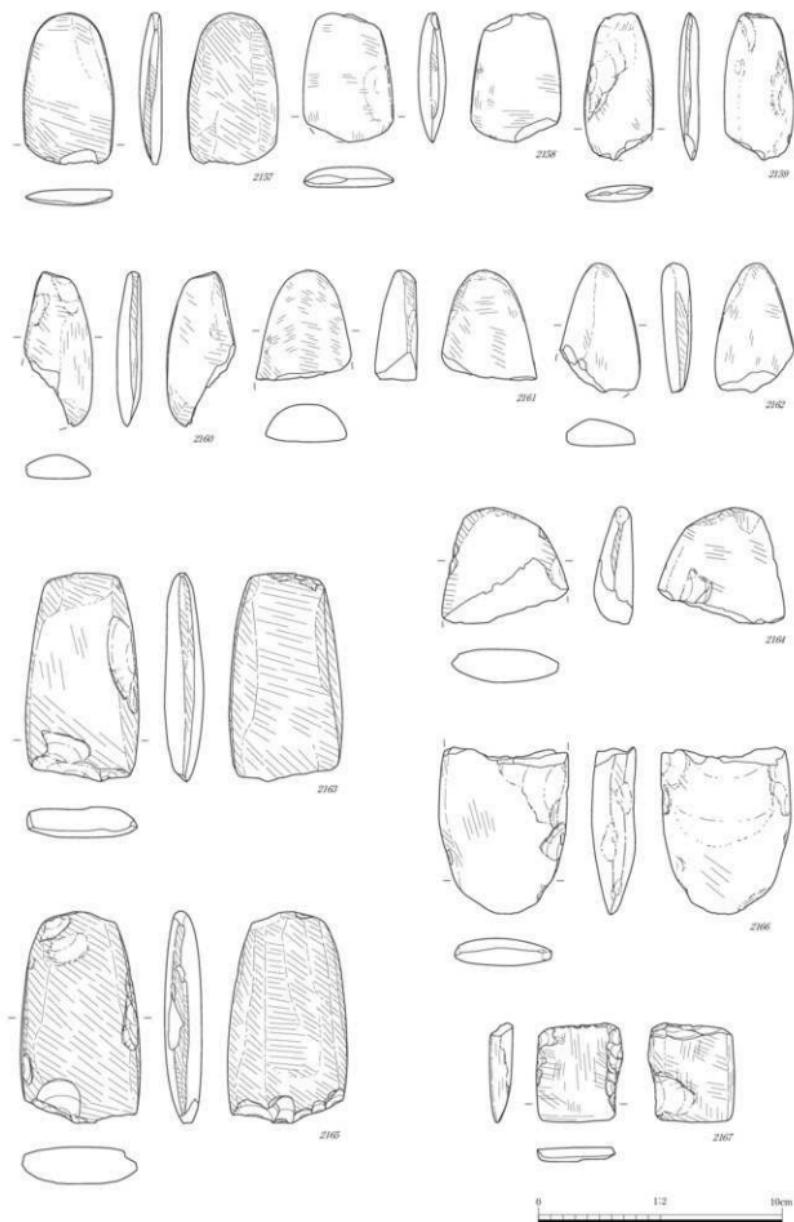
第228図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



第229図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



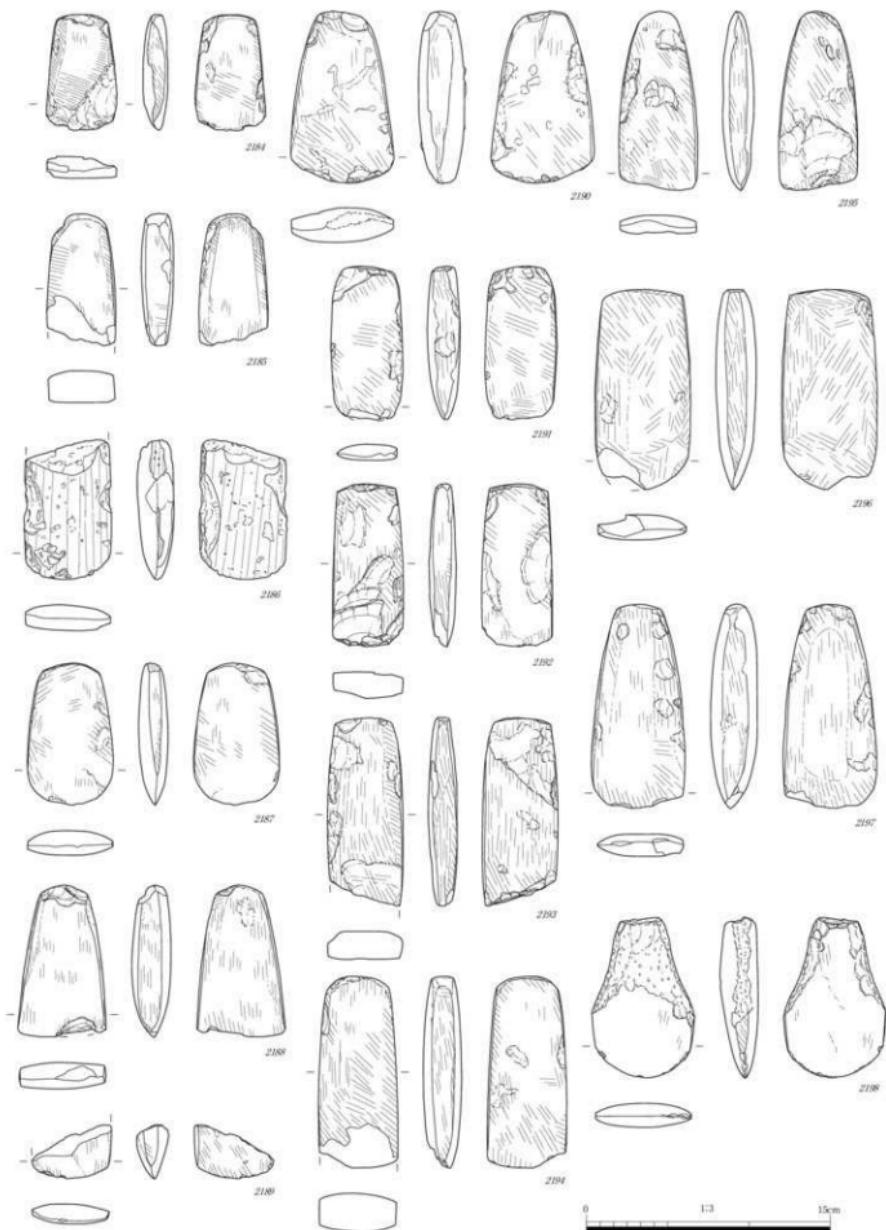
第230図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



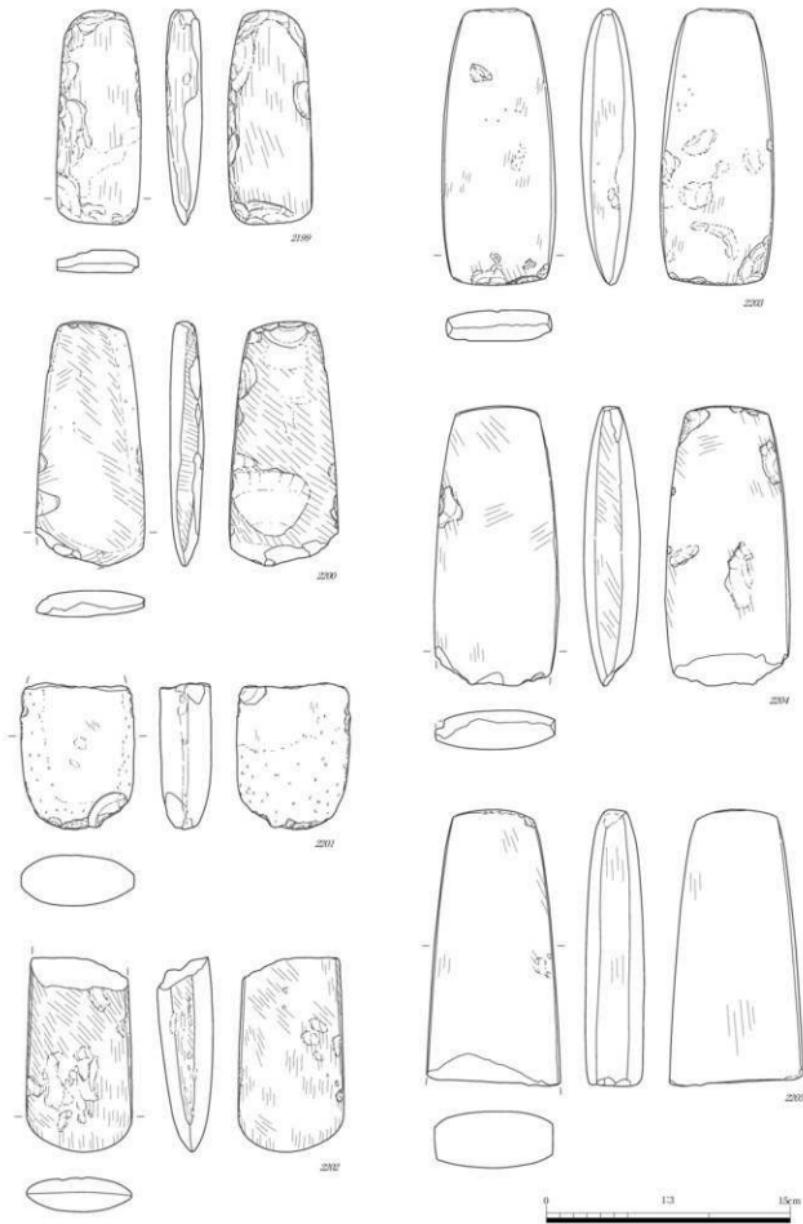
第231図 純文時代遺物実測図 (1/2)  
SD1 石製品



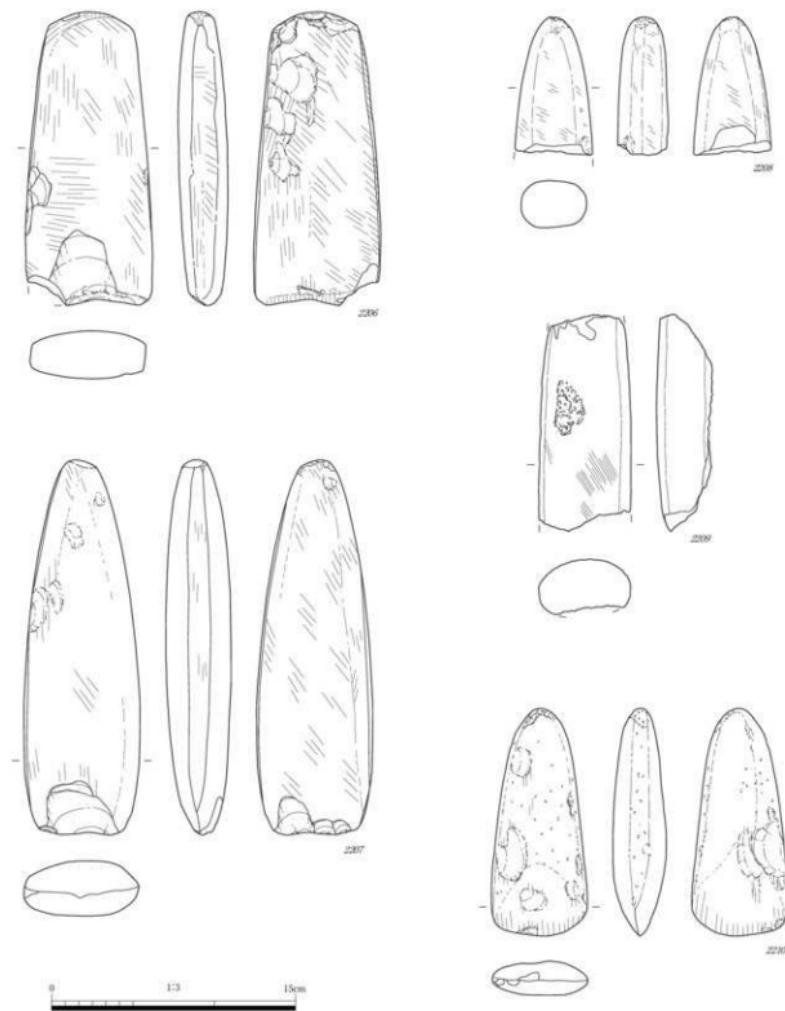
第232図 縄文時代遺物実測図 (1/2)  
SD1 石製品



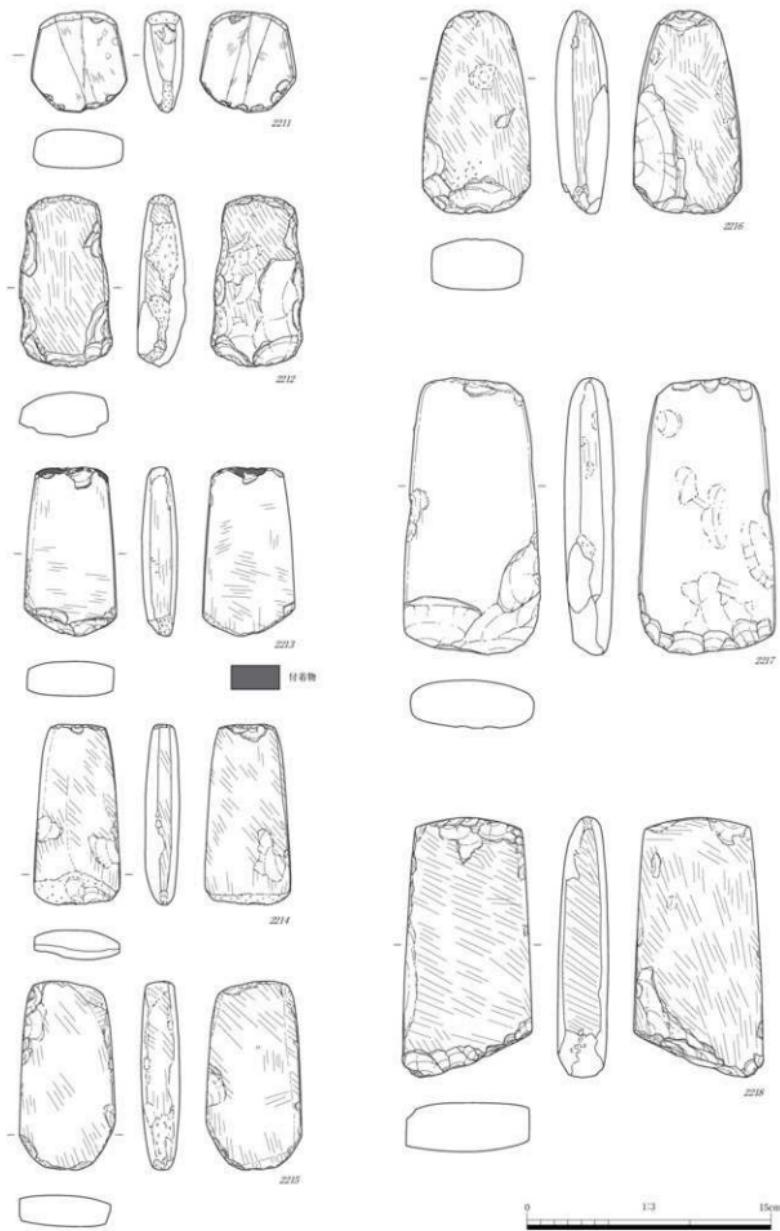
第233図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



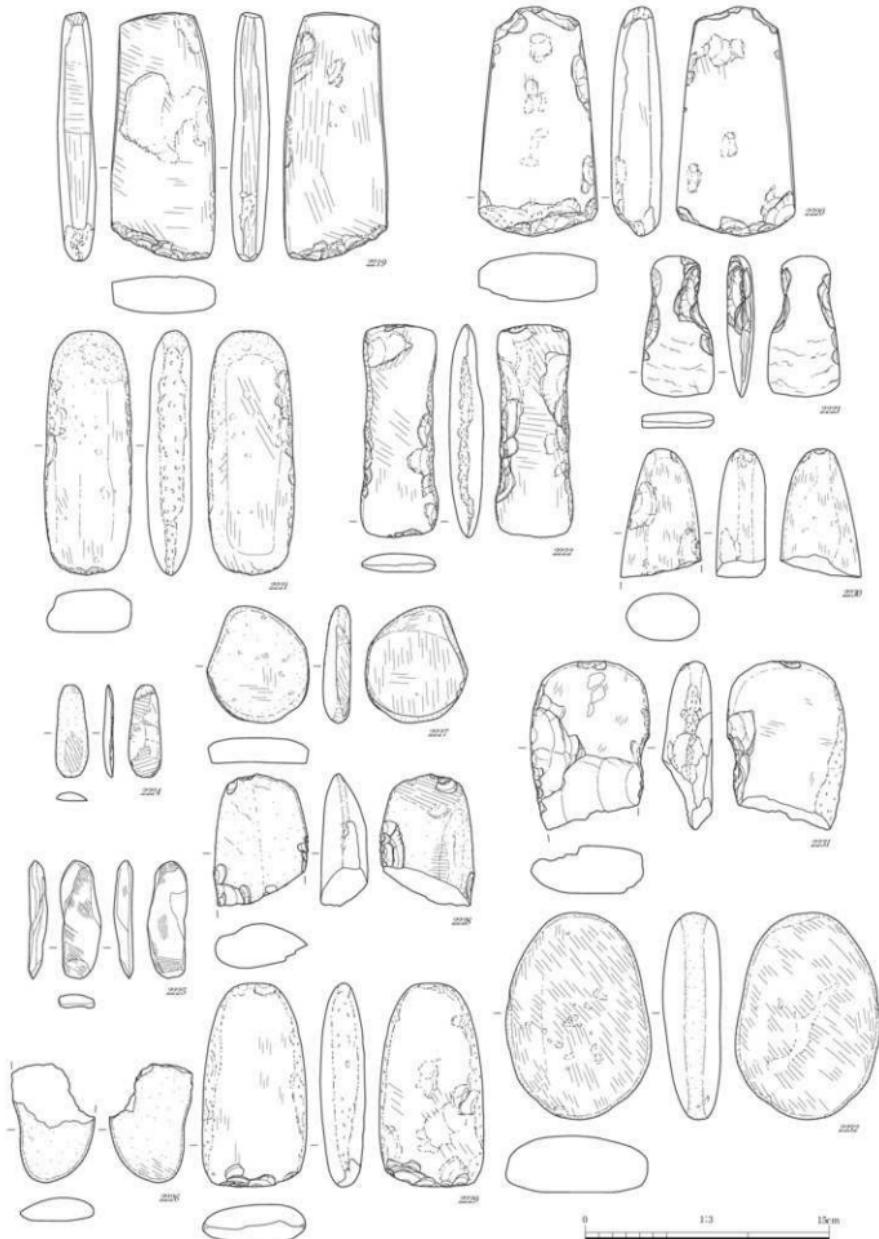
第234図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



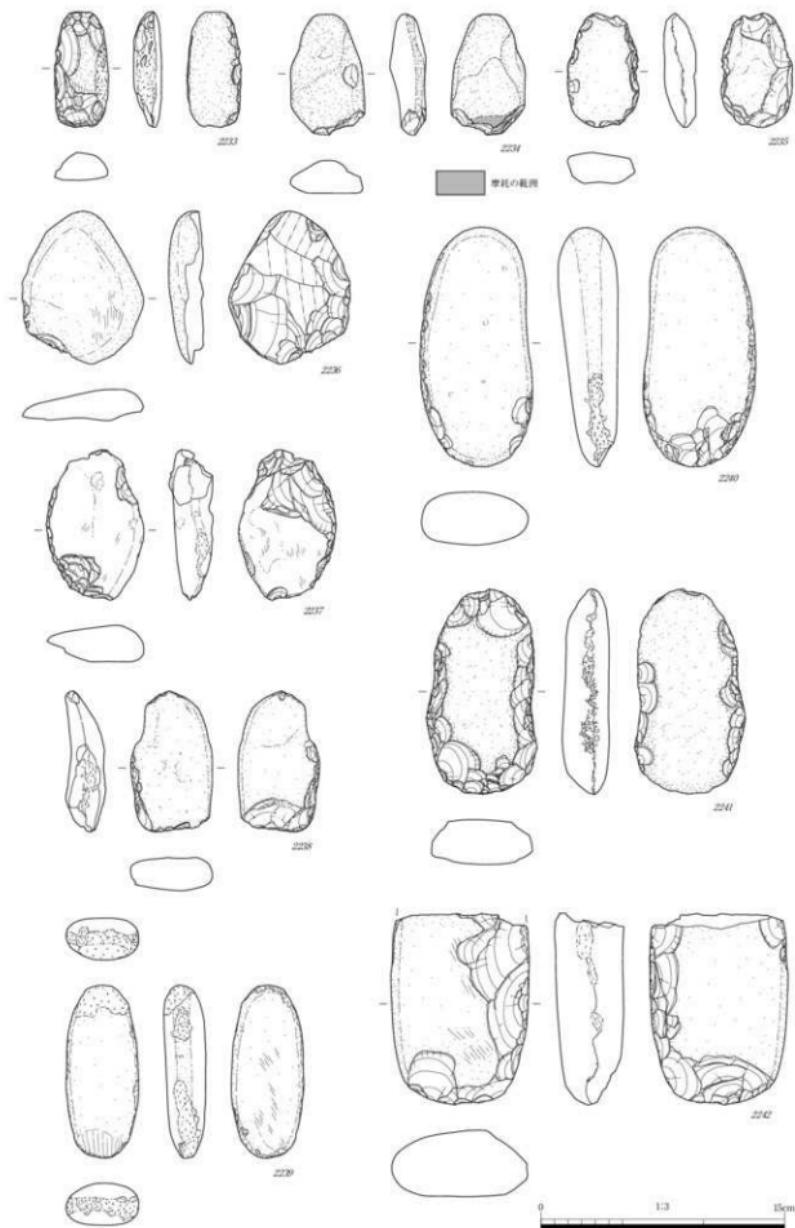
第235図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



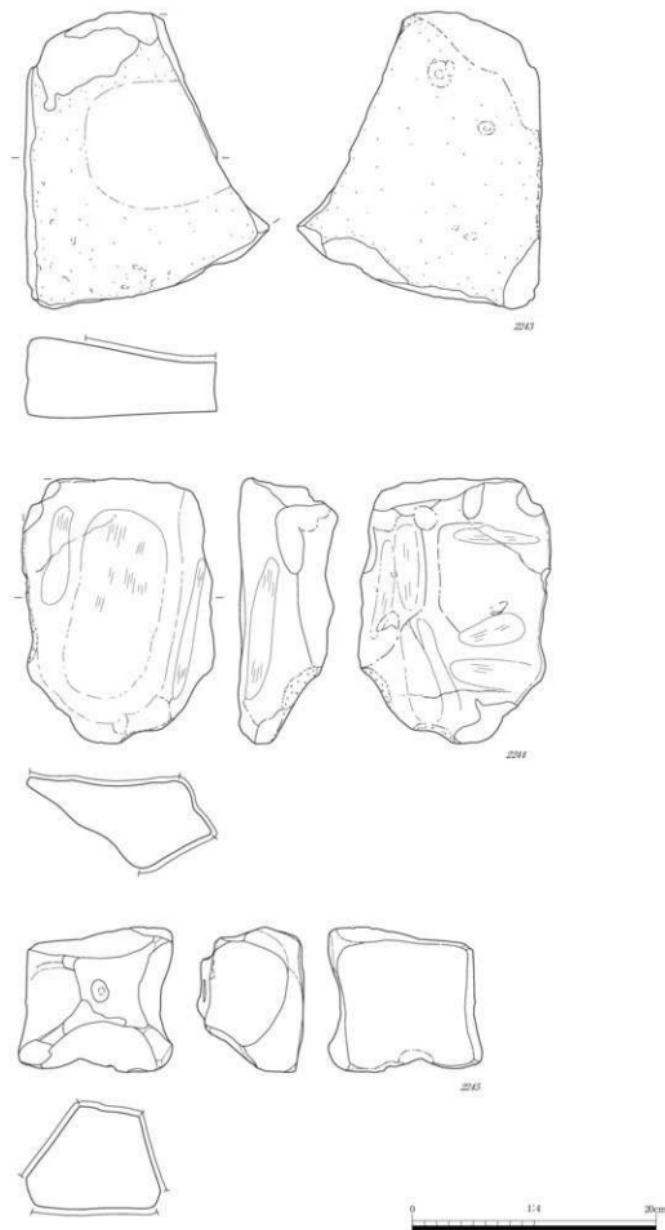
第236図 桶文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



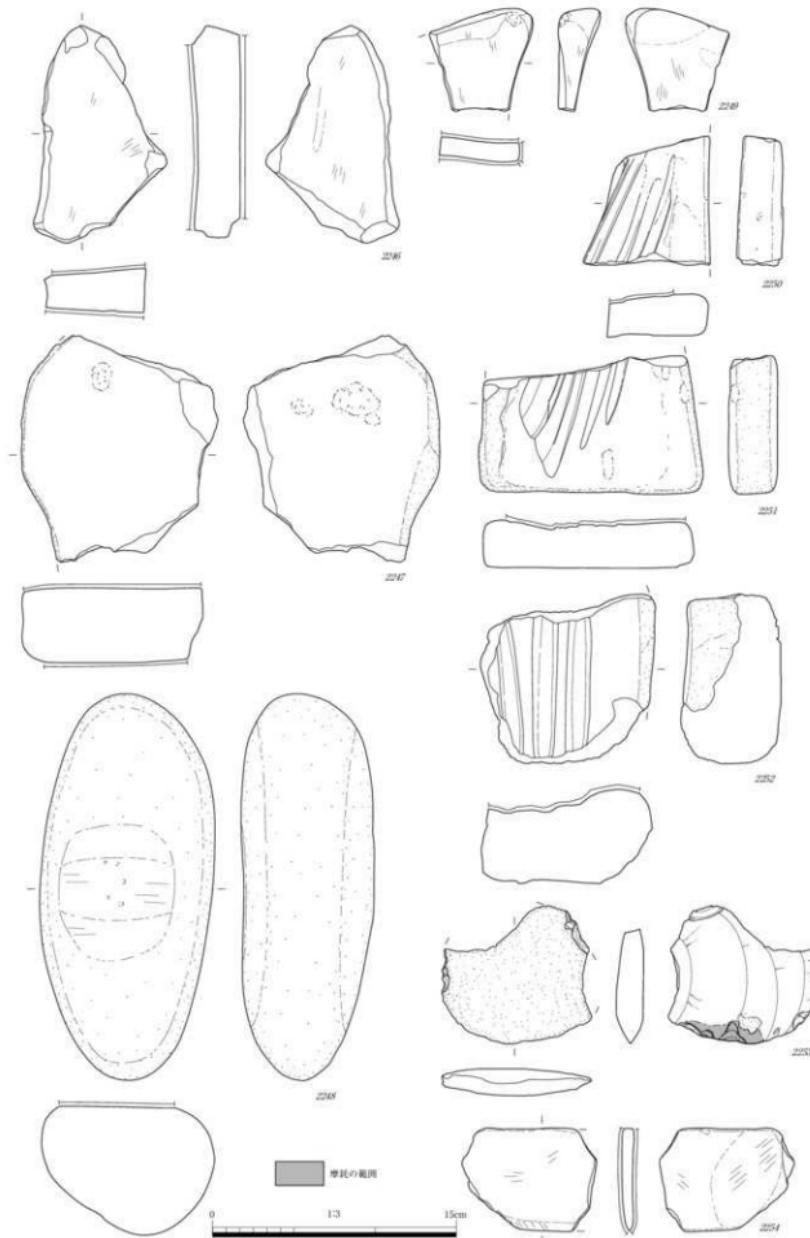
第237図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



第238図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品

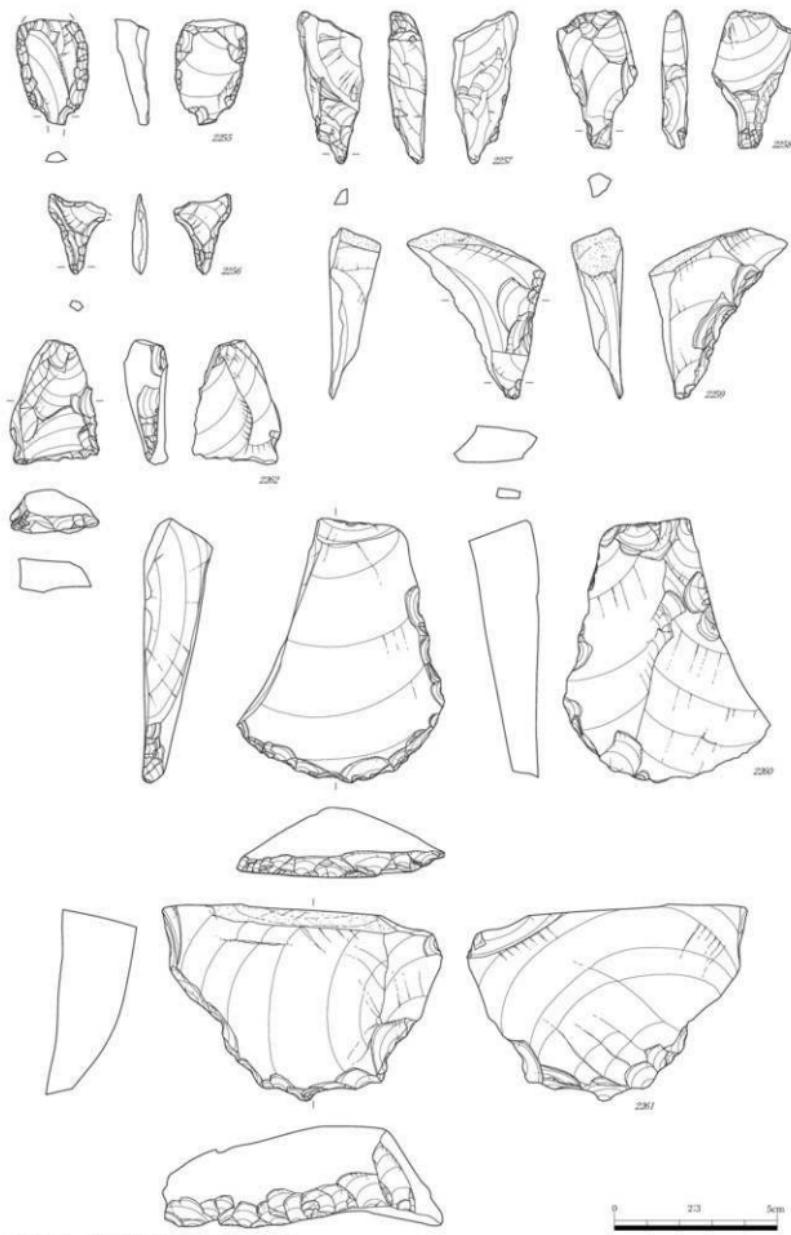


第239図 純文時代遺物実測図 (1/4)  
SD1 石製品

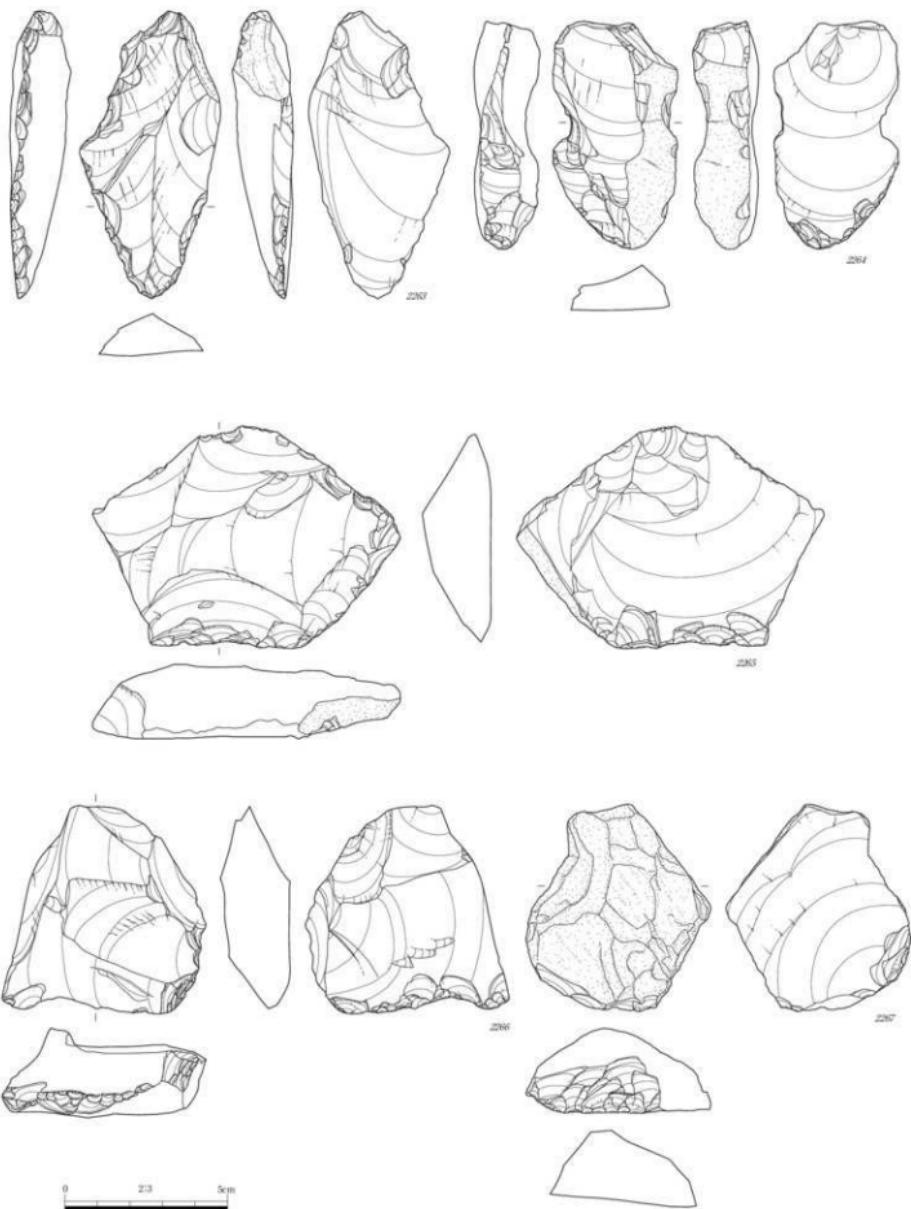


### 第240図 縄文時代遺物実測図 (1/3)

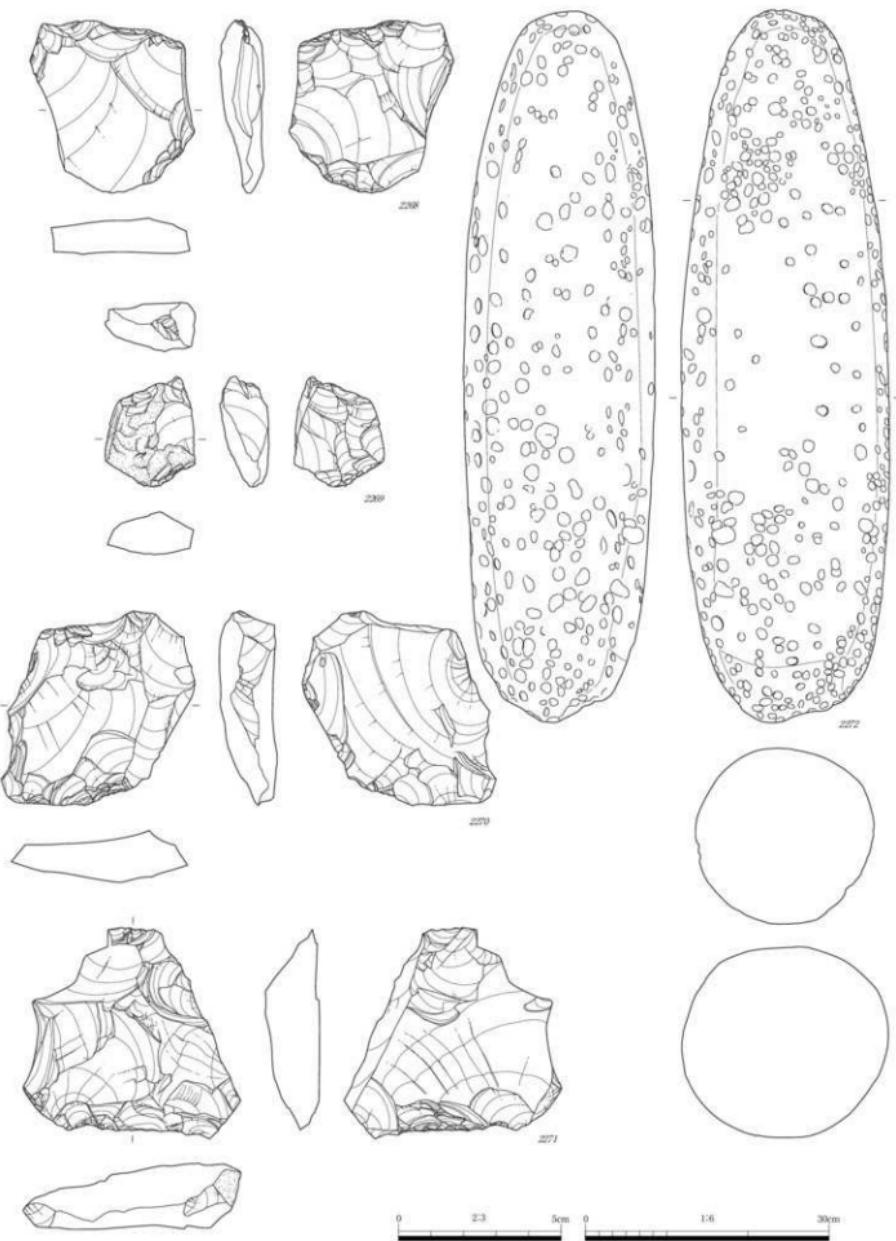
SD1 石製品



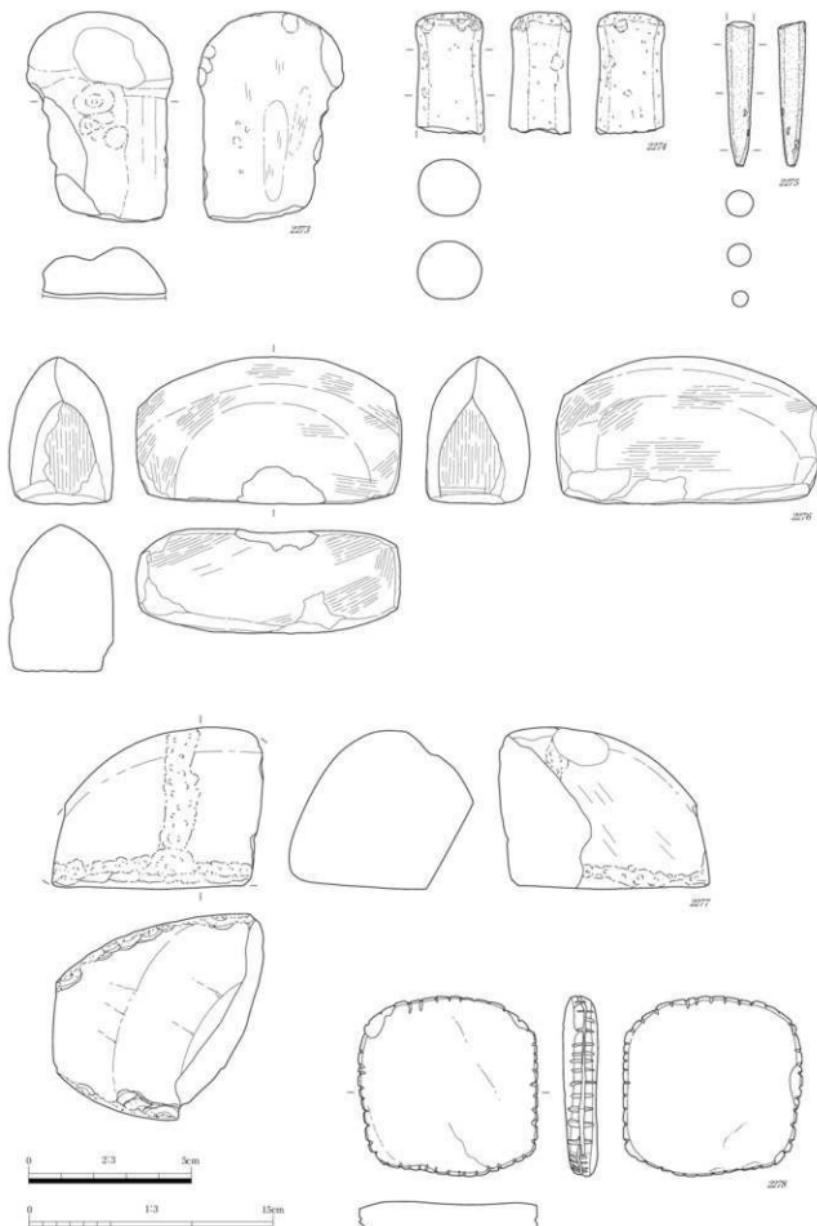
第241図 純文時代遺物実測図 (2/3)  
SD1 石製品



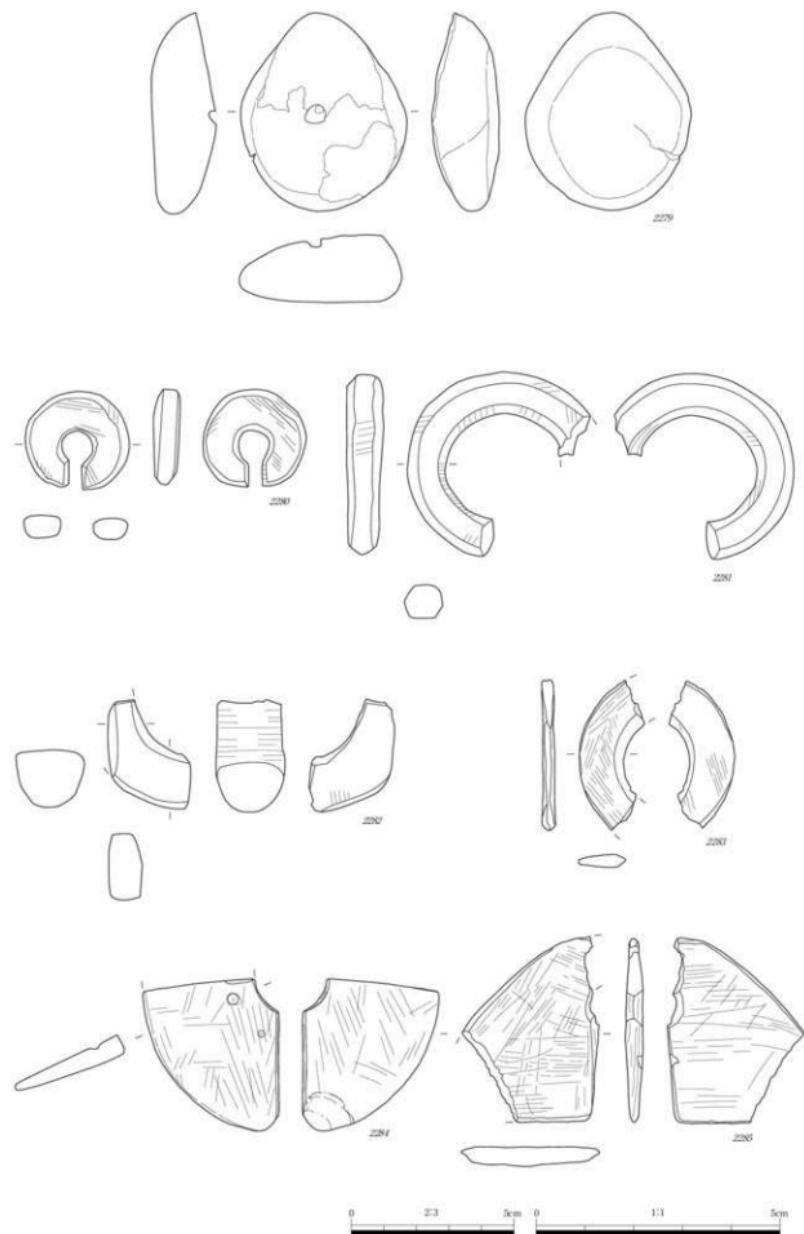
第242図 縄文時代遺物実測図 (2/3)  
SD1 石製品



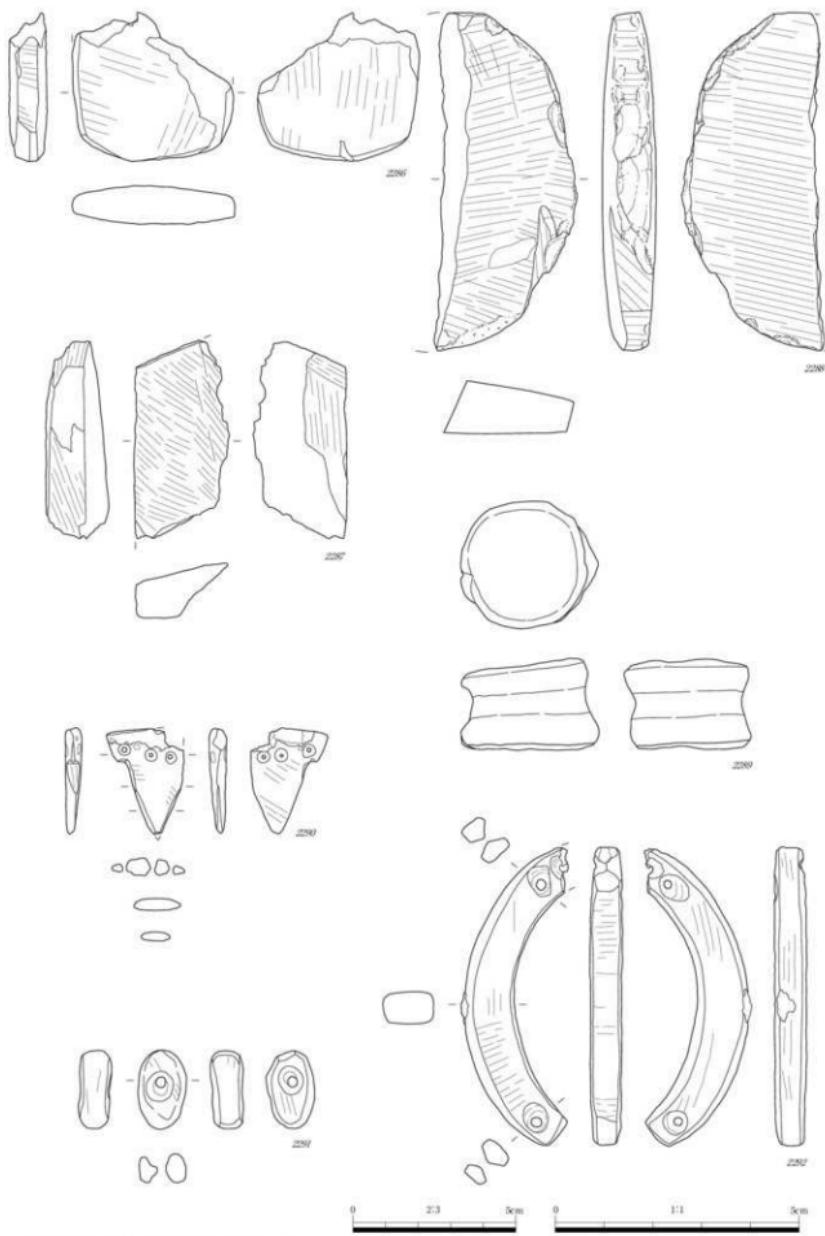
第243図 純文時代遺物実測図 (2268~2271 2/3, 2272 1/6)  
SD1 石製品



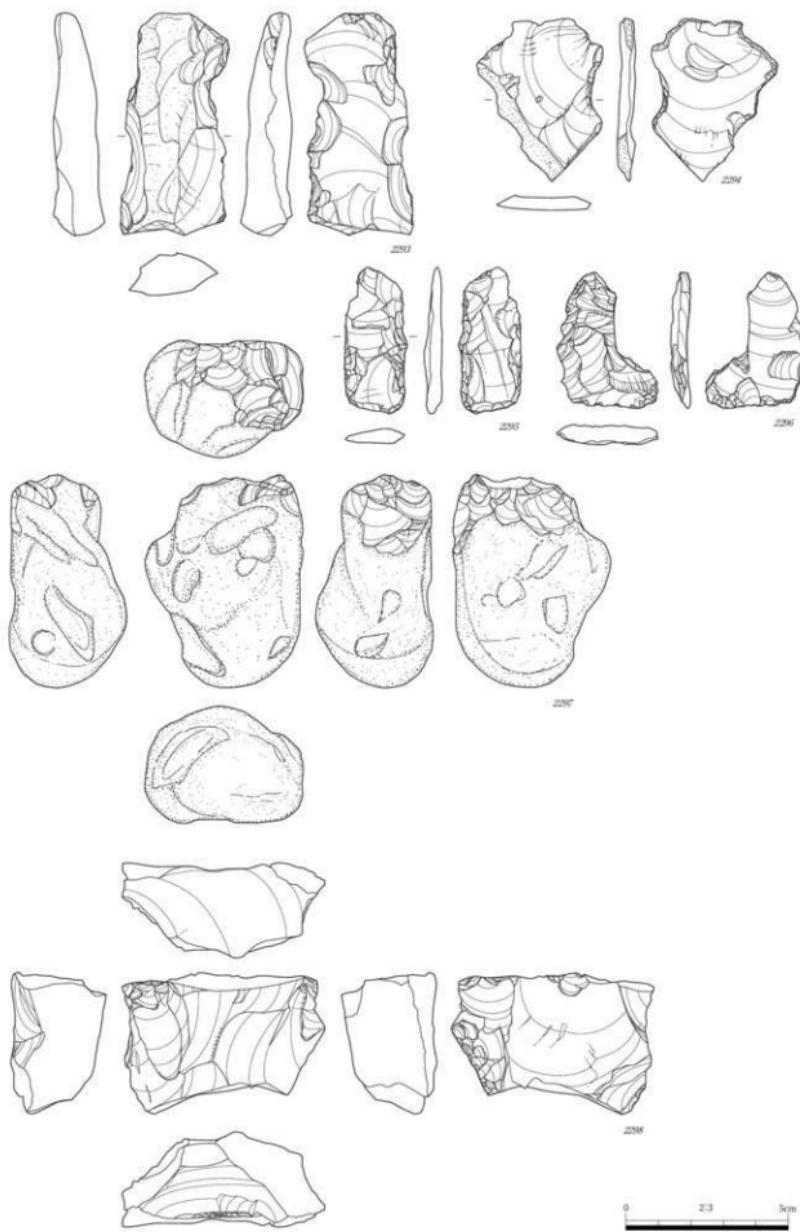
第244図 繩文時代遺物実測図 (2276~2278 2/3, 2273~2275 1/3)  
SD1 石製品



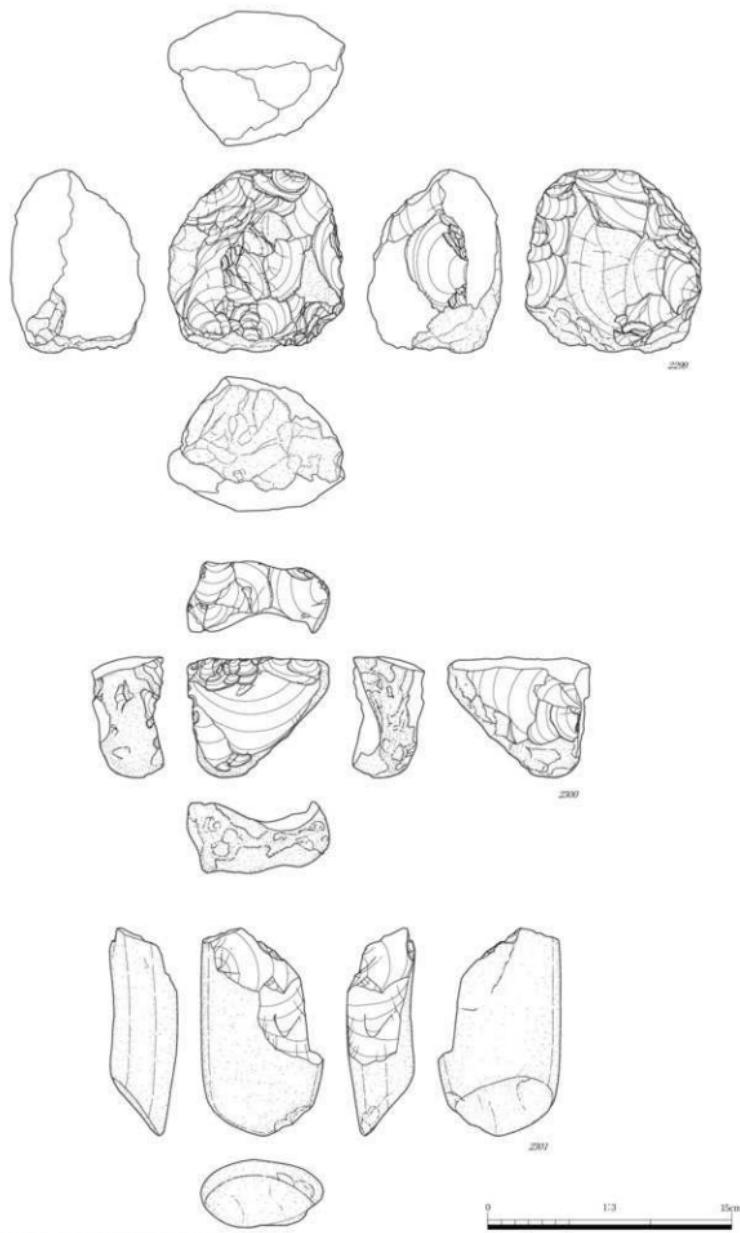
第245図 純文時代遺物実測図 (2280~2285 1/1, 2279 2/3)  
SD1 石製品



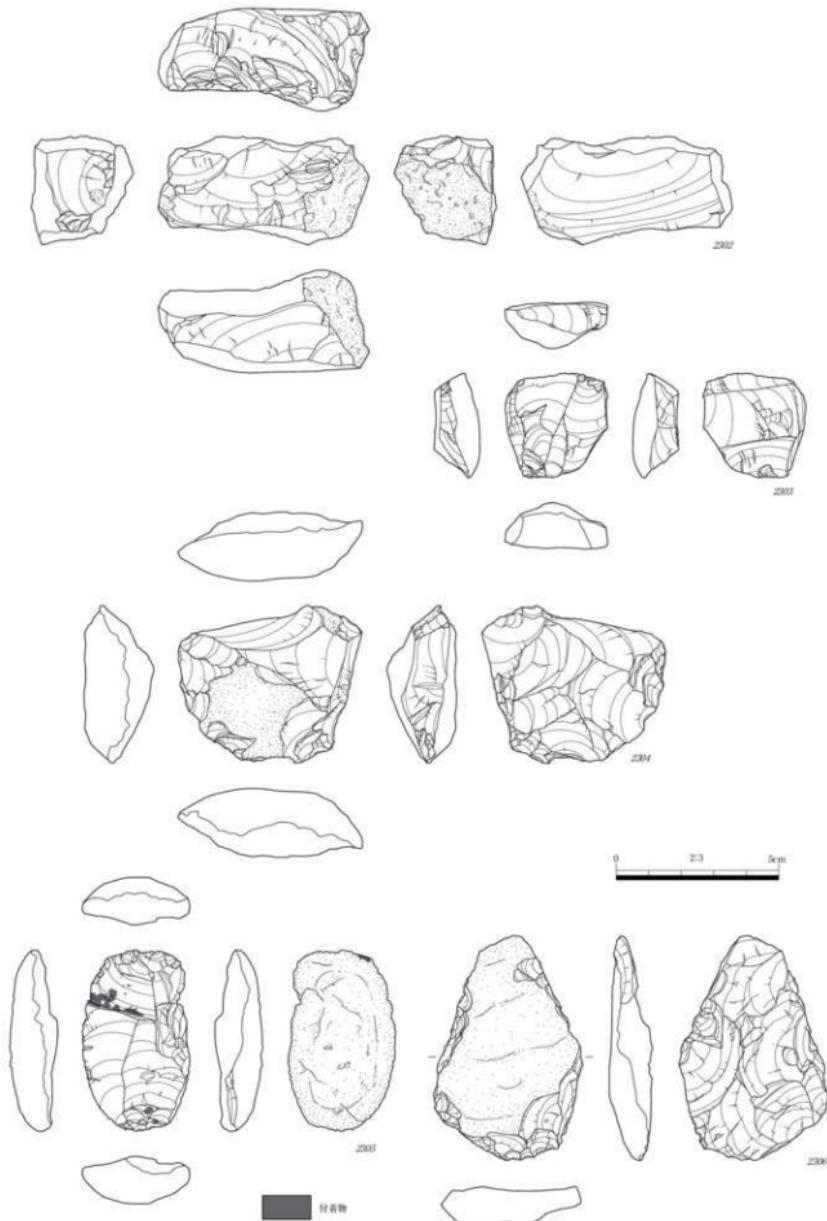
第246図 縄文時代遺物実測図 (2286~2288・2290~2292 1/1, 2289 2/3)  
SD1 石製品



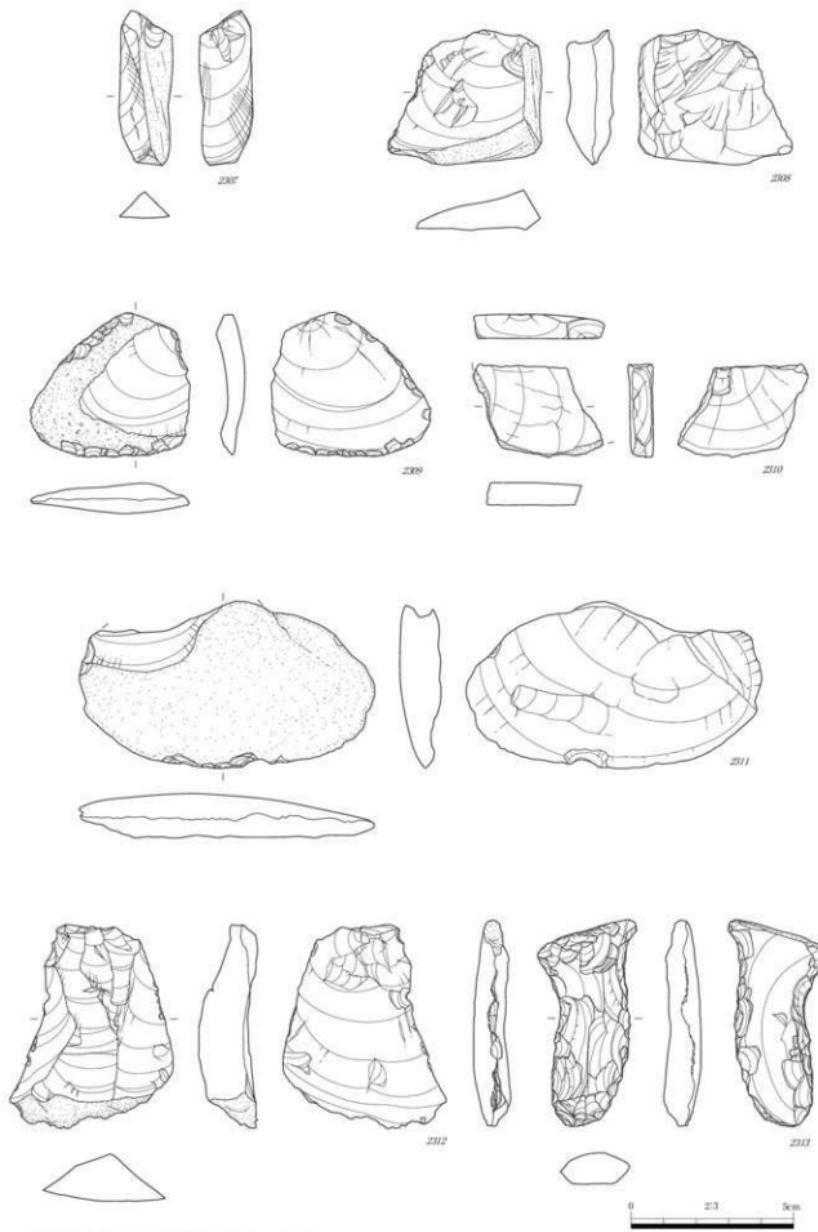
第247図 純文時代遺物実測図 (2/3)  
SD1 石製品



第248図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
SD1 石製品



第249図 純文時代遺物実測図 (2/3)  
SD1 石製品



第250図 繩文時代遺物実測図 (2/3)  
SD1 石製品

## (6) 骨角器 (2314~2340, 第251~255図, 図版173・174)

1号谷のa~c断面付近(X128~140Y60~63列)の下層から主に出土した。この範囲は、骨貝類が集中して出土し、自然科学分析試料として土壤を採取した箇所とも重複する(第11図)。骨角器の器種名、素材の部位、加工及び使用法等については、金子浩昌氏、内山純蔵氏、富岡直人氏、渡辺誠氏、高橋哲氏よりご教示をいただいた。骨角器の素材として用いた骨の同定は株式会社古環境研究所に委託し、納屋内高史氏が同定を行った。

**ヤス状刺突具 (2314)** 両端部を細く加工するが、下先端をより尖らせて刺突部とする。上半部には斜めの擦痕があり、着柄の滑り止めの加工と考えられる。シカの中手・中足骨製の可能性がある。

**刺突具I (2315)** シカかイノシシの四肢骨を素材とする。裏面には骨の自然面を残すが、先端部は3面を磨いて尖らせる。

**刺突具II (2316・2317)** 2316は両面を磨き、裏面に自然面を僅かに残す。シカの中手・中足骨製の可能性がある。2317はニホンジカの脛骨を素材とする。先端を尖らせているため刺突具としたが、機能不明である。

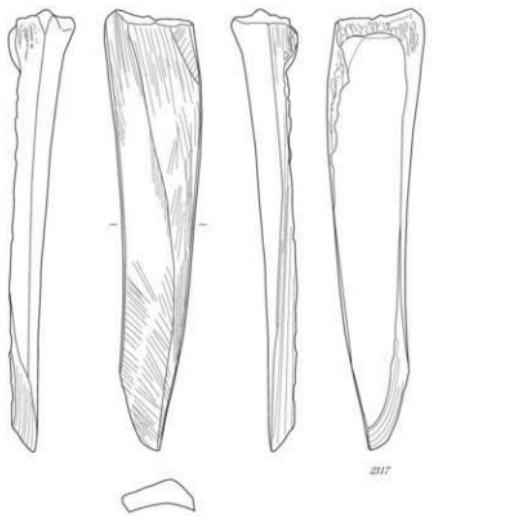
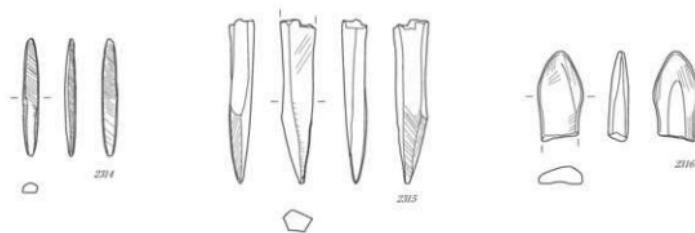
**骨角器未成品 (2318~2322)** 切断痕が残る鹿角である。石器などで溝を入れ、折り取っている。2318・2319はいずれも角座が残るもののが根本が滑らかであり、落角したものを探取して加工したものと考えられる。

**髪針 (2323~2333)** 形態から、軸頂部の装飾部がないa型(2323~2325)、軸頂部に装飾部をもつb型(2327・2329・2332・2333)に分類され、2326・2328・2330・2331は基体部のみが残存する。a型はいずれもニホンジカの中手・中足骨を素材とするものと考えられ、ほぼ全面を研磨する。b型は、単純型(2327)、頂部装飾帯の幅が広い型(2329・2332)、穿孔型(2333)に分けられる。2327は上下両端を欠損するが、軸頂部に近い部位であろう。両側に抉りを入れる。2329・2332は鋸歯状の線刻を施す。線刻は鋭い工具によるもので、線刻断面形はV字状となっている。2329は小型の製品で、欠損範囲が大きいものの摩滅が無く、精密な線刻が観察できる。被熱のため黒く変色する。2332はニホンジカの中手・中足骨を素材とするものか。2333は頂部をつくりだし、浅く窪ませた中央を穿孔する。頂部下の欠損部位には二次的に磨きを加えており、垂飾へ転用するための加工と考えられる。素材は鹿角の可能性がある。基体部のみ残存する2328は鹿角製であるが、被熱して黒色を呈する。丸棒状で光沢がある。

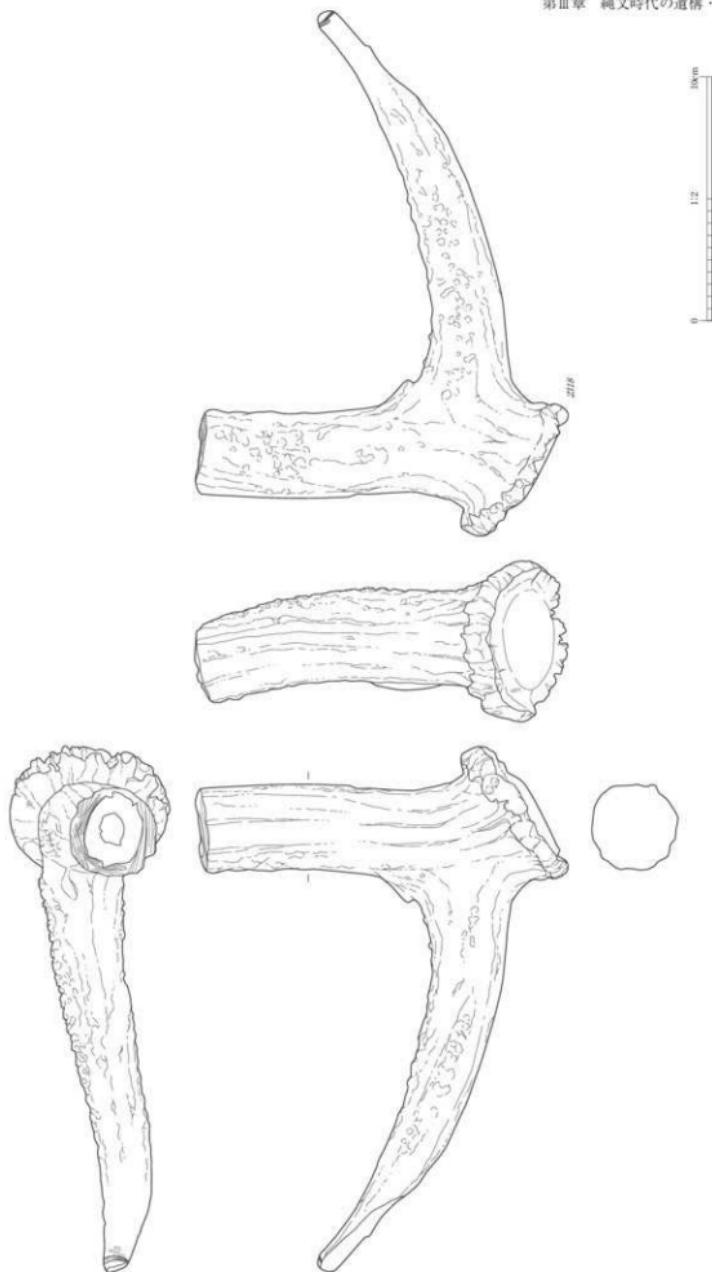
**垂飾状歯牙・骨角製品 (2334~2337)** 2334・2335はイノシシ犬歯の加工品である。いずれも歯のエナメル質が光沢を保つ。2334は中央に大きく穿孔する。2336・2337は軟骨魚類の椎骨中央に穿孔したものである。

**札状加工垂飾 (2338)** 哺乳類の骨を切断して扁平に加工したものである。表面の左側に稜線を持つて折れ曲がる。図示したようにこの稜線を縦に配置すると、二等辺三角形状となるようである。中央の頂点からやや下がった両側面を抉り、左側面に2孔を穿つ。

**その他 (2339・2340)** 2339は未詳品とした。ニホンジカの胸骨を素材とし、表裏に擦痕がみられる。2340は鹿角製品である。中央に穿孔するが、貫通はしない。上下端は折損する。

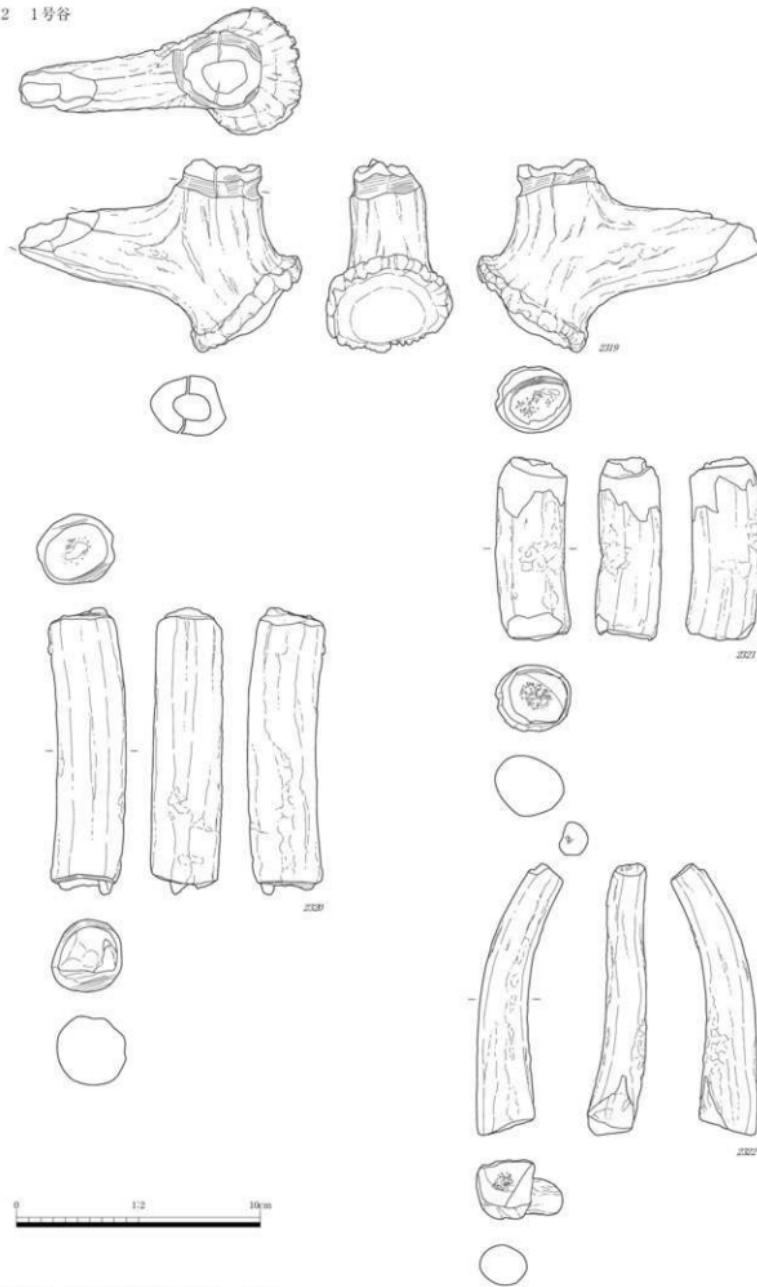


第251図 繩文時代遺物実測図 (2316 1/1, 2314・2315・2317 2/3)  
SD1 骨角器

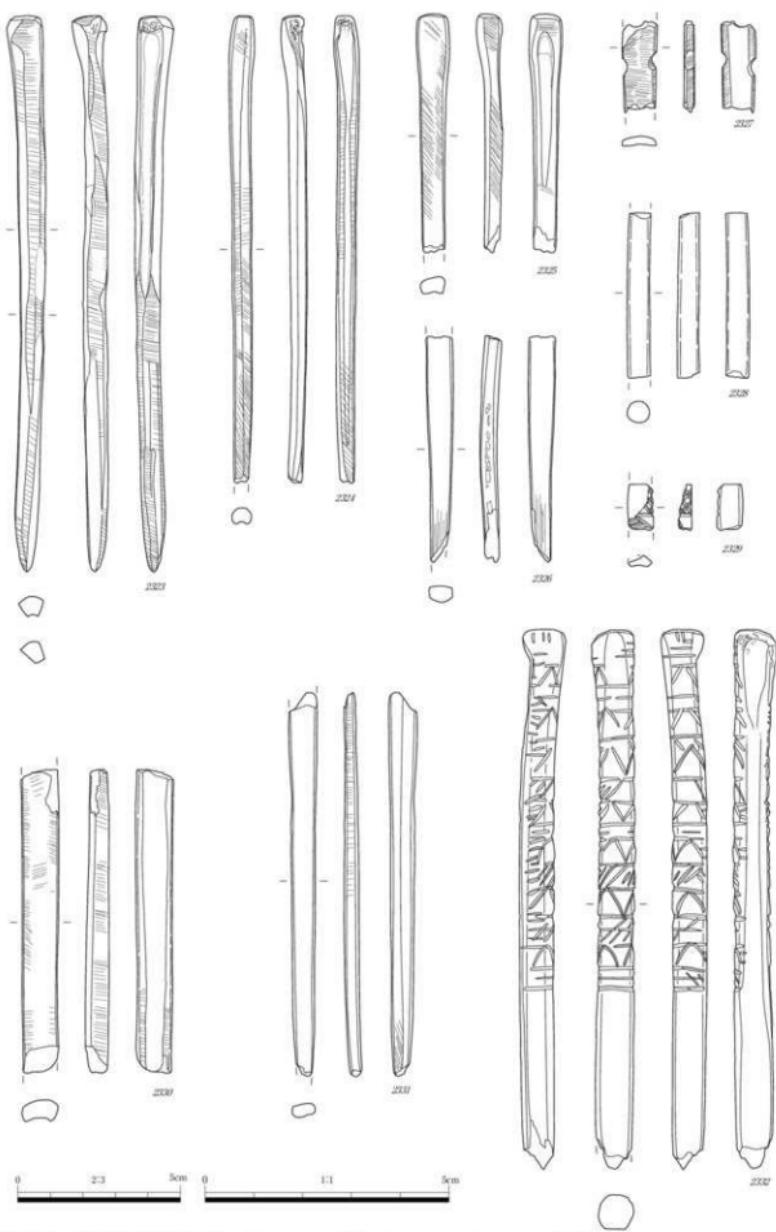


第252図 純文時代遺物実測図 (1/2)  
SD1 骨角器

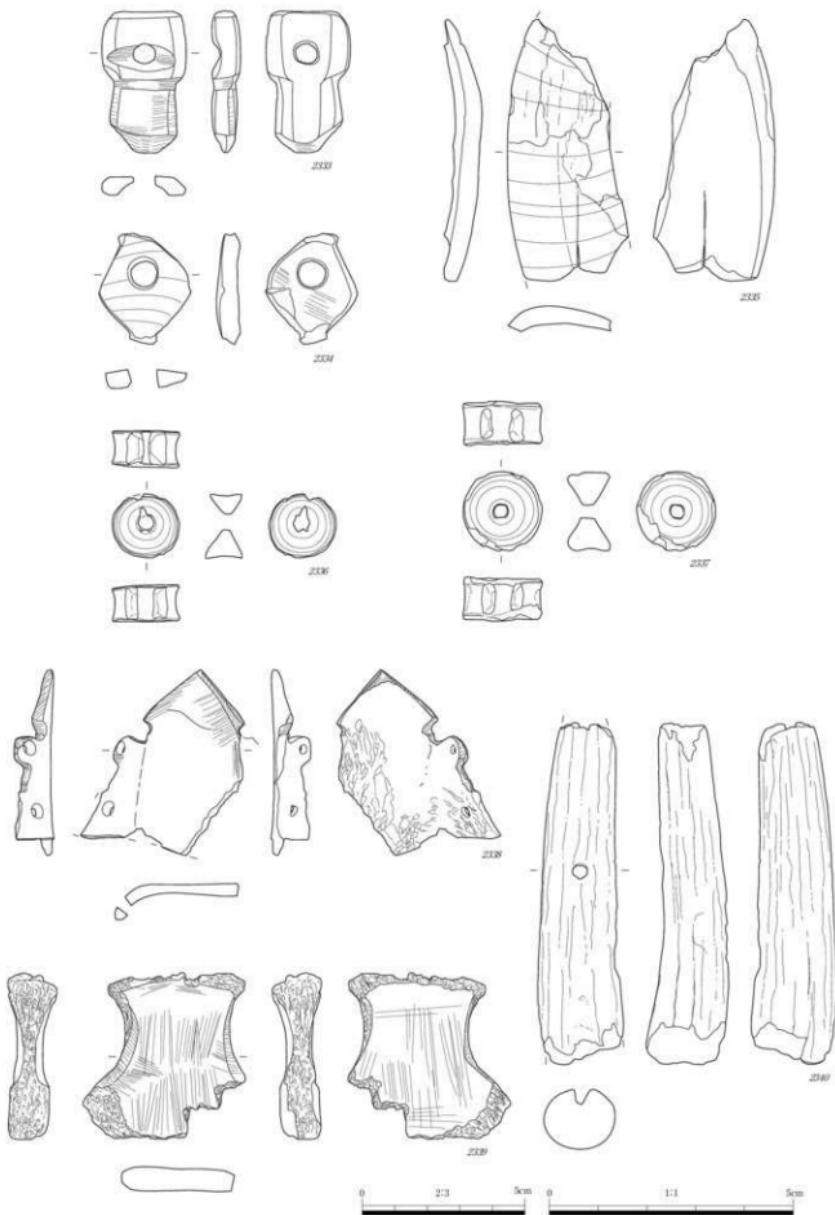
2 1号谷



第253図 繩文時代遺物実測図 (1/2)  
SD1 骨角器



第254図 純文時代遺物実測図 (2329・2332 1/1, 2323~2328・2330・2331 2/3)  
SD1 骨角器



第255図 縄文時代遺物実測図 (2333~2335 1/1, 2336~2340 2/3)  
SD1 骨角器

### (7) 小 結

1号谷はB地区南西の丘陵からC地区北部の低地にかけて扇状に広がる遺構で、縄文土器をはじめ、土製品、木製品、石製品、骨角器、骨貝類など遺物が多く出土した。遺物の時期は早期後半から後期前葉にわたるが、特に早期後半～前期前半と中期中葉～後葉頃の2時期に出土量のピークがみられる。

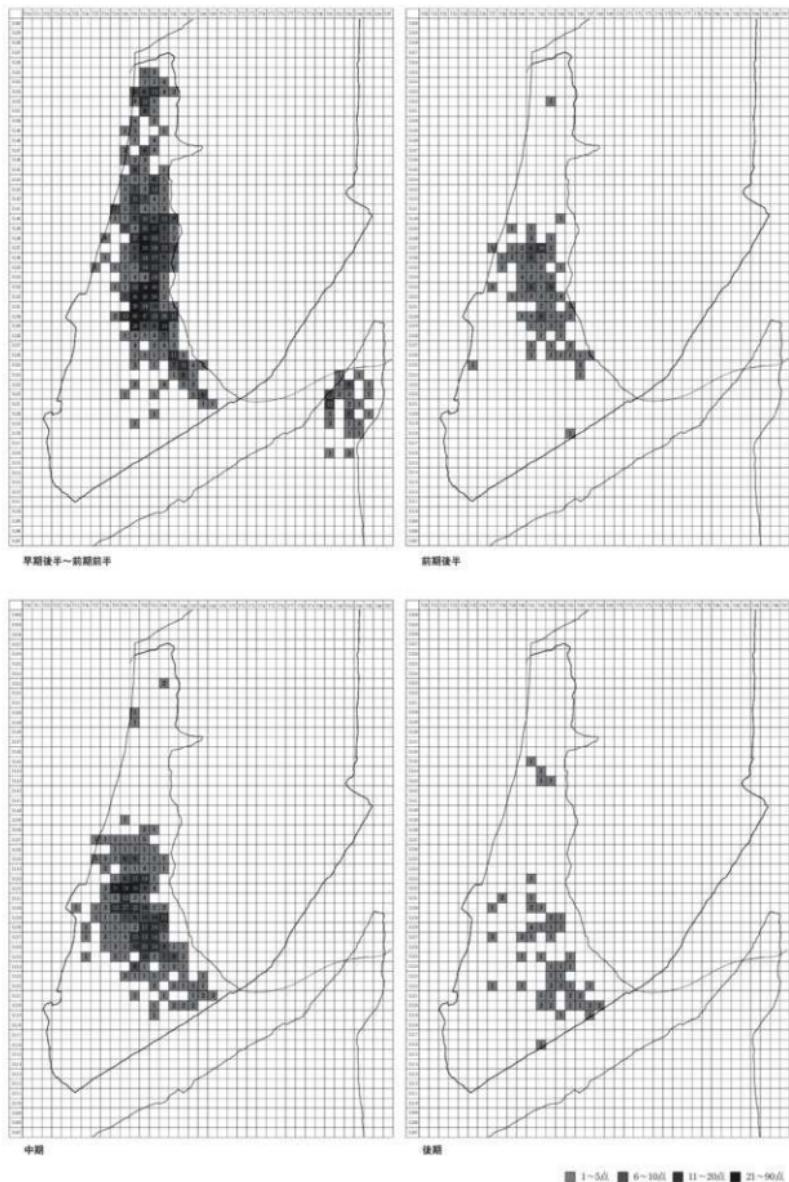
1号谷の土層に対応する遺物の共伴関係については、把握が困難であった。理由として、谷頂部からの水流や壁面の地滑り、SD2000の流れ込み等の様々な影響を受け、堆積の混乱や逆転現象が生じている可能性が挙げられる。ただし縄文土器の印象をいえば、中～下層から出土した縄文土器は粘土に密閉されたような状態であったため色調が暗く、比較的大きな破片が多いようである。これらは土器表面に残された情報量も多く、ベンガラ、漆、炭化物が良好に観察できた。土器の割れた断面がローリングを受けたような破片は少なく、谷に廃棄された後に水流から受けた攪拌はそれ程なかったと思われる。一方、上層から出土した土器は表面が摩滅していることが多く、土層内に細かく割れた縄文土器のはか、弥生時代以降の土器をも含んでいることから、埋没の過程で強い攪拌を受けたことが伺える。また土器表面に炭化物が付着している破片あまりみられず、酸化したためか比較的明るい色調のものが多い。

遺物の出土地点における傾向をみると、調査グリッドにおける縄文土器の出土点数を4時期に分けて示す(第256図)。早期後半～前期前半の縄文土器は、谷筋の中央に沿ってほぼ全域から出土するが、中期以降になると、c断面以南、b断面周辺(X125～133列)に集中することがわかる。また木製品、漆製品、骨貝類など、放射性炭素年代測定により年代が判明した縄文土器以外の遺物についても同様の傾向をみることができる。放射性炭素年代測定結果は、早・前期頃(IAAA-80510・80514・80515・80518・80550・80551)と中期後葉頃(IAAA-70570・70571・80500～80503・80505・80511～80513)に大きく二分でき(第V章第24節 放射性炭素年代測定)，早・前期頃の年代を示すものは各地点に散在するが、中期後葉頃の年代を示すものはb断面周辺に集中する傾向にある。自然科学分析から得られた結果は、縄文土器型式による分類傾向と整合性が認められる。一方、遺物の時期によって出土する範囲が異なる理由として、早～前期と中期で、遺物の廃棄地点が異なっていた可能性が考えられる。また遺物が廃棄された後、谷を流れる水流や地滑り等による地形変化の影響を受けて、堆積場所が変遷した可能性も考えられる。

出土した縄文土器についての大きな成果としては、従来資料数の少なかった早期後半～前期前半の土器が多く含まれていたことが挙げられる。中でも北陸在地の佐波・極楽寺式に伴い、東海系土器の諸型式が早期後半以降、ほぼ途切れることなく出土したことが特筆される。また県内で皆無であった布目式段階の資料がまとまりをもって出土し、佐波・極楽寺式からの変遷が明らかとなったことも画期的である。こうした良好な資料の増加により、土器編年議論が今後一層深まることが期待される。

1号谷から出土した遺物には、製作段階や用途が様々なものが含まれていた。縄文土器、土製品、木製品は完成品を使用した後に廃棄したものが殆どであるが、石製品、骨角器は未完成を一定量含むことが特徴として挙げられる。またいずれの製品にも祭具と考えられるものがある。骨類は食物残滓と推測される被熱痕や解体痕のあるものが出土する一方で、埋葬されたと考えられる人や犬の骨も見受けられる。これらを約4,000年という極めて長期間にわたって同じ場所に廃棄する行動があったことは確実であり、当地が、破損あるいは何らかの理由により使用を中止したものを受け入れができる特別な場所、いわゆる送り場であった可能性が考えられる。

(朝田亜紀子)



第256図 繩文土器の時期別出土地点分布（1号谷）

### 3 貝塚

#### (1) X 層 (第257~264図, 第12表, 図版19・118・161・173)

##### A 概要

南西から北東へ傾斜し、貝層検出面の標高は-2.3~1.3m。斜度は約5.5度。厚さは10~40cm。混貝土層で貝殻が細かく、しかもその数は極めて少なく、調査時は“細貝層”と呼称していた。貝類は、巻貝のイボウミニナを主体に二枚貝ではサルボウガイなどの殻長サイズの小さい稚貝が多いことから打上貝による自然貝層とみられる。土壤は、5 Y 3 / 1 オリーブ黒色シルトを基本としている。遺物は、非常に少なく、土器は摩滅しているものばかりであった。珪藻分析では海水砂質干潟指標種群や海水泥質干潟指標種群が産出し、干潟のような環境とみられる。

##### B 土壌採取

調査時から遺物が少なく自然貝層の可能性が高いと感じており、全量採取は行わず、1×1mの面積分をA~Hの8箇所で採取し、洗浄した。採取・洗浄土壤は、土嚢袋にして96袋分である。

##### C 貝層の割合

貝層における貝の割合は重量比にして0.2~1.4%、体積比にして0.6~4%と低くほかの遺物も少ないことから土を主体とした混貝土層と言える。

##### D 貝種

45種類の貝類が出土。海水性の貝類が大半を占め、松島義章氏の貝類群集（松島2006）では内湾砂底・干潟・内湾停滞群集が多い。巻貝ではアカニシ、アラムシロ、イボウミニナ、ウミニナ、カワアイ、カワリイトカケギリ、クダマキマツムシ、クチキレガイ、コウダカチャイロタマキビ、コベルトカニモリ、シノブガイ、シラゲガイ、スガイ、スソチャマンジ、チャイロタマキビ、ツメタガイ、ネコガイ、ヒメヨウラク、マツシマコメツブガイ、マメウラシマガイ、ミスジヨコイトカケギリ、ミドリタマゴガイ、ムギガイ、ムシロガイ、ヨワコメツブガイの25種類が出土<sup>30</sup>。

二枚貝ではアサリ、イタヤガイ、ウネナシトマヤガイ、ウメノハナガイ、オオノガイ、カガミガイ、カリガネエガイ、ガンギハマグリ、サルボウガイ、シラオガイ、チゴトリガイ、ナミマガシワ、ハナグモリ、ハマグリ、ヒメカノコアサリ、ヒメシラトリ、フナクイムシ、マガキ、モノノハナガイ、ヤマトシジミの20種類が出土。サルボウガイの殻長分布では、殻長1cm以下をピークに右下がりのグラフを示し、稚貝を主体としている。アサリでも同様な傾向を示している。

貝層を構成する主要貝類は地点によって異なるが、重量比でサルボウガイ、イボウミニナ、アサリ、アラムシロ、カワアイ、アカニシの順に多く、サルボウガイが8割近くを占める。個数比ではサルボウガイ、アラムシロ、アサリ、ヒメカノコアサリ、イボウミニナ、カワアイ、ウメノハナガイの順に多く、サルボウガイとアラムシロで半分以上を占める。

貝類は、人為的な捕獲とはみられない食用には適さないサルボウガイ・アサリの稚貝やアラムシロ・ヒメカノコアサリなどの小型貝が多くを占めていることから汀線の間際に打上貝がたまたま自然堆積層と考えられる。特に調査区北側の低地部分において稚貝・小型貝が顕著で汀線近くの様相を如実に表している。

##### E 繩文土器 (234I~236I, 第262図, 図版118)

土器の総量は8.66kgと縄文時代の包含層・貝層で最も少ない。摩滅率はA~Cで6割近くを占める。土器はすべて破片でしかも小さい。

<sup>30</sup> 貝類の名前は、黒川義司・2000『日本近海貝類図鑑』東海大学出版会に準じた。

土器の時期は、早期後葉～後期初頭まで出土し、出土量は佐波・極楽寺式期が91%と最も多いが南側斜面からの崩落もしくは水域からの打上によるものと考えられる。

2341・2342は早期後葉の東海系で、前者は柏畠式、後者は入海式とみられ、器壁が薄くいすれも摩滅が激しい。

2343～2356は、佐波・極楽寺式期。口縁部の破片は32あり文様別に割合を見ると、表裏繩文3（2343・2344）、外面繩文内面無文7（2345・2347）、表裏条痕1（2352）、繩文地矢羽根状文1（2346）、無文地矢羽根状文2（2353）、条痕地刺突列点文1（図示無し）、無文地刺突列点文7（2349・2354）、無文地貝殻復縫文10（2348・2350・2351）である。2352はAMS年代測定を行い、<sup>14</sup>C年代で6410±40BP（IAAA-60247）の数値を得ている。

底部は5あり、形状では平底穿孔無し2（図示無し）、尖底・丸底穿孔有り2（2355・2356）、尖底・丸底穿孔無し1（図示無し）である。

2357は、東海系で無文地に短い隆帯を貼り付ける波状口縁で楠廻間式とみられる。

2358は前期前葉布目式期とみられる破片で、有段状の口縁部とその下に縱方向の沈線を数条施す。

2359～2361は中期。2359は中期初頭新保式期、2360は中期後葉古府式期の破片でいずれも半截竹管による半隆起線文を施す。2361は口縁部に幅広の半隆起線、その下に斜繩文を施す。中期末葉串田新式か。

#### F 石製品（2362～2364、第263図、図版161・173）

石製品の総量は11点で3.3kgと貝層中最も少ない。器種は石錘6、敲石2、削器1、剥片2で石錘が凌駕している。石錘の重量は、51～600gの範囲でまとまりがなくばらつく。

2362・2363は小型礫の上下を打ち欠いた礫石錘で2362は楕円形、2363は逆台形状。石材は、2362がホルンフェルス、2363が流紋岩。2364は削器。石材は下呂石。

#### G 動物遺体

5mmメッシュではハゼ科、コチ科、タイ科などの魚類が8割以上を占める。2.5mmメッシュではウニ類の殻破片が多いほかニシン科、タイ科、カワハギ科などの魚類が6割以上を占める。大型哺乳類や人骨の出土はない。

動物遺体では、内湾海水性の魚類に特化しており他の陸生動物の利用は積極的には見いだせない。

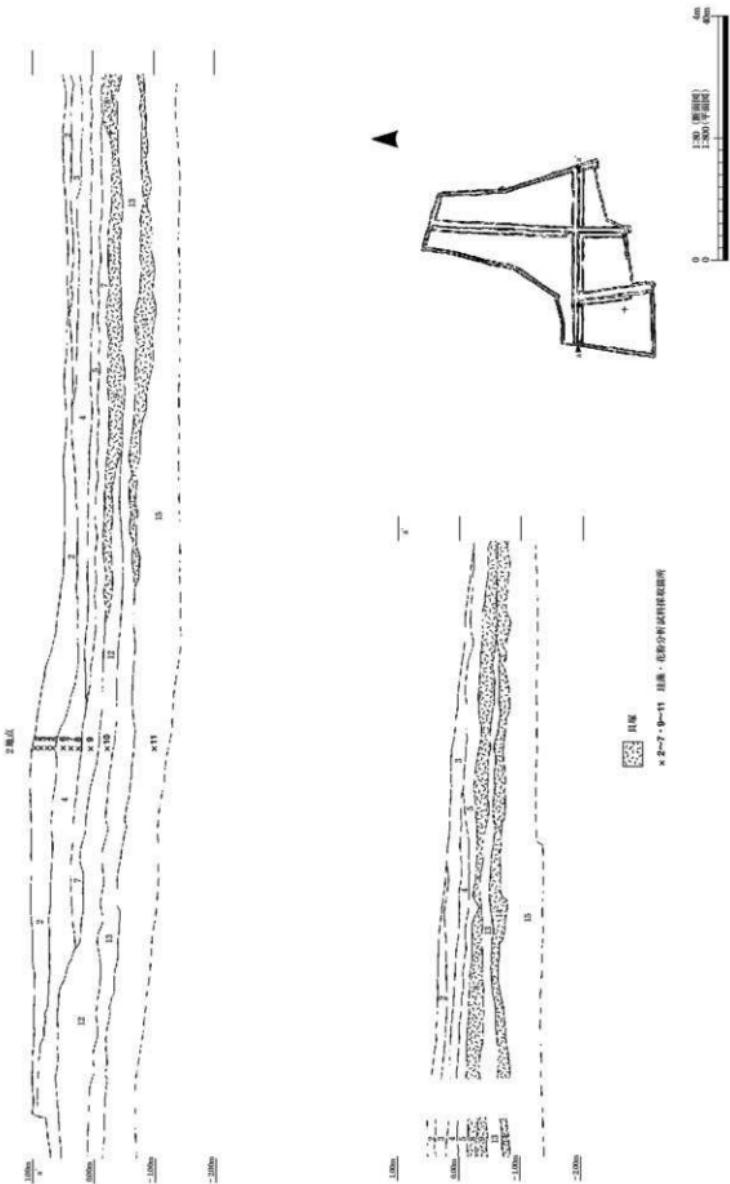
#### H 植物遺体

5mmメッシュではオニグルミが圧倒的に多く、ついでカヤ、トチノキなどの食用可能な種実を主体に出土。2.5mmメッシュではカラスザンショウ、アカメガシワなどの非食用種実を主体とし、ブドウ属など食用種実が少数入る。食用種実としてはこの他にコナラ属、トチノキ、ヒヨウタンク類などがあるがいすれもわずかな量である。

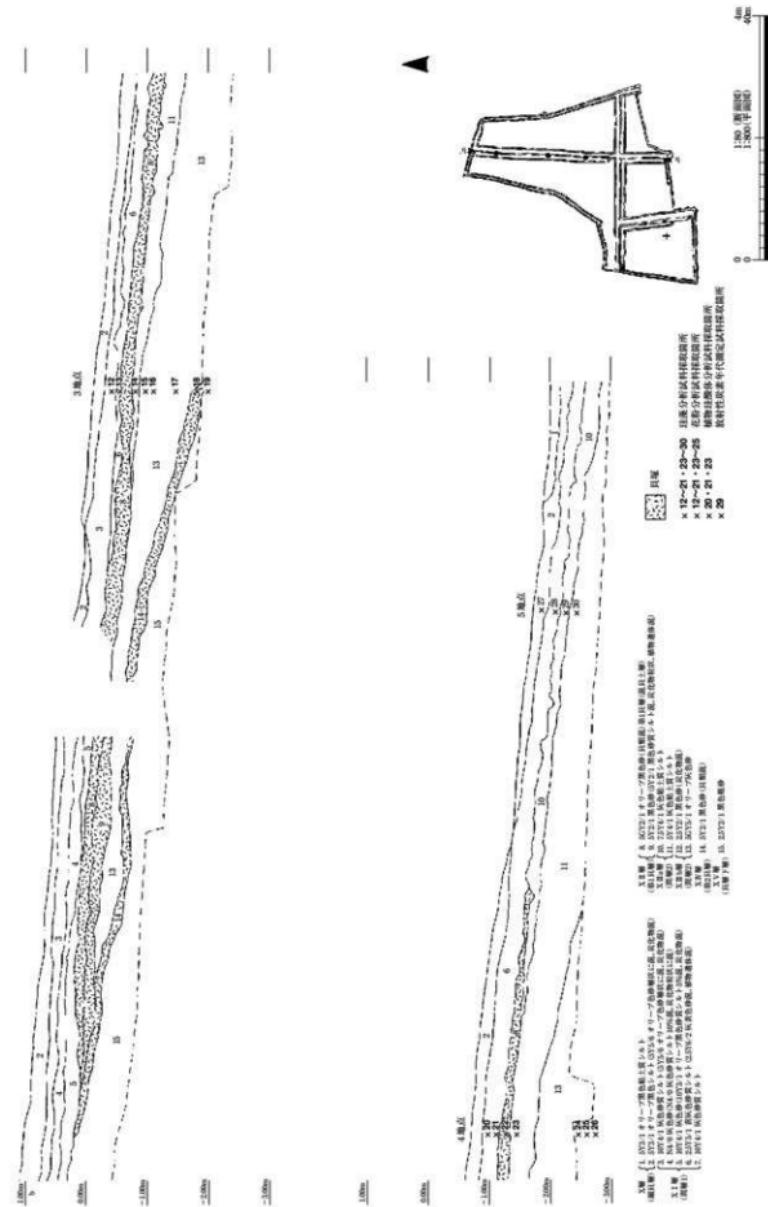
植物遺体では大型（5mmメッシュ以上）は食用、小型（2.5mmメッシュ）は非食用が多い傾向にあり、とくに食用ではオニグルミの優位性が高い。非食用ではカラスザンショウとアカメガシワは同程度に量が多く、周辺に二次林の存在を伺わせる。

#### I 年代

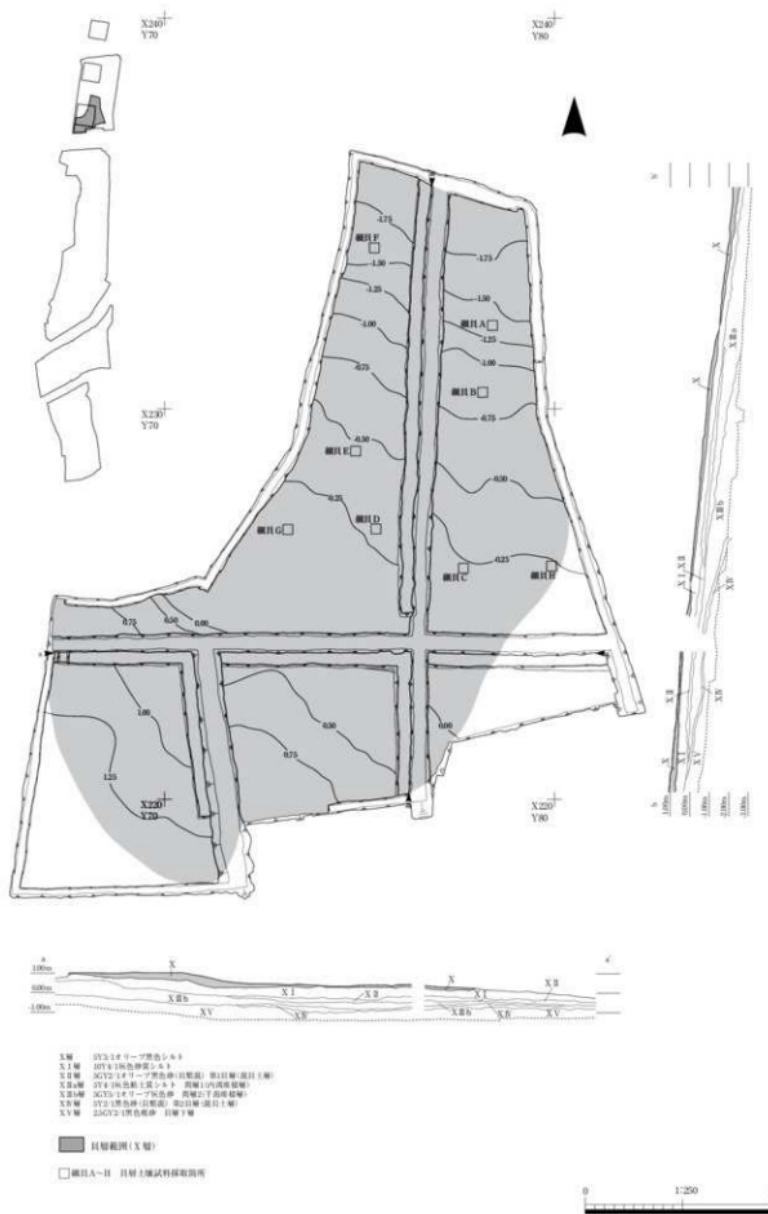
AMS年代測定では貝殻で5,010±40～4,450±40BP（IAAA-70512～70515）、クマ犬歯で5,230±40BP（IAAA-80543）の結果を得ている。出土土器は、中期末葉～前期初頭の佐波・極楽寺式が大半を占めるが、摩滅状況から原位置を保っているものとはみられない。このためAMSの年代値、佐波・極楽寺式以外の土器、層位から中期末葉（串田新式期）と考えられる。



第257図 純文時代遺構実測図  
貝塚



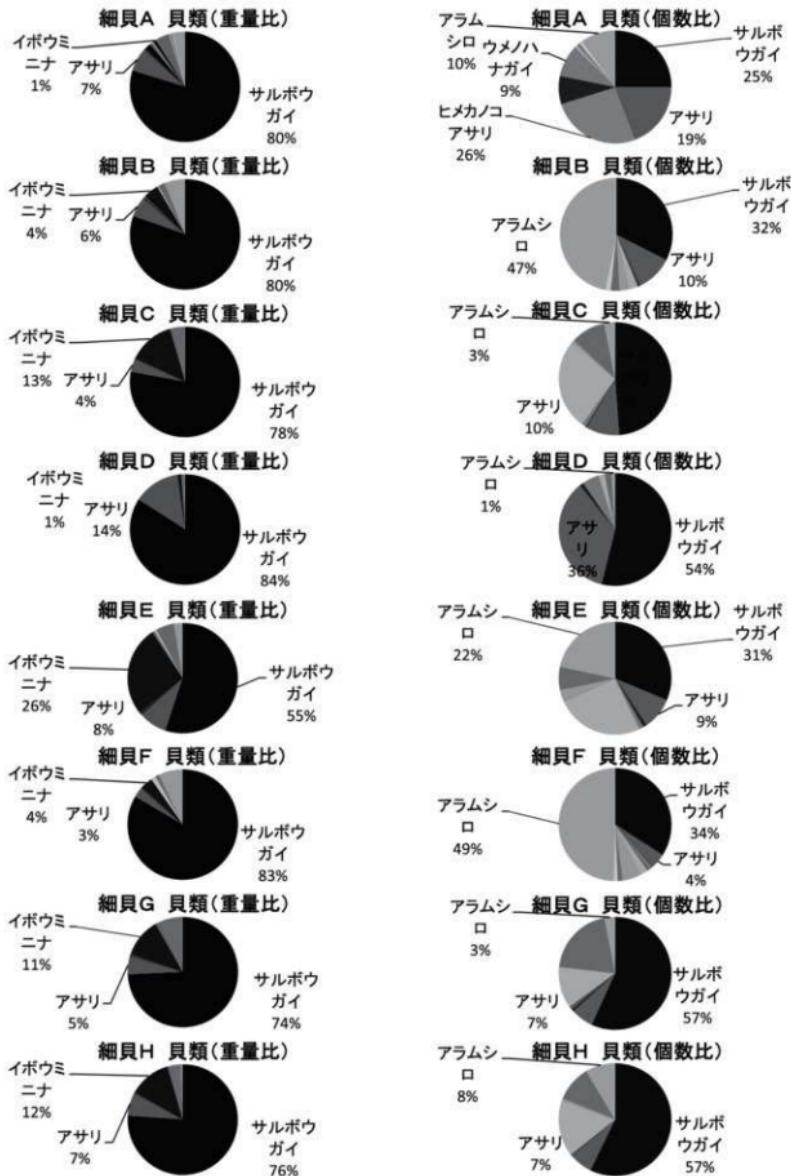
第258図 縄文時代遺構実測図  
貝塚



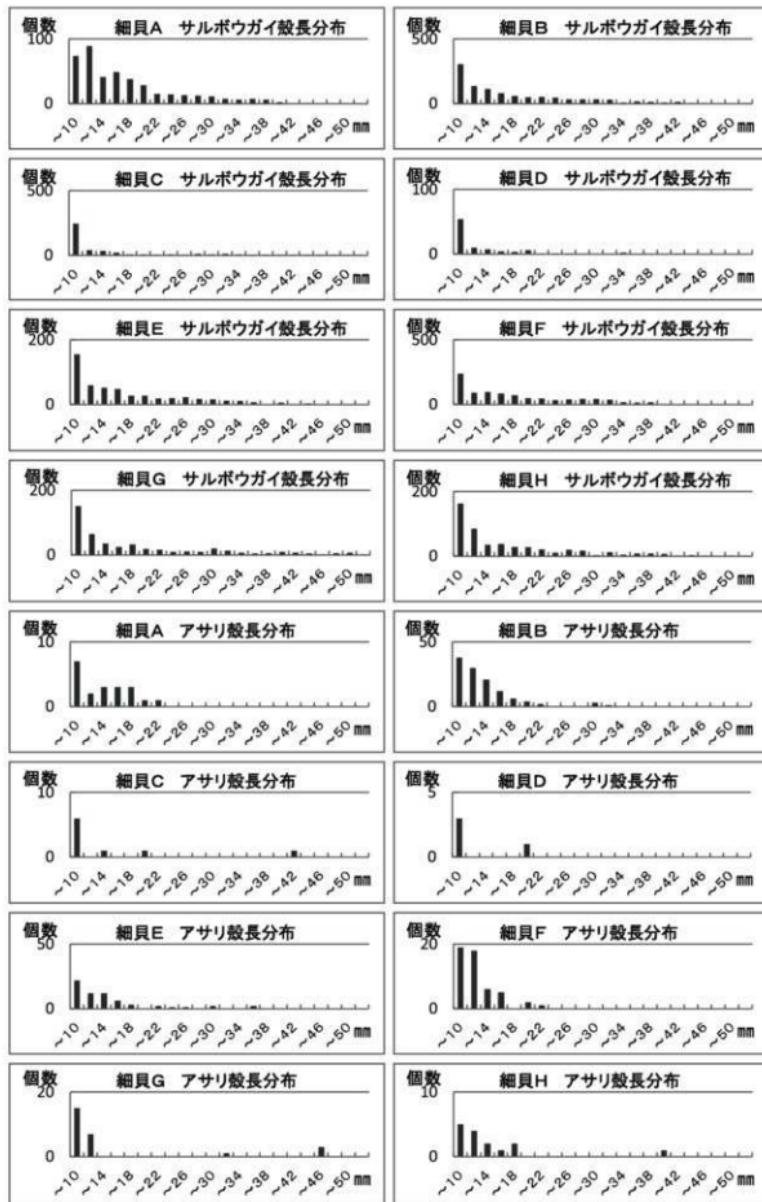
第259図 純文時代遺構実測図  
貝塚X層

第12表 貝類標相一覧(貝塚X層)

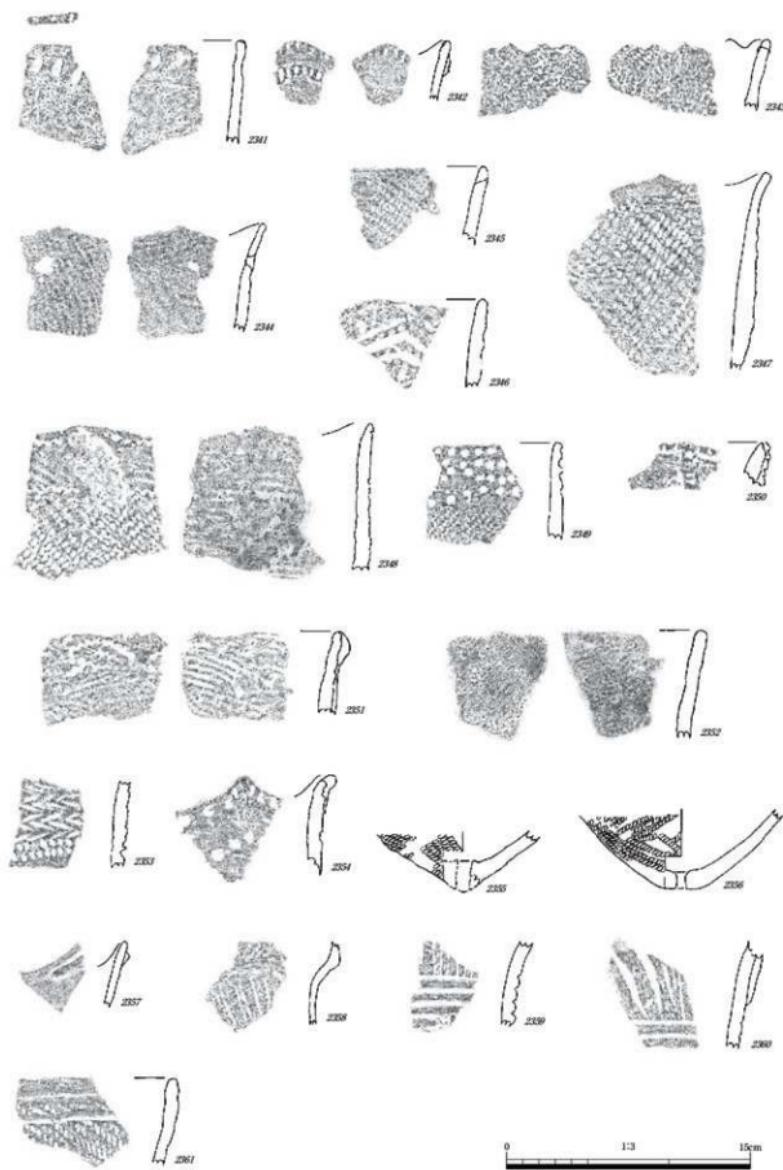
種別	名	細貝 A		細貝 B		細貝 C		細貝 D		細貝 E		細貝 F		細貝 G		細貝 H	
		重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数	重量(g)	個数
アサリ	サルビウガイ	512.7	737	962.02	576	341.72	122.5	158.61	56	508.3	277.5	1002	490.5	650.18	249.5	637.21	291
マガキ		45.6	554	71.47	175	17.39	23.5	25.67	37	77.8	81.5	36.1	63.5	46	29	56	33.5
ハマグリ		0.3	0	0	0	1.56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.18
カガミガイ		0	0	0	0	1.47	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オオノガイ		0.8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.5	0	0
ヤマトシジミ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.52	0	0	0
二枚貝		3.7	35	2.58	2	0	0	0	0	3.58	0.5	0.9	1.5	1.7	3	0.45	0.5
シオガイ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.31
ナミマガシワツ		0	0	0.2	0	0	0	0.12	0	0	0	0	0	0.64	0	0	0
ヒメカノコアサリ		8.2	764.5	0.22	6	0.01	0.5	0	0	0	0	0.3	15	0	0	0	0
モモノハナガイ		5.5	233.5	5.19	8	0	0	0.01	0.5	2.46	8	2.1	3	0	0	0	0
ウメノハナガイ		3.4	273	0.14	3.5	0.03	1.5	0.21	4.5	0.36	9.5	0.1	5	0.01	1	0.02	0.5
カリガホエグガイ		0	0	0	0	0	0	0	0	0.18	0.5	0	0	0	0	0	0.11
ガニハマダリ		0	0	0.01	0.05	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウミニニ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.77	2	0.89	1
イボウミニニ		5.14	22	52.76	46	57.49	66	1.82	2	242.83	226	12.8	32.5	100.29	52	102.68	82
アカニシ		26.7	2	0	0	5.39	0	1.64	0	7.99	1	0	0	15.48	0	0.53	0
ヒメヨウラク		0.48	7	5.81	50	0.13	2	0	0	5.22	29	17	76	0	0	0.42	3
カラワアイ		1.34	16	23.48	44	13.24	25	0.51	2	49.68	59	12.8	20	55.13	89	31.93	53
スガイ		2.1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ムギガイ		2.2	26	2.13	27	0	0	0	0	0.38	0	1.9	18	0	0	0	0
シノブガイ		0.01	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.001	1	0	0	0	0
コペルトカニモリ		1.6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アラムシロ		22.81	291	70.48	832	0.43	8	0.12	1	23.64	192	84.5	713	1.58	13	4.34	43
ヨコガゲ		0.01	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明		714.2		5.57		10.33		6.8		32.7	9			38.97		33.13	
				1292.06		492.19		195.51		1290.51		912.57		870.2			



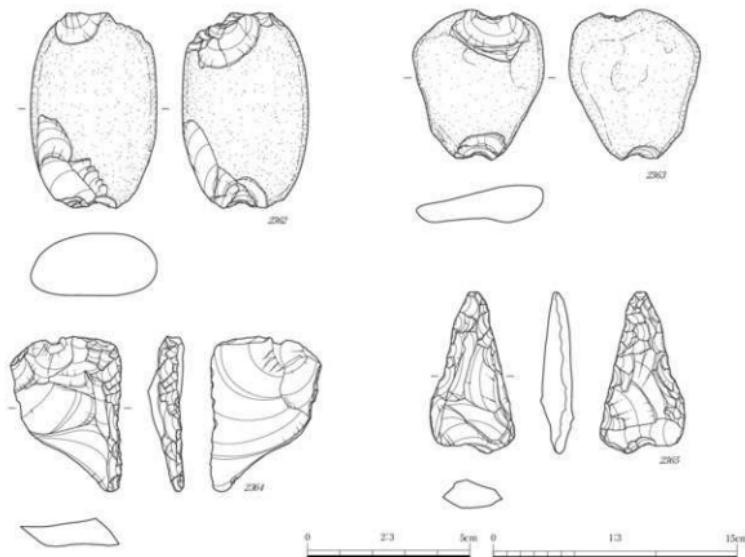
第260図 貝類様相グラフ（貝塚X層）



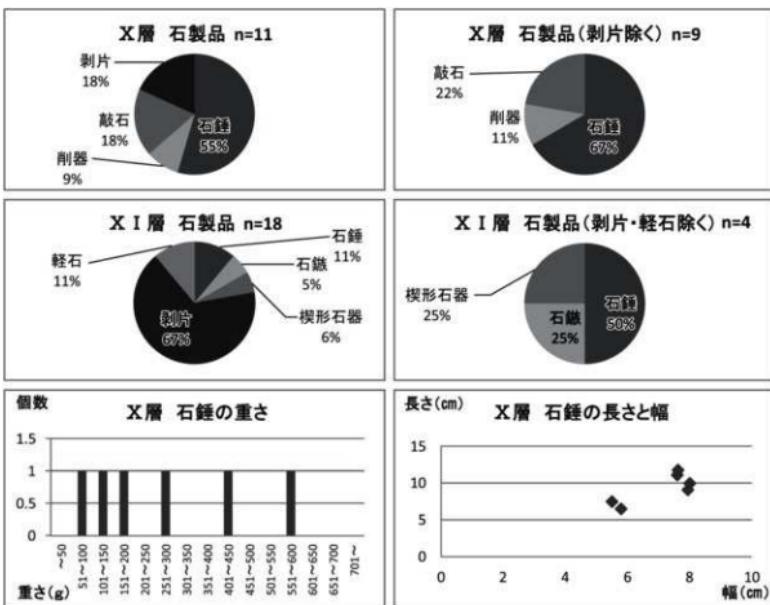
第261図 サルボウガイ・アサリ殻長分布（貝塚X層）



第262図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X層



第263図 縄文時代遺物実測図 (2364・2365 2/3, 2362・2363 1/3)  
貝塚X層 (2362・2364)・X層 (2365)



第264図 石製品様相 (貝塚X・X I層)

## (2) X I 層 (第263・265図、図版23・118・146)

## A 概要

X層とX II層との間で調査区の全域にひろがり、調査時は“間層1”と呼称していた。南西・南東端では、X層は上に堆積していなかった。南西から北東へ傾斜し、土層検出面の標高は-2.6~1.2m。斜度は約5度。厚さは10~60cm。土器・石製品などの遺物を含む遺物包含層。土壤は、10Y 4 / 1灰褐色砂質シルトを基本としている。動物遺体・植物遺体はわずかしか出土していない。珪藻分析からX層同様に干渴のような環境とみられる。

## B 繩文土器 (2366~2389、第265図、図版23・118)

土器の総量は15.7kg。摩滅率はA~Cで8割以上を占め、すべて破片。

土器の時期は、早期後葉~後期中葉まで出土し、出土量は佐波・極楽寺式期が68%と最も多いが南側斜面からの崩落もしくは水域からの打上によるものと考えられる。

2366は無文の口縁部で隆帯上下からを刻む薄い破片。早期後葉の上ノ山式。

2367~2376は、佐波・極楽寺式期。口縁部の破片は39あり文様別に割合を見ると、表裏繩文1(2367)、外面繩文内面無文12(2368)、表裏条痕1(2375)、外面条痕内面無文3(2371)、無文隆帯貼付1(図示無し)、無文隆帯無し9(2369)、無文地矢羽根状文2(図示無し)、無文地刺突列点文1(図示無し)、条痕地貝殻腹縁文1(2374)、無文地貝殻腹縁文3(図示無し)、無文地押引状文3(2370)、無文地繩文・撲糸圧痕2(図示無し)である。

底部は12あり、形状では平底穿孔無し8(2373・2376)、尖底・丸底穿孔有り1(2372)、尖底・丸底穿孔無し3(図示無し)であり、平底穿孔無しが最も多く尖底・丸底も含めて穿孔が少ない。

2377は前期前葉布目式期の破片で、口縁部に網目状の撲糸文を施す。口縁端部も刻む。

2378は無文の深鉢でその形状と胎土から前期後葉蜆ヶ森式期とみられる。

2379~2385は、朝日下層~新保式期。2379・2382~2385は、細い半截竹管で施文。2381は細いソーメン状の隆帯を貼り付ける。2380は口縁端部に突起をもつ。

2386~2388は、中期中葉上山田・天神山式期の破片でいずれも半截竹管による半隆起線文を施す。2386は浅鉢の口縁部とみられる。

2389は中期末葉串田新式の深鉢。約半分が横たわって出土。口縁部は隆帯に貝殻腹縁刺突と工字文状沈線文、体部はタテ繩文。いわゆるバケツ形器形で串田新I式に相当。胎土分析(第V章第11節、試料20)では軽石型鐵維状などの火山ガラスから構成される。

## C 石製品 (2365、第263図、図版146)

石製品の総量は18点で0.6kgと少ない。器種は石錐2、石錐1、楔形石器1、剥片12、軽石2。

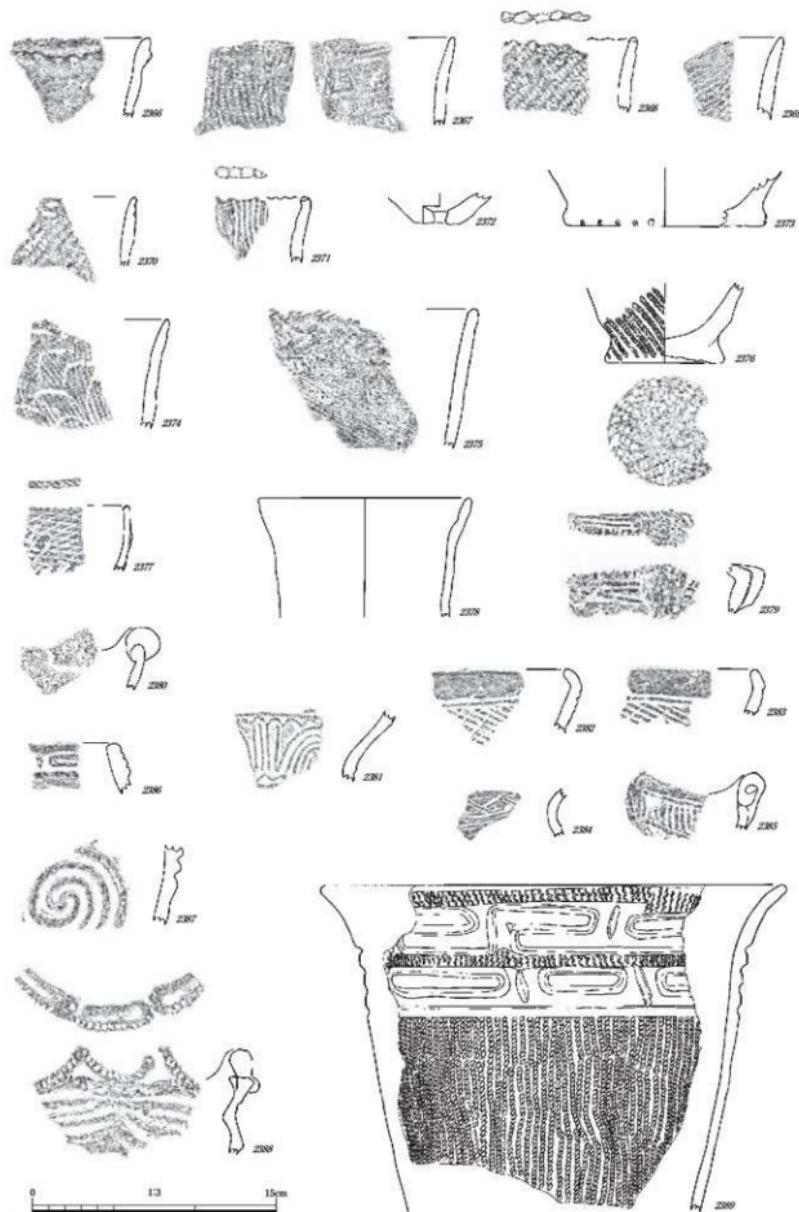
2365は大型の凹基石錐。縁刃剥離が不揃いで未成品とみられる。石材はガラス質安山岩(いわゆる輝石安山岩)。

## D 動物遺体

貝類ではオオノガイが出土している。他は未定。

## E 年代

土層の年代はAMS年代測定など科学的手法による測定は行っていないが、前後の層位と出土土器から中期初頭(新保式期)~中期末葉(串田新式期)と考えられる。



第265図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚 X I層

(3) X II 層 (第266~282図, 第13・14表, 図版3・12・20・23・119・120・145・152・153・155・161・163・169・170・173・175)

#### A 概要

X I 層とX III 層との間で調査区の中央部にひろがり, 調査時は“第1貝層”と呼称していた。調査区南東では, X III 層を挟まず, X IV 層と接している。南西から北東へ傾斜し, 貝層検出面の標高は-1.8m~0.3m。斜度は約5度。厚さは10~30cm。貝類よりも土壤の多い混貝土層でX層よりは大型の貝類が多い。貝類は, サルボウガイ・イボウミニナ・アサリなどを主体とするが小型や稚貝の多い箇所があり, 一部に自然貝層があると考えられる。土壤は, 5G Y 2/1オーリーブ黒色砂質土を基本としている。遺物は, 各種出土しているもののX IV 層と比べると少ない。土器片は摩滅が多く, X IV 層と接する箇所があり, この混入も伺える。珪藻分析では, X層同様に干潟のような環境とみられる。

#### B 土壌採取

貝層土壤は2×2mの140箇所のグリッドメッシュ(I-1~140)に分けた後, 土糞袋に入れ全量採取・洗浄を行った。採取・洗浄土壤は, 土糞袋にして6,729袋分(約77,866kg)である。

#### C 貝層の割合

貝層における貝の割合は重量比にして0.08~3.28%と低いものの, X層よりは土器・石製品・骨角歯牙製品などほかの遺物を包含する混貝土層である。

#### D 貝種

46種類の貝類が出土。海水性の貝類が大半を占め, 貝類群集では内湾砂底・干潟群集が多い。巻貝ではアカニシ, アラムシロ, イシマキガイ, イボウミニナ, ウミニナ, カワアイ, クダマキマツムシ, コシダカガングラ, コベルトカニモリ, コロモガイ, サザエ, スガイ, ツメタガイ, ネコガイ, バイ, ヒメヨウラク, ムギガイ, ムシロガイ, レイシガイの19種類が出土。

角貝では, ヤカドツノガイの1種類が出土。

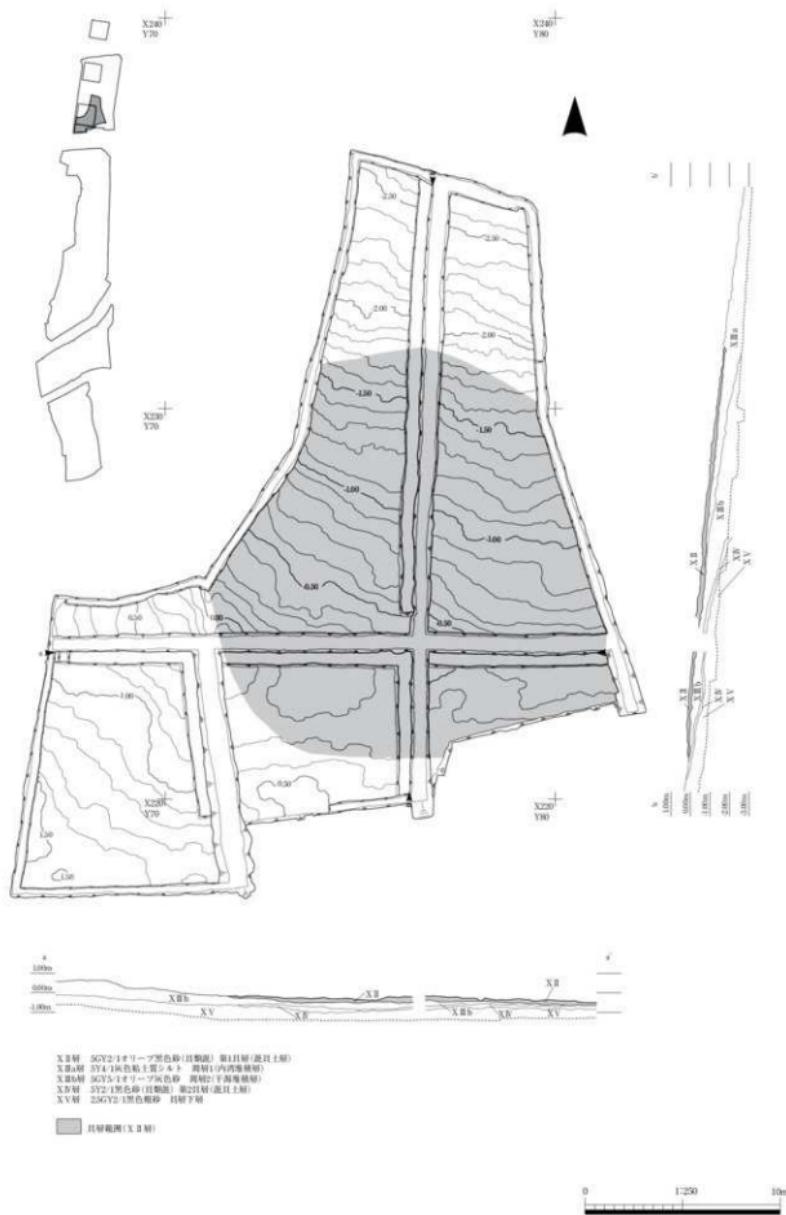
二枚貝ではアサリ, イシマテ, イセシラガイ, イタヤガイ, ウメノハナガイ, オオノガイ, オキシジミ, カガミガイ, ガンギハマグリ, キクザル, クシケマスオ, クチベニデ, サルボウガイ, シラオガイ, トリガイ, ナミマガシワ, ハイガイ, パカガイ, ハマグリ, ヒメカノコアサリ, ヒメシラトリ, フナクイムシ, マガキ, マテガイ, モモノハナガイ, ヤマトシジミの26種類が出土。

貝層を構成する主要貝類は, いずれのグリッドも重量比・個数比で見てもサルボウガイが一番多い。重量比では, サルボウガイに統いてアカニシ・アサリが多い。個数比では, アサリ・アラムシロ・イボウミニナが多い。重量比と個数比との違いは, 個数の割りに重量が少ないアラムシロ・イボウミニナが反映している。また貝層の南側では, マガキやシラオガイが多く見られるが, これはX IV 層が間層を挟まずに直下にあるため混在の可能性が高い。

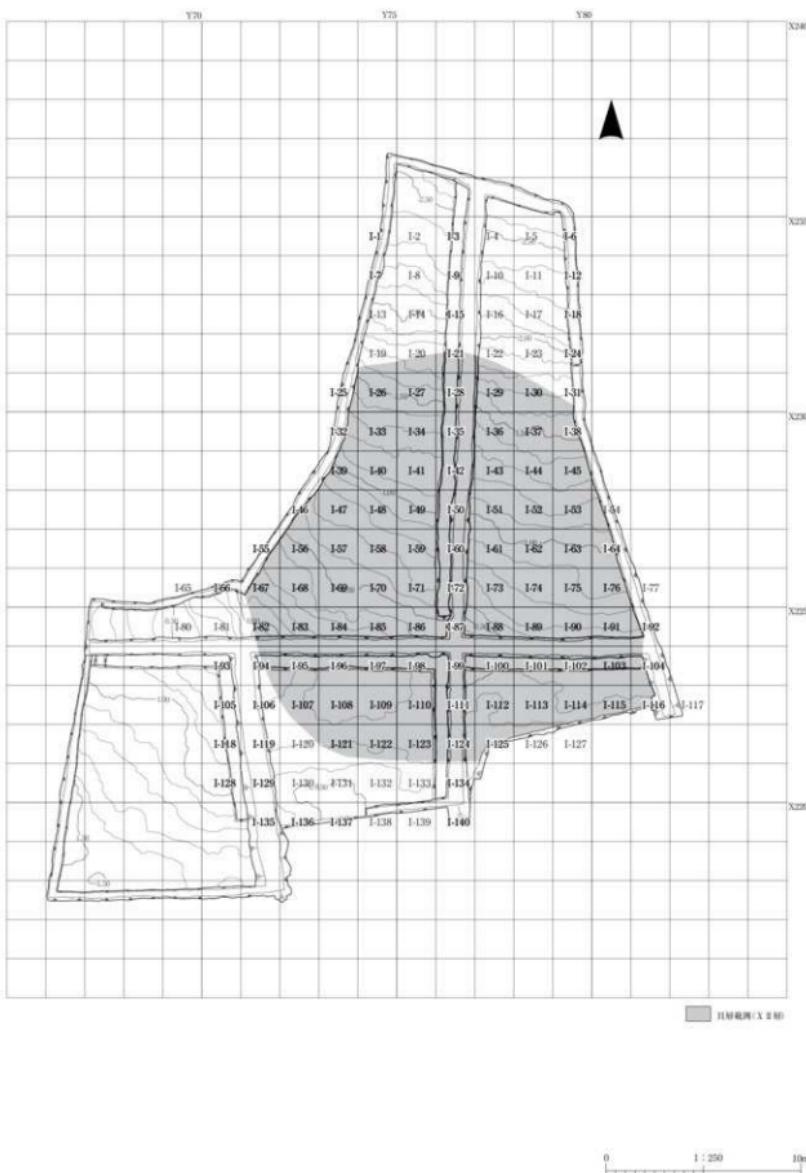
サルボウガイとアサリの殻長分布では, 南側の一部で3cm以上にピークをもつ箇所があるものの大半は殻長1.2cm以下をピークに右下がりのグラフを示す。この2つの貝類からは, 汀線に近く打ち上げなどで自然堆積した貝層を基盤とし, 一部投棄による人為的貝層が存在するという状況が考えられる。これは, 食用とは考えにくいアラムシロやイボウミニナが貝層全体にみられることも補完材料になろう。すなわち, 干潟で堆積した貝および土壤の上で小規模な貝塚を形成したといえる。

#### E 純文土器 (2390~2476, 第274~277図, 図版119・120)

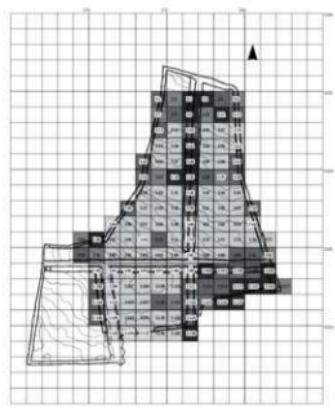
土器の総量は135.7kgで, その分布をみると層の傾斜同様に北東から南西に向かって土器量も増加する。



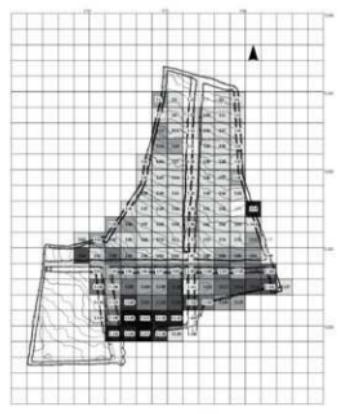
第266図 繩文時代遺物実測図  
貝塚 X II 層



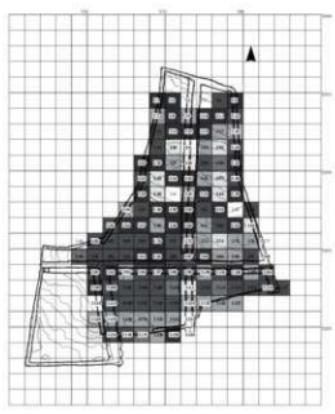
第267図 純文時代遺構実測図  
貝塚X II層 試料採取グリッド



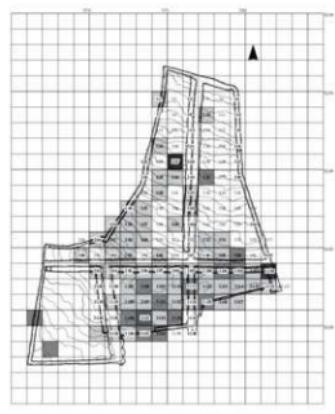
混貝率（重量比）



貝層に含まれる土器片の重量



土器摩滅率

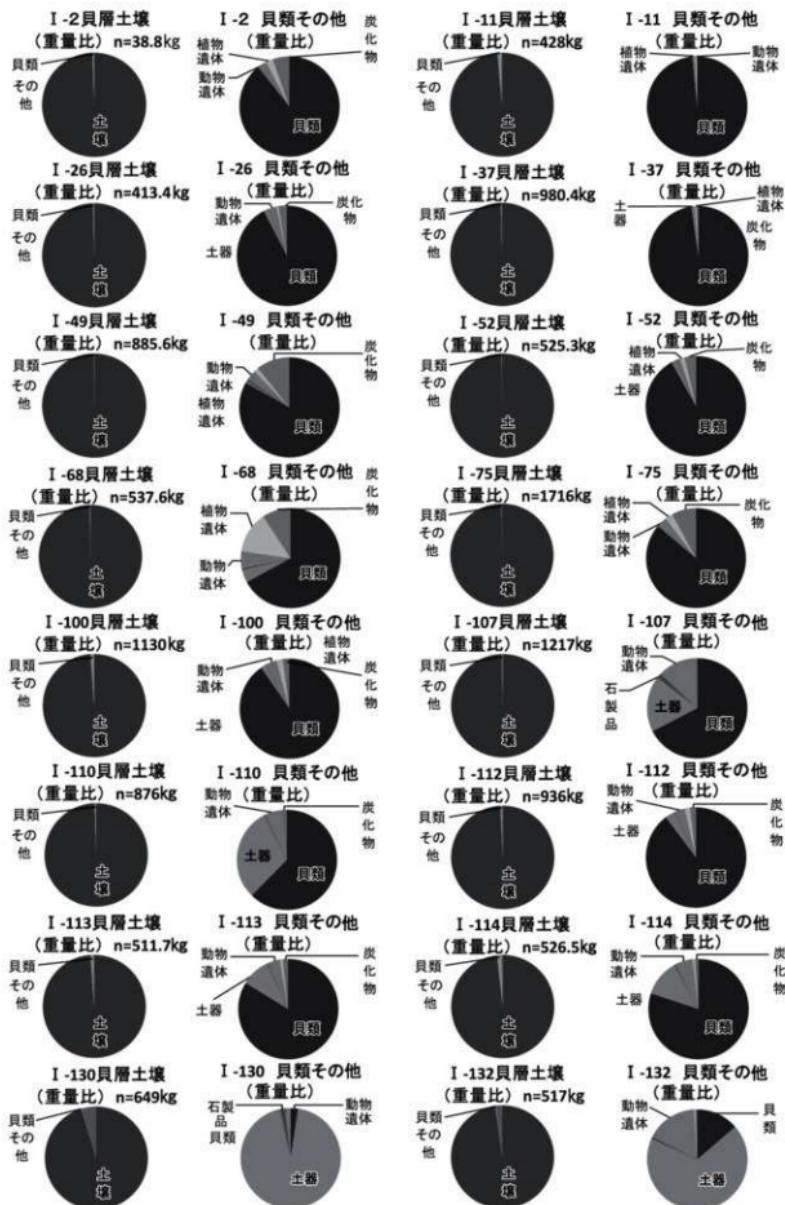


貝層に含まれる石製品の重量

第268図 貝層内遺物出土様相（貝塚X II層）

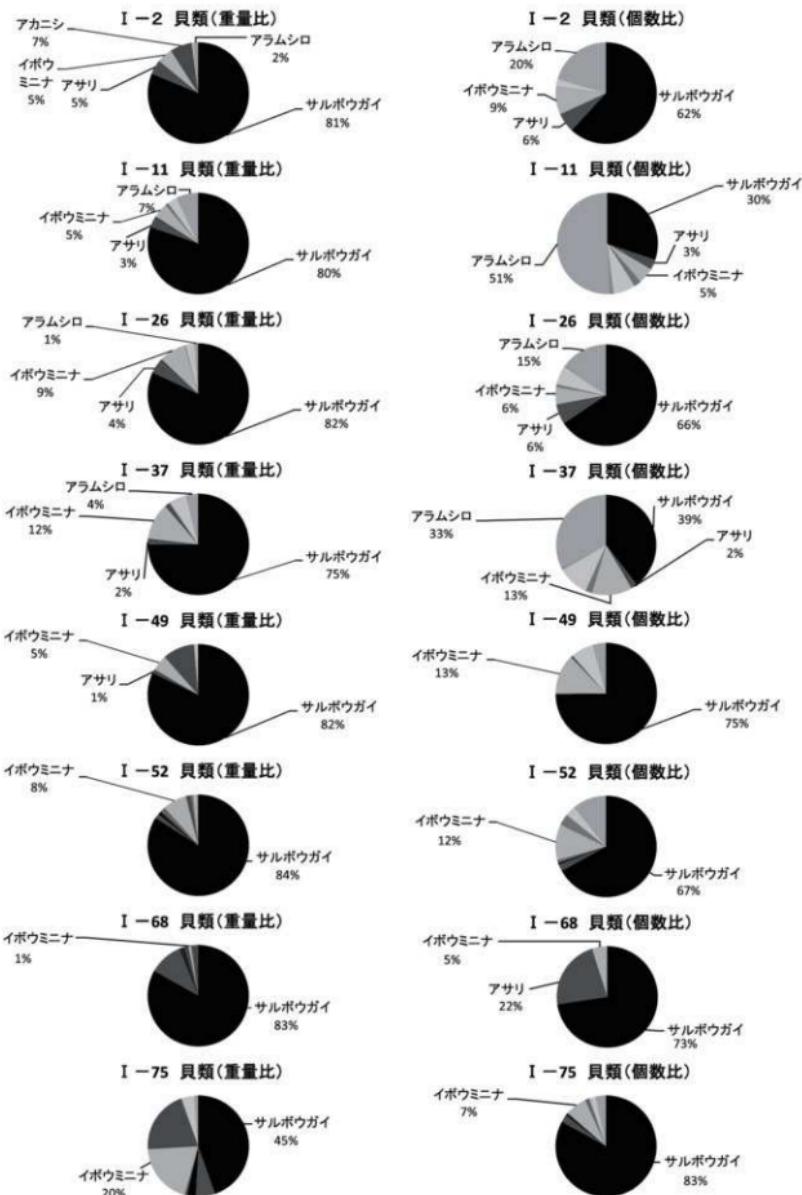
第13表 主要グリット貝層土壌内容物一覧（貝塚XII層）

重量(g)	貝層量	貝類	土器	石製品	漆片	錫石	骨角器	動物遺体 (5mm)	動物遺体 (2.5mm)	動物遺体 (現地採取)	植物遺体 (5mm)	植物遺体 (2.5mm)	糞石	炭化物	その他土壤
1 - 2	38800	164.0	0.6	0.0	0.2	0.0	0.2	18	3.2	0.0	3.1	1.0	0.0	10.0	38616.2
1 - 5	64200	383.0	30	0.0	0.0	2.5	0.0	175	3.5	0.0	25.3	1.1	0.0	40	63765.0
1 - 11	428000	5848.0	19.0	0.0	0.0	28	0.0	18.2	19.1	0.0	25.3	32	0.0	11.0	422653.5
1 - 14	487200	316.0	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	4.0	0.0	5.3	2.4	0.0	7.0	486851.1
1 - 23	420000	940.0	4.0	0.0	0.0	0.2	0.0	4.8	0.7	0.0	12.5	0.1	0.0	0.0	419057.8
1 - 26	13400	133.0	22.6	0.0	0.0	1.8	0.0	24.0	12.5	0.0	16.9	1.6	0.0	38.0	411955.6
1 - 37	980400	3918.0	23.6	0.0	0.0	5.2	0.0	8.2	0.5	0.0	23.3	0.1	0.0	28.0	976391.2
1 - 40	874000	1716.0	7.2	0.0	0.8	6.0	0.0	7.0	2.6	23.2	21.2	3.0	0.0	68.0	872145.0
1 - 49	885600	694.2	4.9	0.0	0.0	10.0	0.0	15.9	1.9	6.9	12.4	0.0	0.0	90.0	884763.8
1 - 52	525300	667.0	12.4	0.0	0.0	2.2	0.0	3.2	2.1	1.6	11.5	0.5	0.0	26.0	524573.6
1 - 57	810700	2547.0	97.7	0.0	0.2	7.4	0.0	44.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	197.0	807805.9
1 - 62	987700	1188.0	94.0	0.0	0.0	11.2	0.0	14.4	1.2	0.0	8.6	0.3	0.0	132.0	598249.3
1 - 63	1032400	2390.0	25.1	0.0	0.0	12.8	0.0	20.6	2.8	0.0	26.5	0.8	0.0	184.0	1029777.4
1 - 68	537600	882.0	55.4	2.2	0.4	9.9	0.3	38.2	4.8	24.4	17.2	1.8	0.0	121.0	536283.5
1 - 71	946400	2518.0	46.0	0.0	0.0	10.4	0.0	45.7	12.9	12.5	12.6	2.5	0.0	222.0	943399.4
1 - 73	1414000	4701.0	21.9	0.0	0.0	18.9	0.0	100.1	31.4	19.0	0.0	4.6	0.0	288.0	1408806.1
1 - 75	1716000	2941.0	385.5	0.0	0.0	0.1	1.0	50.6	26.4	0.0	85.2	1.1	0.0	289.0	1712587.2
1 - 81	54500	246.0	21.2	0.0	0.0	1.1	0.0	6.5	16.1	0.0	5.9	3.2	0.0	34.0	24721.1
1 - 84	2010000	400.0	15.3	0.0	0.0	1.6	0.0	12.1	0.6	0.0	74.7	14.3	0.0	42.0	200439.4
1 - 100	1130000	11820.0	228.3	0.0	1.1	1.6	0.0	44.7	2.2	17.4	0.0	0.4	0.0	274.0	1117199.6
1 - 101	853600	6974.0	9298.8	0.4	0.4	5.4	0.8	300.3	4.8	51.0	50.5	0.1	0.0	175.0	844951.1
1 - 102	1270700	7308.0	1702	47.0	0.4	22.6	0.0	485.8	5.5	36.8	0.0	0.6	0.0	218.0	1219783.2
1 - 103	986000	7221.0	671.8	7.6	4.0	13.6	0.0	532.9	17.9	24.3	165.9	0.3	0.0	312.0	977030.9
1 - 107	1217700	3579.0	560.0	66.3	4.9	11.9	0.0	39.0	31.0	243.0	0.0	0.0	0.0	50.0	1212300.8
1 - 110	876000	2667.0	1294.5	0.5	0.1	18.7	0.0	216.9	3.2	0.0	0.0	0.3	0.6	86.0	871682.2
1 - 112	936000	7164.0	2547	0.2	0.3	10.3	0.0	21.9	6.1	11.7	0.0	0.2	0.0	146.0	928311.9
1 - 113	511700	4883.4	545.9	6.9	2.6	5.5	0.0	215.9	10.1	4.7	53.3	0.4	0.0	102.0	505887.4
1 - 114	526500	7330.7	11147.7	0.9	10.4	8.5	0.0	450.2	57.6	24.3	63.9	1.9	0.4	99.0	517312.4
1 - 115	261000	3461.2	11309.9	1065.7	1.2	9.2	0.0	329.8	222.7	77.1	28.9	5.4	0.0	43.0	254671.7
1 - 116	79200	2566.0	13183.3	0.0	1.4	3.4	0.0	114.8	51.7	7.1	4.7	0.9	0.0	10.0	75691.8
1 - 123	579600	2678.0	13789	263.5	0.0	2.0	0.0	237.5	2.0	182.4	156.0	0.0	0.2	108.0	574590.5
1 - 125	632100	5434.0	9318.8	0.0	0.5	10.5	0.0	317.0	3.9	0.0	44.8	0.1	0.0	78.0	625276.4
1 - 130	649000	721.0	28520.2	465.5	1.4	0.0	0.0	436.7	1.4	0.0	35.5	0.3	1.5	100.0	618605.3
1 - 132	517000	1603.0	8001.5	1.2	25.5	2.2	0.0	443.2	2.6	1503.8	381	0.0	13.0	71.0	506293.8

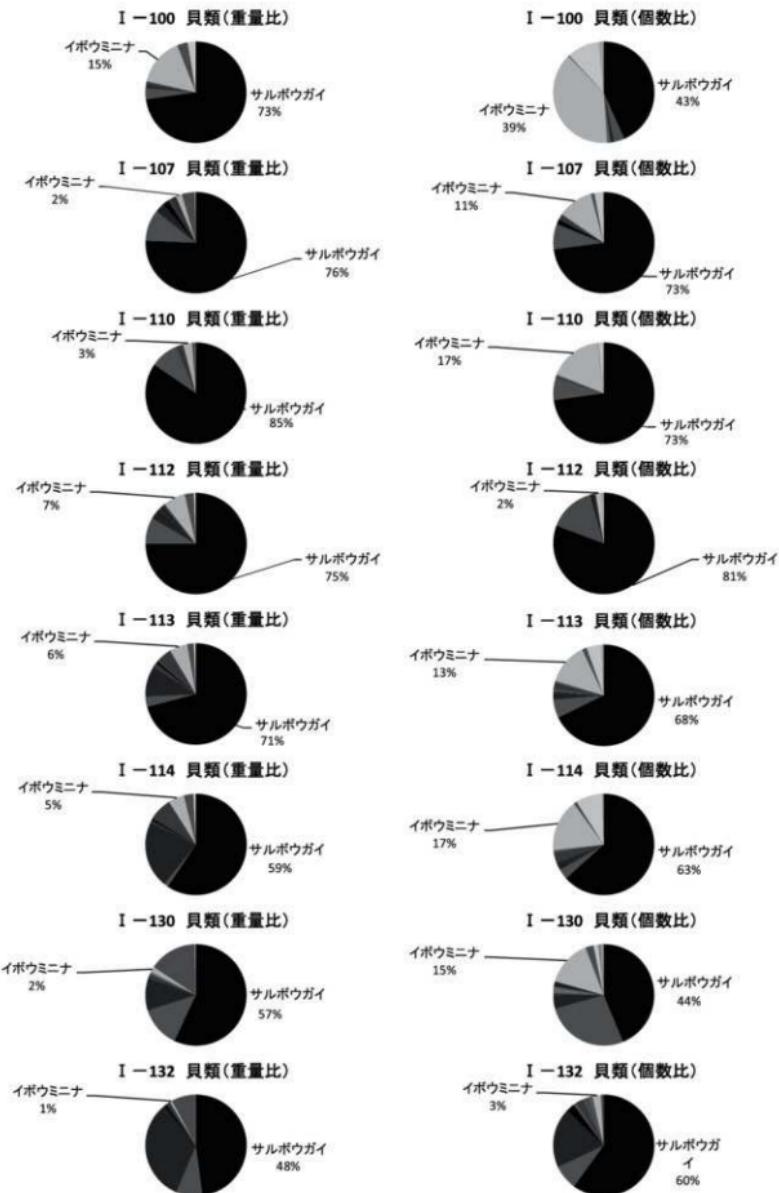


第269図 貝層土壤内容物グラフ（貝塚X II層）

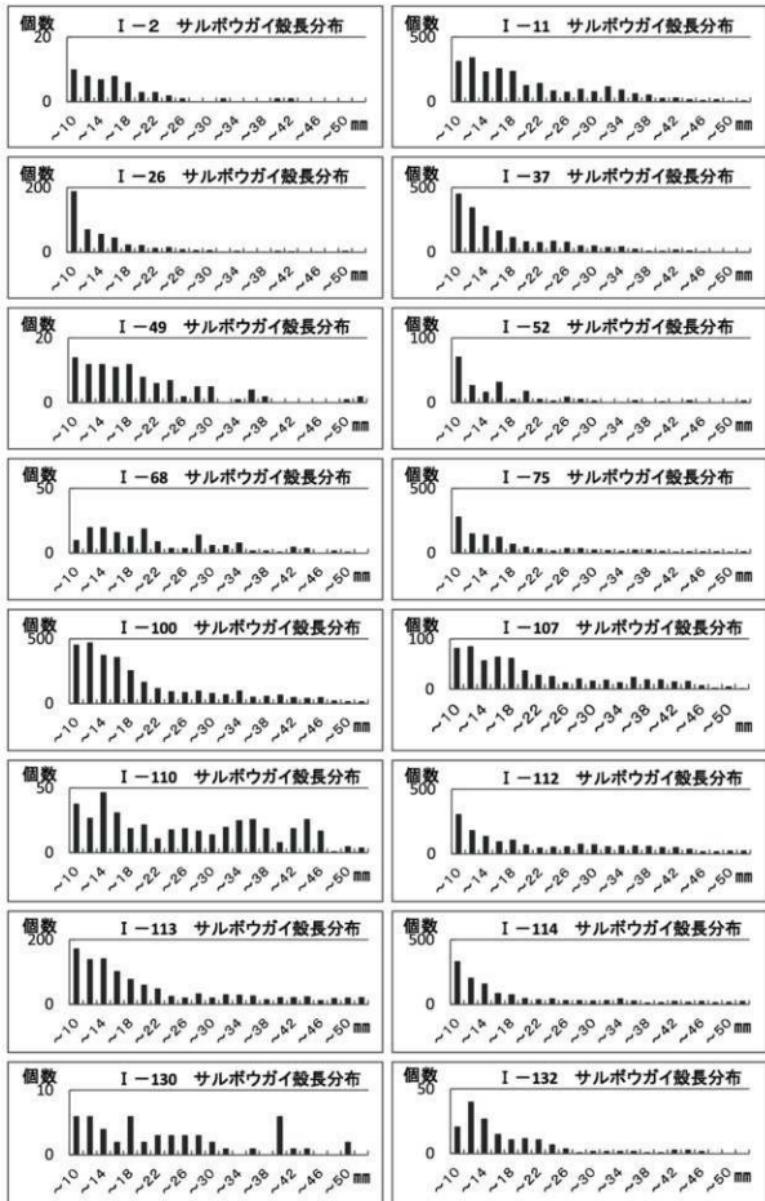
表第14 主要グリット貝類相一覧 (貝塚XⅡ層)



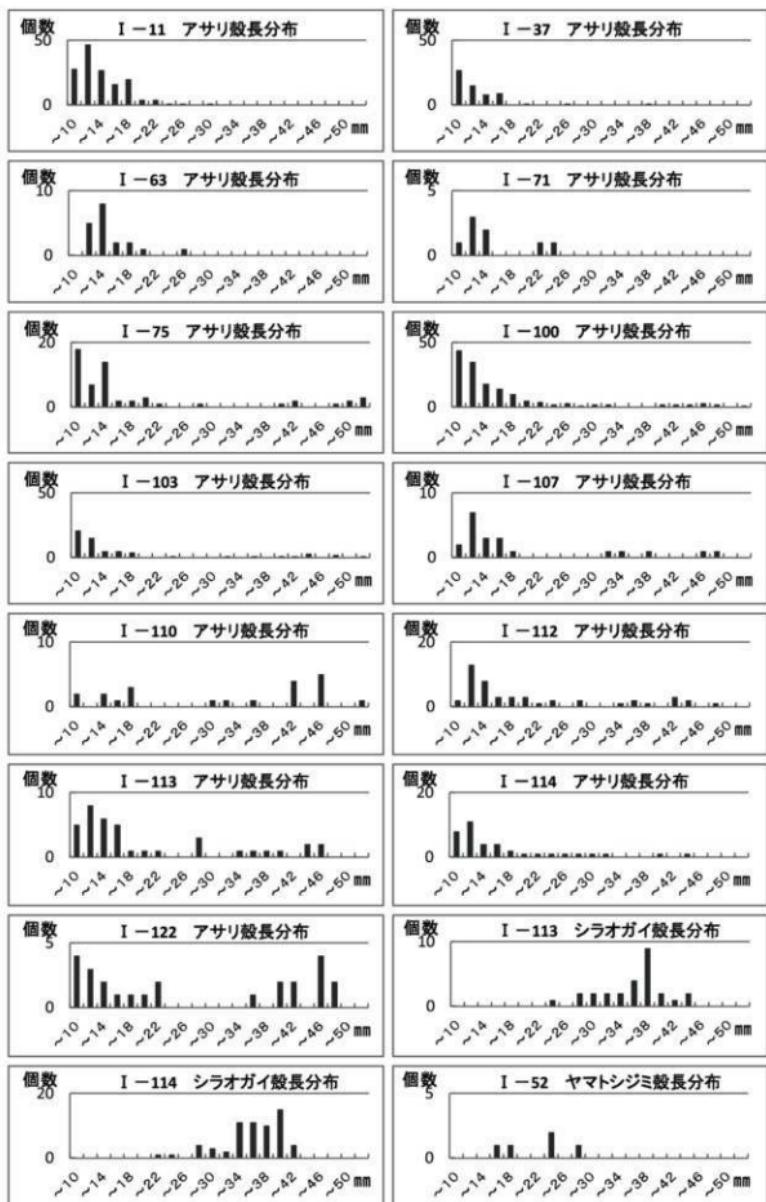
第270図 主要グリット貝類様相グラフ（貝塚X II層）



第271図 主要グリット貝類様相グラフ（貝塚X II層）



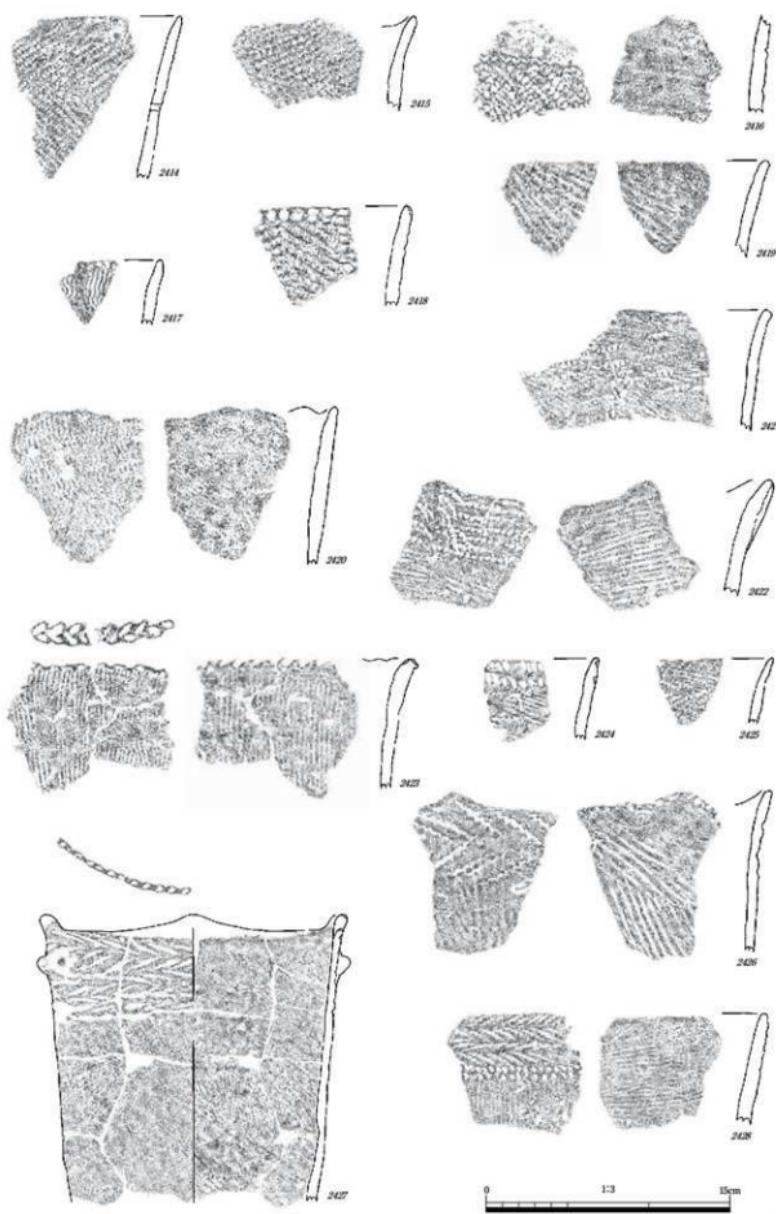
第272図 サルボウガイ殻長分布（貝塚X II層）



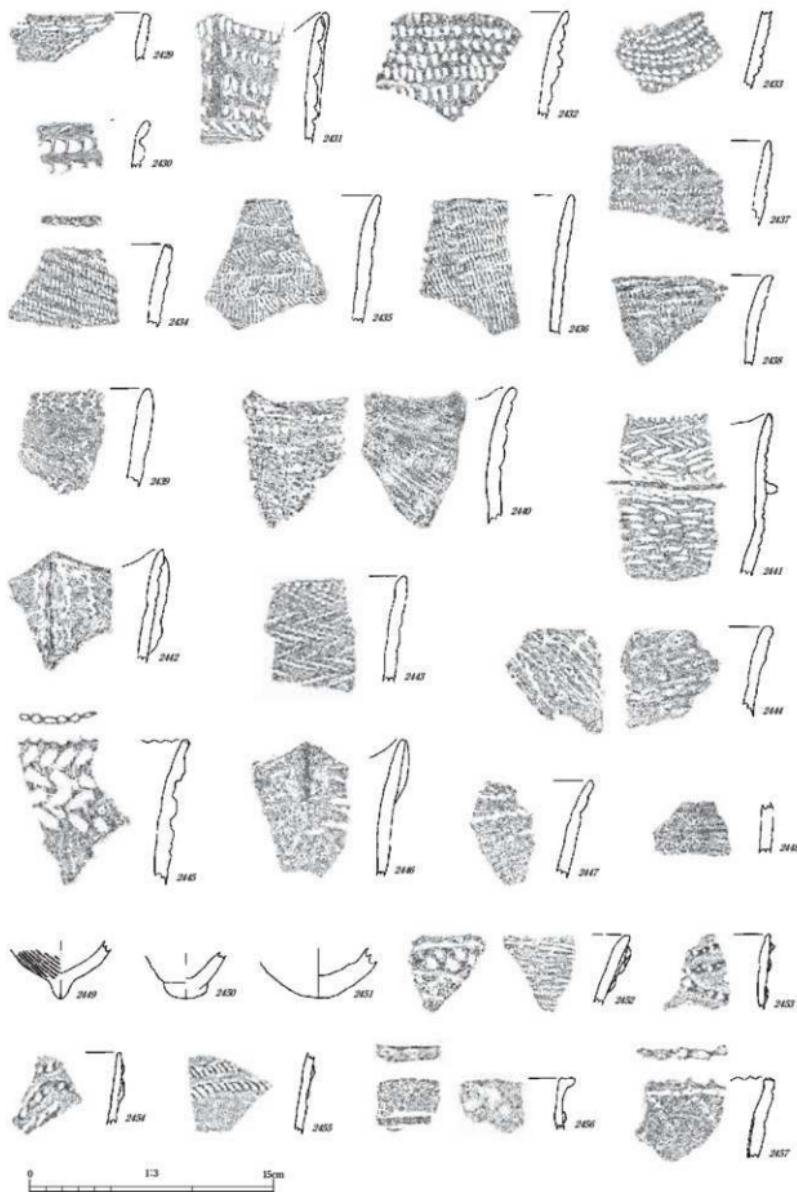
第273図 アサリ・シラオガイ・ヤマトシジミ殻長分布（貝塚X II層）



第274図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚 X II層



第275図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚 X II層



第276図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X II層

摩滅率はA～Cで8割を占め、南側の一部を除けば層全体に摩滅率が高い。

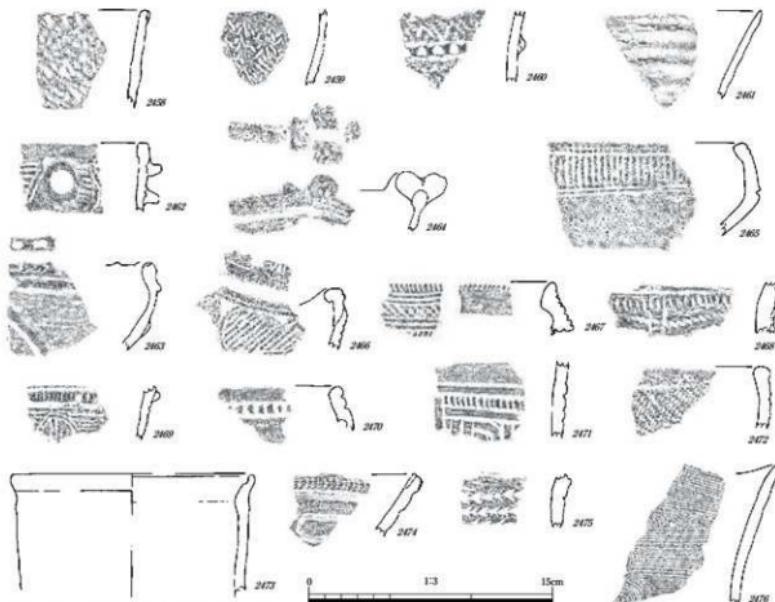
土器の時期は、早期後葉～後期中葉まで出土し、出土量は佐波・極楽寺式期が97%と最も多いが南側斜面からの崩落もしくは直下にあるX IV層から混在と考えられる。

2452～2455は無文地に隆帯を貼り付け刻む薄手の破片で早期後葉の入海式。2452は入海0式<sup>註24</sup>、2453・2454は入海I式、2455は入海II式に相当しよう。

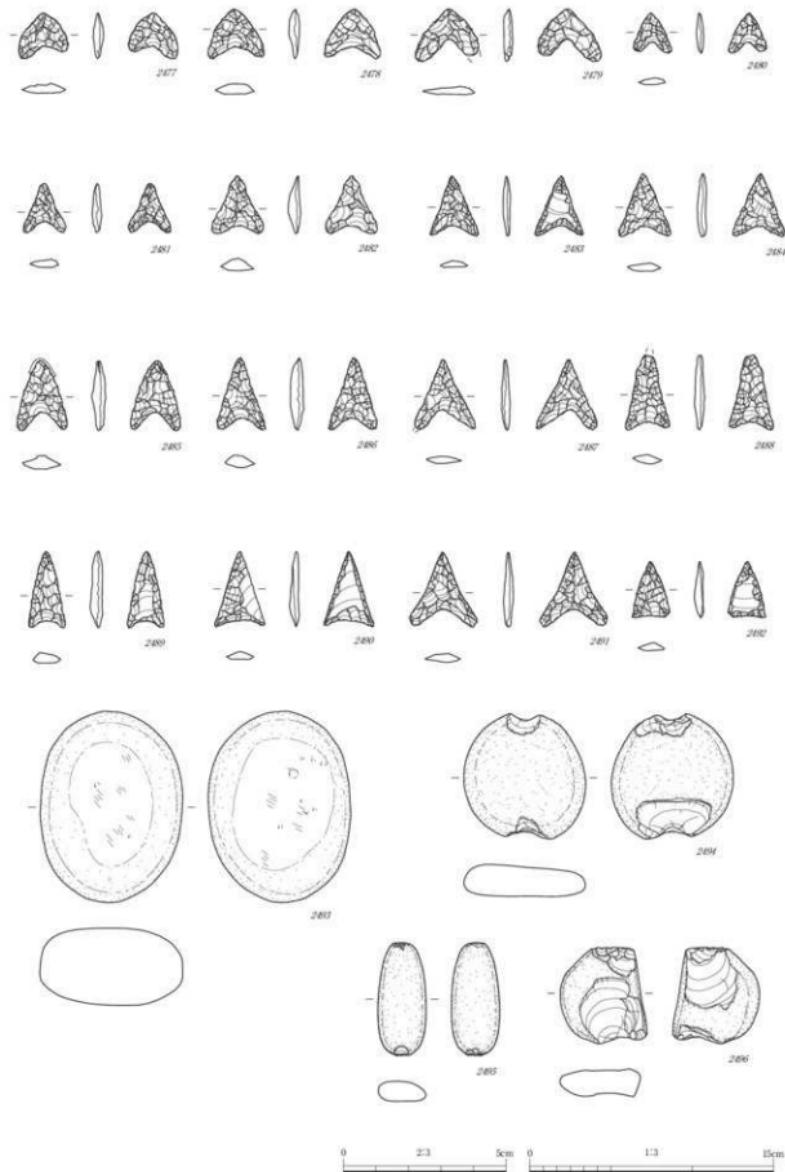
2390～2451・2456・2457は、早期末葉～前期初頭（佐波・極楽寺式期）。口縁部の破片は837あり文様別に割合を見ると、表裏繩文10（2390・2391・2393）、外面繩文内面条痕3（2394・2396・2397）、外面繩文内面無文255（2392・2395・2398・2399・2411～2415・2418）、表裏条痕13（2419・2420・2423）、外面条痕内面無文29（2417）、無文隆帯貼付14（2446）、無文隆帯無し58（2400・2448）、繩文地矢羽根状文6（2401・2403）、条痕地矢羽根状文9（2425）、無文地矢羽根状文85（2426～2428・2441・2443・2445）、繩文地刺突列点文6（図示無し）、条痕地刺突列点文15（2424）、無文地刺突列点文129（2404・2405・2431～2133）、繩文地貝殻腹縁文1（図示無し）、条痕地貝殻腹縁文24（2421・2444）、無文地貝殻腹縁文134（2416・2422・2435～2440・2442）、繩文地押引状文4（2402）、条痕地押引状文1（図示無し）、無文地押引状文13（2429）、無文地爪形文3（2430）、繩文地沈線文5（図示無し）、条痕地沈線文1（図示無し）、無文地沈線文13（2406・2407）、無文地繩文・撲糸压痕6（2447）である。2448は付着炭化物のAMS年代測定で6,750±40BP（IAAA-60249）の結果を得ている。

底部は78あり、形状では平底穿孔有り1（図示無し）、平底穿孔無し40（2410）、尖底・丸底穿孔有り8（2408・2409）、尖底・丸底穿孔無し29（2449～2451）であり、平底穿孔無しが最も多く尖底・丸底も含めて穿孔が少ない。

註24 東海南方の早期後葉無文土器である上ノ山式の次式については、堆子御真式が入海式、下野御真式が上ノ山式と同時期ながら異名を用いているが、本稿では入海0式とする。（山下2006）



第277図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚 X II層



第278図 繩文時代遺物実測図 (2477~2492 2/3, 2493~2496 1/3)  
貝塚X II層

2456・2457は外來系とみられる破片。2456は口縁端部をユビオサエ、外面にヨコ方向の隆帯を貼り付ける。楠廻間式か。2457は口縁端部をユビ刻み、外面に棒状工具による押引状沈線文を波状に施す。下吉井式か。

2458~2461は、前期前葉～後葉。2458~2460は前期前葉布目式期。2458・2460は組紐、2459は結節回転文で施文する。2459は内面に炭化物が付着し、そのAMS年代測定を行い $6,170 \pm 40$ BP (IAAA-60248) の結果を得ている。2461は無文地に微隆起線を施す口縁部で前期後葉蜆ヶ森II式。胎土分析(試料16)では、花崗岩を主体とし、放散虫や骨針化石を多く含むとの結果を得ている。

2462~2469は、前期末葉～中期初頭(朝日下層～新保式期)。2462・2465~2467・2469は、細い半截竹管で施文。2464は口縁端部に突起をもつ。2463は口縁直下に細い隆帯を貼り付ける。2468は細いソーメン状の隆帯を短く貼り付ける。

2470~2474は中期。2470・2471は、中期前葉新崎式期の破片でいずれも半截竹管による半隆起線文と爪形の刻みを施す。2472・2473は深鉢で時期の詳細は不明。2474は中期末葉串田新式の深鉢口縁部。隆帯を貝殻腹縁によって刻み、工字状の沈線文を施す。

2475・2476は後期。2475は、口縁部に三角刺突文を施す後期前葉気屋式。2476は薄く磨いた口縁部で、細かい条線で直線や曲線文を施す。後期中葉加曾利B式併行期か。

#### F 石製品 (2477~2514, 第278~280図, 図版12・145・152・153・155・161・163・169・170・173)

石製品の総量は235点で14.3kg。器種は石鎌36, 石錐34, 二次加工剥片6, 蔽石6, 積状耳飾3, 石錐1, 管玉1, 削器1, 台石1, 磨石1, 楔形石器1, 剥片131, 軽石13の13種あり、石鎌と石錐で約8割を占める。

2477~2492は石鎌で2492は平基で他は凹基。2477~2479はブーメラン状の幅広タイプ、2488~2490は細身の幅狭タイプ。長軸で分類すると長さ1.5cm以下の小型が30%, 2.5cm以下の中型が70%, 3cmを超えるような大型はない。重量は0.7g内外に集中し、1gを超えるものは少ない。石材はガラス質安山岩や珪質頁岩(いわゆる玉髓)が多いが黒曜石も2点ある。黒曜石はいずれも源産と推定されている(第V章第18節)。

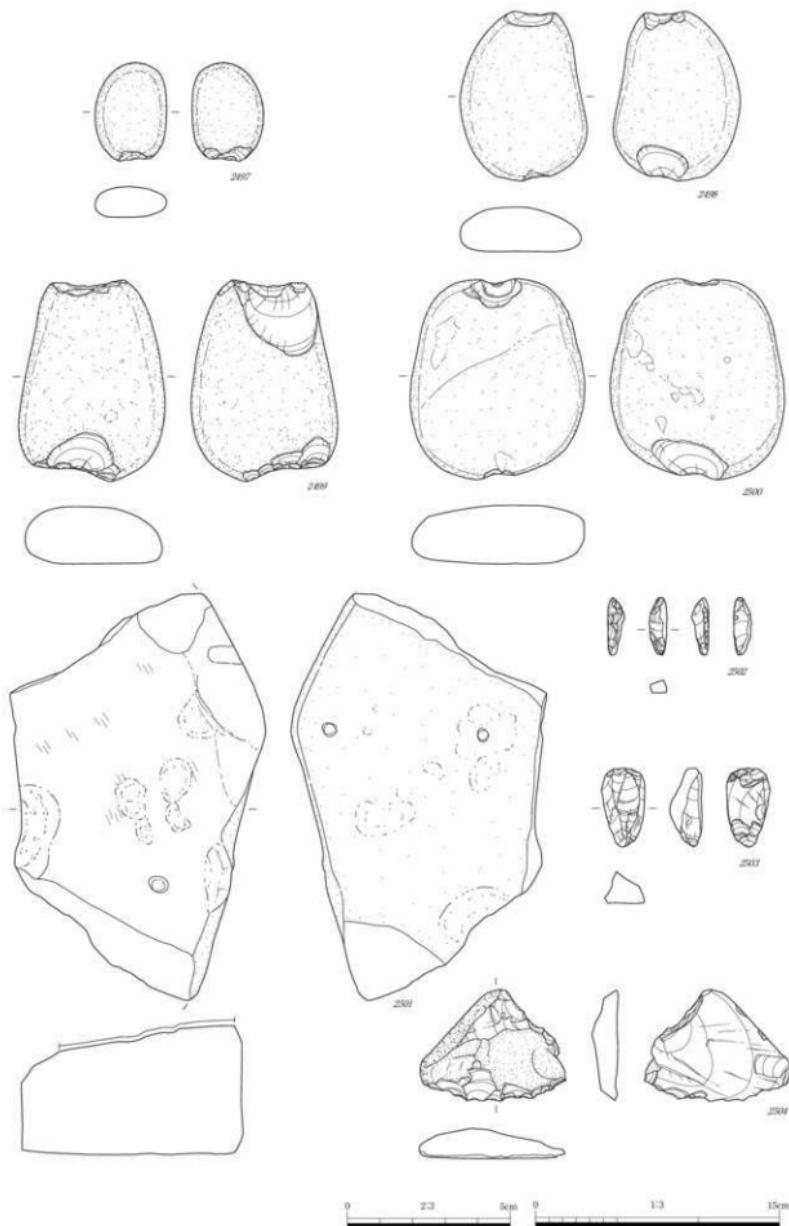
2493は擦石で両面に使用痕が残る。安山岩。2494~2500は打欠の礫石錐。2494が円形状、2495が梢円形状、他は台形状。2497は未成品とみられ、下端のみ打ち欠く。長軸で分類すると、7cm前後と11cm前後の二つにピークが表れる。重量は100~150gのピークが一つみられるだけでばらつかない。石材は砂岩を主体とし、安山岩や花崗岩などがある。いずれも近隣で採取可能な石材である。このことから、石材よりも手に持った重量がほぼ同じ感覚のものを採取していたとみられる。2501は砂岩質の台石で被熱痕がある。化石化した穿孔貝が入っており、近隣の地盤に含まれていた転石を利用したものとみられる。2502はメノウ(いわゆる玉髓)製の石錐。2503は玉髓質泥岩(いわゆる真駒石)製の楔形石器。2504はガラス質安山岩製の削器でつまみ部を作り出す前の石匙未成品の可能性もある。2505は滑石製の太形の管玉。2506~2508は滑石製の積状耳飾でいずれも欠損。2506・2507は環状で穿孔する。2508は継長のタイプ。2509~2514は軽石。

#### G 骨角歯牙製品 (2515~2522, 第281図, 図版175)

骨角歯牙製品の総量は26点で35g。器種は刺突具22(ヤス状刺突具6, 刺突具I 12, 刺突具II 4), 髦針2, 単式釣針1, 管状垂飾1で刺突具が大半を占める<sup>110</sup>。

2515~2520は刺突具。2515~2518は両端が尖るヤス状刺突具で2516と2517は小型の完形。2518は鹿角を素材とする。2519・2520は一端のみ尖る刺突具Iで2520は黒色で全体をきれいに磨く。小片のた

<sup>110</sup> 骨角歯牙製品の名稱は、金子昌昌・辻沢成廣「1986『骨角歯牙の研究』(純文族I)」を参考に準じた。



第279図 繩文時代遺物実測図 (2502~2504 2/3, 2497~2501 1/3)  
貝塚X II層

め固化していないが錐状の刺突具（刺突具Ⅱ）も4点出土している。2521は、単式釣針の軸部で3条の抉りをもつ。2522はトリの四肢骨を切断し切断面を磨いてつくった管状垂飾。

#### H 種実製品 (2525, 第281図, 図版3)

ヒメグルミを半截し、内面から穿孔した垂飾が1点出土 (2525)。類例は数少なく県内では前期後葉～末葉の富山市小竹貝塚<sup>344</sup>、県外でも中期前葉以降の滋賀県大津市栗津湖底遺跡第三貝塚<sup>345</sup>にあるものしか知られていない。

#### I 動物遺体

土壤洗浄出土の動物遺体は、1mmと2.5mmメッシュで魚類が多く出土。特にニシン科が5割以上を占め、サバ属やタイ科（クロダイ・マダイ）が続く。5mmメッシュでは魚類のはかに陸生哺乳類が出土。魚類ではタイ科（クロダイ・マダイ・ヘダイ）が5割近くを占め、カツオ・マグロ属が26%, カワハギが9%で続く。陸生哺乳類ではシカとイノシシが大半でイヌやタヌキが続く。人骨も埋葬状態は不明だが破片のみ出土。

#### J 植物遺体

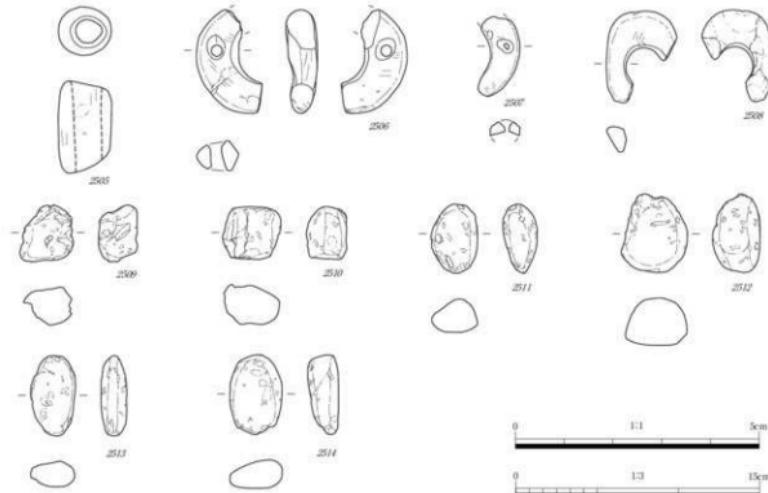
5mmメッシュではオニグルミが圧倒的に多く、ついでカヤ、ホオノキ、ハクウンボクなどの種実が出土。2.5mmメッシュではカラスザンショウ、アカメガシワなどの非食用種実を主体とし、ブドウ属など食用種実が少數入る。食用種実としてはこの他にコナラ属、クリ、トチノキ、ヒヨウタン類などがあるがいずれもわずかな量である。

植物遺体ではX層同様と言える。特筆すべき点は、ヒメグルミの加工品の存在である。

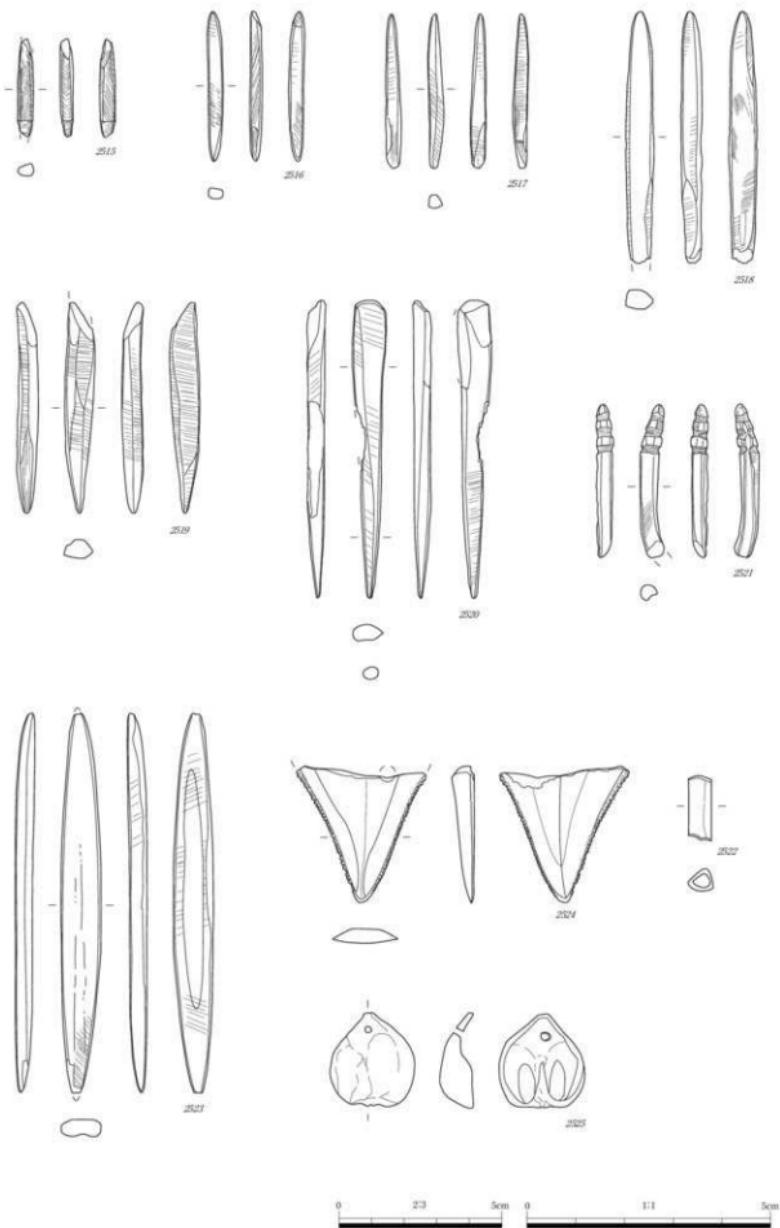
#### K 年代

貝層の年代は、AMS年代測定では貝類で4,560±40~5,140±40BP (IAAA-70486~70495, 80523~80532), 動物遺体で6,810±40~4,990±40BP (IAAA-80544~80549), 出土土器では佐波・極楽寺式の他に朝日下層～新保式が複数見られることから前期末葉～中期初頭と考えられる。

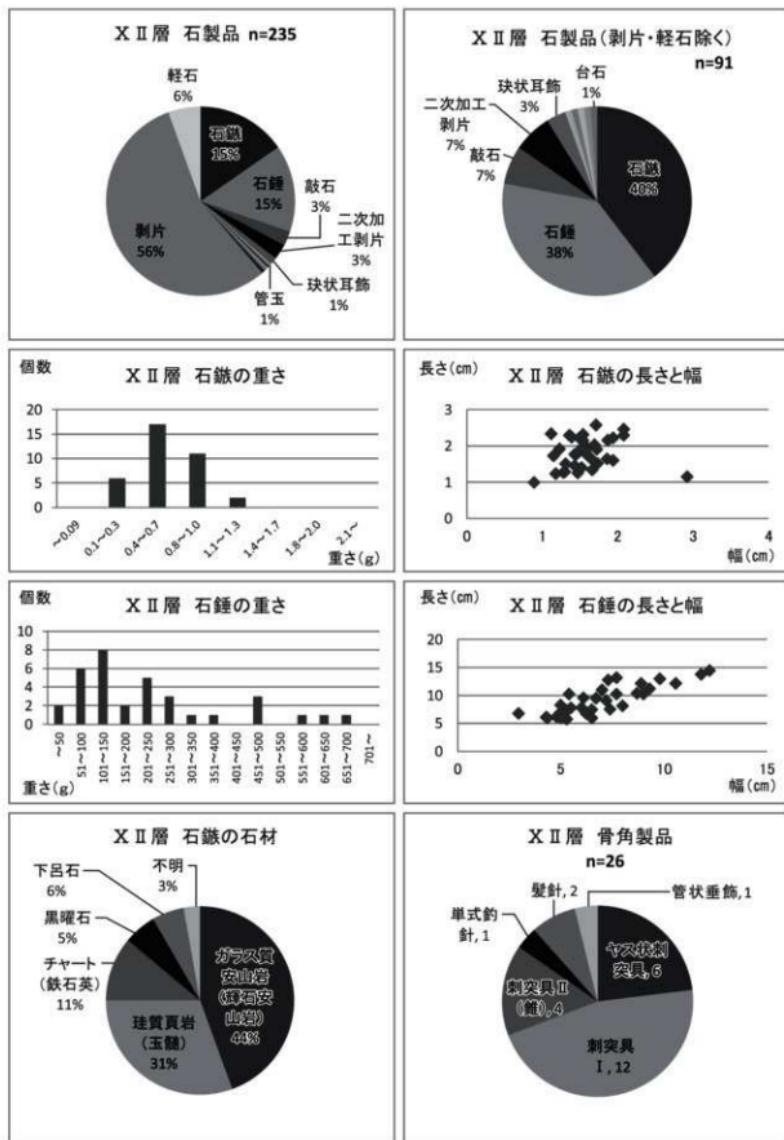
註44 朝日賀一 2011「小竹貝塚」「平成25年度 県立文化財年報」財团法人富山県振興財團  
註45 中川英一 1997「植物遺体」「栗津湖底遺跡第3貝塚 本史編」富貴野教育委員会・財团法人富貴野文化財振興協会



第280図 純文時代遺物実測図 (2505~2508 1/1, 2509~2514 1/3)  
貝塚 X II層



第281図 縄文時代遺物実測図 (2522・2524・2525 1/1, 2515~2521・2523 1/3)  
貝塚 X II層(2515~2522・2525)・X III層(2523・2524)



第282図 石製品・骨角器様相（貝塚X II層）

(4) X III層 (第281・283~290図, 図版12・23・55・121・122・145~147・150・161・166・170・173・175)

#### A 概 要

X II層とX IV層との間で調査区全域にひろがり, 調査時は“間層2”と呼称していた。調査区南西では、貝層(X II・X IV層)を挟まず、X V層と接している。南西から北東へ傾斜し、堆積状況の違いから北側を中心広がるX III a層とほぼ全域に広がるX III b層とに分離できる。土層検出面の標高はX III a層で-2m以下~-0.7m, X III b層で-2m以下~-1m。斜度はX III a層で約5.5度, X III b層で約10.5度。厚さは10cm~1m20cm以上。なお、調査区北側では安全上の理由から完掘していない。貝類はわずかに含まれる程度で土器・石器などの遺物を含む遺物包含層。X III a層は7.5Y 4/1灰色粘土質シルトを主体とし、珪藻分析では内湾指標種群が多産する。X III b層は5G Y 5/1オリーブ灰色砂質土を主体とし、珪藻分析では干潟指標種群が多産する。珪藻分析では、干潟堆積から内湾堆積への変化を見る事ができる。

#### B 繩文土器 (2526~2626, 第283~286図, 図版23・55・121・122)

土器の総量は99.8kg。摩滅率はA~Cで8割以上を占め、摩滅率が高い。

土器の時期は、早期後葉~後期中葉まで出土し、出土量は佐波・極楽寺式期が77%と最も多いが南側斜面からの崩落もしくは直下にあるX IV層から混在と考えられる。

2567~2569は無文地に隆帯を貼り付け刻む薄手の破片で早期後葉の東海系。2567は上ノ山式、2568は入海O式、2569は入海II式に相当しよう。

2526~2566・2570~2573は、早期末葉~前期初頭(佐波・極楽寺式期)。口縁部の破片は405あり文様別に割合を見ると、表裏縄文3(2526・2527・2529), 外面縄文内面条痕3(2532・2533), 外面縄文内面無文92(2528・2534・2535・2537・2539~2542), 表裏条痕4(図示無し), 外面条痕内面無文27(2544~2547), 無文隆帯貼付16(図示無し), 無文隆帯無し36(2566), 条痕地矢羽根状文7(図示無し), 無文地矢羽根状文48(2548~2552・2556・2557), 縄文地刺突列点立文4(2536), 条痕地刺突列点立文4(2555), 無文地刺突列点立文86(2561), 縄文地貝殻腹縁文1(図示無し), 条痕地貝殻腹縁文6(2543・2554), 無文地貝殻腹縁文49(2538・2558・2559), 縄文地押引状文2(図示無し), 無文地押引状文6(2560・2563), 無文地爪形文5(2562), 無文地沈線文2(図示無し), 縄文地縄文・撲糸压痕1(図示無し), 無文地縄文・撲糸压痕3(2564)である。

底部は53あり、形状では平底穿孔有り1(2530), 平底穿孔無し29(2531・2565), 尖底・丸底穿孔有り2(図示無し), 尖底・丸底穿孔無し21(2553)であり、平底穿孔無しが最も多く尖底・丸底も含めて穿孔が少ない。

2570~2573は外来系とみられる破片。2570は棒状工具による押引状沈線文を波状に施す。下吉井式か。2571~2573は波状口縁に沿うように隆帯をもち波頂部からも垂下した隆帯を貼り付ける。神之木台式か。

2574~2583は、前期前葉~末葉。2574~2576は前期前葉布目式期の口縁部。2574は斜縄文、他は結節回転文を施す。2577~2580は前期後葉とみられる口縁部。2577・2578は羽状縄文地に細い隆帯を貼り付ける観ヶ森I式。2579・2580は外に聞く器形で羽状縄文のみを施す。2581はくの字状口縁に縦方向の結節回転文を施す。2582は口縁部に隆帯を貼り付け、その下部にハケ状工具?で文様を描く。2583は細い半隆起線と鋸歯状印刻文を施す前期末葉福浦上層式。

2584~2613は、前期末葉~中期初頭(朝日下層~新保式期)。2585~2591・2593~2595・2596は細いソ-

メン状の貼付文で文様を構成する。2594・2597～2607・2611・2612は、細い半截竹管で文様を構成する。2608・2610は木目状撚糸文を施す。2609は口縁端部を肥厚し、その下部に細い半截竹管による平行沈線を施す。2613は中期初頭新保式のキャリバー形の深鉢。口縁部を半隆起線文、胴部を斜繩文で施文する。

2614～2624は中期。2614～2619は中期前葉新崎式期の破片で、いずれも半截竹管による半隆起線文と爪形の刻みを施す。2619は胎土分析（試料19）を行い、花崗岩を主体とする胎土で放散虫や骨針化石が多い結果を得ている。2620～2622は中期後葉古府式期。2620・2621は浅鉢で、2621は内面に漆を塗る。2622は幅の太い半隆起線を施す深鉢の口縁部。2623・2624は中期末葉串田新式の深鉢口縁部。2623は隆带上に貝殻腹縁の連続刺突を施す。

2625・2626は後期前葉氣屋式期。2626は、末端刺突をもつ沈線文を施す。

#### C 石製品 (2627～2658、第287～289図、図版12・145～147・150・161・166・170・173)

石製品の総量は248点で6.7kg。器種は石錐22、石鎌14、二次加工剥片14、楔形石器11、石匙8、削器3、敲石3、不定形石器2、磨製石斧1、块状耳飾1、剥片166、軽石3の12種あり、石錐が最も多く、石鎌・二次加工剥片・楔形石器がほぼ同数。小型の石器が少ないので土壌洗浄による選別を行っておらず採取できなかつたためかもしれない。

2627～2636は石鎌。2627～2629は円基。2630～2632・2634・2636は未成品。2633は両側から抉り込む五角形に近い形状。2635は平基。石材の多くはガラス質安山岩で2627・2631は黒曜石。2627は隠岐産と产地推定されている。2637～2642は石匙。2637は綫型、2638～2641は横型、2642は直交型。石材の多くは輝石安山岩で2639は玉髓質泥岩。2643・2644・2646は石錐。2643・2644は打ち欠きの蝶石錐で前者は台形、後者は円形の蝶を使用。2646は切目石錐。2647は磨製石斧の未成品。2648・2649は削器で前者は横型、後者は綫型。2650～2652は楔形石器。2653は块状耳飾で穿孔途中の孔がある。2654～2656は二次加工剥片。石材の多くはガラス質安山岩で2655のみ玉髓質泥岩。2654は石匙の未成品の可能性がある。2657・2658は不定形石器。石材は2657が下呂石、2658が安山岩。

#### D 骨角歯牙製品 (2523・2524、第281図、図版175)

骨角歯牙製品の総量は3点で15gと少ない。器種は刺突具2（ヤス状刺突具1、刺突具I1）、垂飾状歯牙製品1の2種類のみ。

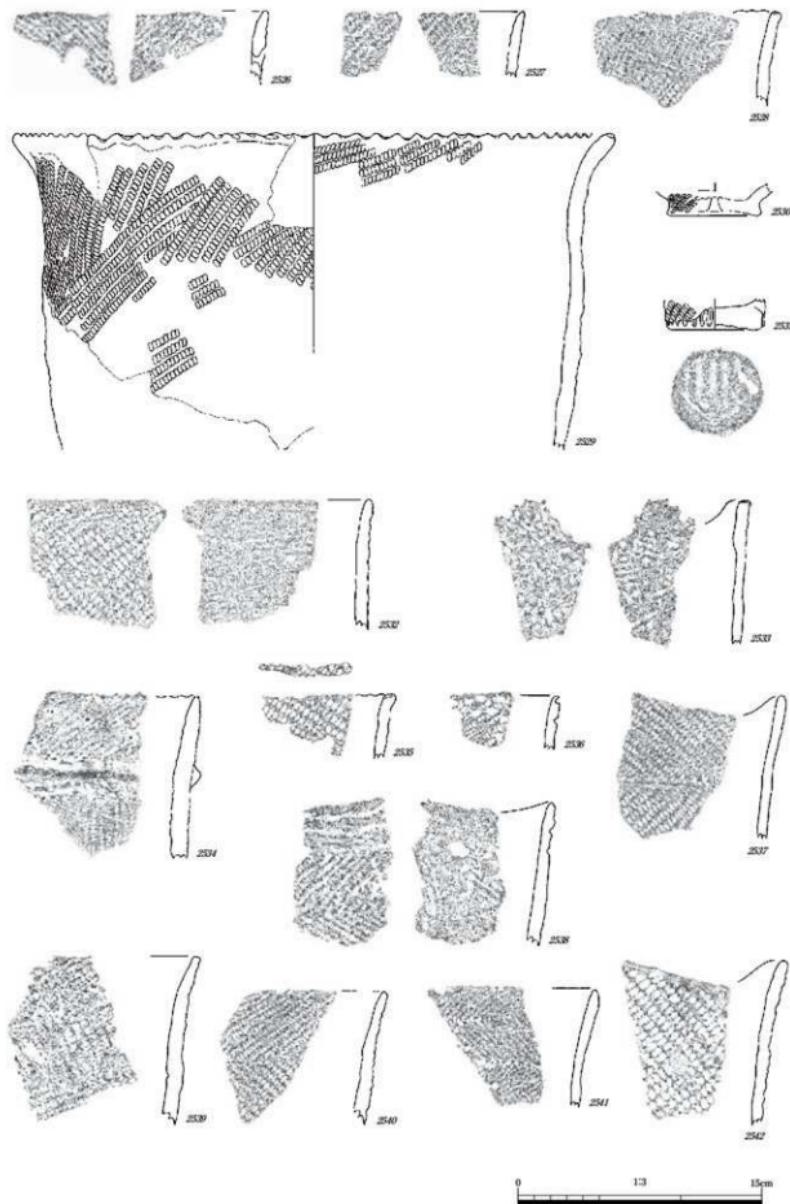
2523は両端を尖らす薄手のヤス状刺突具でシカもしくはイノシシの四肢骨を素材とする。2524はサメ歯の基部を穿孔した垂飾状歯牙製品。

#### E 動物遺体

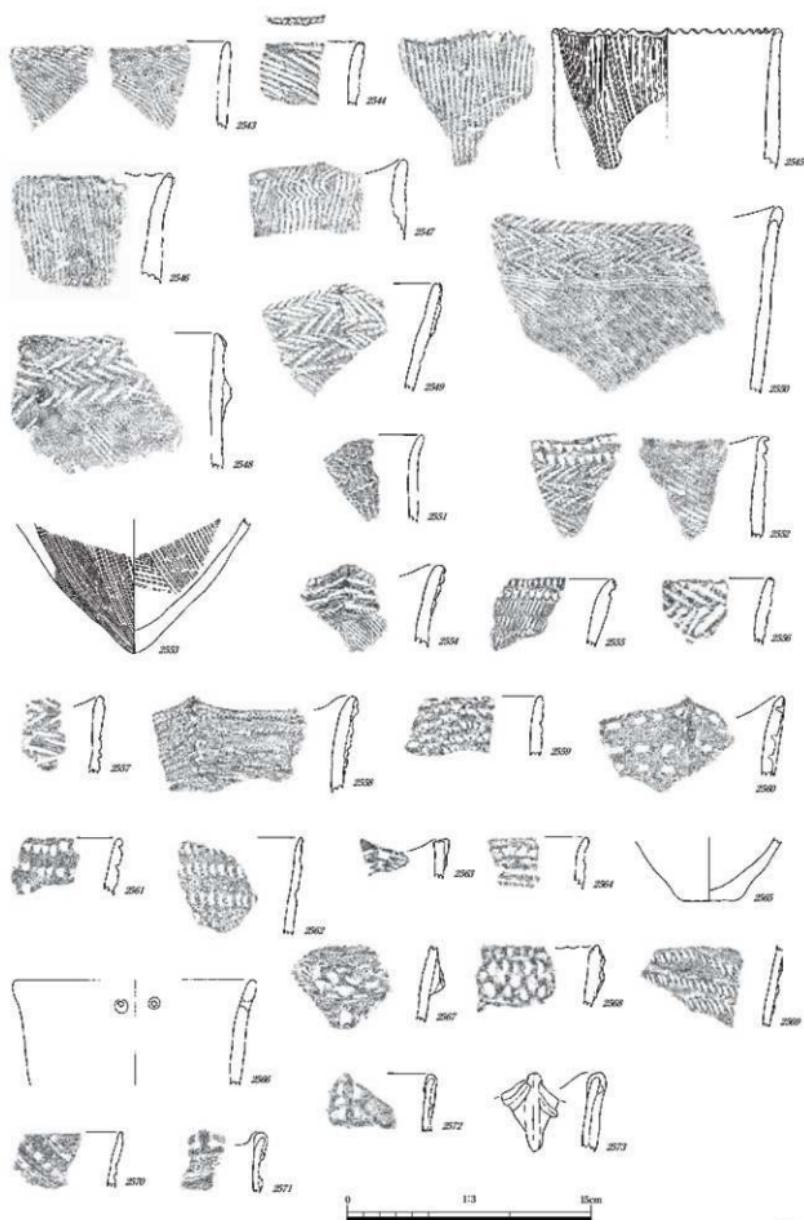
貝類では、アサリ、オオノガイ、カガミガイ、サルボウガイ、マガキ、アカニシ、イボウミニナが出土している。他は未同定。

#### F 年 代

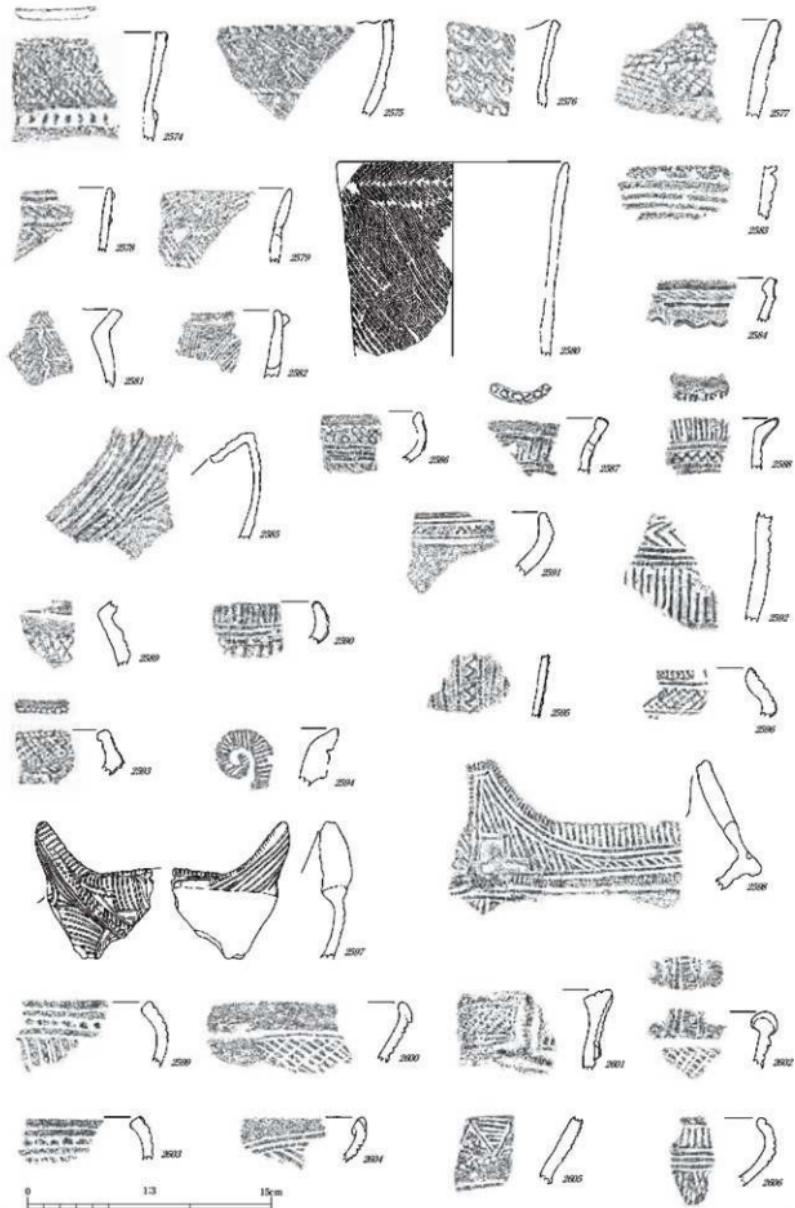
土層の年代はAMS年代測定など科学的な測定は行っていないが、前後の層位と出土土器から前期前葉（布目式期）～前期末葉（朝日下層式期）で前期後葉（蜆ヶ森式期）主体と考えられる。



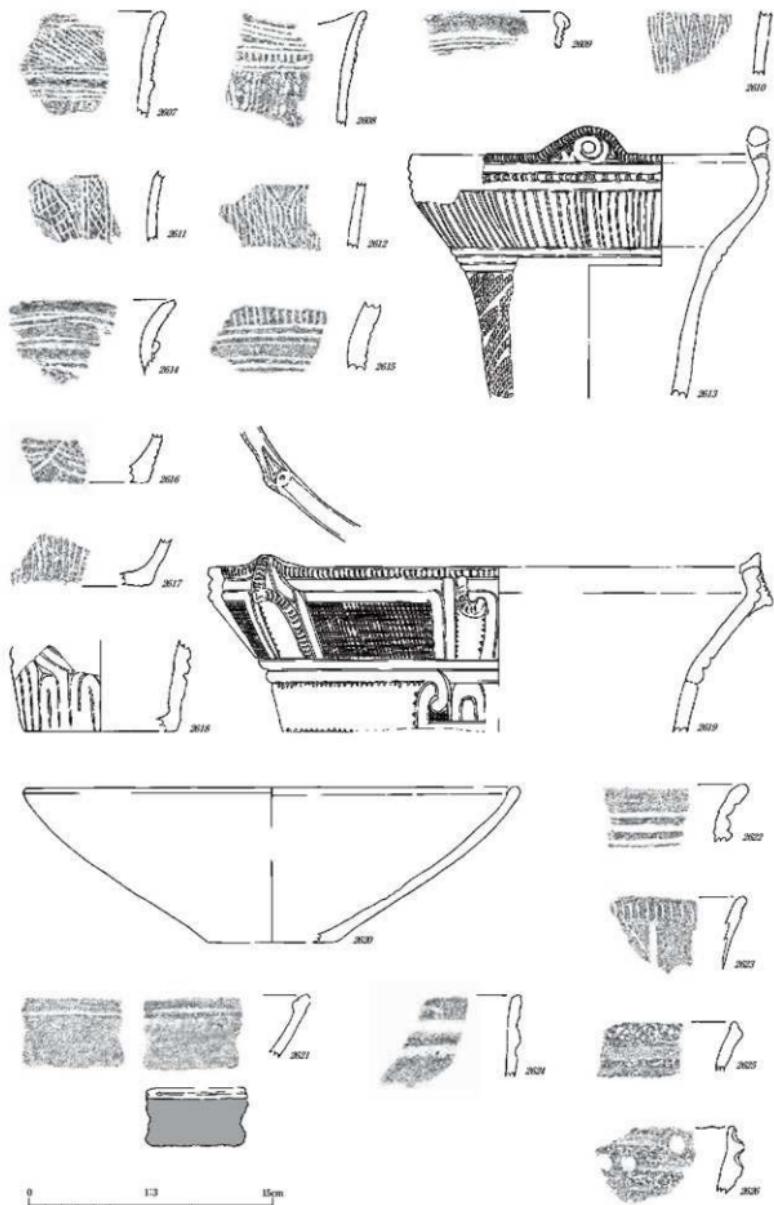
第283図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X III層



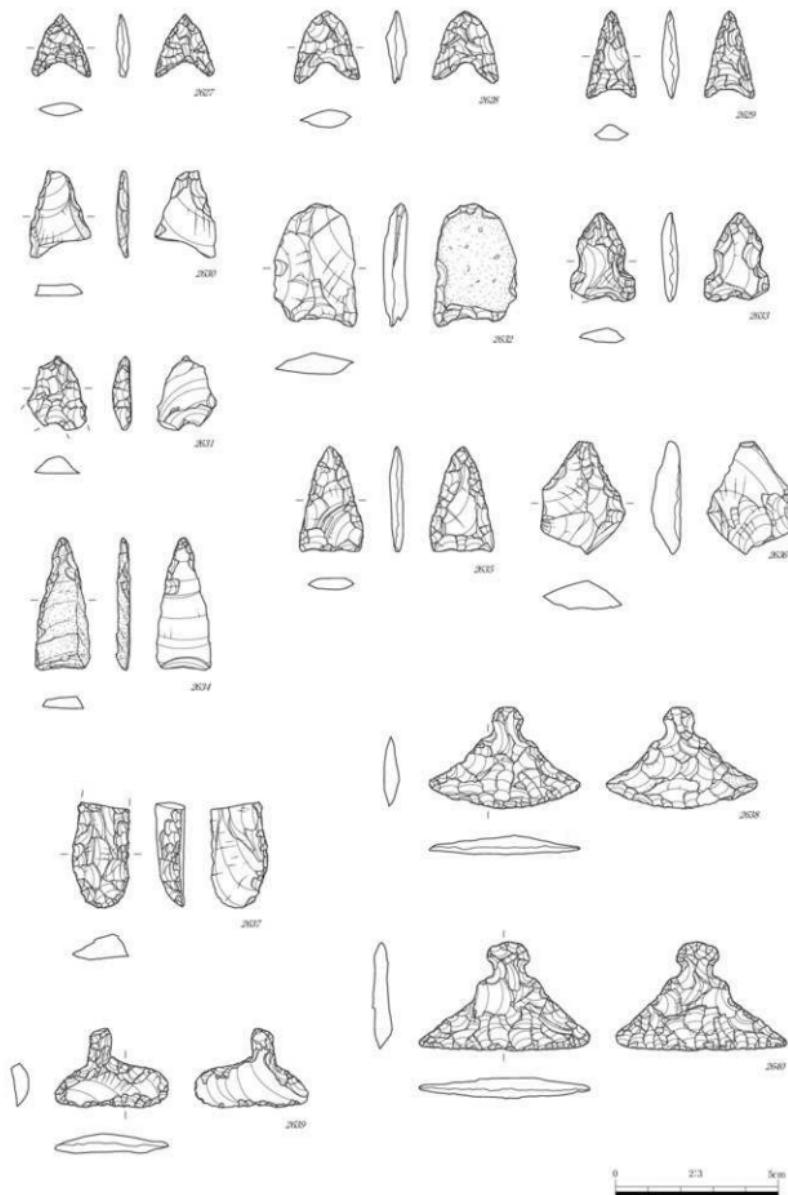
第284図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X III層



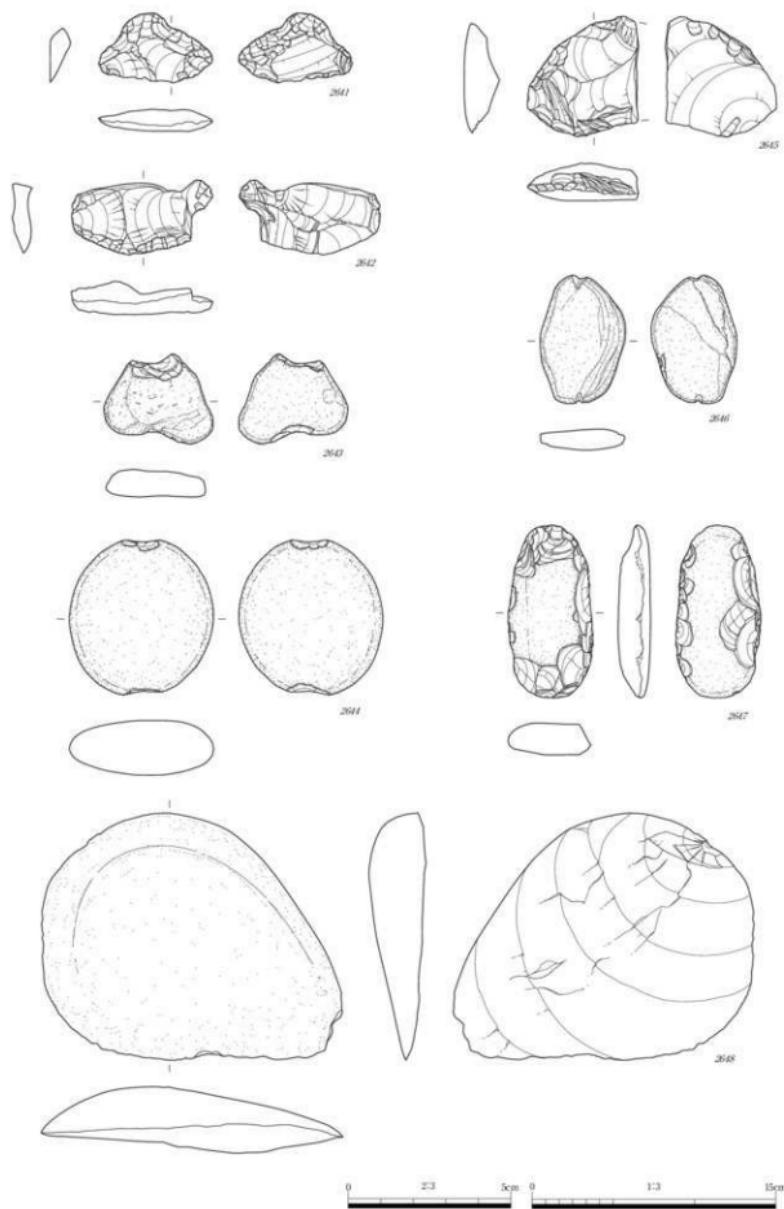
第285図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚 X Ⅲ層



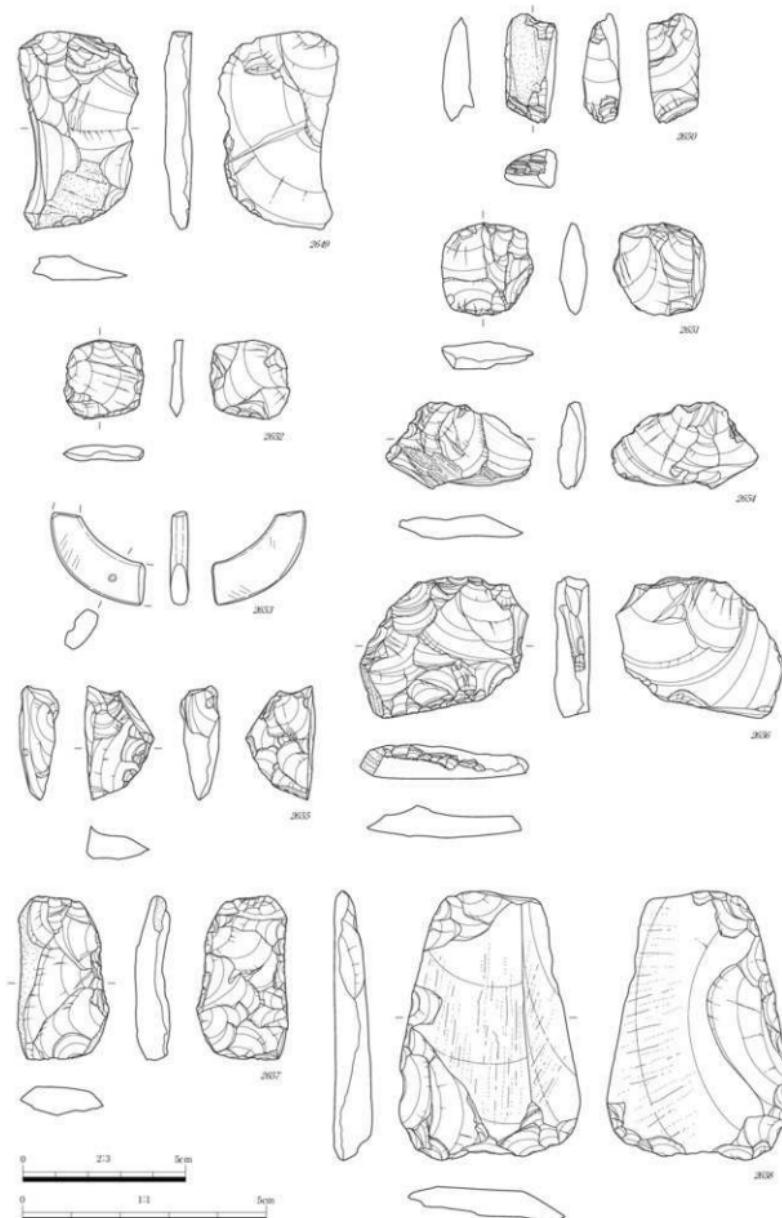
第286図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X III層



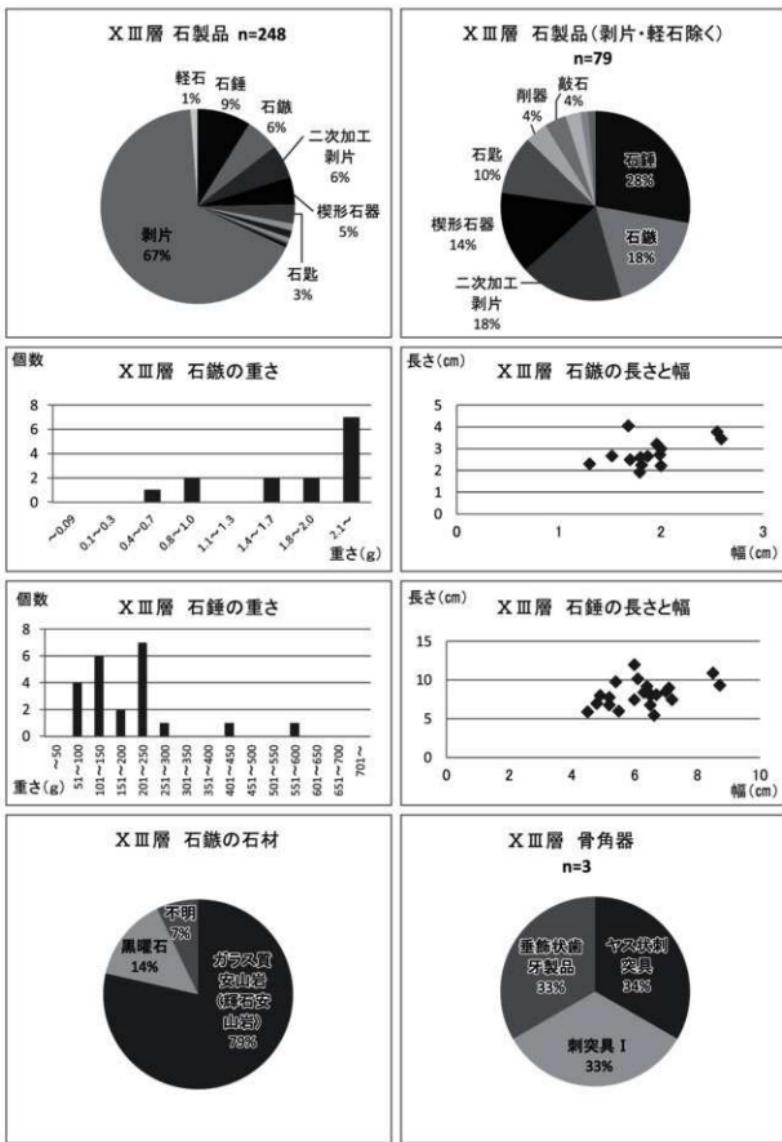
第287図 繩文時代遺物実測図 (2/3)  
貝塚X III層



第288図 純文時代遺物実測図 (2641・2642・2645・2648 2/3, 2643・2644・2646・2647 1/3)  
貝塚X III層



第289図 繩文時代遺物実測図 (2653 1/1, 2649~2652・2654~2658 2/3)  
貝塚X III層



第290図 石製品・骨角器様相（貝塚X III層）

(5) X IV層 (第291~320・334図, 第15・16表, 図版12・21・23・55・123~126・137・140・143・145~147・151・153・155・161~163・168・169・173・175・176)

#### A 概要

X III層とX V層との間で調査区の中央部にひろがり, 調査時はX II層 ("第1貝層") の下にあることから "第2貝層" と呼称していた。調査区南東では, X III層を挟まず, X II層と接している。南西から北東へ傾斜し, 貝層検出面の標高は-2m~0.4m。斜度は約10度。厚さは10~20cm。貝類よりも土壤の多い混貝土層でX II層よりは大型の貝類が多い。貝類は, サルボウガイ・マガキ・イボウミニナ・シラオガイなどを主体とするが小型や稚貝の多い箇所があり, X II層同様一部に自然貝層があると考えられる。土壤は, 5Y2/1 黒色砂質土を基本としている。遺物は各種出土し, X II層と比べて多い。土器片は摩滅が多い。珪藻分析では, X III b層同様に干渴のような環境とみられる。

#### B 土壤採取

貝層土壤は2×2mの98箇所のグリッドメッシュ(II-1~98)に分けた後, 土嚢袋に入れ全量採取・洗浄を行った。採取・洗浄土壤は, 土嚢袋にして6,555袋分(約69,078kg)である。

#### C 貝層の割合

貝層における貝の割合は重量比にして0.03~11.2%とX II層よりはやや高めだが土器・石製品・骨角貝歯製品などほかの遺物を包含する混貝土層。

#### D 貝種

72種類の貝類が出土。海水性の貝類が多いが汽水性も一部に入る。貝類群集では内湾砂底群集を主体に干渴と感潮域群集が多い。X II層よりも種類が豊富で多種多彩な貝類を採取していたものとみられる。

巻貝ではアカニシ, アラムシロ, イシマキガイ, イボウミニナ, ウミニナ, ウラウズガイ, オオヘビガイ, カワアイ, カワニナ, クダマキマツムシ, クチキレガイ, コシダカガンガラ, コベルトカニモリ, コロモガイ, サザエ, シドロガイ, シラゲガイ, スガイ, スソチャマンジ, ツメタガイ, ネコガイ, バイ, ヒメヨウラク, マツムシ, ムギガイ, ムシロガイ, モミジボラ, レイシガイの28種類が出土。

角貝では, ヤカドツノガイの1種類が出土。

二枚貝ではアサリ, イシガイ, イセシラガイ, イタボガキ, イタヤガイ, ウネナシトマヤガイ, ウメノハナガイ, オオノガイ, オキシジミ, オニアサリ, カガミガイ, カノコアサリ, カリガネエガイ, ガンギハマグリ, キクザル, クシケマスオ, クチベニガイ, コタマガイ, コマツヤマワスレ, サトウガイ, サルノカシラ, サルボウガイ, シオフキ, シラオガイ, チョウセンハマグリ, チリボタン, トリガイ, ナミマガシワ, ヌノメアカガイ, ハイガイ, パカガイ, ハマグリ, ヒメカノコアサリ, ヒメシラトリ, フスマガイ, フナクイムシ, フネガイ, ベンケイガイ, マガキ, マツカサガイ, マツカゼガイ, マテガイ, ヤマトシジミの43種類が出土。

貝層を構成する主要貝類は, 重量比ではマガキ, サルボウガイ, オオノガイ, シラオガイ, アカニシ, カガミガイ, ハマグリ, イボウミニナの順に多い。個数比ではサルボウガイ, イボウミニナ, シラオガイ, オオノガイ, ハマグリ, ヤマトシジミ, カガミガイ, アカニシの順に多い。ただし, 地点ごとに様相は大きく異なり, サルボウガイ・マガキ・イボウミニナ・シラオガイなど主要貝種の構成比がまちまちとなっている。

サルボウガイの殻長分布では北端では1.8cm以下の小型が多くを占めるが, ほかでは1.8cm以下の小

型と4.6cm内外の大型の2つのピークをもつていて自然貝層と人為的貝層とが混在した状況を示す。一方でアサリやシラオガイは大型にピークがほぼ集中することから人為的貝層と言える。このことから、人為的な貝層を主体とするものの全体的に標高が低いため潮汐の影響によっては波を被り、打ち上げなどで自然堆積した貝層が混在していたと考えられよう。

XⅡ層に比べて海水性に混じってカワニナやイシガイなどの淡水性やヤマトシジミなどの汽水性の貝類が出土している。これはXⅡ層とは貝塚周囲の環境が変化したのか採取場所が異なっていたのかが予想される。淡水性は数少ないとから食用ではなく打ち上がりの可能性も考えられるが、ヤマトシジミについては主要貝種に準じており捕獲種であろう。なお、遺跡の南側にある1号谷内貝層（早期末葉～前期初頭か）でもヤマトシジミが一定量出土しており、この時期の周辺環境を投影しているのかもしれない。

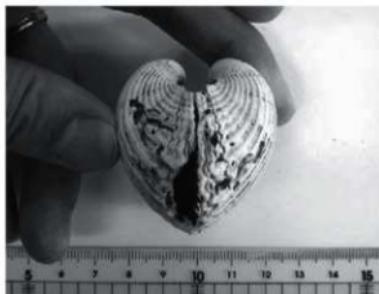
このほかにXⅡ層と比べて違ひの見られる事例として、サトウガイとベンケイガイがある。この両者は富山湾では生貝を捕獲できない外洋性である。ただし、貝殻としては現在でも大型品が高岡市雨晴海岸付近で打ち上がり、採取可能である。さらにこれらは貝輪の材料となっている。このことからこの2種は食用として生貝が持ち込まれたのではなく、貝輪の材料として貝殻を採取してきたものと考えられる。ベンケイガイでは未成品が出土しておりこれを裏付けられよう。

出土量の多いサルボウガイとシラオガイでは、一部で貝合わせを行ってみたところ、可能なものは少なかったが、大型では腹縁部や背縁部を破損しているものが多く見られ、殻をこじ開けた可能性がある。例えば、サルボウガイでは小型は欠損がないが大型は腹縁に欠損があるものが多くなり、シラオガイではサイズを問わず欠損しているもの少なかった。つまり、採貝活動では大型貝を選別して採取し、サルボウガイなどの身の厚いものはまず殻を開けてから生食または茹でなどの調理、シラオガイなどの身の薄いものは殻を開けずに調理を行っていた可能性がある。

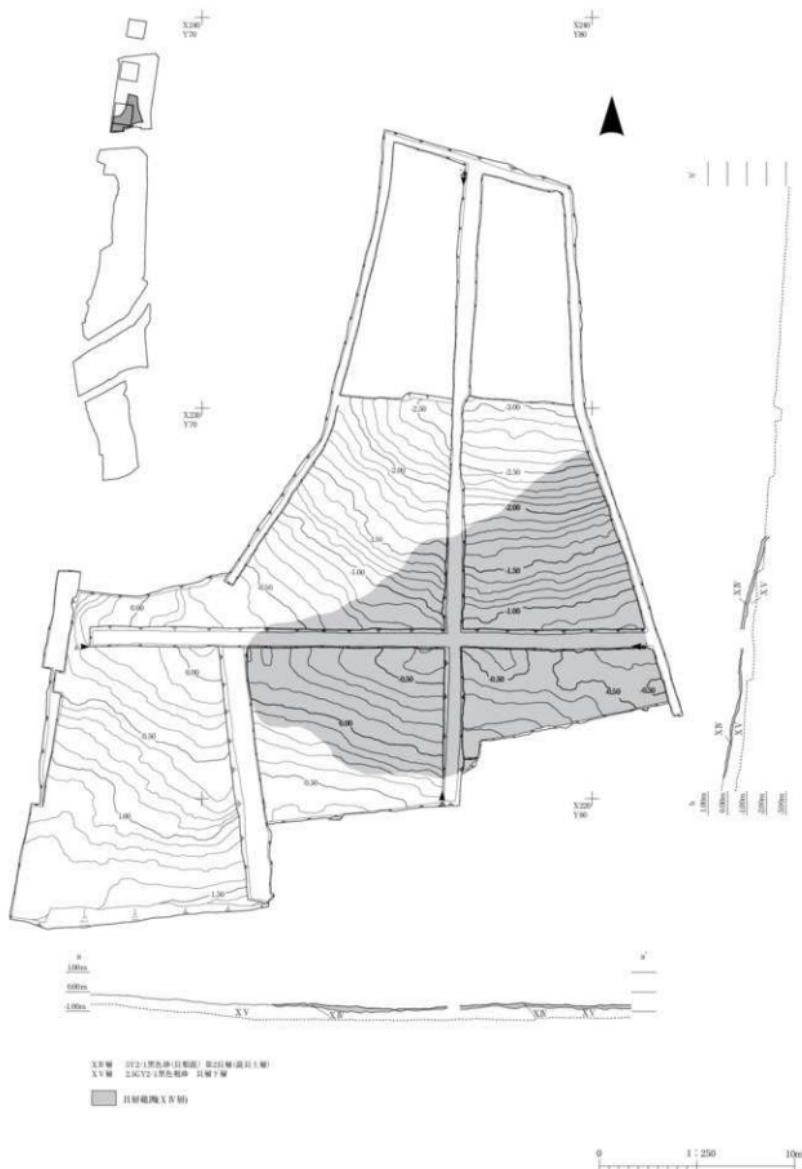
表面に穿孔のある貝類の数はサルボウガイやアサリでは数少ない。ところが、ハイガイは33～88%と穿孔貝の割合が非常に高く、食用後廃棄し、波に洗われたものとみられる。表面の焼けた貝類は、マガキ・シラオガイ・オオノガイに多く見られる。これらは殻に欠損部がなく、一度焼いて殻を開け身を取り出して食していたものと考えられる。しかし、殻に欠損部の多いサルボウガイでは焼いてあるものがほとんどなく、貝種によっては調理方法を変えていたのかもしれない。



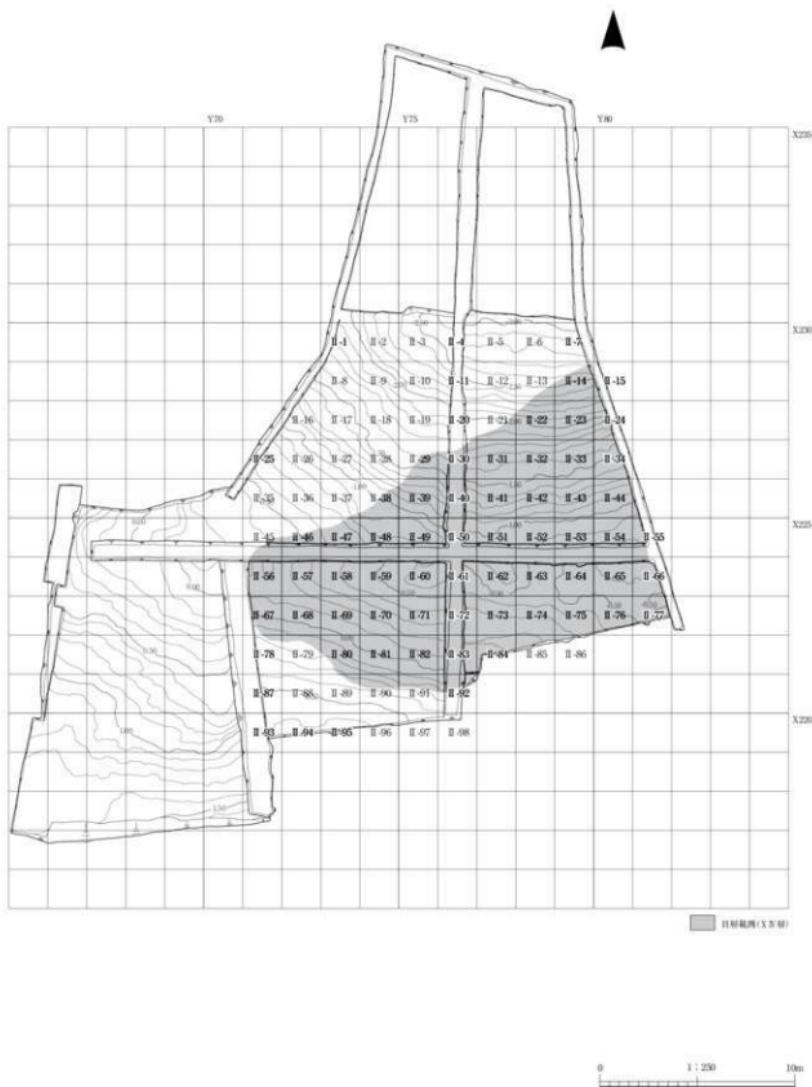
シラオガイ貝合わせ



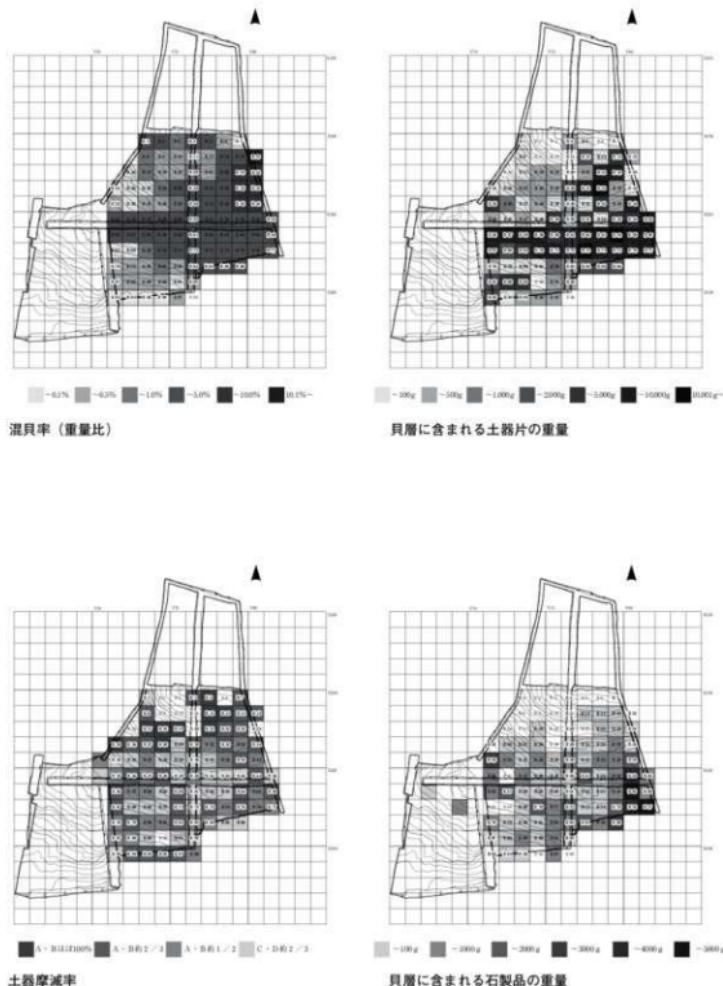
サルボウガイ貝合わせ



第291図 繩文時代遺物実測図  
貝塚 X IV層



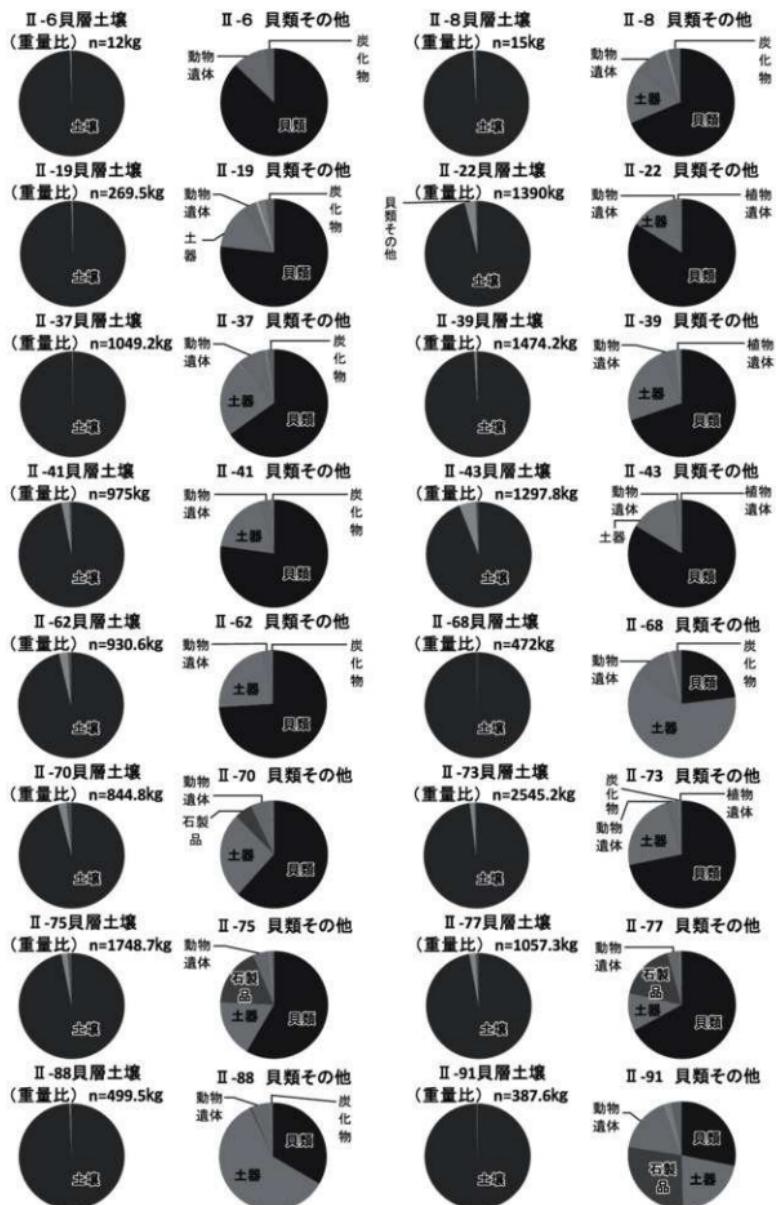
第292図 純文時代遺構実測図  
貝塚X IV層 試料採取グリッド



第293図 貝層内遺物出土様相（貝塚XIV層）

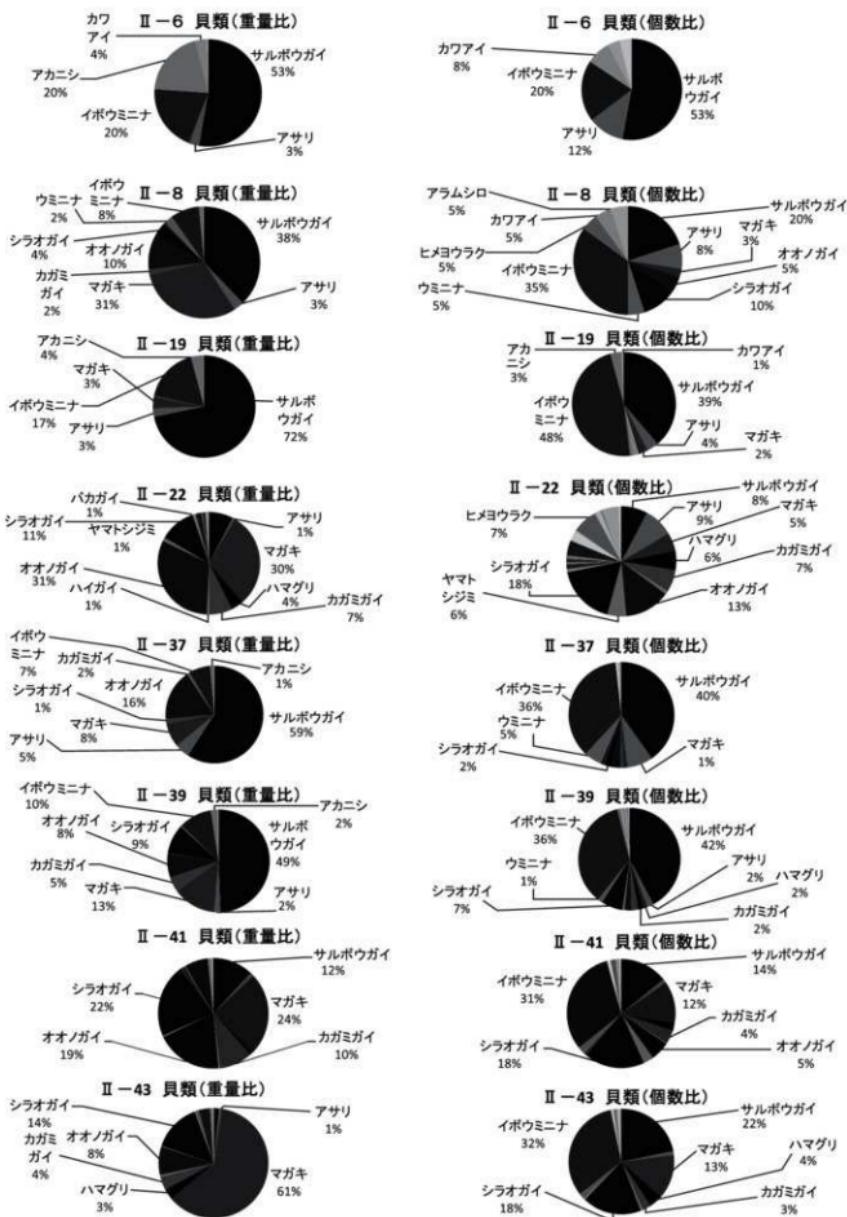
第15表 主要グリット貝層土壤内容物一覧（貝塚XIV層）

重量(g)	貝層量	貝類	土器	石器品	剥片	蚌石	骨角器	動物遺体 (5 mm)	動物遺体 (2.5 mm)	動物遺体 (1.5 mm)	植物遺体 (2.5 mm)	植物遺体 (1.5 mm)	糞石	炭化物	その他土器	
II-3	36600	277.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	30265.5	
II-5	8000	147.0	65.6	0.0	0.1	0.0	0.0	6.6	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7777.0	
II-6	13000	54.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	3.7	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	11938.1	
II-8	15000	114.0	28.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	4.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	6.0	
II-14	460100	13734.8	2741.1	0.4	1.9	0.0	0.0	517.3	59.1	0.0	77.2	2.5	1.7	50.0	14533.9	
II-19	1041.7	1732	0.0	0.9	0.0	18.5	36.7	0.0	21.4	6.4	9.4	37.0	26814.1	26814.8		
II-22	1390000	45923.5	7225.5	4.4	4.9	0.7	1.9	125.8	102.2	0.0	12.9	10.9	2.3	58.0	135264.9	
II-26	418500	743	97.8	0.0	0.7	0.0	0.0	20.7	26	0.0	5.1	4.0	0.0	24.0	418269.9	
II-29	368000	39500.0	152.9	0.0	0.0	0.0	0.0	68.2	26.5	0.0	36.5	21	0.0	54.0	369822.2	
II-31	1764000	40850.8	7570.9	4.0	0.1	1.1	8.6	1694.5	17.9	1.7	187.8	0.0	0.0	191.0	171345.5	
II-32	556800	69033.6	12794.8	10.5	0.3	8.0	1902.7	168.8	158.4	106.5	9.6	0.0	100.0	147696.3	147696.3	
II-33	2058000	12470.0	21608.8	22.9	7.9	0.6	5.0	274.5	195.5	26.6	106.5	0.0	15.9	31.0	135.0	190050.1
II-37	1049200	1195.5	4185.3	0.4	0.6	0.0	4.2	78.3	91	76.7	9.6	2.9	0.0	37.0	1047367.2	1047367.2
II-38	763000	1061.6	452.6	3.8	0.2	0.0	66.4	40.5	104.2	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	76066.3
II-39	1474200	11071.0	3764.0	4.2	0.1	6.0	0.0	385.2	52.9	296.0	145.2	10.6	1.1	121.0	145833.8	145833.8
II-41	975000	23967.1	57029	0.9	0.6	0.4	3.1	858.4	152.3	67.4	51.6	20.5	1.2	116.0	94427.6	94427.6
II-42	1778400	54665.4	11761.9	3224.1	1.9	0.7	8.7	1212.2	102.5	157.8	91.2	4.8	2.1	105.0	1706861.7	1706861.7
II-43	1297800	65655.9	11055.4	1103	1.9	5.1	3.6	13902.7	97.0	0.0	115.6	9.6	2.6	90.0	1219402.3	1219402.3
II-44	1760000	98565.7	17538.8	74065	8.2	1.7	18.7	2941.5	128.2	70.0	85.2	11.9	7.7	7.7	163423.8	163423.8
II-45	388800	4521.8	7313.1	50.0	9.4	0.0	0.0	248.0	12.4	70.0	60.3	5.0	0.0	34.0	375438.0	375438.0
II-49	1139000	24386.9	8392.1	2532.0	5.2	6.0	1.3	13.6	52.9	306.7	186.7	5.8	5.5	144.0	1076938.6	1076938.6
II-56	715400	1798.6	8508.5	145.1	0.5	0.0	2.5	592.1	52.9	301.4	29.7	22	5.5	89.0	669805.8	669805.8
II-57	686000	18794.6	65778.0	1181.9	0.6	0.0	3.9	107	75.0	67.5	64.6	5.8	7.0	116.0	667794.5	667794.5
II-60	394200	50884.6	21504.1	84	0.1	0.0	0.0	230.0	66.5	303.5	30.3	13.4	0.0	47.0	268.0	268.0
II-61	408100	46464.1	2978.1	3.2	1.0	0.2	0.0	667.4	50.1	78.2	6.0	0.0	0.0	70.0	389600.9	389600.9
II-62	930600	25580.8	7807.0	2.4	10.8	4.2	0.0	69.8	12.5	13.8	63.9	0.0	0.0	96.0	885608.8	885608.8
II-63	1185000	24890.3	7826.5	4.0	1.6	0.0	9.7	102.7	18.9	142.7	80.8	9.8	3.8	166.0	1150734.2	1150734.2
II-64	1215000	45263.5	10306.6	211.1	1.7	2.0	1.8	1676.4	145.0	146.5	276.8	8.6	3.0	260.0	1158729.9	1158729.9
II-66	780000	31917.5	5483.3	18385.3	2.5	1.0	0.0	1150.4	177.2	200.0	127.8	5.8	4.9	164.0	738827.2	738827.2
II-68	472900	381.5	16228	0.0	0.0	0.0	0.0	128.0	4.7	52.8	14.2	2.1	4.2	46.0	471313.7	471313.7
II-70	848800	21417.6	8986.3	18385.3	0.0	9.2	0.0	1165.9	74.7	85.0	87.4	10.2	10.5	268.0	810008.9	810008.9
II-71	897800	19931.4	6368.9	1048.8	3.1	0.0	0.0	185.2	111.7	162.9	90.3	5.7	6.9	122.0	870707.2	870707.2
II-73	2545200	38279.7	12687.1	217	9.9	100	144.0	107.9	342.5	0.0	81	10.6	442.0	2491867.9	2491867.9	
II-74	1931300	23123.4	9585.6	20.1	1.0	0.0	0.0	164.4	138.1	124.9	194.1	7.7	17.2	217.0	1692526.5	1692526.5
II-75	1748700	31250.0	92520.3	4.2	1.8	3.5	2280.4	2006	97.8	21.9	11.0	10.1	47.0	1692526.5	1692526.5	
II-76	1431000	31210.0	7848.0	8652.3	5.2	0.8	1.1	2079.3	313.3	97.8	346.9	21.6	15.4	50.6	1370810.4	1370810.4
II-77	1057300	2128.8	3518.6	5048.9	7.9	0.1	0.0	1016.5	114.5	0.0	112.5	5.3	4.3	103.0	1025879.2	1025879.2
II-80	498800	2175.6	2996.0	0.8	0.0	0.0	0.0	337.0	25.1	87.3	39.1	3.3	5.7	76.0	493600.1	493600.1
II-88	498500	1156.6	2143.6	0.0	3.9	0.0	0.0	19.1.3	8.2	9.7	6.6	2.8	2.6	24.0	516944.4	516944.4
II-90	857600	28520	0.1	1.6	1.3	0.0	0.0	31.9	27.7	76.8	20.7	4.8	2.6	58.0	85420.7	85420.7
II-91	387600	345.0	264.6	340.0	0.0	0.0	0.0	187.7	21.8	0.0	17.0	6.7	2.0	41.0	386374.2	386374.2

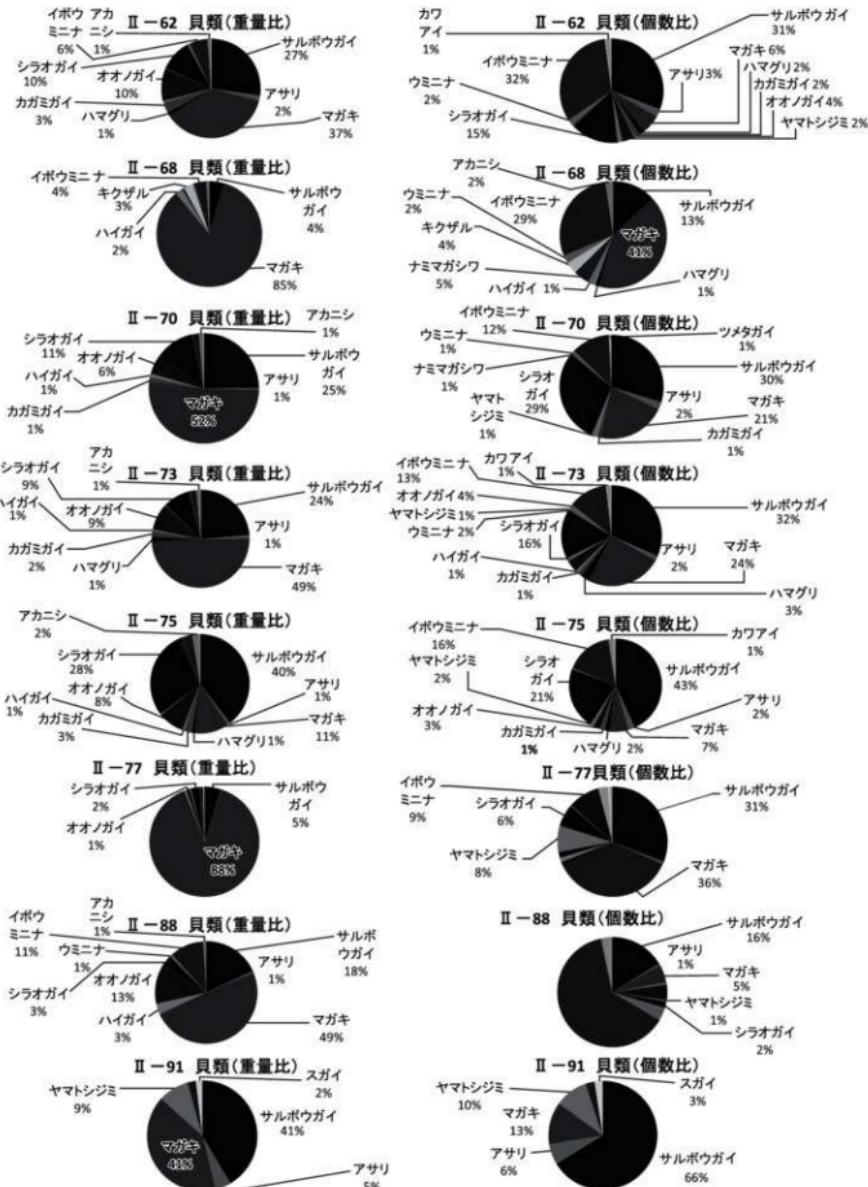


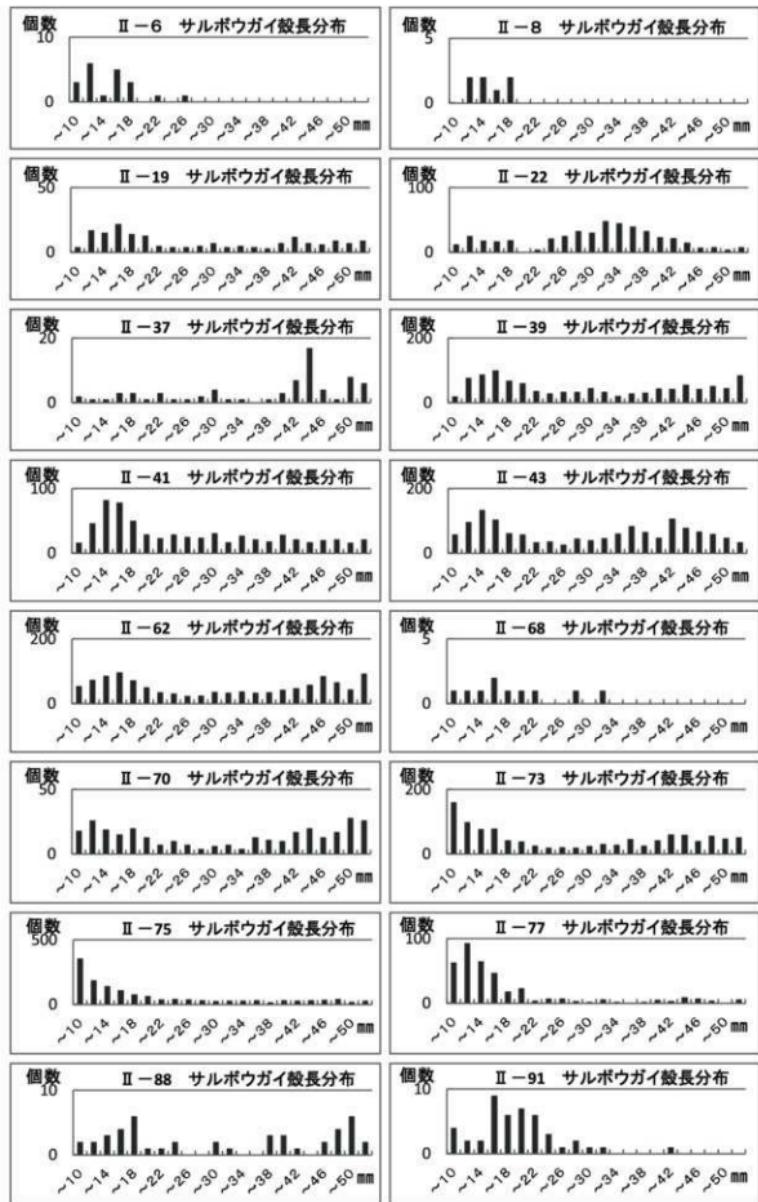
第294図 主要グリッド貝層土壤内容物グラフ（貝塚XIV層）

第16表 主要グリット具類相一覧（貝塚XIV層）

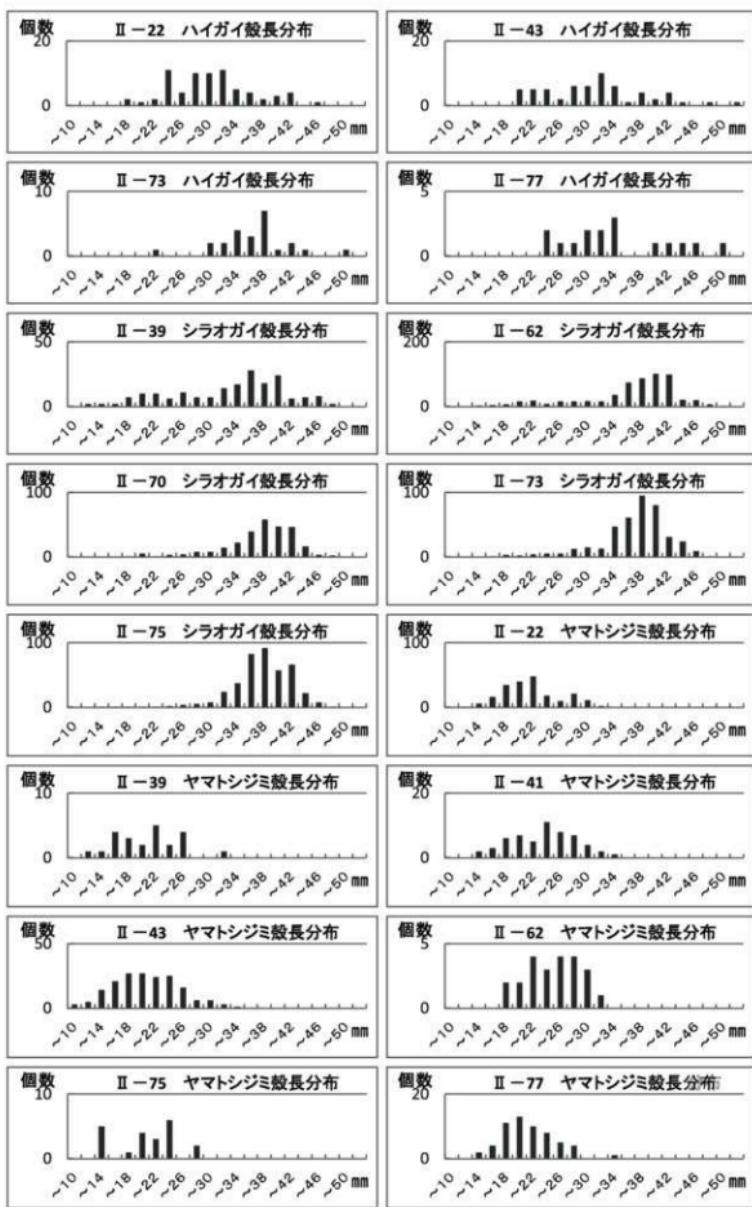


第295図 主要グリッド貝類様相グラフ（貝塚XIV層）





第297図 サルボウガイ殻長分布（貝塚XIV層）



第298図 ハイガイ・シラオガイ・ヤマトシジミ殻長分布（貝塚XIV層）

## E 繩文土器 (2659~2882, 第299~306図, 図版55・123~126)

土器の総量は422.2kg。摩滅率はA~Cで8割近くを占め、摩滅率が高い。

土器の時期は、早期後葉～後期中葉まで出土し、出土量は佐波・極楽寺式期が99%と最も多く、主体的な時期とみられる。

2846~2855は無文地に隆帯を貼り付け刻む薄手の破片で早期後葉の東海系。2846・2851・2852は隆帯を上下からつまむ上ノ山式。2847~2850は隆帯を棒状工具で刻む入海I式。2847は胎土分析（試料2）を行い、花崗岩を主体とする胎土で角閃石や植物繊維を含む結果を得ている。2853・2854は薄手の隆帯を、2855は無文地をヘラ状工具で刻む入海II式。2854は胎土分析（試料3）を行い、凝灰岩を主体とする胎土で骨針化石や植物繊維を含む結果を得ている。

2659~2838・2840~2845・2856~2874は、早期末葉～前期初頭（佐波・極楽寺式期）。口縁部の破片は4,199あり文様別に割合を見ると、表裏縄文44（2659~2665）、外面縄文内面条痕40（2666~2671・2722・2725・2726・2731）、外面縄文内面無文937（2672~2683・2695・2723・2724・2727~2730・2732・2733）、外面条痕内面縄文2（図示無し）、表裏条痕81（2734・2735・2739~2745・2747・2755）、外面条痕内面無文194（2749~2754・2770・2771）、無文隆帯貼付47（図示無し）、無文隆帯無し288（2696・2697・2837・2838）、縄文地矢羽根状文15（2689・2690）、条痕地矢羽根状文44（2776~2781・2783・2784）、無文地矢羽根状文425（2712・2782・2785・2786・2827~2836）、縄文地刺突列点文32（2684・2686~2688）、条痕地刺突列点文81（2746・2760・2761・2763・2764・2768・2769）、無文地刺突列点文763（2698・2700・2701・2703~2705・2788・2790・2792・2799~2806）、縄文地貝殻腹縁文11（図示無し）、条痕地貝殻腹縁文106（2772・2773・2775）、無文地貝殻腹縁文688（2708~2711・2713・2762・2774・2813~2826）、縄文地押引状文48（2692）、条痕地押引状文11（2766・2767）、無文地押引状文109（2699・2707・2791・2807~2809）、縄文地爪形文1（2736）、条痕地爪形文1（2765）、無文地爪形文56（2702・2706・2787・2789・2793~2798）、縄文地沈線文35（2685・2693・2694）、条痕地沈線文11（図示無し）、無文地沈線文91（2810・2811）、縄文地縄文・撫糸圧痕5（2691）、無文地縄文・撫糸圧痕33（2812）である。2669・2681は付着炭化物のAMS年代測定で前者は6,450±40BP（IAAA-60253）、後者は6,380±40BP（IAAA-60251）の結果を得ている。

底部は213あり、形状では平底穿孔有り1（図示無し）、平底穿孔無し92（2714・2715・2756・2840）、尖底・丸底で穿孔有り24（2718~2720・2738・2841）、尖底・丸底で穿孔無し96（2716・2717・2721・2737・2748・2757~2759・2842~2845）と形状に関わらず穿孔がないものが多い。

2856~2870は外来系とみられる破片。2856・2857は貼り付けた隆帯の直下に竹管刺突を連続して施す。一乗寺南下層式か。2858~2860は無文地に隆帯を貼り付ける。楠廻間式か。2861~2868は薄手の器壁に波状の隆帯を貼り付け条痕で刻む木鳥式。濱谷昌彦氏の分類（濱谷2009）によれば2861・2866は木鳥I～II式、2862~2864は木鳥II～III式、2868は木鳥IV～V式に相当する。2865は胎土分析（試料7）を行い、花崗岩を主体とする胎土で骨針化石や植物繊維を含む結果を得ている。2869は有段の口縁部に指頭圧痕を残す。木鳥式をイメージした在地か。2871は無文地に隆帯を貼り付け貝殻復縁刺突を施す。東海系か。2872~2874は棒状工具による押引状沈線文を波状に施す。下吉井式か。2870は波状口縁の波頂部に撫糸側面圧痕を藤手が崩れた形で施す。花積下層式か。胎土分析（試料12）では、凝灰岩を主体とする胎土で骨針化石や植物繊維を多く含む結果を得ている。

2839・2875~2880は、前期前葉～末葉。2875~2877は前期前葉布目式期の口縁部。2875は非結束羽状縄文、2876は結束羽状縄文、2877は爪形文を施す。2878は斜縄文のみ施す。前期後葉の蜆ヶ森式

か。2879・2880は前期末葉朝日下層式。2839は斜行縄文のみの破片表面摩滅。内面に炭化球根が付着する（第V章第12節）。前期後半～末葉か。2879は突起部、2880は細いソーメン状の隆帯を貼り付けける。2880は胎土分析（試料17）を行い、バブル型Y字状の火山ガラスが多い胎土と結果を得ている。2881・2882は中期。2881は、口縁部に幅の太い半隆起線、胴部を複数の斜縄文を施す鉢で中期後葉古府式期。2882は中期末葉串田新式の深鉢口縁部で隆帯上に貝殻腹縁の連続刺突を施す。

#### F 土製品（2883～2886、第306図、図版137・140）

2883は頂部に突起をもち下半を欠損。土偶の上半部か。2884は角状で2885の類似品か。2885は耳栓で細かい刺突を側面および底面に施す。伊藤正人氏の言う「尖底状耳飾」に相当する<sup>306</sup>。愛知県八王子遺跡や二股貝塚に類例がある。2886は土製円盤。表面の調整は摩滅し不明。これら土製品の所属時期は耳栓の形状と土製円盤の胎土から早期末葉～前期初頭と見られる。

#### G 石製品（2887～2989・2991・2992、第307～314図、図版12・143・145～147・151・153・155・161～163・168・169・173）

石製品の総量は417点で41.1kg。器種は石鎌119、石錐71、敲石21、楔形石器8、二次加工剥片7、石錐6、块状耳飾5、石匙3、砥石2、台石2、筋砥石2、垂飾2、削器1、石皿1、擦石1、磨製石斧1、異形石器1、剥片153、軽石11の19種あり、剥片が4割、石鏃が3割で石錐が続く。2887～2941は石鎌で2936～2938は無茎平基、2939・2940は有茎で他は無茎凹基。2941は未成品で尖頭部のみ。長さと幅で分類すると幅広タイプ7、幅狭タイプ29ではほかは中間タイプ。重量は0.7g内外に集中するものの、1gを超えるものも一定量ありX II層よりやや大型。石材はガラス質安山岩が約半分を占め、統いてチャート、珪質頁岩、黒曜石が多い。黒曜石は10点あり、产地推定では8点中5点が諏訪産（2908・2921・2925・2928・2931）で3点が和田産（2913・2919・2920）。2942～2944は石匙。2943・2944は縦型に近い欠損品で2943はガラス質安山岩、2944はチャート。2942は横型で珪質頁岩。2945は石皿の破片で砂岩。2946～2960は打欠の塊石錐。2946・2947が円形状、2950・2957・2959が梢円形状、2949・2951は菱形状、他は台形状。2955は長軸のほかに短軸方向にも打ち欠きがある。2953は使用後ススが付着。2948はキクメイシモドキが付着し、海中使用か海上投棄とみられる。長軸で分類すると、7cm前後と11cm前後の二つにピークが表れる。重量は200～400gのピークがあり、500g以上も一定量ある。石材は石灰質砂岩や流紋岩など様々でそれほど偏りがない。X II層同様にいずれも近隣で採取可能な石材である。

2961・2962は砂岩質の筋砥石。2963～2968は敲石。2965・2967以外は上下に敲打面を持つ。2968は擦石としても利用されている。2969は安山岩の台石。2970～2972は石錐で2972のみ完形。石材は、2970がメノウ、2971が玉髓質泥岩、2972がガラス質安山岩。2973はガラス質安山岩の削器。2974～2978は块状耳飾でいずれも欠損。2974・2976・2978は穿孔するが2976は貫通しない。石材は2976・2977が石英片岩ではほかは滑石。2979・2980は滑石の垂飾。2979は縦長で上下を穿孔する。形状と所属時期（早期末葉～前期初頭）から谷藤保彦氏の言う「璜状頭飾り」<sup>307</sup>に相当する。2980は中央部を穿孔する小片。2981～2984は二次加工剥片。2982は石鎌未成品の可能性がある。石材は2982・2983がガラス質安山岩、2984が珪質頁岩、2981は隠岐産と推定される黒曜石。2985はガラス質安山岩の異形石器。2986～2989・2991・2992は軽石。2991・2992は擦痕が残り、砥石とみられる。

#### H 骨角歯牙貝製品（2993～3056、第315～319図、図版175・176）

骨角歯牙貝製品の総量は134点で321gと貝層中最多く。器種は刺突具66（刺突具I 36、ヤス状刺突具16、刺突具II 14）、髪針27、單式釣針13、垂飾状歯牙製品9、貝輪7、腕飾4、鹿角製品4、垂飾状

註解 伊藤正人 2005 「正倉院一期～愛知県出土の純文時代高級土器」『考古学フォーラム18』考古学フォーラム  
註解 伊藤正人 2001 「藤代遺跡について－奈良時代石器時代の発展から－」『純文時代 第12号』純文時代文化研究会

骨製品3、ヘラ1の11種類。刺突具が全体の約半分を占め、髪針、単式釣針、垂飾状歯牙製品が続く。

2993~3014は刺突具。2993~3002は両端を尖らす薄手のヤス状刺突具。2999~3001は一端を欠損。2993・2994は小型。3002は大型。3003~3011・3015は1端のみを尖らす刺突具I。3014は大型でシカ尺骨の遠位を尖らす。3012・3013は細い錐状の刺突具II。先端を欠損。3016~3024は鹿角を素材とした単式釣針。3016~3018・3024は軸部で3018以外は純掛けの抉りがある。3019~3023は鉤部。完形はないが同時期の石川県三引遺跡出土例と同様の大型品で外洋性の大型魚類を獲物としていたと考えられる。3025は切断痕と擦痕が明瞭なハラとみられる未成品。3026~3036は髪針。3027~3030はシカやイノシシの四肢骨を素材にし、表面に鋸歯状あるいは矢羽状のモチーフを彫刻した髪針。滋賀県石山貝塚に類例がある<sup>348</sup>。3035も表面に斜状の線刻があるが全体は不明。3031は基部を刻む。3037は指輪状の垂飾。3038~3040はイノシシの犬歯を素材にした腕飾。縁辺を刻み、内部を穿孔する。石川県三引遺跡に類例がある<sup>349</sup>。

3041~3046は貝輪。3041~3044はサトウガイなどフネガイ科を素材とし、縁辺に抉り端部を穿孔する。二つをあわせて貝輪としたとみられる。3045はハマグリの腹縁部を磨いたもの。3046はベンケイガイなどタマキガイ科を素材とし、腹縁部を磨いたもの。

3047~3054は垂飾状歯牙製品。3047はツキノワグマの大歯を素材とし、基部を穿孔する渡辺誠氏の言う「牙玉」<sup>350</sup>。3048~3054はサメ類の歯を素材とし、基部を穿孔する。3048~3049は大型。3055・3056は板鰓類の椎骨を穿孔した垂飾状骨製品。

## I 動物遺体

土壤洗浄出土の動物遺体は、1mmと2.5mmメッシュで魚類が多く出土。特にニシン科が約8割を占め、サバ属やタイ科（クロダイ・マダイ）が続く。5mmメッシュでは魚類のほかに陸生哺乳類が出土。魚類ではタイ科（クロダイ・マダイ）が5割以上を占め、カツオ・マグロ属が続く。陸生哺乳類ではシカとイノシシが大半でイヌやタヌキが続く。人骨も埋葬状態は不明だが破片のみ出土。

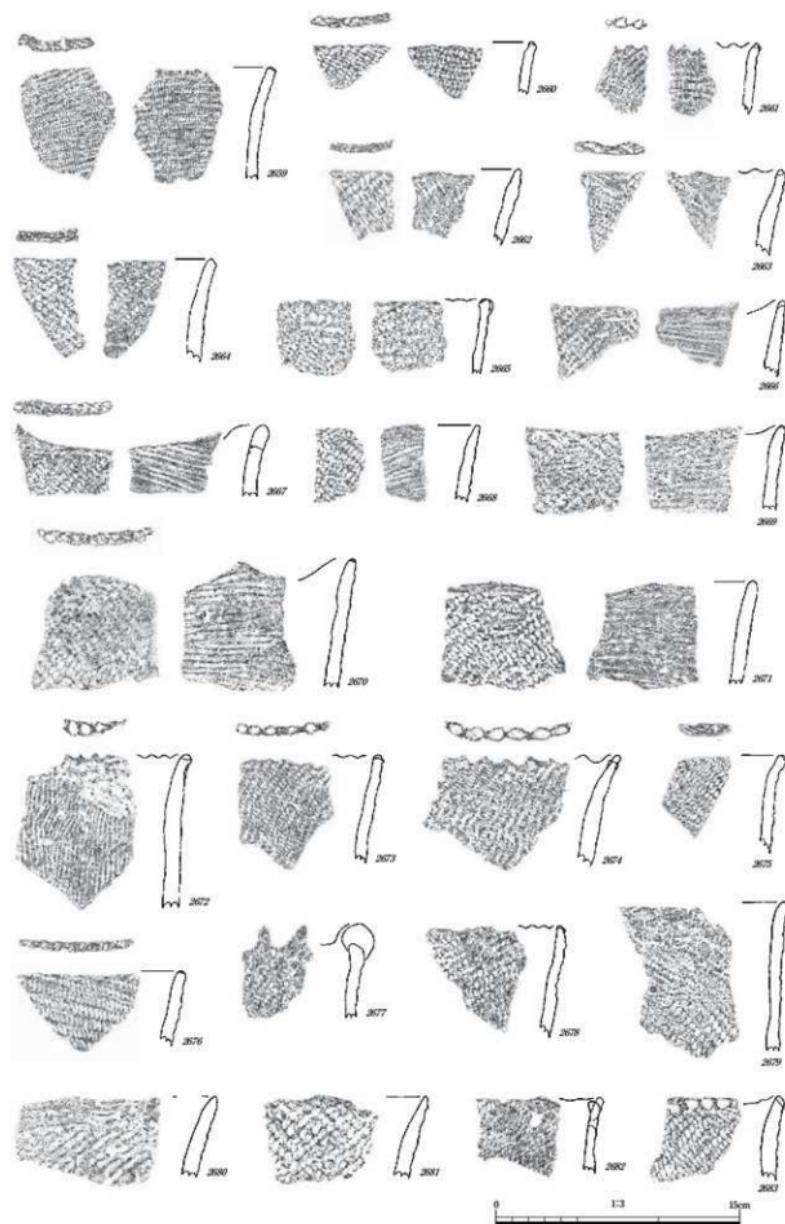
## J 植物遺体

5mmメッシュではオニグルミが圧倒的に多く、ついでカヤ、ホオノキ、ハクウンボクなどの種実が出土。2.5mmメッシュではカラスザンショウ、アカメガシワが多く、ついでミズキなどの非食用種実を主体とし、ブドウ属など食用種実が少数入る。食用種実としてはこの他にコナラ属、クリ、トチノキ、ヒヨウタン類などがあるがいずれもわずかな量である。

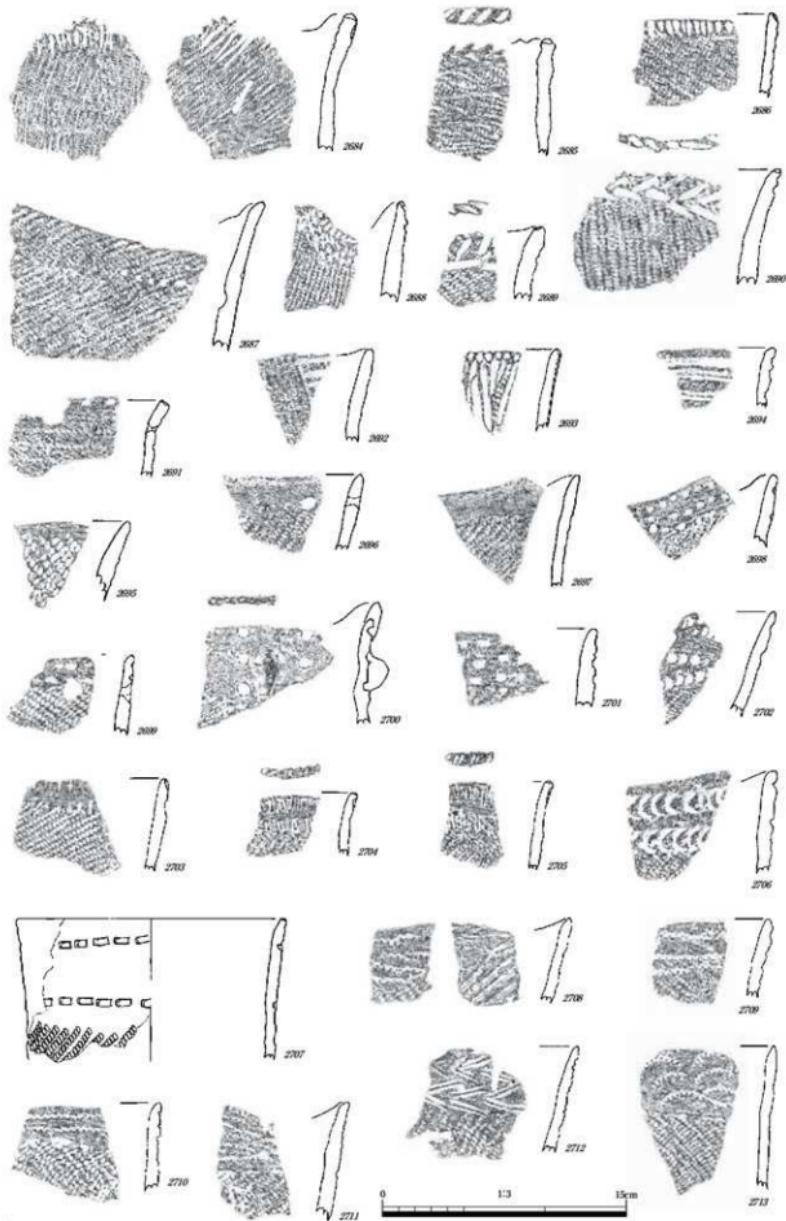
## K 年代

貝層の年代は、出土土器が佐波・極楽寺式土器を主体とすることと貝類のAMS年代測定による<sup>14</sup>C年代が $6,800 \pm 40 \sim 4,610 \pm 40$ BP (IAAA-70496~70511, 80533~80542)、動物遺体のAMS年代測定による<sup>14</sup>C年代が $7,130 \pm 40 \sim 6,130 \pm 30$ BP (IAAA-80552~80558)と測定されたことから早期末葉～前期初頭を主体としていると考える。また、布目式期の土器が少数だが混じっており、一部では前期前葉まで下る可能性もある。

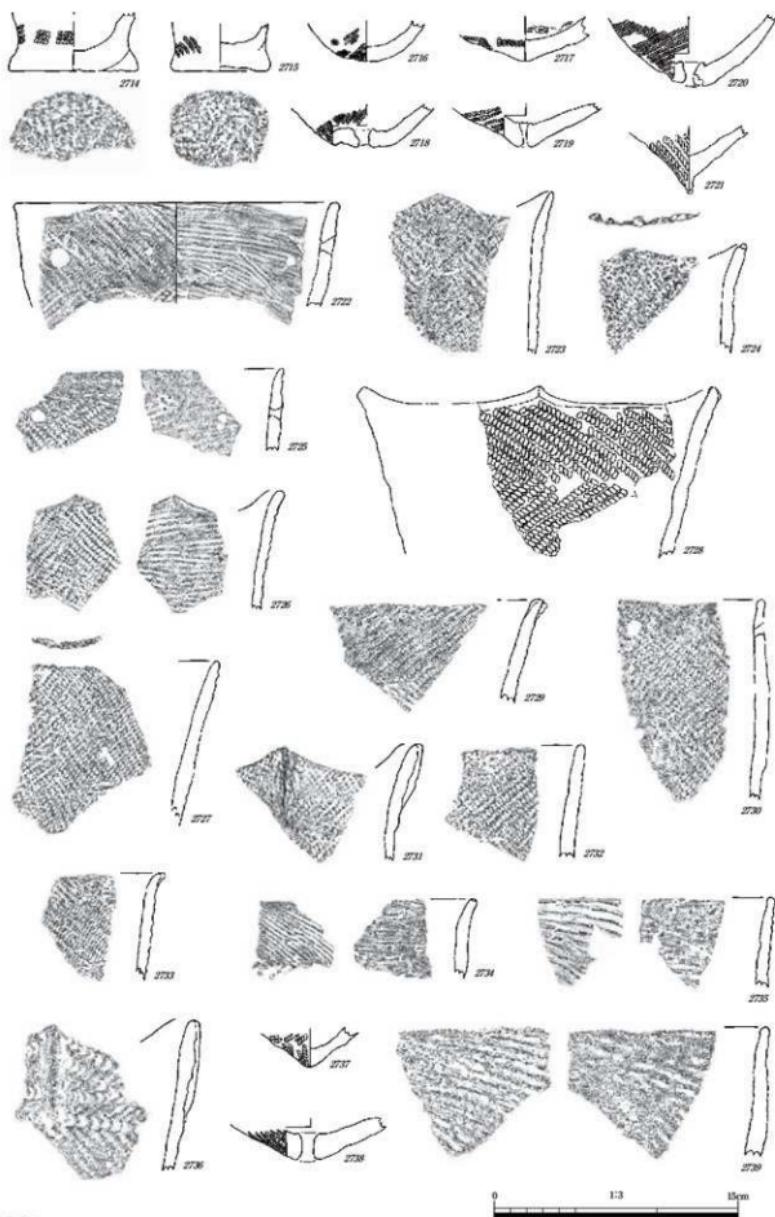
348 稲井清足 1996 「動物」『滋賀県石山貝塚研究報告書』平安学園  
349 安田信子 1996 「貝類」『滋賀県石山貝塚研究報告書』(上巻)改良工事及び主要地方道水見山側浜崎建設工事による所蔵文化財緊急発掘調査報告書 (V巻)『山側浜崎三引遺跡調査』(下巻)』石川県立博物館  
350 渡辺 誠 2001 「タマセの牙玉」『日本工作大綱』吉川弘文館



第299図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X-IV層



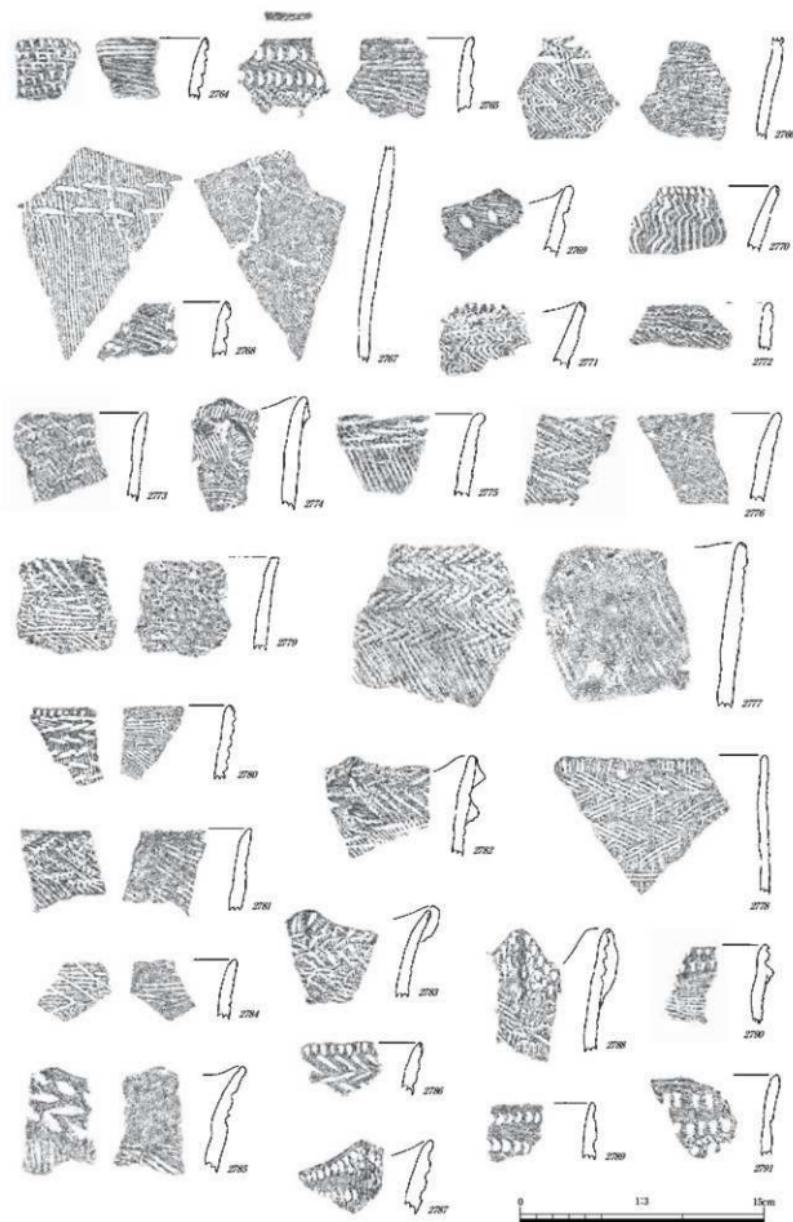
第300図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚 X IV層



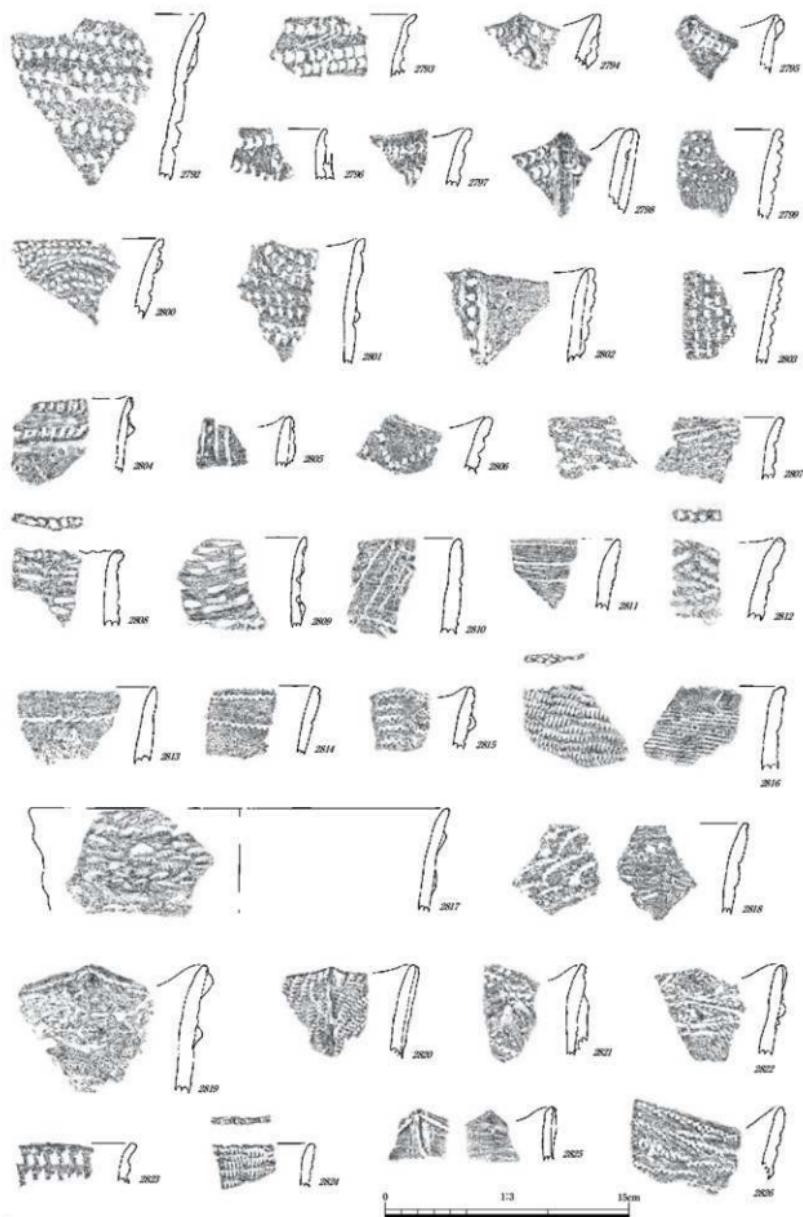
第301図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X-IV層



第302図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚 X IV層



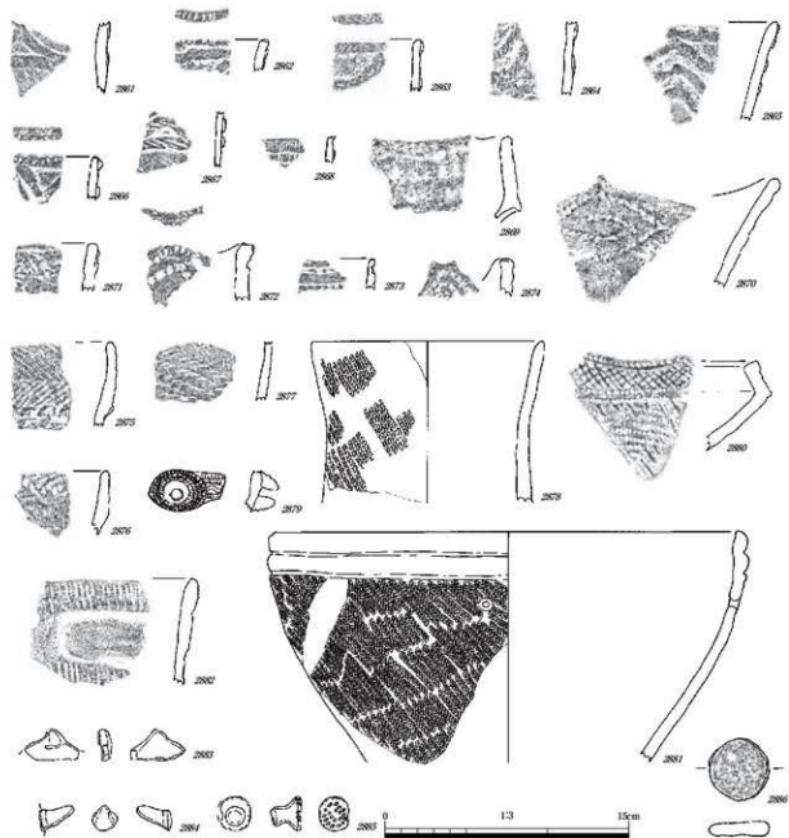
第303図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X IV層



第304図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚 X IV層

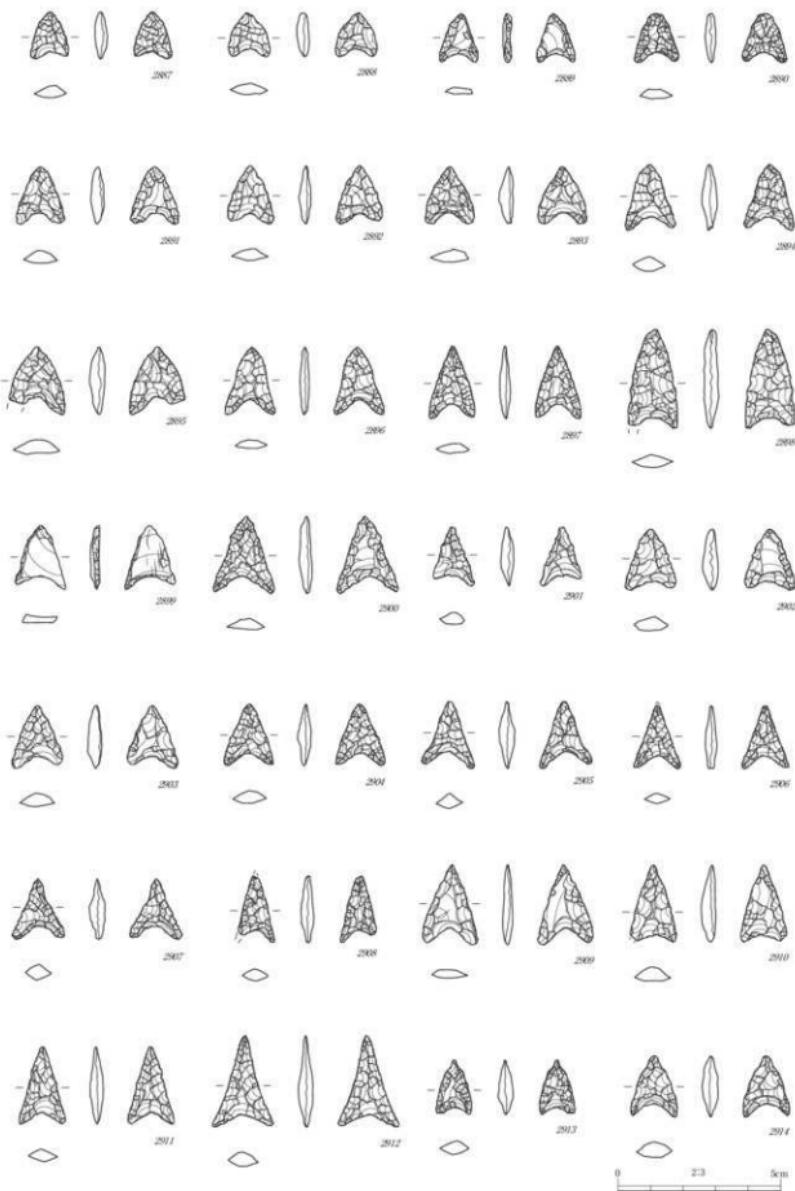


第305図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X IV層

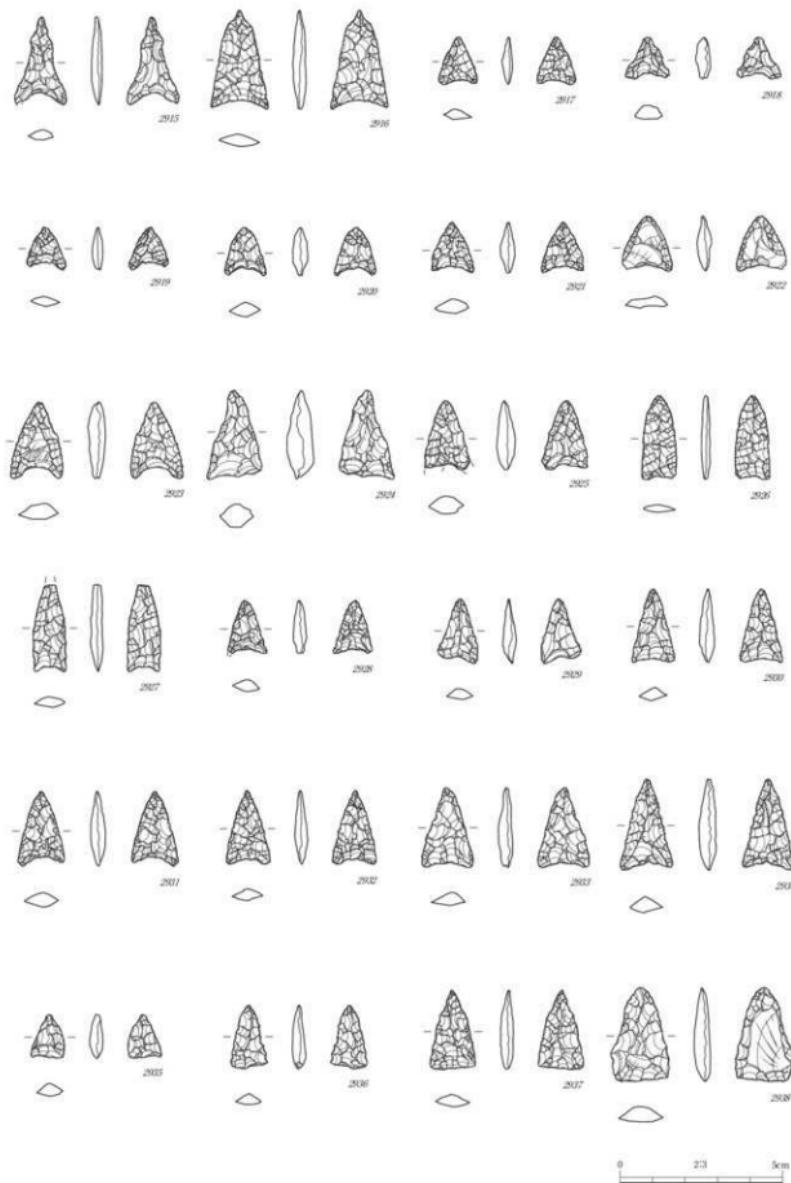


第306図 繩文時代遺物実測図 (1/3)

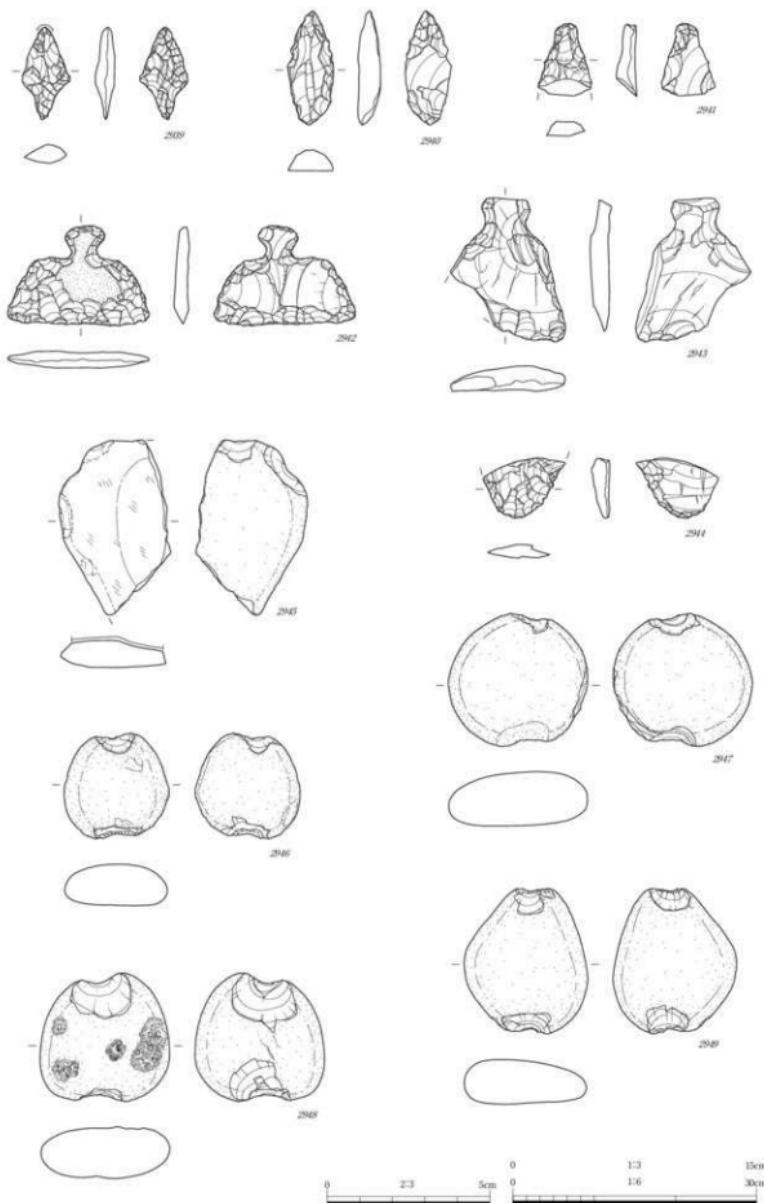
貝塚 X-IV層



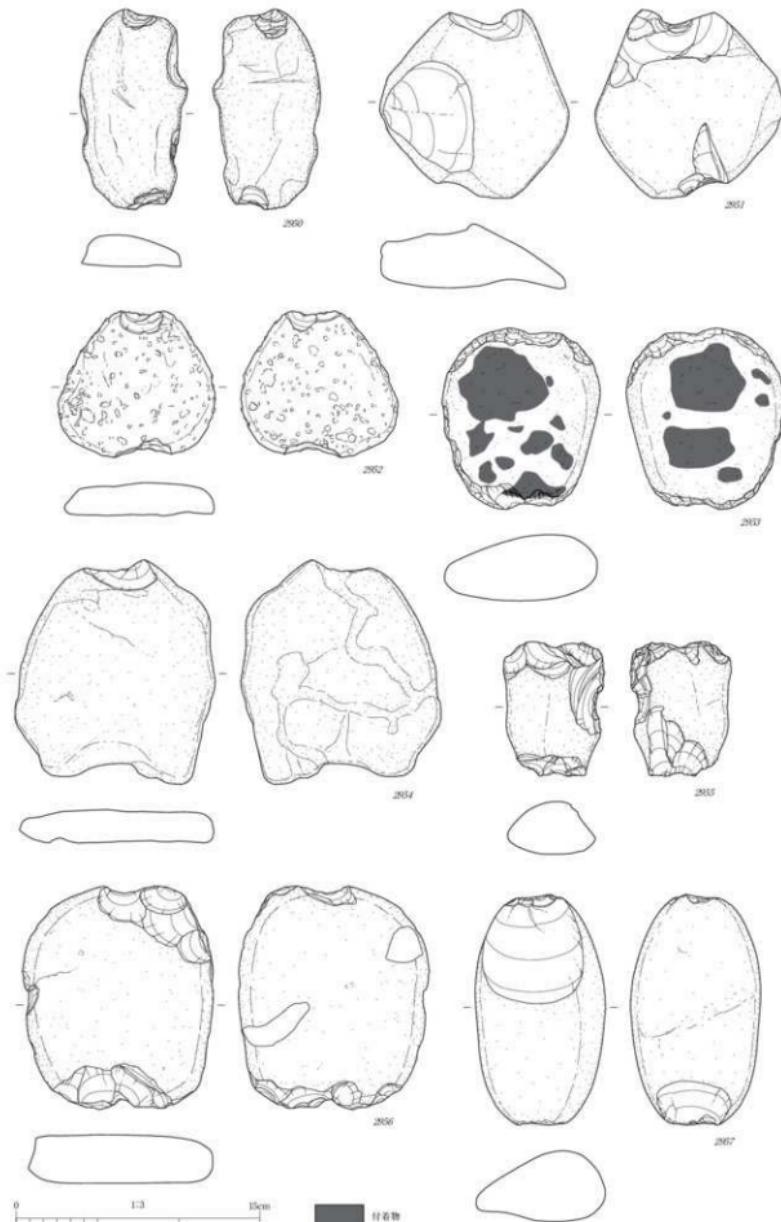
第307図 純文時代遺物実測図 (2/3)  
貝塚X IV層



第308図 繩文時代遺物実測図 (2/3)  
貝塚 X IV層



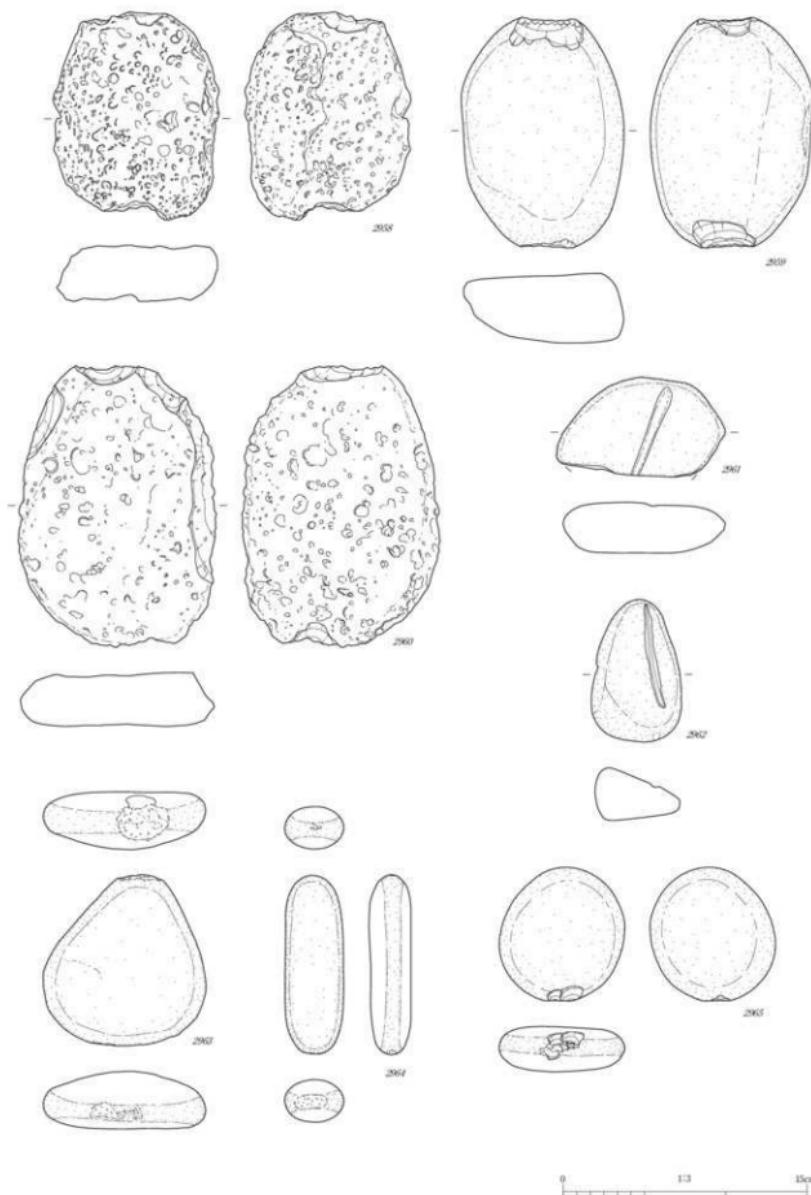
第309図 純文時代遺物実測図 (2939~2944 2/3, 2946~2949 1/3, 2945 1/6)  
貝塚X-IV層



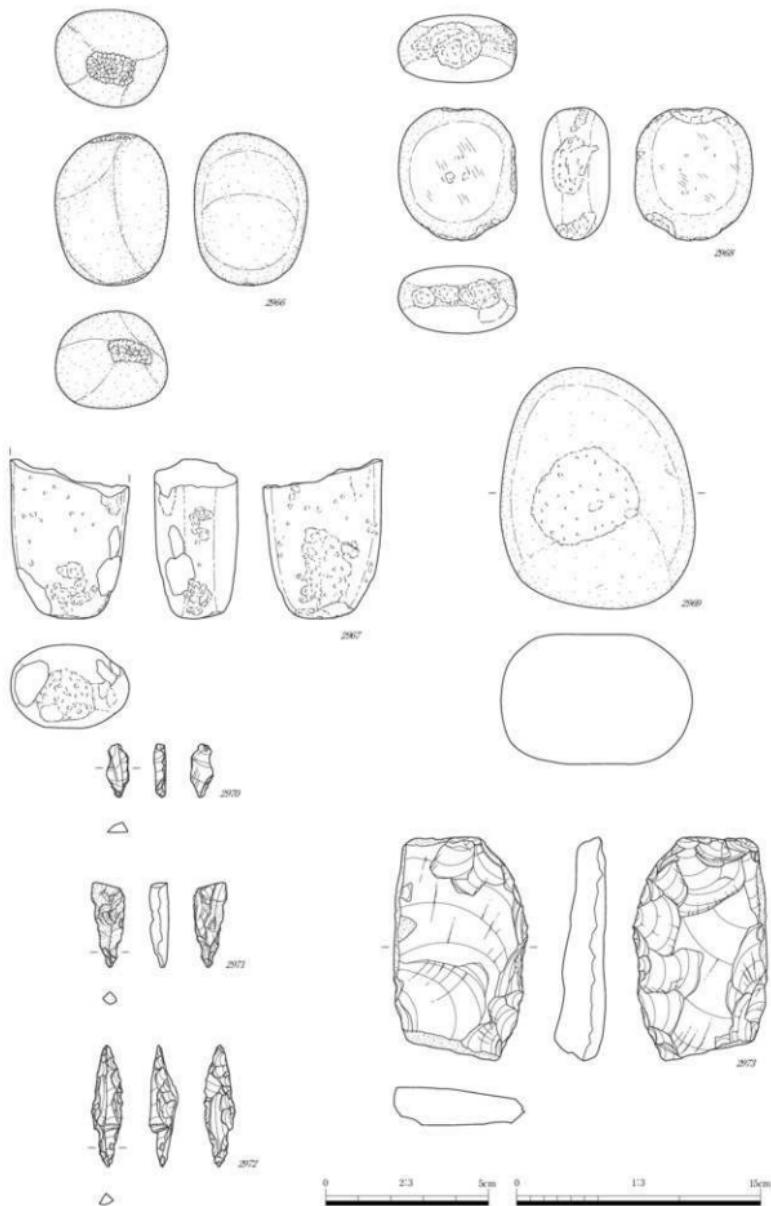
第310図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X IV層

付着物

0 1cm 1.5cm



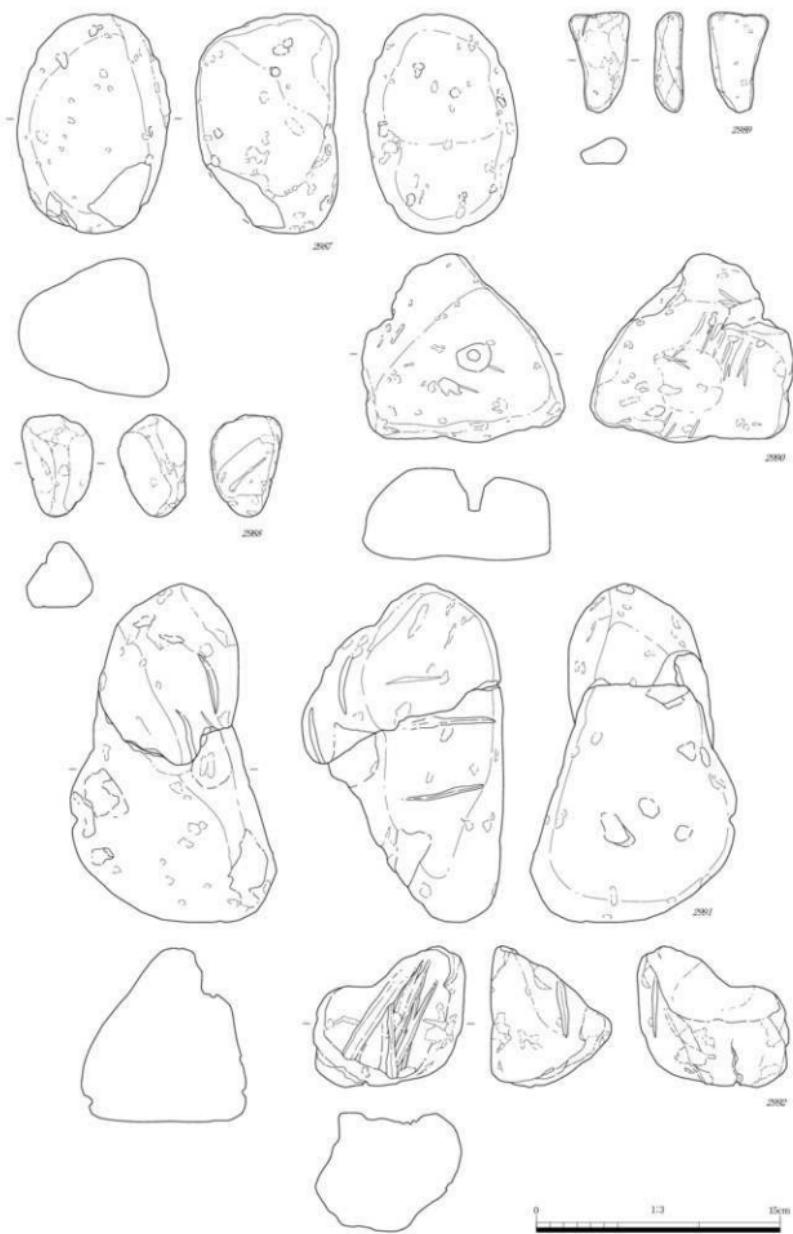
第311図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X-IV層



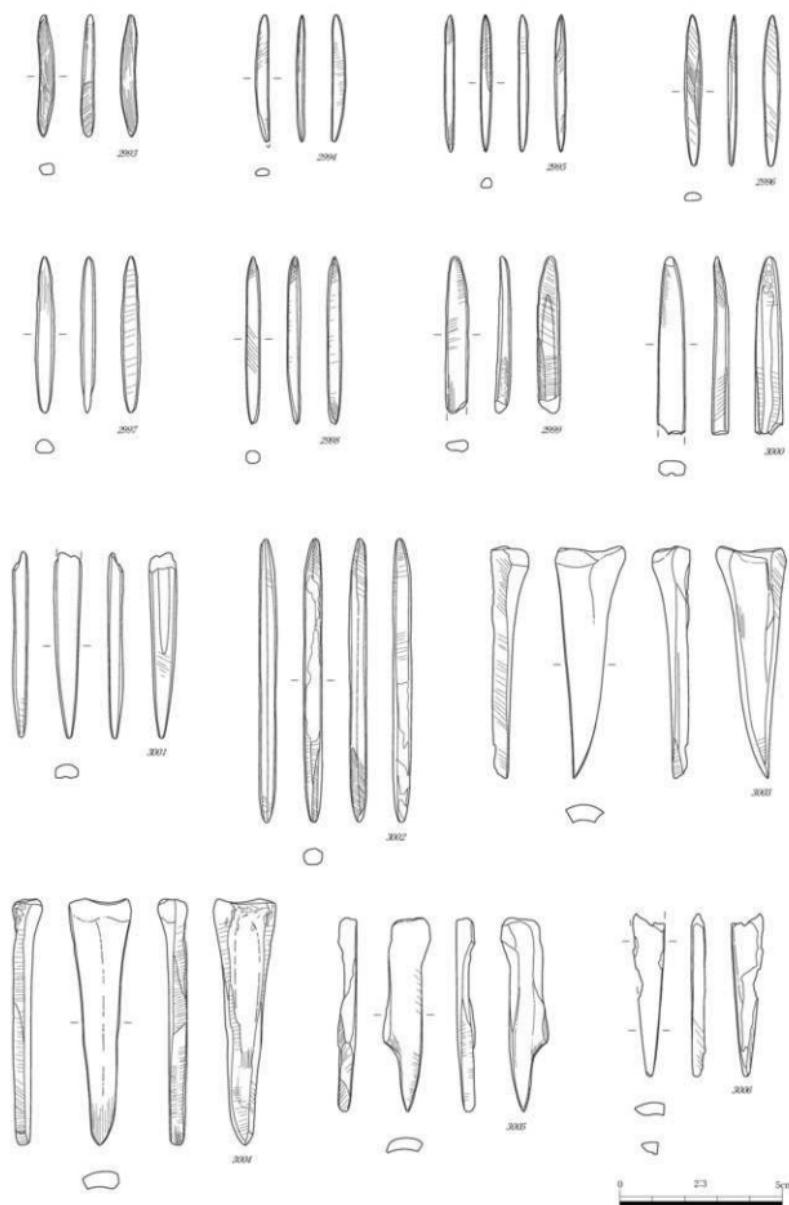
第312図 繩文時代遺物実測図 (2970~2973 2/3, 2966~2969 1/3)  
貝塚 X IV層



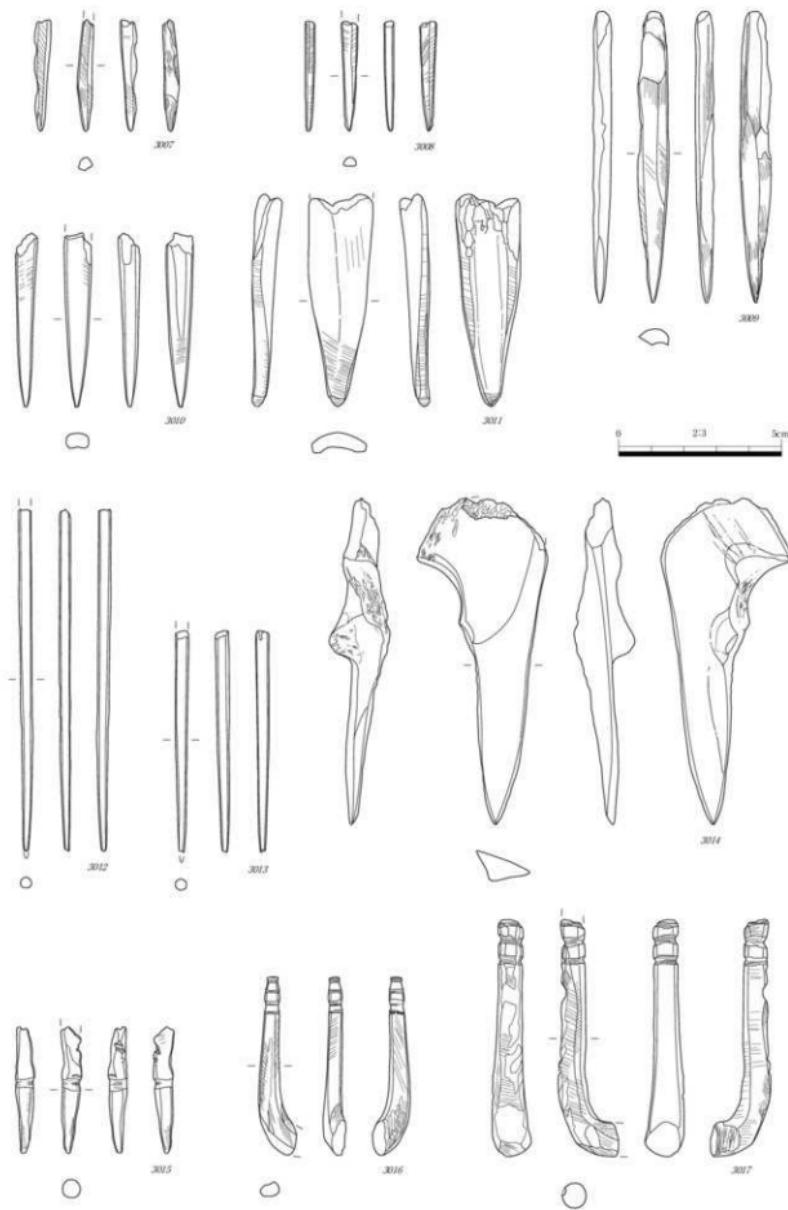
第313図 純文時代遺物実測図 (2074~2980 1/1, 2981~2985 2/3, 2986~2987 1/3)  
貝塚X-IV層



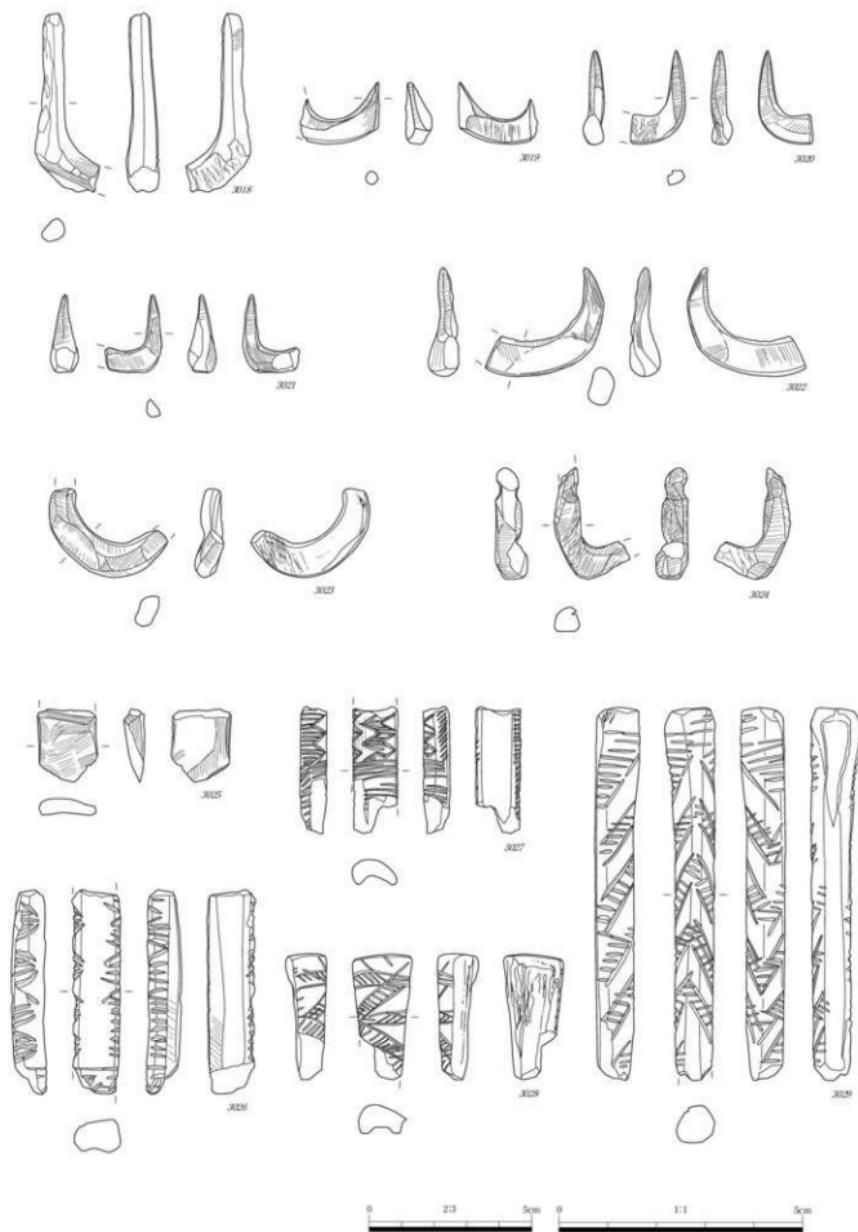
第314図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚 X IV層 (2987~2989, 2991, 2992)・X V層 (2990)



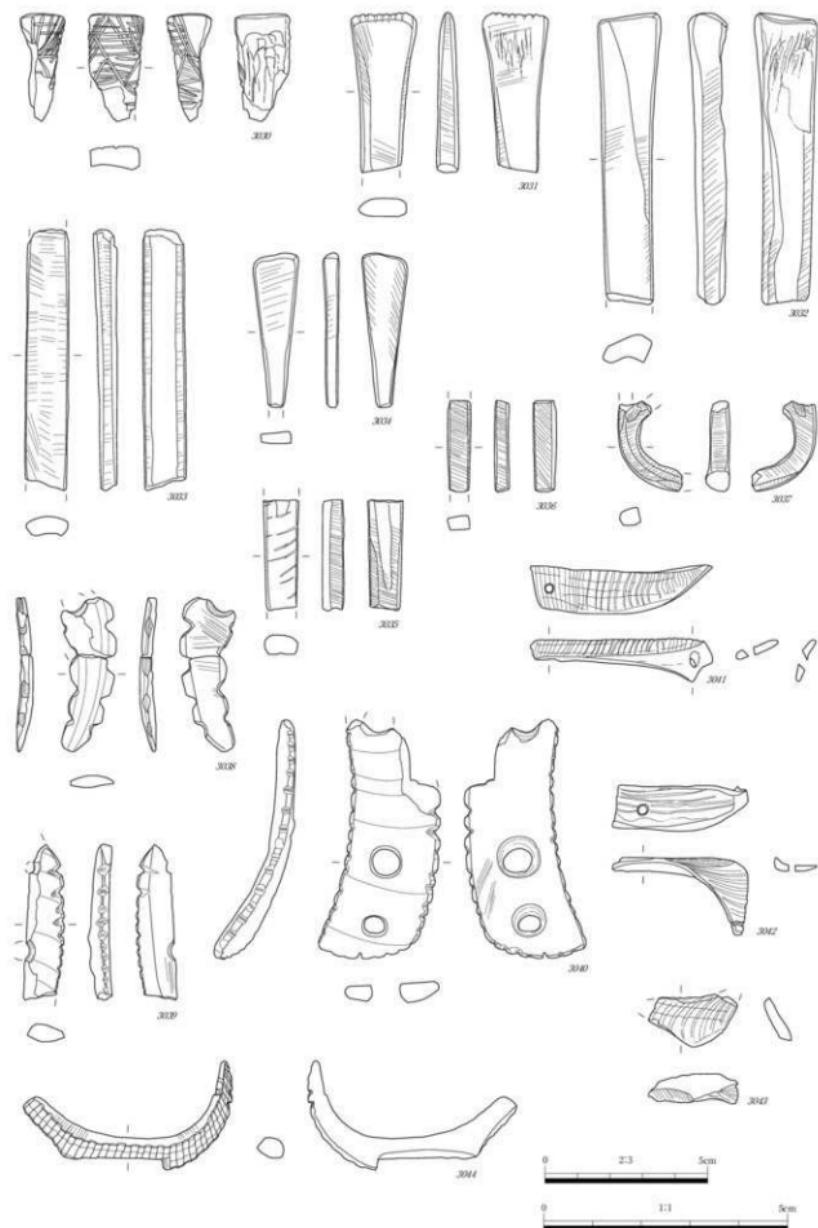
第315図 純文時代遺物実測図 (2/3)  
貝塚X IV層



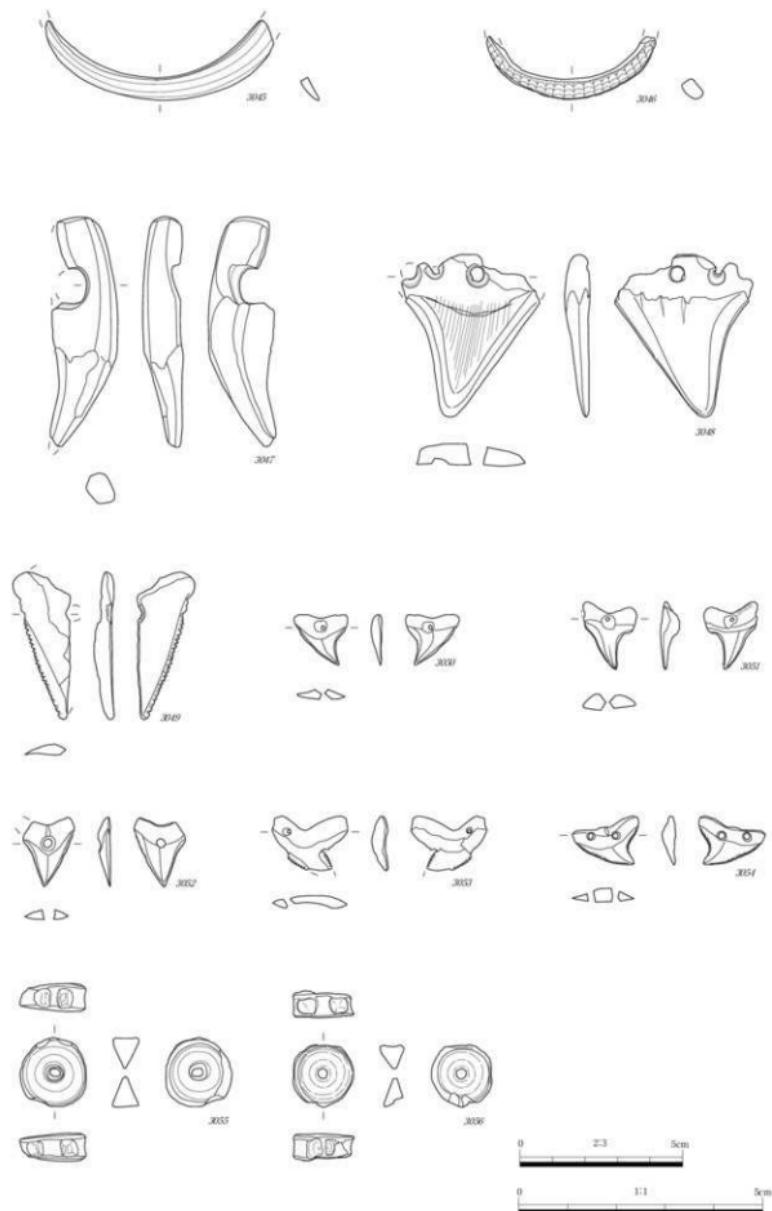
第316図 桜文時代遺物実測図 (2/3)  
貝塚 X IV層



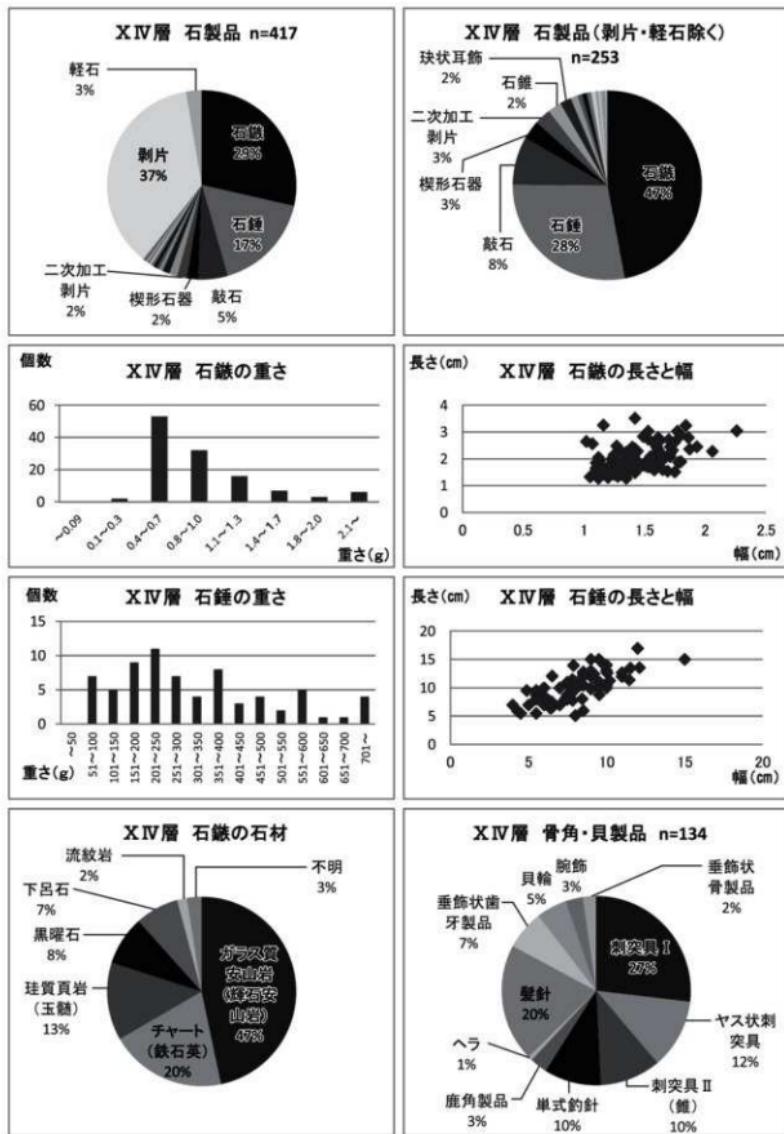
第317図 純文時代遺物実測図 (3026~3029 1/1, 3018~3025 2/3)  
貝塚 X IV層



第318図 繩文時代遺物実測図 (3030~3041 1/1, 3042~3044 2/3)  
貝塚 X IV層



第319図 純文時代遺物実測図 (3047~3054 1/1, 3045・3046・3055・3056 2/3)  
貝塚X IV層



第320図 石製品・骨角器・貝製品様相（貝塚XIV層）

(6) X V層 (第314・321~337図、図版12・23・55・127~131・137・140・146・147・153・162・163・166・168~170・173・176)

#### A 概要

X III層またはX IV層の下で調査区の北側未掘部分を除いてひろがる遺物包含層で、調査時は“貝層下層”と呼称していた。南西から北東へ傾斜し、検出面の標高は-2m~-0.3m。斜度は約10度。厚さは70cm以上あるが完掘できなかつたので詳細は不明。土壤は、2.5G Y 2 / 1 黒色砂質土を基本としている。土壤中には、X II・X IV層のように貝層を形成するほどではないが、マガキやサルボウガイなどの貝類が若干含まれていた。遺物は各種出土しているが、土壤洗浄を実施していないので微細な遺物は取り上げられなかつた。土器片は摩滅が多い。珪藻分析では、X III b層同様に干渴のような環境とみられる。なお、発掘調査終了後に安全のため重機を用いて数箇所坪掘りを行つたところX V層より約2m下から青灰粘土層(以下、深掘り最下層)があり、ここからも土器片数点が出土した。この土壤の珪藻分析では内湾指標種が多産している。

#### B 繩文土器 (3057~3305・3310~3314、第321~329図、図版23・55・127~131)

土器の総量は424.3kg。摩滅率はA~Cで8割近くを占めるが他の層に比べて大きな破片が多く、土器の残存状況は比較的よい。

土器の時期は、早期後葉~後期中葉まで出土し、出土量は佐波・極楽寺式期が96%と最も多く、主体的な時期とみられる。

3246~3256は薄手の破片で早期後葉の船型~入海式。3246は上下交互に爪形文、ヨコ条痕を施す。船型式か。3247~3256は無文地に隆帯を貼り付け刻む一群。3247は上ノ山式、3248~3249は入海0式、3250~3254は入海I式、3255~3256は入海II式にそれぞれ比定される。

3057~3189・3191~3245・3257~3265・3310~3314は、早期末葉~前期初頭(佐波・極楽寺式期)。口縁部の破片は2,642あり文様別に割合を見ると、表裏繩文54(3057・3058・3060~3062・3120)、外面繩文内面条痕22(3063・3065・3066・3121~3125・3138)、外面繩文内面無文686(3059・3064・3067~3071・3073~3075・3126~3132)、外面条痕内面繩文8(図示無し)、表裏条痕84(3144~3151・3154・3155)、外面条痕内面無文95(3152・3153・3156)、無文隆帯貼付42(3108・3194・3195)、無文隆帯無し149(3189)、繩文地矢羽根状文25(3082~3085・3091)、条痕地矢羽根状文38(3170~3172~3175・3179・3180)、無文地矢羽根状文323(3171・3182・3187・3188・3214~3231)、繩文地刺突列点文36(3076・3077・3079・3133~3135)、条痕地刺突列点文52(3163~3167・3186・3206)、無文地刺突列点文360(3094~3098・3102~3104・3139・3140・3181・3184・3191~3193・3196~3200・3202・3203)、繩文地貝殻腹縁文9(3137)、条痕地貝殻腹縁文82(3168・3169・3177)、無文地貝殻腹縁文362(3105・3106・3141~3143・3183・3185・3205・3207~3211)、繩文地押引状文23(3072・3078・3087)、条痕地押引状文6(図示無し)、無文地押引状文40(3099~3101・3201)、繩文地爪形文4(3136)、無文地爪形文28(3092・3093・3204)、繩文地沈線文30(3080・3081・3086・3088~3090)、条痕地沈線文2(3176・3178)、無文地沈線文44(3212・3213)、繩文地繩文・撲糸压痕4(図示無し)、条痕地繩文・撲糸压痕1(図示無し)、無文地繩文・撲糸压痕33(3107・3232~3237)である。3131・3132・3138・3144・3146は付着炭化物のAMS年代測定で3138は6,460±40BP(IAAA-60256)、3131は6,580±40BP(IAAA-60259)、3132は6,300±40BP(IAAA-60255)、3144は6,430±40BP(IAAA-60254)、3146は6,580±40BP(IAAA-60260)の結果を得ている。3138・3146・3276は胎土分析(試料4・6・14)を行い、3138と3146は砂岩を主体とする胎土で前者は放散虫と骨針化石を多く植物纖維も含み、後者は植物纖維のみを含む結果を得ている。3276は凝灰岩を主

体とする胎土で放散虫・骨針化石・植物繊維を含む結果を得ている。

底部は319あり、形状では平底穿孔有り2(3119)、平底穿孔無し190(3109~3113・3157・3238~3243) 60%、尖底・丸底で穿孔有り18(3115~3118・3158・3159)、尖底・丸底で穿孔無し109(3114・3160~3162・3244・3245) 34%と形状に関わらず穿孔がないものが多い。3116は穿孔するも貫通せず、3115・3117は、一度貫通後埋め戻している。

3310~3314は、重機により深掘り最下層から採取した土器。A4地区で最も深くから出土し最も古い一群と考えられる。3310は無文地に沈線文、3311は斜繩文、3312は無文地に矢羽状文、3314は内外面条痕文、3313は外面に繩文を施す尖底。

3257~3265は外来系とみられる破片。3257は薄手で隆帯に矢羽根状の刺突を連続する。東海系か。3258は無文地に波状の隆帯を貼り付ける。木鳥式とみられるがやや厚手で在地化したものか。胎土分析(試料8)では、凝灰岩を主体とする胎土で植物繊維を含む結果を得ている。3261は繩文地に角押状工具で押引状文を施す。下吉井式か。3259は無文地の波頂部に隆帯を貼り付け、垂下する。神之木台式か。胎土分析(試料11)では花崗岩を主体としている。骨針化石が入っていることから在地か。3260・3262・3263・3265は撚糸側面圧痕を施す花積下層式。3263は胎土分析(試料13)から凝灰岩を主体とし、放散虫化石を少しと植物繊維を含む。骨針化石が入っていることから在地か。3264は絡条体圧痕文系。

3190・3266~3290は、前期前葉~末葉。3190・3266~3287は前期前葉布目式期。3276は結束+斜繩文、3266は爪形文、3269は非結束羽状繩文、3267・3268は結束羽状繩文、3270・3272~3275・3277・3278は結節回転文、3271は斜繩文、3279~3281は半截竹管による沈線文、3282・3283は網目状捺糸文、3284・3285はループ文を施す。3286は平底、3287は丸底で底面に爪形文を施す。3190は胴部破片で外面摩滅。内面に漆が付着し、AMS年代測定値から当該期とみられる(第V章第12節)。3288は細い半截竹管で施文する浅鉢。前期後葉福浦上層式期(北白川下層IIb式)。胎土分析(試料15)では凝灰岩を主体とする胎土で骨針を含む。在地か。3289・3290は細い半截竹管文と結節浮線文からなる前期末葉福浦上層式。3291~3301は、前期末葉~中期初頭(朝日下層~新保式期)。3291・3293・3294・3296は細いソーメン状の隆帯で文様を構成する。3292・3295・3297・3298・3301は、細い半截竹管で文様を構成する。3299・3300は新保式のキャリバー形の深鉢。口縁部を半隆起線文、胴部を斜繩文で施文する。3300は胎土分析(試料18)から凝灰岩を主体とする。

3302・3303は中期。3302は口縁部に半隆起線を施す深鉢で中期前葉新崎式期。3303は中期末葉串田新式の深鉢口縁部で隆帯上に貝殻腹縁の連続刺突を施す。3304・3305は後期。3304は末端刺突をもつ沈線文で後期前葉氣屋式期。3305は沈線文内に斜繩文を施す。後期前葉~中葉か。

#### C 土製品(3306~3309, 第329図, 図版137・140)

3306は石匙形。岐阜県落合五郎遺跡や閉羅瀬遺跡<sup>251</sup>にある土器片を加工したものとは形状が異なっており、土偶の簡素化した形状にも見て取れる。3307は粘土塊を片手で握り焼成したもの。3308は不明土製品。土偶の一部か。3309は土器片を丸く加工した土製円盤。

#### D 石製品(2990・3315~3350, 第330~333図, 図版12・146・147・153・162・163・166・168~170・173)

石製品の総量は232点で39.6kg。器種は石錘56, 敵石21, 二次加工剥片10, 石匙7, 楔形石器4, 石錐3, 磨製石斧3, 砥石3, 石鎌3, 凹石1, 削器1, 台石1, 剥片・石核114, 軽石5の14種あり、剥片が5割、石錘が2.4割で敵石が続く。

<sup>251</sup> 岐子徹司 2003 「閉羅瀬遺跡発掘調査報告」半田村教育委員会

3315～3317は石鎚でいずれも未成品。3316は先端を欠損するものの長さ5.4cm幅5.2cmの大型。3318～3323は石匙。3318～3320は縱型、3321～3323は横型。3319・3323は不整形で未成品か。

3324～3330は打欠の礫石錐。3327が円形状、3324・3330が精円形状、3326は菱形状、他は台形状。3329は長軸のほかに短軸方向にも打ち欠きがある。長軸で分類すると、7cm前後と11cm前後の二つにピークが表れる。重量は150～400gのピークがあり、ほかは数少ない。石材は石灰質泥岩、砂岩、流紋岩など様々でそれほど偏りがない。XIV層同様にいずれも近隣で採取可能な石材である。

3331～3333は磨製石斧。3331・3332は基部を欠損後、敲石として転用。3333は未成品か。石材が頁岩であるためほかの器種か。3334・3335は砥石。2990・3334は軽石。2990は擦痕が残り砥石とみられる。3334は角閃石が多く含まれる。3335は表面に擦痕、裏面に敲打痕がある。3336～3339は敲石で3336のみ安山岩ではほかは砂岩。3337は長軸短軸方向に敲打痕があり石錐の可能性もある。3340～3342は石錐で3340のみ完形。石材は、3340が珪質頁岩ではほかはガラス質安山岩。3342は未成品。3343は下呂石の削器。3344・3345は楔形石器で3344がガラス質安山岩、3345が下呂石。3346～3349は二次加工剥片。石材は3349が諏訪産と推定される黒曜石ではほかはガラス質安山岩。

3350は出土層位・地点不明の玦状耳飾。滑石製。

#### E 骨角歯牙製品 (3351～3366, 第334～336図, 図版176)

骨角歯牙製品の総量は39点で212g。器種は刺突具15(刺突具I 9, 刺突具II 4, ヤス状刺突具2), 髮針20, 垂飾状歯牙製品2, 鹿角製品2の4種類。髪針が全体の半分を占め、刺突具が続く。

3351～3353・3365・3366は刺突具。3351は両端を尖らす薄手のヤス状刺突具で完形。3352・3365・3366は1端のみを尖らす刺突具Iで基部を欠損。3353は細い錐状の刺突具IIで基部を欠損。3354～3362は髪針。3354～3356・3361はシカやイノシシの四肢骨を素材にし、表面に鋸歯状あるいは矢羽根状のモチーフを彫刻した髪針。3358は基部に2箇所穿孔する。3362は鹿角を素材とする。3363・3364は垂飾状歯牙製品。3363はツキノワグマの大歯、3364はサメ類の歯を素材とする。それぞれ基部を穿孔するが、3364は貫通しない。

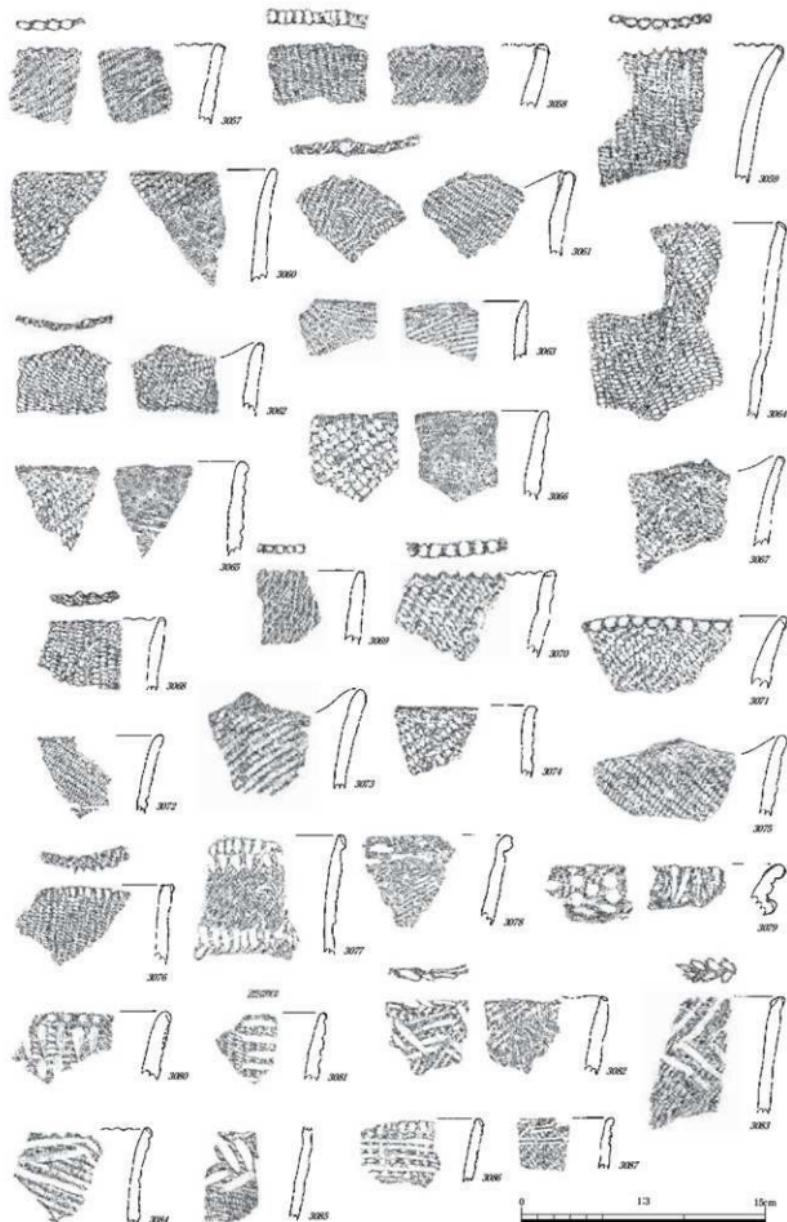
#### F 動物遺体 (3367・3368, 第336図)

土壤洗浄は行わなかったので現地採取で魚類ではタイ科とマグロ・カツオが約半分ずつ。陸生哺乳類ではシカ・イノシシが多く、イヌが続く。人骨も埋葬状態は不明だが破片が多く出土し、近辺に埋葬箇所がありそれが崩落してきたものとみられる。貝類ではマガキ、オオノガイ、カガミガイ、シラオガイ、サルボウガイ、ハイガイなどが出土している。特に深掘り最下層中からはマガキとハイガイのみ出土しており、環境の変化が伺える。

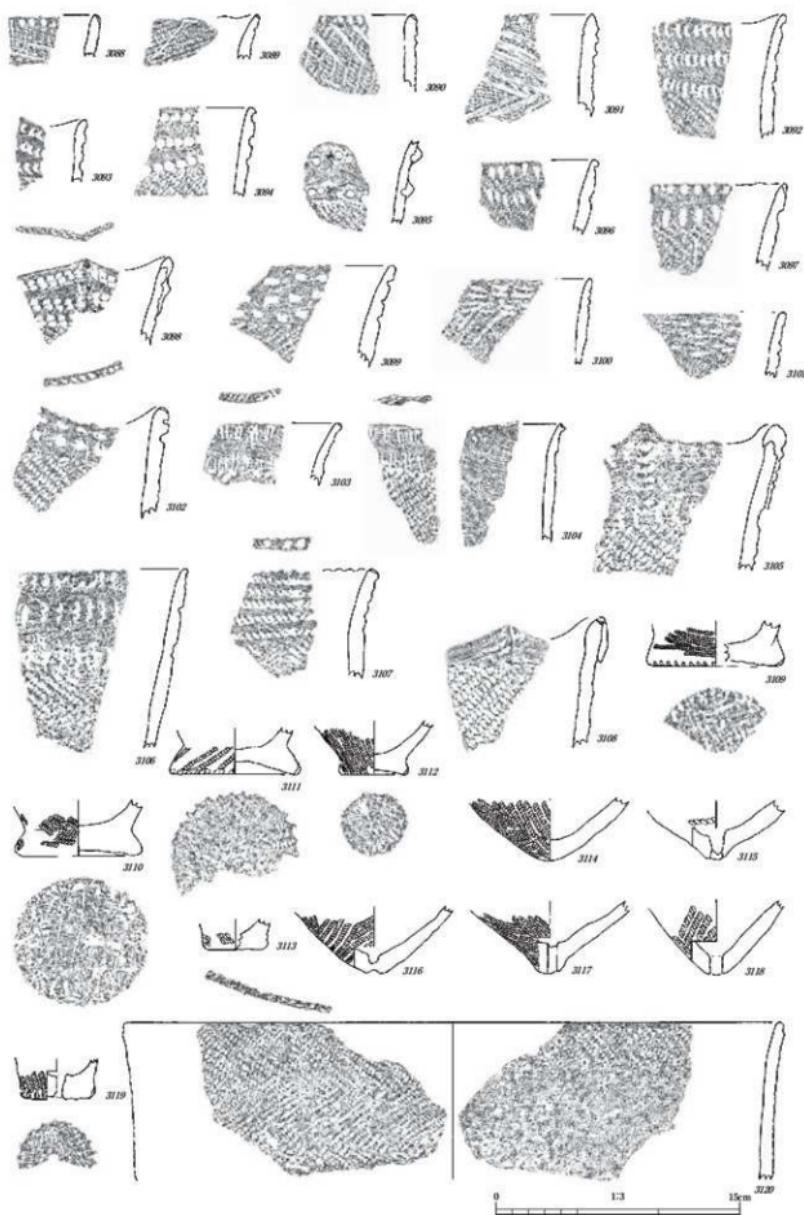
このほかに人骨を加工した3367・3368がある。いずれも尺骨で近位端に先の尖った工具で穿孔する。3367は貫通し、3368は2孔のうち1つが貫通する。埋葬人骨が土砂崩れなどでバラバラとなって露出し、他の動物遺体と同様に骨角器の素材となったのだろうか。人骨を加工する類例は少なく祭祀具または装身具とすれば垂飾であろうか。

#### G 年代

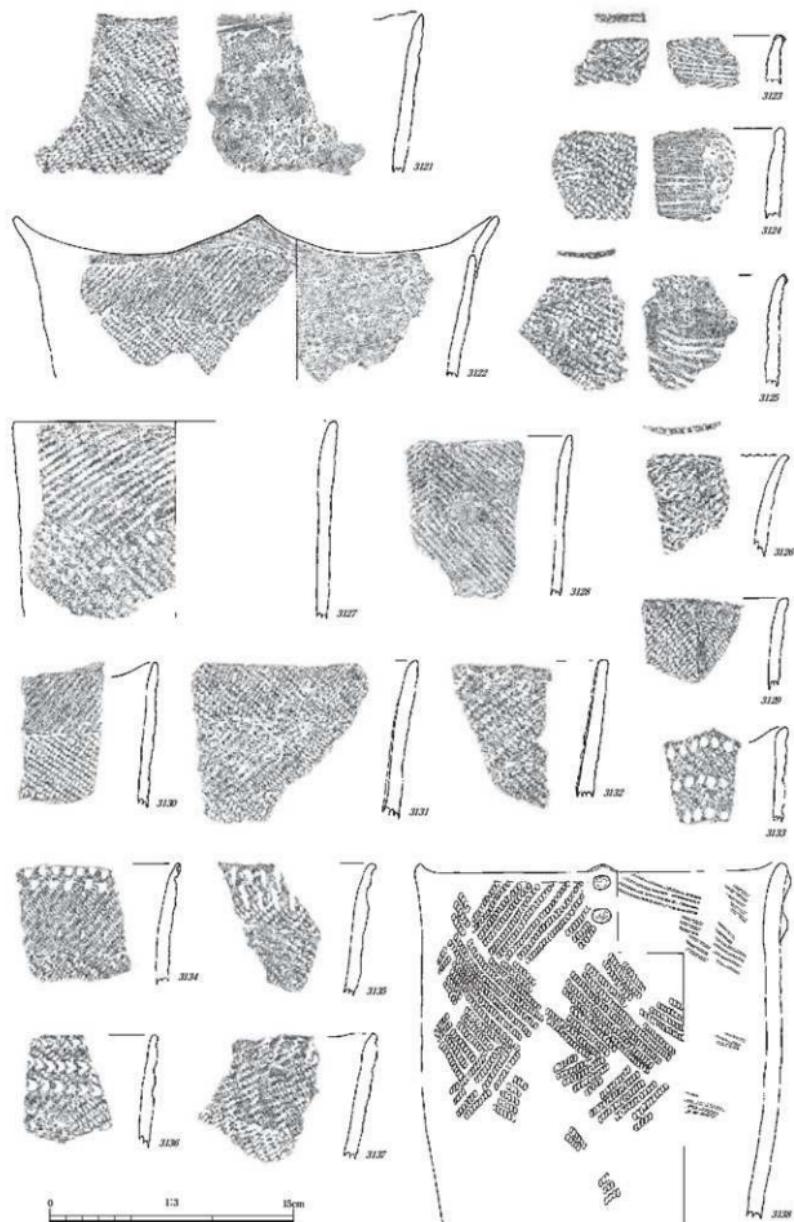
貝層の年代は、出土土器が佐波・極楽寺式を主体とし、早期後葉の東海系の土器が一定量あること、AMS年代測定による<sup>14</sup>C年代で土器付着炭化物が6,450±40～6,710±40BP (IAAA-80563・80564)、貝類が6,260±40～5,780±40BP (IAAA-70516～70521)、動物遺体が6,200±40～6,780±40BP (IAAA-80559～80562)と測定されたことから、XIV層よりは層位では古いもののそう変わらない早期後葉～末葉を主体としていると考える。ただし、深掘り最下層から出土したマガキとハイガイのAMS年代測定では7,390±40～7,260±40BP (IAAA-80559～80562)と古い年代を示している。(町田賢一)



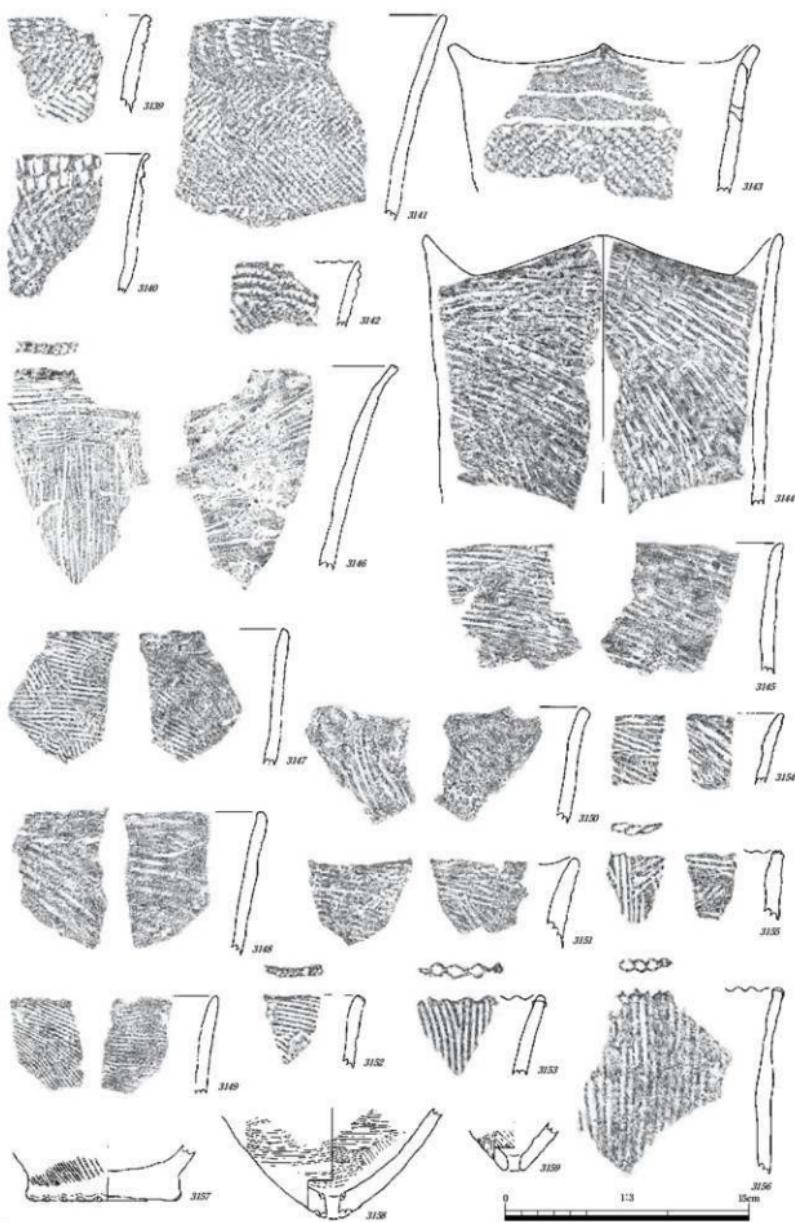
第321図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚 X V層



第322図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚 X V層



第323図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚 X V層

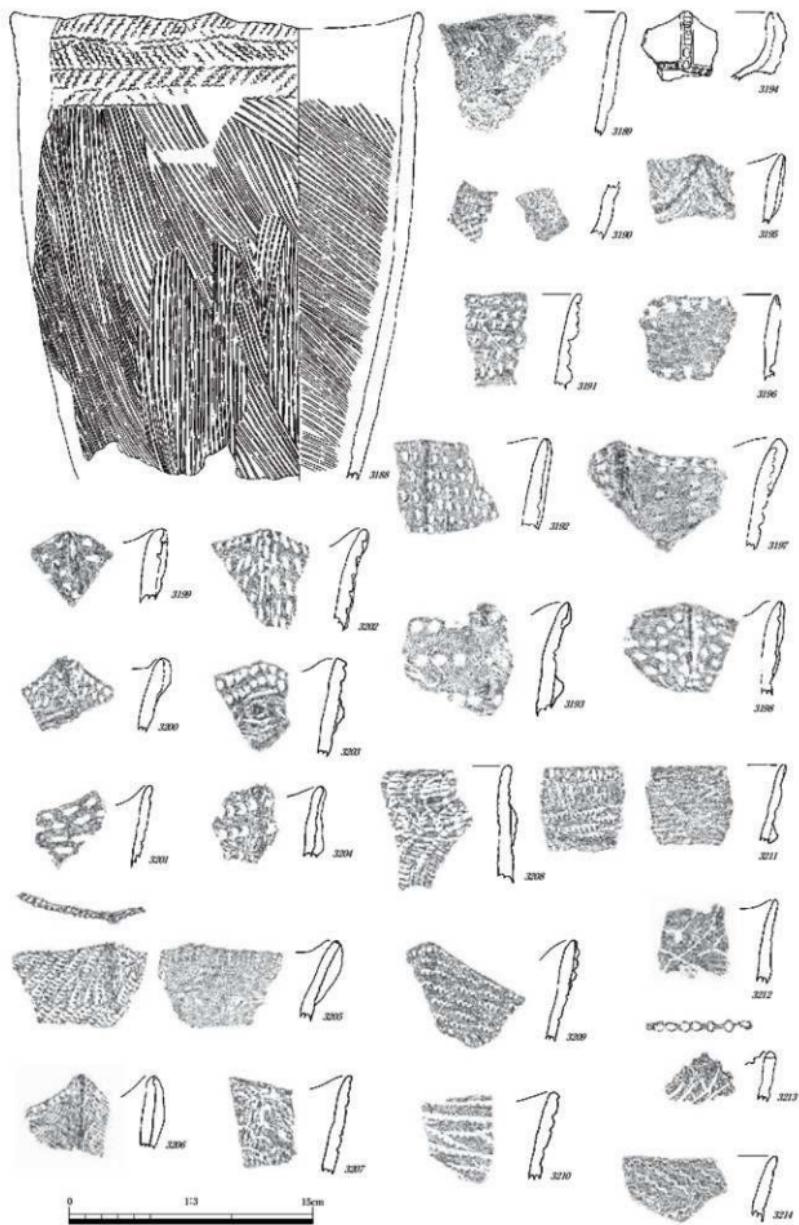


第324図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X V層

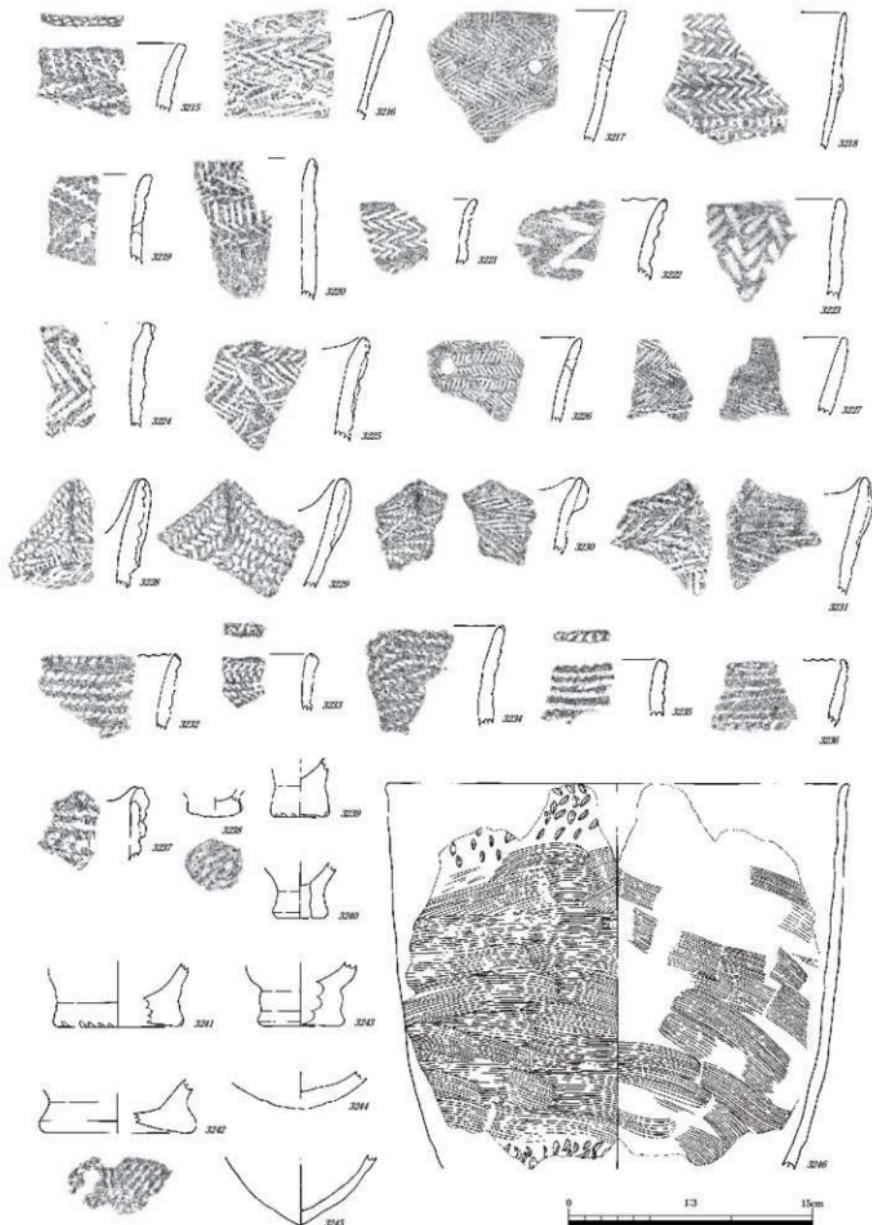


第325図 繩文時代遺物実測図 (1/3)

貝塚X V層

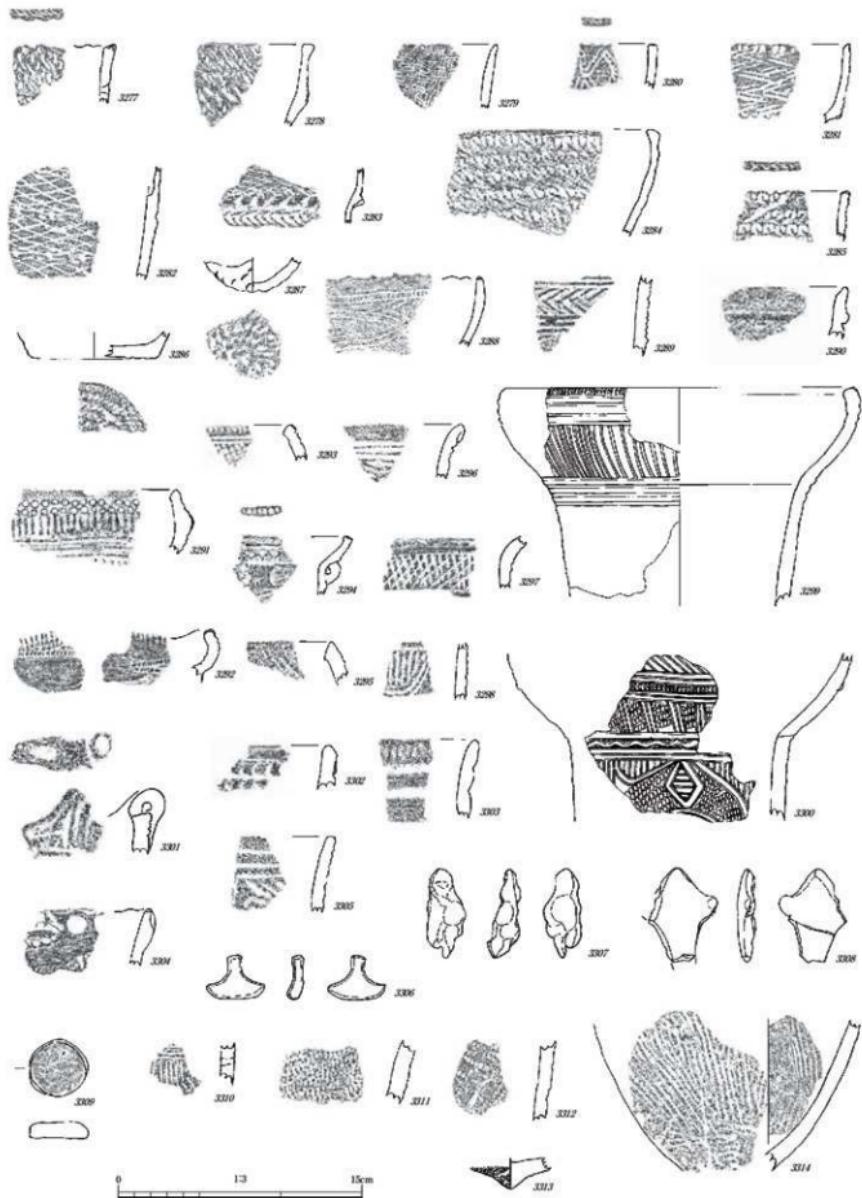


第326図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X V層

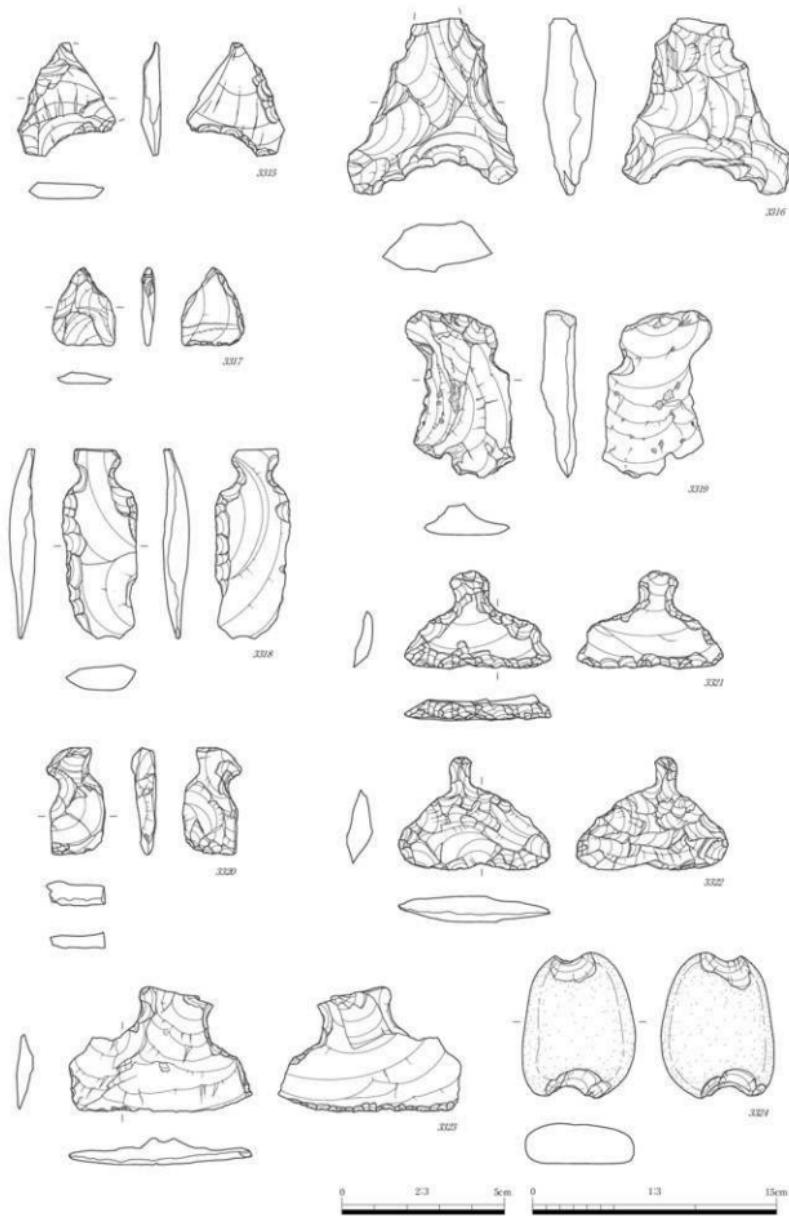


第327図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X V層

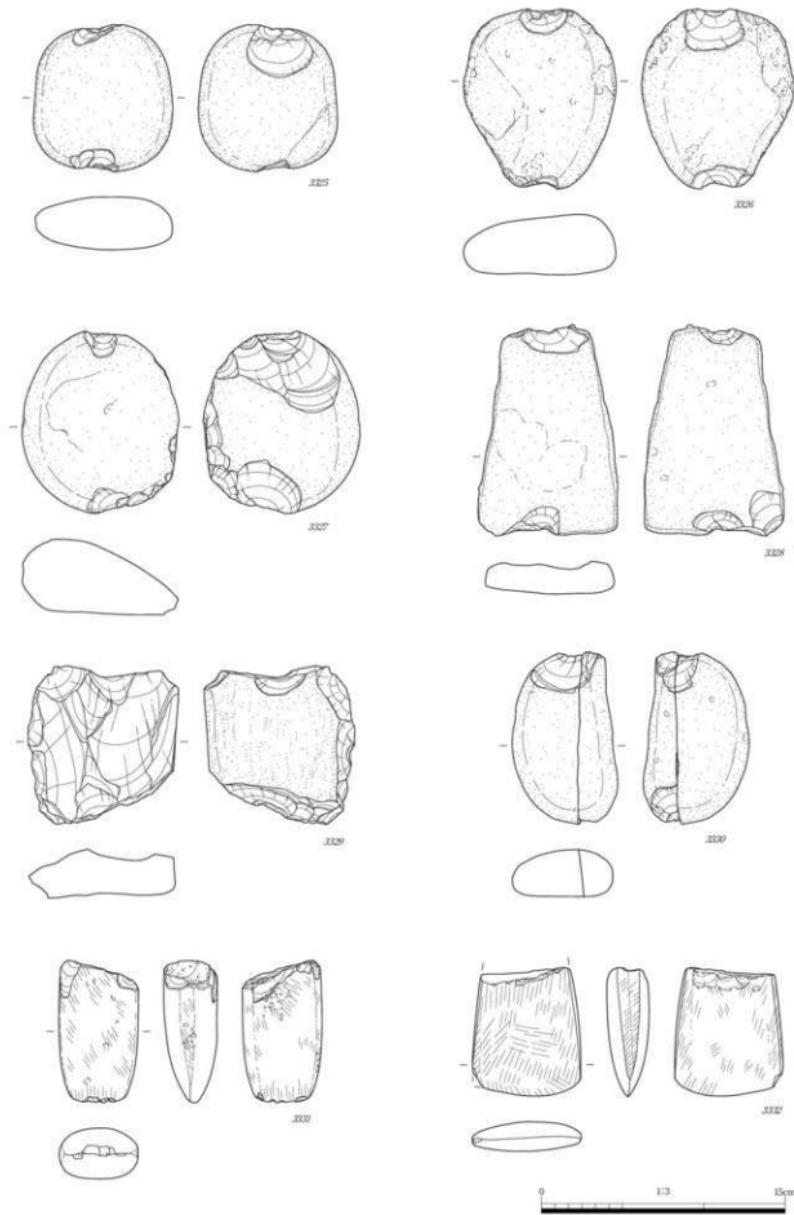
第328図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X V層



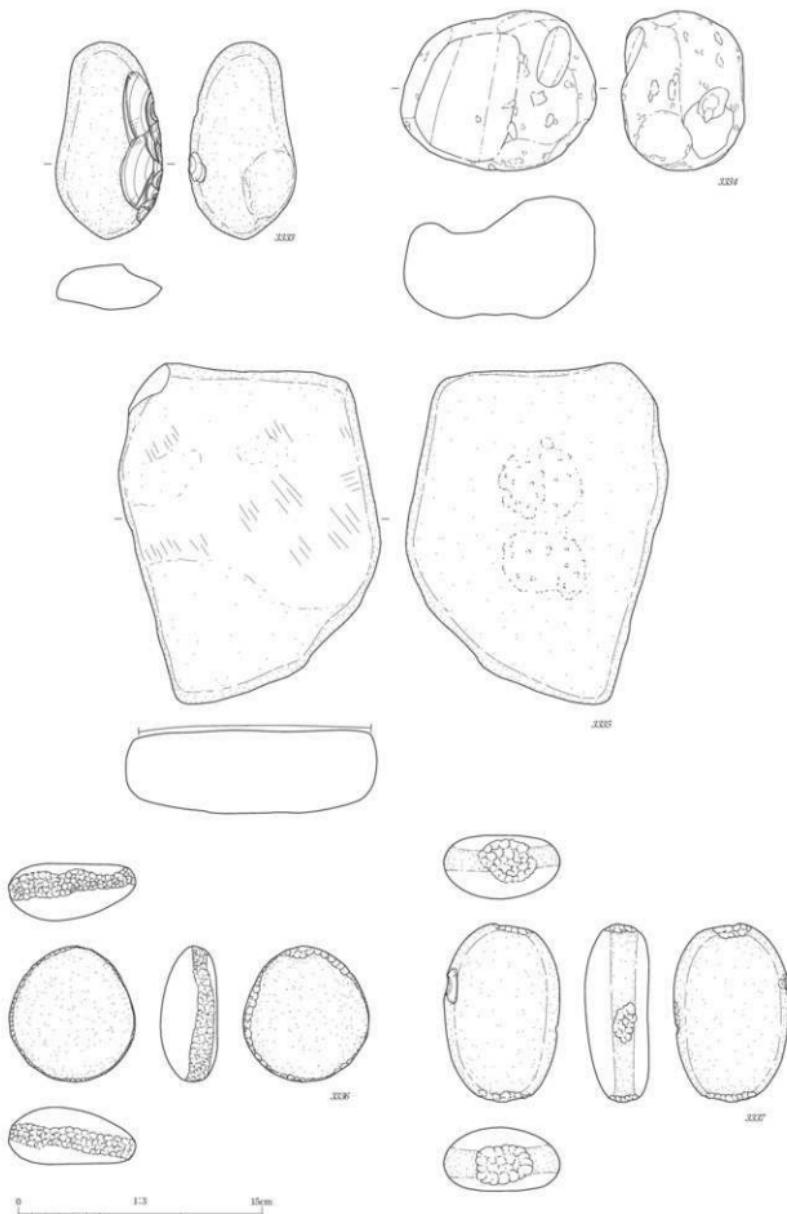
第329図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X V層



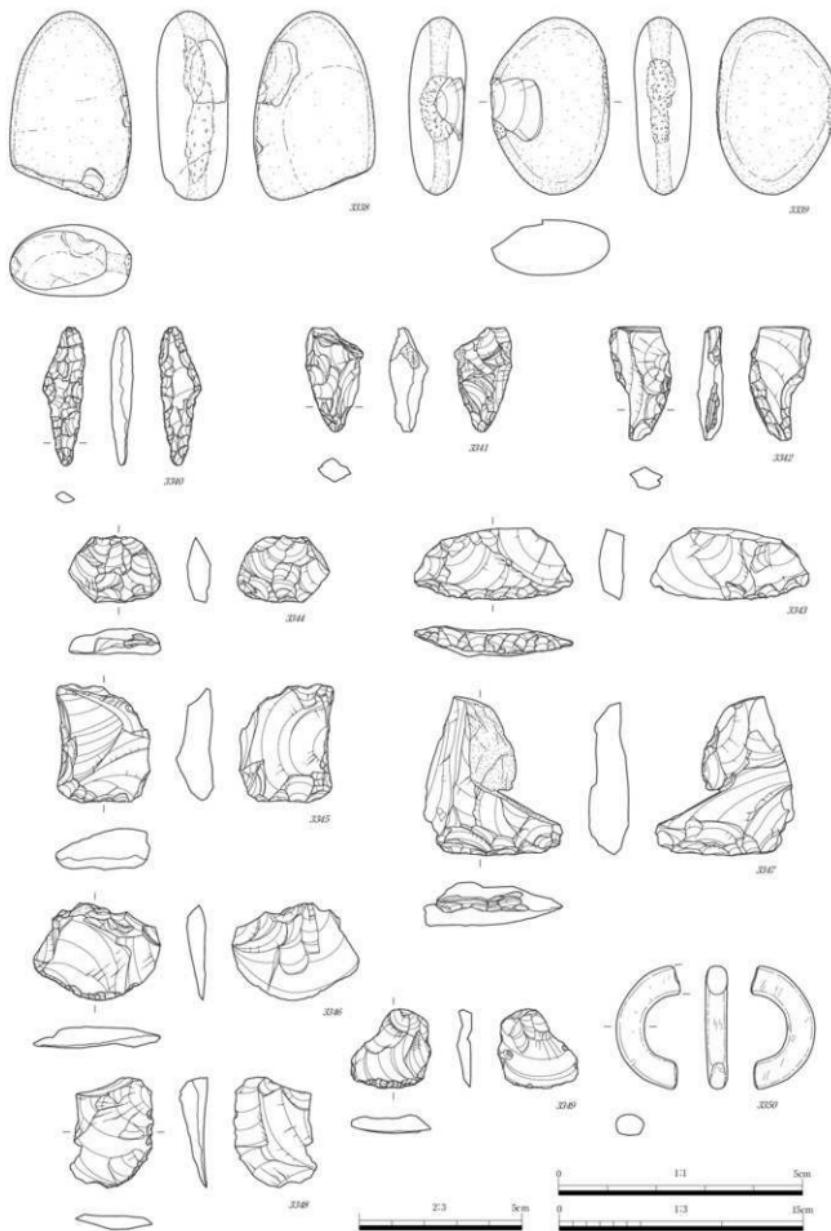
第330図 純文時代遺物実測図 (3315~3323 2/3, 3324 1/3)  
貝塚X V層



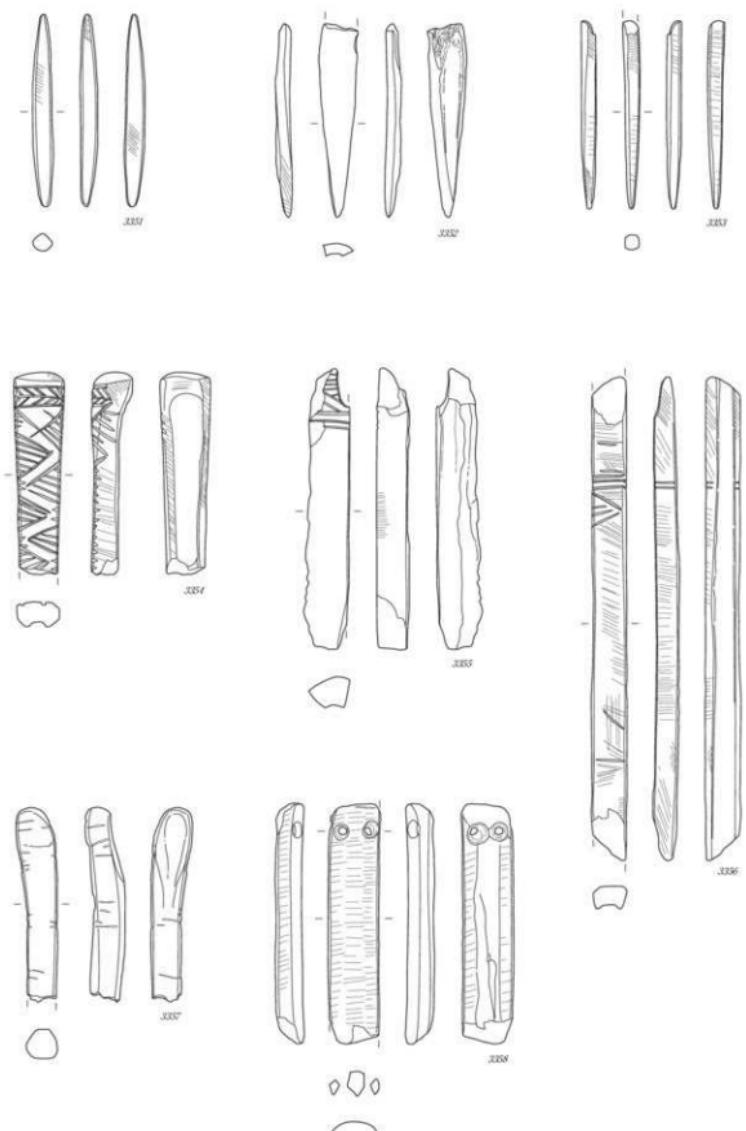
第331図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚 X V層



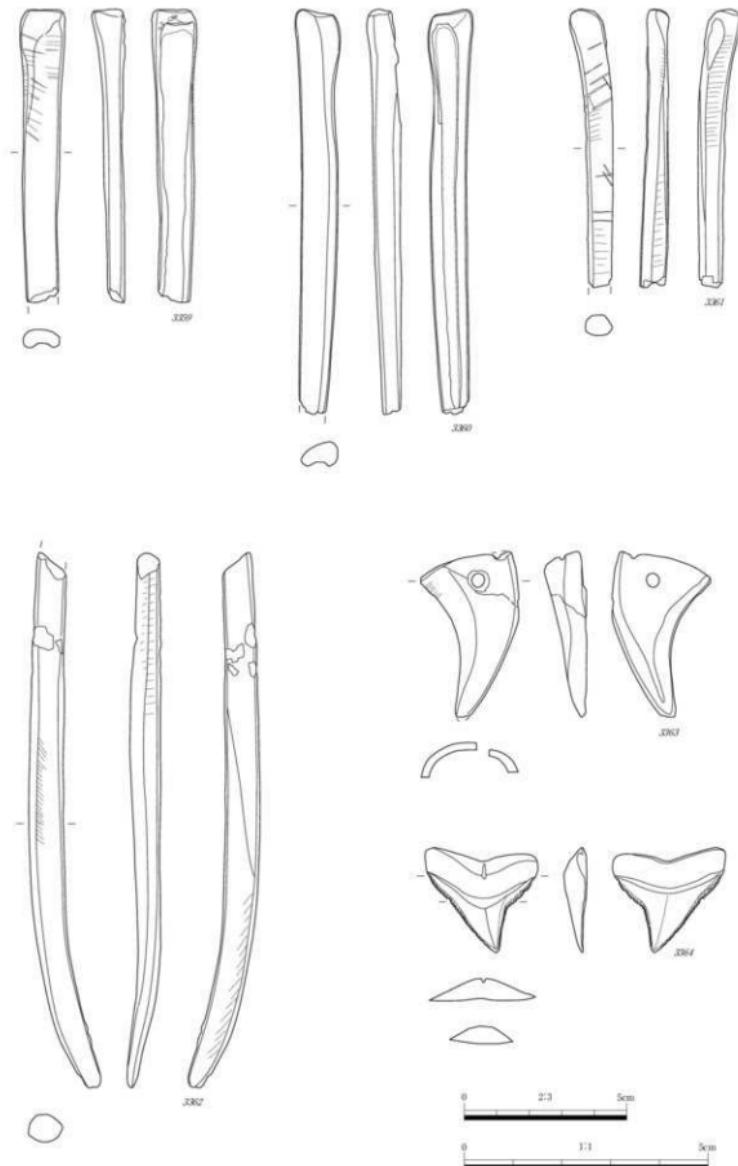
第332図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
貝塚X V層



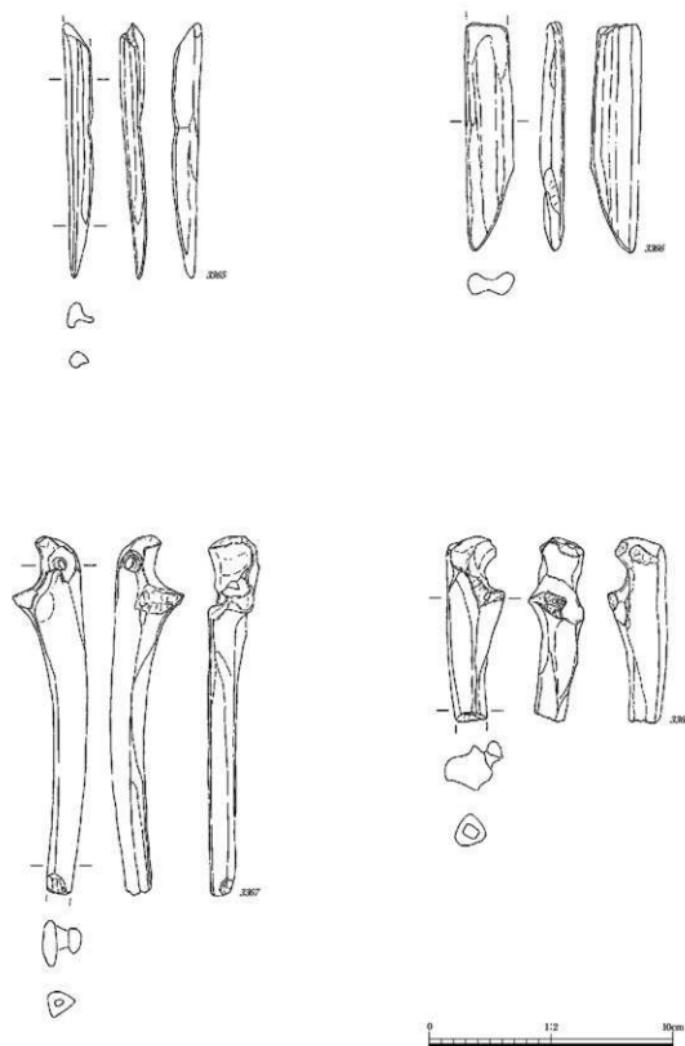
第333図 橋文時代遺物実測図 (3330 1/1, 3340~3349 2/3, 3338・3339 1/3)  
貝塚 X V層



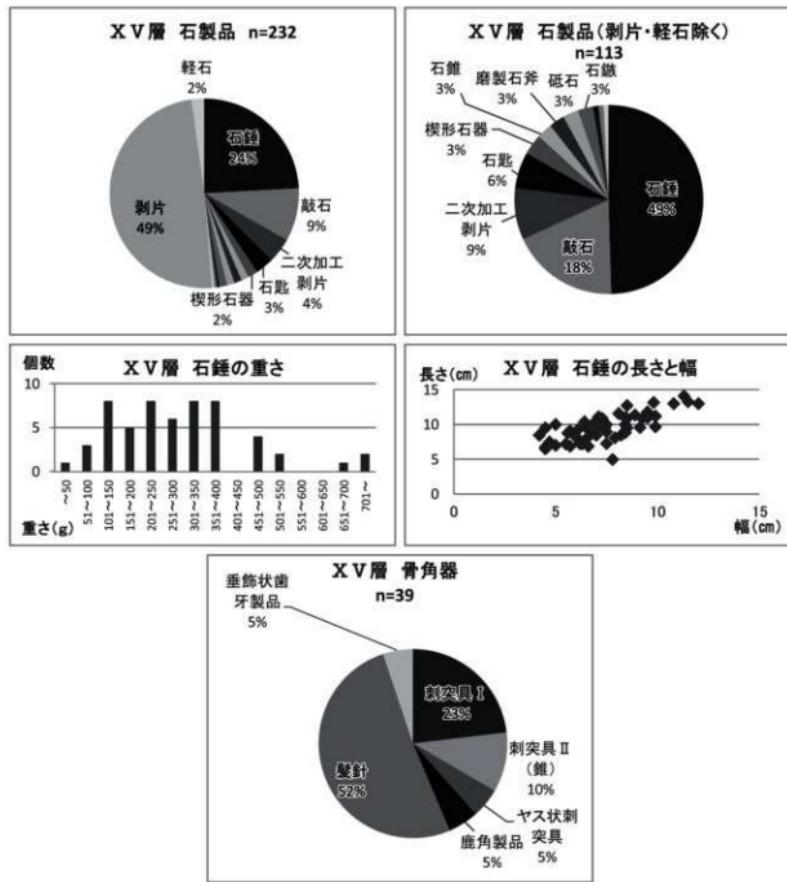
第334図 純文時代遺物実測図 (3354~3358 1/1, 3351~3353 2/3)  
X V層



第335図 繩文時代遺物実測図 (3363・3364 1/1, 3359~3362 2/3)  
貝塚X V層



第336図 純文時代遺物実測図 (1/2)  
貝塚X V層



第337図 石製品・骨角器様相（貝塚XV層）

## 4 包含層出土遺物

調査区のはば全域から、縄文土器、土製品、石製品が出土している。ここでは包含層から出土した遺物のほか、弥生時代以降の遺構に混入して出土した遺物についてもあわせて記述をおこなう。

### (1) 縄文土器 (3369~3427, 第338~343図, 図版55・132~134)

早期末～晩期の土器が出土している。3369～3383は佐波・極楽寺式の深鉢である。3369～3371は外側に2段の縄文を施す。3369の縄文の条は口縁部斜行、胴部縱行とするが、口縁部を施文した後に胴部を施文しており、下方から押し出された粘土が境で軽い段をつくる。3370は器壁の厚いつくりで、胴部から口縁部にかけて外傾する器形である。外全面と口縁部内面に斜行縄文を施す。台状高台の外底面と底端部には、同じ施文具を用いて細く鋭い沈線と刻みを入れる。口唇部は、3370が両端部を刻み、3371は上面を斜めに刻む。3372は4単位の波状口縁で、外面には縦位に蛇行する貝殻条痕文を施す。胴部には押引文を横位に2条巡らせ、口縁部には棒状具で刻みを入れる。3373は口縁端部に内外面にまたがる突起を貼り付ける。3374は胴下半部で、内外面に貝殻条痕を施す。3375の外面は、2段のLR原体を軸とし、1段のLを軸の燃りと逆方向に絡げる附加条縄文である。内面には、口縁部横位、胴部縦位の貝殻条痕を施す。3376は口縁部無文地に2個1対の刺突文を横位に連続して施す。3377は外面に斜条痕と櫛状具刺突を施し、穿孔途中の補修孔跡を残す。3378は矢羽根状刺突と貝殻腹縁刺突のある波状口縁である。3379は貝殻腹縁刺突と小突起がある。3380は横位隆帯を貼り、下方から櫛状具で連続刺突をする。3381は尖底で、内外面ナデ調整である。3382は外底面に縄文を施文する。3383は端部を刻む台状高台で、外底面には貝殻条痕を施す。

3384は諸磯式の有孔浅鉢である。張り出した屈曲部を縦に穿孔しており、2孔が残る。3385は球状に膨らむ胴部で、外面には結節のある結束羽状縄文を縦位施文し、細い粘土紐を貼り付ける。前期末葉のものと考えられる。3386はくの字状に屈曲する朝日下層式の深鉢口縁部である。口縁上半には斜位の半截竹管を並べた後、逆向きの斜位に極細粘土紐を貼り付ける。

3387は新保式の深鉢である。内湾する口縁部には、斜行縄文を施文した後に、半截竹管を縦に引き並べる。胴部には単輪縫条体第1A・3類を縦位施文する。3388は半隆起線を横位に引き、無文部に大きめの三角形彫込を連続させる。新崎式か。3389は上山田・天神山式の深鉢胴部である。外面に爪形刻みのある渦巻き隆帯と半隆起線を入れ、余白には地文の縄文を残す。3390は串田新式の口縁部小片で、竹管の背を用いた沈線と貝殻腹縁文刺突を施す。3391は内湾する器形で、口縁部に隆線と無文部をもつ。胴部には1段の縄文を施す。串田新式か。

3392は気屋式の小型浅鉢で、外全面に幾何学状沈線文を施す。3393は気屋II式～加曾利B式頃のものと思われる口縁部小片で、沈線と細かい縄文がある。3394は縱行縄文の深鉢底部である。後期前葉であろう。3395は外反する深鉢口縁部で外側面を磨く。口縁部に沈線を1条巡らせ、正面に突起を貼り付ける。外面には間隔をあけて縦のジグザグ沈線文を入れる。補修孔が1箇所にあくほか、内面に3箇所穿孔途中の痕跡を残す。後期後半。3396は凹線文と刻みのある隆帯があるもので、井口II式か。

3397は半截竹管沈線文と磨き、細かい縄文がある胴部破片で、御経塚式か。3398は無文の鉢で、胴部が直線的に開く器形である。晩期中葉～後葉のものか。3399は擦痕やナデ調整を残す小型の鉢である。3400～3404は中期～晩期の深鉢底部で、3402は2本超え2本潜り1本送り、3403は2本超え1本潜り1本送りの網代圧痕、3404はスダレ状圧痕を残す。3405は内外面に沈線を巡らせ、内面に浅い

抉りを入れる。晩期前葉。3406・3407は中屋式の胴部破片で、3406は山形沈線と三叉文、3407は沈線と押引状列点を入れる。3414・3415は同一個体と思われるもので、口縁部に沈線を入れる。下野式。3408～3413・3416～3427は外全面に条痕を施す深鉢である。3416は頭部に沈線を巡らせる。3418は口縁部と胴部に2条の沈線を引き、間に押引状列点を施す。外底面は、3425・3426はナデ調整、3427は条痕を施し、3427にはドングリ状の木の実の圧痕が残る。

### (2) 土製品 (3428～3432, 第343図, 図版138)

3428～3430は土偶である。3428は体下部か。表面に丁寧な磨きが残る。3429は頭部で、円盤状の顔部を前に突き出してお、首の接合部分は胴部にはめ込んでいたような剥離痕をみせる。前頭部には交互にねじった2本の粘土紐を貼りつけ、盛り上がった眉は弧を描く。鼻と口は刺突で表現する。後期前葉と思われる。3430は手で、先端が下へ曲がる。後期後半代。3431・3432は丸棒状の筒形土偶であろうか。目と口を刺突で表し、肩部を両側に摘み出して手を表すなど、作り方に共通点がみられる。中期後葉～後期前半代か。

### (3) 石製品 (3433～3534, 第344～354図, 図版12・18・144・146～150・152～154・156～160・164～172)

石錐 (3433～3443) は、1号谷のある丘陵地を中心とする範囲、及びその周辺から散発的に出土している。先述の分類<sup>332</sup>に基づくと、無茎凹基式外湾型 (3433・3434)、無茎凹基式直線型 (3435～3437)、無茎凹基式内湾型 (3438)、無茎弱凹基式外湾型 (3439)、無茎弱凹基式直線型 (3440)、無茎平基式の未成品 (3441)、有茎柳葉式 (3442・3443) となる。3443には表裏に付着物がある。石材は、流紋岩 (3433・3434・3439)、下呂石 (3435)、珪質頁岩 (3436)、メノウ (3437)、横山真脇石 (3438・3440)、ガラス質安山岩 (3441～3443) である。

石匙は、横型石匙 (3444)、石匙未成品 (3445) がある。3444は整った三角形状を呈し、前期の北白川下層式に伴う典型的なものとされる。刃は両側から調整が加えられた両刃である。石材は赤玉石 (3444)、ガラス質安山岩 (3445) である。

打製石斧は、短冊形 (3446～3455)、撥形 (3456～3458)、分銅形 (3459・3460)、未成品か (3461)、未成品 (3462) がある。短冊形には、平行する側縁が直線的に延びるもの (3446・3447)、側縁は平行しているが基部に向かってすぼまるもの (3449～3452)、側縁が丸みを帯びるもの (3453～3455) がある。撥形は側縁に括れをもつが、左右非対称でくの字状になるもの (3456・3459・3460) がある。3447は基部に煤状の付着物がある。3447～3450・3453・3458～3461の刃部には土擦痕がある。3448は土擦痕が残る上から刃部を再加工する。3461は形状から未成品に分類したが、土擦痕があることから完成品として使用されていたと考えられる。石材は、変質安山岩 (3446・3447・3459)、安山岩 (3452・3458・3461)、石英斑岩 (3448～3450・3456・3462)、砂岩 (3451・3457・3460)、中粒凝灰岩 (3453)、ホルンフェルス (3454)、流紋岩 (3455) がある。

円盤形石器 (3463) は、1号谷のc・d断面間の東肩落ち際から出土した。扁平な円碟の両面周縁を剥離整形する。この後研磨が加えられるとすれば、未成品であろう。石材は砂岩である。

擦石 (3464) は、土坑SK5167から出土した。土坑からは弥生土器が多数出土しており、これらに伴う時期のものとも考えられる。石材は頁岩で、一側面に擦痕が残る。

蔽石 (3465～3469) は、先述の分類<sup>332</sup>に基づくと、1類 (3465)、2類 (3466・3467)、3類 (3468・

<sup>332</sup> 第Ⅱ章第2節 (5) 場の1号墓出土石器において示した分類に同じである。

3469)となる。石材は多孔質安山岩(3465),花崗岩(3466・3469),砂岩(3467・3468)である。

石錐(3470~3490)は、糸掛けの作出方法による先述の分類<sup>333</sup>に基づくと、1類(3470~3488),2類(3490),3類(3489)となる。3490は長周2本,短周1本の糸掛けの溝を十字状に巡らせる。長周2本のうち1本は下半半周で止まる。3470は敲石1類に転用する。3479は敲石2類を兼ねる。石材は中粒凝灰岩(3470),粗粒凝灰岩(3474),凝灰岩(3482),ホルンフェルス(3471),流紋岩(3472・3473・3477・3478・3481・3484・3485・3487・3488),流紋岩か(3490),アブライト(3480・3486),頁岩(3475・3479),石英斑岩(3476),砂岩(3483),花崗岩(3489)である。

磨製石斧(3491~3505)のうち、早期末~前期と考えられるものは3491~3493である。3492・3493の刃部には使用痕が残る。3494~3503は中期以降と考えられ、定角式、乳棒状がある。3499は主に上下端面を敲石として転用する。3504・3505は磨製石斧未成品である。3504は全面に剥離調整と敲打がある完形品である。石材はチャート(3491),透閃石岩(3492~3495・3499・3504・3505),変質安山岩(3496・3498・3501・3503),変質閃綠斑岩(3497・3502),変質玄武岩(3500)である。

砥石(3506~3508)は、縄文時代に属すると考えられるもので、砥面はいずれも平滑である。3506は表裏と側面を砥面とする。砂岩であるが固結度が弱く、表面の剥離が進む。3507も砂岩で、台石を兼ねていたと思われ、表裏に敲かれた跡が残る。3508は安山岩で、節理面で板状に割れている。

石槍(3509)はSD6011から出土した。上端は折損後再加工し、下端の両側縁には回転による摩滅が観察できる。石錐に転用したものと考えられる。石材は珪質頁岩である。

石錐(3510・3511)はSD6011から出土した。3510は摘み部分、3511は完形である。石材は、3510がガラス質安山岩、3511がチャートである。

削器は低地から2点(3512・3513)、丘陵地から1点(3514)出土した。3512は尖刃で、下部両側を刃部とする。早期の可能性がある。3513は刃部を鋸歯状に加工する。3514は剥片縁辺をそのまま刃部とし、両側辺には潰したような加工を施す。石材は、横山真駒石(3512)、チャート(3513)、ガラス質安山岩(3514)である。

楔形石器(3515・3516)は、弥生時代以降の遺構から出土しており、混入と思われる。3515は4面とも潰れており、石錐の素材である可能性も考えられる。石材はいずれもガラス質安山岩である。

石棒類は、低地から2点(3517・3519)、丘陵地から1点(3518)出土した。断面が円形か楕円形のものを示したが、3517は断面形に角があり、石棒となるかは不明である。3518は全面を敲打により断面円形に成形しており、研磨加工が無いため類石棒とする。被熱がみられる。石材は、花崗岩(3517),流紋岩(3518),流紋岩質凝灰岩(3519)である。

石刀は丘陵地から1点(3520)、低地から2点(3521・3522)出土した。3520は石刀の断片である。3521は出土状況を図版18に示す。完形品で、頭部に4条の沈線文を巡らせる。刀身にはやや反りが見られる。3522の頭部は敲打によりつくり出し、刃との境に刃区<sup>334</sup>を有する。3521・3522は晩期前葉~中葉と考えられる<sup>335</sup>。石材は黒色片岩(3520),デイサイト(3521),粘板岩(3522)である。

玉類(3523~3528)は、玦状耳飾(3523・3527),垂玉(3524・3526),丸玉(3525),玦状耳飾未成品(3528)がある。3523は指貫状で、早期~前期初頭のものである。石材は、滑石(3523・3524・3526・3527),翡翠(3525),透閃石岩(3528)である。

この他、石核(3529),残核か二次加工剥片(3530),残核(3531),二次加工剥片(3532),剥片(3533・3534)がある。石材は、メノウ(3529),ガラス質安山岩(3530),横山真駒石(3531・3532・3534),石英片岩(3533)である。

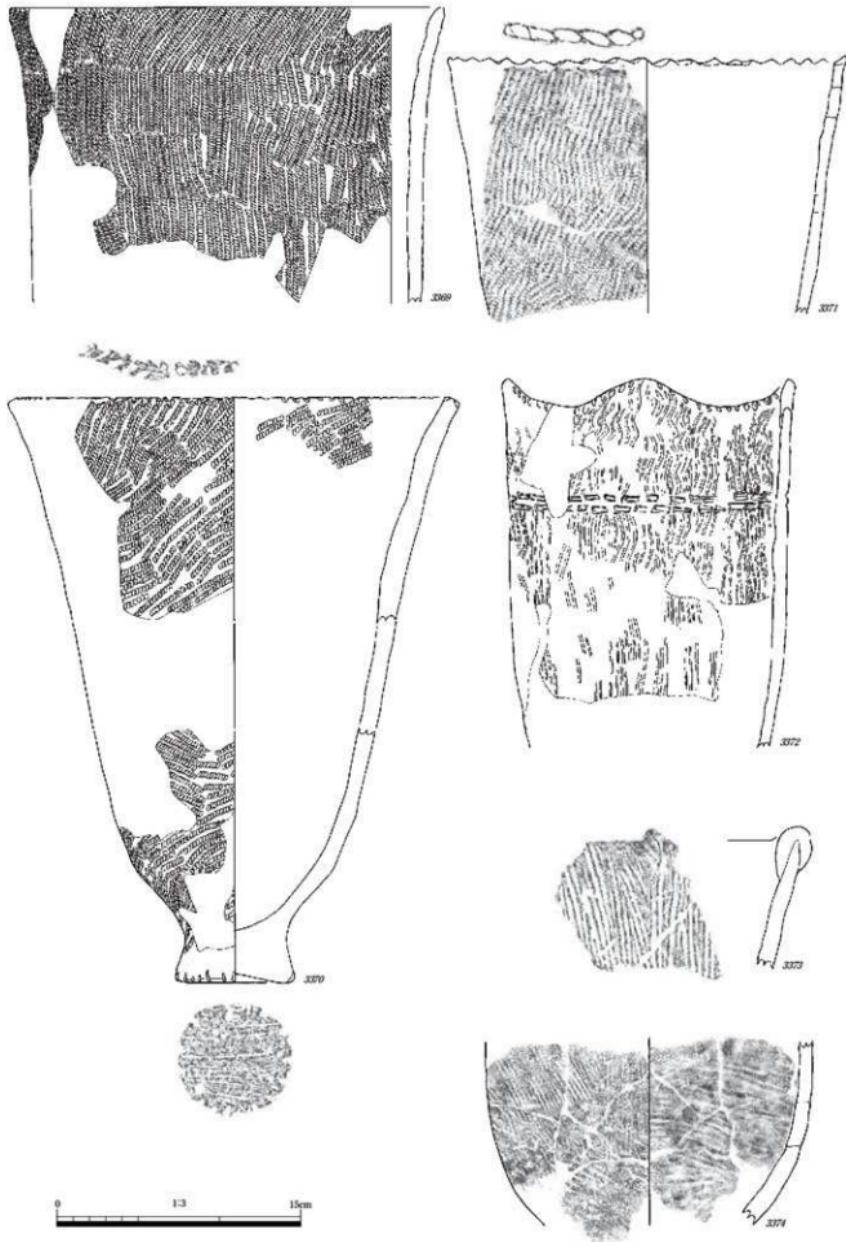
(朝田亜紀子)

註脚 兵田友也氏よりご教示いただいた。

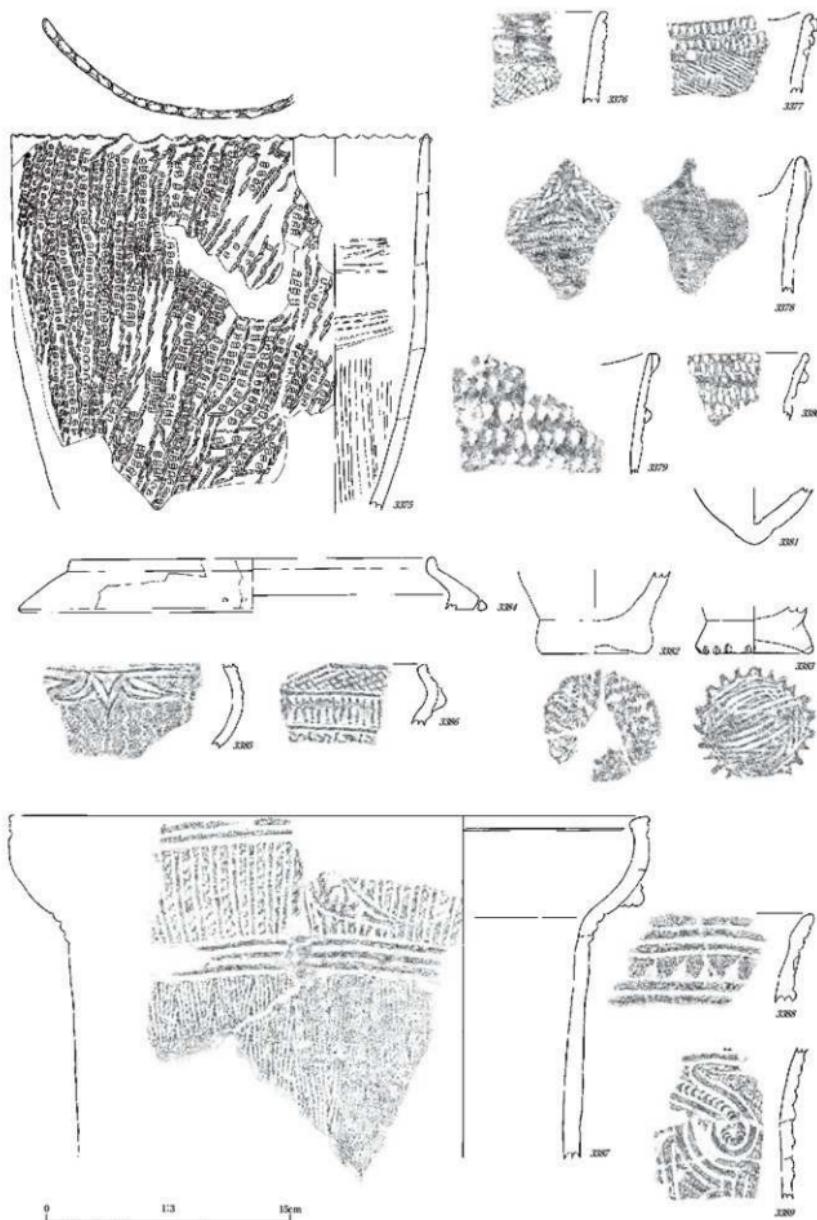
## 参考文献

- 石川県教育委員会 1970『古府遺跡』
- 石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター 2004『一般国道470号線（能登自動車道）改良工事及び主要地方道水見田鶴浜線建設工事に係る埋蔵文化財緊急発掘調査報告書（Ⅲ）田鶴浜町三引遺跡Ⅲ（下層編）』
- 石川県立埋蔵文化財センター 1997『六橋遺跡－道路改良工事（国道416号）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 石川県立埋蔵文化財センター 1997『能登島町通ジゾハナ遺跡－広域営農地農道整備事業（能登島第2地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』
- 伊藤正人 2005「耳飾三題～愛知県出土の縄文時代耳飾～」『考古学フォーラム』18
- 宇ノ気町教育委員会・石川考古学研究会 1979『上山田貝塚－石川県河北郡宇ノ気町上山田遺跡調査報告－』
- 小熊博史 1994「布目遺跡」『巻町史 資料編1 考古』新潟県巻町
- 長田友也 2009「東北地方における縄文時代前期の儀器と精神文化」『日本考古学協会2009年度山形大会研究発表資料集』日本考古学協会2009年度山形大会実行委員会
- 長田友也 2009「新潟県における石棒・石劍・石刀の変遷」『新潟県の考古学II』新潟県考古学会
- 加藤三千雄 1988「新保・新崎式土器様式」『縄文土器大観』3 小学館
- 加藤三千雄 1989「能登半島における串田新式系土器群の展開－宇出津式土器の再検討－」『北陸の考古学II』石川考古学研究会会誌第32号』石川考古学研究会
- 金沢市教育委員会 1974『金沢市古府遺跡』
- 金沢市教育委員会・金沢市埋蔵文化財調査委員会 1981『金沢市笠舞遺跡』
- 金山哲也 2005「第2節 三引遺跡Ⅱ・11区貝塚および同下位包含層出土土器の検討」『七尾市三引遺跡IV』石川県教育委員会・財团法人石川県埋蔵文化財センター
- 金子直行 1994「縄文早期終末から前期初頭に於ける羽状縄文系土器群の成立について－花積下層式成立期の諸様相－」『早期終末・前期初頭の諸様相』第7回縄文セミナー 縄文セミナーの会
- 上市町教育委員会 2004『富山県上市町極楽寺遺跡発掘調査概報－極楽寺地区急傾斜地崩壊対策事業に伴う緊急発掘調査－』
- 狩野 聰 1988「串田新・大杉谷式土器様式」『縄文土器大観』3 小学館
- 気屋式土器検討委員会 1995『気屋式土器検討会資料』
- 久保 清・高堀勝喜 1951「河北郡宇ノ気町気屋遺跡」『石川考古学研究会会誌』第3号
- 越坂一也 1986「第4群土器 壱ヶ森式期」『石川県能都町真脇遺跡』能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団
- 越坂一也 1987「第5章 縄文前期の土器型式と編年」『富来町福浦港ヘラソ遺跡発掘調査報告I－縄文前期編－』能登ダイヤモンド・ゴルフ場（予定地）内埋蔵文化財調査委員会
- 小島俊彰 1974「北陸の縄文時代中期の編年－戦後の研究史と現状－」『大境』第5号 富山考古学会
- 小島俊彰 1977「珠洲郡内浦町松波新保遺跡発掘資料再見」『石川考古学研究会会誌』第20号
- 小島俊彰 1988「上山田・天神山式土器様式」『縄文土器大観』3 小学館
- 小島俊彰 2000「前田式土器様式と岩崎野式土器様式の諸形式」『大境』第20・21号 富山考古学会
- 小島俊彰・神保孝造・大野充 2002「一朝前田遺跡」『水見市史』7 資料編五 考古 水見市史編さん委員会 氷見市
- 小島俊彰・神保孝造・大野充 2002「朝日貝塚」『水見市史』7 資料編五 考古 水見市史編さん委員会 氷見市
- 小島俊彰 2007「第II章 考察－2 桜町遺跡の縄文時代中期後葉から後期初頭土器の位置付け」『桜町遺跡発掘調査報告書 縄文時代総括編』小矢部市教育委員会
- 齊藤 準 2006「新潟県における縄文前期前葉の土器群について－布目式からそれ以降の土器群－」『前期前葉の再検討』第19回縄文セミナー資料集 縄文セミナーの会
- 坂野俊哉 2005「知多市桶廻間貝塚発見の一乘寺南下層土器」『伊勢考古』19 知多古文化研究会
- 謹谷昌彦 1994「土器型式より見た縄文早期と前期との境について－関東・中部・東海地方からの検討－」『早期終末・前期初頭の諸様相』第7回縄文セミナー 縄文セミナーの会
- 謹谷昌彦 2009「木鳥式土器の研究」『縄文時代の交易と祭祀の研究－主に出土遺物観察を中心として－』六一書房
- 下平博行・贊田 明 1994「塙田遺跡」御代田町教育委員会
- 下平博行・贊田 明 1994「長野県に於ける縄文前期初頭 縄文系土器群の編年」『早期終末・前期初頭の諸様相』第7回縄文セミナー 縄文セミナーの会
- 高橋修宏 1982「小泉遺跡」大門町教育委員会
- 高橋勝喜 1952「珠洲郡松波町新保遺跡の調査」『石川考古学研究会会誌』第4号

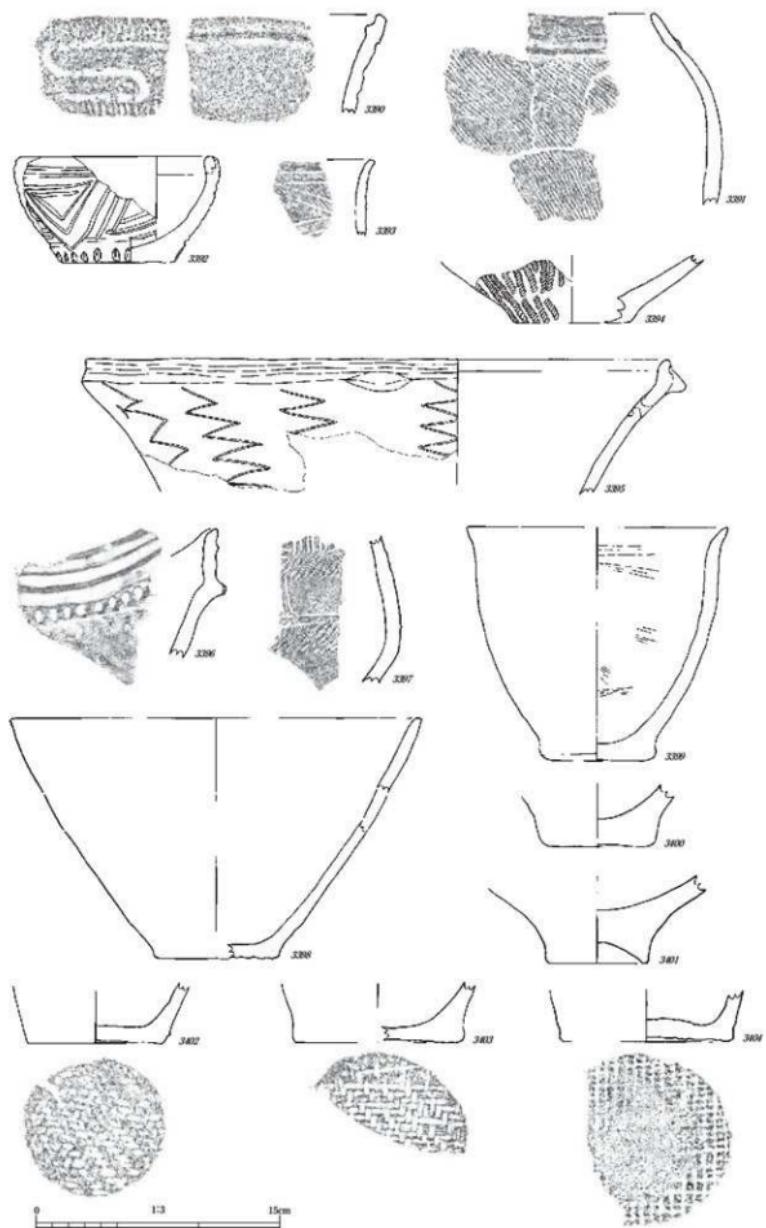
- 高堀勝喜 1954「金沢市古府遺跡調査報告」「石川考古学研究会会誌」第6号
- 高堀勝喜 1986「第6章24 北陸の縄文土器編年」「真脇遺跡」能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団
- 高堀勝喜ほか 1993「能登縄文資料 山内清男考古資料6」奈良国立文化財研究所
- 谷藤保彦 1994「群馬県における早期末・前期初頭の土器」「早期終末・前期初頭の諸様相」第7回縄文セミナー 縄文セミナーの会
- 谷藤保彦 1999「花積下層1式土器とその周辺」「縄文土器論集—縄文セミナー10周年記念論文集—」縄文セミナーの会 富山県 1972『富山県史』考古編
- 富山県教育委員会・魚津市教育委員会 1964『天神山遺跡調査報告書』
- 富山県教育委員会 1965『極楽寺遺跡発掘調査報告書』
- 富山県教育委員会 1986『都市計画街路七美・太閤山・高岡城内遺跡群発掘調査概要(4)南太閤山I遺跡』
- 富山県立小杉高校地歴班 1952『富山県射水郡鶴田村串田新 串田新遺跡調査報告書』富山県立小杉高等学校地歴班
- 富山県立水見高等学校歴史クラブ 1964『富山県水見地方考古学遺跡と遺物』
- 富山大学考古学同好会 1954「規が森貝塚調査報告書」富山県教育委員会
- 賛田 明 1994「下弥堂遺跡」御代田町教育委員会
- 賛田 明 2006「長野県における縄文前期前葉土器群」「前期前葉の再検討」第19回縄文セミナー資料集 縄文セミナーの会
- 橋本澄夫 1959「石川県鹿島郡能登島町佐波遺跡略報」「考古学雑誌」第44巻第4号
- 橋本澄夫 1966「石川県能登島町佐波縄文遺跡の研究」「石川考古学研究会会誌」10号
- 松永篤知 2008「縄文土器底部の「敷物圧痕」について」「考古学雑誌」第92巻第2号
- 松永篤知 2011「縄文土器底部の平行葉脈圧痕について—土器製作用敷物としての笊葉の利用—」「考古学と陶磁史学—佐々木達夫先生追憶記念論文集—」佐々木達夫先生追憶記念事業実行委員会
- 山下勝年 2005「東海地方の縄文早期土偶と耳飾類について」「伊勢湾考古」19 知多古文化研究会
- 山下勝年 2008「東海条痕文系土器」「蛇観 縄文土器」小林達雄編 UM promotion
- 山本正敏 1994「北陸における早期末葉～前期初頭の土器群」「早期終末・前期初頭の諸様相」第7回縄文セミナー 縄文セミナーの会
- 山本正敏・木下哲夫・工藤俊樹・本田秀生 1997「北陸における縄文時代前期中葉の土器様相」「前期中葉の諸様相」第10回縄文セミナー 縄文セミナーの会
- 山本正敏 2005「富山県内の縄文早期・前期の磨製石斧」「大境」第25号 富山考古学会
- 山本正敏 2011「富山県内の縄文早期・前期の磨製石斧(2)」「大境」第30号 富山考古学会



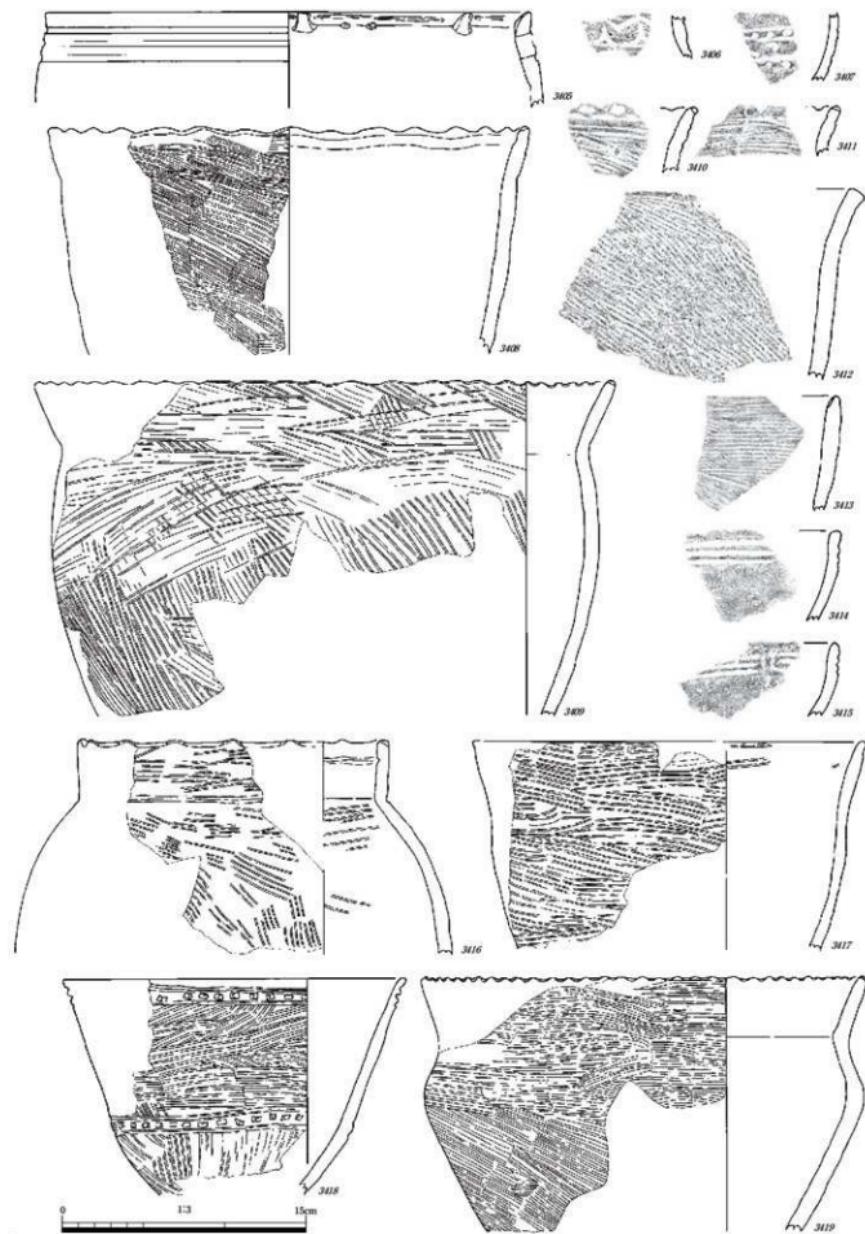
第338図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
包含層ほか 繩文土器



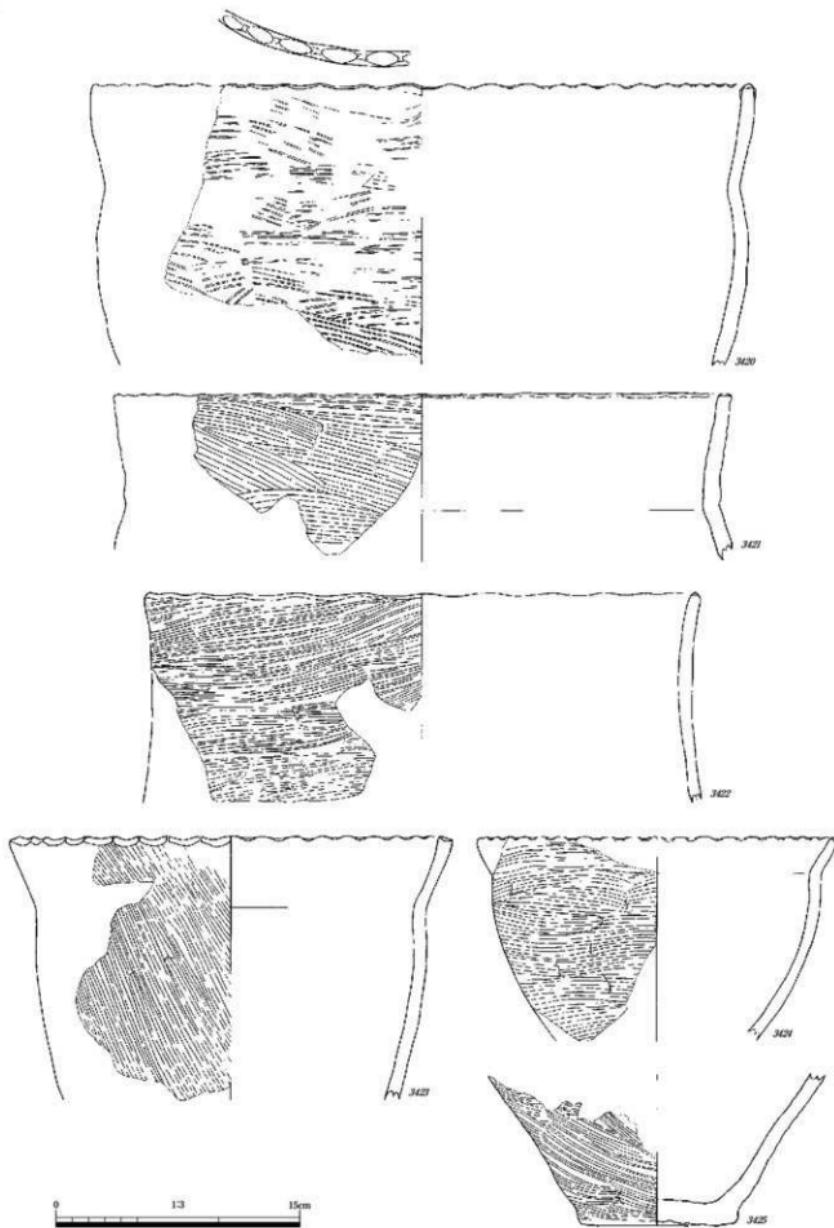
第339図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
包含層ほか 純文土器



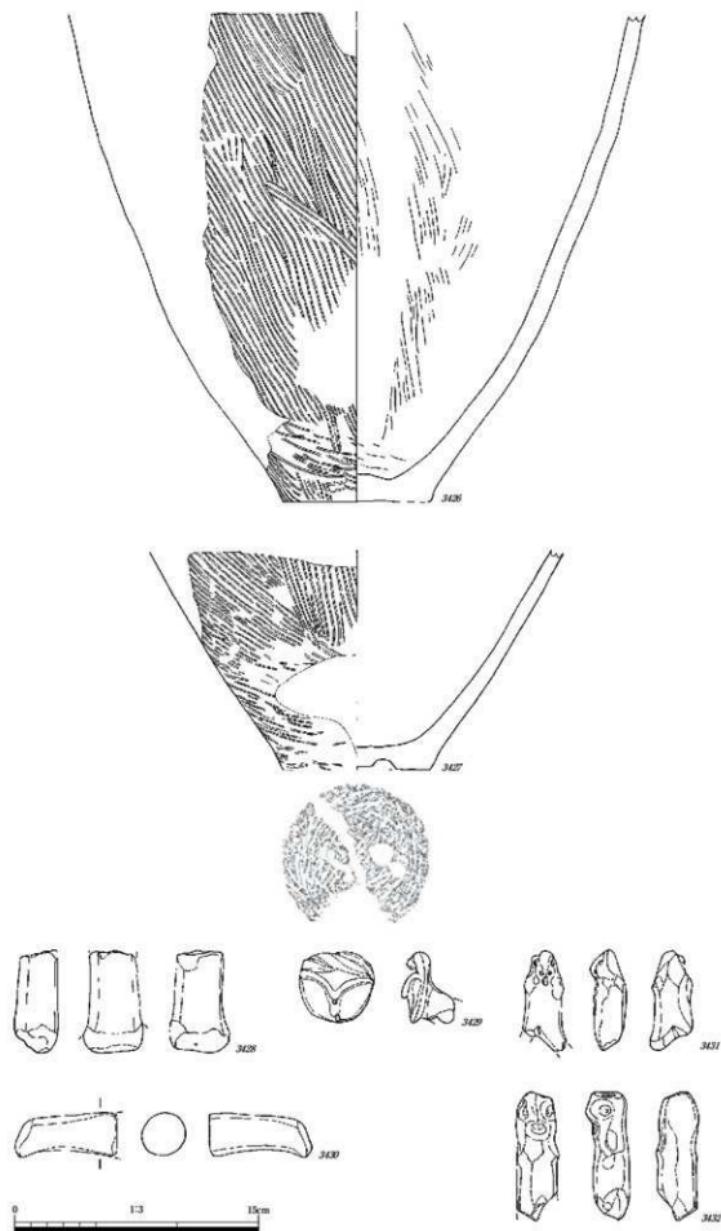
第340図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
包含層はか 繩文土器



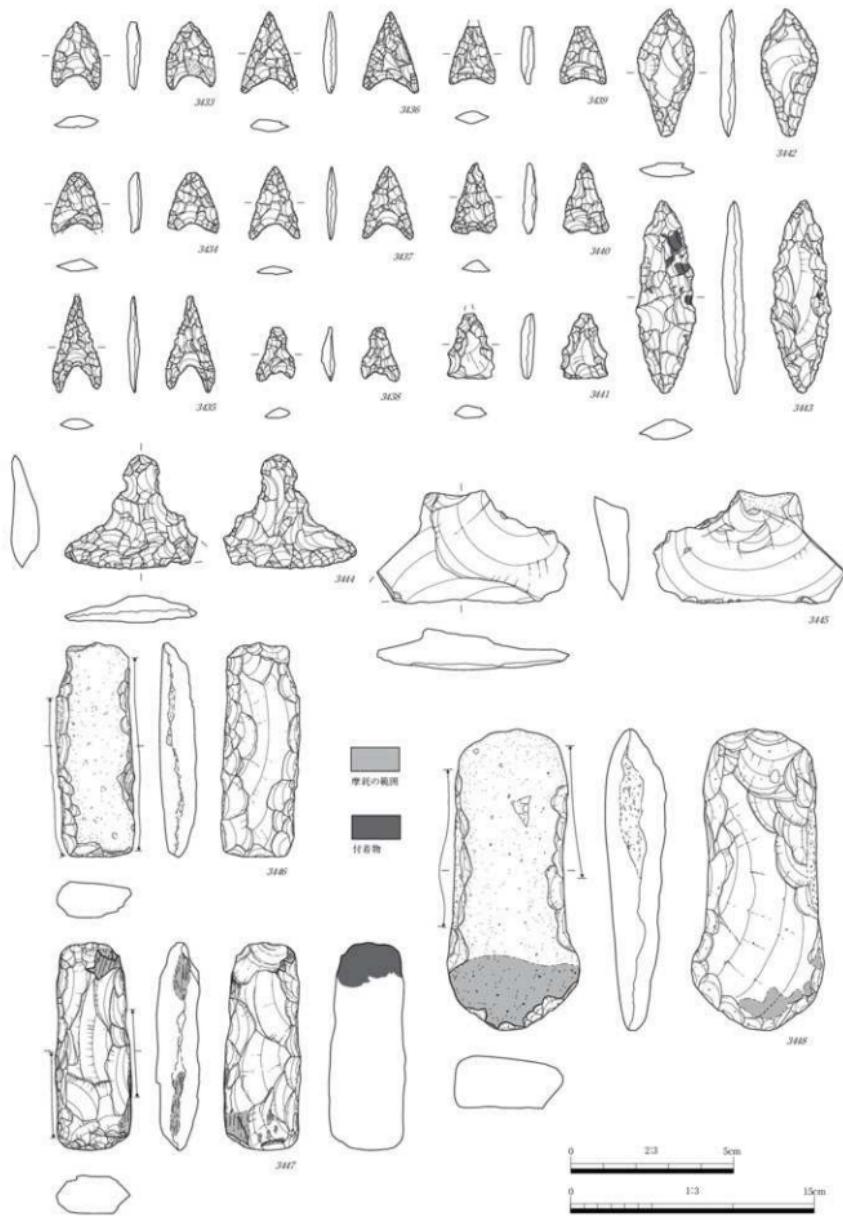
第341図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
包含層ほか 純文土器



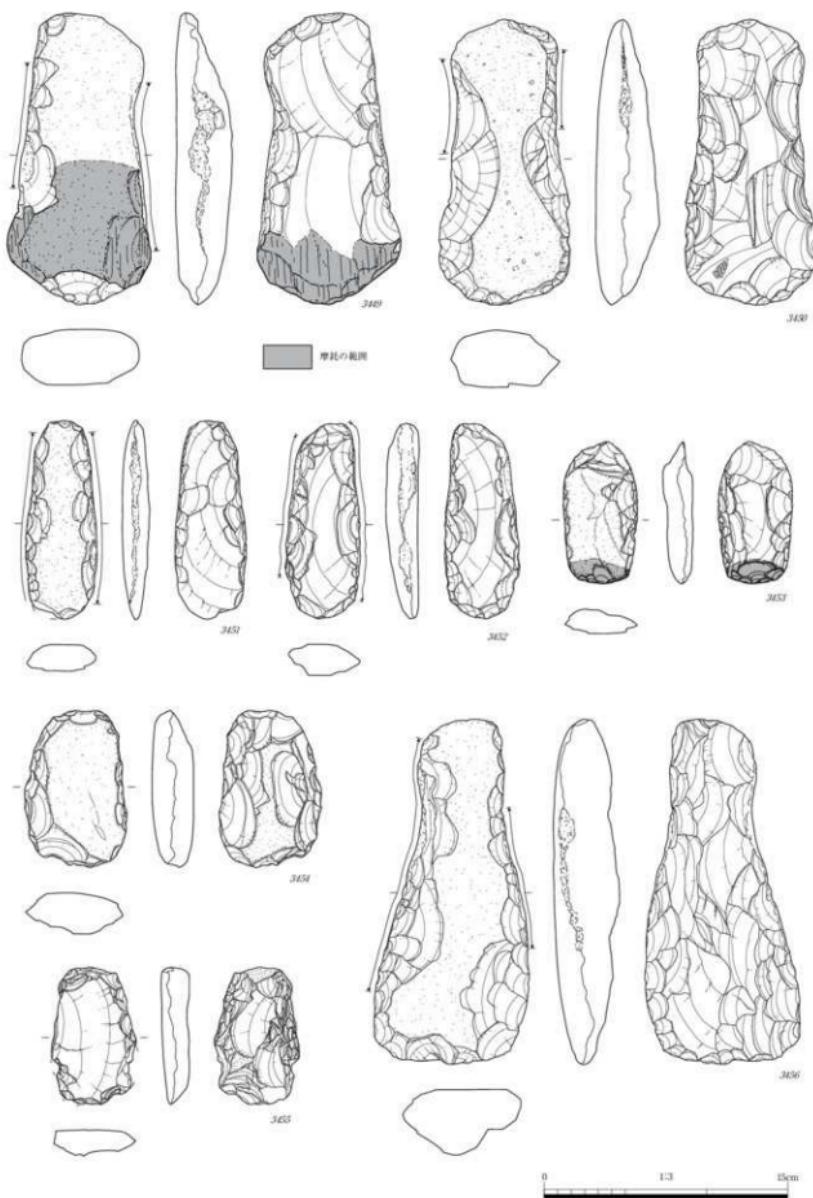
第342図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
包含層はか 縄文土器



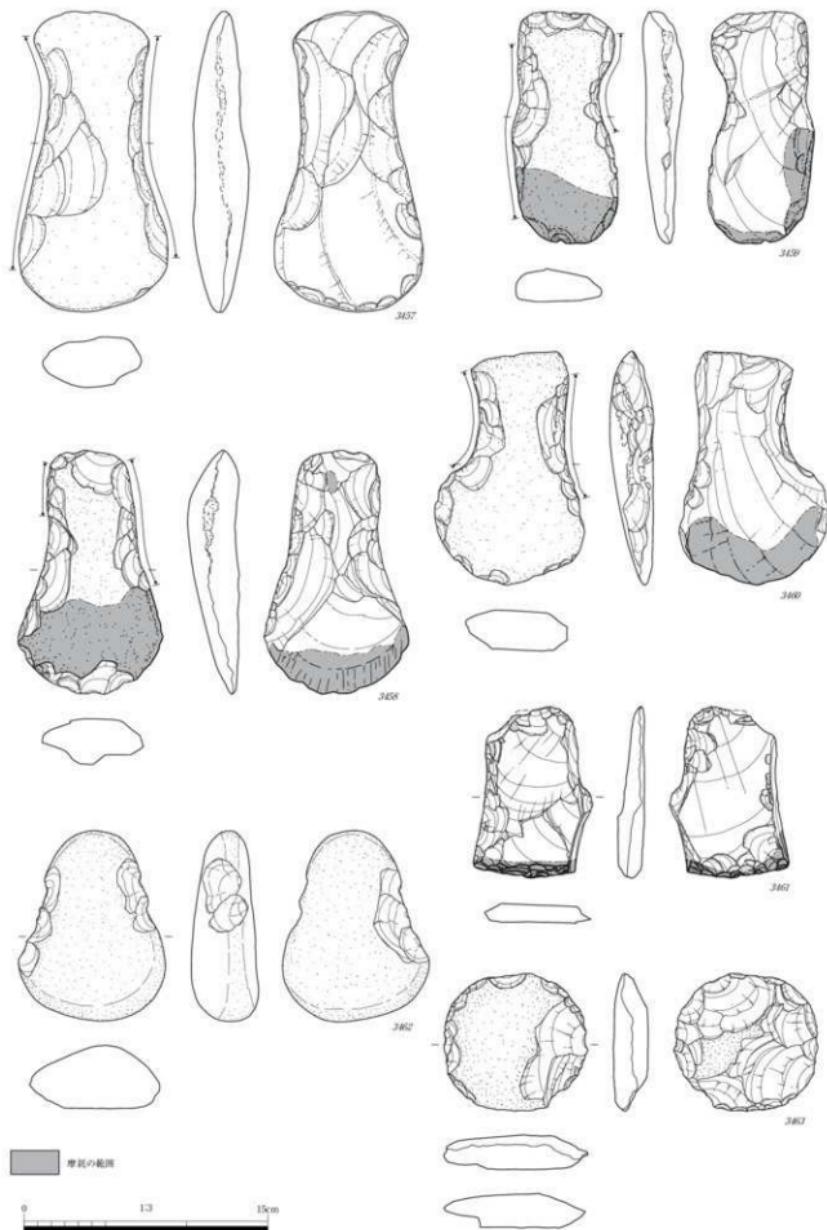
第343図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
包含層ほか 純文土器 土製品



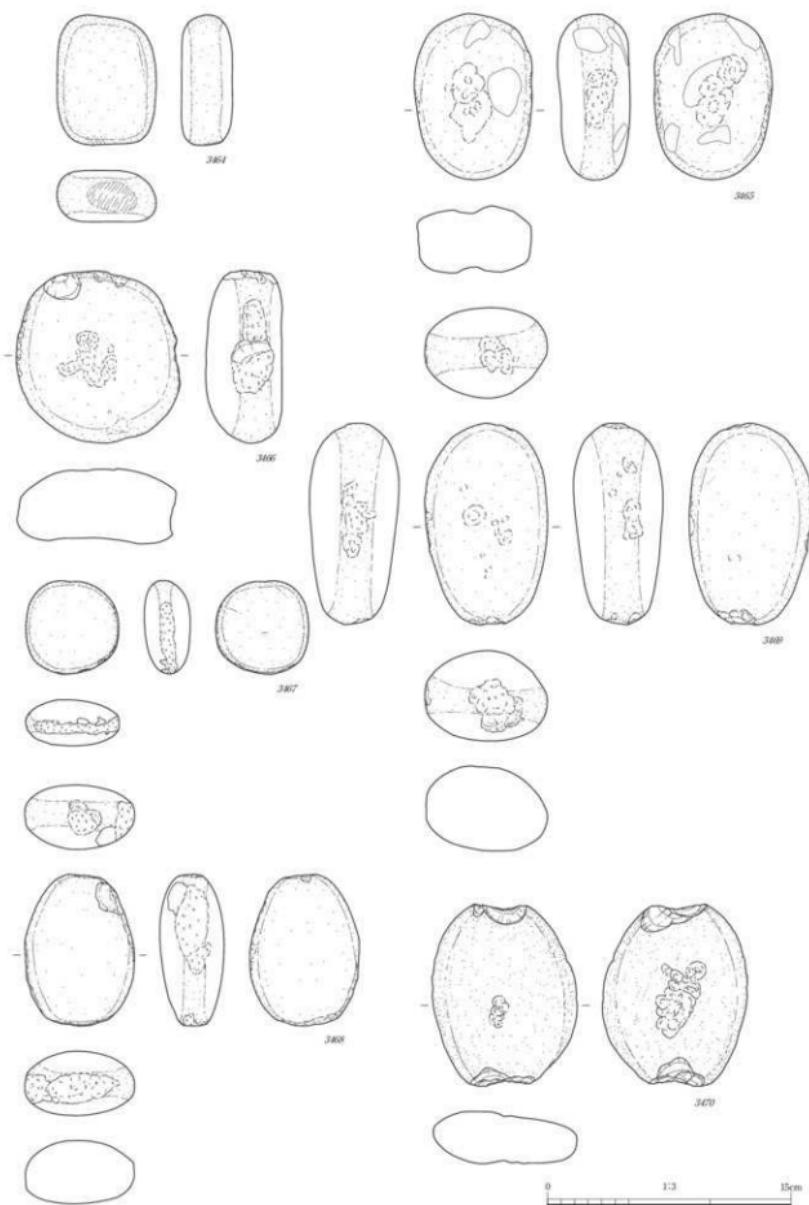
第344図 繩文時代遺物実測図 (3433~3445 2/3, 3446~3448 1/3)  
包含層はか 石製品



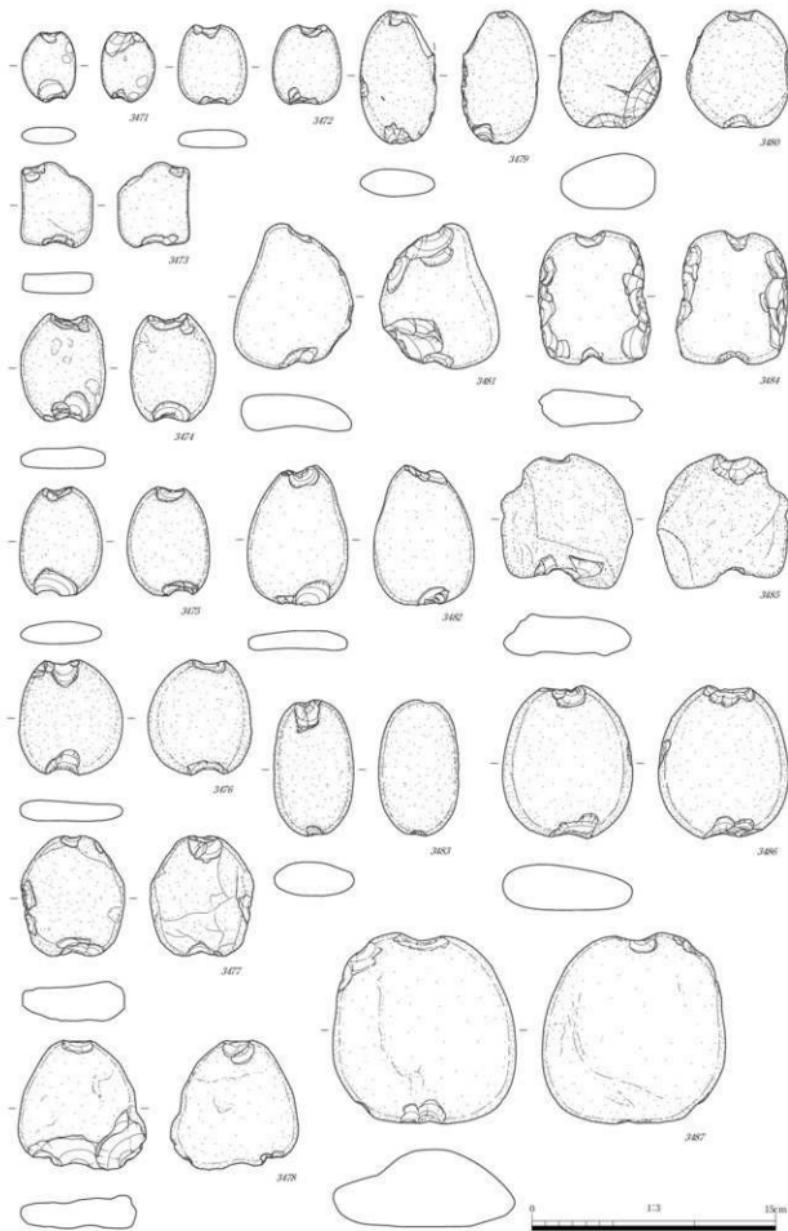
第345図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
包含層ほか 石製品



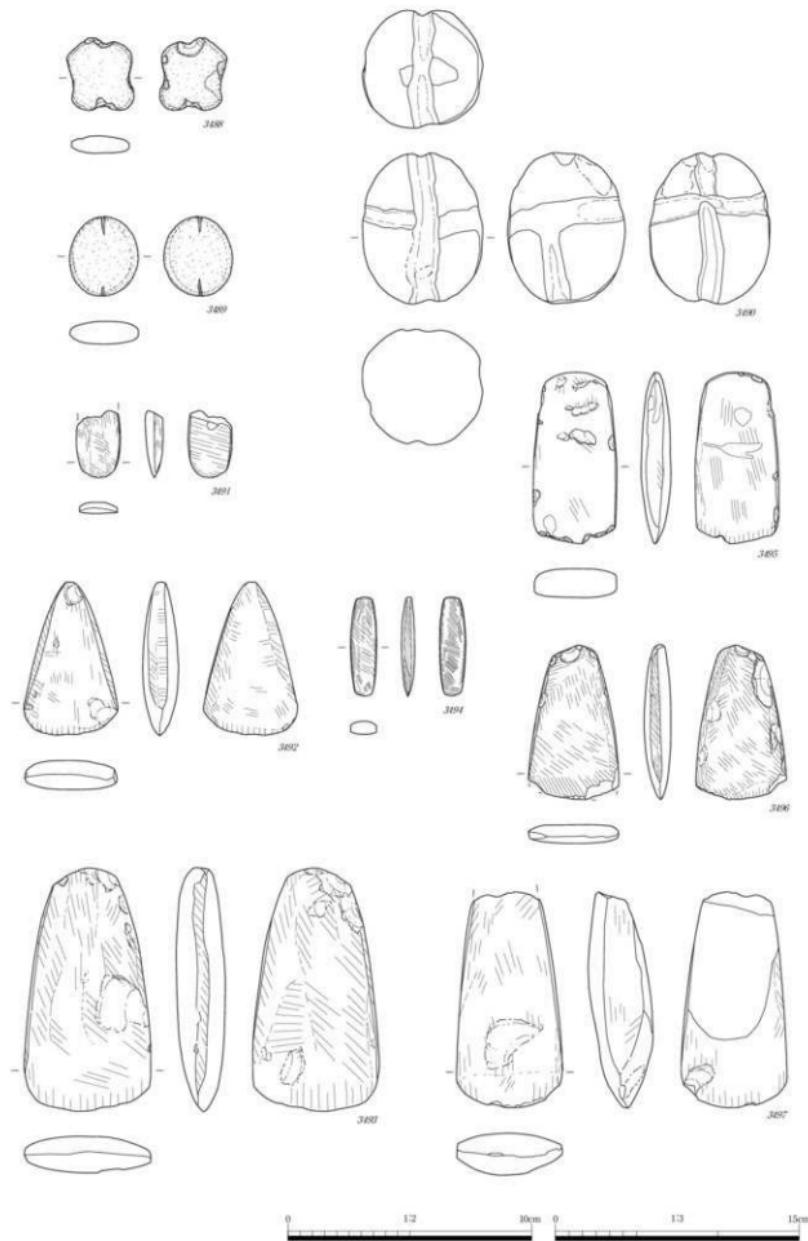
第346図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
包含層 石製品



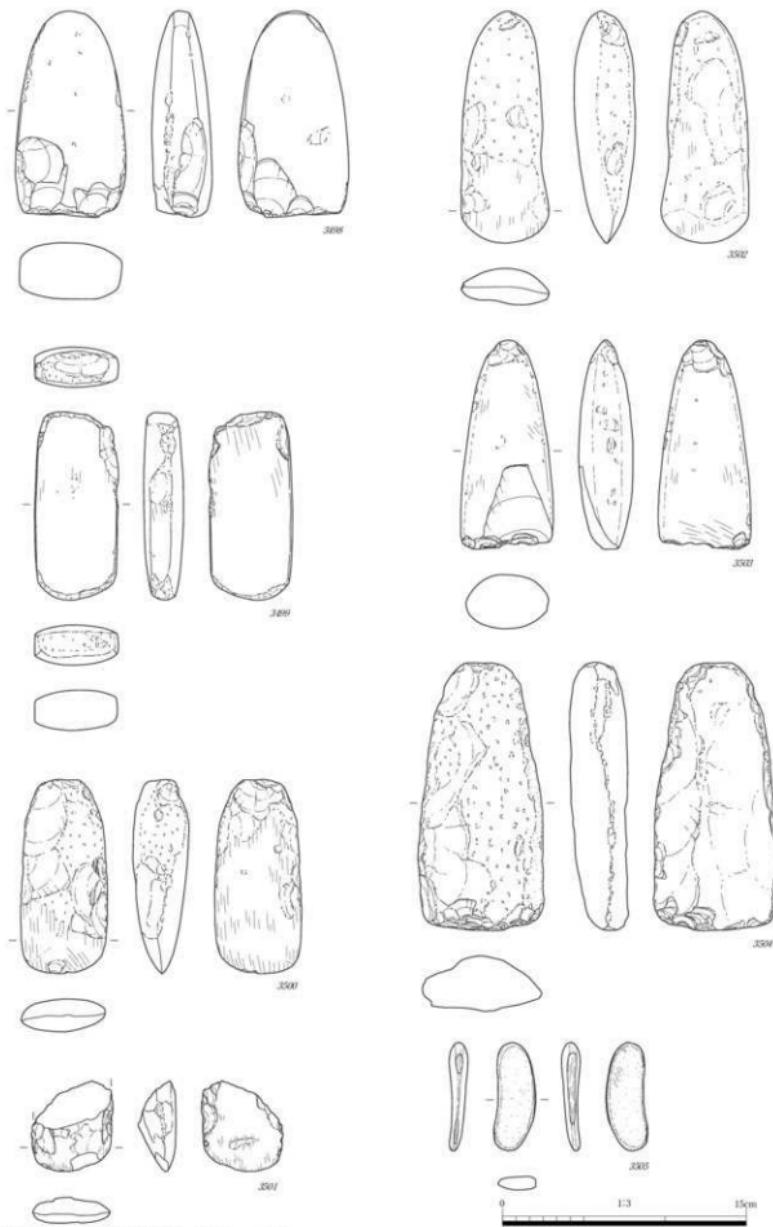
第347図 純文時代遺物実測図 (1/3)  
包含層ほか 石製品



第348図 縄文時代遺物実測図 (1/3)  
包含層はか 石製品



第349図 純文時代遺物実測図 (3491~3497 1/2, 3488~3490 1/3)  
包含層ほか 石製品



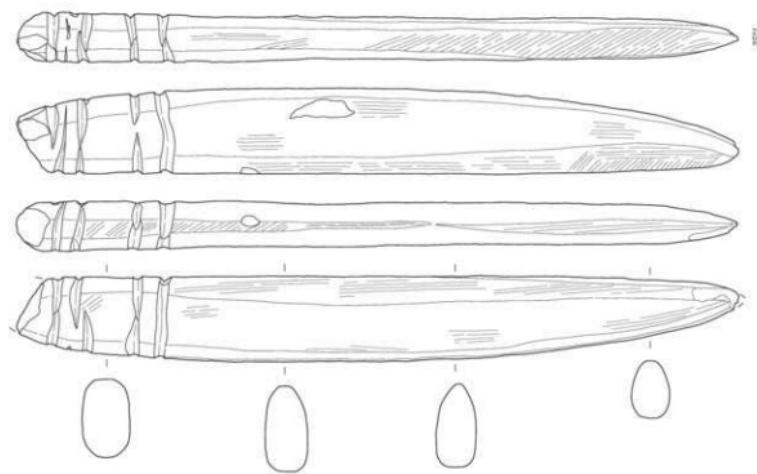
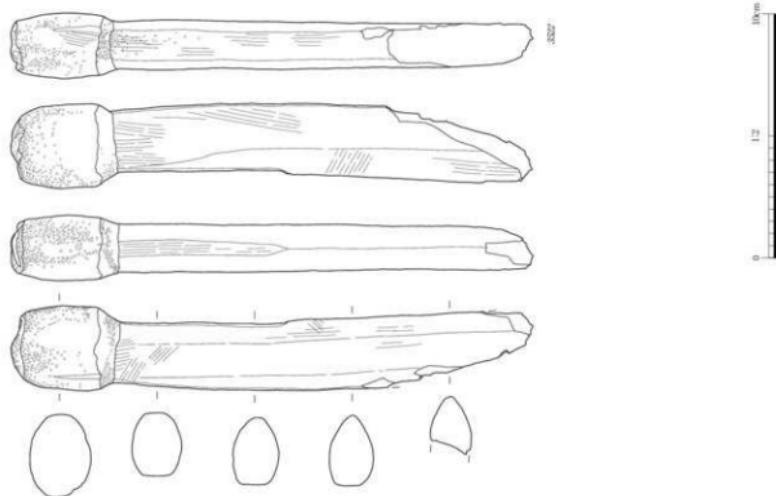
第350図 繩文時代遺物実測図 (1/3)  
包含層はか 石製品



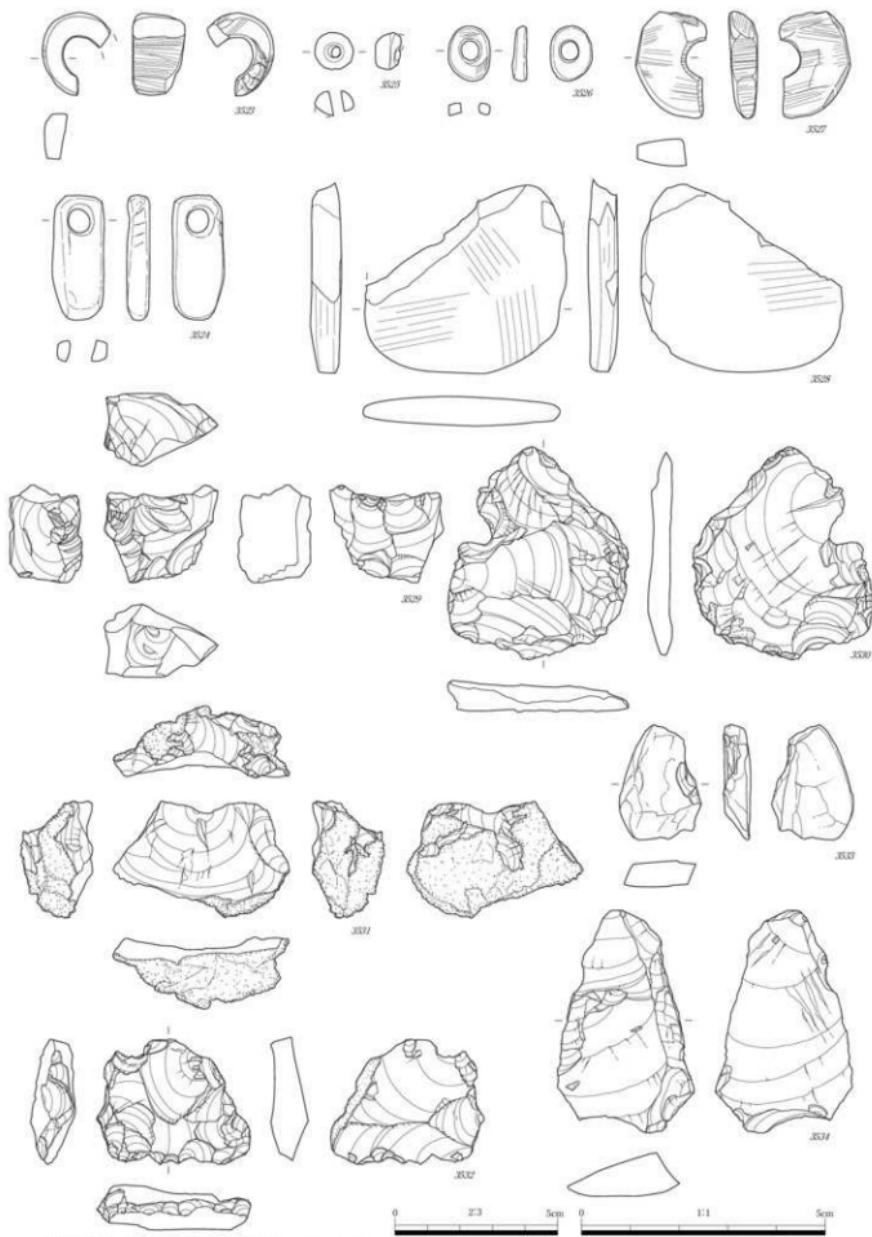
第351図 純文時代遺物実測図 (3509~3511 2/3, 3506~3508 1/4)  
包含層ほか 石製品



第352図 繩文時代遺物実測図 (3512~3516 2/3, 3517~3520 1/3)  
包含層ほか 石製品



第353図 純文時代遺物実測図 (1/2)  
包含層 石製品



第354図 繩文時代遺物実測図 (3523~3528 1/1, 3529~3534 2/3)  
包含層はか 石製品

第17表 繩文土器・土製品一覧(1)

标号	采集地	植物学名	产地	海拔(m)	形态	花期(cm)	花期	时间	花色	花被片数	参考
20	I-27 SD1	X.128763中附	灌木	218	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/6	白色	5-7朵	王伟春
21	I-27 SD1	X.128763中附	灌木	172	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/6	白色	5-7朵	王伟春
22	I-27 SD1	X.128764上附	灌木	213	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	淡黄色	5-7朵	王伟春
23	I-27 SD1	X.128764上附	灌木	210	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	淡黄色	5-7朵	王伟春
24	I-27 SD1	X.128765中附	灌木	284	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春
25	I-27 SD1	X.141162中附	灌木	140	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/27-7/1	白色	5-7朵	王伟春
26	I-27 SD1	X.140164下附	灌木	146	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/27-7/1	白色	5-7朵	王伟春
27	I-27 SD1	X.133705上附	灌木	192	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/6	白色	5-7朵	王伟春
28	I-27 SD1	X.130505上附	灌木	208	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/6	白色	5-7朵	王伟春
29	I-27 SD1	X.129765中附	灌木	208	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/6	白色	5-7朵	王伟春
30	I-27 SD1	X.121183下附	灌木	220	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/6	白色	5-7朵	王伟春
31	I-27 SD1	X.133705中附	灌木	215	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/6	白色	5-7朵	王伟春
32	I-27 SD1	X.130505中附	灌木	252	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/6	白色	5-7朵	王伟春
33	I-27 SD1	X.129765中附	灌木	228	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/6	白色	5-7朵	王伟春
34	I-27 SD1	X.129765中附	灌木	266	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/6	白色	5-7朵	王伟春
35	I-27 SD1	X.129765中附	灌木	204	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/6	白色	5-7朵	王伟春
36	I-27 SD1	X.129765中附	灌木	206	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/6	白色	5-7朵	王伟春
37	I-27 SD1	X.129765中附	灌木	210	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/6	白色	5-7朵	王伟春
38	I-27 SD1	X.129765中附	灌木	134	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/6	白色	5-7朵	王伟春
39	I-27 SD1	X.140164上附	灌木	210	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/6	白色	5-7朵	王伟春
40	I-27 SD1	X.140164上附	灌木	205	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/6	白色	5-7朵	王伟春
41	I-27 SD1	X.140164上附	灌木	264	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春
42	I-27 SD1	X.142765下附	灌木	212	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春
43	I-27 SD1	X.129765上附	灌木	200	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春
44	I-27 SD1	X.129765上附	灌木	210	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春
45	I-27 SD1	X.129765上附	灌木	258	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春
46	I-27 SD1	X.129765上附	灌木	215	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春
47	I-27 SD1	X.129765上附	灌木	148	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春
48	I-27 SD1	X.129765上附	灌木	232	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春
49	I-27 SD1	X.129765下附	灌木	218	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春
50	I-27 SD1	X.129765下附	灌木	172	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春
51	I-27 SD1	X.129765下附	灌木	213	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春
52	I-27 SD1	X.129765下附	灌木	146	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春
53	I-27 SD1	X.129765下附	灌木	210	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春
54	I-27 SD1	X.129765下附	灌木	148	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春
55	I-27 SD1	X.140164上附	灌木	210	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春
56	I-27 SD1	X.148765下附	灌木	212	早年果~稍闭	早年果~稍闭	早年果~稍闭	5/26-6/3	白色	5-7朵	王伟春

第17表 條文土器・土製品一覽(2)

第17表 細文土器・土製品一覧(3)

番号	遺物	写真	出土地点	細分	法長(cm)	口径	底面	時間	形状		出土位置	出土方位	備考	
									上径	底径				
29	77	S01	X.120Y63-1 縹	縹文土器	縹	27.5	34.7	II4	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
30	78	S01	X.130Y63-1 縹	縹文土器	縹	27.5	34.7	II4	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
31	79	S01	X.130Y62-1 縹	縹文土器	縹	27.7	34.7	II4	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
32	80	S01	X.140Y63-1 縹	縹文土器	縹	34.6	38.0	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
33	81	S01	X.140Y62-1 縹	縹文土器	縹	29.8	35.5	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
34	82	S01	X.140Y63-1 縹	縹文土器	縹	35.5	38.0	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
35	83	S01	X.120Y63-1 縹	縹文土器	縹	38.2	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
36	84	S01	X.130Y63-1 縹	縹文土器	縹	38.2	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
37	85	S01	X.130Y62-1 縹	縹文土器	縹	38.2	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
38	86	S01	X.130Y63-1 縹	縹文土器	縹	38.2	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
39	87	S01	X.140Y63-1 縹	縹文土器	縹	38.2	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
40	88	S01	X.130Y63-1 縹	縹文土器	縹	38.2	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
41	89	S01	X.140Y62-1 縹	縹文土器	縹	23.8	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
42	90	S01	X.130Y63-1 縹	縹文土器	縹	23.8	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
43	91	S01	X.140Y63-1 縹	縹文土器	縹	23.8	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
44	92	S01	X.120Y63-1 縹	縹文土器	縹	23.8	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
45	93	S01	X.120Y62-1 縹	縹文土器	縹	23.8	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
46	94	S01	X.130Y63-1 縹	縹文土器	縹	23.8	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
47	95	S01	X.130Y62-1 縹	縹文土器	縹	23.6	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
48	96	S01	X.130Y62-1 縹	縹文土器	縹	23.6	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
49	97	S01	X.130Y63-1 縹	縹文土器	縹	23.6	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
50	98	S01	X.130Y62-1 縹	縹文土器	縹	31.0	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
51	99	S01	X.140Y62-1 縹	縹文土器	縹	21.0	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
100	101	S01	X.140Y59-1 縹	縹文土器	縹	25.0	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
102	101	S01	X.130Y62-1 縹	縹文土器	縹	25.8	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
103	102	S01	X.130Y63-1 縹	縹文土器	縹	21.0	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
104	103	S01	X.130Y63-1 縹	縹文土器	縹	21.0	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
105	103	S01	X.140Y60-1 縹	縹文土器	縹	21.0	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
106	105	S01	X.130Y62-1 縹	縹文土器	縹	21.8	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
107	106	S01	X.130Y62-1 縹	縹文土器	縹	21.0	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
108	106	S01	X.130Y64-1 縹	縹文土器	縹	19.6	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
109	106	S01	X.130Y62-1 縹	縹文土器	縹	15.6	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開
110	106	S01	X.130Y61-1 縹	縹文土器	縹	-	-	II5	早期	直腹~直腹短頸	直腹~直腹短頸	75Y864	上:灰白色 下:青色	万葉開

第17表 繩文土器・土製品一覧(4)

第17表 細文土器・土製品一覧(5)

番号	遺物	写真	出土地点	細類	法長(cm)	法幅(cm)	厚さ	形質	内面	外見	出土位置	出土状況	参考	
26	144	SII-1	X.140Y63-下層	陶文土器	直鉢	25.6	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR64	漆器箱		
145	62	SII-1	X.140Y63-中層	陶文土器	直鉢	25.6	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR63-3	漆器箱		
146	63	SII-1	X.140Y63-上層	陶文土器	直鉢	25.6	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR63-2	漆器箱		
147	63	SII-1	X.140Y63-下層	陶文土器	直鉢	24.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-2	漆器箱		
148	63	SII-1	X.140Y64	陶文土器	直鉢	27.8	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR63	漆器箱		
28	149	SII-1	X.141Y61-2-中層	陶文土器	直鉢	36.5	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR63-3	漆器箱		
150	63	SII-1	X.141Y61-2-中層	陶文土器	直鉢	28.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR63-3	漆器箱		
151	63	SII-1	X.140Y65-下層	陶文土器	直鉢	19.6	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR64-4	漆器箱		
152	63	SII-1	X.142Y62-中層	陶文土器	直鉢	19.6	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR64-4	漆器箱		
40	154	SII-1	X.140Y63-上層	陶文土器	直鉢	19.6	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-1	漆器箱		
155	63	SII-1	X.140Y63-上層	陶文土器	直鉢	19.6	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR64-4	漆器箱		
156	63	SII-1	X.140Y63-下層	陶文土器	直鉢	19.6	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-2	漆器箱		
157	63	SII-1	X.140Y63-下層	陶文土器	直鉢	19.6	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR63-3	漆器箱		
158	63	SII-1	X.140Y63-下層	陶文土器	直鉢	19.6	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR63-3	漆器箱		
159	63	SII-1	X.140Y64-上層	陶文土器	直鉢	19.6	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR63-3	漆器箱		
160	63	SII-1	X.142Y61-中層	陶文土器	直鉢	30.7	5.0	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱	
161	32	SII-1	X.142Y61-上層	陶文土器	直鉢	24.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱		
162	63	SII-1	X.140Y63-下層	陶文土器	直鉢	36.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱		
163	63	SII-1	X.140Y63-上層	陶文土器	直鉢	36.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱		
164	63	SII-1	X.142Y62-中層	陶文土器	直鉢	36.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱		
165	63	SII-1	X.140Y63-中層	陶文土器	直鉢	36.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱		
166	63	SII-1	X.140Y64-上層	陶文土器	直鉢	36.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱		
167	63	SII-1	X.140Y64-中層	陶文土器	直鉢	36.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱		
168	63	SII-1	X.140Y63-中層	陶文土器	直鉢	36.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱		
169	63	SII-1	X.140Y63-下層	陶文土器	直鉢	36.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱		
170	63	SII-1	X.140Y62-中層	陶文土器	直鉢	36.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱		
171	63	SII-1	X.140Y62-下層	陶文土器	直鉢	36.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱		
172	63	SII-1	X.140Y64-中層	陶文土器	直鉢	36.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱		
173	64	SII-1	X.140Y63-中層	陶文土器	直鉢	36.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱		
174	64	SII-1	X.140Y63-下層	陶文土器	直鉢	36.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱		
175	64	SII-1	X.141Y60	陶文土器	直鉢	36.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱		
176	55	SII-1	X.140Y60	陶文土器	直鉢	36.4	早期-中期	直鉢-直腹直脚	直底・施塗瓦式	白色	01YR62-6	漆器箱		

第17表 繩文土器・土製品一覧(6)

件名	遺物	分類	出土地点	編號	形制	口径	口徑 直徑(cm)	底面	胎面	内面	外觀	胎土の性質	備考
11	177	64	SII	X.13.YG2/34	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭 早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
12	179	64	SII	X.13.YG3/34	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
13	180	64	SII	X.13.YG4/34	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
14	181	64	SII	X.13.YG5/34	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
15	182	64	SII	X.13.YG6/34	縄文土器	深鉢	14.4	早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
16	183	64	SII	X.13.YG7/34	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
17	184	64	SII	X.13.YG8/34	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
18	185	64	SII	X.14.YG1/36	縄文土器	深鉢	32.8	早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
19	186	64	SII	X.14.YG2/36	縄文土器	深鉢	21.8	早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
20	187	64	SII	X.14.YG3/36	縄文土器	深鉢	20.6	早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
21	188	32	SII	X.14.YG4/36	縄文土器	深鉢	16.9	早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
22	189	64	SII	X.14.YG5/36	縄文土器	深鉢	61.0	早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
23	190	64	SII	X.14.YG6/36	縄文土器	深鉢	13.0	早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
24	191	64	SII	X.14.YG7/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
25	192	64	SII	X.14.YG8/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
26	193	64	SII	X.14.YG9/36	縄文土器	深鉢	19.2	早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
27	194	64	SII	X.14.YG10/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
28	195	64	SII	X.14.YG11/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
29	196	64	SII	X.14.YG12/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
30	197	64	SII	X.14.YG13/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
31	198	64	SII	X.14.YG14/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
32	199	64	SII	X.14.YG15/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
33	200	64	SII	X.14.YG16/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
34	201	64	SII	X.14.YG17/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
35	202	64	SII	X.14.YG18/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
36	203	64	SII	X.14.YG19/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
37	204	64	SII	X.14.YG20/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
38	205	64	SII	X.14.YG21/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
39	206	64	SII	X.14.YG22/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
40	207	64	SII	X.14.YG23/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
41	208	64	SII	X.14.YG24/36	縄文土器	深鉢		早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	
42	209	32	SII	X.14.YG25/36	縄文土器	深鉢	21.3	早期・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	盆底・輪郭切頭	白色灰・石英・骨片・礫	火入仕面	

第17表 細文土器・土製品一覧(7)

番号	遺物	写真	出土地点	編文	寸法	材質	表面	時間	性別	死亡年齢	死因	参考
高さ	幅	厚さ	高さ	幅	厚さ	高さ	幅	時間	性別	死亡年齢	死因	参考
43	210	64	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	146.7	早期	女性	60-69歳	心臓肥大	死因物
43	210	64	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	153.8	早期	女性	60-69歳	心臓肥大	死因物
44	211	64	SII-1	X.144YY63 腹横	縦文十型	直筒	26.0	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
44	212	32	SII-1	X.123YY61(1-7)脚	X.123YY61(1-7)脚	縦文十型	直筒	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
44	213	65	SII-1	X.123YY63 腹横	X.126.161下脚	縦文十型	直筒	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
44	214	65	SII-1	X.123YY61 腹横	X.123YY61 上脚	縦文十型	直筒	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
44	215	65	SII-1	X.144YY61 腹横	X.125(61)上脚	縦文十型	直筒	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
45	216	65	SII-1	X.123YY61 腹横	X.125(61)下脚	縦文十型	直筒	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
45	217	64	SII-1	X.123YY62	縦文十型	直筒	248	早期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
45	218	64	SII-1	X.123YY83	縦文十型	直筒	250	早期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
45	219	64	SII-1	X.123YY62 腹横	縦文十型	直筒	260	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
45	219	65	SII-1	X.123YY63 腹横	縦文十型	直筒	260	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
45	220	65	SII-1	X.123YY61 腹横	X.123YY62 F脚	縦文十型	直筒	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
45	220	65	SII-1	X.123YY61 腹横	X.123YY61 F脚	縦文十型	直筒	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
45	223	65	SII-1	X.123YY62 腹横	X.123YY61 F脚	縦文十型	直筒	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
45	224	65	SII-1	X.123YY83	縦文十型	直筒	248	早期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
45	225	65	SII-1	X.122YY81	縦文十型	直筒	250	早期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
45	226	65	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	260	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
45	227	65	SII-1	X.143YY60	縦文十型	直筒	343	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
45	228	65	SII-1	X.144YY61 腹横	縦文十型	直筒	328	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
46	229	66	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	256	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
46	230	32	SII-1	X.123YY61 腹横	X.123YY61 F脚	縦文十型	直筒	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
46	231	65	SII-1	X.123YY61 腹横	X.123YY61 上脚	縦文十型	直筒	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
46	232	65	SII-1	X.123YY61 腹横	X.123YY61 下脚	縦文十型	直筒	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
46	233	65	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	254	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
46	234	65	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	31.3	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
46	235	65	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	268	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
46	236	65	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	268	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
46	237	65	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	268	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
47	238	66	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	252	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
47	239	66	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	252	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
47	240	66	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	252	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
47	241	66	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	256	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
47	242	66	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	268	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
47	243	33	SII-1	X.123YY61 腹横	X.123YY61 F脚	縦文十型	直筒	中期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
47	244	66	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	21.3	早期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
47	245	66	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	180	早期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物
47	246	66	SII-1	X.123YY61 腹横	縦文十型	直筒	180	早期	女性	50-59歳	心臓肥大	死因物

第17表 細文土器・土製品一覧(8)

件名	遺物	分類	出土地点	地層	剖面	口径	足径	時間	型式	出土位置	出土の状況	備考
47	247	66	SII	X.120Y05	縄文土器	深井		早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	25.5V.2	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
248	66	SII	X.141Y50上層	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	7.5V.2	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
48	249	33	SII	X.122Y81	縄文土器	深井	~24.5	早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.3.2	灰褐色	骨片・礫
250	66	SII	X.120Y63上層	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.3	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
251	67	SII	X.120Y61下層	縄文土器	深井	27.8		早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.4	灰褐色	白色灰・石英・礫
252	66	SII	X.137Y62上層	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.4	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
253	67	SII	X.120Y63 X.493Y64	縄文土器	深井	24.0		早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.4	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
254	67	SII	X.119Y81	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.1	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
255	67	SII	X.121Y61上層	縄文土器	深井	18.8		早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.2	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
49	256	67	SII	X.135Y62上層	縄文土器	深井		早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.2	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
257	67	SII	X.120Y61新面下層	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.2	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
258	67	SII	X.120Y62上層	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.1	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
259	67	SII	X.135Y63上層	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	7.5V.2	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
260	67	SII	X.122Y61下層	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	7.5V.1	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
261	67	SII	X.147Y60上層	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	7.5V.7.4	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
262	67	SII	X.120Y60 X.303Y61下層	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.1	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
263	67	SII	X.120Y61上層 X.130Y60	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.2	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
264	67	SII	X.152Y63上層	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.3	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
265	67	SII	X.127Y65	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.4	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
266	67	SII	X.120Y61新面下層	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.4	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
267	67	SII	X.132Y62上層	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.4	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
268	67	SII	X.122Y81	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.2	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
269	67	SII	X.120Y61下層	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	7.5V.7.6	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
270	67	SII	X.132Y61下層	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.6.1	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
271	67	SII	X.135Y63上層	縄文土器	深井	30.2		早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.6.1	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
272	68	SII	X.132Y64上層	縄文土器	深井			早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	7.5V.7.7	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
273	68	SII	X.128Y61上層	縄文土器	深井	28.6		早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.6.3	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
274	33	SII	X.131Y61下層 X.131Y62	縄文土器	深井	24.7		早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.6.4	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
275	68	SII	X.131Y62	縄文土器	深井	(24.6)		早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.6.1	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
276	68	SII	X.143Y61上層	縄文土器	深井	18.8		早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.6.3	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
277	68	SII	X.131Y61下層	縄文土器	深井	18.0		早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	7.5V.7.1	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫
278	68	SII	X.120Y64	縄文土器	深井	18.6		早期・輪郭直脚	伝承・輪郭式	10V.7.2	灰褐色	白色灰・石英・骨片・礫

第17表 細文土器・土製品一覧(9)

番号	遺物	写真	出土地点	細分	基材	法長(cm)	法幅	厚さ	時間		相次	出土位置	出土方位	備考	
									早期	後期					
50	279	68	SII-1	X.121Y63-1 縹	縹文土器	陶片	21.8	1.1時	早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
280	68	SII-1	X.121Y66	縹	縹文土器	陶片			早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
51	281	68	SII-1	X.121Y63-1 縹	縹文土器	陶片			早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
282	68	SII-1	X.120Y62-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
283	68	SII-1	X.121Y61-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
284	68	SII-1	X.121Y63-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
285	68	SII-1	X.121Y63-1 縹	X.121Y63-1 縹	縹文土器	陶片			早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
286	68	SII-1	X.121Y63-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
287	68	SII-1	X.121Y62-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
288	68	SII-1	X.121Y62-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
289	68	SII-1	X.120Y61-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
290	68	SII-1	X.120Y62-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
291	68	SII-1	X.120Y62-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
292	68	SII-1	X.121Y61-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
293	68	SII-1	X.120Y62-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
294	68	SII-1	X.122Y61-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
32	295	33	SII-1	X.121Y62-1 縹	X.121Y62-1 縹	縹文土器				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青
296	68	SII-1	X.120Y61-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
297	68	SII-1	X.121Y63-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
298	68	SII-1	X.120Y62-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
299	68	SII-1	X.141Y60-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
300	68	SII-1	X.120Y62-1 縹	X.120Y61-1 縹	縹文土器	陶片			早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
301	69	SII-1	X.120Y61-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
302	69	SII-1	X.121Y63-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
303	67	SII-1	X.120Y61-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
304	67	SII-1	X.121Y61-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
33	305	69	SII-1	X.120Y62-1 縹	縹文土器	陶片			早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
306	33	SII-1	X.120Y64-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
307	69	SII-1	X.120Y63-1 縹	X.120Y65	縹文土器	陶片			早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
308	69	SII-1	X.121Y61-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
309	69	SII-1	X.120Y63-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
310	69	SII-1	X.120Y62-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
311	69	SII-1	X.120Y61-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	
312	69	SII-1	X.121Y61-1 縹	縹文土器	陶片				早期	後期	後	縹文土器	後	白色(白灰)・青白・青	

第17表 繩文土器・土製品一覧(10)

件名	遺物	分類	出土地点	地質	形制	口径	深度	内面	外周	内底	外底	断土の状況	備考
53	313	60	SII-1	X.130Y61	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H7.6	粘土の状況
54	214	60	SII-1	X.130Y60	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H6.1	粘土の状況
55	315	60	SII-1	X.130Y61	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H4.1	粘土の状況
54	316	60	SII-1	X.130Y62	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H4	粘土の状況
54	317	34	SII-1	X.130Y63	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H7.6	粘土の状況
54	318	34	SII-1	X.130Y63	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H7.4	粘土の状況
54	319	60	SII-1	X.130Y63	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H6	粘土の状況
54	320	60	SII-1	X.130Y64	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H4.1	粘土の状況
54	321	60	SII-1	X.140Y59	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H4	粘土の状況
54	322	33	SII-1	X.120Y61	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H4.2	粘土の状況
54	323	34	SII-1	X.120Y61	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H6	粘土の状況
54	324	60	SII-1	X.120Y61	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H4.3	粘土の状況
54	325	34	SII-1	X.120Y61	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H3.5	粘土の状況
54	326	70	SII-1	X.130Y63	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H3	粘土の状況
54	327	70	SII-1	X.140Y63	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.5	粘土の状況
54	328	60	SII-1	X.130Y62	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.3	粘土の状況
54	329	70	SII-1	X.130Y64	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.1	粘土の状況
54	330	70	SII-1	博士	直筒	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2	粘土の状況
54	331	70	SII-1	X.110Y83	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.1	粘土の状況
54	332	70	SII-1	X.110Y61	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2	粘土の状況
54	333	70	SII-1	X.120Y63	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.3	粘土の状況
54	334	70	SII-1	X.120Y63	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.2	粘土の状況
54	335	70	SII-1	X.120Y63	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2	粘土の状況
54	336	70	SII-1	X.120Y62	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.4	粘土の状況
54	337	70	SII-1	X.130Y63	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.1	粘土の状況
54	338	70	SII-1	X.120Y65	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.1	粘土の状況
54	339	70	SII-1	X.120Y63	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.1	粘土の状況
54	340	70	SII-1	X.120Y63	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.1	粘土の状況
54	341	70	SII-1	X.120Y63	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.1	粘土の状況
54	342	70	SII-1	X.130Y62	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.2	粘土の状況
54	343	70	SII-1	X.140Y61	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.4	粘土の状況
54	344	70	SII-1	X.150Y64	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.3	粘土の状況
54	345	70	SII-1	X.140Y62	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.6	粘土の状況
54	346	70	SII-1	X.120Y63	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.2	粘土の状況
54	347	70	SII-1	X.140Y63	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.1	粘土の状況
54	348	70	SII-1	博士	直筒	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.1	粘土の状況
54	349	70	SII-1	X.150Y63	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2	粘土の状況
54	350	70	SII-1	X.150Y62	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.3	粘土の状況
54	351	70	SII-1	X.150Y62	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.3	粘土の状況
54	352	70	SII-1	X.150Y62	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.3	粘土の状況
54	353	70	SII-1	X.150Y63	縄文土器	直筒	直筒	直底	直底	直底	直底	7.55H2.1	粘土の状況

第17表 繩文土器・土製品一覧(11)

第17表 繩文土器・土製品一覧(12)

件名	遺物	分類	出土地点	編號	形制	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	内面	外面	内面	外面	参考
61	石斧	圓盤	鹿島	X.120Y63下層	圓文十點	深鉢	25.2	14.8	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井
308	72	S01	X.131Y61上層	圓文十點	深鉢	19.8	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
309	72	S01	X.143Y63	圓文十點	深鉢	20.2	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
400	72	S01	X.138Y63	圓文十點	深鉢	20.2	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
401	72	S01	X.120Y61+前面下層	圓文十點	深鉢	20.2	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
402	72	S01	X.120Y61+前面下層	圓文十點	深鉢	20.2	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
403	72	S01	X.153Y62下層	圓文十點	深鉢	20.2	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
404	72	S01	X.140Y62上層	圓文十點	深鉢	20.2	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
62	405	34	S01	X.131Y61上層	圓文十點	深鉢	21.2	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井
63	406	72	S01	X.133Y61下層	圓文十點	深鉢	21.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井
407	72	S01	X.152Y62上層	圓文十點	深鉢	21.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
408	72	S01	X.133Y63上層	圓文十點	深鉢	21.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
409	72	S01	X.121Y61上層	圓文十點	深鉢	21.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
410	72	S01	X.130Y61上層	圓文十點	深鉢	21.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
411	72	S01	X.131Y61上層	圓文十點	深鉢	21.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
412	72	S01	X.141Y59上層	圓文十點	深鉢	21.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
413	72	S01	X.141Y59上層	圓文十點	深鉢	21.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
414	72	S01	X.133Y62上層	圓文十點	深鉢	21.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
415	72	S01	X.133Y62上層	圓文十點	深鉢	21.2	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
416	72	S01	X.120Y61上層	圓文十點	深鉢	20.4	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
63	418	72	S01	X.153Y63下層	圓文十點	深鉢	17.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井
419	72	S01	X.120Y62上層	圓文十點	深鉢	16.6	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
420	34	S01	X.120Y63下層	圓文十點	深鉢	14.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
421	72	S01	X.133Y63上層	圓文十點	深鉢	14.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
422	72	S01	X.140Y63上層	圓文十點	深鉢	14.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
423	72	S01	X.133Y61上層	圓文十點	深鉢	14.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
424	72	S01	X.131Y65上層	圓文十點	深鉢	14.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
425	72	S01	X.120Y61上層	圓文十點	深鉢	14.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
426	72	S01	X.133Y61上層	圓文十點	深鉢	14.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
427	72	S01	X.133Y62上層	圓文十點	深鉢	14.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
428	72	S01	X.143Y61上層	圓文十點	深鉢	14.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
429	72	S01	X.140Y62上層	圓文十點	深鉢	14.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
430	72	S01	X.131Y62上層	圓文十點	深鉢	14.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
431	72	S01	X.143Y64上層	圓文十點	深鉢	14.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
432	73	S01	X.130Y64上層	圓文十點	深鉢	14.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
433	73	S01	X.122Y65上層	圓文十點	深鉢	21.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	
434	73	S01	X.120Y60上層	圓文十點	深鉢	21.0	11.2	早期・輪掌式	後乳頭	後乳頭	後乳頭	白色・金井・石井	

第17表 繩文土器・土製品一覧(13)

表第17綱文土器・土製品一覽(14)

第17表 細文土器・土製品一覧(15)

番号	遺物	写真	出土地点	細文	法長(cm)	法幅(cm)	厚さ	器形	内面	外見	出土位置	出土状況	備考	
47	埴輪	筒形	X.128Y61-24	筒文十型	有孔跡			早期-中期	直筒-直腹-直脚	直筒-椭圓	白色板-石英-骨質-鐵	白色板-石英-骨質-鐵	毛刷の反し	
510	埴輪	S01	X.143Y61-14	筒文十型	有孔跡			早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	7.5YR6/6 鉄色	7.5YR6/4 鉄色	毛刷の反し	
511	埴輪	S01	X.133Y63-17	筒文十型	有孔跡			早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	9.0YR6/5 鉄色	9.0YR6/6 鉄色	毛刷の反し	
512	埴輪	S01	X.147Y61-14	筒文十型	有孔跡			早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	7.5YR6/2 鉄色	7.5YR6/2 鉄色	毛刷の反し	
513	埴輪	S01	X.139Y63-17	筒文十型	有孔跡			早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	5YR6/4 铅色	5YR6/4 铅色	毛刷の反し	
514	埴輪	S01	X.139Y64-17	筒文十型	有孔跡			早-中	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/3 白色	10YR6/3 白色	毛刷の反し	
515	埴輪	S01	X.137Y61-14	筒文十型	有孔跡			早-中	直筒-椭圓	直筒-椭圓	7.5YR6/6 鉄色	7.5YR6/6 鉄色	毛刷の反し	
516	埴輪	S01	X.129Y81-1	筒文十型	有孔跡			早-中	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/4 白色	10YR6/4 白色	毛刷の反し	
517	埴輪	S01	X.141Y63-17	筒文十型	有孔跡			早-中	直筒-椭圓	直筒-椭圓	7.5YR6/3 白色	7.5YR6/3 白色	毛刷の反し	
518	埴輪	S01	X.110Y83-1	筒文十型	有孔跡			早-中	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/4 白色	10YR6/4 白色	毛刷の反し	
519	埴輪	S01	X.135Y62-17	筒文十型	有孔跡			早-中	直筒-椭圓	直筒-椭圓	7.5YR6/4 白色	7.5YR6/4 白色	毛刷の反し	
520	埴輪	S01	X.135Y64-14	筒文十型	有孔跡			早-中	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/3 白色	10YR6/3 白色	毛刷の反し	
521	埴輪	S01	X.129Y62-17	筒文十型	有孔跡			早-中	直筒-椭圓	直筒-椭圓	5YR6/6 铅色	5YR6/6 铅色	毛刷の反し	
522	埴輪	S01	X.139Y63-17	筒文十型	有孔跡			早-中	直筒-椭圓	直筒-椭圓	7.5YR6/6 铅色	7.5YR6/6 铅色	毛刷の反し	
523	埴輪	S01	X.135Y63-17	筒文十型	筒体			早-中	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/4 白色	10YR6/4 白色	毛刷の反し	
524	埴輪	S01	X.143Y63-17	筒文十型	筒体			早-中	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/4 白色	10YR6/4 白色	毛刷の反し	
525	埴輪	S01	X.127Y66-1	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/4 白色	10YR6/4 白色	毛刷の反し
526	埴輪	S01	X.153Y64-14	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	7.5YR6/4 白色	7.5YR6/4 白色	毛刷の反し
527	埴輪	S01	X.129Y62-17	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/3 白色	10YR6/3 白色	毛刷の反し
528	埴輪	S01	X.133Y63-17	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	2.5YR7/2 白色	2.5YR7/2 白色	毛刷の反し
529	埴輪	S01	X.143Y63-17	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/2 白色	10YR6/2 白色	毛刷の反し
530	埴輪	S01	X.127Y64-14	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/2 白色	10YR6/2 白色	毛刷の反し
531	埴輪	S01	X.153Y63-17	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	5YR6/6 铅色	5YR6/6 铅色	毛刷の反し
532	埴輪	S01	X.127Y64-14	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	7.5YR6/4 白色	7.5YR6/4 白色	毛刷の反し
533	埴輪	S01	X.129Y62-17	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/6 铅色	10YR6/6 铅色	毛刷の反し
534	埴輪	S01	X.127Y63-17	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/4 白色	10YR6/4 白色	毛刷の反し
535	埴輪	S01	X.135Y62-17	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/2 白色	10YR6/2 白色	毛刷の反し
536	埴輪	S01	X.127Y64-14	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	SYN 1 白色	SYN 1 白色	毛刷の反し
537	埴輪	S01	X.139Y61-17	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/6 铅色	10YR6/6 铅色	毛刷の反し
(6)	埴輪	S01	X.139Y62-17	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/3 白色	10YR6/3 白色	毛刷の反し
538	埴輪	S01	X.129Y62-17	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	7.5YR6/4 白色	7.5YR6/4 白色	毛刷の反し
539	埴輪	S01	X.127Y64-14	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/4 白色	10YR6/4 白色	毛刷の反し
540	埴輪	S01	X.153Y62-17	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/4 白色	10YR6/4 白色	毛刷の反し
541	埴輪	S01	X.129Y62-17	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	10YR6/4 白色	10YR6/4 白色	毛刷の反し
542	埴輪	S01	X.141Y64-17	筒文十型	筒体			2-3	早期-中期	直筒-椭圓	直筒-椭圓	7.5YR6/4 白色	7.5YR6/4 白色	毛刷の反し

第17表 細文土器・土製品一覧(16)

件名	遺物	分類	出土地点	地質	形制	口径	深度	断面	内底	外底	内壁	外壁	参考
69	5447 76 SII	X.135Y62 1号	磯文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/3	7.5YR6/3	新土の付
5447 76 SII	X.135Y63 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/3	7.5YR6/3	新土の付	
545 76 SII	X.122Y83 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/1	7.5YR6/1	新土の付	
546 76 SII	X.137Y63 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/1	7.5YR6/4	新土の付	
547 76 SII	X.142Y61 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/2	7.5YR6/2	新土の付	
548 76 SII	X.153Y63	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/4	7.5YR6/4	新土の付	
549 76 SII	X.120Y63 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/2	7.5YR6/2	新土の付	
550 76 SII	X.140Y63 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/4	7.5YR6/4	新土の付	
551 76 SII	X.137Y63 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/4	7.5YR6/4	新土の付	
552 76 SII	X.147Y63 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/6	7.5YR6/6	新土の付	
553 76 SII	X.135Y62 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/2	7.5YR6/2	新土の付	
554 76 SII	X.120Y81	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/4	7.5YR6/4	新土の付	
555 76 SII	X.150Y61 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/1	7.5YR6/1	新土の付	
556 76 SII	X.137Y62 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/4	7.5YR6/4	新土の付	
557 76 SII	X.142Y61	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR7/3	7.5YR7/3	新土の付	
558 76 SII	X.135Y62 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR7/3	7.5YR7/3	新土の付	
559 76 SII	X.143Y63 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/2	7.5YR6/2	新土の付	
560 76 SII	X.135Y63 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR7/3	7.5YR7/3	新土の付	
70	561 76 SII	X.141Y63 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR7/2	7.5YR7/2	新土の付
562 76 SII	X.115Y63 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR7/2	7.5YR7/2	新土の付	
563 76 SII	X.140Y64	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR7/2	7.5YR7/2	新土の付	
564 76 SII	X.135Y62 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR7/3	7.5YR7/3	新土の付	
565 76 SII	X.152Y62 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/2	7.5YR6/2	新土の付	
566 76 SII	X.135Y62 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/2	7.5YR6/2	新土の付	
567 76 SII	X.120Y61	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/2	7.5YR6/2	新土の付	
568 76 SII	X.135Y62 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR7/2	7.5YR7/2	新土の付	
569 76 SII	X.135Y61 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/2	7.5YR6/2	新土の付	
570 76 SII	X.135Y62 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR7/3	7.5YR7/3	新土の付	
571 76 SII	X.135Y63 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/2	7.5YR6/2	新土の付	
572 76 SII	X.135Y65 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR7/1	7.5YR7/1	新土の付	
573 76 SII	X.122Y81	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR7/2	7.5YR7/2	新土の付	
574 76 SII	X.124Y82	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR7/1	7.5YR7/1	新土の付	
575 76 SII	X.120Y83	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR7/2	7.5YR7/2	新土の付	
576 76 SII	X.135Y63 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR7/2	7.5YR7/2	新土の付	
577 76 SII	X.142Y63 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/2	7.5YR6/2	新土の付	
578 76 SII	X.120Y60 1号前半	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR7/2	7.5YR7/2	新土の付	
579 77 SII	X.121Y81	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/3	7.5YR6/3	新土の付	
580 77 SII	X.135Y63 1号	罐文土器	礫層	罐文土器	直口	14.5	14.5	直口-高圈足-直腹直頸	直底-施塗灰	7.5YR6/3	7.5YR6/3	新土の付	

第17表 繩文土器・土製品一覧(17)

第17表 繩文土器・土製品一覧(18)

件名	遺物	位置	性質	出土・地点	種類	形制	口径 (cm)	底面	時間	時代	出土・地點	参考
73	616	78	SI01	X.13BY61-14	縄文土器	深鉢		穿孔	早期	初期～中期	黒茶山-角野(分)縄	
617	78	SI01	X.12BY63-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	中期	黒茶山-角野(分)縄	
618	78	SI01	X.13TY64-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	中期	黒茶山-角野(分)縄	
619	78	SI01	X.13BY62-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	中期	黒茶山-角野(分)縄	
620	78	SI01	X.13BY64-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	中期	黒茶山-角野(分)縄	
621	78	SI01	X.13TY61-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	中期	黒茶山-角野(分)縄	
622	78	SI01	X.13TY61-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	中期	黒茶山-角野(分)縄	
623	78	SI01	X.14TY62-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	中期	黒茶山-角野(分)縄	
624	78	SI01	X.14TY62-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	中期	黒茶山-角野(分)縄	
74	625	25	SI01	X.14TY62-14	縄文土器	深鉢	22.4	穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
625	78	SI01	X.13BY62-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
627	78	SI01	X.14TY62-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
628	78	SI01	X.13BY61-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
629	78	SI01	X.14TY64-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
630	78	SI01	X.15BY61-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
631	78	SI01	X.14TY63-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
632	78	SI01	X.12B-13Y61-63下	縄文土器	深鉢		20.2	穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
633	78	SI01	X.13TY61-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
634	78	SI01	X.13SY61-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
635	78	SI01	X.14TY62-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
636	78	SI01	X.14TY62-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
75	637	78	SI01	X.14TY62-14	縄文土器	深鉢		穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
638	78	SI01	X.13TY62-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
639	78	SI01	X.13SY62-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
640	78	SI01	X.14TY61-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
641	78	SI01	X.15BY62-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
642	78	SI01	X.12BY63-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
643	78	SI01	X.13TY62-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
644	78	SI01	X.13TY63-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
645	78	SI01	X.13TY63-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
646	78	SI01	X.13BY63-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
647	79	SI01	X.14TY62-14	縄文土器	深鉢		10.7	穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
648	79	SI01	X.13BY63-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
649	79	SI01	X.13TY63-14	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番
650	79	SI01	X.13BY61	縄文土器	深鉢			穿孔	中期	上・山式	上・山式	7.7.7番

第17表 細文土器・土製品一覧(19)

番号	遺物	写真	出土地点	細文	器種	口径	底径	高さ	時間	想定	出土色調	出土の状態	備考	
直径	底面	口沿												
73	651	T9	S01	X132Y62-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
632	79	S01	X140Y60-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
633	79	S01	X132Y63-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
654	79	S01	X132Y64-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
76	655	79	S01	X130Y62-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着
656	79	S01	X141Y61-1~2脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
657	79	S01	X132Y63-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
658	79	S01	X140Y61-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
659	79	S01	X143Y63	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
660	79	S01	X132Y62-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
661	79	S01	X132Y64-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
662	79	S01	X130Y64	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
663	79	S01	X142Y61上脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
77	664	35	S01	X130Y62-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着
665	36	S01	X130Y62-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
666	36	S01	X132Y62-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
667	79	S01	X132Y63-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
668	79	S01	X132Y62-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
669	79	S01	X132Y63-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
670	79	S01	X132Y62-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
671	79	S01	X130Y62-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
672	79	S01	X132Y63-277	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
673	79	S01	X143Y63上脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
674	79	S01	X132Y63-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
78	675	79	S01	X130Y64-X137Y65上脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着
676	79	S01	X140Y62-1~2脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
677	79	S01	X132Y63	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
678	79	S01	X132Y63-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
679	79	S01	X132Y62	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	
680	79	S01	X130Y64-1脚	縹文土器	直径	底面	高さ	早期	人海1式	人海1式	灰褐色	手取丸	スズ付着	

第17表 細文土器・土製品一覧(20)

種別	遺物	分類	出土地点	地質	形態	口径	深度 (cm)	底面	内面	外縁	内縁	外縁	内縁	参考
陶器	瓦片	瓦片	X.13(Y63)7 78 684 79 SII-1	磚文土器	深鉢	21.0		平坦底	人面口式		09YR62	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
	通風	通風	X.13(Y63)7 682 79 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR63	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.12(Y64) 683 79 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR64	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y65)7 684 79 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR65	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y66)7 685 80 SII-1	磚文土器	深鉢	18.8		平坦底	人面口式		09YR66	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y67)7 686 80 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR67	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y68)7 687 112 SII-1	磚文土器	深鉢	21.0		平坦底	人面口式		09YR68	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y69)7 688 80 SII-1	磚文土器	深鉢	26.6		平坦底	人面口式		09YR69	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y70)7 689 80 SII-1	磚文土器	深鉢	27.0		平坦底	人面口式		09YR70	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y71)7 690 80 SII-1	磚文土器	深鉢	15.9		平坦底	人面口式		09YR71	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y72)7 691 80 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR72	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y73)7 692 80 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR73	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y74)7 693 80 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR74	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y75)7 694 80 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR75	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y76)7 695 80 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR76	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y77)7 696 80 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR77	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y78)7 697 80 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR78	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y79)7 698 80 SII-1	磚文土器	深鉢	21.0		平坦底	人面口式		09YR79	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y80)7 699 80 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR80	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y81)7 700 80 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR81	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y82)7 701 80 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR82	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y83)7 702 80 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR83	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y84)7 703 80 SII-1	磚文土器	深鉢	29.4		平坦底	人面口式		09YR84	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y85)7 704 80 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR85	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y86)7 705 80 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR86	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y87)7 706 80 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR87	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y88)7 707 81 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR88	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y89)7 708 81 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR89	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y90)7 709 81 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR90	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y91)7 710 81 SII-1	磚文土器	深鉢	17.4		平坦底	人面口式		09YR91	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y92)7 711 81 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR92	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y93)7 712 81 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR93	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y94)7 713 81 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR94	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y95)7 714 81 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR95	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	
			X.13(Y96)7 715 81 SII-1	磚文土器	深鉢			平坦底	人面口式		09YR96	斜切底	白色粒石英、黑色砂・スズ付着	

第17表 繩文土器・土製品一覧(21)

第17表 繩文土器・土製品一覧(22)

件号	遺物名	位置	出土地点	種別	形態	口径	底径	高度(cm)	時間	新土の状態		備考	
										早期	中期		
63	758	S11	X.13(Y63)繩	縄文土器	直筒	21.0	17.0	4.0	早期～前期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・石英・骨片・黑	
759	81	S11	X.13(Y63)	縄文土器	直筒	16.3	12.5	4.0	早期～中期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・石英	
760	81	S11	X.12(Y62) X.129(Y63)	縄文土器	直筒	26.6	17.0	5.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
94	701	82	S11	X.13(Y63)繩	縄文土器	直筒	17.2	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片
762	82	S11	X.12(Y62) + 磨	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
763	82	S11	X.12(Y62) + 磨	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
764	82	S11	X.13(Y62) + 磨	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
765	82	S11	X.13(Y61) + 磨	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
766	82	S11	X.13(Y63) + 磨	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
767	82	S11	X.13(Y63) + 磨	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
768	82	S11	X.13(Y63) + 磨	縄文土器	直筒	21.6	17.0	5.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
769	82	S11	X.13(Y62) + 磨	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
770	82	S11	X.12(Y64)繩	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
771	82	S11	X.13(Y62) + 磨	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
772	82	S11	X.12(Y61) + 磨	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
773	82	S11	X.13(Y63) + 磨	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
774	82	S11	X.13(Y62) + 磨	縄文土器	直筒	20.0	17.0	5.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
775	82	S11	X.12(Y60)	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
776	82	S11	X.13(Y63) + 磨	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
85	777	82	S11	X.12(Y61) + 磨	縄文土器	直筒	16.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片
778	82	S11	X.12(Y62) + 磨	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
779	82	S11	X.13(Y61) + 磨	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
780	82	S11	X.12(Y61) + 磨	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
781	82	S11	X.14(Y60) + 磨	縄文土器	直筒	24.5	17.0	5.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
782	82	S11	X.13(Y62) + 磨	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
783	82	S11	X.13(Y61) + 磣	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
784	82	S11	+	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
785	82	S11	X.13(Y61) + 磠	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
786	82	S11	X.13(Y62) + 磠	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
787	82	S11	X.13(Y66)	縄文土器	直筒	24.0	17.0	5.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
788	82	S11	X.12(Y64)	縄文土器	直筒	17.0	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
789	82	S11	X.14(Y61) + 磠	縄文土器	直筒	22.1	17.0	5.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
790	82	S11	X.12(Y63)	縄文土器	直筒	18.2	13.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
791	82	S11	X.12(Y64)	縄文土器	直筒	20.5	17.0	5.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
792	82	S11	X.13(Y66)	縄文土器	直筒	16.4	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
793	82	S11	X.12(Y64)	縄文土器	直筒	22.1	17.0	5.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
794	82	S11	X.13(Y61) + 磠	縄文土器	直筒	20.5	17.0	5.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
795	82	S11	X.12(Y64)	縄文土器	直筒	20.5	17.0	5.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
796	82	S11	X.13(Y63)	縄文土器	直筒	16.4	12.5	4.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	
797	82	S11	X.12(Y61)	縄文土器	直筒	22.1	17.0	5.0	中期～後期	09Y63-2	無剥離色	白色灰・骨片	

第17表 條文土器・土製品一覽(23)

第17表 繩文土器・土製品一覧(24)

第17表 細文土器・土製品一覧(25)

番号	遺物	写真	出土地点	遺物	細類	器種	法長(cm)		時間	想定	出土位置	出土方位	備考
							口径	底径					
90	S84	SII	X130Y61-6面下層	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
865	84	SII	X130Y64	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
866	84	SII	X130Y61-7層	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
91	867	84	SII	X130Y61-7層	縄文土器	深杯			前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
868	84	SII	X130Y61-7層 X130Y61-6	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
869	84	SII	X130Y63	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
870	84	SII	X130Y61-6面下層	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
871	84	SII	X130Y64	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
872	84	SII	X130Y61-7層	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
873	84	SII	X130Y61-7層	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
874	84	SII	X130Y61-7層	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
875	84	SII	X130Y60-5面下層	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
876	84	SII	X130Y61-7層	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
877	84	SII	X130Y68	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
878	84	SII	X130Y61-7層	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
879	84	SII	X130Y65	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
880	84	SII	X130Y63	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
881	84	SII	X130Y61-7層	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
92	882	84	SII	X130Y60-5面 X130Y68上層	縄文土器	深杯			前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
883	84	SII	X130Y62	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
884	86	SII	X130Y61-7層 X130Y61-7層	縄文土器	深杯		47.0		前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
93	885	84	SII	X130Y60-5面	縄文土器	深杯			前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
886	84	SII	X130Y62-7層	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
887	84	SII	X130Y62-7層	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
888	84	SII	X130Y61-7層	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
889	84	SII	X130Y58-7層	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
890	84	SII	X130Y61-7層	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
891	84	SII	X130Y62	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
892	84	SII	X130Y64-7層	縄文土器	深杯		26.4		前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
893	84	SII	X141Y63-2層	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着
894	84	SII	X130Y66	縄文土器	深杯				前期	6目式	01YRS2	床面側	スズ付着

第17表 紹文土器・土製品一覧(26)

第17表 細文土器・土製品一覧(27)

番号	遺物	写真	出土地点	細分	器種	口径	底径	高さ	時間	想定	出土位置	出土状況	参考	
928	筒形 瓦片	S01	X129Y65	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
929	筒形 瓦片	S01	X130Y65	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・骨片・鐵 スズ付着	
930	筒形 瓦片	S01	X125Y66	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
931	筒形 瓦片	S01	X129Y62	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
932	筒形 瓦片	S01	X130Y61	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
933	筒形 瓦片	S01	X129Y64	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
934	筒形 瓦片	S01	X125Y63	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
935	筒形 瓦片	S01	X129Y64	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
936	筒形 瓦片	S01	X129Y61	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
937	筒形 瓦片	S01	X130Y63	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
938	筒形 瓦片	S01	X129Y64	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
939	筒形 瓦片	S01	X130Y64	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
940	筒形 瓦片	S01	X129Y64	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
941	筒形 瓦片	S01	X127Y64	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
942	筒形 瓦片	S01	X129Y63	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
943	筒形 瓦片	S01	X145Y61	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
944	筒形 瓦片	S01	X125Y64	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
945	筒形 瓦片	S01	X130Y61	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
946	筒形 瓦片	S01	X125Y61	縄文土器	直筒				縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
947	筒形 瓦片	S01	X129Y60	縄文土器	X130Y61	縄文土器			縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
948	筒形 瓦片	S01	X130Y61	縄文土器	X130Y62	縄文土器			縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
949	筒形 瓦片	S01	X129Y60	縄文土器	X130Y63	縄文土器			縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
950	筒形 瓦片	S01	X132Y61	縄文土器	X132Y62	縄文土器			縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
951	筒形 瓦片	S01	X132Y60	縄文土器	X132Y61	縄文土器			縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
952	筒形 瓦片	S01	X129Y62	縄文土器	X130Y63	縄文土器			縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
953	筒形 瓦片	S01	X125Y62	縄文土器	X125Y66	縄文土器			縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
954	筒形 瓦片	S01	X129Y61	縄文土器	X129Y66	縄文土器			縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
955	筒形 瓦片	S01	X132Y61	縄文土器	X132Y61	縄文土器			縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
956	筒形 瓦片	S01	X132Y61	縄文土器	X132Y67	縄文土器			縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
957	筒形 瓦片	S01	X129Y61	縄文土器	X129Y61	縄文土器			縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	
958	筒形 瓦片	S01	X125Y67	縄文土器	X125Y67	縄文土器			縄文後期	縄文後期	縄文後期	縄文後期	白色灰・石英・骨片・鐵 スズ付着	

第17表 細文土器・土製品一覧(28)

件名	遺物 名	性質	出土場	出土地点	編號	形制	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	附註	附註	附註	附註	附註	附註	備考
97	959	SI1	X.122Y60	圓文十點	深鉢					直口式						
98	960	SI1	X.122Y68	圓文十點	深鉢					直口式						
99	961	SI1	X.140Y64小等	圓文十點	深鉢					直口式						
100	962	SI1	X.122Y65	圓文十點	深鉢					直口式						
101	963	SI1	X.120Y63-X.120Y65	圓文十點	深鉢					直口式						
102	964	SI1	X.122Y64	圓文十點	深鉢					直口式						
103	965	SI1	X.122Y63	圓文十點	深鉢					直口式						
104	966	SI1	X.122Y66	圓文十點	深鉢					直口式						
105	967	SI1	X.122Y65	圓文十點	深鉢					直口式						
106	968	SI1	X.130Y62小等	圓文十點	深鉢					直口式						
107	969	SI1	X.137Y64小等	圓文十點	深鉢					直口式						
108	970	SI1	X.120Y64	圓文十點	深鉢					直口式						
109	971	SI1	X.120Y64	圓文十點	深鉢					直口式						
110	972	SI1	X.130Y59	圓文十點	深鉢					直口式						
111	973	SI1	X.141Y60小等	圓文十點	深鉢					直口式						
112	974	SI1	X.137Y60小等	圓文十點	深鉢					直口式						
113	975	SI1	X.142Y61小等	圓文十點	深鉢					直口式						
114	976	SI1	X.122Y61小等	X.120Y61 P等	圓文十點	深鉢				直口式						
115	977	SI1	X.122Y61等	圓文十點	深鉢					直口式						
116	978	SI1	X.122Y65	圓文十點	深鉢					直口式						
117	979	SI1	X.120Y64小等	圓文十點	深鉢					直口式						
118	980	SI1	X.135Y60小等	圓文十點	深鉢					直口式						
119	981	SI1	X.124Y66	圓文十點	深鉢					直口式						
120	982	SI1	X.120Y61等	圓文十點	深鉢					直口式						
121	983	SI1	X.122Y64	圓文十點	深鉢					直口式						
122	984	SI1	X.130Y61	圓文十點	深鉢					直口式						
123	985	SI1	X.131Y63	圓文十點	深鉢					直口式						
124	986	SI1	X.120Y62等	圓文十點	深鉢					直口式						
125	987	SI1	X.120Y63	圓文十點	深鉢					直口式						
126	988	SI1	X.130Y64	圓文十點	深鉢					直口式						
127	989	SI1	X.122Y64	圓文十點	深鉢					直口式						
(28)																

第17表 繩文土器・土製品一覧(29)

第17表 紹文土器・土製品一覧(30)

件名	遺物	分類	出土地点	地質	形態	器形	口径 (cm)	底径	高さ	時間	型式	断上・外觀	参考
[01]	1007 88 S01	X.123Y.63	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y27.4	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[02]	1008 88 S01	X.120Y.62	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.5	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[03]	1009 88 S01	X.131Y.63	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.6	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[04]	1010 88 S01	X.125Y.61	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.7	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[05]	1012 88 S01	X.125Y.66	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y25.3	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[06]	1013 88 S01	X.120Y.61	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y24.1	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[07]	1014 88 S01	X.120Y.61	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.3	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[08]	1015 88 S01	X.120Y.65	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.2	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[09]	1016 88 S01	X.125Y.63	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.2	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[10]	1017 88 S01	X.125Y.64	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y24.2	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[11]	1018 88 S01	X.125Y.65	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y25.2	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[12]	1019 88 S01	X.125Y.63	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y27.3	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[13]	1041 88 S01	X.120Y.64	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y27.3	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[14]	1042 88 S01	X.125Y.64	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y27.2	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[15]	1043 88 S01	X.125Y.67	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.2	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[16]	1044 88 S01	X.125Y.65	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.4	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[17]	1045 88 S01	X.125Y.66	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y27.3	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[18]	1047 88 S01	X.120Y.64	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y27.1	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[19]	1048 88 S01	X.125Y.64	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.5	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[20]	1049 88 S01	X.125Y.63	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.2	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[21]	1050 88 S01	X.125Y.65	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y27.4	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[22]	1051 88 S01	X.125Y.65	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.2	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[23]	1052 88 S01	X.125Y.65	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.1	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[24]	1053 88 S01	X.125Y.65	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.1	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[25]	1054 88 S01	X.125Y.65	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.1	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[26]	1055 88 S01	X.125Y.65	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.1	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[27]	1056 88 S01	X.125Y.65	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.1	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[28]	1057 88 S01	X.125Y.64	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.1	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[29]	1058 88 S01	X.125Y.64	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.1	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[30]	1059 88 S01	X.125Y.65	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.1	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[31]	1060 88 S01	X.125Y.62下附	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒	186			01Y26.2	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[32]	1061 88 S01	X.125Y.63上附	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.2	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[33]	1062 88 S01	X.120Y.61	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y27.3	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[34]	1063 88 S01	X.127Y.65	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y27.4	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[35]	1064 88 S01	X.120Y.60	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.2	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	
[36]	1065 88 S01	X.125Y.61	縄文土器	縄文土器	直筒	直筒				01Y26.1	1.5-1.8直筒	白色灰・石英・骨・鐵頭	

第17表 細文土器・土製品一覧(31)

番号	遺物	写真	出土地点	細文	器種	口径	底径	高さ	時間	想定	出土位置	出土時間	備考
102	1006 88	SII-1	X.129Y64	縹文十型	縹跡				明H/C		03WEC2	灰褐色	スズカ層
1067	88	SII-1	X.129Y65-X.129Y66	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1068	88	SII-1	X.129Y61上層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
103	1009 89	SII-1	X.129Y62下層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1071	89	SII-1	X.129Y63上層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1072	89	SII-1	X.129Y62下層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1073	89	SII-1	X.129Y60上層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1074	89	SII-1	X.129Y64	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1075	89	SII-1	X.129Y60上層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1076	89	SII-1	X.129Y63上層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1077	89	SII-1	X.140Y64上層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1078	89	SII-1	X.129Y63下層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1079	89	SII-1	X.129Y63	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1080	89	SII-1	X.129Y61上層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1081	89	SII-1	X.129Y63下層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1082	89	SII-1	X.129Y64	縹文十型	縹跡	36.2			前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1083	89	SII-1	X.129Y60上層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1084	89	SII-1	X.129Y55	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1085	89	SII-1	X.129Y63上層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1086	89	SII-1	X.127Y65	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1087	89	SII-1	X.127Y65	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1088	89	SII-1	X.129Y66	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1089	89	SII-1	X.129Y62上層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1090	89	SII-1	X.129Y63下層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1091	89	SII-1	X.129Y60上層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1092	89	SII-1	X.127Y62下層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1093	89	SII-1	X.129Y66	縹文十型	縹跡	36.4			前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層
1095	89	SII-1	X.129Y61下層	縹文十型	縹跡				前期後期	赤褐色	03WEC2	灰褐色	スズカ層

第17表 繩文土器・土製品一覧(32)

件名	遺物	分類	出土地点	種別	形態	口径 (cm)	底面	内面	外周	内・外	断面	断面の特徴	備考
104	1/06 89	SD1	X.135Y62上層	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/4	白色板・石英・骨粉	
105	1/06 89	SD1	X.135Y62中層	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/3	白色板・白色板・石英・骨粉	
106	1/06 89	SD1	X.135Y63下層	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/3	白色板・白色板・石英・骨粉	
107	1/06 89	SD1	X.137Y61	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/2	白色板・白色板・石英・骨粉	
108	1/06 89	SD1	X.137Y62上層	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/2	白色板・白色板・石英・骨粉	
109	1/06 89	SD1	X.137Y62中層	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/2	白色板・白色板・石英・骨粉	
110	1/06 89	SD1	X.137Y66	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/2	白色板・白色板・石英・骨粉	
111	1/06 90	SD1	X.131Y65	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/6	白色板・白色板・石英・骨粉	
112	1/06 90	SD1	X.137Y62上層	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/6	白色板・白色板・石英・骨粉	
113	1/06 90	SD1	X.137Y62中層	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/4	白色板・白色板・石英・骨粉	
114	1/06 90	SD1	X.135Y64	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/3	白色板・白色板・石英・骨粉	
115	1/06 90	SD1	X.130Y65	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/3	白色板・白色板・石英・骨粉	
116	1/06 90	SD1	X.137Y62上層	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/4	白色板・白色板・石英・骨粉	
117	1/06 90	SD1	X.130Y66	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/4	白色板・白色板・石英・骨粉	
118	1/06 90	SD1	X.130Y62	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/4	白色板・白色板・石英・骨粉	
119	1/06 90	SD1	X.130Y62	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/3	白色板・白色板・石英・骨粉	
120	1/06 90	SD1	X.135Y62上層	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/2	白色板・白色板・石英・骨粉	
121	1/06 90	SD1	X.135Y62中層	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/4	白色板・白色板・石英・骨粉	
122	1/06 90	SD1	X.135Y63上層	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/3	白色板・白色板・石英・骨粉	
123	1/06 90	SD1	X.137Y62	縄文十點	直筒		直筒	直筒	直筒	直筒	7.5YR7/4	白色板・白色板・石英・骨粉	

第17表 繩文土器・土製品一覧(33)

第17表 繩文土器・土製品一覧(34)

件名	遺物	分類	出土地点	地質	形制	口径	深度(cm)	剖面	型式	断面	断面の特徴	参考
108	1/154 SII	X.13(Y61.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	03Y864	[上:小;下:大]黄色	1/13 - 1/15と同一個部分
115	1/15 SII	X.13(Y61.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	03Y864	[上:小;下:大]黄色	1/13 - 1/15と同一個部分
116	1/15 SII	X.13(Y61.1)解	縄文土器	有孔浅井	縄文土器	有孔浅井	140	直筒	直筒	7/5Y864	[上:小;下:大]黄色	縄文土器・外側に黄色の面が有る
117	1/15 SII	X.13(Y61.1)解	縄文土器	有孔浅井	縄文土器	有孔浅井	149	直筒	直筒	2/5Y861	直筒	外側に黄色の面が有る
118	1/15 SII	X.13(Y61.1)解	縄文土器	有孔浅井	縄文土器	有孔浅井	200	直筒	直筒	7/5Y864	[上:小;下:大]黄色	外側に黄色の面が有る
119	1/15 SII	X.14(Y64.1)解	縄文土器	有孔浅井	縄文土器	有孔浅井	208	直筒	直筒	7/5Y863	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
120	1/15 SII	X.13(Y63.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井	260	直筒	直筒	5/8Y86	直筒	外側に黄色の面が有る
121	1/15 SII	X.13(Y62.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	7/5Y863	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
122	1/161 SII	X.13(Y61.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	7/5Y86	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
123	1/162 SII	X.13(Y63.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	03Y852	直筒	外側に黄色の面が有る
124	1/163 SII	X.13(Y63.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	03Y853	直筒	外側に黄色の面が有る
125	1/164 SII	X.13(Y63.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	7/5Y86	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
126	1/165 SII	X.13(Y62.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	03Y853	直筒	外側に黄色の面が有る
127	1/166 SII	X.13(Y61.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	7/5Y86	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
128	1/167 SII	X.13(Y61.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	7/5Y865	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
129	1/168 SII	X.13(Y60.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井	274	直筒	直筒	03Y873	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
130	1/169 SII	X.13(Y60.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井	139	直筒	直筒	03Y874	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
131	1/170 SII	X.13(Y60.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	10/3Y863	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
132	1/171 SII	X.13(Y61.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	10/3Y874	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
133	1/172 SII	X.13(Y60.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	10/3Y874	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
134	1/173 SII	X.12(Y64.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	7/5Y863	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
135	1/174 SII	X.13(Y64.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	10/3Y874	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
136	1/175 SII	X.13(Y61.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	03Y874	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
137	1/176 SII	X.13(Y58.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	7/5Y86	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
138	1/177 SII	X.13(Y64.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井	284	直筒	直筒	7/5Y861	直筒	外側に黄色の面が有る
139	1/178 SII	X.13(Y61.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井	276	直筒	直筒	03Y881	直筒	外側に黄色の面が有る
140	1/179 SII	X.13(Y62.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	2/5Y86	直筒	外側に黄色の面が有る
141	1/180 SII	X.13(Y60.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	7/5Y863	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
142	1/181 SII	X.13(Y61.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	03Y872	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
143	1/182 SII	X.13(Y62.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	03Y884	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
144	1/183 SII	X.13(Y61.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	10/3Y864	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る
145	1/184 SII	X.13(Y62.1)解	縄文土器	深井	縄文土器	深井		直筒	直筒	10/3Y872	[上:小;下:大]白色	外側に黄色の面が有る

第17表 細文土器・土製品一覧(35)

件名	遺物	写真	出土地点	編文	細類	器種	法長(cm)		時間	形式	出土位置	出土方位	備考
							口径	底径					
111	1185 S01	S01	X.13(Y62)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.1	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
116	93 S01	S01	X.13(Y63)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	75/YE7.3	白色板石灰、骨灰、金芸母 スズ付番
117	93 S01	S01	X.12(Y62)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	75/YE7.4	白色板石灰、骨灰、金芸母 スズ付番
118	93 S01	S01	X.13(Y62)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	75/YE7.5	白色板石灰、骨灰、石灰 スズ付番
118	93 S01	S01	X.13(Y61)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	75/YE7.1	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
119	93 S01	S01	X.13(Y61)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	75/YE7.1	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
120	93 S01	S01	X.13(Y62)	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	75/YE7.2	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
121	93 S01	S01	X.12(Y65)	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.1	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
122	93 S01	S01	X.13(Y61)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	75/YE7.3	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
123	93 S01	S01	X.12(Y64)	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.2	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
124	93 S01	S01	X.12(Y64)	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.1	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
125	93 S01	S01	X.12(Y61)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.2	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
126	93 S01	S01	X.13(Y61)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.3	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
127	93 S01	S01	X.13(Y62)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.4	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
128	93 S01	S01	X.13(Y63)	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.2	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
129	93 S01	S01	X.12(Y64)	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.2	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
130	92 S01	S01	X.13(Y62)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.3	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
131	92 S01	S01	X.13(Y62)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.2	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
132	92 S01	S01	X.13(Y62)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.4	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
133	92 S01	S01	X.13(Y62)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.1	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
134	92 S01	S01	X.13(Y62)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.2	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
135	92 S01	S01	X.13(Y64)	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.4	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
136	92 S01	S01	X.13(Y62)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.3	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
137	93 S01	S01	X.13(Y65)	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.4	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
138	93 S01	S01	X.13(Y61)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.3	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
139	93 S01	S01	X.13(Y62)	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.1	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
140	93 S01	S01	X.13(Y61)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.3	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
141	93 S01	S01	X.13(Y62)	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.4	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
142	93 S01	S01	X.13(Y65)	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.3	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
143	93 S01	S01	X.13(Y61)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.4	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
144	89 S01	S01	X.13(Y62)	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.3	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
145	89 S01	S01	X.13(Y60)	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.4	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
146	91 S01	S01	X.13(Y61)上地	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.1	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
147	91 S01	S01	X.12(Y60)	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.2	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
148	91 S01	S01	X.12(Y63)	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.2	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番
149	91 S01	S01	X.12(Y64)	編文土器	深鉢				側面素面	側面下短弧	側面下短弧	03/9E7.2	白色板石灰、骨灰、黑、青 スズ付番

第17表 繩文土器・土製品一覧(36)

件名	遺物	分類	出土場所	出土地点	種別	形相	口径	足径	底径	剖面	時間	型式	出土位置	出土方位	備考
11.3	1229.91	SI01	X.123YY66		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.小黄地	白色釉·白色R·石英		
1221.91	SI01	X.13YY57			縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1222.91	SI01	X.13YY61	上層		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1223.91	SI01	X.13YY62	下層		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1224.91	SI01	X.13YY63	中層		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1225.91	SI01	X.13YY63	上層		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1226.91	SI01	X.13YY63	中層		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1227.91	SI01	X.12YY63	中層		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1228.91	SI01	X.12YY62	上層		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1229.93	SI01	X.13YY63	上層		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1230.93	SI01	X.13YY63	上層		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1231.93	SI01	X.13YY66	上層		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1232.93	SI01	X.13YY63	上層		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1233.93	SI01	X.13YY57	上層		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1234.93	SI01	X.13YY61	上層		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1235.93	SI01	X.12YY63	上層		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1236.93	SI01	X.13YY63	上層		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1237.93	SI01	X.12YY63	上層		縄文土器	直筒				直筒直腹		11.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1238.94	SI01	X.13YY63	上層	X.126.60	縄文土器	直筒	26.0			中筒直腹	新作式	10.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1239.94	SI01	X.13YY39	上層	X.123.160	縄文土器	直筒	26.2			中筒直腹	新作式	10.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1240.37	SI01	X.13YY64	上層	X.123.161	縄文土器	直筒	31.8			中筒直腹	新作式	10.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1241.94	SI01	X.13YY63	上層	X.126.163	縄文土器	直筒	33.2			中筒直腹	新作式	10.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1242.94	SI01	X.12YY62			縄文土器	直筒	26.4			中筒直腹	新作式	10.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1243.94	SI01	X.12YY64			縄文土器	直筒	21.8			中筒直腹	新作式	10.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1244.94	SI01	X.12YY63			縄文土器	直筒				中筒直腹	新作式	25.3.白色	白色釉·白色R·石英		
1245.94	SI01	X.13YY39	上層	X.123.160	縄文土器	直筒				中筒直腹	新作式	10.3.白色	白色釉·白色R·石英		
11.5	1246.34	SI01	X.13YY62	中層	X.123.162	縄文土器				(10.3.中筒直腹)	新作式	7.5.白色	白色·青白	石英·青白	
11.6	1247.38	SI01	X.13YY63	中層	X.123.163	縄文土器				(10.3.中筒直腹)	新作式	7.5.白色	白色·青白	石英·青白	

第17表 細文土器・土製品一覧(37)

件名	出土地点	層位	形状	基部	径幅(cm)		時間	形式	出土位置	出土時間	備考
					上部	底部					
117 1248 38 SII-1	X.133Y62-上層 X.133Y62-下層	縄文土器	直筒	30.3	中前期	直筒	7.5YRC3	上部白色 骨付	中前期白色 骨付	7.5YRC3	上部白色 骨付
1249 38 SII-1	X.133Y62-中層	縄文土器	直筒	28.0	25.5	中期後期	5YRC6	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	5YRC6	中前期白色 骨付
1250 34 SII-1	X.133Y62-中層	縄文土器	直筒	16.0	中期後期	直筒	7.5YRC4	上部白色 骨付	中前期白色 骨付	7.5YRC4	上部白色 骨付
1251 34 SII-1	X.133Y62-中層	縄文土器	直筒	11.4	中期後期	直筒	7.5YRC6	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	7.5YRC6	中前期白色 骨付
1252 34 SII-1	X.133Y62-中層	縄文土器	直筒	中前期	直筒	直筒	0YRC4	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC4	中前期白色 骨付
1253 34 SII-1	X.133Y62-中層	縄文土器	直筒	中前期	直筒	直筒	2.5YRC2	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	2.5YRC2	中前期白色 骨付
1254 34 SII-1	X.133Y62-中層	縄文土器	直筒	中前期	直筒	直筒	0YRC2	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC2	中前期白色 骨付
1255 34 SII-1	X.133Y62-中層	縄文土器	直筒	22.8	中期後期	直筒	0YRC6	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC6	中前期白色 骨付
1256 34 SII-1	X.133Y62-中層	縄文土器	直筒	41.0	中期後期	直筒	0YRC2	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC2	中前期白色 骨付
118 1267 34 SII-1	X.133Y62- X.133Y57上層	縄文土器	直筒	49.6	中期後期	直筒	0YRC4	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC4	中前期白色 骨付
1258 34 SII-1	X.133Y62-中層	縄文土器	直筒	31.6	中期後期	直筒	0YRC2	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC2	中前期白色 骨付
1259 34 SII-1	X.133Y62-中層	縄文土器	直筒	27.3	中期後期	直筒	7.5YRC2	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	7.5YRC2	中前期白色 骨付
1260 34 SII-1	X.133Y62-中層	縄文土器	直筒	中前期	直筒	直筒	0YRC3	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC3	中前期白色 骨付
1261 38 SII-1	X.133Y58	縄文土器 (直筒輪廓) 有孔	直筒	5.4	7.7	中期後期	直筒	白色-石英-實母	白色-石英-實母	0YRC2	白色-石英-實母
1262 35 SII-1	X.133Y60-中層	縄文土器	直筒	27.0	中期後期	直筒	0YRC3	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC3	中前期白色 骨付
1263 36 SII-1	X.133Y60-中層	縄文土器	直筒	31.6	中期後期	直筒	0YRC6	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC6	中前期白色 骨付
1264 35 SII-1	X.133Y58-X.133Y57	縄文土器	直筒	43.7	中期後期	直筒	0YRC2	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC2	中前期白色 骨付
1265 35 SII-1	X.133Y63-上層	縄文土器 (直筒輪廓) 有孔	直筒	51.2	中期後期	直筒	7.5YRC1	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	7.5YRC1	中前期白色 骨付
119 1266 35 SII-1	X.133Y63-中層	縄文土器	直筒	22.0	中期後期	直筒	0YRC3	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC3	中前期白色 骨付
1267 35 SII-1	X.133Y60-中層	縄文土器	直筒	27.8	中期後期	直筒	0YRC6	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC6	中前期白色 骨付
1268 35 SII-1	X.133Y60-中層	縄文土器	直筒	32.2	中期後期	直筒	0YRC6	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC6	中前期白色 骨付
1269 35 SII-1	X.133Y61-上層	縄文土器	直筒	18.2	中期後期	直筒	0YRC3	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC3	中前期白色 骨付
1270 38 SII-1	X.133Y61-上層	縄文土器	直筒	17.2	中期後期	直筒	7.5YRC4	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	7.5YRC4	中前期白色 骨付
1271 32 SII-1	X.122-~123Y63	縄文土器	直筒	15.0	13.2	中期後期	0YRC4	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC4	中前期白色 骨付
1272 35 SII-1	X.133Y60-中層	縄文土器	直筒	13.7	中期後期	直筒	0YRC3	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC3	中前期白色 骨付
1273 36 SII-1	X.133Y60-中層	縄文土器	直筒	10.0	中期後期	直筒	0YRC2	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC2	中前期白色 骨付
1274 35 SII-1	X.133Y60-X.133Y70	縄文土器	直筒	34.0	中期後期	直筒	0YRC3	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC3	中前期白色 骨付
1275 37 SII-1	X.133Y60-X.133Y60-中層	縄文土器	直筒	38.2	中期後期	直筒	0YRC4	中前期白色 骨付	中前期白色 骨付	0YRC4	中前期白色 骨付

第17表 繩文土器・土製品一覧(38)

種類	遺跡	分類	出土地点	地質	形態	口径 (cm)	底径	時間	型式	出土位置	地色	性状	備考	
繩文	遺跡	円筒	X132Y60 1号・下層	X132Y60/35	圓文十點	深鉢	43.6	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR6/4	上・中腹	白色灰・石英・尾端切削	
121	1276	38	SII-1	X132Y60 1号・下層 X132Y57 中-下層	X132Y58 断面	圓文十點	深鉢	48.4	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR6/4	上・中腹	白色灰・石英・尾端切削
121	1277	25*	SII-1	X132Y60 1号	X132Y61 F層	圓文十點	深鉢	31.6	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR6/4	上・中腹	白色灰・石英・尾端切削
122	1278	39	SII-1	X132Y60 1号	X132Y60 1号	圓文十點	深鉢	43.0	中腹	中期	上田山・天狗山	5YR7.8	全体	白色灰・石英・尾端切削
123	1280	35	SII-1	X132Y57	X132Y56 上層	圓文十點	深鉢	30.6	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR6/2	底部	白色灰・石英・尾端切削
1281	1280	39	SII-1	X132Y60 1号	X132Y60 1号	圓文十點	深鉢	32.5	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR6/4	全体	白色灰・石英・尾端切削
1282	1280	39	SII-1	X132Y60 1号	X132Y60 1号	圓文十點	深鉢	42.6	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR6/3	上・中腹	白色灰・石英・尾端切削
124	1280	17*	SII-1	X132Y65	X137Y62 1層	圓文十點	深鉢	46.5	中腹	中期	上田山・天狗山	5YR6/6	全体	白色灰・石英・石英・尾端切削
125	1284	95	SII-1	X132Y58 上層	X132Y58	圓文十點	深鉢	25.8	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR6/6	全体	白色灰・石英・石英・尾端切削
1285	1286	96	SII-1	X132Y58 1号	X132Y58 1号	圓文十點	深鉢	14.2	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR6/3	上・中腹	白色灰・石英・石英・尾端切削
1286	1285	95	SII-1	X132Y58	X132Y58	圓文十點	深鉢	16.4	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR6/4	全体	白色灰・石英・石英・尾端切削
1287	1285	95	SII-1	X132Y60 1号	X132Y60 1号	圓文十點	深鉢	59.2	中腹	中期	上田山・天狗山	5YR7.2	全体	白色灰・石英・石英・尾端切削
1288	1286	96	SII-1	X132Y59	X132Y60 X130Y55	圓文十點	深鉢	30.5	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR7.3	上・中腹	白色灰・石英・尾端切削
1289	1286	40	SII-1	X132Y60 1号	X132Y61 1号	圓文十點	深鉢	27.5	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR6/2	全体	白色灰・石英・尾端切削
1290	1286	40	SII-1	X132Y60 1号	X132Y60 1号	圓文十點	深鉢	33.4	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR7.3	上・中腹	白色灰・石英・尾端切削
1291	1287	40	SII-1	X132Y62	X132Y61 X132Y62	圓文十點	深鉢	37.4	小腹	中期	上田山・天狗山	5YR7.6	全体	白色灰・石英・石英・尾端切削
1292	1287	41	SII-1	X131Y60 1号	X131Y60 1号	圓文十點	深鉢	11.5	K1	中期	上田山・天狗山	7.5YR6/3	上・中腹	白色灰・石英・尾端切削
1293	1287	24*	SII-1	X132Y60 1号	X132Y61 1号	圓文十點	深鉢	26.7	中腹	中期～早期	上田山・天狗山	7.5YR7.4	全体	白色灰・石英・石英・尾端切削
1294	1286	41	SII-1	X132Y60 1号	X132Y61 1号	圓文十點	深鉢	19.6	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR7.4	上・中腹	白色灰・石英・石英・尾端切削
1295	1286	41	SII-1	X132Y60 1号	X132Y61 1号	圓文十點	深鉢	21.0	中腹	中期	上田山・天狗山	5YR7.3	上・中腹	白色灰・石英・石英・尾端切削
1296	1287	36	SII-1	X132Y62 1号	X132Y62 1号	圓文十點	深鉢	27.6	中腹	中期	上田山・天狗山	5YR7.4	上・中腹	白色灰・石英・石英・尾端切削
1297	1288	41	SII-1	X132Y60 1号	X132Y61 1号	圓文十點	台付鉢	24.8	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR6/2	全体	白色灰・石英・尾端切削
1298	1289	36	SII-1	X132Y60 1号	X132Y61 1号	圓文十點	台付鉢	27.4	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR6/2	全体	白色灰・石英・尾端切削
1299	1289	36	SII-1	X132Y60 1号	X132Y61 1号	圓文十點	台付鉢	42.0	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR7.4	全体	白色灰・石英・石英・尾端切削
1300	1290	36	SII-1	X132Y60 1号	X132Y61 1号	圓文十點	台付鉢	37.4	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR6/3	上・中腹	白色灰・石英・石英・尾端切削
1301	1291	42	SII-1	X132Y60 1号	X132Y61 1号	圓文十點	台付鉢	21.0	K1	中期	上田山・天狗山	7.5YR6/3	上・中腹	白色灰・石英・石英・尾端切削
1302	1291	36	SII-1	X132Y60 1号	X132Y61 1号	圓文十點	台付鉢	37.5	中腹	中期	上田山・天狗山	7.5YR7.2	上・中腹	白色灰・石英・石英・尾端切削

第17表 細文土器・土製品一覧(39)

種別	遺物	写真	出土地点	層別	層別	層別	器形	径幅(cm)	口径	底面	時間	類別	出土位置	出土方位	備考	
131	1404-96	S01	X132Y59 F層	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	30.0	中周子窓	上山田・天山山地	7.5KTC-6	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
132	1405-96	S01	X132Y60 縄	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	30.0	中周子窓	上山田・天山山地	7.5KTC-3	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹			
133	1406-25	S01	X132Y60 X133Y60	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	30.0	中周子窓	上山田・天山山地	5YR6.6	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
132	1406-42	S01	X132Y60 X133Y60	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	30.0	中周子窓	上山田・天山山地	5YR6.3	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
133	1407-97	S01	X132Y61 F層	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	30.0	中周子窓	上山田・天山山地	5YR6.3	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
130	1408-97	S01	X132Y60 F層 X132Y61 F層	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	30.2	中周子窓	上山田・天山山地	5YR6.6	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
130	1408-97	S01	X132Y60 F層	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	41.0	中周子窓	上山田・天山山地	5YR7.6	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
131	1409-97	S01	X132Y60 F層	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	41.6	中周子窓	上山田・天山山地	5YR6.3	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
131	1410-97	S01	X132Y60 F層	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	41.6	中周子窓	上山田・天山山地	5YR6.2	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
131	1411-97	S01	X132Y62 F層	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	41.6	中周子窓	上山田・天山山地	5YR6.2	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
132	1412-97	S01	X132Y65 F層	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	41.6	中周子窓	上山田・天山山地	5YR7.2	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
132	1412-97	S01	X132Y66 F層	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	41.6	中周子窓	上山田・天山山地	5YR7.2	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
134	1414-97	S01	X132Y62 X132Y63 X132Y64	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	40.0	中周子窓	小野川	5YR6.3	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
135	1415-42	S01	X132Y60 F層	縄文土器	深鉢	深鉢	深鉢	43.0	中周子窓	小野川	5YR7.1	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
135	1416-42	S01	X132Y62 X128Y63 X128Y64	縄文土器	深鉢	深鉢	深鉢	38.8	中周子窓	小野川	5YR5.2	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
135	1417-42	S01	X129Y63 X129Y64	縄文土器	深鉢	深鉢	深鉢	48.0	中周子窓	小野川	5YR6.6	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
138	1418-42	S01	X132Y60 F層	縄文土器	深鉢	深鉢	深鉢	48.3	中周子窓	小野川	5YR7.3	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
136	1419-98	S01	X132Y61 F層 X132Y62 F層	縄文土器	深鉢	深鉢	深鉢	50.6	中周子窓	小野川	5YR6.2	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
139	1420-97	S01	X132Y61 F層 X132Y62 F層	縄文土器	深鉢	深鉢	深鉢	52.6	中周子窓	小野川	5YR7.2	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
140	1421-97	S01	X132Y60 F層	縄文土器	深鉢	深鉢	深鉢	53.6	中周子窓	小野川	5YR7.3	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
141	1422-43	S01	X131Y60 F層 X131Y61 F層	縄文土器	深鉢	深鉢	深鉢	57.6	中周子窓	小野川	5YR7.2	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
142	1423-98	S01	X132Y62 F層	縄文土器	深鉢	深鉢	深鉢	57.6	中周子窓	小野川	5YR7.2	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
143	1424-98	S01	X131Y60 F層	縄文土器	深鉢	深鉢	深鉢	57.6	中周子窓	小野川	5YR7.2	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
144	1425-98	S01	X132Y60 F層	縄文土器	深鉢	深鉢	深鉢	57.6	中周子窓	小野川	5YR7.2	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
145	1426-98	S01	X131Y60 F層	縄文土器	深鉢	深鉢	深鉢	57.6	中周子窓	小野川	5YR7.2	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
146	1427-98	S01	X132Y60 F層	縄文土器	深鉢	深鉢	深鉢	57.6	中周子窓	小野川	5YR7.2	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
147	1428-43	S01	X132Y60 F層	縄文土器	長輪2D	長輪2D	長輪2D	58.0	中周子窓	小野川	5YR7.2	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
148	1429-98	S01	X132Y60 F層 X132Y61 F層	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	48.2	中周子窓	小野川	5YR7.2	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
149	1430-98	S01	X132Y60 F層 X132Y61 F層	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	50.6	中周子窓	小野川	5YR7.6	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
150	1431-98	S01	X132Y60 F層 X132Y61 F層	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	50.6	中周子窓	小野川	5YR7.2	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
151	1432-43	S01	X132Y60 F層 X132Y61 F層	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	50.6	中周子窓	小野川	5YR6.4	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		
152	1433-43	S01	X132Y60 F層 X132Y61 F層	縄文土器	竹付鉢	竹付鉢	竹付鉢	50.6	中周子窓	小野川	5YR6.4	船形	白色灰・石英・骨・青	通透孔・小孔・口縁内凹		

第17表 繩文土器・土製品一覧(40)

件名	遺物 名前	通路	出土點	地質	形態	口径 (cm)	底面	内面	外觀	断面	参考
139	1/24 08	SII	X.127Y564	縄文土器	台付鉢	264	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
140	1/26 08	SII	X.129Y139	縄文土器	台付鉢	256	中面-底面	中面-底面	白色灰-骨粉-青母	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
141	1/26 08	SII	X.129Y90 1号	縄文土器	台付鉢	286	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
142	1/28 100	SII	X.132Y160 1号	縄文土器	直鉢	264	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
143	1/28 100	SII	X.131Y160 1号	縄文土器	直鉢	316	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
144	1/29 09	SII	X.127Y56 2号	縄文土器	直鉢	41.6	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
145	1/41 43	SII	X.125Y60 1号	縄文土器	直鉢	35.0	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
146	1/42 43	SII	X.125Y60 2号	縄文土器	直鉢	35.0	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
147	1/43 09	SII	X.125Y60 3号	縄文土器	直鉢	35.0	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
148	1/44 09	SII	X.125Y60 4号	縄文土器	直鉢	35.0	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
149	1/45 09	SII	X.125Y60 5号	縄文土器	直鉢	35.0	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
150	1/46 09	SII	X.125Y60 6号	縄文土器	直鉢	35.0	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
151	1/47 09	SII	X.125Y60 7号	縄文土器	直鉢	35.0	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
152	1/48 44	SII	X.129Y29 1号	縄文土器	直鉢	37.2	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
153	1/49 44	SII	X.129Y29 2号	縄文土器	直鉢	35.6	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
154	1/50 09	SII	X.125Y61 1号	縄文土器	直鉢	43.6	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
155	1/50 09	SII	X.125Y61 2号	縄文土器	直鉢	43.2	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
156	1/50 09	SII	X.125Y61 3号	縄文土器	直鉢	38.4	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
157	1/51 09	SII	X.125Y61 4号	縄文土器	直鉢	37.2	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
158	1/52 09	SII	X.125Y61 5号	縄文土器	直鉢	35.6	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
159	1/53 09	SII	X.125Y61 6号	縄文土器	直鉢	35.6	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
160	1/54 44	SII	X.125Y61 7号	縄文土器	直鉢	34.0	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
161	1/55 44	SII	X.125Y61 8号	縄文土器	直鉢	34.2	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
162	1/56 100	SII	X.125Y60 1号	縄文土器	直鉢	43.8	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
163	1/57 100	SII	X.125Y61 1号	縄文土器	直鉢	30.7	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
164	1/58 44	SII	X.125Y60 2号	縄文土器	直鉢	24.6	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
165	1/59 44	SII	X.125Y60 3号	縄文土器	直鉢	33.8	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
166	1/60 101	SII	X.125Y60 4号	縄文土器	直鉢	33.6	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
167	1/60 44	SII	X.125Y60 5号	縄文土器	直鉢	23.2	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
168	1/61 44	SII	X.125Y60 6号	縄文土器	直鉢	28.4	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色
169	1/62 44	SII	X.125Y60 7号	縄文土器	直鉢	31.0	中面-底面	中面-底面	白色灰-石英-骨粉-黑	白色灰-石英-骨粉-黑	深灰色

第17表 細文土器・土製品一覧(41)

番号	遺物	名前	固有	出土地点	層位	種類	直徑	底面	口径	底面	直徑	底面	口径	底面	直式	底式	底式	底式	備考
147	1/803	SD1	X.329/62		縄文土器	竹竹林	27.0	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	上山田・天神山・古伊吹	27.0	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	入又付箋	
1564	101	SD1	X.327/60 F	縄文土器	竹竹林	27.0	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	上山田・天神山・古伊吹	27.0	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	入又付箋		
1265	101	SD1	X.327/63下層	縄文土器	竹竹林	30.2	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	上山田・天神山・古伊吹	30.2	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	入又付箋		
148	1/866	SD1	X.329/60 X.329/61 X.327/60 F	縄文土器	竹竹林	27.0	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	上山田・天神山・古伊吹	27.0	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	入又付箋		
1567	101	SD1	X.329/60 X.329/61 X.327/60 F	縄文土器	竹竹林	29.8	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	上山田・天神山・古伊吹	29.8	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	入又付箋		
1568	45	SD1	X.327/60 F	縄文土器	竹竹林	26.1	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	上山田・天神山・古伊吹	26.1	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	入又付箋		
1569	45	SD1	X.327/60 F	縄文土器	竹竹林	37.5	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	上山田・天神山・古伊吹	37.5	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	入又付箋		
1570	101	SD1	X.327/59 F	縄文土器	竹竹林	19.6	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	上山田・天神山・古伊吹	19.6	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	入又付箋		
1571	101	SD1	X.327/62 F	縄文土器	毛鉢	48.0	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	上山田・天神山・古伊吹	48.0	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	入又付箋		
1572	45	SD1	X.327/60 F	縄文土器	毛鉢	40.6	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	上山田・天神山・古伊吹	40.6	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	入又付箋		
1573	101	SD1	X.327/60 X.327/61 F	縄文土器	毛鉢	31.0	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	上山田・天神山・古伊吹	31.0	中間小壺	上山田・天神山・古伊吹	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	入又付箋		
1574	101	SD1	X.327/60 F	縄文土器	竹竹林	13.4	中間中壺	上山田・天神山・古伊吹	上山田・天神山・古伊吹	13.4	中間中壺	上山田・天神山・古伊吹	10Y86.2	10Y86.2	10Y86.2	10Y86.2	入又付箋		
1575	101	SD1	X.329/59	縄文土器	毛鉢	35.5	中間中壺	上山田・天神山・古伊吹	上山田・天神山・古伊吹	35.5	中間中壺	上山田・天神山・古伊吹	10Y86.2	10Y86.2	10Y86.2	10Y86.2	入又付箋		
149	1/76	SD1	X.329/70	縄文土器	毛鉢	20.0	中間後壺	古伊吹断式	古伊吹断式	20.0	中間後壺	古伊吹断式	10Y87.3	10Y87.3	10Y87.3	10Y87.3	入又付箋		
1577	102	SD1	X.329/70	縄文土器	毛鉢	27.7	中間後壺	古伊吹断式	古伊吹断式	27.7	中間後壺	古伊吹断式	10Y87.4	10Y87.4	10Y87.4	10Y87.4	入又付箋		
1578	45	SD1	X.327/30 F	縄文土器	毛鉢	34.0	中間後壺	古伊吹断式	古伊吹断式	34.0	中間後壺	古伊吹断式	10Y87.4	10Y87.4	10Y87.4	10Y87.4	入又付箋		
1579	102	SD1	X.329/63	縄文土器	毛鉢	36.0	中間後壺	古伊吹断式	古伊吹断式	36.0	中間後壺	古伊吹断式	10Y86.6	10Y86.6	10Y86.6	10Y86.6	入又付箋		
1580	102	SD1	X.329/64	縄文土器	毛鉢	35.6	中間後壺	古伊吹断式	古伊吹断式	35.6	中間後壺	古伊吹断式	10Y86.6	10Y86.6	10Y86.6	10Y86.6	入又付箋		
1581	45	SD1	X.327/63 F	縄文土器	毛鉢	26.0	中間後壺	古伊吹断式	古伊吹断式	26.0	中間後壺	古伊吹断式	10Y85.1	10Y85.1	10Y85.1	10Y85.1	入又付箋		
1582	102	SD1	X.329/38	縄文土器	毛鉢	26.2	中間後壺	古伊吹断式	古伊吹断式	26.2	中間後壺	古伊吹断式	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	入又付箋		
1583	102	SD1	X.327/63	縄文土器	毛鉢	26.5	中間後壺	古伊吹断式	古伊吹断式	26.5	中間後壺	古伊吹断式	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	入又付箋		
1584	102	SD1	X.327/61 F	縄文土器	毛鉢	26.5	中間後壺	古伊吹断式	古伊吹断式	26.5	中間後壺	古伊吹断式	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	入又付箋		
1585	102	SD1	X.329/64	縄文土器	毛鉢	22.7	中間後壺	古伊吹断式	古伊吹断式	22.7	中間後壺	古伊吹断式	10Y87.2	10Y87.2	10Y87.2	10Y87.2	入又付箋		
1586	102	SD1	X.327/64	縄文土器	毛鉢	58.4	中間後壺	古伊吹断式	古伊吹断式	58.4	中間後壺	古伊吹断式	10Y86.6	10Y86.6	10Y86.6	10Y86.6	入又付箋		
1587	102	SD1	X.311/60	縄文土器	毛鉢	20.0	中間後壺	古伊吹断式	古伊吹断式	20.0	中間後壺	古伊吹断式	10Y87.3	10Y87.3	10Y87.3	10Y87.3	入又付箋		
1588	102	SD1	X.327/60 X.327/61 F	縄文土器	毛鉢	26.5	中間後壺	古伊吹断式	古伊吹断式	26.5	中間後壺	古伊吹断式	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	入又付箋		
1589	102	SD1	X.329/61	縄文土器	毛鉢	17.6	中間後壺	古伊吹断式	古伊吹断式	17.6	中間後壺	古伊吹断式	10Y87.3	10Y87.3	10Y87.3	10Y87.3	入又付箋		
151	1/809	111	SD1	X.329/70 X.327/60 F	縄文土器	毛鉢	44.6	中間小壺	古伊吹断式	古伊吹断式	44.6	中間小壺	古伊吹断式	7.5Y86.4	7.5Y86.4	7.5Y86.4	7.5Y86.4	入又付箋	
1510	111	SD1	X.329/70 X.327/60 F	縄文土器	毛鉢	19.0	中間小壺	古伊吹断式	古伊吹断式	19.0	中間小壺	古伊吹断式	10Y86.2	10Y86.2	10Y86.2	10Y86.2	入又付箋		
1512	102	SD1	X.327/60 F	縄文土器	毛鉢	26.5	中間小壺	古伊吹断式	古伊吹断式	26.5	中間小壺	古伊吹断式	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	10Y86.4	入又付箋		

第17表 繩文土器・土製品一覧(42)

件名	位置	形状	出土地点	種類	形相	口径	底径	高さ	時間	形式	出土位置	出土物性	備考
I32 1.207 111 SII	弓張	圓文土器	X.132Y60	圓文土器	圓文土器	直径	17.0	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I36 1.207 115 SII	弓張	圓文土器	X.129Y60	圓文土器	圓文土器	直徑	22.2	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、石英、骨粉	又六付番
I36 1.205 111 SII	弓張	圓文土器	X.125Y60	圓文土器	圓文土器	直徑	18.5	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I36 1.206 111 SII	弓張	圓文土器	X.133Y60~下附	圓文土器	圓文土器	直徑	18.5	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I36? 1.207 111 SII	弓張	圓文土器	X.120Y70	圓文土器	圓文土器	直徑	18.5	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I38 1.208 111 SII	弓張	圓文土器	X.129Y60	圓文土器	圓文土器	直徑	23.7	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I38 1.209 115 SII	弓張	圓文土器	X.129Y60	圓文土器	圓文土器	直徑	23.0	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I40 1.209 116 SII	弓張	圓文土器	X.129Y64	圓文土器	圓文土器	直徑	23.0	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I40 1.209 116 SII	弓張	圓文土器	X.127Y63	圓文土器	圓文土器	直徑	23.5	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I42 1.202 116 SII	弓張	圓文土器	X.129Y63	圓文土器	圓文土器	直徑	21.4	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I54 1.207 102 SII	弓張	圓文土器	X.129Y63	圓文土器	圓文土器	直徑	26.2	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I40 1.202 102 SII	弓張	圓文土器	X.129Y64	圓文土器	圓文土器	直徑	41.6	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I40 1.202 102 SII	弓張	圓文土器	X.129Y64	圓文土器	圓文土器	直徑	36.8	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I46 1.202 102 SII	弓張	圓文土器	X.129Y64	圓文土器	圓文土器	直徑	39.6	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I47 1.202 102 SII	弓張	圓文土器	X.129Y64	圓文土器	圓文土器	直徑	21.8	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I48 1.202 102 SII	弓張	圓文土器	X.129Y63	圓文土器	圓文土器	直徑	21.4	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I49 1.202 102 SII	弓張	圓文土器	X.129Y62	圓文土器	圓文土器	直徑	21.2	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I49 1.202 102 SII	弓張	圓文土器	X.129Y64	圓文土器	圓文土器	直徑	19.8	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I51 1.202 102 SII	弓張	圓文土器	X.129Y63	圓文土器	圓文土器	直徑	19.6	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I55 1.212 116 SII	弓張	圓文土器	X.129Y63	圓文土器	圓文土器	直徑	27.0	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I53 1.209 116 SII	弓張	圓文土器	X.129Y63	圓文土器	圓文土器	直徑	27.7	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I54 1.209 116 SII	弓張	圓文土器	X.129Y63	圓文土器	圓文土器	直徑	34.6	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I55 1.209 116 SII	弓張	圓文土器	X.129Y63	圓文土器	圓文土器	直徑	36.6	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I56 1.209 116 SII	弓張	圓文土器	X.129Y63	圓文土器	圓文土器	直徑	34.0	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I56 1.217 103 SII	弓張	圓文土器	X.129Y63	圓文土器	圓文土器	直徑	25.9	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I58 1.208 103 SII	弓張	圓文土器	X.129Y60	圓文土器	圓文土器	直徑	26.8	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I59 1.203 103 SII	弓張	圓文土器	X.129Y62	圓文土器	圓文土器	直徑	27.5	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I60 1.203 103 SII	弓張	圓文土器	X.129Y60	圓文土器	圓文土器	直徑	36.6	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I61 1.203 103 SII	弓張	圓文土器	X.129Y65	圓文土器	圓文土器	直徑	36.0	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I61 1.203 103 SII	弓張	圓文土器	X.129Y65	圓文土器	圓文土器	直徑	36.0	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I62 1.207 103 SII	弓張	圓文土器	X.129Y61	圓文土器	圓文土器	直徑	26.8	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I62 1.207 47 SII	弓張	圓文土器	X.129Y59	圓文土器	圓文土器	直徑	30.7	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I63 1.207 103 SII	弓張	圓文土器	X.129Y60	圓文土器	圓文土器	直徑	33.4	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I64 1.207 103 SII	弓張	圓文土器	X.129Y62	圓文土器	圓文土器	直徑	34.8	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I65 1.207 103 SII	弓張	圓文土器	X.129Y62	圓文土器	圓文土器	直徑	37.0	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I66 1.209 103 SII	弓張	圓文土器	X.110Y63	NEJ-19 T16	圓文土器	直徑	33.4	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I67 1.209 103 SII	弓張	圓文土器	X.122Y65	圓文土器	圓文土器	直徑	34.8	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I68 1.209 103 SII	弓張	圓文土器	X.120Y62	圓文土器	圓文土器	直徑	36.8	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	
I69 1.208 103 SII	弓張	圓文土器	X.129Y63	圓文土器	圓文土器	直徑	36.8	中底部	I.4.8.5.6	DYER2	上:小、黃褐色	本色灰、白色灰、石英	

第17表 繩文土器・土製品一覧(43)

第17表 繩文土器・土製品一覧(44)

件名	遺物	名前	出土地点	種類	形相	口径	底径	高さ	時間	型式	出土位置	出土の状態	備考
I62	1/56 1/66 1/67	SII-12 SII-12 SII-12	X.127Y60 X.129Y62 X.129Y63	縄文十點	直筒	37.6	37.6	11.0	中期玉器	直山式	白色灰・石英・骨片	底面削	
I63	1/69 1/70	SII-11 SII-11	X.129Y57 X.129Y57	縄文十點	直筒	21.6	11.4	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I64	1/69 1/71	SII-11 SII-11	X.129Y63 X.129Y62	縄文十點	直筒	21.0	28.1	11.4	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I65	1/62 1/63	SII-12 SII-12	X.129Y62 X.127Y60	縄文十點	直筒	22.0	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I66	1/63 1/64	SII-12 SII-12	X.127Y60 X.129Y62	縄文十點	直筒	19.8	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I67	1/63 1/69	SII-11 SII-11	X.127Y60 X.127Y60	縄文十點	直筒	26.5	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I68	1/64 1/65	SII-11 SII-11	X.129Y62 X.127Y63	縄文十點	直筒	27.5	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I69	1/66 1/67	SII-12 SII-12	X.129Y62 X.129Y64	縄文十點	直筒	27.0	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I70	1/68 1/69	SII-11 SII-11	X.129Y61 X.129Y64	縄文十點	直筒	31.4	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I71	1/70 1/71	SII-11 SII-11	X.127Y61 X.127Y61	縄文十點	直筒	27.7	26.7	11.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I72	1/72 1/73	SII-11 SII-11	X.129Y63 X.129Y62	縄文十點	直筒	27.0	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I73	1/73 1/74	SII-11 SII-11	X.127Y61 X.129Y61	縄文十點	直筒	27.0	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I74	1/72 1/75	SII-11 SII-11	X.129Y63 X.129Y62	縄文十點	直筒	19.0	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I75	1/76 1/77	SII-11 SII-11	X.129Y65 X.127Y63	縄文十點	直筒	24.1	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I76	1/73 1/78	SII-11 SII-11	X.129Y62 X.129Y62	縄文十點	直筒	25.8	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I77	1/77 1/78	SII-11 SII-11	X.127Y63 X.129Y62	縄文十點	直筒	21.6	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I78	1/78 1/79	SII-11 SII-11	X.129Y62 X.129Y61	縄文十點	直筒	26.6	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I79	1/79 1/80	SII-11 SII-11	X.129Y62 X.127Y61下脚	縄文十點	直筒	21.1	24.3	11.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I80	1/80 1/81	SII-11 SII-11	X.129Y62 X.129Y60上脚	縄文十點	直筒	18.9	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I81	1/81 1/82	SII-11 SII-11	X.129Y60上脚 X.129Y62	縄文十點	直筒	18.6	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I82	1/82 1/83	SII-11 SII-11	X.129Y62 X.129Y62	縄文十點	直筒	21.0	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I83	1/83 1/84	SII-11 SII-11	X.129Y62 X.129Y62	縄文十點	直筒	26.2	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	
I84	1/84 1/85	SII-11 SII-11	X.129Y62 X.129Y62	縄文十點	直筒	20.2	11.0	6.0	中期玉器	直山式	白色灰・白色灰・石英	底面削	

第17表 細文土器・土製品一覧(45)

件名	遺物	写真	出土地点	編文	編文小類	個数	器種	口径	底面	高さ	時間	形式	出土位置	出土方位	備考
166	164 131	SII-1	X-129Y63 X-128Y63 X-128Y64	編文土器	深鉢	230	中間底盤	中間底盤	中間底盤	236	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.3	上・左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
168	105 105	SII-1	X-129Y63	編文土器	深鉢	236	中間底盤	中間底盤	中間底盤	236	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.2	右	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
168	105 105	SII-1	X-129Y63	編文土器	深鉢	236	中間底盤	中間底盤	中間底盤	236	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.1	右	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
167	105 105	SII-1	X-129Y60	編文土器	深鉢	236	中間底盤	中間底盤	中間底盤	236	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.2	上・左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
168	105 105	SII-1	X-129Y62	編文土器	深鉢	236	中間底盤	中間底盤	中間底盤	236	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.2	左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
169	105 105	SII-1	X-129Y61	編文土器	深鉢	249	中間底盤	中間底盤	中間底盤	249	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.4	上・左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
169	51 51	SII-1	X-129Y62 X-129Y63	編文土器	深鉢	284	中間底盤	中間底盤	中間底盤	307	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.2	上・左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
167	113 113	SII-1	X-129Y64 X-129Y65 X-129Y66	編文土器	深鉢	312	中間底盤	中間底盤	中間底盤	312	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.6	左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
162	112 112	SII-1	X-129Y67	編文土器	深鉢	280	中間底盤	中間底盤	中間底盤	280	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.4	上・左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
169	113 113	SII-1	X-129Y64	編文土器	深鉢	267	中間底盤	中間底盤	中間底盤	267	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.3	上・左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
164	113 113	SII-1	X-129Y63	編文土器	深鉢	272	中間底盤	中間底盤	中間底盤	272	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.2	上・左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
165	51 51	SII-1	X-129Y64	編文土器	深鉢	266	中間底盤	中間底盤	中間底盤	266	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.2	左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
166	113 113	SII-1	X-129Y66	編文土器	深鉢	298	中間底盤	中間底盤	中間底盤	298	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.2	左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
168	106 106	SII-1	X-129Y62	編文土器	深鉢	264	中間底盤	中間底盤	中間底盤	264	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.2	左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
169	106 106	SII-1	X-129Y62	編文土器	深鉢	315	中間底盤	中間底盤	中間底盤	315	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.3	上・左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
169	106 106	SII-1	X-129Y60	編文土器	直付鉢	232	中間底盤	中間底盤	中間底盤	232	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.3	上・左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
160	106 106	SII-1	X-129Y62 X-129Y62 X-129Y61	編文土器	直付鉢	466	中間底盤	中間底盤	中間底盤	466	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.2	左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
150	106 106	SII-1	X-129Y59 X-129Y60 X-129Y60下附	編文土器	深鉢	268	中間底盤	中間底盤	中間底盤	268	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.2	左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
162	106 106	SII-1	X-129Y58 X-129Y58	編文土器	深鉢	236	中間底盤	中間底盤	中間底盤	236	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.3	上・左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
169	102 102	SII-1	X-129Y61 X-129Y62 X-129Y63 下附	編文土器	深鉢	245	中間底盤	中間底盤	中間底盤	245	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.2	上・左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
150	52 52	SII-1	X-129Y61 X-129Y62 X-129Y63 下附	編文土器	深鉢	260	中間底盤	中間底盤	中間底盤	260	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.2	左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
150	52 52	SII-1	X-129Y62 X-129Y62 X-129Y63 F附	編文土器	直付鉢	263	中間底盤	中間底盤	中間底盤	263	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.2	左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
150	52 52	SII-1	X-129Y60 植	編文土器	体	258	中間底盤	中間底盤	中間底盤	258	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.3	左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
150	106 106	SII-1	X-129Y60 植	編文土器	体	248	中間底盤	中間底盤	中間底盤	248	中間底盤	中間底盤～直口式	7.5YR7.2	左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
150	52 52	SII-1	X-129Y60 植	編文土器	体	130	中間底盤	中間底盤	中間底盤	130	中間底盤	中間底盤～直口式	5YR4.3	上・左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
150	52 52	SII-1	X-129Y60 植	編文土器	体	137	中間底盤	中間底盤	中間底盤	137	中間底盤	中間底盤～直口式	5YR4.4	上・左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
170	109 109	SII-1	X-129Y62 X-129Y63	編文土器	直付鉢	228	中間底盤	中間底盤	中間底盤	228	中間底盤	中間底盤～直口式	5YR7.3	上・左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
150	52 52	SII-1	X-129Y62	編文土器	直付鉢	164	中間底盤	中間底盤	中間底盤	164	中間底盤	中間底盤～直口式	5YR7.3	上・左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着
151	52 52	SII-1	X-129Y61 X-129Y61	編文土器	直付鉢	136	中間底盤	中間底盤	中間底盤	136	中間底盤	中間底盤～直口式	5YR7.3	上・左	白色R・石英・ 骨材・ スズ付着

第17表 繩文土器・土製品一覧(46)

件名	通称	形状	出土地点	経年	直径 口径 (cm)	底面 底径 (cm)	内面 内径 (cm)	外周 外径 (cm)	型式	出土状況	出土の状況	参考
170 1512 107 SH1	X.129Y63	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR63	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片・黑 3.7寸直 3.7寸直
170 1513 107 SH1	X.129Y62 X.129Y61	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
170 1514 107 SH1	X.129Y61	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片・石英 3.7寸直 3.7寸直
1515 107 SH1	X.129Y62	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1516 107 SH1	X.129Y62	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1517 107 SH1	X.129Y62	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1518 107 SH1	X.129Y63	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1519 107 SH1	X.129Y62	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1520 107 SH1	X.129Y63	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1521 107 SH1	X.129Y60 1号	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1522 107 SH1	X.129Y60 1号	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1523 107 SH1	X.129Y60	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1524 107 SH1	X.129Y62	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1525 107 SH1	X.129Y60 2号	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR62	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1526 107 SH1	X.129Y61	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR62	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1527 107 SH1	X.129Y65	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR62	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1528 107 SH1	X.129Y60	縄文土器	竹付鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR62	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
171												
1529 108 SH1	X.129Y63	縄文土器	瓦鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR63	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1530 108 SH1	X.129Y65	縄文土器	瓦鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR63	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1531 108 SH1	X.129Y62	縄文土器	瓦鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR63	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1532 108 SH1	X.129Y64 3号	縄文土器	瓦鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR63	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1533 108 SH1	X.129Y62	縄文土器	瓦鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1534 108 SH1	X.129Y64	縄文土器	瓦鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1535 108 SH1	X.129Y62	縄文土器	瓦鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1536 108 SH1	X.129Y62 X.128Y61下	縄文土器	瓦鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
172												
1537 108 SH1	X.129Y65 X.122Y67 X.122Y68	縄文土器	瓦鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR64	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1538 108 SH1	X.127Y62 X.128Y61下	縄文土器	瓦鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR63	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直
1539 109 SH1	X.129Y60	縄文土器	瓦鉢	10.5	13.0	7.5	7.0	13.5	単山断式	01YR62	[上]小黄褐色 [中]灰褐色	赤色粒・石英・骨片 3.7寸直 3.7寸直

第17表 細文土器・土製品一覧(47)

件名	遺物	写真	出土地点	細分	基材	寸法	寸法(cm)	時間	想定	出土位置	出土時間	備考
上部	底面	側面										
172 150 53 SD1	X.122Y136-F型	X.122Y160-F型	縄文土器	瓦片	243	78	100	中期Ⅱ-後期			01YR72	中期Ⅲ-後期
1542 53 SD1	X.121Y136	X.121Y136	縄文土器	瓦片	225	76	44	中期Ⅱ-後期			251YR72	中期Ⅲ-後期
1543 100 SD1	X.122Y131-F型	X.122Y132-F型	縄文土器	瓦片	303		中期Ⅱ-後期				01YR73	中期Ⅲ-後期
1544 108 SD1	X.120Y136		縄文土器	瓦片			60	中期Ⅱ-後期			01YR73	中期Ⅲ-後期
1545 109 SD1	X.120Y132		縄文土器	瓦片			中期Ⅱ-後期				01YR73	中期Ⅲ-後期
1546 109 SD1	X.120Y139	X.120Y140	縄文土器	瓦片	338		中期Ⅱ-後期				251YR6	中期Ⅲ-後期
1547 109 SD1	X.122Y130-F型		縄文土器	瓦片	344		中期Ⅱ-後期				01YR72	中期Ⅲ-後期
1548 109 SD1	X.120Y130		縄文土器	瓦片	206		中期Ⅱ-後期				01YR74	中期Ⅲ-後期
1549 108 SD1	X.120Y160		縄文土器	瓦片	166	66	中期Ⅱ-後期				251YR4	中期Ⅲ-後期
173 150 53 SD1	X.122Y20-F型	X.122Y60-F型	縄文土器	瓦片	260	130	70	中期Ⅱ-後期			251YR6	中期Ⅲ-後期
1551 100 SD1	X.122Y139	X.122Y140	縄文土器	瓦片	400	120	88	中期Ⅱ-後期			251YR2	中期Ⅲ-後期
1552 5 SD1	X.120Y131	(土器形跡)	瓦付土器	瓦付土器	足長さ (土器形跡)	9.7	幅 (土器形跡)	3.5	中期Ⅱ-後期	山田新式	01YR5	中期Ⅲ-後期
1553 7 SD1	X.120Y61	(土器形跡)	把手付土器	把手付土器	長さ (土器形跡)	4.3	幅 (土器形跡)	1.6	中期Ⅱ-後期	山田新式	01YR5	中期Ⅲ-後期
1554 7 SD1	X.120Y61	(土器形跡)	土器	土器			中期Ⅱ-後期				01YR5	中期Ⅲ-後期
1555 110 SD1	X.124Y162		縄文土器	竹形土器	120		中期Ⅱ-後期				01YR5	中期Ⅲ-後期
1556 110 SD1	X.122Y63		縄文土器	竹形土器	170		中期Ⅱ-後期				01YR5	中期Ⅲ-後期
1557 110 SD1	X.122Y63		縄文土器	竹形土器	170		中期Ⅱ-後期				251YR2	中期Ⅲ-後期
1558 110 SD1	X.122Y61		縄文土器	竹形土器	180		中期Ⅱ-後期				01YR72	中期Ⅲ-後期
1559 110 SD1	X.120Y64		縄文土器	竹形土器	220		中期Ⅱ-後期				01YR3	中期Ⅲ-後期
1560 110 SD1	X.122Y63		縄文土器	竹形土器	220		中期Ⅱ-後期				251YR2	中期Ⅲ-後期
174 1561 6 SD1	X.127Y139	-60・61・61-F型	縄文土器	竹形土器	105	262	中期Ⅱ-後期				251YR5	中期Ⅲ-後期
	X.127Y139	-62										
	X.120Y60	X.121Y139-F型										
	X.120Y60	X.121Y139-F型										
	X.122Y139	-60-F型										
	X.123Y139	-60-F型										
175 1562 26 SD1	X.124Y66	X.125Y61-X.125Y65	縄文土器	竹形土器	250	501	中期Ⅱ-後期				01YR73	中期Ⅲ-後期
175 1562 53 SD1												

第17表 繩文土器・土製品一覧(48)

件名	通称	形状	出土地点	種類	口径	底径	高さ	時間	型式	出土位置	出土位置	備考
176 1563 7 SH1	X.125Y60	縹文土器	縹文土器	縹文土器	148	中周底直	角山新式	09Y62.2	縹文底色	白色灰·石英·骨片·黑	7.2.1付番	
1564 7 SH1	X.121Y60	縹文土器	縹文土器	縹文土器	215	中周底直	角山新式	09Y62.3	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1565 7 SH1	X.135Y63上層	縹文土器	縹文土器	縹文土器	45	中周底直	角山新式~箱山式	09Y62.4	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1566 7 SH1	X.129Y63	縹文土器	縹文土器	縹文土器	123	中周底直	角山新式~箱山式	7.2.1付番~7.2.6.1	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1567 7 SH1	X.120Y63	縹文土器	縹文土器	縹文土器	180	中周底直	角山新式~箱山式	09Y63.1	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1568 7 SH1	X.135Y62上層	縹文土器	縹文土器	縹文土器	180	中周底直	角山新式~箱山式	09Y63.4	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1569 7 SH1	X.129Y63	縹文土器	縹文土器	縹文土器	30	中周底直	角山新式~箱山式	09Y63.2	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1570 7 SH1	X.129Y61	縹文土器	縹文土器	縹文土器	38	(6) 中周底直	角山新式	10Y62.2	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1571 6 SH1	X.121Y60~7.0.6	縹文土器	縹文土器	縹文土器	74	2.6) 中周底直	角山新式	10Y62.3	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1572 5 SH1	X.129Y61	縹文土器	縹文土器	縹文土器	74	2.6) 中周底直	角山新式	10Y62.2	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1573 7 SH1	X.135Y60上層	縹文土器	縹文土器	縹文土器	38	中周底直	角山新式	10Y62.2	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1574 7 SH1	X.129Y60	縹文土器	縹文土器	縹文土器	92	中周底直	角山新式	10Y62.2	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1575 7 SH1	X.127Y58	縹文土器	縹文土器	縹文土器	30	中周底直	角山新式	7.2.1付番	縹文底色	白色灰·石英	7.2.1付番	
1576 7 SH1	X.129Y60	縹文土器	縹文土器	縹文土器	264	中周底直	角山新式	10Y62.2	縹文底色	白色灰·石英·骨片	7.2.1付番	
1577 1577 53 SH1	X.120Y61 X.123Y60上層	縹文土器	縹文土器	縹文土器	218	中周底直	角山新式	2.5Y61.1	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1578 110 SH1	X.125Y60 納	縹文土器	縹文土器	縹文土器	116	中周底直	角山新式	10Y62.1	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1579 17 SH1	X.135Y60~7.0.6	縹文土器	縹文土器	縹文土器	53	中周底直	角山新式	09Y62.4	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
178 1580 111 SH1	X.127Y63	縹文土器	縹文土器	縹文土器	58	中周底直	角山新式	2.5Y62.2	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1581 111 SH1	X.129Y60	縹文土器	縹文土器	縹文土器	114	中周底直	角山新式	2.5Y62.3	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1582 111 SH1	X.129Y63	縹文土器	縹文土器	縹文土器	36	中周底直	角山新式	2.5Y62.2	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1583 111 SH1	X.129Y64	縹文土器	縹文土器	縹文土器	115	中周底直	角山新式	2.5Y62.2	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1584 53 SH1	X.125Y56上層	縹文土器	縹文土器	縹文土器	115	中周底直	角山新式	2.5Y62.2	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
179 1585 111 SH1	X.125Y60	縹文土器	縹文土器	縹文土器	100	中周底直	角山新式	09Y62.2	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1586 111 SH1	X.127Y60	縹文土器	縹文土器	縹文土器	100	中周底直	角山新式	09Y62.3	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1587 111 SH1	X.127Y63	縹文土器	縹文土器	縹文土器	100	中周底直	角山新式	2.5Y63.1	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1588 111 SH1	X.129Y64	縹文土器	縹文土器	縹文土器	100	中周底直	角山新式	2.5Y63.3	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	
1589 111 SH1	X.129Y62 X.126Y63	縹文土器	縹文土器	縹文土器	100	中周底直	角山新式	09Y62.2	縹文底色	白色灰·石英·石英	7.2.1付番	

第17表 繩文土器・土製品一覧(49)

第17表 繩文土器・土製品一覧(50)

件名	通名	形状	出土地点	種類	形相	口径 (cm)	底径 (cm)	厚さ	附記	形式	尺寸	出土場所	出土の状態	備考
I629 115 S01	X120Y62/2層	X121Y63中層	縄文土器	浅鉢		17.8	9.8	.72	後期型	浅腹式	7.5YEC4	[上]小・褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I630 115 S01	X120Y62	X121Y63	縄文土器	浅鉢					後期型	浅腹式	7.5YEC3	[上]小・褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I632 115 S01	X122Y63		縄文土器	浅鉢					後期型	浅腹式	7.5YEC4	[上]小・褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I632 115 S01	X120Y62		縄文土器	浅鉢					後期型	浅腹式	7.5YEC3	[上]小・褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I632 115 S01	X122Y64		縄文土器	浅鉢		23.2			後期型	浅腹式	10YER3	[上]小・黃褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I634 26' S01	X120Y62/2層	X121Y63/中層	縄文土器	浅鉢		23.8			後期型	浅腹式	7.5YEC6	褐色	赤色R・白色R・骨質	
I634 114 S01	X120Y63		縄文土器	鉢		16.0			後期型	浅腹式	23.5Y-1	褐色	白色R	
I636 114 S01	X120Y63		縄文土器	鉢		16.0			後期型	浅腹式	23.5Y-1	褐色	白色R	
I637 114 S01	X120Y60		縄文土器	鉢		16.0			後期型	浅腹式	23.5Y-1	褐色	白色R・白色R・石英・注口・器皿	
I638 114 S01	X120Y60		縄文土器	鉢		16.0			後期型	浅腹式	23.5Y-1	褐色	白色R・白色R・石英・注口・器皿	
I639 114 S01	X124Y62/4層	X125Y60	縄文土器	鉢		7.5			中期型～後期初期	直口式	5YER3	[上]小・褐色	白色R・石英・骨質	
I640 114 S01	X120Y62		縄文土器	鉢		17.0			中期型～後期初期	直口式	23.5Y-2	褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I641 54 S01	X120Y62	X126Y63	縄文土器	鉢		14.8	10.5	.65	中期型～後期初期	直口式	10YER2	[上]小・黃褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I642 34 S01	X127Y61		縄文土器	鉢		17.0	10.0	.70	中期型～後期初期	直口式	23.5Y-2	褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I643 114 S01	X125Y59		縄文土器	蓋		8.5	5.5	.24	中期型～後期初期	直口式	10YER3	褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I644 114 S01	X122Y64		縄文土器	鉢		5.0	2.8		後期型	浅腹式	10YER2	褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I645 114 S01	X120Y57	X131Y56	縄文土器	竹付鉢小		10.4			後期型	浅腹式	7.5YEC4	[上]小・褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I646 114 S01	X132Y61		縄文土器	蓋					後期型	浅腹式	10YER4	[上]小・黃褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I647 54 S01	X120Y62	X127Y62	X127Y63	縄文土器	蓋	22.8			中期型～後期初期	直口式	7.5YER4	褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I648 54 S01	X120Y61	X126Y62	X126Y63	縄文土器	浅鉢	26.5			中期型～後期初期	直口式	10YER2	[上]小・黃褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I649 114 S01	X123Y59/2層		縄文土器	浅鉢		20.6			中期型～後期初期	直口式	10YER3	[上]小・黃褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I649 114 S01	X123Y66		縄文土器	浅鉢		21.7			中期型～後期初期	直口式	7.5YEC3	[上]小・褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I649 114 S01	X125Y62		縄文土器	浅鉢		25.4			後期型	浅腹式	7.5YEC4	[上]小・褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I650 114 S01	X127Y60		縄文土器	注口十點		11.6			後期型	浅腹式	10YER4	[上]小・黃褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I651 114 S01	X127Y57		縄文土器	注口十點		11.7			後期型	浅腹式	10YER4	[上]小・黃褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I652 114 S01	X127Y57		縄文土器	注口十點		11.7			後期型	浅腹式	10YER4	[上]小・黃褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I653 114 S01	X127Y57		縄文土器	注口十點		11.7			後期型	浅腹式	10YER4	[上]小・黃褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I654 55 S01	X127Y57		縄文土器	注口十點		8.8	(7.0)	.74	後期型	浅腹式	3YER6	褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I655 116 S01	X122Y57		縄文土器	注口十點		10.7			後期型	浅腹式	7.5YER4	[上]小・褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	
I656 116 S01	X143Y61上層		縄文土器	注口十點					後期型	浅腹式	10YER3	褐色	赤色R・白色R・石英・骨質	

第17表 繩文土器・土製品一覧(51)

第17表 紹文土器・土製品一覽(52)

種別	植物名	通称	出土地点	特徴	形態	寸法	基部	茎高	枝高	開閉		型式	花色	果子の性
										上部	下部	中期	後期	
188	1677	117	S01	X.120Y60	蝶文・透葉	蝶形				14.0	中開 - 後閉		BYVET/3	赤・白紫色
1678	117	S01	X.120Y62	蝶文・透葉	蝶形					11.0	中開 - 後閉		BYVET/3	赤・白紫色
1679	117	S01	X.120Y64	蝶文・透葉	蝶形					12.6	中開 - 後閉		DYB/E/6	赤紫色
1680	117	S01	X.120Y66	蝶文・透葉	蝶形					7.4	中開 - 後閉		GYV/E/6	赤紫色
1681	117	S01	X.120Y67	蝶文・透葉	蝶形					10.6	中開 - 後閉		SYV/E/3	赤・白紫色
1682	117	S01	X.120Y68	蝶文・透葉	蝶形					13.9	中開 - 後閉		BYVET/3	赤・白紫色
1683	136	S01	X.120Y69	蝶文・透葉	蝶形					7.5	早開 - 後閉		BYVET/3	赤・白紫色
1684	136	S01	X.120Y70	ナガツバ	土瓶					4.3	早開 - 後閉		BYVET/3	赤・白紫色
1685	136	S01	X.120Y72	ナガツバ	土瓶					6.7	早開 - 後閉		7.5V/E/3	赤・白紫色
1686	136	S01	X.141Y65	ナガツバ	土瓶					0.7	早開 - 後閉		7.5V/E/6	赤・白紫色
1687	136	S01	X.120Y74	ナガツバ	土瓶					4.0	早開 - 後閉		0.0V/E/3	赤・白紫色
1688	138	S01	X.120Y75	ナガツバ	土瓶					5.4	早開 - 後閉		2.5V/E/1	赤・白紫色
1689	138	S01	X.120Y76	ナガツバ	土瓶					5.4	早開 - 後閉		7.5V/E/6	赤・白紫色
1690	135	S01	X.120Y77	ナガツバ	土瓶					4.0	早開 - 後閉		0.0V/E/3	赤・白紫色
1691	136	S01	X.111Y65	ナガツバ	土瓶					4.0	早開 - 後閉		2.5V/E/1	赤・白紫色
1692	136	S01	X.120Y63	ナガツバ	土瓶					5.4	早開 - 後閉		7.5V/E/6	赤・白紫色
1693	138	S01	X.120Y66	ナガツバ	土瓶					4.2	早開 - 中開		0.0V/E/3	赤・白紫色
1694	138	S01	X.120Y67	ナガツバ	土瓶					4.5	早開 - 中開		0.0V/E/3	赤・白紫色
1695	135	S01	X.111Y64	ナガツバ	土瓶					4.7	早開 - 中開		2.5V/E/2	赤・白紫色
1696	136	S01	X.122+123Y63	ナガツバ	土瓶					7.3	早開 - 中開		0.0V/E/4	赤・白紫色
1697	136	S01	X.120Y64	ナガツバ	土瓶					5.2	早開 - 中開		2.5V/E/2	赤・白紫色
1698	136	S01	X.120Y65	ナガツバ	土瓶					5.2	後開前閉		0.0V/E/4	赤・白紫色
1699	136	S01	X.125Y77	ナガツバ	土瓶					3.0	後開前閉		2.5V/E/2	赤・白紫色
1700	136	S01	X.122Y65	ナガツバ	土瓶					5.7	後開前閉		0.0V/E/4	赤・白紫色
1701	136	S01	X.120Y66	ナガツバ	土瓶					6.6	後開前閉		2.5V/E/4	赤・白紫色
1702	135	S01	X.122Y67	ナガツバ	土瓶					6.3	後開前閉		0.0V/E/3	赤・白紫色
1703	135	S01	X.120Y69	ナガツバ	耳栓					4.4	後開前閉		2.5V/E/3	赤・白紫色
1704	137	S01	X.111Y59	ナガツバ	耳栓					6.5	後開前閉		0.0V/E/2	赤・白紫色

第17表 檻文土器・土製品一覽(53)

標本番号	種名	通称	写真	地図	出土地点	標題	標題	二回目	法筋 (cm)	時間	模式	発色	輪子の輪
[190] 1705 137 SD1	X.1209Y60				土壌品	耳鉢		長さ	幅	既往	BY.1972/2	上:灰褐色	
1706 137 SD1	X.1303Y56				土壌品	耳鉢		長さ	幅	中間-後期	BY.1965/2	灰褐色	小形
1707 137 SD1					土壌品	三足壺		長さ	幅	後期	7.5YR7/4	灰褐色	白色
1708 137 SD1					土壌品	三足壺	(3.5)	幅	厚さ	後期	7.5YR7/2	灰褐色	白色
1709 137 SD1	X.1277Y64				土壌品	不明		幅	厚さ	後期	BY.1972/2	灰褐色	白色
1710 137 SD1	X.1295Y64				土壌品	泡粘土壺		長さ	幅	中間	7.5YR7/4	灰褐色	白色
1711 137 SD1					土壌品	泡粘土壺		長さ	幅	厚さ	7.5YR7/3	灰褐色	白色
1712 138 SD1	X.1431Y64上等				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	BY.1972/3	灰褐色	白色
1713 138 SD1	X.1411Y65~63上等				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	BY.1972/3	灰褐色	白色
1714 138 SD1	X.1345Y60				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	BY.1965/2	灰褐色	白色
1715 138 SD1	X.1357Y65上等				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	7.5YR6/4	灰褐色	白色
1716 138 SD1	X.1391Y63				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	7.5YR7/1	灰褐色	白色
1717 138 SD1	X.1289Y63				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	BY.1972/3	灰褐色	白色
1718 138 SD1	X.1289Y64				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	7.5YR6/6	灰褐色	白色
1719 138 SD1	X.1277Y64				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	BY.1965/1	灰褐色	白色
1720 138 SD1	X.1295Y59				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	BY.1965/2	灰褐色	白色
1721 138 SD1	X.1277Y67				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	BY.1972/2	灰褐色	白色
1722 138 SD1	X.1303Y59				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	7.5YR1/1	灰褐色	白色
1723 138 SD1	X.1205Y63				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	BY.1972/2	灰褐色	白色
1724 138 SD1	X.1269Y62				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	BY.1965/2	灰褐色	白色
1725 138 SD1	X.1295Y59				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	BY.1965/2	灰褐色	白色
1726 138 SD1	X.1311Y62				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	5YR6/4	灰褐色	白色
1727 138 SD1	X.1213Y65上等				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	BY.1972/3	灰褐色	白色
1728 138 SD1	X.1205Y63				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	BY.1965/2	灰褐色	白色
1729 138 SD1	X.1331Y57				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	BY.1965/2	灰褐色	白色
1730 138 SD1	X.1277Y63				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	BY.1972/4	灰褐色	白色
1731 138 SD1	X.1269Y64上等				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	BY.1965/2	灰褐色	白色
1732 138 SD1	X.1295Y64				土壌品	土器片		厚さ	幅	厚さ	BY.1965/2	灰褐色	白色

第17表 繩文土器・土製品一覧(54)

件名	通称	形状	出土地点	種類	器形	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	時間	形式	出土位置	出土の状態	備考
[91] I/731 138 SII	X.133Y60 1号	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	5.7	0.8	YR7C 4	上・下・側面	白色灰・白色・石英・石粉	直立23.24mm	
I/734 138 SII	X.133Y63	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	7.5	0.8	SYR6.6	側面	白色灰・骨粉	直立56.05mm	
I/729 138 SII	X.130Y56	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	6.4	0.8	0YR6.2	底面	白色灰・石英・骨粉	直立53.06mm	
I/726 138 SII	X.129Y62	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	6.2	0.8	0YR6.1	側面	白色灰・茎脚	直立53.17mm 又付番	
[92] I/737 138 SII	X.129Y64	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	6.2	0.8	0YR6.2	底面	白色灰・白色灰・石英・石粉	直立39.26mm	
I/728 138 SII	X.127Y79	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	6.2	0.8	0YR6.4	底面	骨粉・茎脚	直立38.33mm	
I/729 138 SII	X.129Y63	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	6.2	0.8	0YR6.1	底面	白色灰・石英・茎脚	直立35.67mm 又付番	
I/740 138 SII	X.129Y62	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	6.1	0.8	0YR6.1	底面	白色灰・骨粉・茎脚	直立35.08mm	
I/741 138 SII	X.122Y68	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	6.0	0.8	0YR7.3	上・下・側面	白色灰・白色灰・石英・石粉	直立56.37mm	
I/742 138 SII	X.129Y65	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	6.0	0.8	0YR6.2	底面	白色灰・石英・骨粉	直立41.39mm	
I/743 138 SII	X.129Y61	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	6.0	0.8	0YR6.2	底面	石英・骨粉	直立37.77mm	
I/744 138 SII	X.129Y64	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	6.0	0.8	0YR6.3	上・下・側面	白色灰・白色灰・石英・石粉	直立36.63mm 又付番	
I/745 138 SII	X.132Y59 1号	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	5.8	0.8	0YR6.3	上・下・側面	白色灰・石英・骨粉	直立35.84mm 又付番	
I/746 138 SII	X.130Y60	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	5.8	0.8	0YR7.2	上・下・側面	白色灰・石英・骨粉	直立25.93mm	
I/747 138 SII	X.130Y63	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	5.7	0.8	0YR7.3	上・下・側面	白色灰・白色灰・石英・石粉	直立25.56mm	
I/748 138 SII	X.127Y63	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	5.7	0.8	0YR6.2	底面	石英・骨粉・茎脚	直立21.75mm 又付番	
I/749 138 SII	X.132Y60 1号	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	5.5	0.8	0YR7.3	上・下・側面	白色灰・白色灰・石英・石粉	直立29.03mm 又付番	
I/750 138 SII	X.129Y56	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	5.5	0.8	0YR6.2	底面	白色灰・石英・骨粉	直立25.93mm 又付番	
I/751 138 SII	X.127Y64 1号	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	5.5	0.8	0YR6.2	底面	白色灰・石英・骨粉	直立26.06mm 又付番	
I/752 138 SII	X.129Y62	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	5.5	0.8	0YR6.2	底面	白色灰・茎脚	直立22.73mm	
I/753 138 SII	X.129Y63	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	5.5	0.8	0YR6.2	底面	白色灰・石英・茎脚	直立25.53mm 又付番	
I/754 138 SII	X.129Y63	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	5.5	0.8	25YR6.1	底面	石英・骨粉・茎脚	直立24.03mm	
I/755 138 SII	X.132Y61 1号	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	5.4	0.8	0YR6.3	上・下・側面	白色灰・石英・骨粉・茎脚	直立26.13mm 又付番	
I/756 138 SII	X.127Y63	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	5.2	0.8	0YR6.2	底面	骨粉・茎脚	直立24.44mm 又付番	
I/757 138 SII	X.129Y63	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	5.0	0.8	0YR7.3	上・下・側面	白色灰・石英・骨粉・石英	直立29.05mm	
I/758 138 SII	X.130Y64	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	4.9	0.8	0YR7.3	上・下・側面	白色灰・白色灰・石英・骨粉	直立24.46mm	
I/759 138 SII	X.127Y60 1号	土製品	土器片鱗	土製品	土器片鱗	長5.6	5.3	0.8	25YR6.4	上・下・側面	白色灰・石英・骨粉	直立29.82mm	

第17表 細文土器・土製品一覧(55)

番号	遺物 名類	写真 図版	出土地点	相手	法長(cm)	器形	寸幅	時間	想入	出土位置	出土の状況	備考
192	170	S01	X120Y64	土製品	土器片焼	長5.5	幅3.5	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1761	170	S01	X127Y63	土製品	土器片焼	長5.5	幅3.5	W.中期	白色灰-石英	01YR7.1	[中]青色	天井付番
1762	170	S01	X129Y63	土製品	土器片焼	長5.2	幅6.1	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1763	170	S01	X129Y58	土製品	土器片焼	長5.5	幅5.8	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1764	170	S01	X127Y61	土製品	土器片焼	長5.5	幅5.3	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1765	170	S01	X127Y62	土製品	土器片焼	長5.5	幅6.0	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1766	170	S01	X129Y63	土製品	土器片焼	長5.5	幅5.6	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1767	170	S01	X129Y62	土製品	土器片焼	長5.5	幅5.0	W.中期	白色灰-石英	01YR7.1	[底]青色	天井付番
1768	170	S01	X130Y59	土製品	土器片焼	長5.5	幅4.0	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1769	170	S01	X129Y64	土製品	土器片焼	長5.5	幅4.7	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1770	170	S01	X127Y62	土製品	土器片焼	長5.5	幅5.3	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1771	170	S01	X127Y63	土製品	土器片焼	長5.5	幅6.2	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1772	170	S01	X129Y61	土製品	土器片焼	長5.5	幅5.5	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
193	177	S01	X129Y60	土製品	土器片焼	長5.5	幅5.8	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1774	170	S01	X129Y63	土製品	土器片焼	長5.5	幅5.6	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1775	170	S01	X129Y64	土製品	土器片焼	長5.5	幅5.6	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1776	170	S01	X129Y61	土製品	土器片焼	長5.5	幅6.0	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1777	170	S01	X130Y61	土製品	土器片焼	長5.5	幅5.0	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1778	170	S01	X127Y62	土製品	土器片焼	長5.5	幅5.1	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1779	170	S01	X129Y63	土製品	土器片焼	長5.5	幅5.6	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1780	170	S01	X127Y63	土製品	土器片焼	長5.5	幅6.0	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1781	170	S01	X129Y59	土製品	土器片焼	長5.5	幅5.2	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
19-1	1782	S01	X129Y61	土製品	土器片焼	長5.5	幅6.5	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
193	1783	S01	X130Y63	土製品	土器片焼	長5.5	幅6.5	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1784	170	S01	X129Y58	土製品	土器片焼	長5.5	幅5.7	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1785	170	S01	X129Y61	土製品	土器片焼	長5.5	幅6.0	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番
1786	170	S01	X129Y63	土製品	土器片焼	長5.5	幅5.4	W.中期	白色灰-石英	01YR7.2	[上]青色	天井付番

第17表 細文土器・土製品一覧(56)

件名	通名	形状	出土地点	種類	器形	口径	底径	高さ	時間	型式	出土状況	出土の特徴	備考
I/33	I/26	円筒 通縫	X.129(Y61 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 6.0	幅 1.1	中腹側面	単口新1人	5YH6.4	上・下・側面 白色・石英・骨粉	直・255.81mm 縫合孔
I/38	I/26	円筒 通縫	X.129(Y61 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 6.5	幅 0.9	中腹側面	単口新式	7.5YH7.2	側面灰	直・25.76mm
I/79	I/26	円筒 通縫	X.129(Y61 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 6.5	幅 0.8	中腹側面	五輪式	10YH8.3	底面灰	直・35.08mm
I/79	I/26	円筒 通縫	X.130(Y64 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 6.1	幅 0.7	中腹側面	単口新1人	7.5YH7.4	上・下・側面 白色・骨粉・白母	直・29.44mm
I/79	I/26	円筒 通縫	X.129(Y64 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.7	幅 0.8	中腹側面	単口新1人	7.5YH6.4	上・下・側面 白色・骨粉・白母	直・23.26mm
I/79	I/26	円筒 通縫	X.129(Y61 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.5	幅 0.9	中腹側面	単口新1人	10YH8.2	底面灰	直・29.73mm 又・付着
I/20	I/26	円筒 通縫	X.129(Y62 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.6	幅 0.9	中腹側面~後期前縫	単口新1人	10YH7.3	上・下・側面 白色・石英・骨粉	直・27.22mm 又・付着
I/79	I/26	円筒 通縫	X.129(Y61 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.1	幅 0.8	中腹側面	単口新式	10YH6.2	底面灰	直・23.02mm 又・付着
I/79	I/26	円筒 通縫	X.127(Y65 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.1	幅 0.8	後期前縫	気泡無式	5YH6.4	上・下・側面 白色・骨粉	直・26.08mm
I/79	I/26	円筒 通縫	X.123(Y36/5/7 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	中腹側面	単口新式	7.5YH7.3	上・下・側面 白色・骨粉	直・35.05mm
I/79	I/26	円筒 通縫	X.129(Y63 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	中腹側面	単口新1人	10YH7.2	上・下・側面 白色・骨粉・白母	直・27.73mm
I/79	I/26	円筒 通縫	X.129(Y60/61 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	中腹側面	単口新1人	10YH7.3	上・下・側面 白色・骨粉・白母	直・25.82mm
I/79	I/26	円筒 通縫	X.129(Y61 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	後期前縫	単口新1人	7.5YH7.6	上・下・側面 白色・骨粉	直・26.72mm
I/80	I/26	円筒 通縫	X.130(Y61 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.5	幅 0.9	後期前縫	単口新1人	2.5YH6.6	底面灰	直・25.51mm
I/80	I/26	円筒 通縫	X.129(Y61 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	中腹側面	単口新1人	10YH8.1	底面灰	直・26.29mm 又・付着
I/82	I/40	円筒 通縫	X.129(Y60/61 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	中腹側面~後期前縫	底底・椭巻式	2.5YH7.2	上・下・側面 白色・骨粉・白母	直・24.667mm 又・付着
I/82	I/40	円筒 通縫	X.129(Y61 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	中腹側面	底底・椭巻式	10YH7.3	上・下・側面 白色・骨粉・白母	直・25.82mm
I/82	I/40	円筒 通縫	X.129(Y61 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	後期前縫	底底・椭巻式	10YH7.6	上・下・側面 白色・骨粉・白母	直・26.72mm
I/82	I/40	円筒 通縫	X.129(Y61 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	後期前縫	底底・椭巻式	2.5YH6.6	底面灰	直・25.51mm 又・付着
I/84	I/40	円筒 通縫	X.141(Y62 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	中腹側面~後期前縫	底底・椭巻式	10YH8.1	底面灰	直・26.29mm 又・付着
I/85	I/40	円筒 通縫	X.129(Y61 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	中腹側面	底底・椭巻式	10YH8.2	底面灰	直・25.11mm 又・付着
I/86	I/40	円筒 通縫	X.141(Y62 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	後期前縫	底底・椭巻式	10YH8.3	底面灰	直・25.44mm
I/86	I/40	円筒 通縫	X.131(Y61 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.9	中腹側面	底底・椭巻式	7.5YH7.6	底面灰	直・24.97mm 又・付着
I/86	I/40	円筒 通縫	X.134(Y62 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	中腹側面	底底・椭巻式	10YH7.2	底面灰	直・25.25mm 又・付着
I/87	I/40	円筒 通縫	X.141(Y61 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	早期本窓~一期初期灰	底底・椭巻式	10YH8.2	底面灰	直・27.73mm 又・付着
I/88	I/40	円筒 通縫	X.129(Y63 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	早期本窓~一期初期灰	底底・椭巻式	10YH8.3	底面灰	直・27.73mm 又・付着
I/89	I/40	円筒 通縫	X.130(Y63 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	早期本窓~一期初期灰	底底・椭巻式	7.5YH8.4	上・下・側面 白色・骨粉	直・26.29mm 又・付着
I/90	I/40	円筒 通縫	X.140(Y63 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	早期本窓~一期初期灰	底底・椭巻式	10YH8.3	上・下・側面 白色・骨粉・白母	直・26.02mm 又・付着
I/91	I/40	円筒 通縫	X.129(Y63 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	早期本窓~一期初期灰	底底・椭巻式	7.5YH8.6	底面灰	直・27.73mm 又・付着
I/92	I/40	円筒 通縫	X.130(Y63 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	早期本窓~一期初期灰	底底・椭巻式	10YH8.2	底面灰	直・26.16mm 又・付着
I/93	I/40	円筒 通縫	X.131(Y63 S01)	土製品	土製品	輪	長さ 5.0	幅 0.8	早期本窓~一期初期灰	底底・椭巻式	10YH8.2	底面灰	直・26.02mm 又・付着

第17表 細文土器・土製品一覧(57)

番号	写真	名前	出土地点	層別	径幅 (mm)	高さ	内面	外面	出土位置	出土状況	備考
1814	1814	土製品	X13XY63	土製品	土製品	高さ 15	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1815	1815	土製品	X12XY83	土製品	土製品	高さ 10	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1816	1816	土製品	X13XY62-1 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1817	1817	土製品	X13XY62-2 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1818	1818	土製品	X14XY60-1 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1819	1819	土製品	X16XY38	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1820	1820	土製品	X13XY39-1 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1821	1821	土製品	X13XY63-2 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1822	1822	土製品	X13XY63-3 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1823	1823	土製品	X13XY62	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1824	1824	土製品	X13XY64-1 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1825	1825	土製品	X12XY63	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1826	1826	土製品	X13XY63-2 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1827	1827	土製品	X14XY60-2 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1828	1828	土製品	X13XY63-3 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1829	1829	土製品	X13XY62-1 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1830	1830	土製品	X14XY61-1 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1831	1831	土製品	X15XY63-1 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1832	1832	土製品	X12XY60-2 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1833	1833	土製品	X12XY62-1 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1834	1834	土製品	X13XY63-2 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1835	1835	土製品	X15XY63-2 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1836	1836	土製品	X14XY61-2 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1837	1837	土製品	X14XY62-2 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1838	1838	土製品	X13XY62-3 棚	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無
1839	1839	土製品	X12XY65	土製品	土製品	高さ 5	褐色	褐色	褐色	褐色	無

第17表 繩文土器・土製品一覧(58)

件名	通号	形質	出土地点	地點	形制	口径 (cm)	口幅	底径	底形	身形	足形	出土状況	出土状況	備考
1850 140 SD1	X.129Y66	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.7	7.3	7.6	輪	厚5.中期後	直筒式	01YR72	1.中期後	白色板石英石·黃母 直296.62g 直293.34g 直291.73g
1851 140 SD1	X.129Y65	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.7	5.6	6.7	輪	厚5.中期后	直筒式	7.5YR6/3	1.中期後	白色板石英石·黃母 直3.417.9g
1852 140 SD1	X.129Y63	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.6	6.6	輪	厚5.中期後	直筒式	01YR7.3	1.中期後	白色板石英石·黃母 直3.089g
1853 140 SD1	X.129Y64上層	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.9	輪	厚5.中期後	直筒式	01YR7.2	1.中期後	白色板石英石·黃母 直3.059g
1854 140 SD1	X.127Y63	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.9	輪	厚5.中期後	直筒式	25YR6/2	直筒	白色板石英石·黃母 直3.179.4g 直3.179.4g 直3.179.4g
1855 140 SD1	X.129Y61	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.0	7.1	輪	厚5.中期後	直筒式	25YR6/2	直筒	白色板石英石·黃母 直3.133.8g 直3.133.8g 直3.133.8g
1856 140 SD1	X.129Y62下層	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.2	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	01YR6/2	直筒	白色板石英石·黃母 直3.063.2g
1857 140 SD1	X.133Y60	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.5	7.7	輪	厚5.中期後	直筒式	01YR6/2	直筒	白色板石英石·黃母 直3.053.8g
1858 140 SD1	X.129Y61	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	25YR6/1	直筒	白色板石英石·黃母 直3.077.8g
1859 140 SD1	X.129Y63	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	7.5YR6/3	1.中期後	白色板石英石·黃母 直3.082.8g
1860 140 SD1	X.129Y63	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	01YR6/3	1.中期後	白色板石英石·黃母 直3.053.8g
1861 140 SD1	X.129Y60	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	01YR6/3	1.中期後	白色板石英石·黃母 直3.053.8g
1862 140 SD1	X.131Y61上層	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	25YR7.2	直筒	白色板石英石·黃母 直3.22.2g
1863 140 SD1	X.122Y65上層	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	01YR7/2	1.中期後	白色板石英石·黃母 直2.56.3g 直2.56.3g 直2.56.3g
1864 140 SD1	X.129Y63	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	25YR6/2	直筒	白色板石英石·黃母 直3.077.8g
1865 140 SD1	X.129Y62上層	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	7.5YR7.4	1.中期後	白色板石英石·黃母 直2.51.7g 直2.51.7g 直2.51.7g
1866 140 SD1	X.129Y62	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	25YR6/2	直筒	白色板石英石·黃母 直3.069.4g 直3.069.4g 直3.069.4g
1867 140 SD1	X.129Y63	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	25YR6/2	直筒	白色板石英石·黃母 直3.051.3g 直3.051.3g 直3.051.3g
1868 140 SD1	X.133Y60	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	01YR6/4	1.中期後	白色板石英石·黃母 直3.079.7g
1869 140 SD1	X.129Y58	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	01YR7.3	1.中期後	白色板石英石·黃母 直3.29.6g
1870 140 SD1	X.133Y57上層	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	01YR6/3	1.中期後	白色板石英石·黃母 直3.16.6g
1871 140 SD1	X.123Y63	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	01YR7/3	1.中期後	白色板石英石·黃母 直3.411.8g
1872 140 SD1	X.129Y64	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	7.5YR7.3	1.中期後	白色板石英石·黃母 直3.15.0g 直3.15.0g 直3.15.0g
1873 140 SD1	X.129Y63	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	01YR6/2	直筒	白色板石英石·黃母 直3.14.47g
1874 140 SD1	X.133Y64	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	01YR6/3	1.中期後	白色板石英石·黃母 直3.080.8g
1875 140 SD1	X.123Y63	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	7.5YR6/4	1.中期後	白色板石英石·黃母 直3.13.1g
1876 140 SD1	X.118Y65	土製品	土製品	土製品	土製品	長5.6	6.1	6.8	輪	厚5.中期後	直筒式	01YR7.3	1.中期後	白色板石英石·黃母 直3.17.1g

第17表 細文土器・土製品一覧(59)

番号	遺物	写真	出土地点	相別	径幅 (mm)	厚さ	時間	形式	出土位置	出土方位	備考
195	1607	16	SII-1	X-12(Y)66	土製品	土製刀削	長3.4 幅1.4	直筒式	中間直筒	2537.2	灰色
1968	1607	16	SII-1	X-12(Y)63	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	後期直筒	2537.2	灰色
1969	1607	16	SII-1	X-12(Y)64	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	中間	03YR2	灰色
1970	1607	16	SII-1	X-12(Y)61	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	中間	03YR2	灰褐色
1971	1607	16	SII-1	X-12(Y)60	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	中間	03YR2	灰褐色
1972	1607	16	SII-1	X-12(Y)62	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	後期直筒	03YR4	灰色
1973	1607	16	SII-1	X-12(Y)61	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	中間	03YR2	灰褐色
1974	1607	16	SII-1	X-12(Y)65	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	後期直筒	03YR2	灰褐色
1975	1607	16	SII-1	X-12(Y)62	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	中間直筒	03YR4	灰色
1976	1607	16	SII-1	X-12(Y)60	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	後期直筒	03YR4	灰色
1977	1607	16	SII-1	X-12(Y)62	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	中間	03YR2	灰褐色
1978	1607	16	SII-1	X-12(Y)61	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	後期直筒	03YR2	灰褐色
1979	1607	16	SII-1	X-12(Y)64	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	中間直筒	03YR2	灰褐色
1980	1607	16	SII-1	X-12(Y)59	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	後期直筒	03YR6	灰色
1981	1607	16	SII-1	X-12(Y)56	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	中間	03YR2	灰褐色
1982	1607	16	SII-1	X-12(Y)51	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	後期直筒	03YR2	灰褐色
1983	1607	16	SII-1	X-12(Y)29	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	中間直筒	03YR3	灰褐色
1984	1607	16	SII-1	X-11(Y)54	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	後期直筒	03YR6	灰色
1985	1607	16	SII-1	X-12(Y)65	土製品	土製刀削	長3.5 幅1.5	直筒式	中間直筒	03YR2	灰褐色
202	2341	118	II-IV	X-20(Y)75	土製	圓底	直筒式	直筒直筒	人頭式	2537.2	灰色
2342	118	II-IV	X-22(Y)73	土製	圓底	直筒	直筒式	直筒直筒	人頭式	2537.2	灰色
2343	118	II-IV	X-22(Y)75	土製	圓底	直筒	直筒式	直筒直筒	人頭式	2537.2	灰色
2344	118	II-IV	X-22(Y)75	土製	圓底	直筒	直筒式	直筒直筒	人頭式	2537.2	灰色
2345	118	II-IV	X-22(Y)75	土製	圓底	直筒	直筒式	直筒直筒	人頭式	2537.2	灰色
2346	118	II-IV	X-22(Y)75	土製	圓底	直筒	直筒式	直筒直筒	人頭式	2537.2	灰色
2347	118	II-IV	X-22(Y)73	土製	圓底	直筒	直筒式	直筒直筒	人頭式	2537.2	灰色
2348	118	II-IV	X-22(Y)75	土製	圓底	直筒	直筒式	直筒直筒	人頭式	2537.2	灰色
2349	118	II-IV	X-22(Y)77	土製	圓底	直筒	直筒式	直筒直筒	人頭式	2537.2	灰色
2350	118	II-IV	X-22(Y)73	土製	圓底	直筒	直筒式	直筒直筒	人頭式	2537.2	灰色

第17表 繩文土器・土製品一覧(60)

第17表 繩文土器・土製品一覧(61)

第17表 繩文土器・土製品一覽(62)

第17表 條文土器・土製品一覽(63)

第17表 細文土器・土製品一覽(64)

第17表 繩文土器・土製品一覧(65)

第17表 紹文土器・土製品一覧(66)

第17表 繩文土器・土製品一覧(67)

表第17綱文土器・土製品一覽(68)

第17表 繩文土器・土製品一覧(69)

第17表 繩文土器・土製品一覧(70)

第17表 細文土器・土製品一覧(71)

種別	遺物	写真	出土地点	標題	細類	器種	法長(cm)		時間	形狀	出土位置	出土方位	備考
							口径	底径					
3.21	3.00	127	11.98	X.222Y69.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	235.5.2
3.20	3.01	127	11.98	X.223Y89.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	235.6.2
3.20	3.02	127	11.98	X.223Y79.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.8.1
3.20	3.03	127	11.98	X.221Y73.X.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.2
3.20	3.04	127	11.98	X.222Y78.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.8.1
3.20	3.05	127	11.98	X.222Y78.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.8.1
3.20	3.06	127	11.98	X.222Y77.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.5.4
3.20	3.07	127	11.98	X.220Y69.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.5.1
3.20	3.08	127	11.98	X.222Y81.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.2
3.20	3.09	127	11.98	X.220Y71.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.5.2
3.10	3.10	127	11.98	X.223Y81.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.5.2
3.11	3.11	127	11.98	X.221Y70.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.5.2
3.12	3.12	127	11.98	X.223Y71.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.3
3.13	3.13	127	11.98	X.221.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.1
3.14	3.14	127	11.98	X.223Y72.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.2
3.15	3.15	127	11.98	X.220Y70.X.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.4
3.16	3.16	127	11.98	X.223Y70.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.4
3.17	3.17	127	11.98	X.223Y77.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.2
3.18	3.18	127	11.98	X.220Y71.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.1
3.19	3.19	127	11.98	X.223Y72.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.4.1
3.20	3.20	127	11.98	X.221.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.2
3.21	3.21	128	11.98	X.223Y69.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.5.2
3.22	3.22	128	11.98	X.223Y70.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.5.2
3.23	3.23	129	11.98	X.222Y75.X.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.5.2
3.24	3.24	129	11.98	X.222Y76.X.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.5.2
3.25	3.25	129	11.98	X.222Y75.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.5.2
3.26	3.26	129	11.98	X.222Y75.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.5.2
3.27	3.27	129	11.98	X.222Y70.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.2
3.28	3.28	129	11.98	X.223Y70.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.5.2
3.29	3.29	129	11.98	X.221Y70.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.2
3.30	3.30	129	11.98	X.223Y70.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.5.1
3.31	3.31	129	11.98	X.222Y75.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.1
3.32	3.32	129	11.98	X.222Y75.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.1
3.33	3.33	129	11.98	X.222Y71.X.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.2
3.34	3.34	129	11.98	X.223Y70.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.2
3.35	3.35	129	11.98	X.223Y69.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.1
3.36	3.36	129	11.98	X.223Y69.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.5.2
3.37	3.37	129	11.98	X.222Y69.V.桶	細文土器	直筒	14.5	10.5	早期	直筒~圓腹直筒	底底・椭圆平底	白色灰石英・青苔色	237.6.1

表第17 繩文土器・土製品一覽(72)

第17表 繩文土器・土製品一覧(73)

第17表 細文土器・土製品一覽(74)

第17表 細文土器・土製品一覧(75)

番号	遺物	写真	出土地点	細類	器種	口径	底径	高さ	時間	想定	出土位置	出土の状況	備考
228	2272	131	H8	X221Y69 V 勝	圓文小壺	直径	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ
2273	131	H8	X. V. 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2275	131	H8	X.220Y68 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2276	131	H8	X. V. 刃アサ	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2277	131	H8	X.222Y73 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2278	131	H8	X.221Y70 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2279	131	H8	X.222Y71 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2280	131	H8	X.221Y71 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2281	131	H8	X.223Y69 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2282	131	H8	X.222Y69 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2283	131	H8	X.222Y70 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2284	131	H8	X.223Y70 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2285	131	H8	X.220Y71 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2286	131	H8	X.220Y71 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2287	131	H8	X.220Y71 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2288	131	H8	X.223Y73 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2289	131	H8	X.221Y74 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2290	131	H8	X.220Y71 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2291	131	H8	X.220Y72 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2292	131	H8	X.222Y71 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2293	131	H8	X.220Y70 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2294	131	H8	X.223Y68 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2295	131	H8	X.220Y72 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2296	131	H8	X.220Y72 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2297	131	H8	X.221Y71 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2298	131	H8	X.215Y74 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2299	131	H8	X.221Y72 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2300	131	H8	X.221Y74 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2301	131	H8	X.221Y71 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2302	131	H8	X.220Y69 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2303	131	H8	X.221Y68 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2304	131	H8	X.220Y72 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2305	131	H8	X.221Y73 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2306	131	H8	X.221Y70 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2307	131	H8	X.221Y71 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2308	131	H8	X.220Y78 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2309	131	H8	X.223Y69 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2310	131	H8	X.220Y70 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2311	131	H8	X.220Y75 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	
2312	131	H8	X.223Y77 V 勝	圓文小壺	直底	直底	高さ	新切削	新切削	石英	石英・骨付・銀鏡	スズナリ	

第17表 繩文土器・土製品一覽(76)

第17表 條文土器・土製品一覽(77)

表18 番文時代木製品・播磨製品一覧

1101品目と2022年版税基との比較で、税率の相違は、第V章(1)の税率が、第V章(2)の税率に該当する。また、税率の相違は、第V章(1)の税率が、第V章(2)の税率に該当する。また、税率の相違は、第V章(1)の税率が、第V章(2)の税率に該当する。

THE JOURNAL OF CLIMATE VOL. 17, NO. 10, OCTOBER 2004

第19表 純文時代 石製品一覧(1)

件名	資料	写真	出土地点	種類	法面 (cm <sup>3</sup> )			材質	特徴
					長×	幅×	厚さ		
206 1600 144 S01	N.145Y63-7 石器		石器		1.77	1.59	0.67	4.77 ガラス質安山岩	
1600 144 S01	N.132Y163-7 石器		石器	1.65 1.66	1.69	0.68	0.63 ガラス質安山岩		
1691 144 S01	N.145Y51-7 石器		石器	2.06 1.78	1.85	0.58	0.97 ガラス質安山岩		
1702 144 S01	N.145Y58-7 石器		石器	2.52 1.78	1.55	0.54	1.47 0.63 ガラス質安山岩(L)		
1703 144 S01	N.123Y52-7 石器		石器	2.80 1.78	1.88	0.58	1.29 ガラス質安山岩		
1704 144 S01	N.123Y52-7 石器		石器	2.60 1.73	1.71	0.57	1.47 ガラス質安山岩		
1705 144 S01	N.150Y63-7 石器		石器	2.13 1.78	1.57	0.56	0.64 ガラス質安山岩		
1706 144 S01	N.131Y53-7 石器		石器	1.89 1.78	1.49	0.40	0.70 ガラス質安山岩		
1707 144 S01	N.122Y60-7 石器		石器	2.24 1.78	1.71	0.57	0.77 ガラス質安山岩		
1708 144 S01	N.140Y64-7 石器		石器	2.07 1.78	1.50	0.57	1.23 ガラス質安山岩		
1709 144 S01	N.151Y52-7 石器		石器	2.09 1.78	1.56	0.55	1.20 ガラス質安山岩		
1710 144 S01	N.130Y63-7 石器		石器	2.06 1.78	1.56	0.58	1.29 ガラス質安山岩		
1702 144 S01	N.121Y52-7 石器		石器	2.06 1.78	1.56	0.58	1.29 ガラス質安山岩		
1702 144 S01	N.130Y65-7 石器		石器	2.06 1.78	1.56	0.58	1.29 ガラス質安山岩		
1703 144 S01	N.127Y64-7 石器		石器	2.11 1.78	1.65	0.55	1.21 ガラス質安山岩		
1704 144 S01	N.130Y66-7 石器		石器	2.11 1.78	1.65	0.54	1.18 ガラス質安山岩		
1705 144 S01	N.120Y60-7 石器		石器	2.16 1.78	1.58	0.59	1.11 ガラス質安山岩		
1706 144 S01	N.120Y61-7 石器		石器	4.00 1.78	1.34	0.54	2.59 ガラス質安山岩		
1707 144 S01	N.122Y55-7 石器		石器	2.35 1.78	1.65	0.56	1.90 ガラス質安山岩		
1708 144 S01	N.152Y52-7 石器		石器	3.08 1.78	2.14	0.58	4.81 ガラス質安山岩		
1709 144 S01	N.133Y59-7 石器		石器	3.41 1.78	2.22	0.57	5.03 ガラス質安山岩		
1710 144 S01	N.129Y58-7 石器		石器	3.40 1.78	1.66	0.44	1.10 ガラス質安山岩		
1701 144 S01	N.140Y58-7 石器		石器	3.09 1.78	2.11	0.54	8.87 ガラス質安山岩		
1702 144 S01	N.140Y58-7 石器		石器	2.29 1.78	1.76	0.56	1.27 ガラス質安山岩		
1703 144 S01	N.130Y63-7 石器		石器	2.16 1.78	1.58	0.59	1.11 ガラス質安山岩		
1704 144 S01	N.131Y63-7 石器		石器	2.00 1.78	1.51	0.57	1.07 ガラス質安山岩		
1705 144 S01	N.129Y64-7 石器		石器	3.13 1.78	2.61	0.54	7.38 ガラス質安山岩		
1706 144 S01	N.130Y65-7 石器		石器	4.31 1.78	2.38	0.61	6.71 ガラス質安山岩		
1707 144 S01	N.133Y53-7 石器		石器	2.25 1.78	1.89	0.56	3.96 ガラス質安山岩		
1708 144 S01	N.133Y52-7 石器		石器	2.25 1.78	2.07	0.59	3.11 ガラス質安山岩		
1709 144 S01	N.133Y59-7 石器		石器	6.02 1.78	3.67	0.66	16.23 ガラス質安山岩		
1710 144 S01	N.140Y58-7 石器		石器	7.01 1.78	2.60	0.63	18.62 ガラス質安山岩		
1701 144 S01	N.130Y63-7 石器		石器	2.79 1.78	2.30	0.43	2.47 ガラス質安山岩		
1702 144 S01	N.130Y61-7 石器		石器	3.00 1.78	2.06	0.58	6.15 ガラス質安山岩		
1703 144 S01	N.130Y61-7 石器		石器	3.52 1.78	4.61	0.54	18.16 ガラス質安山岩		
1704 144 S01	N.130Y63-7 石器		石器	2.97 1.78	3.59	0.57	7.87 ガラス質安山岩		
1705 144 S01	N.130Y64-7 石器		石器	2.10 1.78	2.05	0.55	4.78 ガラス質安山岩		
1706 144 S01	N.133Y60-7 石器		石器	3.03 1.78	4.60	0.56	14.31 ガラス質安山岩		
1707 144 S01	N.130Y64-7 石器		石器	4.96 1.78	4.59	1.8	39.64 ガラス質安山岩		
1708 144 S01	N.130Y64-7 石器		石器	6.75 1.78	5.29	1.8	39.64 ガラス質安山岩		
1709 144 S01	N.129Y56-7 石器		石器	3.24 1.78	3.65	0.79	7.06 ガラス質安山岩		
1710 144 S01	N.131Y63-7 石器		石器	2.04 1.78	3.05	0.61	4.12 ガラス質安山岩		
1701 144 S01	N.130Y61-7 石器		石器	3.77 1.78	5.04	1.89	2.00 ガラス質安山岩		
1702 144 S01	N.130Y63-7 石器		石器	3.18 1.78	6.57	1.29	24.22 ガラス質安山岩		
1703 144 S01	N.130Y64-7 石器		石器	4.38 1.78	3.55	0.69	13.32 ガラス質安山岩		
1704 144 S01	N.133Y63-7 石器		石器	4.06 1.78	2.87	0.70	6.12 ガラス質安山岩		
1705 144 S01	N.129Y56-7 石器		石器	7.07 1.78	2.09	0.67	5.18 ガラス質安山岩		
1706 144 S01	N.130Y64-7 石器		石器	4.41 1.78	2.51	0.63	5.61 ガラス質安山岩		
1707 144 S01	N.130Y64-7 石器		石器	3.65 1.78	2.04	0.68	4.98 ガラス質安山岩		
1708 144 S01	N.130Y64-7 石器		石器	4.43 1.78	2.21	0.77	6.14 ガラス質安山岩		

第19表 繩文時代 石製品一覧(2)

種別	地名	石名	遺物	出土地点	植物	長さ	幅	厚さ	重量	材質	時間	備考	
神社	1507	147	X.131Y63 腸	X.131Y63 腸	石器・石製品	4.68	5.75	1.28	21.76	ガラス質安山岩	中期以降	両側面つぶれ、下部断面に土痕有 中央上部に横裂痕有	
210	1088	149	S01	X.127Y63-~中附	打痕有	13.07	5.57	2.42	278.13	中古灰岩質色	中期以降	中央上部に横裂痕有	
	1090	149	S01	X.129Y61-~中附	打痕有	13.37	5.66	2.96	216.53	中古灰岩質色	中期以降	中央上部に横裂痕有	
	1090	149	S01	X.129Y61-~中附	打痕有	13.48	5.90	2.63	231.96	中古灰岩質色	中期以降	中央上部に横裂痕有	
	1062	149	S01	X.133Y58-中附	打痕有	15.73	5.46	2.24	218.52	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1062	149	S01	X.127Y62-~中附	打痕有	15.45	6.12	2.90	262.38	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
211	1064	149	S01	X.127Y63-~中附	打痕有	14.78	6.61	2.23	211.11	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1065	149	S01	X.129Y58-~中附	打痕有	12.02	4.26	1.94	94.72	中古灰岩質色	中期以降	下部土痕有	
	1066	149	S01	X.129Y58-~中附	打痕有	12.06	4.58	1.81	91.13	中古灰岩質色	中期以降	下部土痕有	
	1067	149	S01	X.129Y61-~中附	打痕有	12.45	4.64	1.62	115.75	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1068	149	S01	X.129Y63-~中附	打痕有	13.34	5.26	2.79	297.64	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1069	149	S01	X.127Y60-~中附	打痕有	10.44	5.60	2.39	150.94	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1070	149	S01	X.129Y63-~中附	打痕有	13.06	5.95	2.34	257.32	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1071	148	S01	X.129Y64-附	打痕有	11.26	5.85	1.81	122.18	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1072	148	S01	X.129Y61-~中附	打痕有	9.49	4.31	1.75	67.02	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1073	148	S01	X.129Y62-~中附	打痕有	11.56	5.58	1.96	80.96	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
212	1074	149	S01	X.129Y64-~中附	打痕有	17.15	7.34	3.75	565.97	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1075	148	S01	X.129Y63-~中附	打痕有	9.33	5.40	1.65	73.77	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1076	148	S01	X.129Y66-~中附	打痕有	8.37	5.61	0.72	60.68	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1077	148	S01	X.127Y60-~中附	打痕有	11.87	5.33	1.87	55.61	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1078	148	S01	X.129Y63-~中附	打痕有	7.02	3.45	0.99	24.32	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1079	149	S01	X.127Y63-~中附	打痕有	13.10	6.50	2.01	251.38	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1080	148	S01	X.129Y65-~中附	打痕有	11.56	6.34	1.73	140.10	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1081	148	S01	X.129Y57-~中附	打痕有	11.87	6.35	2.29	179.94	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1082	148	S01	X.129Y57-~中附	打痕有	15.69	9.27	3.82	521.92	中古灰岩質色	中期以降	両側面つぶれ	
	1083	149	S01	X.129Y65-~中附	擦傷	9.35	5.97	1.92	113.93	中古灰岩質色	中期以降	打痕有	
	1084	150	S01	X.141Y61-附	擦傷	7.74	3.93	1.55	66.90	中古灰岩質色	中期以降	打痕有	
	1085	150	S01	X.141Y60-~中附	擦傷	12.63	6.21	3.40	209.21	中古灰岩質色	中期以降	打痕有	
	1086	150	S01	X.133Y63-附	擦傷	30.63	24.12	3.74	289.00	多孔灰岩質色	中期以降	打痕有	
	1087	151	S01	X.129Y61-~中附	石頭	26.77	14.25	8.65	200.00	多孔灰岩質色	中期以降	打痕有	
	1088	151	S01	X.127Y63-~中附	石頭	9.77	12.27	4.93	502.71	多孔灰岩質色	中期以降	打痕有	
	1089	151	S01	X.129Y66-~中附	石頭	10.94	7.16	1.16	119.56	中古灰岩質色	中期以降	打痕有	
214	1090	154	S01	X.129Y63-附	擦石	8.92	7.24	4.29	284.39	安山岩	中期以降	打痕有	
	1091	154	S01	X.129Y62-~中附	擦石	9.72	6.12	4.25	386.02	中古灰岩質色	中期以降	打痕有	
	1092	152	S01	X.134Y60-~中附	擦石	11.01	8.23	5.60	738.02	安山岩	中期以降	打痕有	
	1093	154	S01	X.141Y62-附	擦石	10.01	8.34	3.45	294.23	多孔灰岩質色	中期以降	打痕有	
	1094	154	S01	X.129Y62-附	擦石	12.00	9.08	5.04	818.00	中古灰岩質色	中期以降	打痕有	
	1095	152	S01	X.129Y62-附	擦石	12.21	9.27	5.15	992.00	中古灰岩質色	中期以降	打痕有	
	1096	155	S01	X.129Y59-~中附	台石	11.37	12.13	2.37	1271.00	安山岩	中期以降	打痕有	
	1097	154	S01	X.127Y63-~中附	台石	10.13	11.65	8.11	1282.00	安山岩	中期以降	打痕有	
	1098	152	S01	X.129Y64-~中附	石頭	12.17	11.91	5.23	992.00	安山岩	中期以降	打痕有	
	216	1099	152	S01	X.127Y66-~中附	石頭	9.75	8.97	4.86	493.00	デイカイト	中期以降	打痕有
	2000	152	S01	X.139Y65-~中附	石頭	9.64	8.64	4.77	532.00	透水岩	中期以降	打痕有	
	2001	152	S01	X.122Y62-~中附	石頭	10.29	8.77	4.35	542.28	安山岩	中期以降	打痕有	

第19表 純文時代 石製品一覧(3)

種別	遺物	写真	出土地点	種類	直角 (cm × cm)			材質	特徴
					長さ	幅さ	高さ		
216	2002_150_S01	X.1373Y63-16	鹿石	鹿石	10.66	7.66	6.65	花崗岩	円柱形
2300	150_S01	X.1381Y64-16	鹿石	鹿石	7.03	6.78	4.56	21.51	円柱形
2300	150_S01	X.1373Y62-16	鹿石	鹿石	8.86	6.95	4.11	38.63	円柱形
2300	150_S01	X.1401Y60-1-中附	鹿石	鹿石	9.45	7.15	4.99	50.95	円柱形
217	2007_154_S01	X.1233Y60-2-中附	鹿石	鹿石	7.51	6.00	2.79	184.73	アブリイト カルナフニキス
2008	154_S01	X.1430Y62-2-中附	鹿石	鹿石	9.90	8.61	2.98	302.54	白石
2009	154_S01	X.1430Y62-2-中附	鹿石	鹿石	12.42	9.56	3.4	54.43	白石
2010	154_S01	X.1430Y63-2-中附	鹿石	鹿石	9.11	7.13	3.74	31.95	砂岩
2011	152_S01	X.1183Y62-2-中附	鹿石	鹿石	9.19	6.64	5.23	498.63	砂岩
2012	152_S01	X.1431Y61-2-中附	鹿石	鹿石	14.06	7.13	5.45	7.98	中堅石質(緑色)
218	2002_154_S01	X.1201Y61-2-中附	鹿石	鹿石	9.09	7.40	4.06	281.47	砂岩
2014	154_S01	X.1353Y63-2-中附	鹿石	鹿石	10.43	6.67	2.55	276.56	砂岩
2015	153_S01	X.1383Y62-2-中附	鹿石	鹿石	6.96	6.01	3.05	18.80	2.68
2016	153_S01	X.1311Y60-2-中附	鹿石	鹿石	7.08	6.99	4.19	284.30	花崗岩
2017	154_S01	X.1303Y62-2-中附	鹿石	鹿石	9.14	5.00	3.77	455.69	砂岩
2018	153_S01	X.1283Y60-2-中附	鹿石	鹿石	5.33	4.85	1.58	82.69	2.74
2019	153_S01	X.1323Y60-2-中附	鹿石	鹿石	8.16	5.28	2.44	154.34	2.73
2020	153_S01	X.1303Y62-2-中附	鹿石	鹿石	10.1	3.4	1.6	96.41	2.75
219	2002_153_S01	X.1401Y65-2-中附	鹿石	鹿石	7.25	3.21	1.59	367.75	砂岩
2002	153_S01	X.1323Y62-2-中附	鹿石	鹿石	8.02	3.69	1.15	33.08	花崗岩
2023	153_S01	X.1423Y61-2-中附	鹿石	鹿石	8.08	3.84	1.59	76.53	砂岩
2024	154_S01	X.1303Y64-2-中附	鹿石	鹿石	8.69	5.12	3.69	219.79	花崗岩
2025	153_S01	X.1373Y63-2-中附	鹿石	鹿石	7.74	4.95	3.27	185.67	砂岩
2026	153_S01	X.1303Y64-2-中附	鹿石	鹿石	5.86	7.23	3.06	160.30	2.35
2027	153_S01	X.1173Y64-2-中附	鹿石	鹿石	6.87	5.10	2.85	2.63	34.7
2028	153_S01	X.1333Y59-2-中附	鹿石	鹿石	6.68	6.39	3.14	260.04	2.61
2029	153_S01	X.1293Y60-2-中附	鹿石	鹿石	7.77	3.67	1.64	43.43	花崗岩
2030	153_S01	X.1401Y60-2-中附	鹿石	鹿石	8.03	4.68	2.66	126.62	砂岩
2031	153_S01	X.1373Y57-2-中附	鹿石	鹿石	8.25	4.08	2.05	98.90	砂岩
2032	153_S01	X.1333Y60-2-中附	鹿石	鹿石	4.36	2.17	1.42	18.53	2.70
220	2003_154_S01	X.1293Y64-2-中附	鹿石	鹿石	10.54	7.14	5.66	606.18	アブリイト カルナフニキス
2034	152_S01	X.1403Y63-2-中附	鹿石	鹿石	11.71	5.46	5.36	519.76	砂岩
2035	154_S01	X.1373Y63-2-中附	鹿石	鹿石	15.29	6.59	5.15	779	アブリイト カルナフニキス
2036	154_S01	X.1403Y64-2-中附	鹿石	鹿石	(1.16)	5.48	4.09	316.07	花崗岩
231	2007_154_S01	X.1463Y60-2-中附	鹿石	鹿石	16.07	7.61	5.37	939	花崗岩
2038	154_S01	X.1333Y60-2-中附	鹿石	鹿石	15.75	6.92	3.33	527.82	アブリイト カルナフニキス
2039	153_S01	X.1433Y62-2-中附	鹿石	鹿石	9.51	5.17	2.13	13.16	2.74
2040	154_S01	X.1323Y66-2-中附	鹿石	鹿石	2.94	2.95	0.65	2.95	砂岩
2041	154_S01	X.1293Y64-2-中附	鹿石	鹿石	9.81	4.77	2.06	216.38	80.78
2042	154_S01	X.1403Y63-2-中附	鹿石	鹿石	8.85	5.8	5.4	416.96	アブリイト カルナフニキス
2043	153_S01	X.1273Y62-2-中附	鹿石	鹿石	6.57	5.78	3.15	183.80	3.03
2044	153_S01	X.1283Y62-2-中附	鹿石	鹿石	6.74	5.52	1.80	97.41	砂岩
222	2015_156_S01	X.1283Y62-2-中附	鹿石	鹿石	5.06	4.64	1.53	255.39	砂岩
2046	156_S01	X.1293Y61-2-中附	鹿石	鹿石	4.49	4.23	1.12	29.55	花崗岩

第19表 繩文時代 石製品一覧(4)

種別	分類	名目	地點	種類	長さ	幅	厚さ	法線 (cm <sup>-1</sup> )	角線 (cm <sup>-1</sup> )	重量	比重	材質	附圖	備考
棒状	直角	石鏡	日本	石鏡	石鏡	5.47	2.81	1.52	47.45	1.93	1.47	アラカシイ上(繩)		
222	2046	156	S-01	X.133(Y6)1 鏡	石鏡	5.20	4.67	1.05	37.95	1.93	1.35	ホルナイト玉		
2047	156	S-01	X.133(Y6)2 鏡	石鏡	5.02	4.17	1.61	43.39			ホルナイト玉			
2048	156	S-01	X.121(Y6)8-~中鏡	石鏡	5.44	2.55	1.25	35.72			アラカシイ上			
2049	156	S-01	X.120(Y6)1-~中鏡	石鏡	5.19	4.61	0.65	18.54			ホルナイト玉			
2050	156	S-01	X.120(Y6)10-~中鏡	石鏡	5.32	3.92	1.99	63.54	2.61		17形花崗石			
2051	156	S-01	X.120(Y6)2-~中鏡	石鏡	4.14	4.93	1.92	53.27			砂岩			
2052	156	S-01	X.120(Y6)9-~中鏡	石鏡	4.20	5.66	1.61	56.68			花崗岩(緑色)			
2053	156	S-01	X.121(Y6)5-~中鏡	石鏡	5.56	2.66	0.81	20.91	2.78		7.53小アラカシ			
2054	156	S-01	X.121(Y6)6-~中鏡	石鏡	5.78	4.27	1.26	33.80			花崗岩			
2055	156	S-01	X.120(Y6)5-~中鏡	石鏡	5.57	4.09	1.99	63.82			花崗岩			
2056	156	S-01	X.120(Y6)3-~中鏡	石鏡	6.20	5.89	2.10	130.00			花崗岩			
2057	156	S-01	X.120(Y6)1-~中鏡	石鏡	5.40	5.80	2.03	70.18			花崗岩			
2058	156	S-01	X.120(Y6)2-~中鏡	石鏡	5.07	5.45	2.32	91.08			花崗岩			
2059	156	S-01	X.121(Y6)8-~中鏡	石鏡	6.26	6.21	2.25	81.85			花崗岩(花崗岩)			
2060	156	S-01	X.120(Y6)0-~中鏡	石鏡	5.73	4.99	1.55	90.79	2.32		花崗岩(花崗岩)(花崗岩)			
2061	156	S-01	X.120(Y6)4-~中鏡	石鏡	6.26	6.11	1.86	89.60			花崗岩			
2062	156	S-01	X.120(Y6)4-~中鏡	石鏡	6.07	4.85	2.16	88.36			花崗岩			
2063	156	S-01	X.120(Y6)5-~中鏡	石鏡	6.79	9.16	2.50	100.71			花崗岩			
2064	156	S-01	X.120(Y6)6-~中鏡	石鏡	6.66	6.50	2.09	100.76	2.63		花崗岩			
2065	156	S-01	X.120(Y6)5-~中鏡	石鏡	6.00	5.34	2.03	100.76			花崗岩			
2066	156	S-01	X.120(Y6)5-~中鏡	石鏡	6.57	5.43	2.58	103.71			花崗岩			
2067	156	S-01	X.120(Y6)5-~中鏡	石鏡	6.81	5.35	1.90	107.71			花崗岩(花崗岩)			
2068	156	S-01	X.120(Y6)5-~中鏡	石鏡	6.85	6.59	2.74	171.31			花崗岩			
2069	156	S-01	X.120(Y6)5-~中鏡	石鏡	6.62	5.33	2.35	182.55			花崗岩			
2070	156	S-01	X.120(Y6)5-~中鏡	石鏡	6.66	6.17	2.65	120.13			花崗岩			
2071	156	S-01	X.120(Y6)5-~中鏡	石鏡	6.75	6.17	1.96	83.13			花崗岩			
2072	156	S-01	X.120(Y6)5-~中鏡	石鏡	7.54	5.46	2.17	98.86			花崗岩			
2073	156	S-01	X.120(Y6)5-~中鏡	石鏡	7.04	5.11	2.24	92.41			花崗岩			
2074	156	S-01	X.120(Y6)3-~中鏡	石鏡	7.56	6.20	2.17	104.20			花崗岩			
2075	156	S-01	X.120(Y6)2-~中鏡	石鏡	7.56	6.20	2.17	104.20			花崗岩			
2076	156	S-01	X.120(Y6)1-~中鏡	石鏡	7.56	6.20	2.17	104.20			花崗岩			
2077	156	S-01	X.121(Y6)2-~中鏡	石鏡	7.56	6.20	2.17	104.20			花崗岩			
2078	156	S-01	X.120(Y6)8-~中鏡	石鏡	7.58	6.85	2.71	177.09			花崗岩			
2079	156	S-01	X.120(Y6)2-~中鏡	石鏡	7.09	7.17	2.23	182.55			花崗岩			
2080	156	S-01	X.120(Y6)2-~中鏡	石鏡	7.44	6.39	2.46	161.06			花崗岩			
2081	156	S-01	X.120(Y6)1-~中鏡	石鏡	7.55	6.62	4.17	208.11			花崗岩			
2082	156	S-01	X.120(Y6)3-~中鏡	石鏡	7.05	6.17	1.96	83.13			花崗岩(花崗岩)			
2083	156	S-01	X.120(Y6)2-~中鏡	石鏡	7.57	6.67	1.5	67.90			花崗岩(花崗岩)			
2084	156	S-01	X.120(Y6)1-~中鏡	石鏡	8.24	7.11	2.14	98.86			花崗岩			
2085	156	S-01	X.120(Y6)1-~中鏡	石鏡	7.81	6.08	2.95	225.91			砂岩			
2086	156	S-01	X.121(Y6)2-~中鏡	石鏡	7.96	6.57	4.01	221.29			花崗岩			
2087	156	S-01	X.120(Y6)8-~中鏡	石鏡	8.10	7.21	2.07	225.99			花崗岩			
2088	156	S-01	X.120(Y6)2-~中鏡	石鏡	8.07	7.29	2.94	191.95			花崗岩			
2089	156	S-01	X.120(Y6)1-~中鏡	石鏡	7.94	6.48	2.53	133.18			花崗岩			
2090	156	S-01	X.121(Y6)2-~中鏡	石鏡	8.25	7.63	2.11	221.23			花崗岩(花崗岩)			
2091	156	S-01	X.121(Y6)1-~中鏡	石鏡	8.50	5.87	3.16	190.06			花崗岩			
2092	156	S-01	X.121(Y6)1-~中鏡	石鏡	8.50	5.40	2.49	162.17			花崗岩			
2093	156	S-01	X.120(Y6)8-~中鏡	石鏡	8.83	7.73	2.17	161.13			花崗岩			
2094	156	S-01	X.120(Y6)1-~中鏡	石鏡	8.74	7.29	3.22	255.79			花崗岩			
2095	156	S-01	X.120(Y6)1-~中鏡	石鏡	8.30	4.35	1.92	87.54			花崗岩			

第19表 純文時代 石製品一覧(5)

種別	直角	直角	出土点	種類	法線		材質	寸法	備考	
					長.5	幅.5				
224	2.06	1.56	S-01	X.123Y.68~+中切	石頭	0.51	0.58	10.26	141.44	
225	2.06	1.56	S-01	X.131Y.01 磨	石頭	0.53	1.23	0.04	高橋磨削	
	2.06	1.56	S-01	X.132Y.01 磨	石頭	0.25	7.69	1.57	高橋磨削	
	2.06	1.56	S-01	X.123Y.64~+中切	石頭	0.51	2.07	2.10	110.11	
226	2.06	1.56	S-01	X.122Y.65~+中切	石頭	0.28	4.03	403.25	高松石	
227	2.01	1.56	S-01	X.123Y.61~+中切	石頭	0.56	6.62	3.40	260.05	
	2.02	1.56	S-01	X.145Y.57 磨	石頭	0.20	7.42	2.90	325.10	
228	2.03	1.56	S-01	X.145Y.60 磨和下切	石頭	0.59	7.02	3.13	312.82	
	2.04	1.56	S-01	X.120Y.57~+中切	石頭	0.23	7.77	1.99	236.94	
229	2.05	1.56	S-01	X.123Y.60 磨	石頭	0.17	8.64	2.00	200.78	
	2.06	1.56	S-01	X.129Y.62~+中切	石頭	0.21	5.89	2.70	177.18	
230	2.07	1.56	S-01	X.133Y.60 磨	石頭	0.18	8.35	1.89	199.21	
	231	2.08	1.56	S-01	X.131Y.62 磨	石頭	0.20	9.33	4.11	196.15
232	2.10	1.56	S-01	X.132Y.61 磨	石頭	0.60	9.01	4.50	564.17	
	2.10	1.56	S-01	X.141Y.60~+中切	石頭	0.10	10.68	3.01	305.31	
233	2.11	1.56	S-01	X.130Y.62~+中切	石頭	0.58	7.65	3.40	315.45	
	2.12	1.56	S-01	X.123Y.61 磨面和下切	石頭	1.05	9.03	2.85	169.19	
234	2.12	1.56	S-01	X.131Y.62~+中切	石頭	1.15	7.70	4.07	471.46	
	2.14	1.60	S-01	X.123Y.61 磨	石頭	0.01	7.10	3.9	267.75	
235	2.15	1.60	S-01	X.122Y.61 磨	石頭	0.02	6.66	0.67	104.22	
	2.16	1.60	S-01	X.130Y.30~+中切	石頭	0.75	5.09	2.06	104.54	
236	2.17	1.60	S-01	X.133Y.62~+中切	石頭	1.21	9.59	3.40	460.11	
	2.18	1.60	S-01	X.132Y.61 磨	石頭	1.27	8.92	3.13	418.94	
237	2.19	1.60	S-01	X.142Y.62~+中切	石頭	1.48	8.46	2.00	328.83	
	2.20	1.60	S-01	X.123Y.60 磨	石頭	1.25	6.63	2.94	296.85	
238	2.21	1.60	S-01	X.125Y.65~+中切	石頭	1.07	7.39	6.47	花岡石	
	239	2.22	1.60	S-01	X.128Y.60~+中切	石頭	1.45	10.83	3.80	715.00
240	2.23	1.60	S-01	X.129Y.62~+中切	石頭	1.16	7.31	6.12	222.50	
	241	2.24	1.60	S-01	X.131Y.27~+中切	石頭	2.05	4.99	2.24	83.04
242	2.25	1.60	S-01	X.130Y.62~+中切	石頭	5.94	5.56	1.26	アフリイト	
	243	2.26	1.60	S-01	X.127Y.62~+中切	石頭	6.59	5.27	1.40	48.22
244	2.27	1.60	S-01	X.125Y.29~+中切	石頭	6.36	5.28	1.26	264.44 花崗石(花崗岩等)	
	245	2.28	1.60	S-01	X.131Y.61 磨	石頭	6.03	5.47	1.76	318.18
246	2.29	1.60	S-01	X.129Y.60~+中切	石頭	9.21	7.47	3.08	268.79	
	247	2.30	1.60	S-01	X.127Y.61~+中切	石頭	9.57	5.25	1.86	101.96
248	2.31	1.60	S-01	X.150Y.65 磨	石頭	6.37	4.33	1.10	75.01	
	249	2.32	1.60	S-01	X.151Y.61 磨	石頭	11.14	5.55	4.21	64.66
250	2.33	1.60	S-01	X.131Y.63 磨	石頭	9.11	7.21	3.22	249.83	
	251	2.34	1.60	S-01	X.149Y.52 磨	石頭	9.61	8.95	8.54	花崗石
252	2.35	1.60	S-01	X.123Y.50~中切	石頭	7.66	2.84	1.85	126.67	
	253	2.36	1.60	S-01	X.121Y.69~+中切	石頭	7.20	5.57	1.88	63.06
254	2.37	1.60	S-01	X.123Y.61 磨面和下切	石頭	9.3	7.31	1.6	130.93	
	255	2.38	1.60	S-01	X.125Y.61 磨面和下切	石頭	4.19	4.41	1.06	19.36
256	2.39	1.60	S-01	X.128Y.65 磨	石頭	4.25	3.11	0.73	15.96	
	257	2.40	1.60	S-01	X.121Y.69~+中切	石頭	7.52	4.43	2.00	299.82
258	2.41	1.60	S-01	X.123Y.61 磨	石頭	7.53	4.03	1.97	139.57	
	259	2.42	1.60	S-01	X.129Y.63 磨	石頭	7.53	4.03	2.05	35.74 花崗石(花崗岩等)
260	2.43	1.60	S-01	X.125Y.65 磨	石頭	9.05	4.35	1.89	20.46	
	261	2.44	1.60	S-01	X.129Y.63 磨	石頭	11.58	5.44	2.07	223.64
262	2.45	1.60	S-01	X.129Y.65 磨	石頭	11.58	5.44	2.08	196.12 花崗石(花崗岩等)	
	263	2.46	1.60	S-01	X.129Y.63 磨	石頭	4.47	4.67	1.46	49.30

第19表 繩文時代 石製品一覽(6)

番号	地名	植物	写真	地質	出土地点	標本	種名	種類	種子	花被	果被	根被	根被 (cm <sup>2</sup> )	比重	根 (g)	材質	時間	
																	備考	
229	2165 153 SD1	X.1357762上-中層		石炭紀地層					6.365	6.17								
229	1655 153 SD1	X.1357762上-中層		石炭紀地層					7.074	5.41	2.12							
230	1447 157 SD1	X.1357762上-中層		石炭紀地層					8.023	6.13	1.76	101.23						
230	2148 157 SD1	X.1357762上-中層		石炭紀地層					7.722	5.72	2.00	12.91						
230	2149 153 SD1	X.1357762上-中層		石炭紀地層					8.329	7.27	2.17	21.10						
230	2150 153 SD1	X.1357762上-中層		石炭紀地層					5.3	2.11	3.01							
230	2151 153 SD1	X.1357762上-中層		石炭紀地層					7.55	6.90	4.70							
230	2152 153 SD1	X.1357762上-中層		石炭紀地層					7.65	6.55	3.68	89.77						
230	2153 163 SD1	X.1357762上-中層		石炭紀地層					1.989	12.55	6.67	92.56						
230	2154 163 SD1	X.1357762上-中層		石炭紀地層					1.442	6.09	5.91	30.00						
230	2155 163 SD1	X.1357762上-中層		石炭紀地層					1.557	12.85	7.03	107.21						
231	1517 164 SD1	X.1357763上-中層		石炭紀地層					5.04	4.57	4.30	117.1						
231	1518 164 SD1	X.1357763上-中層		石炭紀地層					6.25	3.72	3.79	69.92						
231	1519 164 SD1	X.1357763上-中層		石炭紀地層					6.35	3.72	1.15	25.89	2.66					
231	1520 164 SD1	X.1357763上-中層		石炭紀地層					6.05	2.90	0.64	7.17	1.02					
231	1521 164 SD1	X.1357763上-中層		石炭紀地層					6.35	2.84	2.04	24.48	2.94					
231	1522 164 SD1	X.1357763上-中層		石炭紀地層					6.54	3.92	4.27	21.75	2.76					
231	1523 164 SD1	X.1357763上-中層		石炭紀地層					5.52	3.32	1.24	31.25	2.97					
231	1524 164 SD1	X.1357763上-中層		石炭紀地層					6.68	4.68	1.63	87.79	2.43					
231	1525 164 SD1	X.1357763上-中層		石炭紀地層					4.83	5.22	1.63	95.53	2.95					
231	1526 164 SD1	X.1357763上-中層		石炭紀地層					6.72	4.93	1.54	90.69	2.54					
231	1527 164 SD1	X.1357763上-中層		石炭紀地層					6.88	5.38	1.84	86.62	2.40					
232	1528 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					4.09	3.57	2.02	25.53	2.91					
232	1529 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					3.95	1.26	0.54	4.75	2.86					
232	1530 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					6.11	1.5	0.6	5.14	2.00					
232	1531 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.60	0.7	1.26	2.75	2.75					
232	1532 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.10	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1533 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.17	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1534 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.34	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1535 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.24	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1536 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.10	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1537 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1538 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1539 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.37	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1540 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.24	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1541 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1542 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1543 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.37	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1544 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1545 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1546 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.37	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1547 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1548 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1549 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.37	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1550 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1551 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1552 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.37	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1553 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1554 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1555 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.37	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1556 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1557 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1558 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.37	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1559 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1560 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1561 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.37	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1562 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1563 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1564 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.37	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1565 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1566 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1567 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.37	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1568 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1569 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1570 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.37	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1571 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1572 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1573 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.37	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1574 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1575 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1576 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.37	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1577 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1578 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1579 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.37	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1580 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1581 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1582 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.37	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1583 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1584 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1585 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.37	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1586 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.41	0.7	1.18	2.75	2.75					
232	1587 164 SD1	X.1357764上-中層		石炭紀地層					5.65	0.7	1.18	2.75	2.75				</td	

第19表 條文時代 石製品一覽(7)

第19表 繩文時代 石製品一覧(8)

種別	分類	遺物	出土場所	出土地点	植物	長さ	幅	厚さ	直角 (cm.)	直角 (cm.)	直角 (cm.)	材質	附圖	備考
238	224	167	SII-1	X.127Y61-解	新潟市善光寺	12.36	(6.7)	2.95	287	286	254	2.36	143.6 (直角)	
239	224	168	SII-1	X.127Y755-~中解	新潟市善光寺	24.45	(20.0)	6.55	8.16	9.05	6.01	4.01	アブリクト	無柄
239	224	168	SII-1	X.129Y65-~中解	新潟市善光寺	21.79	15.84	8.19	260	250	250	2.00	砂岩	
239	224	168	SII-1	X.127Y58-~中解	新潟市善光寺	11.94	12.67	8.78	250	250	250	2.00	砂岩	
240	246	168	SII-1	X.149Y60-解	新潟市善光寺	11.12	8.06	3.03	311	311	311	3.51	砂岩	
247	168	SII-1	X.129Y60-~中解	新潟市善光寺	13.69	11.92	4.98	11.52	11.52	11.52	4.01	風面2面 風面2面		
248	168	SII-1	X.125Y63-解	新潟市善光寺	21.31	10.62	8.09	250	250	250	2.00	有石器用 有石器用		
249	168	SII-1	X.129Y60-~中解	新潟市善光寺	6.22	6.26	2.58	85	85	85	4.01	砂岩	有石器	
250	168	SII-1	X.129Y60-~中解	新潟市善光寺	8.17	(7.60)	2.96	183.32	183.32	183.32	1.00	砂岩 砂岩2面(谷谷合)	砂岩 砂岩2面(谷谷合)	
251	168	SII-1	X.129Y60-~中解	新潟市善光寺	8.38	13.56	8.02	453.69	453.69	453.69	1.00	砂岩	有石器	
252	168	SII-1	X.149Y62-解	新潟市善光寺	8.05	10.58	6.07	765	765	765	2.00	砂岩	有石器	
253	150	SII-1	X.127Y62-解	新潟市善光寺	(8.5)	(9.06)	1.69	12.75	12.75	12.75	1.00	有石器(谷谷合)	有石器(谷谷合)	
254	168	SII-1	X.129Y63-解	新潟市善光寺	6.25	8.18	0.96	48.27	48.27	48.27	1.00	砂岩	有石器	
255	169	SII-1	X.125Y58-解	新潟市善光寺	(2.5)	22.1	1.05	5.66	5.66	5.66	1.00	砂岩	有石器	
256	169	SII-1	X.127Y65-解	新潟市善光寺	2.47	(1.76)	0.67	1.24	1.24	1.24	1.00	砂岩	有石器	
257	169	SII-1	X.125Y61-解	新潟市善光寺	4.68	20.05	1.18	10.92	10.92	10.92	1.00	砂岩	有石器	
258	169	SII-1	X.121Y35-~中解	新潟市善光寺	4.24	24.55	0.98	7.30	7.30	7.30	1.00	砂岩	有石器	
259	169	SII-1	X.129Y64-~中解	新潟市善光寺	5.25	4.24	1.58	22.65	22.65	22.65	1.00	砂岩	有石器	
260	169	SII-1	X.129Y62-解	新潟市善光寺	8.10	6.36	2.76	20.85	20.85	20.85	1.00	砂岩	有石器	
261	169	SII-1	X.129Y62-解	新潟市善光寺	6.03	5.98	11.11	135.51	135.51	135.51	1.00	砂岩	有石器	
262	169	SII-1	X.129Y64-~中解	新潟市善光寺	3.82	2.73	1.34	10.65	10.65	10.65	1.00	砂岩	有石器	
263	169	SII-1	X.127Y63-~中解	新潟市善光寺	8.86	4.13	1.86	50.01	50.01	50.01	1.00	砂岩	有石器	
264	169	SII-1	X.127Y40-~中解	新潟市善光寺	6.09	3.45	2.03	50.16	50.16	50.16	1.00	砂岩	有石器	
265	169	SII-1	X.129Y61-解	新潟市善光寺	6.84	9.44	1.10	11.56	11.56	11.56	1.00	砂岩	有石器	
266	169	SII-1	X.129Y62-解	新潟市善光寺	6.39	6.26	2.76	92.75	92.75	92.75	1.00	砂岩	有石器	
267	169	SII-1	X.125Y55-~中解	新潟市善光寺	6.35	5.68	2.61	88.66	88.66	88.66	2.02	33.8 ガラ質安山岩	有石器	
268	170	SII-1	X.129Y63-解	新潟市善光寺	5.30	5.07	1.38	31.84	31.84	31.84	1.00	砂岩	有石器	
269	170	SII-1	X.129Y64-~中解	新潟市善光寺	3.39	2.78	1.52	13.43	13.43	13.43	1.00	砂岩	有石器	
270	170	SII-1	X.127Y64-~中解	新潟市善光寺	5.06	5.05	1.79	57.00	57.00	57.00	1.00	砂岩	有石器	
271	170	SII-1	X.129Y65-解	新潟市善光寺	6.47	6.67	2.03	78.74	78.74	78.74	1.00	砂岩	有石器	
11	227	18	SII-1	X.129Y38-~中解	新潟市善光寺	87.60	42.70	23.60	665.00	665.00	665.00	1.00	砂岩	有石器
272	171	SII-1	X.129Y62-解	新潟市善光寺	12.70	8.81	3.04	411.16	411.16	411.16	1.00	砂岩	有石器	
273	227	170	SII-1	X.129Y62-~中解	新潟市善光寺	(7.26)	4.15	3.74	180.04	180.04	180.04	1.00	砂岩	有石器
274	227	170	SII-1	X.147Y56-~中解	新潟市善光寺	(8.93)	1.7	1.6	26.77	26.77	26.77	1.00	砂岩	有石器
275	227	170	SII-1	X.147Y62-解	新潟市善光寺	(8.3)	3.12	17.19	17.19	17.19	17.19	1.00	砂岩	有石器
276	227	170	SII-1	X.129Y60-~中解	新潟市善光寺	4.09	6.50	6.36	234.96	234.96	234.96	1.00	砂岩	有石器
277	227	170	SII-1	X.129Y69-~中解	新潟市善光寺	5.54	5.52	1.06	80.05	80.05	80.05	1.00	砂岩	有石器
278	227	171	SII-1	X.129Y65-~中解	新潟市善光寺	5.61	5.20	2.93	99.63	99.63	99.63	3.20	30.01 ガラ質	有石器
279	227	170	SII-1	X.129Y61-~中解	新潟市善光寺	2.1	0.98	0.93	3.27	3.27	3.27	1.17	砂岩	有石器
280	227	170	SII-1	X.129Y60-~中解	新潟市善光寺	3.09	0.9	0.97	2.94	2.94	2.94	1.00	砂岩	有石器
281	227	170	SII-1	X.129Y58-~中解	新潟市善光寺	(2.4)	1.2	1.2	7.06	7.06	7.06	2.56	砂岩	有石器
282	227	170	SII-1	X.129Y65-~中解	新潟市善光寺	3.0	0.9	0.22	1.29	1.29	1.29	1.00	砂岩	有石器
283	227	171	SII-1	X.129Y62-解	新潟市善光寺	3.14	2.82	0.62	5.37	5.37	5.37	1.00	砂岩	有石器

第19表 純文時代 石製品一覧(9)

種別	遺物	写真	出土地点	種類	遺物 (cm × cm)		材質	特徴	備考	
					長×	幅				
神明	石鏡	S-12	S-01	X.125(Y.65)鏡	神明	3.8	2.5	6.0	5.5	2.77 1.90 0.80 0.77
245	2785	12	S-01	X.125(Y.65)鏡	神明	3.0	2.2	6.7	11.97	2.79 4.26 0.67
246	2786	12	S-01	X.125(Y.65)~中鏡	鏡	3.6	1.9	6.9	9.46	3.68 1.58 0.67
247	2787	12	S-01	X.125(Y.65)~中鏡	鏡	6.94	2.95	1.12	9.37	12.25 2.66 0.67
248	2788	12	S-01	X.125(Y.65)鏡	鏡	2.8	2.8	4.2	24.83	—
249	2789	12	S-01	X.125(Y.65)鏡	鏡	2.2	1.8	0.98	—	—
250	2790	12	S-01	X.125(Y.65)鏡	鏡	1.6	1.0	0.96	2.37	0.57 1.00 0.67
251	2791	12	S-01	X.125(Y.65)鏡	鏡	6.1	1.0	0.66	3.25	1.00 0.67
252	2792	12	S-01	X.125(Y.65)鏡	鏡	6.81	3.35	1.57	3.25	1.00 0.67
253	2793	12	S-01	X.125(Y.65)鏡	鏡	4.09	3.88	0.57	9.26	0.67 0.67
254	2794	12	S-01	X.125(Y.65)鏡	鏡	4.46	1.94	0.57	5.04	0.67 0.67
255	2795	12	S-01	X.125(Y.65)鏡	鏡	4.16	3.11	0.57	5.49	2.16 0.67 0.67
256	2796	12	S-01	X.125(Y.65)鏡	鏡	6.55	4.89	3.61	13.47	2.79 1.57 0.67
257	2797	12	S-01	X.125(Y.65)鏡	鏡	4.34	6.21	2.02	10.90	4.18 1.00 0.67
258	2798	12	S-01	X.125(Y.65)鏡	鏡	11.08	16.62	8.12	2.61	—
259	2799	12	S-01	X.125(Y.65)鏡	鏡	7.34	8.61	4.35	20.85	—
260	2800	12	S-01	X.125(Y.65)~中鏡	鏡	12.58	7.43	4.14	43.34	2.67 0.67
261	2801	12	S-01	X.125(Y.65)~中鏡	鏡	3.34	6.48	3.16	7.08	0.67 0.67
262	2802	12	S-01	X.125(Y.65)~中鏡	鏡	3.22	3.17	1.42	15.70	0.67 0.67
263	2803	12	S-01	X.125(Y.65)~中鏡	鏡	4.84	5.65	2.15	57.01	0.67 0.67
264	2804	12	S-01	X.125(Y.65)~中鏡	鏡	5.56	3.22	1.49	28.36	0.67 0.67
265	2805	12	S-01	X.125(Y.65)~中鏡	鏡	6.68	4.57	1.34	34.13	0.67 0.67
266	2806	12	S-01	X.125(Y.65)~中鏡	鏡	4.15	1.65	0.93	6.01	0.67 0.67
267	2807	12	S-01	X.125(Y.65)~中鏡	鏡	4.15	4.72	1.65	22.63	0.67 0.67
268	2808	12	S-01	X.125(Y.65)~中鏡	鏡	4.41	4.88	0.95	15.21	0.67 0.67
269	2809	12	S-01	X.125(Y.64)~中鏡	鏡	2.86	3.98	0.78	15.14	0.67 0.67
270	2810	12	S-01	X.125(Y.64)~中鏡	鏡	5.13	9.06	6.20	62.00	0.67 0.67
271	2811	12	S-01	X.125(Y.63)~中鏡	鏡	6.26	5.04	1.84	44.14	0.67 0.67
272	2812	12	S-01	X.125(Y.63)~中鏡	鏡	6.33	2.04	1.17	20.98	0.67 0.67
273	2813	12	S-01	X.125(Y.63)~中鏡	鏡	11.70	7.63	1.05	55.36	0.67 0.67 0.67
274	2814	12	S-01	X.125(Y.77)~中鏡	鏡	9.09	7.94	2.51	17.75	0.67 0.67
275	2815	12	S-01	X.125(Y.77)~中鏡	鏡	4.95	2.61	1.01	13.28	2.41
276	2816	12	S-01	X.125(Y.77)~中鏡	鏡	1.41	1.52	0.33	0.56	0.67 0.67
277	2817	12	S-01	X.125(Y.77)~中鏡	鏡	1.52	1.73	0.32	0.64	0.67 0.67
278	2818	12	S-01	X.125(Y.77)~中鏡	鏡	1.60	1.94	0.30	0.39	0.67 0.67
279	2819	12	S-01	X.125(Y.77)~中鏡	鏡	1.24	1.18	0.25	0.23	0.67 0.67
280	2820	12	S-01	X.125(Y.77)~中鏡	鏡	1.51	1.31	0.30	0.30	0.67 0.67
281	2821	12	S-01	X.125(Y.77)~中鏡	鏡	1.57	1.58	0.44	0.64	0.67 0.67
282	2822	12	S-01	X.125(Y.77)~中鏡	鏡	1.86	1.66	0.23	0.41	0.67 0.67
283	2823	12	S-01	X.125(Y.77)~中鏡	鏡	1.94	1.69	0.23	0.40	0.67 0.67
284	2824	12	S-01	X.125(Y.77)~中鏡	鏡	2.15	1.51	0.33	0.97	2.7
285	2825	12	S-01	X.125(Y.77)~中鏡	鏡	2.27	1.49	0.34	0.56	0.67 0.67
286	2826	12	S-01	X.125(Y.75)~中鏡	鏡	2.16	1.87	0.26	0.96	0.67 0.67
287	2827	12	S-01	X.125(Y.75)~中鏡	鏡	2.30	1.26	0.33	0.73	0.67 0.67
288	2828	12	S-01	X.125(Y.75)~中鏡	鏡	2.34	1.12	0.39	0.86	0.67 0.67
289	2829	12	S-01	X.125(Y.75)~中鏡	鏡	2.32	1.54	0.31	0.67	2.7

第19表 繩文時代 石製品一覧(10)

第19表 桶文時代 石製品一覧(11)

第19表 繩文時代 石製品一覽(12)

番号	測定用 植物名	分類	写真	出土地点	標本			性質	法線 (cm <sup>-1</sup> )	角度 (deg)	時間
					長軸	幅	厚さ				
308	2924 146 日版	石蓀科	2223Y75-X-N	石蓀科	1.70	0.83	0.30	ガラス質安息香	310	1.17	黒曜石地層 安息香10
309	2925 145 日版	石蓀科	2223Y74-X-N	石蓀	2.12	1.41	0.57	ガラス質安息香	310	1.17	黒曜石地層 安息香10
310	2926 146 日版	石蓀科	2223Y74-X-N	石蓀	2.25	1.07	0.28	ガラス質安息香	310	1.17	黒曜石地層 安息香10
311	2927 146 日版	石蓀	2223Y75-X-N	石蓀	2.65	1.02	0.36	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
312	2928 145 日版	石蓀	2223Y80-X-N	石蓀	1.62	1.20	0.41	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
313	2929 145 日版	石蓀	2223Y75-X-N	石蓀	2.26	1.23	0.43	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
314	2930 146 日版	石蓀	2223Y80-X-N	石蓀	2.26	1.41	0.47	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
315	2931 146 日版	石蓀	2223Y79-X-N	石蓀	2.29	1.35	0.41	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
316	2932 146 日版	石蓀	2223Y80-X-N	石蓀	2.26	1.35	0.41	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
317	2933 146 日版	石蓀	2223Y79-X-N	石蓀	2.45	1.60	1.33	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
318	2934 146 日版	石蓀	2223Y80-X-N	石蓀	2.79	1.61	0.54	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
319	2935 145 日版	石蓀	2223Y80-X-N	石蓀	1.34	1.05	0.42	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
320	2936 146 日版	石蓀	2223Y80-X-N	石蓀	1.95	1.13	0.43	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
321	2937 146 日版	石蓀	2223Y74-X-N	石蓀	2.44	1.40	0.42	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
322	2938 146 日版	石蓀	2223Y74-X-N	石蓀	2.08	1.00	0.35	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
323	2939 146 日版	石蓀	2223Y79-X-N	石蓀	2.84	1.49	0.62	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
324	2940 145 日版	石蓀	2223Y79-X-N	石蓀	3.53	1.42	0.71	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
325	2941 146 日版	石蓀	2223Y78-X-N	石蓀	2.21	1.63	0.62	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
326	2942 147 日版	石蓀	2223Y81-X-N	石蓀	4.40	3.35	0.54	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
327	2943 147 日版	石蓀	2223Y73-X-N	石蓀	4.40	0.52	0.77	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
328	2944 147 日版	石蓀	2223Y79-X-N	石蓀	1.84	2.32	0.57	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
329	2945 151 日版	石蓀	2223Y75-X-N	石蓀	2.13	1.35	0.56	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
330	2946 161 日版	石蓀	2223Y75-X-N	石蓀	6.42	1.60	0.69	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
331	2947 161 日版	石蓀	2223Y75-X-N	石蓀	8.05	8.45	2.52	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
332	2948 161 日版	石蓀	2223Y75-X-N	石蓀	7.77	7.62	3.17	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
333	2949 161 日版	石蓀	2223Y75-X-N	石蓀	8.79	7.48	2.84	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
334	2950 162 日版	石蓀	2223Y76-X-N	石蓀	2.10	6.51	2.09	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
335	2951 162 日版	石蓀	2223Y77-X-N	石蓀	1.14	1.14	0.07	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
336	2952 161 日版	石蓀	2223Y77-X-N	石蓀	0.85	0.54	0.21	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
337	2953 161 日版	石蓀	2223Y78-X-N	石蓀	0.95	0.59	0.42	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
338	2954 162 日版	石蓀	2223Y77-X-N	石蓀	1.95	1.21	0.26	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
339	2955 161 日版	石蓀	2223Y76-X-N	石蓀	8.14	6.14	3.27	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
340	2956 162 日版	石蓀	2223Y78-X-N	石蓀	13.49	11.53	3.34	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
341	2957 162 日版	石蓀	2223Y78-X-N	石蓀	1.80	7.87	4.29	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
342	2958 161 日版	石蓀	2223Y78-X-N	石蓀	1.95	1.05	0.92	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
343	2959 162 日版	石蓀	2223Y77-X-N	石蓀	1.92	9.87	4.30	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
344	2960 162 日版	石蓀	2223Y82-X-N	石蓀	1.18	11.88	2.52	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
345	2961 161 日版	石蓀	2223Y82-X-N	石蓀	6.02	10.20	3.14	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
346	2962 168 日版	石蓀	2223Y82-X-N	石蓀	8.69	5.46	3.41	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
347	2963 151 日版	石蓀	2223Y77-X-N	石蓀	0.13	9.44	0.90	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
348	2964 151 日版	石蓀	2223Y76-X-N	石蓀	0.85	2.58	2.56	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
349	2965 151 日版	石蓀	2223Y76-X-N	石蓀	1.10	7.61	2.11	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
350	2966 152 日版	石蓀	2223Y76-X-N	石蓀	2.01	6.66	5.89	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
351	2967 153 日版	石蓀	2223Y78-X-N	石蓀	0.65	7.18	3.06	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
352	2968 152 日版	石蓀	2223Y78-X-N	石蓀	1.65	1.78	4.11	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
353	2969 155 日版	石蓀	2223Y78-X-N	石蓀	1.05	1.20	0.38	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
354	2970 149 日版	石蓀	2223Y78-X-N	石蓀	2.65	1.00	0.91	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10
355	2971 160 日版	石蓀	2223Y78-X-N	石蓀	1.05	1.05	0.30	ガラス質安息香	245	0.36	黒曜石地層 安息香10

第19表 純文時代 石製品一覧(13)

番号	遺物	写真	出土地点	種類	直角 (cm × cm)		直角 面積 (cm <sup>2</sup> )	直角 比重	材質	特徴
					長	幅				
312	石斧	石器	X223Y158-160 V 勝	石斧	3.72	0.96	3.54	2.65	ガラス質安山岩	ガラス質安山岩
313	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	6.66	4.13	1.60	6.98	2.63	18.96 (石英岩)
313	石斧	石器	X223Y177-179 V 勝	石斧	1.47	0.83	1.19	0.96	0.96	1.19 (未質定)
313	石斧	石器	X223Y179-181 V 勝	石斧	1.20	1.07	0.84	0.57	0.57	0.87 (石英岩/繊維)
314	石斧	石器	X223Y177-179 V 勝	石斧	2.36	1.23	0.90	2.31	2.36	1.45 (石英岩/繊維)
315	石斧	石器	X223Y175-177 V 勝	石斧	2.02	1.24	2.56	2.62	1.48	2.09 (石英岩/繊維)
316	石斧	石器	X223Y177-179 V 勝	石斧	3.07	1.28	0.92	3.68	2.77	2.49 (石英岩/繊維)
317	石斧	石器	X223Y177-179 V 勝	石斧	5.74	1.41	0.99	14.98	2.8	5.1 (石英岩)
318	石斧	石器	X223Y177-179 V 勝	石斧	0.91	0.71	0.37	0.31	0.31	0.14 (未質定)
319	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	2.24	1.73	0.51	2.45	0.51	0.56 (石英岩/繊維)
320	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	2.98	2.18	0.65	2.17	2.6	0.68 (ガラス質安山岩)
321	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	4.63	2.23	0.95	6.66	2.64	2.53 (ガラス質安山岩)
322	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	9.56	4.27	1.17	41.43	2.31	17.29 (石英岩/繊維)
323	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	3.16	0.73	0.65	2.40	0.51	0.52 (ガラス質安山岩)
324	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	6.34	2.61	3.93	35.38	2.61	2.61 (石英岩)
325	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	13.25	9.25	8.64	297.06	2.61	14.1 (石英岩)
326	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	6.18	4.33	4.08	24.16	2.61	6.18 (石英岩)
327	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	6.05	3.64	1.75	7.15	2.61	6.05 (石英岩)
328	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	11.12	12.29	5.66	196.47	2.61	11.12 (石英岩)
329	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	20.47	12.50	12.27	309.73	2.61	20.47 (石英岩)
330	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	8.53	9.19	7.22	74.07	2.61	8.53 (石英岩)
331	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	3.48	3.00	0.61	5.30	2.61	3.48 (石英岩)
332	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	5.40	5.20	1.63	29.35	2.61	11.9 (石英岩/繊維)
333	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	2.39	1.92	0.62	1.41	1.41	0.74 (ガラス質安山岩)
334	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	5.81	2.20	0.81	11.43	1.41	5.81 (ガラス質安山岩/繊維)
335	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	5.12	3.35	1.07	14.34	1.41	5.12 (ガラス質安山岩)
336	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	3.29	1.81	0.76	4.32	1.41	3.29 (木山島石/繊維)
337	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	3.00	4.16	0.76	6.99	2.36	2.7 (木山島石/繊維)
338	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	3.46	4.64	0.79	9.65	2.36	2.38 (木山島石/繊維)
339	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	3.83	5.60	0.81	11.27	2.36	4.3 (木山島石/繊維)
340	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	8.82	6.66	2.86	188.73	2.36	8.82 (木山島石/繊維)
341	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	8.80	8.43	3.23	275.64	2.36	8.80 (木山島石/繊維)
342	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	10.66	9.24	3.71	453.16	2.36	10.66 (木山島石/繊維)
343	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	11.01	9.50	4.93	511.96	2.36	108.5 (木山島石/繊維)
344	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	12.75	10.00	2.28	226.08	2.36	12.75 (木山島石/繊維)
345	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	9.55	9.13	3.10	358.44	2.36	9.55 (木山島石/繊維)
346	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	10.41	6.41	2.93	289.01	2.36	10.41 (木山島石/繊維)
347	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	8.59	4.84	3.24	216.06	2.36	80.1 (木山島石/繊維)
348	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	6.30	2.57	2.79	267.08	2.36	75.1 (木山島石/繊維)
349	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	11.91	6.51	2.79	267.08	2.36	75.1 (木山島石/繊維)
350	石斧	石器	X223Y173-175 V 勝	石斧	9.67	11.87	7.46	276.17	2.36	75.1 (木山島石/繊維)

第19表 繩文時代 石製品一覧(14)

件名	石名	形態	分類	出土地点	種別	長さ	幅さ	厚さ	重さ	材質	時間	備考	
												裏面台形	小
332	3325	148	円盤	X.223YY77-V型	石頭	15.65	5.28	2.00	2.90	石灰岩(白色化け)	中期以降	裏面台形	小
333	3326	153	円盤	X.223YY77-V型	石頭	8.22	7.05	3.15	467.51	石灰岩(白色化け)	中期以降	裏面台形	小
334	3327	153	円盤	X.223YY73-V型	石頭	10.76	7.02	3.87	467.51	石灰岩(白色化け)	中期以降	裏面台形	小
335	3328	151	円盤	X.219YY69-V型	石頭	11.39	7.35	4.31	512.54	砂岩	中期以降	裏面台形	小
336	3329	151	円盤	X.219YY72-V型	石頭	10.70	7.18	3.44	379.43	砂岩	中期以降	裏面台形	小
337	3340	160	円盤	X.219YY69-V型	石頭	4.25	1.29	0.66	3.14	石質石(黒)	中期以降	裏面台形	小
338	3341	160	円盤	X.223YY71-V型	石頭	3.19	1.76	1.19	5.37	ガラス質安山岩	中期以降	裏面台形	小
339	3342	160	円盤	X.223YY71-V型	石頭	3.48	1.89	0.78	4.79	ガラス質安山岩	中期以降	裏面台形	小
340	3343	173	円盤	X.223YY68-V型	石頭	2.20	1.65	0.94	619.69	4.1トド石	中期以降	裏面台形	小
341	3344	170	円盤	X.223YY68-V型	石頭	2.82	2.04	0.80	5.12	ガラス質安山岩	中期以降	裏面台形	小
342	3345	173	円盤	X.223YY71-V型	石頭	3.61	2.87	1.26	51.12	4.6ドロ石	中期以降	裏面台形	小
343	3346	173	円盤	X.223YY76-V型	石頭	2.08	3.89	0.66	6.34	2.5ガラス質安山岩	中期以降	裏面台形	小
344	3347	173	円盤	X.223YY76-V型	石頭	4.86	4.25	1.36	23.39	2.5ガラス質安山岩	中期以降	裏面台形	小
345	3348	173	円盤	X.223YY71-V型	石頭	3.38	2.55	0.86	5.26	ガラス質安山岩	中期以降	裏面台形	小
346	3349	173	円盤	X.223YY68-V型	石頭	2.44	2.45	0.57	2.40	黑鐵石	中期以降	裏面台形	小
347	3350	12	圓盤	X.219YY68-V型	石頭	2.53	1.32	0.46	1.65	滑石	中期末~二期初期	裏面台形	小
348	3351	144	1脚	X.169YY77	石頭	2.08	1.51	0.42	0.91	0.40(成形マスク含む)	後晩期	裏面台形	小
349	3352	144	1脚	X.169YY77	石頭	1.85	1.57	0.39	0.88	後晩期	裏面台形	小	
350	3353	144	1脚	X.111YY80-V型	石頭	2.56	1.50	0.36	2.14	0.20ドロ石	後晩期	裏面台形	小
351	3354	144	1脚	X.111YY80-V型	石頭	2.49	1.72	0.34	1.21	0.20ドロ石	後晩期	裏面台形	小
352	3355	144	1脚	X.111YY74-V型	石頭	2.34	1.55	0.30	0.63	メノカ	後晩期	裏面台形	小
353	3356	144	1脚	X.140YY66	石頭	1.66	1.19	0.44	0.47	楓木山鷲石(玉鷲)	後晩期	裏面台形	小
354	3357	144	1脚	X.120YY55-V型	石頭	1.78	1.41	0.39	0.75	楓木石	後晩期	裏面台形	小
355	3358	144	1脚	X.134YY76	石頭	2.17	1.46	0.45	0.91	楓木山鷲石(玉鷲)	後晩期	裏面台形	小
356	3359	146	1脚	X.143YY69	石頭	2.03	1.44	0.45	1.22	ガラス質安山岩	後晩期	裏面台形	小
357	3360	146	1脚	X.143YY76	石頭	1.74	1.04	0.36	0.78	後晩期	裏面台形	小	
358	3361	146	1脚	X.135YY66-V型	石頭	5.68	1.84	0.69	2.61	2.37ガラス質安山岩	後晩期	裏面台形	小
359	3362	147	1脚	X.162YY75-V型	石頭	3.48	4.06	0.85	7.28	ホタル石(碧玉)	後晩期	裏面台形	小
360	3363	147	1脚	X.143YY63-V型	石頭	3.48	5.88	1.26	16.01	ガラス質安山岩	後晩期	裏面台形	小
361	3364	146	1脚	X.150YY76	石頭	12.93	4.78	2.24	167.85	電質安山岩	中期以降	裏面台形	小
362	3365	146	1脚	X.143YY73	石頭	12.51	4.61	2.00	192.85	電質安山岩	中期以降	裏面台形	小
363	3366	146	1脚	X.143YY76	石頭	18.19	8.03	3.72	630	電質安山岩	中期以降	裏面台形	小
364	3367	144	1脚	X.142YY66-V型	石頭	17.59	8.69	3.14	650	電質安山岩	中期以降	裏面台形	小
365	3368	146	1脚	X.123YY83	石頭	17.23	7.96	3.88	568.17	電質安山岩	中期以降	裏面台形	小
366	3369	140	1脚	X.109YY79-V型	石頭	12.02	4.35	1.71	117.13	砂岩	中期以降	裏面台形	小
367	3370	148	1脚	X.106YY80	石頭	11.79	4.57	2.05	147.87	砂岩	中期以降	裏面台形	小
368	3371	146	1脚	X.150YY79	石頭	16.80	4.10	18.30	81.30	30%中粒砂岩	中期以降	裏面台形	小
369	3372	144	1脚	X.170YY80	石頭	9.47	6.15	2.53	27.71	72.5ホタルマキ	中期以降	裏面台形	小
370	3373	146	1脚	X.138YY66-V型	石頭	5.42	5.12	1.71	85.43	2.46石英岩	中期以降	裏面台形	小
371	3374	147	1脚	X.123YY80	石頭	20.83	9.29	4.08	830	砂岩	中期以降	裏面台形	小
372	3375	146	1脚	X.103YY61-V型	石頭	18.10	9.01	3.89	603.88	砂岩	中期以降	裏面台形	小
373	3376	146	1脚	X.142YY65-V型	石頭	14.73	8.77	3.14	307.26	安山岩	中期以降	裏面台形	小

第19表 繩文時代 石製品一覧(15)

番号	地名	位置	出土地点	層別		性質	厚さ	体積 (m <sup>3</sup> )	付材
				底	層				
346	3459	149	S1000	打築石塔		打築石塔	6.01	6.65	256.18
360	3600	149	S1000	打築石塔		打築石塔	14.11	9.09	26.87
361	3601	150	S1000	打築石塔	底盤	打築石塔	10.36	7.22	131.34
362	3602	150	S1000	打築石塔	底盤	打築石塔	11.7	9.0	46.11
363	3603	150	S1000	打築石塔	底盤	打築石塔	8.20	8.70	2.11
347	3494	152	S1000	打築石塔		打築石塔	6.95	6.91	21.25
365	3665	152	S1000	打築石塔		打築石塔	6.03	7.15	4.96
366	3666	154	S1000	打築石塔		打築石塔	5.66	5.65	22.85
367	3667	153	S1000	打築石塔		打築石塔	5.67	5.65	23.06
368	3668	154	S1000	打築石塔		打築石塔	9.18	6.68	33.93
369	3669	154	S1000	打築石塔		打築石塔	7.19	12.0	7.47
370	3670	150	S1000	打築石塔		打築石塔	10.09	8.78	32.94
348	3477	156	S1000	打築石塔		打築石塔	4.25	3.27	1.06
362	3672	156	S1000	打築石塔		打築石塔	4.83	4.19	11.95
367	3675	156	S1000	打築石塔		打築石塔	5.15	4.73	11.26
371	3674	156	S1000	打築石塔		打築石塔	6.54	5.15	1.96
375	3675	157	S1000	打築石塔		打築石塔	6.59	5.99	7.04
376	3676	157	S1000	打築石塔		打築石塔	6.97	6.29	13.67
377	3677	157	S1000	打築石塔		打築石塔	7.29	5.38	2.55
378	3678	157	S1000	打築石塔		打築石塔	7.84	7.72	2.12
379	3679	157	S1000	打築石塔		打築石塔	8.02	6.64	1.66
380	3680	157	S1000	打築石塔		打築石塔	7.11	6.23	3.43
381	3681	156	S1000	打築石塔		打築石塔	8.80	7.28	18.38
382	3682	156	S1000	打築石塔		打築石塔	8.48	6.10	1.38
383	3683	157	S1000	打築石塔		打築石塔	8.21	4.82	2.16
384	3684	156	S1000	打築石塔		打築石塔	8.67	6.07	2.05
385	3685	157	S1000	打築石塔		打築石塔	8.12	7.94	2.62
386	3686	158	S1000	打築石塔		打築石塔	9.25	7.96	2.26
387	3687	160	S1000	打築石塔		打築石塔	11.19	11.13	4.74
349	3488	156	S1000	打築石塔		打築石塔	4.80	4.11	1.15
369	3689	160	S1000	打築石塔		打築石塔	4.80	4.18	1.44
370	3690	160	S1000	打築石塔		打築石塔	9.11	7.26	7.08
380	3691	164	S1000	打築石塔		打築石塔	12.75	1.81	0.75
381	3692	164	S1000	打築石塔		打築石塔	6.31	3.87	0.55
382	3693	164	S1000	打築石塔		打築石塔	10.01	5.23	2.07
383	3694	164	S1000	打築石塔		打築石塔	10.67	1.43	0.57
384	3695	164	S1000	打築石塔		打築石塔	7.02	1.25	0.61
385	3696	164	S1000	打築石塔		打築石塔	10.06	3.74	1.25
386	3697	165	S1000	打築石塔		打築石塔	11.86	3.39	2.70
387	3698	165	S1000	打築石塔		打築石塔	11.60	6.72	4.17
388	3699	166	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	5.10	2.45
389	3700	167	S1000	打築石塔		打築石塔	11.74	3.28	296.20
390	3700	167	S1000	打築石塔		打築石塔	5.69	4.05	2.87
391	3701	167	S1000	打築石塔		打築石塔	13.41	2.28	29.44
392	3702	167	S1000	打築石塔		打築石塔	14.01	5.34	3.72
393	3703	167	S1000	打築石塔		打築石塔	12.60	5.62	3.31
394	3704	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
395	3705	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
396	3706	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
397	3707	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
398	3708	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
399	3709	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
400	3710	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
401	3711	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
402	3712	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
403	3713	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
404	3714	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
405	3715	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
406	3716	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
407	3717	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
408	3718	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
409	3719	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
410	3720	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
411	3721	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
412	3722	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
413	3723	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
414	3724	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
415	3725	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
416	3726	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
417	3727	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
418	3728	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
419	3729	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
420	3730	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
421	3731	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
422	3732	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
423	3733	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
424	3734	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
425	3735	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
426	3736	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
427	3737	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
428	3738	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
429	3739	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
430	3740	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
431	3741	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
432	3742	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
433	3743	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
434	3744	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
435	3745	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
436	3746	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
437	3747	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
438	3748	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
439	3749	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
440	3750	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
441	3751	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
442	3752	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
443	3753	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
444	3754	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
445	3755	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
446	3756	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
447	3757	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
448	3758	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
449	3759	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
450	3760	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
451	3761	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
452	3762	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
453	3763	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
454	3764	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
455	3765	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
456	3766	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
457	3767	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
458	3768	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
459	3769	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
460	3770	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
461	3771	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
462	3772	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
463	3773	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
464	3774	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
465	3775	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
466	3776	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
467	3777	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
468	3778	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
469	3779	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
470	3780	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
471	3781	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
472	3782	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
473	3783	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
474	3784	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
475	3785	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
476	3786	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
477	3787	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2.65
478	3788	167	S1000	打築石塔		打築石塔	16.18	7.65	2

第19表 繩文時代 石製品一覧(16)

種類	形態	分類	出土地点	植物	長さ	幅	厚さ	法線 (cm <sup>-1</sup> )	角積 (cm <sup>-2</sup> )	重量	比重	材質	時間	備考
棒円	直角	石核	SII-090 X.160Y.80	碧玉系未完成品	6.55	2.57	1.15	24.61	1.95	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
350	3505	167	SII-090 X.160Y.81	绿石	28.15	17.53	0.75	20.00	2.00	2.00	2.00	透閃石-経輝石岩		
351	3506	168	SII-090 X.160Y.81	绿石	46.66	16.09	1.13	2.00	3.00	2.00	2.00	透閃石-経輝石岩		
352	3507	168	SII-094 X.160Y.7	绿石	12.66	10.94	1.05	24.01	1.95	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
353	3508	168	SII-090 X.160Y.76	绿石	6.91	5.03	1.25	18.85	2.27	2.27	2.27	透閃石-経輝石岩		
3509	3509	169	SII-091 X.160Y.69#4	石核	1.26	1.28	0.71	2.37	2.16	0.91	0.91	透閃石-経輝石岩		
3510	3510	169	SII-091 X.160Y.96	石核	3.08	2.26	1.19	6.29	1.19	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3511	3511	169	SII-091 X.160Y.78	石核	5.57	5.82	1.51	6.20	1.13	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3512	3512	169	SII-090 X.160Y.81	刮削器	3.08	2.22	1.13	12.04	1.13	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3513	3513	169	X.140Y.79-直角	刮削器	6.24	8.11	1.05	6.84	0.84	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3514	3514	169	X.140Y.67-直角	刮削器	2.38	0.88	0.88	6.24	0.88	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3515	3515	170	SII-051 X.140Y.69	刮削器	4.76	1.94	1.07	14.81	1.48	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3516	3516	170	SII-050 X.160Y.88	石核	7.25	3.23	2.44	16.52	1.20	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3517	3517	170	SII-090 X.160Y.75	石核	6.04	5.4	4.7	11.66	1.13	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3518	3518	170	X.140Y.69#4	石核	10.65	8.98	2.59	7.00	7.00	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3519	3519	170	SII-090 X.140Y.80	石核	0.96	2.20	1.66	76.85	76.85	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3520	3520	170	X.140Y.81#4	石核	2.91	3.5	2.0	25.82	2.46	2.46	2.46	透閃石-経輝石岩		
3521	3521	171	SII-090 X.140Y.80	石核	21.0	3.4	2.7	20.45	2.20	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3522	3522	171	SII-090 X.140Y.81	石核	1.66	1.67	1.09	2.30	2.30	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3523	3523	172	SII-090 X.140Y.80	直角	2.58	1.1	0.86	2.38	0.86	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3524	3524	172	SII-090 X.140Y.79	直角	0.76	0.81	0.54	0.41	0.41	0.13	0.13	透閃石-経輝石岩		
3525	3525	172	SII-090 X.140Y.79	直角	1.14	0.88	0.33	0.42	0.33	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3526	3526	172	SII-090 X.140Y.79	直角	2.21	1.47	0.66	2.85	2.85	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3527	3527	172	SII-090 X.140Y.82	直角	4.0	3.6	0.6	13.93	2.40	4.82	5.07	透閃石-経輝石岩		
3528	3528	172	SII-090 X.140Y.69	石核	3.00	3.51	2.24	23.35	2.24	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3529	3529	172	SII-093 X.140Y.69	石核	6.51	5.53	0.97	31.02	2.61	11.87	12.02	透閃石-経輝石岩		
3530	3530	172	SII-090 X.150Y.79	直角	3.59	5.1	2.23	29.41	2.23	2.46	2.61	透閃石-経輝石岩		
3531	3531	172	SII-090 X.160Y.81	直角	3.84	4.21	1.39	23.18	2.37	9.02	9.02	透閃石-経輝石岩		
3532	3532	172	SII-090 X.160Y.81	直角	3.53	2.53	0.85	8.92	2.35	3.50	3.50	透閃石-経輝石岩		
3533	3533	172	SII-090 X.160Y.80	直角	6.82	4.19	1.70	25.71	2.39	9.94	9.94	透閃石-経輝石岩		

注)1件の複数の形及び直角・直角の計測は、体験した者と検定所で検定した。同定の基準は、年V参考引地 石製品定義を採用している。

第20表 純文時代 骨角器・貝製品一覧(1)

種類	直物	弯曲	直物	弯曲	法螺(φ×L) mm	直物 長さ	弯曲 長さ	種類	種類	部位	位置	左右	前後 内外	備考
骨製	写真 同上	骨製	写真 同上	骨製	2.65 0.75	0.75 0.75	0.75 0.75	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	
251	2314 173 S01	X.1385/63下端	骨製	骨製	0.65 0.65	0.65 0.65	0.65 0.65	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	
2316	173 S01	X.1387/63下端	骨製	骨製	1.85 1.85	0.94 0.94	0.41 0.41	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	板熱
2317	173 S01	X.137-140/62~63	骨製	骨製	0.66 2.00	2.00 2.00	0.77 1.26	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
252	2316 173 S01	X.1303/64下端	骨製	骨製	15.23 21.57	6.58 6.58	36.47 36.47	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
253	2319 173 S01	X.1301/64下端	骨製	骨製	7.95 11.20	5.20 5.20	12.80 12.80	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
254	2320 173 S01	X.1303/64下端	骨製	骨製	11.76 11.76	3.19 3.19	16.20 16.20	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
255	2322 173 S01	X.1303/64下端	骨製	骨製	7.24 7.24	3.10 3.10	27.72 26.65	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
256	2322 173 S01	X.1307/64下端	骨製	骨製	11.14 11.14	3.55 2.11	21.41 11.15	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
257	2322 173 S01	X.137-140/62~63	骨製	骨製	17.00 17.00	1.21 1.21	31.05 11.15	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
258	2322 173 S01	X.137-140/62~63	骨製	骨製	14.51 7.21	0.79 1.03	6.59 7.21	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
259	2325 173 S01	X.137-140/62~63	骨製	骨製	6.94 6.94	0.68 0.68	25.77 25.77	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
260	2327 173 S01	X.139/63下端	骨製	骨製	2.81 2.81	1.09 1.09	3.01 3.01	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
261	2328 173 S01	X.139/63下端	骨製	骨製	5.07 5.07	0.69 0.69	32.60 32.60	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
262	2329 173 S01	X.139/63下端	骨製	骨製	0.95 0.95	0.54 0.54	1.16 1.16	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
263	2330 173 S01	X.139/63下端	骨製	骨製	2.99 2.99	1.18 1.18	9.45 9.45	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
264	2332 173 S01	X.137-140/62~63	骨製	骨製	11.67 11.67	0.94 0.94	1.57 1.57	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
265	2333 173 S01	X.139/63下端	骨製	骨製	2.91 2.91	1.74 1.74	1.69 1.69	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
266	2334 173 S01	X.138/63ビード	骨製	骨製	2.28 2.28	1.90 1.90	1.61 1.61	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
267	2335 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	5.37 5.37	0.76 2.20	4.41 1.14	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
268	2336 173 S01	X.138/63下端	骨製	骨製	1.97 2.43	2.06 5.04	1.14 3.29	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
269	2337 173 S01	X.1327/63下端	骨製	骨製	5.49 5.49	1.51 1.51	6.44 7.87	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
270	2338 173 S01	X.1327/63下端	骨製	骨製	5.10 5.10	4.99 4.99	1.51 1.51	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
271	2339 173 S01	X.137-140/62~63	骨製	骨製	10.96 10.96	2.64 2.64	3.25 3.25	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
272	2340 173 S01	X.138/63下端	骨製	骨製	3.01 3.01	0.51 0.51	0.41 0.41	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
273	2341 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	5.37 5.37	0.76 2.20	4.41 1.14	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
274	2346 173 S01	X.137-140/62~63	骨製	骨製	1.57 2.43	2.42 2.42	1.14 1.14	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
275	2347 173 S01	X.137-140/62~63	骨製	骨製	5.49 5.49	1.51 1.51	6.44 7.87	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
276	2348 173 S01	X.137-140/62~63	骨製	骨製	5.10 5.10	4.99 4.99	1.51 1.51	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
277	2349 173 S01	X.138/63下端	骨製	骨製	10.96 10.96	2.64 2.64	3.25 3.25	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
278	2350 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	3.01 3.01	0.51 0.51	0.41 0.41	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
279	2351 173 S01	X.138/63下端	骨製	骨製	4.29 4.29	0.51 0.51	0.49 0.49	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
280	2352 173 S01	X.138/63下端	骨製	骨製	4.73 4.73	0.51 0.51	0.49 0.49	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
281	2353 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	7.71 7.71	0.90 0.90	0.66 0.66	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
282	2354 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	6.96 6.96	0.94 0.94	0.67 0.67	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
283	2355 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	9.42 9.42	1.06 1.06	5.11 5.11	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
284	2356 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	4.71 4.71	0.75 0.75	0.35 0.35	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
285	2357 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	5.37 5.37	0.76 2.20	4.41 1.14	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
286	2358 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	1.57 2.43	2.42 2.42	1.14 1.14	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
287	2359 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	5.49 5.49	1.51 1.51	6.44 7.87	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
288	2360 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	5.10 5.10	4.99 4.99	1.51 1.51	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
289	2361 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	10.96 10.96	2.64 2.64	3.25 3.25	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
290	2362 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	3.01 3.01	0.51 0.51	0.41 0.41	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
291	2363 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	4.29 4.29	0.51 0.51	0.49 0.49	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
292	2364 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	7.71 7.71	0.90 0.90	0.66 0.66	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
293	2365 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	6.96 6.96	0.94 0.94	0.67 0.67	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
294	2366 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	9.42 9.42	1.06 1.06	5.11 5.11	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
295	2367 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	4.71 4.71	0.75 0.75	0.35 0.35	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
296	2368 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	5.37 5.37	0.76 2.20	4.41 1.14	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
297	2369 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	1.57 2.43	2.42 2.42	1.14 1.14	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
298	2370 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	5.49 5.49	1.51 1.51	6.44 7.87	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
299	2371 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	5.10 5.10	4.99 4.99	1.51 1.51	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
300	2372 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	10.96 10.96	2.64 2.64	3.25 3.25	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
301	2373 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	3.01 3.01	0.51 0.51	0.41 0.41	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
302	2374 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	4.29 4.29	0.51 0.51	0.49 0.49	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
303	2375 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	7.71 7.71	0.90 0.90	0.66 0.66	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
304	2376 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	6.96 6.96	0.94 0.94	0.67 0.67	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
305	2377 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	9.42 9.42	1.06 1.06	5.11 5.11	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
306	2378 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	4.71 4.71	0.75 0.75	0.35 0.35	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
307	2379 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	5.37 5.37	0.76 2.20	4.41 1.14	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
308	2380 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	1.57 2.43	2.42 2.42	1.14 1.14	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
309	2381 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	5.49 5.49	1.51 1.51	6.44 7.87	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
310	2382 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	5.10 5.10	4.99 4.99	1.51 1.51	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
311	2383 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	10.96 10.96	2.64 2.64	3.25 3.25	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
312	2384 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	3.01 3.01	0.51 0.51	0.41 0.41	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
313	2385 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	4.29 4.29	0.51 0.51	0.49 0.49	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
314	2386 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	7.71 7.71	0.90 0.90	0.66 0.66	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
315	2387 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	6.96 6.96	0.94 0.94	0.67 0.67	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
316	2388 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	9.42 9.42	1.06 1.06	5.11 5.11	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
317	2389 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	4.71 4.71	0.75 0.75	0.35 0.35	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
318	2390 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	5.37 5.37	0.76 2.20	4.41 1.14	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
319	2391 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	1.57 2.43	2.42 2.42	1.14 1.14	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
320	2392 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	5.49 5.49	1.51 1.51	6.44 7.87	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
321	2393 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	5.10 5.10	4.99 4.99	1.51 1.51	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
322	2394 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	10.96 10.96	2.64 2.64	3.25 3.25	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
323	2395 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	3.01 3.01	0.51 0.51	0.41 0.41	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
324	2396 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	4.29 4.29	0.51 0.51	0.49 0.49	骨製	骨製	骨部	不明	不明	不明	骨部
325	2397 173 S01	X.138/62	骨製	骨製	7.71<br									

第20表 繩文時代 骨角器・貝製品一覧(2)

種類	形態	75件	出土地点	個数	長さ(cm)	幅さ(cm)	厚さ(cm)	種別	部位	左右	内側	外側	参考
骨器	筒状	3002	175.11.18	3223178.X.筒	骨筒	7.67	0.16	0.17	3.37	筒状	不明	R	筒内
	筒状	3002	175.11.18	3223179.X.筒	骨筒	7.61	0.16	0.17	7.65	筒状	二三ノジカ	R	筒内
	筒状	3002	175.11.18	3223182.X.筒	骨筒	7.55	0.12	0.19	7.64	筒状	二三ノジカ	R	筒内
	筒状	3002	175.11.18	3223174.X.筒	骨筒	5.55	0.16	0.27	3.09	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3002	175.11.18	3223174.X.筒	骨筒	4.99	0.09	0.14	1.76	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3116	175.11.18	3223174.X.筒	骨筒	3.43	0.12	0.51	0.68	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3008	175.11.18	3223179.X.筒	骨筒	3.37	0.13	0.30	0.42	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3009	175.11.18	3223178.X.筒	骨筒	3.93	0.16	0.36	4.60	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3010	175.11.18	3223176.X.筒	骨筒	5.33	0.05	0.09	2.77	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3012	175.11.18	3223174.X.筒	骨筒	5.30	0.20	0.92	7.47	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3013	175.11.18	3223173.X.筒	骨筒	10.46	0.16	0.36	1.98	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3014	175.11.18	3223173.X.筒	骨筒	7.28	0.12	0.44	1.25	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3015	175.11.18	3223175.X.筒	骨筒	9.99	0.12	0.38	14.25	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3016	175.11.18	3223177.X.筒	骨筒	5.67	0.05	0.10	1.14	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3017	175.11.18	3223178.X.筒	骨筒	5.46	0.18	0.71	2.36	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3018	175.11.18	3223179.X.筒	骨筒	7.20	0.22	1.10	6.67	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3019	175.11.18	3223178.X.筒	骨筒	5.47	0.11	0.62	4.56	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3020	175.11.18	3223179.X.筒	骨筒	1.96	0.14	0.81	1.91	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3021	175.11.18	3223180.X.筒	骨筒	2.05	0.09	0.65	1.69	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3022	175.11.18	3223181.X.筒	骨筒	2.29	1.29	0.67	1.51	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3023	175.11.18	3223178.X.筒	骨筒	3.41	0.05	0.10	2.07	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3024	175.11.18	3223178.X.筒	骨筒	2.74	0.06	0.16	2.05	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3025	175.11.18	3223179.X.筒	骨筒	3.42	0.14	0.39	3.12	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3026	175.11.18	3223176.X.筒	骨筒	2.25	1.66	0.64	2.15	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3027	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	4.19	1.01	0.74	3.11	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3028	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	2.41	0.04	0.56	1.81	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3029	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	2.28	1.24	0.85	2.08	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3030	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	7.64	1.05	0.93	6.77	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3031	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	2.22	1.14	0.92	1.71	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3032	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	3.29	1.26	0.47	2.24	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3033	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	5.69	0.99	0.99	3.12	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3034	176.11.18	3223178.X.筒	骨筒	5.26	0.13	0.51	3.09	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3035	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	3.19	0.05	0.34	1.17	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3036	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	2.28	0.17	0.45	1.27	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3037	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	1.89	0.09	0.21	0.52	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3038	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	1.96	1.24	0.31	0.92	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3039	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	1.15	3.17	0.35	0.85	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3040	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	3.20	0.06	0.51	0.91	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3041	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	4.91	2.51	1.68	5.01	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3042	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	0.97	3.75	1.02	1.69	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3043	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	2.20	4.17	1.42	4.11	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3044	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	1.63	0.45	0.45	1.27	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3045	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	3.34	6.40	1.25	6.14	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3046	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	2.47	7.00	0.70	2.13	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3047	176.11.18	3223179.X.筒	骨筒	1.94	5.17	0.50	1.77	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3048	176.11.18	3223180.X.筒	骨筒	4.72	1.00	0.83	3.67	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3049	176.11.18	3223180.X.筒	骨筒	3.35	2.84	0.53	3.89	筒状	カノイシシホ	R	筒内
	筒状	3050	176.11.18	3223173.X.筒	骨筒	3.03	1.19	0.42	1.01	筒状	カノイシシホ	R	筒内

第20表 純文時代 骨角器・貝製品一覧(3)

種別	遺物	写真	遺物	出土地点	種類	法寸(単位:cm)	長さ	幅	厚さ	種類	法寸(単位:cm)	長さ	幅	厚さ	種類	法寸(単位:cm)	長さ	幅	厚さ	種類	内・外	備考
319	2650	75	1198	32251793 X. 勝	骨角器	1.66	1.12	0.22	0.17	骨角器	1.61	1.12	0.22	0.17	骨角器	1.61	1.12	0.22	0.17	骨角器	1.61	1.12
3603	176	1198	32251794 X. 勝	骨角器	1.41	1.12	0.41	0.31	骨角器	1.42	1.07	0.27	0.21	骨角器	1.35	1.35	0.34	0.31	骨角器	1.41	1.12	
3602	176	1198	32251795 X. 勝	骨角器	1.42	1.07	0.27	0.21	骨角器	1.02	1.07	0.19	0.17	骨角器	1.02	1.07	0.19	0.17	骨角器	1.42	1.12	
3603	176	1198	32251796 X. 勝	骨角器	1.13	1.35	0.34	0.31	骨角器	1.02	1.35	0.34	0.31	骨角器	1.02	1.35	0.34	0.31	骨角器	1.13	1.35	
3654	176	1198	32251797 X. 勝	骨角器	1.02	1.37	0.28	0.19	骨角器	2.12	2.04	0.89	1.51	骨角器	1.92	1.87	0.83	1.25	骨角器	1.92	1.87	
3605	176	1198	32251798 X. 勝	骨角器	5.90	0.65	0.56	2.11	骨角器	5.90	0.65	0.56	2.11	骨角器	5.90	0.65	0.56	2.11	骨角器	5.90	0.65	
334	3351	176	1198	32251799 X. 勝	骨角器	5.90	1.22	0.56	2.59	骨角器	5.90	1.22	0.56	2.59	骨角器	5.90	1.22	0.56	2.59	骨角器	5.90	1.22
	3352	176	1198	32251800 X. 勝	骨角器	5.76	1.12	0.56	2.59	骨角器	5.76	1.12	0.56	2.59	骨角器	5.76	1.12	0.56	2.59	骨角器	5.76	1.12
	3353	176	1198	32251801 X. 勝	骨角器	5.77	0.94	0.47	1.53	骨角器	5.77	0.94	0.47	1.53	骨角器	5.77	0.94	0.47	1.53	骨角器	5.77	0.94
	3354	176	1198	32251802 X. 勝	骨角器	4.64	1.06	0.56	2.01	骨角器	4.64	1.06	0.56	2.01	骨角器	4.64	1.06	0.56	2.01	骨角器	4.64	1.06
	3355	176	1198	32251803 X. 勝	骨角器	5.77	0.96	0.67	4.05	骨角器	5.77	0.96	0.67	4.05	骨角器	5.77	0.96	0.67	4.05	骨角器	5.77	0.96
	3356	176	1198	32251804 X. 勝	骨角器	9.92	0.92	0.56	5.16	骨角器	9.92	0.92	0.56	5.16	骨角器	9.92	0.92	0.56	5.16	骨角器	9.92	0.92
	3357	176	1198	32251805 X. 勝	骨角器	4.00	0.88	0.83	2.11	骨角器	4.00	0.88	0.83	2.11	骨角器	4.00	0.88	0.83	2.11	骨角器	4.00	0.88
	3358	176	1198	32251806 X. 勝	骨角器	4.53	1.10	0.61	4.04	骨角器	4.53	1.10	0.61	4.04	骨角器	4.53	1.10	0.61	4.04	骨角器	4.53	1.10
	3359	176	1198	32251807 X. 勝	骨角器	8.98	1.40	1.03	9.8	骨角器	8.98	1.40	1.03	9.8	骨角器	8.98	1.40	1.03	9.8	骨角器	8.98	1.40
	3360	176	1198	32251808 X. 勝	骨角器	12.40	1.07	1.07	13.6	骨角器	12.40	1.07	1.07	13.6	骨角器	12.40	1.07	1.07	13.6	骨角器	12.40	1.07
	3361	176	1198	32251809 X. 勝	骨角器	8.32	1.34	0.91	7.13	骨角器	8.32	1.34	0.91	7.13	骨角器	8.32	1.34	0.91	7.13	骨角器	8.32	1.34
	3362	176	1198	32251810 X. 勝	骨角器	16.28	2.24	1.05	17.83	骨角器	16.28	2.24	1.05	17.83	骨角器	16.28	2.24	1.05	17.83	骨角器	16.28	2.24
	3363	176	1198	32251811 X. 勝	骨角器	3.40	2.01	0.88	2.20	骨角器	3.40	2.01	0.88	2.20	骨角器	3.40	2.01	0.88	2.20	骨角器	3.40	2.01
	3364	176	1198	32251812 X. 勝	骨角器	2.17	2.34	0.48	1.21	骨角器	2.17	2.34	0.48	1.21	骨角器	2.17	2.34	0.48	1.21	骨角器	2.17	2.34
	3365	176	1198	32251813 X. 勝	骨角器	10.44	1.1	1.0	10.44	骨角器	9.31	1.9	1.0	9.31	骨角器	10.44	1.1	1.0	10.44	骨角器	10.44	1.1
	3366	176	1198	32251814 X. 勝	骨角器	14.61	2.8	1.9	14.61	骨角器	14.61	2.8	1.9	14.61	骨角器	14.61	2.8	1.9	14.61	骨角器	14.61	2.8
	3367	176	1198	32251815 X. 勝	骨角器	7.5	2.3	1.8	7.5	骨角器	7.5	2.3	1.8	7.5	骨角器	7.5	2.3	1.8	7.5	骨角器	7.5	2.3
	3368	176	1198	32251816 X. 勝	骨角器	7.5	2.3	1.8	7.5	骨角器	7.5	2.3	1.8	7.5	骨角器	7.5	2.3	1.8	7.5	骨角器	7.5	2.3

(注)骨角器・貝製品の定義・部位等の規定は、株式会社古墳建築研究所による、純文内高式が用意した。



## 報告書抄録

ふりがな 書名	かみくづろなかやいせきはつくつちょうさはうこく 上久津呂中屋遺跡発掘調査報告							
副書名	能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告X							
シリーズ名	富山県文化振興財團埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ番号	第55集							
編著者名	鳥田美佐子、朝田亞紀子、町田賢一							
編集機関	公益財団法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所							
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL 076-442-4229							
発行年月日	西暦2013年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡 番号	東経	発掘期間	発掘面積 m <sup>2</sup>	発掘原因	
上久津呂中屋	富山県 永見市 上久津呂	16205	315	36° 49° 27"	136° 56° 37°	2003.11.13~2003.12.16 2004.05.28~2004.06.14 2005.05.19~2005.09.30	18,201	道路(能越自動車道)建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
上久津呂中屋	集落	縄文時代早期 後半～後期前葉	谷	1条	縄文土器・土偶・土製品・漆製品・木製品・石製品・骨角器・人骨・骨貝類	多量の遺物が良好な状態で出土		
		弥生時代中期 ～後期後半	周溝式竪穴建物 竪穴建物 周溝式平地建物 周溝造構 掘立柱建物 井戸 方形周溝墓状造構 自然流路 落ち込み 土坑 柱穴	2棟 1棟 8棟 4棟 3棟 1基 1基 1条 1条 多数 多数	弥生土器・土製品・木製品・石製品・金属製品・炭化米	低地の集落から、後期後半(法仏式期)の弥生土器多数のほか、石製玉作間連遺物が出土  丘陵上の方形周溝墓状造構から、紡織物の付着した鉄刀と磨製石剣が出土		
		古墳時代	自然流路 落ち込み	2条 2条	土師器・須恵器・黒色土器・製塙土器・置き甕・土製支脚・木製品・石製品・金瓶製品	須恵器角舟・小型防震鏡が出土		
		古墳時代～中世 前半	掘立柱建物 樋 井戸 溝・自然流路 土坑 柱穴	38棟 3列 40基 多数 多数 多数	土師器・須恵器・黒色土器・製塙土器・中世土師器・珠洲・中国製白磁・中国製青磁・中世陶器・土製品・木製品・石製品・金属製品	墨書き土器「津史」「大家」等が出土		
		中世後半～近世	井戸 土坑 烟	1基 1基 多数	近世陶器・木製品			
	貝塚	縄文時代早期末 ～中期初頭	貝塚	1基	縄文土器・土偶・土製品・石製品・骨角器・貝製品・人骨・骨貝類	県内最古の貝塚		

2013（平成25）年3月8日 印刷  
2013（平成25）年3月15日 発行

富山県文化振興財团埋蔵文化財発掘調査報告第55集  
**上久津呂中屋遺跡発掘調査報告**

—能越自動車道建設に伴う  
埋蔵文化財発掘報告X—  
(第一分冊 繩文時代編)

編集・発行 公益財団法人富山県文化振興財團  
埋 蔵 文 化 財 調 査 事 務 所  
〒930-0887 富山市五福4384番1号  
TEL 076-442-4229

印 刷 とうざわ印刷工芸株式会社  
〒930-0008 富山市神通本町1丁目8-13  
TEL 076-432-3267